

医 学 部

呼吸器内科学教室	1	放射線腫瘍学教室	119
腎臓・リウマチ膠原病内科学教室	6	麻酔科学教室	119
脳神経内科学教室	11	臨床検査医学教室	122
循環器内科学教室	13	総合医療学教室	125
不整脈先進治療学研究講座	25	リハビリテーション医学教室	129
血液内科学教室	26	脳卒中医学教室	130
消化器内科学教室	27	医学教育学教室	135
糖尿病・内分泌・代謝内科学教室	40	肉眼解剖学教室	136
腫瘍内科学教室	43	顕微解剖学教室	137
高齢医学教室	50	統合生理学教室	139
精神神経科学教室	52	病態生理学教室	139
小児科学教室	59	代謝生化学教室	141
消化器・一般外科学教室	64	細胞生化学教室	141
呼吸器・甲状腺外科学教室	69	薬理学教室	141
乳腺外科学教室	72	病理学教室	142
小児外科学教室	72	感染症学教室	145
救急医学教室	73	衛生学公衆衛生学教室	147
脳神経外科学教室	75	法医学教室	148
心臓血管外科学教室	79	共同研究施設RI部門	149
整形外科科学教室	81	共同研究施設フローサイトメトリー部門	149
皮膚科学教室	86		149
形成外科学教室	92	共同研究施設実験動物施設部門	149
泌尿器科学教室	95	生物学教室	149
眼科学教室	98	物理学教室	149
耳鼻咽喉科学教室	107	化学教室	150
産科婦人科学教室	110	英語学教室	150
放射線医学教室	116		

呼吸器内科学教室

講演

1. 皿谷健：臨床現場に潜むCOPDの見つけ方～ビレーズトリへの期待～. 城西地区 吸入療法研究会. オンライン. 2022年4月20日.
2. 吉田悠貴, 渡辺雅人, 平田彩, 中本啓太郎, 宮岡智花, 麻生純平, 三倉直, 石田学, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: α -GalCerはiNKT細胞を活性化し, 好中球性の喘息様気道炎症を惹起する. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月22日.
3. 本多紘二郎, 三倉直, 小田未来, 石田学, 中本啓太郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: 胸部X線動態画像のベクトル表示による特発性肺線維症の努力性肺活量との関連性について. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月22日-24日.
4. 宮岡智花, 渡辺雅人, 中本啓太郎, 吉田悠貴, 平田彩, 麻生純平, 三倉直, 石田学, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: エラスターゼ誘発肺気腫モデルマウスでIL-33が好中球性気道炎症を惹起する. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月23日.
5. 石田学, 中島裕美, 麻生純平, 小田未来, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 根井雄一郎, 皿谷健, 石井晴之: 基礎疾患を有する自己免疫性肺胞蛋白症の臨床的検討. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月24日.
6. 小田未来, 中本啓太郎, 石川周成, 森田喜久子, 春日啓介, 野田晃成, 麻生純平, 中元康雄, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: 重症COVID-19肺炎における胸部CT定量的評価の臨床的意義. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月24日.
7. 中本啓太郎: 早期抗ウイルス治療の有用性とレムデシビルの使用経験. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 京都・オンライン. 2022年4月22日-24日.
8. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見とピットフォール～実際の肺音を含めて～. 第173回弘前胸部疾患談話会. 青森. 2022年4月26日.
9. 石井晴之: びまん性肺疾患の新たな知見～肺胞蛋白症とPF-ILDを中心に～. 第10回呼吸器治療フォーラム. オンライン. 2022年5月19日.
10. 皿谷健: 重症喘息の治療戦略. GSK severe asthma web seminar. 東京. 2022年5月19日.
11. 石井晴之: 喘息治療におけるトリプル製剤の介入意義と患者さんへの貢献. Trelegy web Seminar. オンライン. 2022年5月24日.
12. 皿谷健: Lung sounds of Mycoplasma pneumoniae pneumonia. 第49回日本マイコプラズマ学会学術集会. 北海道. 2022年5月27日.
13. 石井晴之: 間質性肺疾患における診療・治療の展望. ILD Colaboration Seminar. オンライン. 2022年6月1日.
14. 石井晴之: 肺胞蛋白症におけるHRCT所見の臨床的意義. 第51回頭頸部・胸部画像研究会. オンライン. 2022年6月4日.
15. 石井晴之: 咳・痰症状から考えるCOPD(慢性気管支炎・肺気腫)～COPDガイドライン2022第6版変更点を踏まえて～. COPD Forum in 南多摩. オンライン. 2022年6月8日.
16. 石井晴之: 喘息治療におけるトリプル製剤の介入意義と患者さんへの貢献. GSK Expert Meeting. 三鷹. 2022年6月15日.
17. 石井晴之: 抗線維化薬継続のためのIC～PF-ILDの知見をふまえて～. PF-ILD Web Seminar. オンライン. 2022年6月17日.
18. 皿谷健: 医学論文執筆のススメと各種メディア媒体の活用. Respiratory-Carry the Future Symposium. 武蔵野. 2022年6月24日.
19. 石井晴之: 慢性咳嗽の診断と治療～何を考え何を必要とするのか～. 三鷹市薬剤師会勉強会. オンライン. 2022年6月29日.
20. 皿谷健: 呼吸器内科領域 気管支喘息のoverview～杏林大学での検討を踏まえて～. 第2回領域を超えたアレルギー疾患へのアプローチ. 三鷹. 2022年7月13日.
21. 皿谷健: 気管支喘息のoverview～杏林大学での検討を踏まえて～. 第2回KYORIN 呼吸器フロンティアセミナー. 三鷹. 2022年7月15日.
22. 村上若香奈, 麻生純平, 下田由莉江, 中島裕美, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 本多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之, 藤原正親: 難治性湿疹を初発とし多発肺結節影/腫瘤性陰影を呈した原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症の一例. 第250回日本呼吸器学会関東地方会. 東京・オンライン. 2022年7月16日.
23. 石井晴之: 抗線維化薬継続のためのIC～コミュニケーションを考える～. Informed Consent Conference. 東京. 2022年7月17日.
24. 石井晴之: 肺胞蛋白症に見た希少難治性肺疾患の問題点. 第25回埼玉びまん性肺疾患研究会. 東京. 2022年7月23日.
25. 石井晴之: 重症喘息の現状と課題. GSK Severe Asthma Management Seminar. オンライン. 2022年7月26日.
26. 石田学: BALFの細胞診とVATSの組織診で良悪性が異なった症例. BALの未来を切り拓こう! 第5回セミナー. 東京・オンライン. 2022年7月29日.
27. 石井晴之: 抗線維化薬治療の意義. 呼吸器サマーセミナーin多摩-専門医に聞く, 呼吸器疾患のポイント-. オンライン. 2022年7月30日.
28. 皿谷健: 専門医に聞く, 呼吸器疾患のポイント 胸水. 呼吸器サマーセミナーin多摩. 東京. 2022年7月30日.
29. 石井晴之: 抗線維化薬継続の意義～IPFの知見をふまえて～. Respiratory Network Seminar. オンライン. 2022年8月24日.
30. 石井晴之: PF-ILDにおける早期治療と抗線維化薬継続の重要性. 第11回東葛北部びまん性肺疾患研究会. 千葉. 2022年9月6日.
31. 高橋達也, 中島裕美, 齊藤正興, 野田晃成, 麻生純平, 小林史, 石田学, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之: 肺胞洗浄液にて異型細胞が検出された炎症性肺疾患の2例. 第251回日本呼吸器学会関東地方会. 東京・オンライン. 2022年9月10日.
32. 菅野直大, 春日啓介, 齊藤正興, 森田喜久子, 野田晃成, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 本多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 須田一晴, 皿谷健, 藤原正親, 高山信之, 石井晴之: 肺原発の節外NK/T細胞リンパ腫・鼻型の一例. 第182回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第251回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2022年9月10日.
33. 石井晴之: PF-ILDの診断と治療～呼吸器内科医の立場から～. PF-ILD Web Seminar. オンライン. 2022

- 年9月13日。
34. 石田学：気管支肺胞洗浄液中の細胞形態評価～好酸球炎症メカニズムの解明に向けて～。溜池カンファレンス2022。東京。2022年9月17日。
 35. 山本陣，中本啓太郎，田代身佳，平塚智也，藤井隆史郎，輪千督高，嶋崎鉄兵，倉井大輔，皿谷健，石井晴之：COVID-19の治療中に発症したリステリア菌血症の1例。第680回日本内科学会関東地方会。東京。2022年9月24日。
 36. 石田学，皿谷健，麻生純平，湯浅翔子，北村信隆，中田光，石井晴之：サルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄液中の肺胞マクロファージの大きさと細胞形態の関係性。第58回日本肺サーファクタント・界面医学学会。東京・オンライン。2022年9月24日。
 37. 本多紘二郎，麻生純平，布川寛樹，中元康雄，石田学，中本啓太郎，高田佐織，皿谷健，渋谷幸見，近藤晴彦，橋本直也，石井晴之：デジタルX線動画撮影システムを用いた特発性肺線維症の予後評価。第2回日本びまん性肺疾患研究会。東京。2022年10月1日。
 38. 皿谷健：季節変動する喘息発作と感染症。Teams Interactive Meeting。オンライン。2022年10月4日。
 39. 皿谷健：日常診療における肺疾患の聴診のコツ，捻髪音の聴取と紹介基準，専門医への紹介タイミング～実際の聴診音を踏まえて～。間質性肺疾患Web Academy。オンライン。2022年10月5日。
 40. 中本啓太郎，宮岡智花，吉田悠貴，平田彩，三倉直，小田未来，石田学，本多紘二郎，田村仁樹，高田佐織，渡辺雅人，皿谷健，石井晴之：喘息および合併症における診断と管理 気管支喘息におけるsST2の意義。第71回日本アレルギー学会学術大会。東京。2022年10月9日。
 41. 石井晴之：喘息治療におけるトリプル製剤の有用性～treatable traitsを考える～。GSK Asthma Seminar。山梨・オンライン。2022年10月13日。
 42. 皿谷健：重症喘息の治療戦略。GSK Severe Asthma Web Sminar 重症喘息治療の意義と好酸球数正常化の重要性。オンライン。2022年10月14日。
 43. 石井晴之：PF-ILDにおける早期治療と抗線維化薬継続の重要性。弘前 ILD Sminar。弘前。2022年10月24日。
 44. 中本啓太郎：呼吸器感染症のmimickersに騙されない!実際の症例から。第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。札幌。2022年10月27日。
 45. 皿谷健：喘息治療におけるトリプル療法のポテンシャルを見極める。GSK Respiratory Forum。オンライン。2022年11月2日。
 46. 坂本吉隆，齊藤正興，阿部太郎，中島裕美，麻生純平，布川寛樹，中元康雄，石田学，本多紘二郎，中本啓太郎，高田佐織，皿谷健，石井晴之：IgG4関連疾患の治療中に乳び胸を生じた一例。第252回日本呼吸器学会関東地方会。東京・オンライン。2022年11月5日。
 47. 石井晴之：重症喘息の新たな治療選択肢。Severe Asthma Expert Seminar。オンライン。2022年11月30日。
 48. 白石祥理，久保田馨，中道真仁，三角俊裕，近藤哲郎，岡本勇，湊浩一，原田大二郎，磯部和順，井谷英敏，高田佐織，和久井大，三角祐生，池田慧，朝尾哲彦，井上健男，細川忍，小林由美子，滝口裕一，岡本浩明：Ⅲ期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法完遂直後のデュルバルマブ療法の第Ⅱ相試験（TORG1937: DATE試験）。第63回日本肺癌学会学術集会。福岡。2022年12月1日。
 49. 森川慶，田中寿志，高田佐織，渡部聡，岸一馬，副島研造，解良恭一，各務博，吉村健一，松谷哲行，関順彦：進行期EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌に対するAfatinibまたはOsimertinibを一次治療とした無作為化非盲検第Ⅱ相試験。第63回日本肺癌学会学術集会。福岡。2022年12月2日。
 50. 皿谷健：肺音のピットフォール 実際の症例から。ナース PT 研修医のための肺聴診セミナー第12回。愛知。2022年12月4日。
 51. 麻生純平：血痰で受診した空洞性病変の1例。第95回多摩呼吸器懇話会。オンライン。2022年12月8日。
 52. 皿谷健：胸部X線/胸部CTで読み解く一般内科外来で遭遇する呼吸器疾患。医療技術スキルアップセミナー。東京。2022年12月11日。
 53. 石井晴之：“息切れ”“胸痛”を主訴とした症例から考える。東京息切れ会議。オンライン。2022年12月14日。
 54. 皿谷健：～胸痛から考えるファーストタッチ～。呼吸器専門医が診る，息切れとCOPD/肺がんについて。東京。2022年12月14日。
 55. 皿谷健：膠原病に伴う間質性肺疾患～早期発見のための肺聴診のコツ。日経メディカル。東京。2023年12月15日。
 56. 石井晴之：特発性肺線維症の治療変遷。ILD Web Academy。オンライン。2022年12月16日。
 57. 石井晴之：喘息治療の新たな治療戦略～実臨床におけるテゼスパイアへの期待～。北多摩北部テゼスパイア発売記念講演会。オンライン。2022年12月22日。
 58. 皿谷健：聴診の落とし穴～コメディカルに役立つアセスメントのコツ～。日本離床学会2023年離床祭。東京。2023年1月8日。
 59. 皿谷健：重症喘息を含む呼吸器疾患の診療/研究のTips。第3回埼玉県呼吸器若手医師の会。大宮。2023年2月17日。
 60. 皿谷健：呼吸器疾患の診断のピットフォールとエッセンス。第183回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第253回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。秋葉原・オンライン。2023年2月25日。
 61. 高田佐織：肺がんの基礎と薬物療法について。2022年度第5回がんと共にすこやかに生きる。オンライン。2023年2月25日。
 62. 菅野直大，春日啓介，齊藤正興，森田喜久子，野田晃成，麻生純平，布川寛樹，中元康雄，石田学，本多紘二郎，中本啓太郎，高田佐織，皿谷健，藤原正親，石井晴之：Bordetella bronchisepticaによる肺炎をきたした一例。第183回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第253回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。東京・オンライン。2023年2月25日。
 63. 中元康雄，皿谷健，村上若香葉，高木涼，中島裕美，家城恵梨子，森田喜久子，野田晃成，小林史，布川寛樹，麻生純平，平田彩，石田学，本多紘二郎，中本啓太郎，高田佐織，佐藤千紗，中村雄，藤原正親，石井晴之：左精巣転移に伴う陰嚢痛を契機に発覚した肺腺癌の1例。第183回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第253回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。東京・オンライン。2023年2月25日。
 64. 皿谷健：COPD/喘息/ACOのどれなの?～Triple製剤の位置づけについて～。COPD Forum in TAMA 初診で診る咳嗽患者のマネージメント。三鷹。2023年3月3日。
 65. 原田大二郎，久保田馨，中道真仁，三角俊裕，近藤哲郎，岡本勇，湊浩一，上月稔幸，磯部和順，井谷英敏，高田佐織，和久井大，三角祐生，池田慧，朝尾哲彦，

井上健男, 細川忍, 小林由美子, 滝口裕一, 岡本浩明: Ⅲ期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法完遂直後のデュルバルマブ療法の第Ⅱ相試験 (TORG1937). 第20回臨床腫瘍学会学術集会. 福岡. 2023年3月16日.

66. 池田喬哉, 西野和美, 中村敦, 仲地一郎, 當麻景章, 仁保誠治, 高田一郎, 村上晴泰, 関根朗雅, 金山雅俊, 豊澤亮, 石垣昌伸, 高田佐織, 河野千代子, 柴田祐司, 村田由利, 村井和哉, 越野久美, 松本慎吾, 後藤功一: LC-SCRUM-Supportによる患者の臨床試験参加への啓発と治療薬開発の推進. 第20回臨床腫瘍学会学術集会. 福岡. 2023年3月16日.
67. 皿谷健: 重症喘息の治療戦略. GSK Eosinophilic diseases Seminar. 三鷹. 2023年3月17日.
68. Izumi H, Matsumoto S, Liu J, Tanaka K, Mori S, Kumagai S, Hayashida T, Shibata Y, Takata S, Tabata E, Murakami H, Taki R, Hara S, Sakamoto T, Goto K, Susumu S, Kobayashi: CLIP1-LTK: A novel druggable gene fusion in non-small cell lung cancer. AACR Annual Meeting 2022. U.S.A. April 8-13, 2022.
69. Nakamichi S, Kubota K, Misumi T, Murakami S, Kondo T, Okamoto I, Minato K, Harada D, Isobe K, Itani H, Takata T, Wakui H, Misumi Y, Ikeda S, Asao T, Inoue T, Hosokawa S, Kobayashi Y, Takiguchi Y, Okamoto H; A phase II study of durvalumab (MEDI4736) immediately after completion of chemoradiotherapy in unresectable stage III non-small-cell lung cancer: TORG1937 (DATE study). ASCO. U.S.A. June 3-7, 2022.
70. Nakamoto K, Watanabe M, Miyaoka C, Yoshida Y, Hirata A, Ishida M, Honda K, Takata S, Saraya T, Ishii H: The significance of soluble ST2 in patients with bronchial asthma. APSR 2022. Korea. 2022年11月19日.
71. Okuda R, Ogura T, Ishikawa N, Suda T, Arai N, Takihara T, Hamaguchi M, Kondoh Y, Toyoshima M, Tomii K, Abe M, Kato M, Kagajo M, Shimizu Y, Tomioka H, Kawamura K, Honda K, Nishioka Y, Tanigawa M, Chiba H, Izumi S, Tobino K, Yamauchi H, Kawamura T, Inomata M, Usui K, Ohkubo H, Matsushima H, Oyamada Y, Jokoh T, Arai T, Iwasawa T, Sakai F, Morita S, Ichihara N, Nukiwa T, Kobayashi K, JIPS Registry Members: Nationwide prospective registry of idiopathic interstitial pneumonias with central multidisciplinary diagnosis in Japan (JIPS Registry): Analysis of disease progression. ERS International Congress 2022. Spain・オンライン. 2022年9月4日-6日.

令和3年度追加分

1. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症. 日本肺サーファクタント界面医学会第57回学術研究会. 三鷹・オンライン. 2022年1月15日.

論文

1. Arikawa S¹, Fukuoka K², Nakamoto K³, Kunitomo R¹, Matsuno Y¹, Shimazaki T⁴, Saraya T³, Kawakami T¹, Kishimoto M¹, Komagata Y¹, Kurai D⁴, Ishii H³, Kaname S¹ (¹Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Respiratory Disease, Kyorin University School of Medicine,

⁴Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Effectiveness of neutralizing antibody cocktail in hemodialysis patients: a case series of 20 patients treated with or without REGN-COV2. Clin Exp Nephrol. 26(5). 476-485. 2022.

2. Sada M^{1,2,3}, Kimura H^{1,2}, Nagasawa N¹, Akagawa M¹, Okayama K¹, Shirai T², Sunagawa S¹, Kimura R^{2,4}, Saraya T³, Ishii H³, Kurai D⁵, Tsugawa T⁶, Nishina A⁷, Tomita H⁴, Okodo M⁸, Hirai S⁹, Ryo A¹⁰, Ishioka T¹¹, Murakami K⁹ (¹Department of Health Science, Gunma Paz University Graduate School of Health Sciences, ²Advanced Medical Science Research Center, Gunma Paz University Research Institute, ³Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Bacteriology, Gunma University Graduate School of Medicine, ⁵Department of Infectious Disease, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Pediatrics, Sapporo Medical University School of Medicine, ⁷Department of Applied Chemistry, College of Science and Technology, Nihon University, ⁸Department of Medical Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, ⁹Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases, ¹⁰Department of Microbiology, Yokohama City University School of Medicine, ¹¹Department of Agriculture, Takasaki University of Health Welfare) : Molecular Evolution of the Pseudomonas aeruginosa DNA Gyrase gyrA Gene. Microorganisms.10(8):1660. 2022.
3. Komatsu M¹, Yamamoto H¹, Matsui S², Terasaki Y^{3,4}, Hebisawa A⁵, Iwasawa T⁶, Johkoh T⁶, Baba T⁷, Miyamoto A⁸, Handa T⁹, Tomii K¹⁰, Waseda Y¹¹, Bando M¹², Ishii H¹³, Miyazaki Y¹⁴, Yoshizawa A¹⁵, Takemura T¹⁶, Kawabata Y¹⁷, Hanaoka M¹, Ogura T⁷; Tokyo Diffuse Lung Disease Study Group(¹First Dept of Internal Medicine, Shinshu University School of Medicine, ²Health Administration Center, University of Toyama, ³Dept of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ⁴Division of Pathology, Nippon Medical School Hospital, ⁵Division of Clinical Pathology, Asahi Central Hospital, ⁶Dept of Radiology, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, ⁷Division of Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, ⁸Dept of Respiratory Medicine, Respiratory Center, Toranomon Hospital, ⁹Dept of Advanced Medicine for Respiratory Failure, Graduate School of Medicine, Kyoto University, ¹⁰Dept of Respiratory Medicine, Kobe City Medical Center General Hospital, ¹¹Third Dept of Internal Medicine, Faculty of Medical Sciences, University of Fukui, ¹²Division of Pulmonary Medicine, Dept of Medicine, Jichi Medical University, ¹³Dept of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ¹⁴Dept of Respiratory Medicine, Tokyo Medical and Dental University, ¹⁵Dept of Diagnostic Pathology, Kyoto University Hospital, ¹⁶Dept of Pathology, Kanagawa

- Cardiovascular and Respiratory Center,¹⁷Division of Diagnostic Pathology, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center): Respiratory lesions in IgG4-related disease: classification using 2019 American College of Rheumatology/European League Against Rheumatism criteria. *ERJ Open Res.* 8(3). 00120-2022. 2022.
4. Shimoda M^{1,2}, Hirata A³, Tanaka Y⁴, Morimoto K⁴, Yoshiyama T⁴, Yoshimori K⁴, Saraya T³, Ishii H³, Ohta K⁴(¹Respiratory Disease Center, Fukuji Hospital, ²Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Respiratory Disease Center, Fukuji Hospital.): Characteristics of pleural effusion with a high adenosine deaminase level: a case-control study. *BMC Pulm Med.* 22(1). 359. 2022.
 5. Watanabe M¹, Nakamoto K¹, Inui T¹, Sada M¹, Chibana K², Miyaoka C¹, Yoshida Y¹, Aso J¹, Nunokawa H¹, Honda K¹, Nakamura M¹, Tamura M¹, Hirata A¹, Oda M¹, Takata S¹, Saraya T¹, Kurai D³, Ishii H¹, Takizawa H¹(¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pulmonary Medicine and Clinical Immunology, Dokkyo Medical University School of Medicine, ³Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Soluble ST2 enhances IL-33-induced neutrophilic and pro-type 2 inflammation in the lungs. *Allergy.* 77(10). 3137-3141. 2022.
 6. Akagawa M¹, Shirai T², Sada M¹, Nagasawa N¹, Kondo M³, Takeda M⁴, Nagasawa K⁵, Kimura R^{2,6}, Okayama K¹, Hayashi Y¹, Sugai T⁷, Tsugawa T⁸, Ishii H⁹, Kawashima H¹⁰, Katayama K¹¹, Ryo A¹², Kimura H^{1,2}(¹Department of Health Science, Graduate School of Health Sciences, ²Advanced Medical Science Research Center, Gunma Paz University Research Institute, ³Department of Clinical Engineering, Faculty of Medical Technology, Gunma Paz University, ⁴Department of Virology III, National Institute of Infectious Diseases, ⁵Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Science, ⁶Department of Bacteriology, Graduate School of Medicine, Gunma University, ⁷Department of Nursing Science, Graduate School of Health Science, Hiroshima University, ⁸Department of Pediatrics, School of Medicine, Sapporo Medical University, ⁹Department of Respiratory Medicine, School of Medicine, Kyorin University, ¹⁰Department of Pediatrics and Adolescent Medicine, Tokyo Medical University, ¹¹Laboratory of Viral Infection Control, Graduate School of Infection Control Sciences, Omura Satoshi Memorial Institute, Kitasato University, ¹²Department of Microbiology, School of Medicine, Yokohama City University): Detailed Molecular Interactions between Respiratory Syncytial Virus Fusion Protein and the TLR4/MD-2 Complex In Silico. *Viruses.* 14(11). 2382. 2022.
 7. Akizawa T^{1,2}, Nishizawa T^{1,2}, Yamada S^{1,2}, Ota H¹, Kida G¹, Tsukahara Y¹, Nakamura T¹, Oba T¹, Yamakawa H¹, Kawabe R¹, Sato S¹, Akasaka K¹, Amano M¹, Maki M³, Adachi A⁴, Ishii H², Matsushima H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Society Saitama Hospital, ²Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyorin University, ³Department of Thoracic Surgery, Japanese Red Cross Society Saitama Hospital, ⁴Department of Pathology, Japanese Red Cross Society Saitama Hospital): Successful surgical treatment of epithelioid hemangioendothelioma involving multiple liver lesions and bilateral lung nodules. *Respir Med Case Rep.* 40. 101769. 2022.
 8. Oda M¹, Yamaura K², Ishii H³, Kitamura N⁴, Tazawa R⁵, Abe M⁶, Tatsumi K⁶, Eda R⁷, Kondoh S⁷, Morimoto K⁸, Tanaka T⁸, Yamaguchi E⁹, Takahashi A¹⁰, Izumi S¹¹, Sugiyama H¹¹, Nakagawa A¹², Tomii K¹², Suzuki M¹³, Konno S¹³, Ohkouchi S¹⁴, Tode N¹⁴, Handa T¹⁵, Hirai T¹⁵, Inoue Y¹⁶, Arai T¹⁶, Asakawa K¹⁷, Tanaka T⁴, Takada T⁴, Nonaka H², Nakata K⁴(¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine Graduate School of Medicine, ²Knowledge Mining Laboratory, Information & Management Systems Engineering, Nagaoka University of Technology, ³Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine Graduate School of Medicine, ⁴Niigata University Medical and Dental Hospital, ⁵Tokyo Medical and Dental University, Health Administration Center Tokyo, ⁶Department of Respiratory, Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁷Kurashiki Municipal Hospital, ⁸Department of Clinical Medicine, Nagasaki University, Institute of Tropical Medicine, ⁹Division of Respiratory Medicine and Allergology, Department of Medicine, Aichi Medical University School of Medicine, ¹⁰Hakodate National Hospital, Division of Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, ¹¹Department of Respiratory Medicine, Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, ¹²Kobe City Medical Center General Hospital, ¹³Department of Respiratory Medicine, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, ¹⁴Department of Respiratory, Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹⁵Department of Advanced Medicine for Respiratory Failure and Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, ¹⁶National Hospital Organization Kinki-Chuo Chest Medical Center, ¹⁷Department of Respiratory medicine, Saiseikai Niigata Hospital): Quantitative Evaluation of Changes in Three-Dimensional CT Density Distributions in Pulmonary Alveolar Proteinosis after GM-CSF Inhalation. *Respiration.* 102(2). 101-109. doi: 10.1159/000528038. Epub.
 9. Okuda R¹, Ogura T², Hisata S³, Baba T¹, Kondoh Y⁴, Suda T⁵, Johkoh T⁶, Iwasawa T⁷, Tomioka H⁸, Bando M³, Azuma A⁹, Inoue Y¹⁰, Arai T¹⁰, Nakamura Y¹¹, Miyamoto A¹², Miyazaki Y¹³, Chiba H¹⁴, Ishii H¹⁵, Hamada N¹⁶, Terasaki Y¹⁷, Kuwahira I¹⁸, Sato S¹⁹, Kato S²⁰, Suzuki T²¹, Sakamoto S²², Nishioka Y²³, Hattori

- N²⁴, Hashimoto N²⁵, Morita S²⁶, Ichihara N²⁷, Miyata H²⁸, Hagiwara K³, Nukiwa T²⁹, Kobayashi K³⁰(¹Department of Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center,²Department of Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center,³Division of Pulmonary Medicine, Department of Medicine, Jichi Medical University,⁴Department of Respiratory Medicine and Allergy, Tosei General Hospital, ⁵Second Division, Department of Internal Medicine, Hamamatsu University School of Medicine,⁶Department of Radiology, Kansai Rosai Hospital,⁷Department of Radiology, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center,⁸Department of Respiratory Medicine, Kobe City Medical Center West Hospital,⁹Nippon Medical School, Graduate School of Pulmonary Medicine,¹⁰Clinical Research Center, National Hospital Organization Kinki-Chuo Chest Medical Center,¹¹Department of Respiratory Medicine, National Hospital Organization, Tenryu Hospital,¹²Toranomon Hospital, Department of Respiratory Medicine, Respiratory Center,¹³Department of Respiratory Medicine, Tokyo Medical and Dental University,¹⁴Department of Respiratory Medicine and Allergology, Sapporo Medical University School of Medicine,¹⁵Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine,¹⁶Research Institute for Diseases of the Chest, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University Hospital,¹⁷Division of Pathology, Nippon Medical School,¹⁸Department of Respiratory Medicine, Tokai University Tokyo Hospital,¹⁹Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Tokai University,²⁰Department of Diagnostic Radiology, Yokohama City University Hospital,²¹Department of Respirology, Graduate School of Medicine, Chiba University,²²Department of Respiratory Medicine, Toho University Omori Medical Center,²³Departments of Respiratory Medicine and Rheumatology, Graduate School of Biomedical Sciences, Tokushima University,²⁴Departments of Molecular and Internal Medicine, Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University,²⁵Department of Respiratory Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine,²⁶Department of Biomedical Statistics and Bioinformatics, Kyoto University,²⁷Department of Healthcare Quality Assessment, The University of Tokyo,²⁸Departments of Health Policy and Management, School of Medicine, Keio University,²⁹Tohoku University,³⁰Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical University International Medical Center): Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias (JIPS) Registry. *Respir Investig.* 61(1). 95-102. 2023.
10. Shirai T^{1,2}, Akagawa M³, Makino M⁴, Ishii M⁴, Arai A⁴, Nagasawa N³, Sada M^{2,3}, Kimura R^{1,5}, Okayama K³, Ishioka T⁶, Ishii H², Hirai S⁷, Ryo A⁸, Tomita H⁵, Kimura H³ (¹Advanced Medical Science Research Center, Gunma Paz University Research Institute,²Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Health Science, Gunma Paz University Graduate School of Health Sciences,⁴Department of Medical Technology, Gunma Paz University School of Medical Science and Technology⁵Department of Bacteriology, Gunma University Graduate School of Medicine, ⁶Department of Agriculture, Takasaki University of Health Welfare, ⁷Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases,⁸Department of Microbiology, Yokohama City University School of Medicine) : Molecular Evolutionary Analyses of the Pseudomonas-Derived Cephalosporinase Gene. *Microorganisms.* 11(3). 635. 2023.
11. Hosoya K¹, Komachi T², Masaki K³, Suzuki I⁴, Saeki H⁵, Kanda N⁶, Nozaki M⁷, Kamide Y⁸, Matsuwaki Y⁹, Kobayashi Y¹⁰, Ogino E¹¹, Osada S¹², Usukura N¹³, Kurumagawa T¹⁴, Ninomia J¹⁵, Asako M¹⁶, Nakamoto K¹⁷, Yokoi H¹⁸, Ohyama M¹⁹, Tanese K³, Kanzaki S³, Fukunaga K³, Ebisawa M⁸, Okubo K¹³(¹Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital, ²Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ³Keio Allergy Center, Keio University Hospital, ⁴Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Showa University, School of Medicine, ⁵Department of Dermatology, Nihon Medical School, ⁶Department of Dermatology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ⁷Wakaba-Hifuka Clinic, ⁸National Hospital Organization Sagami National Hospital, Clinical Research Center for Allergy and Rheumatology, ⁹Matsuwaki Clinic Shinagawa, ¹⁰Allergy Center, Kansai Medical University, ¹¹Kyoto Nose and Allergy Clinic, ¹²Department of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ¹³Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Nippon Medical School Hospital, ¹⁴Minamiosawa Medical Plaza, ¹⁵Nagase Clinic of Dermatology, ¹⁶Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kansai Medical University, ¹⁷Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ¹⁸Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, ¹⁹Department of Dermatology, Kyorin University Faculty of Medicine): Barrier Factors of Adherence to Dupilumab Self-Injection for Severe Allergic Disease: A Non-Interventional Open-Label Study. *Patient Prefer Adherence.* 17. 861-872. 2023.
12. 石田学¹, 中島裕美¹, 麻生純平¹, 小田未来¹, 中本啓太郎¹, 本多紘二郎¹, 田村仁樹¹, 高田佐織¹, 根井雄一郎², 皿谷健¹, 石井晴之¹ (杏林大学付属病院呼吸器内科, ²帝京大学ちば総合医療センター第三内科) : 基礎疾患を有する自己免疫性肺胞蛋白症の臨床的検討. *日本呼吸器学会誌.* 11巻. 269. 2022.
13. 麻生純平, 石井晴之 (杏林大学付属病院呼吸器内科) : 特発性間質性肺炎. *カレントセラピー.* 40(11). 1083-1088. 2022.

著書

- 石井晴之 (分担執筆) : 間質性肺炎. *ドクターサロン* 66巻9月号. 杏林製薬株式会社. 2022年. 5-8.
- 石井晴之 (分担執筆) : 続発性肺蛋白症. 特集 びま

ん性肺疾患・病態・最新知見・日本臨牀社。2022年。1503-1508.

3. 石川周成, 石井晴之(分担執筆): 急性上気道炎(かぜ症候群など), 急性気管支炎. 最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患診療指針2023-'24. 弦間昭彦. 総合医学社. 2022年. 17-23.
4. 石井晴之(分担執筆): 間質性肺疾患. year note 内科・外科編2024. 岡庭豊. メディックメディア. 2023年. I-95-102.
5. 皿谷健(分担執筆): 上気道感染症, 下気道感染症. medicina Vol.59 No.7 抗菌薬の使い方 敵はコロナだけにあらず! 今こそ基本に立ち返る. 医学書院. 2022年. 1104-1109.
6. 皿谷健(企画/分担執筆): “将来の診断学”. 呼吸器ジャーナルVol.70 No.4 呼吸器診断マスター 病歴, 身体所見, 画像所見でここを見る!. 医学書院. 2022年. 611, 614.
7. 皿谷健(分担執筆): 急性好酸球性肺炎と慢性好酸球性肺炎 診断のポイントとBALの解釈と治療について. 間質性肺炎のみかた, 考えかた. 喜舎場朝雄 編著. 中外医学社. 2022年. 253-258.
8. 皿谷健(分担執筆): 心, 肺疾患に伴う浮腫. 診断力・治療スキルがアップする 実践むくみ診療. 仲里信彦 編. 日本医事新報社. 2022年. 24-32.
9. 皿谷健(分担執筆): 間質性肺炎. 検査と技術 症例から学ぶ 疾患と検査値の推移Vol.51, No.3. 医学書院. 2023年. 356-360.
10. 皿谷健(分担執筆): 百日咳. 呼吸器疾患 最新の治療2023-2024. 弦間昭彦, 西岡安彦, 矢寺和博 編集. 南江堂. 2023年. 212-214.
11. 皿谷健(分担執筆): 第II章 感染症診療各論 4.呼吸器感染症“肺膿瘍”. 診断と治療 Vol.111 2023年増刊号 ポストコロナ時代の感染症診療. 診断と治療社. 2023年. 114-116.
12. 高田佐織(分担執筆): 2章 PD-L1阻害薬③デュルバルマブ. がん化学療法の薬 はや調ベノート 2023・2024年版. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 200-201.
13. 本多紘二郎(分担執筆): 第1章呼吸器 サルコイドーシス. 内科129巻4号1ページでわかる内科疾患の診療ノート-“あたりまえ”のなかにある大事な視点. 南江堂. 2022年. p543-546.
14. 本多紘二郎(分担執筆): 第2章呼吸器. 内科130巻3号エキスパートがお答えします! 日常臨床のあるあるの疑問. 南江堂. 2022年. p388-391.
15. Saraya T: BMJ Best practice 2022 Ran Nir-Paz, Mycoplasma pneumoniae pneumonia. web/アプリの診断ツール(有料) <https://bestpractice.bmj.com/topics/en-us/605>. 2022年10月.

令和3年度追加点

1. 石井晴之(分担執筆): 続発性肺胞蛋白症における胸部HRCTの意義. 臨床放射線vol.66 NO.3 2021 特集今「すりガラス陰影」を見直そう. 金原出版株式会社. 2021年. 241-249.

その他

1. 石井晴之(監修, 出演) 肺線維症患者さんに治療継続意義をご理解頂くためのICとは?(動画コンテンツ). ベーリンガー・プラス. 2022年9月2日 <https://pro.boehringer-ingenelheim.com/jp/product/ofev/help-pf-patients-know-importance-of-continuing-treatment>.

2. 皿谷健(監修, 出演): 膠原病に伴う間質性肺疾患～早期発見のための肺聴診のコツ～(動画コンテンツ). ベーリンガー・プラス. 2023年3月30日. <https://pro.boehringer-ingenelheim.com/jp/product/ofev/ild-with-connective-tissue-disease-tips-for-early-find>.

腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

講演

(国際学会)

1. Kaname S: Importance of multidisciplinary team care for dietary therapy in CKD. The International Workshop on Dietary Therapy for CKD. Tokyo. March 4-5, 2023.
2. Kishimoto M: Case-based discussion of hot topics in vasculitis. APLAR webinar series. オンライン. May 14, 2022.
3. Komagata Y: Management for EGPA in Japan. Decoding EGPA. Spain・Online. September 16th. 2022.
4. Kawashima S, Kishimoto M, Kawakami T, Fukuoka K, Komagata Y, Kaname S: Analysis of clinical outcomes in ANCA-associated GN treated with rituximab: a single center experience in Japan. Am Soc Nephrol Annual Meeting. U.S.A. Nov 4th, 2022.
5. Kawashima S, Kishimoto M, Ayuzawa N, Ikegaya N, Kawakami T, Fukuoka K, Komagata Y, Kaname S: Analysis of Clinical Outcomes in ANCA-associated Vasculitis Treated with Rituximab: Eight Years a Single Center Experience in Japan. ACR Convergence. Online. Nov10-15, 2022.
6. Kishimoto M: Mimicking conditions, MRI workshop for axial SpA Day 1. APLAR 2022. China. Dec 05, 2022.
7. Kishimoto M(Invited speaker): Peripheral spondyloarthritis and psoriatic arthritis: results of the worldwide, cross-sectional ASAS-PerSpA study, Psoriatic arthritis - what is new?. APLAR 2022. China. Dec 07, 2022.
8. Kishimoto M: The role of a new-generation JAK inhibitor in the treatment of rheumatoid arthritis. APLAR 2022. China. Dec 07, 2022.

(国内学会・研究会)

1. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)を知ろう～腎臓を守るために～. NPO法人東京腎臓病協議会・第33回腎臓病を考える都民の集い. 動画配信. 2022年4月1日-11月30日.
2. 要伸也: CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～. CKD Symposium. オンライン. 2022年4月7日.
3. 岸本暢将: RA治療薬選択時の協同的意思決定の役割～Web調査結果報告～. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会. 横浜. 2022年4月25日.
4. 駒形嘉紀: EGPA最新の話. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会. 横浜. 2022年4月27日.
5. 岸本暢将: PsAの診断と治療～最新情報も踏まえて～. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会. 横浜. 2022年4月27日.

6. 岸本暢将：リウマチ性多発筋痛症（PMR）を中心とした高齢者関節炎の臨床。第66回日本リウマチ学会総会・学術集会。横浜。2022年4月27日。
7. 内田裕子，福岡利仁，有川滋久，松野裕樹，國友理恵，前田啓造，佐藤由利子，国沢恭平，正路久美，川嶋聡子，池谷紀子，川上貴久，軽部美穂，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：SLEの治療（ベリムマブ）当院におけるベリムマブ導入SLEの臨床的検討（会議録）。第66回日本リウマチ学会総会・学術集会。横浜・オンライン。2022年4月25日-27日。
8. 川嶋聡子，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：ANCA関連血管炎：コホート研究・ケースシリーズ 当院におけるANCA関連血管炎におけるリツキシマブ療法との8年間の現況。第66回日本リウマチ学会総会・学術集会。横浜・オンライン。2022年4月25日-27日。
9. 岸本暢将，小野慶介，福井翔，川合聡史，市川奈緒美，金子祐子，川崎拓，松井和生，森田充浩，多田久里守，滝澤直歩，田村直人，谷口敦夫，谷口義典，辻成佳，小林茂人，岡田正人，駒形嘉紀，富田哲也，要伸也：脊椎関節炎 アジア（日本人を含む）のX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎の特徴 国際共同横断研究ASAS-COMOSPA研究の結果より。第66回日本リウマチ学会総会・学術集会。横浜・オンライン。2022年4月25日-27日。
10. 小野慶介，岸本暢将，福井翔，川合聡史，澤田治紀，多田久里守，田村直人，谷口義典，平田絢子，亀田秀人，辻成佳，金子祐子，土橋浩章，岡野匡志，土師陽一郎，森田明理，岡田正人，駒形嘉紀，富田哲也，要伸也：脊椎関節炎 脊椎関節炎と炎症性腸疾患を併発した患者の地域差と臨床的特徴 ASAS-PerSpA研究からの報告。第66回日本リウマチ学会総会・学術集会。横浜・オンライン。2022年4月25日-27日。
11. 要伸也：CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～。心腎連関セミナーin船橋。オンライン。2022年5月26日。
12. 要伸也：CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～。CKD治療Update Seminar。オンライン。2022年5月31日。
13. 岸本暢将：リウマチ専門医が考える乾癬性関節炎。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月4日。
14. 鮎澤信宏，西本光宏，河原崎和歌子，大庭成喜，丸茂丈史，饗場篤，藤田敏郎：遠位ネフロン特異的Rac1欠損マウスでは腎髄質の生後の発達が障害される。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸。2022年6月10日。
15. 要伸也：CKDにおけるチーム医療と腎臓病療養指導士－難治性腎疾患における役割－。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市。2022年6月12日。
16. 丸山彰一，池田洋一郎，要伸也，加藤規利，松本雅則，石川由美子，下野明彦，宮川義隆，南学正臣，柴垣有吾，岡田浩一：成人aHUS患者に対するエクリズマブ市販後調査の解析。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
17. 有川滋久，福岡利仁，國友理恵，松野裕樹，川上貴久，駒形嘉紀，要伸也：血液透析患者における中和抗体カクテルの有効性 REGN-COV2投与群と非投与群の20例のケースシリーズ。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
18. 川嶋聡子，川上貴久，福岡利仁，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：当院におけるANCA関連腎炎に対するリツキシマブ療法の臨床像の解析。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
19. 宮本彩子，川上貴久，川嶋聡子，池谷紀子，福岡利仁，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：マクロファージ特異的PHDノックアウトはLPSによる全身性炎症を改善する。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
20. 薄井晃一，小林知志，川嶋聡子，池谷紀子，福岡利仁，川上貴久，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：セフトリアキソン脳症による意識障害と考えられた1例。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
21. 石川まりな，松野裕樹，松原秀史，池谷紀子，小野澤志郎，川嶋聡子，川上貴久，福岡利仁，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：成人発症ステイル病の経過中に出現したM蛋白血症を契機にSchnitzler症候群との異同が問題となった一例。第65回日本腎臓学会学術総会。神戸市・オンライン。2022年6月10日-12日。
22. 川上貴久，山下優衣，内田裕子，竹森愛，川嶋聡子，池谷紀子，福岡利仁，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：免疫抑制療法開始直後に一時的な血液透析を要する急性腎障害を認めたIgA腎症の一例。第67回日本透析医学会学術集会・総会。横浜市。2022年7月1日。
23. 垣脇宏俊，小林竜，柳麻衣，前田啓造，加賀谷優，大浦紀彦，要伸也，石橋由孝：Mycobacterium abscessusによる腹膜透析カテーテルトンネル感染に筋皮弁再建も含めた外科的介入を行い治癒した一例。第67回日本透析医学会学術集会・総会。横浜市。2022年7月2日。
24. 戸瀬颯斗，川上貴久，大浦紀彦，川嶋聡子，池谷紀子，福岡利仁，岸本暢将，駒形嘉紀，要伸也：レオカーナによる直接血液吸着療法を施行した重症下肢虚血の血液透析患者3例の検討。第67回日本透析医学会学術集会・総会。横浜。2022年7月2日。
25. 要伸也：日本腎臓学会との連携と今後への期待。第67回日本透析医学会学術集会・総会。横浜市。2022年7月3日。
26. 要伸也：CKD対策における腎臓病療養指導士の役割と今後の展開。第2回富山県CKD対策部会講演会。オンライン。2022年7月24日。
27. 要伸也：ANCA関連血管炎・腎炎の治療戦略Update。AAV Expert Seminar。オンライン。2022年8月30日。
28. 岸本暢将：乾癬性関節炎診療におけるトータルマネージメント。第37回日本乾癬学会。鹿児島市。2022年9月9日。
29. 岸本暢将：PsAの最新臨床試験のReview。第37回日本乾癬学会学術集会。鹿児島市。2022年9月10日。
30. 岸本暢将：末梢性脊椎関節炎（PsA含む）の最新の知見～IL-17Aの可能性～。日本脊椎関節炎学会第32回学術集会。鹿児島市・オンライン。2022年9月10日。
31. 岸本暢将：SpA/PsA Update。日本脊椎関節炎学会第32回学術集会。鹿児島市・オンライン。2022年9月10日。
32. 岸本暢将：脊椎関節炎の合併症を考える。日本脊椎関節炎学会第32回学術集会。鹿児島市・オンライン。2022年9月11日。
33. 駒形嘉紀：関節リウマチ治療におけるMTXの使い方。杏林大学薬薬連携Webセミナー。オンライン。2022年9月14日。
34. 要伸也：CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～。三多摩CKD Symposium。オンライン。2022年9月15日。
35. 要伸也：ANCA関連血管炎・腎炎の最新の話。第16回膠原病の腎障害研究会。2022年9月20日。
36. 要伸也：CKD診療における多職種連携の現状と課題～腎臓病療養指導士を中心に～。第2回米子CKDチー

- ム医療研究会. オンライン. 2022年10月4日.
37. 岸本暢将: リウマチ性疾患におけるUpadacitinibの有用性. 第50回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2022年10月13日.
 38. 要伸也: CKD看護における腎臓病療養士の役割～看看連携. 第25回日本腎不全看護学会学術集会・総会. 名古屋・オンライン. 2022年10月15日.
 39. 要伸也: ANCA関連血管炎の国内外ガイドラインの動向. 第25回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月23日.
 40. 駒形嘉紀: 補体C5a受容体阻害薬. 第52回日本腎臓学会東部学術集会. 東京. 2022年10月23日.
 41. 薄井晃一, 松野祐樹, 小林知志, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也: プレドロン酸による尿細管間質性腎炎と考えられた1例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月23日.
 42. 山下優衣, 松原秀史, 前田啓造, 松野裕樹, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 癌による発熱, 食思不振との鑑別を要したペメトレキセドによる尿細管間質性腎炎の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月22日.
 43. 横田理代, 福岡利仁, 内田裕子, 谷垣伸治, 小林千絵, 要伸也: 妊娠中に腎生検を施行し, 治療が奏功したネフローゼ症候群の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月22日.
 44. 有川滋久, 佐藤由利子, 正路久美, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也: ループス腎炎の再燃中に, 上腸間膜動脈塞栓症を生じた一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月22日.
 45. 須原夕貴, 川嶋聡子, 佐世光, 内田裕子, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術後にIgA血管炎を発症した一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月22日.
 46. 前田啓造, 松原秀史, 山下優衣, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 不明熱を契機に診断されたカドミウムによる急性尿細管間質性腎炎の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月23日.
 47. 國友理恵, 川上貴久, 竹森愛, 内田裕子, 福岡利仁, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 新型コロナウイルスが原因と考えられる急性間質性腎炎の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 東京. 2022年10月22日.
 48. 要伸也: CKDの病態と新たな治療戦略～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～. 杉並中野糖尿病フォーラム. オンライン. 2022年10月25日.
 49. 岸本暢将: EULAR情報含めRA診療最新情報. 第37回日本臨床リウマチ学会. 札幌. 2022年10月29日.
 50. 要伸也: 膠原病に合併するTMAの診断と治療. 第37回日本臨床リウマチ学会. 札幌. 2022年10月31日.
 51. 要伸也: 免疫・腎疾患における補体の関与と抗補体薬. 第37回日本臨床リウマチ学会. 札幌. 2022年10月31日.
 52. 駒形嘉紀: 関節リウマチ治療におけるbio製剤・JAK製剤のポジショニング. 第16回別府・大分免疫疾患研究会. 別府. 2022年11月1日.
 53. 岸本暢将: ベーチェットの全身マネジメント～眼科との診療連携の重症性～. 第5回日本ベーチェット病学会. 横浜. 2022年11月5日.
 54. 要伸也: 多職種連携のCKD治療～高カリウム血症の管理を含めて～. LOKELMA Online Symposium. オンライン. 2022年11月17日.
 55. 要伸也: 三多摩腎疾患治療医会の現況と今後の方向性. 第79回三多摩腎疾患治療医会. 三鷹. 2022年11月20日.
 56. 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院におけるANCA関連腎炎に対するリツキシマブ治療の現況. 第79回三多摩腎疾患治療医会. 2022年11月20日.
 57. 要伸也: 地域で取り組む慢性腎臓病治療～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～. 八王子CKD Symposium. オンライン. 2022年11月22日.
 58. 要伸也: トリガーを有する補体介在性TMA(aHUS). Japan aHUS Medical Forum 2022. オンライン. 2022年11月27日.
 59. 要伸也: エビデンスから考えるCKD/DKD治療～SGLT2阻害薬とRAAS阻害薬. Science Exchange Meeting～Cardio-Renal Benefitsを鑑みたこれからの医療連携～. オンライン. 2021年11月29日.
 60. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)の正しい知識と予防法を身につけよう～重症化させない早めの気づきと早期受診のために～. 令和4年度健康づくり事業推進指導者育成研修. 東京. 2021年12月2日.
 61. 要伸也: CKDチーム医療に腎臓病療養指導士の役割と今後の展望. 第5回兵庫県腎臓病療養指導セミナー. オンライン. 2022年12月6日.
 62. 要伸也: TMAとaHUSの診断と治療のポイント. Atypical HUS web講演会. オンライン. 2022年12月9日.
 63. 駒形嘉紀: 抗リウマチ薬の最新の知見. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2022年12月10日.
 64. 駒形嘉紀: EGPA診療の最新の話. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2022年12月10日.
 65. 岸本暢将: 日常診療での高齢者関節炎の鑑別診断とRA診療Update～サリルマブへの期待～. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2022年12月11日.
 66. 要伸也: 糖尿病性腎症の最近の話. 小金井市北多摩南部保健医療圏糖尿病医療連携講演会. オンライン. 2022年12月12日.
 67. 要伸也: 内科的視点の血管炎の診断・治療の進歩. 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会. 名古屋. 2022年12月17日.
 68. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究. 厚生労働科学研究費補助金(腎疾患政策研究事業). 令和4年度JSN公的研究班研究成果合同発表会. 東京. 2023年1月29日.
 69. 岸本暢将: 不明熱～膠原病ですか?～. 不明熱の診断. 第26回日本病院総合診療医学会学術集会. 宇都宮. 2023年2月18日.
 70. 岸本暢将: 日常診療で遭遇する関節炎の鑑別疾患Hands-onセッション. 第26回日本病院総合診療医学会学術集会. 宇都宮. 2023年2月18日.
 71. 要伸也: 地域で取り組む慢性腎臓病治療～腎専門医が考えるDapagliflozinのポジショニング～. 三多摩CKD Symposium. オンライン. 2023年3月3日.
 72. 要伸也: 当院におけるタブネオス使用の実際. AAV Expert Forum. オンライン. 2023年3月18日.
 73. 要伸也: 臨床検査値の見方. 院外処方箋と検査値活用のための講演会. 三鷹. 2023年3月23日.

論文

英文誌

1. Abe M, Hatta T, Imamura Y, Sakurada T, Kaname S: Effectiveness and current status of multidisciplinary care for patients with chronic kidney disease in Japan: a nationwide multicenter cohort study. *Clin Exp Nephrol.* 2023. doi: 10.1007/s10157-023-02338-w. Online ahead of print.
2. Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Komagata Y, Ohyama M, Kaname S: Upadacitinib for moderate-to-severe atopic dermatitis, in adults and adolescents 12 years and older: review of international and Japanese populations. *Expert Rev Clin Immunol.* 19(1). 19-35. 2023.
3. Sada KE, Kaname S, Higuchi T, Furuta S, Nagasaka K, Nanki T, Tsuboi N, Amano K, Dobashi H, Hiromura K, Bando M, Wada T, Arimura Y, Makino H, Harigai M: Validation of new ACR/EULAR 2022 classification criteria for anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Mod Rheumatol.* road017. 2023.
4. Nagasaka K, Amano K, Dobashi H, Nagafuchi H, Sada KE, Komagata Y, Yamamura M, Kato M, Endo T, Nakaya I, Takeuchi T, Murakawa Y, Sugihara T, Saito M, Hayashi T, Furuta S, Tamura N, Karasawa K, Banno S, Endo S, Majima M, Kaname S, Arimura Y, Harigai M: Nation-wide Cohort Study of Remission Induction Therapy using Rituximab in Japanese patients with ANCA-Associated Vasculitis: effectiveness and safety in the first six months. *Mod Rheumatol.* roac150. 2022.
5. Miyawaki Y, Fujii T, Anan K, Kodera M, Kikuchi M, Sada KE, Nagasaka K, Bando M, Sugiyama H, Kaname S, Harigai M, Tamura N: Concordance between practice and published evidence in the management of ANCA-associated vasculitis in Japan: a cross-sectional web-questionnaire survey. *Mod Rheumatol.* roac118. 2022.
6. Ono K, Karube M, Kaname S: Dialysis Catheter Site-Related Tenderness and Erythema. *Kidney360.* 3(5). 979-980.
7. Watanabe R, Oshima M, Nishioka N, Sada KE, Nagasaka K, Akiyama M, Ando T, Higuchi T, Inoue Y, Kida T, Mutoh T, Nakabayashi A, Onishi A, Sakai R, Waki D, Yamada Y, Yajima N, Tamura N, Kaname S, Harigai M: Systematic review and meta-analysis for 2023 clinical practice guidelines of the Japan research committee of the ministry of health, labour, and welfare for intractable vasculitis for the management of ANCA-associated vasculitis. *Mod Rheumatol.* roac114. 2022.
8. Ono K, Ishibashi Y, Kaname S: Successful Kidney and Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Malignant Lymphoma from Different Donors: A Case Report and Literature Review. *Transplant Proc.* 54(6):1589-1593. 2022.
9. Harigai M, Kaname S, Tamura N, Dobashi H, Kubono S, Yoshida T: Efficacy and Safety of Avacopan in Japanese Patients with Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis: A Subanalysis of a Randomized Phase 3 Study. *Mod Rheumatol.* 33(2). 338-345. 2023.
10. Matsubara H, Maeda K, Kaname S: Purple urine bag syndrome. *Clin Exp Nephrol.* 26(12). 1240-1241. 2022.
11. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawaai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, López Medina C, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis. *Rheumatol Int.* 42(10). 1751-1766. 2022.
12. Smith RM, Jones RB, Specks U, Bond S, Nodale M, Al-Jayyousi R, Andrews J, Bruchfeld A, Camilleri B, Carette S, Cheung CK, Derebail V, Doulton T, Ferraro A, Forbess L, Fujimoto S, Furuta S, Gewurz-Singer O, Harper L, Ito-Ihara T, Khalidi N, Klocke R, Koenig C, Komagata Y, Langford C, Lanyon P, Luqmani R, McAlear C, Moreland LW, Mynard K, Nachman P, Pagnoux C, Peh CA, Pusey C, Ranganathan D, Rhee RL, Spiera R, Sreih AG, Tesar V, Walters G, Wroe C, Jayne D, Merkel PA : RITAZAREM co-investigators. Rituximab versus azathioprine for maintenance of remission for patients with ANCA-associated vasculitis and relapsing disease: an international randomised controlled trial. *Ann Rheum Dis.* 2023. DOI: 10.1136/ard-2022-223559. Epub.
13. Sugihara T, Uchida HA, Yoshifuji H, Maejima Y, Naniwa T, Katsumata Y, Okazaki T, Ishizaki J, Murakawa Y, Ogawa N, Dobashi H, Horita T, Tanaka Y, Furuta S, Takeuchi T, Komagata Y, Nakaoka Y, Harigai M: Association between the patterns of large-vessel lesions and treatment outcomes in patients with large-vessel giant cell arteritis. *Mod Rheumatol.* roac122. 2022.
14. Torii H, Kishimoto M, Tanaka M, Noguchi H, Chaudhari S: Patient perceptions of psoriatic disease in Japan: Results from the Japanese subgroup of the Understanding Psoriatic Disease Leveraging Insights for Treatment (UPLIFT) survey. *J Dermatol.* 49(9). 818-828. 2022.
15. Furer V, Kishimoto M, Tomita T, Elkayam O, Helliwell PS: Pro and contra: is synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis, and osteitis (SAPHO) a spondyloarthritis variant? *Curr Opin Rheumatol.* 34(4). 209-217. 2022.
16. Van der Heijde D, Deodhar A, Maksymowych WP, Sieper J, Van den Bosch F, Kim TH, Kishimoto M, Östör AJ, Combe B, Sui Y, Duan Y, Wung PK, Song IH: Upadacitinib in active ankylosing spondylitis: results of the 2-year, double-blind, placebo-controlled SELECT-AXIS 1 study and open-label extension. *RMD Open.* 8(2). e002280. 2022.
17. Deodhar A, Van den Bosch F, Poddubnyy D, Maksymowych WP, Van der Heijde D, Kim TH, Kishimoto M, Blanco R, Duan Y, Li Y, Pangan AL, Wung P, Song IH: Upadacitinib for the treatment of active non-radiographic axial spondyloarthritis (SELECT-AXIS 2): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet.* 400(10349). 369-379. 2022.

18. Nakai T, Fukui S, Kidoguchi G, Ikeda Y, Kitada A, Nomura A, Tamaki H, Kishimoto M, Okada M: Effect and safety profile of belimumab and tacrolimus combination therapy in thirty-three patients with systemic lupus erythematosus. *Clin Rheumatol.* 41(12). 3735-3745. 2022.
19. Coates LC, Smolen JS, Mease PJ, Husni ME, Merola JF, Lespessailles E, Kishimoto M, Macpherson L, Bradley AJ, Bolce R, Helliwell PS: Comparative performance of composite measures from two phase III clinical trials of ixekizumab in psoriatic arthritis. *RMD Open.* 8(2). e002457. 2022.
20. Kim TH, Kishimoto M, Wei JC, Jeong H, Nozaki A, Kobayashi S; 4827-006 study group: Brodalumab, an anti-interleukin-17 receptor A monoclonal antibody, in axial spondyloarthritis: 68-week results from a phase 3 study. *Rheumatology (Oxford).* 62(5). 1851-1859. 2022.
21. Fukui S, Nakai T, Kawaai S, Ikeda Y, Suda M, Kitada A, Tamaki H, Kishimoto M, Ohde S, Okada M: Advantages of an alternate-day glucocorticoid treatment strategy for the treatment of IgG4-related disease: A preliminary retrospective cohort study. *Medicine.* 101 (39). e30932. 2022.
22. Fukui S, Kobayashi S, Kishimoto M: Clinical Images: Impending cardiac tamponade and coated aorta in Erdheim-Chester disease. *Arthritis Rheumatol.* 75(3). 488. 2022.
23. McInnes IB, Kato K, Magrey M, Merola JF, Kishimoto M, Haaland D, Chen L, Duan Y, Liu J, Lippe R, Wung P: Efficacy and safety of upadacitinib in patients with psoriatic arthritis: 2-year results from the phase 3 SELECT-PsA 1 study. *Rheumatol Ther.* 10(1). 275-292. 2023.
24. Campanholo CB, Maharaj AB, Corp N, Bell S, Costa L, de Vlam K, Gullick NJ, Khraishi M, Kishimoto M, Palmou-Fontana N, Reddy S, Scarpa R, Vega L, Duarte GV, Zisman D, van der Windt DA, Duruoz MT, Ogdie A: Management of psoriatic arthritis in patients with comorbidities: an updated literature review informing the 2021 GRAPPA treatment recommendations. *J Rheumatol.* 50(3). 426-432. 2023.
25. Salinas CA, Louder A, Polinski J, Zhang TC, Bowler H, Phillips S, Song Y, Rashidi E, Bosan R, Chang HC, Foster N, Gershenson B, Yamanaka H, Kishimoto M, Tanaka Y, Fischer P, Zhu B, Faries D, Mai X, Doherty BT, Grelaud A, Thurin NH, Askling J, Deberdt W; B023 Study Consortium: Evaluation of VTE, MACE, and serious infections among patients with RA treated with baricitinib compared to TNFi: a multi-database study of patients in routine care using disease registries and claims databases. *Rheumatol Ther.* 10(1). 201-223. 2022.
26. Kojima M, Kawahito Y, Sugihara T, Kojima T, Harada R, Hirata S, Hashimoto M, Hidaka T, Ishikawa H, Ito H, Kishimoto M, Kaneko Y, Matsui K, Matsui T, Matsushita I, Morinobu A, Nishida K, Tanaka E, Abe A, Ishitoku M, Asai S, Kida T, Onishi A, Takanashi S, Harigai M: Late-onset rheumatoid arthritis registry study, LORIS study: study protocol and design. *BMC Rheumatol.* 6(1). 90. 2022.
27. Yamanaka H, Kishimoto M, Nishijima N, Yamashita K, Matsushima J, O'Brien J, Blachley T, Eliot M, Margolin Z, Dave SS, Tanaka Y: Socioeconomic impact of treatment with biological disease-modifying antirheumatic drugs in Japanese patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* roac160. 2023.
28. Ayuzawa N¹, Nishimoto M^{1,2}, Kawarazaki W¹, Oba S¹, Marumo T^{1,3}, Aiba A⁴, Fujita T^{1,5,6} (¹Division of Clinical Epigenetics, Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo, ²Department of Internal Medicine, Division of Nephrology and Hypertension, International University of Health and Welfare Mita Hospital, ³Center for Basic Medical Research at Narita Campus, International University of Health and Welfare, ⁴Laboratory of Animal Resources, Center for Disease Biology and Integrative Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ⁵Shinshu University School of Medicine, ⁶Research Center for Social Systems, Shinshu University): Ral1 deficiency impairs postnatal development of the renal papilla. *Sci Rep.* 12(1).20310. 2022.

和文誌

1. 早川 怜那, 佐藤洋平, 下田由莉江, 宮本彩子, 川上貴久, 要伸也, 大山学. 感染性腎炎によるネフローゼ症候群を合併した蜂窩織炎の1例. *臨床皮膚科.* 77巻(2). 155-160. 2023.
2. 内田裕子, 福岡利仁, 前田啓造, 李惠怜, 佐藤由利子, 国沢恭平, 正路久美, 川嶋聡子, 池谷紀子, 軽部美穂, 岸本暢將, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院におけるベリムマブ導入SLE65例の疾患活動性の検討. *関東リウマチ.* 54巻. 24-28. 2022.
3. 要伸也: ANCA関連血管炎. *循環器内科.* 92巻(5). 580-584. 2022.
4. 要伸也: 【腎不全に携わる看護職のキャリアを考える】多職種協働によるキャリア支援 腎臓病療養指導士創設による看護職への期待. *臨床透析.* 38巻(11). 1420-1425. 2022.
5. 要伸也: 【Conservative Kidney Management】CKMにおける多職種連携の重要性. *腎臓内科.* 15巻(4). 417-422. 2022.
6. 要伸也: 【急性腎障害(AKI)】AKIの病態とその対応 血管炎とAKI. *腎と透析.* 94巻(1). 58-62. 2023.
7. 要伸也: 【腎疾患対策検討会報告書の進捗と課題】人材育成の進捗と課題. *腎臓内科.* 16(6). 676-681. 2022.
8. 要伸也: 【急性腎不全(ARF)から急性腎障害(AKI)へ】高齢者AKIにおけるRPGNの意義. *日本医師会雑誌.* 151巻(1). 31. 2022.

著書

1. 要伸也(分担執筆): 多職種連携によるCKM腎臓病療養指導士の役割. 高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法. 「日本医療研究開発機構(AMED)長寿科学研究開発事業 高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」研究班 編集. 東京医学社. 2022. 186-189.
2. 要伸也(分担執筆): 血管炎に伴う腎症(ANCA関連血管炎). 腎疾患・透析最新の治療2023-2025. 山縣邦弘, 南学正臣 編集. 南江堂. 2023. 168-171.
3. 川上貴久(分担執筆): E 血管炎 10 免疫複合体性

- 血管炎. リウマチ病学テキスト改訂第3版. 日本リウマチ財団教育研修委員会, 日本リウマチ学会生涯教育委員会 編集. 南江堂. 2022. 283-288.
4. 川上貴久 (分担執筆): 第II章 各臨床領域における水・電解質異常診療のポイント 13. リウマチ・膠原病領域における水・電解質異常. ケースで学ぶ 実践! 水・電解質診療: 多様な臨床現場でこう考える! こう治療する!. 和田健彦 編集. 文光堂. 2022. 201-205.
 5. 要伸也 (共編): 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022.
 6. 要伸也 (分担執筆): 第1章 腎・泌尿器疾患の構造と機能. I 腎臓の構造と機能 A. 腎臓の構造. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p20-26.
 7. 要伸也 (分担執筆): 第1章 腎・泌尿器疾患の構造と機能. I 腎臓の構造と機能 A. 腎臓の機能. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p26-32.
 8. 川上貴久 (分担執筆): 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 II 検査 C 腎機能検査. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p88-93.
 9. 川上貴久 (分担執筆): 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 II 検査 G 生検 1 腎組織検査. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p107-108.
 10. 川上貴久 (分担執筆): 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 III 治療 A 薬物療法 1 副腎皮質ステロイド, 2 ステロイドパルス療法, 3 免疫抑制薬. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p111-113.
 11. 川上貴久 (分担執筆): 第4章 腎・泌尿器の疾患と診察 I 1 一次性糸球体疾患. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p136-145.
 12. 川上貴久 (分担執筆): 第4章 腎・泌尿器の疾患と診察 II 全身性疾患による腎障害 C 腎アミロイドーシス, D 多発性骨髄腫による腎障害, E 感染症による腎障害. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p151-155.
 13. 川上貴久 (分担執筆): 第4章 腎・泌尿器の疾患と診察 V 妊娠高血圧症候群. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p163-166.
 14. 川上貴久 (分担執筆): 第4章 腎・泌尿器の疾患と診察 VI 尿細管間質性腎炎. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p166-168.
 15. 川上貴久 (分担執筆): 第4章 腎・泌尿器の疾患と診察 IX 遺伝性腎疾患. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学 腎・泌尿器 第5版. 要伸也, 福原浩, 斉藤しのぶ 編集. メヂカルフレンド社. 2022. p180-181.
 16. 鮎澤信宏, 要伸也 (分担執筆): 降圧薬による腎障害. 日本臨床別冊 腎臓症候群 (第3版) IV. 日本臨床社. 2022. 269-273.
 17. 岸本暢将 (分担執筆): III. 関節リウマチの検査・診断: 関節症候. 最新関節リウマチ学 (第2版). 日本臨床. 80(増刊号4). 日本臨床社. 2022. 140-144.
 18. 岸本暢将 (分担執筆): 新しいバイオ医薬品 IL23阻害薬について. What's New in 皮膚科学2022-2023. 常深祐一郎, 鶴田大輔 編. メディカルレビュー社. 2022. 64-65.
 19. 岸本暢将 (編集・分担執筆): コラム SAPHO症候群, GRAPPA surveyについて・V. 診断と鑑別診断. 1 PAOの診断手順. 掌蹠膿疱症性骨関節炎 診療の手引き2022. 日本脊椎関節炎学会編. 文光堂. 2022. 47, 94-96.
 20. 岸本暢将 (分担執筆): 3章3.HLA-B51の診断的意義 (ASとの比較から). 現場がエキスパートに聞きたいパーチェット病. 岳野光洋 編. 日本医事新報社. 2023. 97.
 21. 小野慶介, 岸本暢将 (分担執筆): 末梢性脊椎関節炎ー関節リウマチとの比較ー 関節リウマチの実地臨床に必要なトピックスのUpdate. 内科総合誌 Medical Practice40巻2号. 文光堂. 2023. 209-213.
 22. 岸本暢将 (分担執筆): ①. 「関節が痛い」はすべてリウマチ? リウマチ患者さんの「困った!」「大丈夫?」に対処する. 薬局. 南山堂. 2023. 59-65.
- 報告書**
1. 要伸也: 厚生労働科学研究費補助金事業令和3年度研究報告書. 研究課題「慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究」(研究代表者: 要伸也).
 2. 要伸也 (監修, 分担執筆): 多職種連携マニュアル. 研究課題「慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究」(研究代表者: 要伸也).
 3. 駒形嘉紀: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究班(令和4年度)分担研究報告書.
- その他**
1. 要伸也 監修: 血小板減少, 溶血性貧血を伴う急性腎障害(AKI)の中でTMAを見逃していませんか. アレクシオンファーマ合同会社リーフレット. 2022年5月作成.
 2. 要伸也: 巻頭言: 日本腎臓病協会が進める人材育成～腎臓病療養指導士の育成について～. JKAニューズレター第13号. 日本腎臓病協会. 2023年2月発行.
 3. 要伸也: 追悼 長澤俊彦先生をしのんで. 腎と透析. Vol.94 (2) No.2. p183-185. 2023年2月.
- 脳神経内科学教室**
- 講演**
1. 徳重真一: 痛みの臨床 ある内科医が考えていること. 三鷹市薬剤師会学術講演会. 東京・オンライン. 2022年4月20日.
 2. 徳重真一, 寺田さとみ, 濱田雅, 千葉厚郎, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: パーキンソン病が時間的展望に及ぼす影響. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月19日.

3. Higashihara M, Yamazaki H, Izumi Y, Oishi C, Chiba T, Nodera H, Murayama S, Kaji R, Sonoo M: Far-field potential of CMAP (FFP-CMAP) as a reliable neurophysiological marker in ALS. 第63回日本神経学会総会. 東京. 2022年5月19日.
4. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 特異的吸着剤の作製を目的としたMAG抗体が認識するエピトープの解析. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年05月20日.
5. 大石知瑞子, 濱田雄一, 向井泰司, 高橋和沙, 千葉厚郎, 園生雅弘: 三角筋の複合筋活動電位記録時の基準電極はどこに設置すべきか?. 第63回日本神経学会総会. 東京. 2022年5月21日.
6. 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: COVID-19感染症に関連した神経障害と糖脂質抗体. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年05月21日.
7. 吉崎沙織, 澁谷裕彦, 上月直樹, 茂呂直紀, 内堀歩, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 最後野症候群で初発し, 髄液でのみAQP4交代陽性であった視神経脊髄炎関連疾患の56歳女性例. 第241回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年6月4日.
8. 中島昌典: 非運動症状を踏まえた早期Parkinson病の治療経験. 脳神経内科 Expert Meeting. 東京・オンライン. 2022年06月22日.
9. 市川弥生子: 脳神経系の遺伝学的検査. 第78回三鷹ニューロ研究会. 東京. 2022年6月30日.
10. 寺尾安生, 浅原有揮, 宮崎泰, 徳重真一, 寺田さとみ, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎, 宇川義一, 須田真千子, 向井泰司, 宮川晋治, 鈴木正彦: パーキンソンニズムにおける表情形成-疾患ごとの違い-. 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres. 東京. 2022年7月21日.
11. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: Saccadeの加速・減速に対する脳深部刺激療法の影響. 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres. 東京. 2022年7月22日.
12. Oishi C, Hamada Y, Mukai T, Takahashi K, Chiba A, Sonoo M: Where to place the reference electrode for recording the compound muscle action potential of the Deltoid muscle?. 32st International Congress of Clinical Neurophysiology. Switzerland. September 7th. 2022.
13. 北尾英毅, 茂呂直紀, 上月直樹, 澁谷裕彦, 徳重真一, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 再発性Guillain-Barré症候群の74歳女性例: 症例提示と当科における再発性Guillain-Barré症候群の検討. 第242回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年9月3日.
14. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 特異的吸着剤の作製を目的としたMAG抗体が認識するエピトープの解析. 第33回日本末梢神経学会学術集会. 東京. 2022年09月10日.
15. 内堀歩, 千葉厚郎: COVID-19感染症後神経障害とガングリオン抗体. 第33回日本末梢神経学会学術集会. 東京. 2022年09月10日.
16. 北尾英毅, 茂呂直紀, 上月直樹, 澁谷裕彦, 徳重真一, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 再発性Guillain-Barré症候群の74歳女性例: 症例提示と、当科における再発性Guillain-Barré症候群の検討. 第79回三鷹ニューロ研究会. 東京. 2022年9月15日.
17. 中島昌典, 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: 特異的吸着剤の作製を目的としたMAG抗体が認識するエピトープの解析. 第34回日本神経免疫学会学術集会. 長崎. 2022年10月20日.
18. 内堀歩, 千葉厚郎: COVID-19感染症後神経障害とガングリオン抗体GM3抗体. 第34回日本神経免疫学会学術集会. 長崎. 2022年10月20日.
19. Higashihara M, Yamazaki H, Izumi Y, Oishi C, Chiba T, Nodera H, Murayama S, Kaji R, Sonoo M: Clinical utility of far-field potential of CMAP (FFP-CMAP) as a neurophysiological marker in ALS. 32st International Congress of Clinical Neurophysiology. Switzerland. September 7th. 2022.
20. 徳重真一: MS治療中に肝障害をきたした1例. 関東Area Network Conference. 東京・オンライン. 2022年11月17日.
21. 菊地茉莉, 市川弥生子, 小倉航, 滝智彦, 大塚弘毅, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明: 当院の遺伝子診療センター開設に伴う遺伝学的検査の体制構築. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 2022年11月17日-11月20日.
22. 徳重真一: 眼球運動から見たパーキンソン病の姿. 第13回ニューロフォーラム東京. 東京・オンライン. 2022年11月18日.
23. 向井泰司, 神林隆道, 高橋和沙, 田村暁子, 大石知瑞子, 園生雅弘: 正中神経体性感覚誘発電位のN9成分の形態から腕神経叢遠位部での伝導ブロックが推測できた2症例. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月24日.
24. 徳重真一, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: アルツハイマー病患者における視覚探索中の瞳孔径変化. 第52回日本臨床神経生理学学会学術大会. 京都・オンライン. 2022年11月24日-26日.
25. 濱田雄一, 田村暁子, 大石知瑞子, 園生雅弘: 脛骨神経刺激体性感覚誘発電位で, 腰部記録電極部位のずれによりN21電位が消失した1例. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月24日.
26. 千葉隆司, 北國圭一, 神林隆道, 大石知瑞子, 園生雅弘: Sensory CIDPの脛骨神経SEPの特徴. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月24日.
27. 神林隆道, 小川剛, 伊藤達哉, 北國圭一, 大石知瑞子, 畑中裕己, 園生雅弘: 視神経脊髄炎と多発性硬化症の鑑別における脛骨神経SEPの有用性の検討. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月25日.
28. 大石知瑞子, 三浦孝顕, 濱田雄一, 千葉厚郎, 園生雅弘: 脛骨神経刺激体性感覚誘発電位において, N21電位を記録するための探査電極部位はどこが最も適切か?. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月25日.
29. 東原真奈, 山崎博輝, 和泉唯信, 大石知瑞子, 野寺裕之, 村山繁雄, 梶龍兒, 園生雅弘: 遠隔電場電位CMAPはALSにおける信頼性の高い電気生理マーカーである. 第52回日本臨床神経生理学学会. 京都. 2022年11月25日.
30. 白鳥嵩之, 所澤任修, 上月直樹, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 免疫療法のみで浸潤性胸腺腫の退縮を認めた, Kv1.4抗体陽性のAChR抗体陽性重症筋無力症の65歳女性例. 第243回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年12月3日.
31. 上月直樹, 茂呂直紀, 北尾英毅, 白鳥嵩之, 中島昌典, 小野田凌, 今井大也, 徳重真一, 内堀歩, 市川弥生子,

千葉厚郎：血流感染を介して口腔連鎖球菌（Streptococcus anginosus group）による多発脳膿瘍を呈した65歳男性例。第80回三鷹ニューロ研究会。東京。2023年02月02日。

32. 大石知瑞子, 三浦孝顕, 濱田雄一, 千葉厚郎, 園生雅弘：脛骨神経刺激体性感覚誘発電位において, N21電位を記録するための探查電極部位はどこが最も適切か?。第44回日本脊髄機能診断学会。奈良。2023年2月4日。
33. 平山健次, 澁谷裕彦, 徳重真一, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 宮崎泰, 千葉厚郎：抗甲状腺抗体陽性で経静脈的免疫グロブリン療法（IVIg）が奏功したオプソクロオヌス・ミオクロオヌス症候群の30歳男性例。第244回日本神経学会関東・甲信越地方会。東京・オンライン。2023年3月4日。
34. 徳重真一：書字の視線計測。日本認知心理学会神経心理学部会第1回対面研究会。東京。2023年3月4日。
35. 中島昌典：医師の立場からみた入院から在宅までの実際。東京都医療ソーシャルワーカー協会第7ブロック勉強会。東京・オンライン。2023年03月17日。

論文

1. Tokushige SI^{1,2}, Matsumoto H³, Matsuda SI⁴, Inomata-Terada S⁵, Kotsuki N², Hamada M¹, Tsuji S^{1,6}, Ugawa Y⁷, Terao Y^{1,5}(¹Department of Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Neurology, Mitsui Memorial Hospital, ⁴Department of Neurology, NTT Medical Center Tokyo, ⁵Department of Medical Physiology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Institute of Medical Genomics, International University of Health and Welfare, ⁷Department of Human Neurophysiology, Fukushima Medical University): Early detection of cognitive decline in Alzheimer's disease using eye tracking. *Front Aging Neurosci.* 15. 1123456. 2023.
2. Terao Y^{1,2}, Tokushige SI^{2,3}, Inomata-Terada S^{1,2}, Fukuda H⁴, Yugeta A², Ugawa Y⁵(¹Department of Medical Physiology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Neurology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ³Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Segawa Memorial Neurological Clinic for Children, ⁵Department of Human Neurophysiology, School of Medicine, Fukushima Medical University): Deciphering the saccade velocity profile of progressive supranuclear palsy: A sign of latent cerebellar/brainstem dysfunction? *Clin Neurophysiol.* 141. 147-159. 2022.
3. 大石知瑞子¹, 園生雅弘² (杏林大学附属病院脳神経内科, ²帝京大学附属病院科)：呼吸器内科医が関わる神経筋疾患のreview 神経内科医の視点から。呼吸器ジャーナル。70巻(4)。599-602。2022。
4. 西田勝也, 坂下建人, 内堀歩, 千葉厚郎, 二村直伸：COVID-19の感染性期間に発症したGuillain-Barré症候群の1例。臨床神経学。62巻4号。p.293-297。2022。
5. 吉岡暁, 門前達哉, 久保雄器, 河野優斗, 千葉厚郎, 内堀歩：COVID-19感染症後に発症したGuillain-Barre症候群の2症例。NEUROINFECTION。27巻1号。p.154-158。2022。

6. 内堀歩, 千葉厚郎：【免疫性神経疾患(第2版)-基礎・臨床の最新知見】末梢神経脱髄疾患 フィッシャー症候群。日本臨床。80巻増刊5免疫性神経疾患。Page241-245。2022。
7. 井関真理, 中山博輝, 渡邊睦房, 内堀歩, 千葉厚郎, 水谷真之：COVID-19ワクチン接種後に多発ニューロパチーを来した43歳女性例。臨床神経学。62巻7号。p.558-562。2022。
8. 藤井勇基, 神林隆道, 小林俊輔, 内堀歩, 千葉厚郎, 園生雅弘：Finger drop variantの臨床像を呈したギラン・バレー症候群の1例。臨床神経学。62巻10号。p.810-813。2022。

著書

1. 内堀歩, 千葉厚郎(分担執筆)：第II編 第3章末梢神経障害の臨床①-診断と治療総論 末梢神経障害の診断ステップ・3脳脊髄液検査。末梢神経障害。神田隆編集。医学書院。2022。55-58。

循環器内科学教室

講演

学会(国内)

1. 井坂葵, 古谷充文, 南島俊徳, 西智子, 福嶋真由美, 伊藤準之助, 坂田好美：当院における11例の心臓粘液腫の特徴。日本心エコー図学会第33回学術集会。米子。2022年4月10日。
2. 奥田奈央, 勝目有美, 池脇宏嗣, 野々口紀子, 南島俊徳, 遠藤英仁, 河野隆志, 坂田好美, 窪田博, 副島京子：中咽頭転移で発見され感染性心内膜炎に類似した臨床経過を呈した心臓原発肉腫の一例。内科学会総会 研修医ことはじめ。2022年4月11日。
3. 山崎博之：NIRS-IVUSにて脂質の含有が疑われた高度石灰化病変に対してカッティングバルーンで良好な拡張が得られた狭心症患者の一例。第59回CVIT関東甲信越地方会。2022年5月7日。
4. 小山幸平：Vulnerable plaqueを診るIVUS (NIRS)で診る。第32回日本心血管画像動態学会。東京。2022年5月20日。
5. 岡本陽, 小山幸平, 若林典弘, 三浦佑介, 新名良広, 三浦陽平, 田島幸佳, 福士圭, 舟橋紗耶華, 山崎博之, 斉藤竜平, 金剛寺謙, 副島京子：NIRS-IVUSで特徴的な画像所見を示すIgG4関連疾患に合併した冠動脈狭窄の一例。東京。第264回日本循環器学会関東甲信越地方会。2022年6月4日。
6. 副島京子：不整脈医がLVAD適応を考える時。Working with Arrhythmia Cardiac Surgeons in Era of Catheter Ablation。第68回日本不整脈心電学会学術大会。横浜。2022年6月8日。
7. 勝目有美, 上田明子, 池脇宏嗣, 毛利崇人, 磯谷亮太, 田代身佳, 野々口紀子, 星田京子, 富樫郁子, 松尾征一郎, 佐藤俊明, 萩原陽, 前田明子, 副島京子：Safety of Catheter Ablation using Half-Normal Saline Irrigant for Ventricular Arrhythmias。第68回日本不整脈心電学会学術大会。横浜。2022年6月8日。
8. 勝目有美：Women in EP 悩ましい症例を考える。第68回日本不整脈心電学会学術大会。横浜。2022年6月8日。
9. 松尾征一郎：心房細動アブレーション単独での有効性を目指すには。第68回日本不整脈心電学会学術大会。横浜。2022年6月9日。

10. 清水大貴, 合田あゆみ, 田代祥一, 飛田和基, 河野隆志, 伊波巧, 菊池華子, 竹内かおり, 仲悠太郎, 山田深, 副島京子: 肺高血圧症患者における体組成と運動耐容能の関連: 横断研究. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 宜野湾市. 2022年6月11日.
11. 仲悠太郎, 清水大貴, 合田あゆみ, 飛田和基, 河野隆志, 伊波巧, 菊池華子, 竹内かおり, 田代祥一, 山田深, 副島京子: バルーン肺動脈形成術前後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における体組成と身体機能の改善. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 宜野湾市. 2022年6月11日.
12. 野々口紀子: 循環器領域女性医師のキャリア継続のために: 現状と課題. 第144回日本循環器学会北陸地方会日循北陸地方会金沢. 2022年6月25日.
13. 飛田和基, 増田桃子, 安部ちひろ, 合田あゆみ, 千木良寛子, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 河野隆志: 入院中の適切な活動度確保と退院後の治療目標設定-肺高血圧症チーム医療における理学療法士の役割-. 第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京. 2022年7月2日.
14. 仲悠太郎, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 佐藤徹: 慢性肺血栓塞栓症に対する新たな治療アルゴリズムの提案. 第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京. 2022年7月2日.
15. 清水大貴, 合田あゆみ, 田代祥一, 飛田和基, 河野隆志, 伊波巧, 菊池華子, 竹内かおり, 仲悠太郎, 清水和敬, 山田深, 副島京子: 肺高血圧症患者における運動耐容能および下肢機能低下を規定する因子の探索. 第47回日本運動療法学会学術集会. 東京. 2022年7月2日.
16. 伊波巧: BPA中の多発肺出血に対するトラブルシューティング. 第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 東京. 2022年7月3日.
17. 舟橋紗耶華: Effects of "Acute Coronary Syndrome Lipid Management Protocol" on Lipid Management at Kyorin University. 第30回日本心血管インターベンション治療学会. 横浜. 2022年7月22日.
18. 舟橋紗耶華: 家族性高コレステロール血症におけるpolyvascular diseaseの臨床像と治療介入の可能性. 第54回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 久留米. 2022年7月24日.
19. 西竹美緒, 菊池華子, 合田あゆみ, 竹内かおり, 伊波巧, 河野隆志, 關里和, 川村直弘, 小野澤志郎, 副島京子: 先天性門脈静脈短絡を合併した肺動脈性肺高血圧症の一例. 第265回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年9月3日.
20. 玉城航平, 毛利崇人, 佐藤俊明, 池脇宏嗣, 勝目有美, 磯谷亮太, 田代身佳, 野々口紀子, 星田京子, 富樫郁子, 上田明子, 松尾征一郎, 副島京子: 無痛性運動誘発性多枝冠攣縮に伴う心室細動蘇生後の一例. 第265回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年9月3日.
21. 坂田好美, 伊藤準之助, 井坂葵, 西智子, 南島俊徳, 河野隆志, 副島京子, 岸野智則: 運動負荷心エコーの実践的アプローチ, エルゴメーター運動負荷心エコーによる心不全患者の運動誘発性肺高血圧, 心予備能および予後についての検討. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
22. 知識俊樹, 長友祐司, 佐地真育, 武井眞, 合田あゆみ, 河野隆志, 中埜信太郎, 西畑庸介, 池上幸憲, 庄司聡, 白石泰之, 香坂俊, 足立健, 吉川勉: 急性非代償性心不全における血糖調節不全と長期予後との関連. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
23. 吉野優一, 竹内真介, 新名良広, 南島俊徳, 合田あゆみ, 岸本暢将, 藤原正親, 副島京子: 河野隆志: 眼筋, 呼吸筋の筋炎を合併した急性心筋炎の1例. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
24. 川久保裕美子, 白石泰之, 中丸遼, 河野隆志, 長友祐司, 佐地真育, 武井眞, 坂本宗久, 中埜信太郎, 福田恵一, 香坂俊, 吉川勉: 急性心不全入院患者における増悪因子の頻度と院内予後との関連: WET-HF2 Registryからの報告. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
25. 舟橋紗耶華, 河野隆志, 伊藤準之助, 千木良寛子, 合田あゆみ, 副島京子: 包括的高度慢性下肢虚血におけるアドバンス・ケア・プランニングの導入について考える. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月24日.
26. 北方博規, 河野隆志, 香坂俊, 中野直美, 関根乙矢, 白石泰之, 岸野喜一, 勝俣良紀, 湯浅慎介, 福田恵一: 終末期医療を考える: アドバンス・ケア・プランニングの導入における現状と課題 心不全患者でのアドバンス・ケア・プランニング導入における社会的孤立の重要性. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
27. 坂田好美, 伊藤準之助, 井坂葵, 西智子, 南島隆志, 河野隆志, 副島京子, 岸野智則: エルゴメーター運動負荷心エコーによる心不全患者の心予備能および予後評価についての検討. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
28. 舟橋紗耶華: 包括的高度慢性下肢虚血におけるアドバンス・ケア・プランニングの導入について考える. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月24日.
29. 上田和孝, 大滝裕香, 伊藤薫, 上原雅恵, 野村征太郎, 安達裕助, 吉野秀朗, 井口信雄, 小室一成, 山本一博: 急性大動脈解離の診療の質向上を目指した新たな解析法の確立. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月24日.
30. 川村陽太, 三浦陽平, 仲悠太郎, 新名良広, 舟橋紗耶華, 若林典弘, 山崎博之, 斉藤竜平, 小山幸平, 副島京子: IgG4関連疾患の治療過程で冠動脈瘤の増悪と虚血性心疾患を起こした症例. CVIT関東甲信越地方会. 東京. 2022年10月15日.
31. 中田千穂, 三浦佑介, 仲悠太郎, 新名良広, 三浦陽平, 舟橋紗耶華, 若林典弘, 山崎博之, 斉藤竜平, 小山幸平, 副島京子: HFrEFを併発した多発冠動脈狭窄症例に対して光干渉断層法が治療方針決定に有用であった一例. CVIT関東甲信越地方会. 東京. 2022年10月15日.
32. 浦田翔一, 三浦陽平, 永松佑基, 新名良広, 舟橋紗耶華, 若林典弘, 山崎博之, 斉藤竜平, 小山幸平, 副島京子: ST上昇型心筋梗塞に対して経皮的冠動脈形成術を施行し急性ステント血栓症をきたした一例. CVIT関東甲信越地方会. 東京. 2022年10月15日.
33. 河野隆志, 香坂俊, 合田あゆみ, 白石泰之, 泉圭一, 佐地真育, 長友祐司, 吉川勉: 低血圧合併心不全における従来ガイドライン推奨薬物治療の役割. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月21日.
34. 合田あゆみ, 峯岸祥人, 千木良寛子, 竹内真介, 飯野泰之, 濱野繁, 小沼健人, 中村英慎, 飛田和基, 副島京子, 河野隆志, 窪田博: 補助人工心臓管理施設VADチームで挑むShared-Care. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月21日.
35. 近藤彩春, 千木良寛子, 伊藤準之助, 合田あゆみ, 河野隆志: IPOSによる緩和ケアニーズのチーム内共有

- が有効であったステージD心不全の1例. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月21日.
36. Jimba T, Kodera S, Kohsaka S, Harada K, Shiraishi Y, Matsushita K, Nakano H, Kohno T, Yamamoto T, Takayama M : Forecasting Acute Heart Failure Admissions:Development of Deep Learning Prediction Model Incorporating the Climate Information. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月21日.
 37. Chishiki T, Nagatomo Y, Saji M, Takei M, Goda A, Kohno T, Nakano S, Nishihata Y, Ikegami Y, Shoji S, Shiraishi Y, Kohsaka S, Adachi T, Yoshikawa T : Association of blood glucose dysregulation with long-term prognosis in acute decompensated heart failure. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月21日.
 38. 河野隆志, 千木良寛子, 合田あゆみ, 増田桃子, 伊藤準之助, 竹内真介, 北方博規, 副島京子: 緩和ケアにおける心理社会的問題: 従来型心不全ケアとの融合. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月22日.
 39. 中野直美, 北方博規, 香坂俊, 白石泰之, 川久保裕美子, 志村千尋, 岸野喜一, 勝俣良紀, 猪原拓, 湯浅慎介, 福田恵一, 河野隆志: アドバンス・ケア・プランニングに対する心不全患者の視点-Annual Reviewの結果を踏まえて. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月22日.
 40. 増田桃子, 飛田和基, 千木良寛子, 近藤彩春, 合田あゆみ, 河野隆志: 心不全ステージB患者の心不全や有酸素運動に対する認識に関する横断的研究. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月22日.
 41. 千木良寛子, 合田あゆみ, 飛田和基, 増田桃子, 高橋英里華, 近藤彩春, 竹内真介, 前田明子, 副島京子, 河野隆志: 患者視点の情報をチームで共有して心不全患者の就労を支援するチーム治療の現状と未来に向けた工夫. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月22日.
 42. 前田明子, 野々口紀子, 星田京子, 富樫郁子, 河野隆志, 佐藤俊明, 副島京子: 診療看護師(NP)によるICD植込み患者のトータルマネジメント~終末期における除細動機能停止~. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 43. 増田桃子, 飛田和基, 安部ちひろ, 千木良寛子, 近藤彩春, 高橋英里華, 合田あゆみ, 河野隆志: 心不全療養指導士を取得した理学療法士が実践する心不全予防・啓発. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 44. 長友祐司, 弓田悠介, 武井眞, 佐地真育, 合田あゆみ, 河野隆志, 中埜信太郎, 西畑庸介, 池上幸憲, 白石泰之, 香坂俊, 足立健, 吉川勉: 個別化目標心拍数の設定が左室駆出率の低下した急性心不全の予後改善に寄与する可能性. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 45. Hashimoto S, Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Shiraishi Y, Kawakubo Y, Nakano N, Shimura Y, Katsumata Y, Inohara T, Yuasa S, Fukuda K : Patient Perspectives on Self-Care Behavior during Hospitalization and Actual Performance One-year After Discharge in Heart Failure. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 46. Watabe K, Goda A, Fukushi K, Takeuchi S, Minegishi S, Kubota H, Kohno T, Soejima K: A case of cardiogenic shock due to atrial tachycardia requiring extracorporeal leftventricular assist device support. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 47. Ohata T, Niimi N, Shiraishi Y, Nakatsu F, Iekushi K, Kohno T, Nagatomo Y, Takei M, Ono T, Sakamoto M, Nakano S, Fukuda K, Kohsaka S, Yoshikawa T : In-Hospital Up-Titration of Guideline-Based Medications and Outcome in Acute Heart Failure Patients:An Analysis from WET-HF Registry in japan. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良. 2022年10月23日.
 48. 副島京子: 心外膜アブレーション(Brugada症候群を含む). 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2022. 新潟. 2022年11月24日-26日.
 49. 板橋鴻司, 南島俊徳, 毛利崇人, 西智子, 仲悠太郎, 三浦陽平, 稲葉雄亮, 若林典弘, 小山幸平, 坂田好美, 河野隆志, 副島京子: TAVI中にショック状態を呈した重症僧帽弁閉鎖不全症例. 第266回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年12月10日.
 50. Jimba T, Kohsaka S, Yamasaki M, Otsuka T, Harada K, Shiraishi Y, Koba S, Takei M, Kohno T, Matsushita K, Miyazaki T, Kodera S, Tsukamoto S, Iida K, Shindo A, Kitano D, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M : Association of ambient temperature and acute heart failure with preserved and reduced ejection fraction. ESC Heart Fail. 2022 Epub 2022 Jun 19. 第42回東京CCU研究会 高野賞 受賞記念講演. 東京. 2022年12月10日.
 51. 副島京子: Micra Standard of Care リードレスペースメーカー: 患者への恩恵. 日本不整脈心電学会・第3回関東甲信越支部地方会. 甲府. 2023年1月28日.
 52. 舟橋紗耶華, 河野隆志, 伊藤準之助, 千木良寛子, 合田あゆみ, 副島京子: 包括的高度慢性下肢虚血におけるアドバンス・ケア・プランニングの導入について考える. 第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会. 奈良. 2023年2月11日.
 53. 副島京子: リードレスペースメーカー. 第15回植込みデバイス関連冬季大会. 仙台. 2023年2月24日-26日.
 54. 古田英輝, 若林典弘, 小山幸平, 三浦佑介, 仲悠太郎, 新名良広, 三浦陽平, 福士圭, 舟橋紗耶華, 山崎博之, 齊藤竜平, 副島京子: 冠動脈ステント留置後に冠動脈瘤を形成したIgG4関連冠動脈周囲炎の一例. 第267回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京. 2023年2月25日.
 55. Koyama K : Intracoronary Imaging: What's New NIRS IVUS: Current Status and Future Direction. (APSC-JCS Joint Symposium) : 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月9日.
 56. 河野隆志: 「診療の質の評価企画」報告会ガイドライン部会. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月10日.
 57. Shiraishi Y, Nakamaru R, Kohno T, Nagatomo Y, Saji M, Takei M, Sakamoto M, Nakano S, Fukuda K, Kohsaka S, Yoshikawa T : Precipitating Factors and Short- and Long-term Outcomes of Acute Heart Failure. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月10日.
 58. 野々口紀子, 池脇宏嗣, 毛利崇人, 勝目有美, 田代身佳, 磯谷亮太, 星田京子, 富樫郁子, 合田あゆみ, 上田明子, 松尾征一郎, 佐藤俊明, 河野隆志, 西村邦宏, 藤田伸, 副島京子: Health Management by Wristwatch-type Pulse Wave Monitor (PWM): From Measurements of Daily Activities to

- Detection of Atrial Fibrillation. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月10日.
59. Kanazawa Y, Goda A, Takeuchi S, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Kohno T: Exercise Tolerance, Right Ventricular Function and Pulmonary Diffusion Capacity in SSc Patients with Exercise Pulmonary Hypertension. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月10日.
 60. 副島京子: リードレスペースメーカーの今を知る. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 61. Inami T, Kohno T, Nagamatsu Y, Naka Y, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Soejima, Satoh T: Chronic Thromboembolic Pulmonary Disease Treatment Based on Cardiopulmonary Exercise Test with a Right Heart Catheterization. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 62. 竹内真介, 河野隆志, 合田あゆみ, 白石泰之, 北村光信, 長友祐司, 武井眞, 中埜信太郎, 副島京子, 香坂俊, 吉川勉: Renin-angiotensin Inhibitors for Mild-to-moderate Chronic Kidney Disease Complicated with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Patients. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 63. 井合渉, 川上崇史, 木村舞, 河野隆志, 福田恵一: Efficacy and Safety of Balloon Pulmonary Angioplasty for Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension and Severe Right Heart Failure. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 64. 坂本勇斗, 飛田和基, 合田あゆみ, 田代祥一, 河野隆志, 伊波巧, 山田深, 副島京子: バルーン肺動脈形成術後の慢性血栓性肺高血圧症患者的長期的な運動耐容能およびその変化に関連する因子の検討. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 65. 池脇宏嗣: The comparison of left atrial appendage filling defect between supine and prone-position contrast computed tomography in patients with atrial fibrillation. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月11日.
 66. 副島京子: Neuromodulationによる循環器病治療最前線. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 67. Sakata K, Ito J, Isaka A, Minamishima T, Furuya M, Nishi T, Soejima K, Kishino T: Evaluation of Multi-chamber Myocardial Dysfunction by Three-dimensional Speckle-tracking Echocardiography in Patients with Cardiac Amyloidosis. The 87th Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society. Fukuoka. 12 March. 2023.
 68. Ito J, Sakata K, Isaka A, Nishi T, Fukushima M, Minamishima T, Goda A, Kohno T, Kyoko Soejima K: Evaluation of Exercise-induced Pulmonary Hypertension and Prognosis Using Ergometer Stress Echocardiography in Patients with HFpEF and HFrEF. The 87th Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society. Fukuoka. 2023年3月12日.
 69. Isaka A, Sakata K, Ito J, Nishi T, Fukushima M, Goda A, Kohno T, Soejima K: Evaluation of Left Ventricular Diastolic Dysfunction Using Diastolic Stress Echocardiography and Cardiopulmonary Exercise Testing in Patients with Heart Failure. The 87th Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society. Fukuoka. 2023年3月12日.
 70. 高橋寿由樹, 吉野秀朗, 他: Issues on Patient Transfer and Risk Assessment: Insights from Acute Aortic Dissection Registry Data in Tokyo. 第86回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 71. 坏宏一, 吉野秀朗, 他: Clinical Features of 570 Patients with Ruptured Aortic Aneurysm after Emergency Admission: Analyses of the Tokyo Acute Aortic Super-network Database. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 72. 舟橋紗耶華, 合田あゆみ, 飛田和基, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 河野隆志, 副島京子: Bioelectrical Impedance Analysis Derived-Phase Angle is Related with Exercise Tolerance in Patients with Pulmonary Hypertension患者視点に基づいた治療目標の検討. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 73. 舟橋紗耶華: Gender-related Differences in Circulating Lipoprotein (a) Associated with Atherosclerosis Cardiovascular Events in Severe Heterozygous Familial Hypercholesterolemia. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 74. 飛田和基, 坂本勇斗, 竹内かおり, 菊池華子, 伊藤準之助, 伊波巧, 合田あゆみ, 副島京子, 河野隆志: 患者視点に基づいた治療目標の検討. 87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 75. Izumi K, Kohno T, Goda A, Takeuchi S, Shiraishi Y, Nagatomo Y, Kitamura M, Takei M, Sakamoto M, Mizuno A, Nakano S, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa S: Impact of Barthel Index on Home Discharge and Long-term Outcomes in Patients Hospitalized with Heart Failure Oral Presentation 59 HF Clinical Non-pharmacology. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
 76. Kawai A, Nagatomo Y, Saji M, Takei M, Goda A, Kohno T, Nakano S, Nishihata Y, Ikegami Y, Shoji S, Shiraishi Y, Kohsaka K, Yoshikawa T: Sex-Related Differences in Long-term Outcome across the Spectrum of Left Ventricular Ejection Fraction in Patients with Acute Heart Failure. 第87日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月12日.
- 学会(国際)
1. Soejima K: Leadless Pacemaker. Korean Heart Rhythm Society 2022. Online. June 24th, 2022.
 2. Soejima K: Catheter Ablation of Scar-Related VT. Korean Heart Rhythm Society 2022. Online. June 24th, 2022.
 3. Naka Y, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K: Prevalence and implications of exercise pulmonary hypertension in chronic thromboembolic pulmonary disease. European Society of Cardiology Congress. Spain. August 26th, 2022.
 4. Funabashi S: The effect of achieving LDL-C <1.8 mmol/L to prevent the first atherosclerotic cardiovascular events in the primary prevention settings of severe heterozygous familial hypercholesterolemia. ESC Congress 2022. Spain. August 29th, 2022.
 5. Soejima K: Ventricular Tachycardia-Ablation in Non-Ischemic Cardiomyopathy. 15th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2022. Singapore. November 18th, 2022.

6. Soejima K : Advanced Ablation with HPSD and Optimized AF Workflow. 15th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2022. Singapore. November 19th, 2022.
7. Soejima K: Accessing and Navigating Safely, When to consider going Epicardially for Ablation. 15th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2022 . Singapore. November 19th, 2022.
8. Soejima K: Neuromodulation for VT. Taiwan Heart Rhythm Society 2023. Chinese Taipei. March 19th, 2023.
9. Soejima K : VT ablation associated with structural heart disease. Taiwan Heart Rhythm Society 2023. Chinese Taipei. March 19th, 2023.

研究会・講演会

1. 野々口紀子：心電図。三鷹市生涯教育研究会。オンライン。2022年4月1日。
2. 副島京子：社会的環境変化を越した医療DX推進への期待と循環器領域でのデジタル医療の可能性。e-That WEB講演会。オンライン。2022年4月12日。
3. 河野隆志：心不全薬物治療 up to date～高血圧治療の最近のEBMも踏まえて～。狛江市医師会学術講演会。東京。2022年4月12日。
4. 副島京子：VTアブレーションUPDATE。第2回筑後エリア 循環器疾患スキルアップセミナー。オンライン。2022年4月20日。
5. 副島京子：リードレスペースメーカーの最新知見。エリキュース インターネット講演会。オンライン。2022年4月22日。
6. 松尾征一郎：実地医家の先生と不整脈治療を考える。北多摩循環器WEBセミナー Ver13。オンライン。2022年4月28日。
7. 松尾征一郎：心房細動アブレーション VR. Meet the Expert～THE VIRTUAL REALITY MEETING～。多摩。2022年5月11日。
8. 河野隆志：高血圧治療を循環器内科の立場。心腎から診る高血圧治療。東京・オンライン。2022年5月11日。
9. 副島京子：MicraTM AV Clinical Evidence Update. Global Ground Round APAC. オンライン。Meet the Expert～THE VIRTUAL REALITY MEETING～。多摩。2022年5月12日。
10. 副島京子：ショック作動がメンタルに与える影響とは。Tokyo ICD Conference。オンライン。2022年5月14日。
11. 河野隆志：高血圧から心不全まで-最新治療のアップデート。ARNI Web Seminar高血圧から心不全まで考える会。東京・オンライン。2022年5月16日。
12. 副島京子：エビデンスと中和剤を加味したアブレーション周術期抗凝固療法。Web講演会-私たちが不整脈医を目指した理由-。オンライン。2022年5月18日。
13. 河野隆志：より良い心不全治療を追求する-心房細動の最近の話題も踏まえて。名古屋循環器疾患フォーラム。名古屋・オンライン。2022年5月25日。
14. 河野隆志：SGLT2阻害薬を臨床に活かす。より良い心不全薬物治療を追求する。心不全治療の新展開。東京。2022年5月26日。
15. 副島京子：眼科医のための循環器疾患診断と治療。第12回東京多摩眼科連携セミナー。オンライン。2022年5月28日。
16. 副島京子：リードレスペースメーカー：現状と未来への期待。第264回日本循環器学会 関東甲信越地方会。オンライン。2022年6月4日。
17. 伊波巧：杏林大学でのCTEPH治療の実際。第13回東京肺高血圧症研究会。東京。2022年6月11日。
18. 伊波巧：IPAHの治療：生命予後の改善とQOLの向上を考慮した介入。Adempas Meet the Experts 2022。オンライン。2022年6月12日。
19. 副島京子：院内ワークフローの重要性 遠隔モニタリングをどのように活用するか。デバイス患者のリスク層別化～患者ケア向上と医療スタッフの業務改善～。オンライン。2022年6月17日。
20. 松尾征一郎：脳梗塞の原因が実は心臓？。イトオテルミー講習会。オンライン。2022年6月17日。
21. 副島京子：不整脈治療の魅力。第21回お茶の水ハートリズム研究会。東京。2022年6月18日。
22. 伊波巧：CTEPH治療のUp-to-Date。CTEPH Connect Meeting in Tokai。オンライン。2022年6月18日。
23. 菊池華子：当院での膠原病に伴う肺高血圧症診療。膠原病内科医のための肺高血圧症セミナーin多摩。オンライン。2022年6月21日。
24. 松尾征一郎：心房細動アブレーションの限界。エリキュースインターネットシンポジウム。オンライン。2022年6月23日。
25. 伊波巧：CTEPH治療Up-to-Date。肺高血圧症診療を考える会～円滑な連携を目指して～。オンライン。2022年6月24日。
26. 副島京子：抗不整脈薬の使い方と使い時 実地医科の先生と学ぶ。群馬不整脈懇話会～不整脈薬物治療 基本の『き』～。オンライン。2022年6月28日。
27. Koyama K : A Prospective, Multicenter, Randomized Trial of New Cutting Balloon Versus Conventional Balloon for the Treatment of Severe Calcified Lesion. PREDICTION study Webinar。オンライン。2022年6月30日。
28. 松尾征一郎：心房細動アブレーションの限界。心房細動24時。オンライン。2022年7月1日。
29. 小山幸平：石灰化を制する～石灰化にimagingを生かす～。Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference Lecture Meeting 2022 (TOPIC 2022)。オンライン。2022年7月7日。
30. 小山幸平：PCIにおけるOCTの基本的な活用法。Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference Lecture Meeting 2022(TOPIC 2022)。オンライン。2022年7月9日。
31. 河野隆志：より良い心不全チーム医療を追求する。Heart Failure Team joint Meeting。東京・オンライン。2022年7月13日。
32. 伊波巧：日常生活に潜む肺高血圧症～早期診断の意義と診断のポイント～。PHネットフォーラム。オンライン。2022年7月15日。
33. 河野隆志：最新のエビデンスから最適な心不全薬物治療を考える。Saitama Cardiovascular Conference。川越・オンライン。2022年7月19日。
34. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～早期治療介入とフォローアップ～。CTD-PAH Cross Conference Bridging。オンライン。2022年7月20日。
35. 伊波巧：肺高血圧症診療Up-to-Date。PHカンファレンス2022。山梨心血管画像診療勉強会。オンライン。2022年7月27日。
36. 伊波巧：CTEPH治療のUp-to-Date。第9回群馬肺高血圧症画像研究会。オンライン。2022年8月5日。

37. 竹内真介：突然の心不全発症を繰り返す虚血性心筋症の一例。第2回多摩心不全ネットワーク症例検討会。オンライン。2022年8月20日。
38. 小山幸平：虚血性心疾患薬物療法を考える。北多摩循環器Webセミナー Ver.15。オンライン。2022年8月22日。
39. 副島京子：不整脈治療update。Womens health web seminar。オンライン。2022年8月24日。
40. 河野隆志：循環器疾患における睡眠時無呼吸-高血圧から心不全における治療戦略を考える。ARNI Web Symposium睡眠時無呼吸症候群と高血圧症を考える会。東京・オンライン。2022年8月24日。
41. 伊波巧：BPA for CTEPD without PH。Imaging and Physiology。オンライン。2022年8月26日。
42. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。The 8th Circle of lifestyle related disease。オンライン。2022年9月7日。
43. 河野隆志：心不全を知る・防ぐ・うまく付き合う。杏林大学公開講演会。東京・オンライン。2022年9月7日。
44. 坂田好美：抗がん剤に対する腫瘍循環器診療。Meet the Expert for ET 2022。東京。2022年9月8日。
45. 副島京子：Micraの適応について。Micra 千葉・茨城エリア講演会。オンライン。2022年9月9日。
46. 副島京子：不整脈治療の最前線。第42回“心樹”循環器研修会。オンライン。2022年9月10日。
47. 副島京子：心室頻拍アブレーション「私の知見」。九州カレッジセミナー。福岡。2022年9月16日。
48. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～診療科連携を踏まえて～。肺高血圧症Webセミナー。オンライン。2022年9月16日。
49. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～ESC/ERS 2022ガイドラインを踏まえて～。肺高血圧症診療フォーラムin多摩。オンライン。2022年10月5日。
50. 副島京子：心室頻拍治療のこつ。次世代不整脈エキスパート講座in長野山梨。オンライン。2022年10月1日。
51. 南島俊徳：悩ましい症例の発見と診断。心エコーセミナーIn多摩。調布。2022年10月12日。
52. 小山幸平：当院における高度石灰化病変の治療。Aperta NSE Lesion Prep for Calcification。オンライン。2022年10月12日。
53. 伊波巧：CTEPD WHO-FCIを目指す～右心カテーテル併用心肺運動負荷試験による評価～。CTEPH Clinical Conference Toky。オンライン。2022年10月15日。
54. 副島京子：Micra植込み後の患者様の恩恵について。Micra Webセミナー～データで見る安全性と患者様ベネフィット～。オンライン。2022年10月18日。
55. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～診療科連携を踏まえて～。肺高血圧症診療に火を灯す。オンライン。2022年10月18日。
56. 菊池華子：PH治療のゴールと患者中心の肺高血圧症治療-右心カテ併用運動負荷試験の活用-。PH Seminar《From a Perspective of Women Doctors》。東京。2022年10月29日。
57. 伊波巧：息切れ症状を診たら、これを疑って～肺動脈性肺高血圧症の病態と治療～。Pulmonary Arterial Hypertension Web Seminar。オンライン。2022年10月26日。
58. 伊波巧：肺高血圧症の診断から治療まで～早期発見のポイントと最新の治療戦略～。見逃しているかもしれないPH/PAH。オンライン。2022年11月2日。
59. 副島京子：Micra AVの可能性を考える。RETHINK Micra AV。松本。2022年11月4日。
60. 若林典弘：カテーテルで行う大動脈弁置換術(TAVI)。最新弁膜症治療セミナー。三鷹・オンライン。2022年11月8日。
61. 副島京子：不整脈診断と治療の進歩。第52回仙台臨床心臓電気生理研究会。仙台。2022年11月11日。
62. 伊波巧：肺高血圧症の未来は変えられる～PAHの予後と治療の変化～。Next Generation PH Expert。オンライン。2022年11月11日。
63. 小山幸平：ステント留置後に消化管出血を繰り返した急性冠症候群の一例。Pan-Pacific Angioplasty Conference 22 (PAC 22)。東京。2022年11月12日。
64. 副島京子：より有効で安全な心房細動治療を目指して。心房細動地域連携 Ablation Seminar。オンライン。2022年11月15日。
65. 河野隆志：最新のエビデンスから心不全薬物治療を再考する。ペリキュアボHeart Failure Web Seminar。埼玉・オンライン。2022年11月16日。
66. 伊波巧：CTEPH診療のUp-to-Date～QOL改善を目指した運動負荷試験の役割～。長崎CTEPH講演会。オンライン。2022年11月16日。
67. 竹内真介：循環器内科からみたHFrefEF治療におけるフォシーガのポジショニング。心腎関連症候群symposium。オンライン。2022年11月17日。
68. 小山幸平：第6道場Imaging Diffuse病変Imagingの使い方。Alliance for Revolution Interventional Cardiology Advancement。オンライン。2022年11月18日。
69. 伊波巧：CTEPHガイドライン改定のポイント～セレキシパグの位置付けとCTEPH診療の未来～。ウプトラビWebカンファレンス。オンライン。2022年11月25日。
70. 河野隆志：～Cardio-Renal Benefitsを鑑みたこれからの医療連携～。腎機能と電解質異常を見据えた心不全薬物治療。Scientific Exchange Meeting。東京・オンライン。2022年11月29日。
71. 野々口紀子：心電図。三鷹市生涯研究。オンライン。2022年12月2日。
72. 竹内真介：高尿酸血症と循環器系疾患～実臨床における高尿酸血症の管理日。Meet The Expert 持田製薬。オンライン。2022年12月2日。
73. 小山幸平：虚血性心疾患。診断と治療。ファーマシーセミナー。オンライン。2022年12月6日。
74. 副島京子：進化する心房細動治療最前線。心腎関連学術Webセミナー。浦安。2022年12月7日。
75. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症診療Up-to-Date～ESC/ERS 2022 Guideline改訂ポイント～。アデムバスWebカンファレンス。オンライン。2022年12月7日。
76. 副島京子：デバイス治療の新たな展開。第3回Bunkyo Arrhythmia Conference。東京。2022年12月8日。
77. 伊波巧：肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～注射剤の役割とピットフォール～。PHネットフォーラム。オンライン。2022年12月9日。
78. 河野隆志：心不全における貧血診療を考える。三鷹医師会内科医会学術講演会。東京。2022年12月13日。
79. 河野隆志：～胸痛から考えるファーストタッチ～循環器専門医が診る、息切れと心不全について。東京息切れ会議。東京・オンライン。2022年12月14日。

80. 副島京子：不整脈診断・治療の最前線～当院が目指す医療連携の取組み～。不整脈地域連携WEBセミナー。盛岡。2022年12月19日。
81. 若林典弘：カテーテルで行う弁膜症治療。最新弁膜症治療セミナー。小平・オンライン。2022年12月21日。
82. Koyama K：Clinical advantage of NIRS-IVUS guided PCI. Singapore Live. Singapore. 2023年1月13日。
83. 副島京子：薬剤師に知ってほしい！心房細動の病態と治療。第2回薬剤師のための循環器疾患ウェビナー。オンライン。2023年1月17日。
84. 小山幸平：最新の冠動脈イメージングと脂質管理。バルモディアWEB Conference。オンライン。2023年1月24日。
85. 副島京子：不整脈治療update。多治見不整脈連携の会。オンライン。2023年1月25日。
86. 伊波巧：Exercise PHについて考える。Adempas Special Web Conference。オンライン。2023年2月15日。
87. 小山幸平：Wolverine を用いた石灰化病変治療。3rd Wolverine de Night。オンライン。2023年2月15日。
88. 副島京子：理想の心房細動治療；現状と今後への期待。抗血栓トータルケアシアター。東京。2023年2月17日。
89. 副島京子：不整脈診断・治療の進歩。第115回Current Topics Lecture in Tsukuba。つくば。2023年2月21日。
90. 南島俊徳：実地医科の先生と心エコー所見を考える会。北多摩勉強会。三鷹。2023年2月21日。
91. 河野隆志：より良い心不全チーム医療・緩和ケアを迫及する。県北循環器連携学術講演会。佐世保・オンライン。2023年2月28日。
92. 吉野秀朗：医療機器の進歩・臨床工学技士の活躍。日本臨床工学技士会法人設立20周年記念講演会。オンライン。2023年3月11日。
93. 吉野秀朗，他：今 臨床工学技士がなすべきこと-医師の働き方改革の推進に向けて。日本臨床工学技士会法人設立20周年記念講演会。オンライン。2023年3月11日。
94. 河野隆志：～心不全のさらなる予後改善のために～，心不全診療を併存疾患を踏まえて再考する。ベリキューボWeb Seminar。東京・オンライン。2023年3月28日。
- hospitalized heart failure patients with reduced ejection fraction. *Sci Rep.* 12(1). 8318. 2022.
2. Takahashi T^{1,2}, Yoshino H¹, Akutsu K¹, Shimokawa T¹, Ogino H¹, Kunihara T¹, Usui M¹, Watanabe K¹, Kawata M¹, Masuhara H¹, Yamasaki M¹, Yamamoto T¹, Nagao K¹, Takayama M¹(¹Tokyo CCU Network Scientific Committee, ²Tokyo Saiseikai Central Hospital) : Sex-Related Differences in Clinical Features and In-Hospital Outcomes of Type B Acute Aortic Dissection : A Registry Study. *J Am Heart Assoc.* 11(9). e024149. 2022.
3. Saito R¹, Koyama K¹, Kongoji K¹, Soejima K¹ (¹Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine) : Acute myocardial infarction with simultaneous total occlusion of the left anterior descending artery and right coronary artery successfully treated with percutaneous coronary intervention. *BMC Cardiovasc Disord.* 22(1).206. 2022.
4. Tamura Y¹, Kumamaru H¹, Inami T¹, Matsubara H¹, Hirata KI¹, Tsujino I¹, Suda R¹, Miyata H¹, Nishimura S¹, Sigel B¹, Takano M¹, Tatsumi K¹ (¹Japan Pulmonary hypertension Registry (JAPHR) Network) : Changes in the Characteristics and Initial Treatments of Pulmonary Hypertension Between 2008 and 2020 in Japan *JACC Asia.* 2(3). 273-284. 2022.
5. Tung R^{1,2,3}, Xue Y², Chen M⁴, Jiang C⁵, Shatz DY¹, Besser SA¹, Hu H⁶, Chung FP⁷, Nakahara S⁸, Kim YH⁹, Satomi K, Shen L¹⁰, Liang E¹⁰, Liao H², Gu K⁴, Jiang R⁵, Jiang J⁶, Hori Y⁸, Choi JI⁹, Ueda A¹¹, Komatsu Y¹², Kazawa S¹³, Soejima K¹⁴, Chen SA¹⁵, Nogami A¹², Yao Y¹⁰(PAUSE-SCD Investigators : ¹Pitzer School of Medicine, ²Guangdong Provincial People's Hospital, ³Zhejiang University, ⁴The First Affiliated Hospital of Nanjing Medical University, ⁵Zhejiang University, ⁶Sichuan University, ⁷Taipei Veterans General Hospital, National Yang Ming Chiao Tung University, ⁸Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ⁹Korea University Medical Center, ¹⁰Peking Union Medical College, ¹¹Division of Advanced Arrhythmia Management, ¹²University of Tsukuba, ¹³Tokyo Medical University, ¹⁴Department of Cardiovascular Medicine, ¹⁵Taichung Veterans General Hospital) : First-Line Catheter Ablation of Monomorphic Ventricular Tachycardia in Cardiomyopathy Concurrent With Defibrillator Implantation: The PAUSE-SCD Randomized Trial. *Circulation.* 145(25).1839-1849. 2022.
6. Kozuma K¹, Chikamori T², Hashimoto J³, Honye J⁴, Ikeda T⁵, Ishiwata S⁶, Kato M⁷, Kondo H¹, Matsubara K⁸, Matsumoto K⁹, Matsumoto N¹⁰, Motoyama S¹¹, Obunai K¹², Sakamoto H¹³, Soejima K¹⁴, Suzuki S¹⁵, Abe K¹⁶, Amano H⁵, Hioki H¹, Iimori T¹⁷, Kawai H¹¹, Kosuge H¹¹, Nakama T¹², Suzuki Y¹⁰, Takeda K¹⁸, Ueda A¹⁹, Yamashita T²⁰, Hirao K²¹, Kimura T²², Nagai R²³, Nakamura M²⁴, Shimizu W²⁵, Tamaki N²⁶(Japanese Circulation Society Joint Working Group: ¹Teikyo University Hospital, ²Tokyo Medical University, ³Tokai University School of Medicine, ⁴Kikuna Memorial Hospital, ⁵Toho University Faculty of Medicine, ⁶Hibiya Ishiwata Clinic, ⁷Akita Cerebrospinal and

論文

(英文)

1. Kawakubo Y¹, Shiraishi Y¹, Kohsaka S¹, Kohno T², Goda A², Nagatomo Y³, Nishihata Y⁴, Saji M⁵, Takei M⁶, Ikegami Y⁷, Niimi N¹, Alexander Tarlochan Singh Sandhu⁸, Nakano S⁹, Yoshikawa T⁵, Fukuda K¹(¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ³National Defense Medical College Hospital, ⁴St. Luke's International Hospital, ⁵Sakakibara Heart Institute, ⁶Saiseikai Central Hospital, ⁷National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁸Stanford University, ⁹Saitama Medical University International Medical Center) : Potential association with malnutrition and allocation of combination medical therapies in

- Cardiovascular Center, ⁸Kanazawa University, ⁹Hyogo College of Medicine College Hospital, ¹⁰Nihon University Hospital, ¹¹Fujita Health University, ¹²Tokyo Bay Medical Center, ¹³Juntendo University, ¹⁴ Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Hospital, ¹⁵Totsuka Kyouritsu Daini Hospital, ¹⁶Tokyo Women's Medical University, ¹⁷ Chiba University Hospital, ¹⁸Sakakibara Heart Institute, ¹⁹Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University Hospital, ²⁰Tokai University Hospital, ²¹AOI Universal Hospital, ²²Kyoto University Graduate School of Medicine, ²³ Jichi Medical University, ²⁴Toho University Ohashi Medical Center, ²⁵Nippon Medical School, ²⁶Kyoto Prefectural University of Medicine) : JCS 2021 Guideline on Radiation Safety in Cardiology. *Circ J*.86(7).1148-1203. 2022.
7. Svennberg E¹, Tjong F², Goette A^{3,4}, Akoum N⁵, Di Biase L⁶, Bordachar P⁷, Boriani G⁸, Burri H⁹, Conte G¹⁰, Deharo JC^{11,12}, Deneke T¹³, Drossart I^{14,15}, Duncker D¹⁶, Han JK¹⁷, Heidbuchel H^{18,19}, Jais P²⁰, de Oliveira Figueiredo MJ²¹, Linz D²², Lip GYH²³, Malaczynska-Rajpold K^{24,25}, Márquez M²⁶, Ploem C²⁷, Soejima K²⁸, Stiles MK²⁹, Wierda E³⁰, Vernooij K³¹, Leclercq C³², Meyer C³³, Pisani C³⁴, Pak HN³⁵, Gupta D³⁶, Pürerfellner H³⁷, Crijns HJGM³⁸, Chavez EA^{39,40}, Willems S⁴¹, Waldmann V^{42,43}, Dekker L⁴⁴, Wan E⁴⁵, Kavoor P⁴⁶, Turagam MK⁴⁷, Sinner M⁴⁸(¹Karolinska Institutet, ²University of Amsterdam, ³St. Vincenz Hospital Paderborn, ⁴MAESTRIA Consortium/AFNE, ⁵University of Washington School of Medicine, ⁶Albert Einstein College of Medicine at Montefiore Hospital, ⁷Hopital Haut Leveque, ⁸University of Modena and Reggio Emilia, ⁹University Hospital of Geneva, Geneva, ¹⁰Cardiocentro Ticino Institute, ¹¹Centre Hospitalier Universitaire La Timone, ¹²Aix Marseille Université, C2VN, ¹³Heart Center Bad Neustadt, ¹⁴European Society of Cardiology, ¹⁵ESC Patient Forum, ¹⁶Hannover Heart Rhythm Center, ¹⁷Cardiac Arrhythmia Centers, ¹⁸Antwerp University Hospital, ¹⁹Antwerp University, ²⁰Bordeaux University Hospital, ²¹University of Campinas (UNICAMP), ²²Maastricht University Medical Centre and Cardiovascular Research Institute Maastricht, ²³University of Liverpool and Liverpool Heart & Chest Hospital, ²⁴Aalborg University, ²⁵Royal Brompton and Harefield Hospitals, ²⁶Instituto Nacional de Cardiología, ²⁷University of Amsterdam, ²⁸Department of Cardiovascular Medicine ,Kyorin University, ²⁹University of Auckland, ³⁰Dijklander Hospital, ³¹Maastricht University Medical Center, ³²Univ Rennes, ³³Teaching Hospital University of Düsseldorf, ³⁴Heart Institute, ³⁵Yonsei University, ³⁶University of Liverpool, ³⁷Ordensklinikum Linz Elisabethinen, ³⁸University of Maastricht, ³⁹Hospital General de Agudos Dr. Cosme Argerich, ⁴⁰Hospital Belga, ⁴¹Asklepios St. Geor, ⁴²European Georges Pompidou Hospital, ⁴³European Georges Pompidou Hospital, ⁴⁴Catharina Ziekenhuis Eindhoven, ⁴⁵Columbia University, ⁴⁶Westmead Hospital, ⁴⁷Icahn School of Medicine at Mount Sinai, ⁴⁸Univ. Hospital Munich) : How to use digital devices to detect and manage arrhythmias: an EHRA practical guide. *Europace*. 24(6).979-1005. 2022.
 8. Bressi E^{1,2}, Crawford TC³, Bogun FM³, Gu X³, Ellenbogen KA¹, Chicos AB¹, Roukoz H⁵, Zimetbaum PJ⁶, Kalbfleisch SJ⁷, Murgatroyd FD⁸, Steckman DA⁹, Rosenfeld LE¹⁰, Garlitski AC¹¹, Soejima K¹², Bhan AK¹³, Vedantham V¹⁴, Dickfeld TM¹⁵, De Lurgio DB¹⁶, Platonov PG¹⁷, Zipse MM¹⁸, Nishiuchi S¹⁹, Ortman ML²⁰, Narasimhan C²¹, Patton KK²², Rosenthal DG¹⁴, Mukerji SS²³, Hoogendoorn JC²⁴, Zeppenfeld K²⁴, Sauer WH²⁵, Kron J¹(Cardiac Sarcoidosis Consortium :¹Virginia Commonwealth University, ²Policlinico Casilino, ³University of Michigan Health System, ⁴Northwestern Memorial Hospital Northwestern University, ⁵Medicine University of Minnesota Medical School, ⁶The Ohio State University Wexner Medical Center, ⁷The Ohio State University Wexner Medical Center, ⁸King's College Hospital NHS Foundation Trust, ⁹Albany Medical Center, ¹⁰Yale University School of Medicine, ¹¹Tufts University School of Medicine, ¹²Kyorin University School of Medicine, ¹³Advocate Christ Medical Center, ¹⁴University of California, ¹⁵University of Maryland School of Medicine Baltimore, ¹⁶St. Joseph's Hospital Emory University, ¹⁷Clinical Sciences Lund University, ¹⁸University of Colorado Anschutz Medical Campus, ¹⁹Tenri Hospital Tenri, ²⁰Cooper Medical School of Rowan University, ²¹AIG Hospitals, ²²University of Washington, ²³Memorial Hermann Heart & Vascular Institute, ²⁴Leiden University Medical Center, ²⁵Brigham and Women's Hospital) : Arrhythmia Monitoring and Outcomes in Patients With Cardiac Sarcoidosis: Insights From the Cardiac Sarcoidosis Consortium. *J Am Heart Assoc*. 11(13). e024924. 2022.
 9. Izumi K¹, Inami T¹, Takeuchi K¹, Kikuchi H¹, Goda A¹, Hatano M², Kohno T¹, Sakata K¹, Shibahara J³, Soejima K¹, Satoh T¹ (¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²University of Tokyo Hospital, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Reversible Cardiac Hypertrophy in Pulmonary Arterial Hypertension Treated With High-Dose Epoprostenol. *CJC Open*. 4(9).816-819. 2022.
 10. Shoji S^{1,9}, Kohsaka S¹, Shiraishi Y¹, Kohno T², Sawano M¹, Ikemura N¹, Niimi N¹, Nagatomo Y³, Tanaka D T⁴, Takei M⁵, Ono T⁶, Sakamoto M⁷, Nakano S⁸, Nakamura I⁹, Inoue S⁹, Fukuda K¹, Yoshikawa T¹⁰ (¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ³National Defense Medical College Hospital, ⁴The Jikei University School of Medicine, ⁵Saiseikai Central Hospital, ⁶National Hospital Organization Saitama National Hospital, ⁷National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁸Saitama Medical University International Medical Center, ⁹Hino Municipal Hospital, ¹⁰Sakakibara Heart Institute) : Conventional medical therapy in heart failure patients eligible for the PARADIGM-HF, DAPA-HF, and SHIFT trials. *Int J Cardiol*. 359. 76-83. 2022.

11. Hosokawa K¹, Abe K², Kishimoto J³, Kobayakawa Y³, Todaka K³, Tamura Y⁴, Tatsumi K⁵, Inami T⁶, Ikeda N⁷, Taniguchi Y⁸, Minatsuki S⁹, Murohara T¹⁰, Yasuda S¹¹, Fukuda K¹², Tsutsui H² : Efficacy and safety of edoxaban in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: protocol for a multicentre, randomized, warfarin-controlled, parallel group trial – KABUKI trial. *BMJ Open*. 12(7).e061225. 2022.
12. Takeuchi S¹, Kohno T¹, Goda A¹, Shiraishi Y², Kawana M³, Saji M⁴, Nagatomo Y⁵, Nishihata Y⁶, Takei M⁷, Nakano S⁸, Soejima K¹, Kohsaka S², Yoshikawa T⁴ (¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Hospital, ²Keio University School of Medicine, ³Stanford University, ⁴Sakakibara Heart Institute, ⁵National Defense Medical College, ⁶St. Lukes International Hospital, ⁷Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁸Saitama Medical University) : Multimorbidity, guideline-directed medical therapies, and associated outcomes among hospitalized heart failure patients. *ESC Heart Fail*. 9(4). 2500-2510. 2022.
13. Nonoguchi NM¹, Soejima K¹, Goda A¹, Nishimura K², Onozuka D², Fujita S³, Koyama F³, Takano Y³, Iguchi S⁴, Sato H⁵, Mohri T¹, Katusme Y¹, Tashiro M¹, Hoshida K¹, Miwa Y¹, Togashi I⁶, Ueda A⁶, Sato T⁶, Kohno T¹(¹Division of Cardiovascular Medicine, Kyorin University, ²National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, ³Seiko Epson Corporation, ⁴Nursing Department, Kyorin University Hospital, ⁵Clinical Laboratory Department, Kyorin University Hospital, ⁶Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University) : Accuracy of wristwatch-type photoplethysmography in detecting atrial fibrillation in daily life. *Eur Heart J Digit Health*. 3(3). 455-464. 2022.
14. Funabashi S^{1,2}, Kataoka Y¹, Hori M^{2,3}, Ogura M², Doi T¹, Noguchi T¹, Harada-Shiba² : (¹National Cerebral & Cardiovascular Centre, ²National Cerebral & Cardiovascular Center Research Institute, ³Nagoya University) : Characterization of Polyvascular Disease in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia: Its Association with Circulating Lipoprotein(a) Levels. *J Am Heart Assoc*. 11(16). e025232. 2022.
15. Sugiura K¹, Kohno T^{1,2}, Hayashida K¹, Fujisawa D¹, Kitakata H¹, Nakano N¹, Saito T¹, Hase H¹, Yoshijima N¹, Tsuruta H¹, Itabashi Y^{1,4}, Kohsaka S¹, Fukuda K¹. (¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ³Dokkyo Medical University Saitama Medical Center) : Elderly aortic stenosis patients' perspectives on treatment goals in transcatheter aortic valvular replacement. *ESC Heart Fail*. 9(4). 2695-2702. 2022.
16. Funabashi S¹, Amaki M¹, Yamagata K¹, Izumi C¹ (¹National Cerebral & Cardiovascular Centre) : Incessant non-sustained ventricular tachycardia immediately after MitraClip placement. *Eur Heart J Case Rep*. 6(10). ytac379. 2022.
17. Zeppenfeld K¹, Wijnmaalen AP¹, Ebert M², Baldinger SH³, Berruezo A⁴, Catto V⁵, Vaseghi M⁶, Arya A², Kumar S⁷, de Riva M¹, Deneke T⁸, Gaspar T⁹, Soejima K¹⁰, van Rein N¹, Tedrow UB⁷, Piorkowski C⁶, Shivkumar K⁶, Carbucicchio C⁶, Hindricks G², Stevenson WG.Clinical¹⁸(¹Leiden University Medical Center, ²Heart Center Leipzig at University of Leipzig, ³Bern University Hospital and University of Bern, ⁴Spain Cardiovascular Institute Hospital Clinic, ⁵Centro Cardiologico Monzino, ⁶University of California, ⁷Brigham and Women's Hospital, ⁸Heartcenter Bad Neustadt, ⁹Herzzentrum Dresden, ¹⁰Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University, ¹¹Vanderbilt University Medical Center) : Outcomes in Patients With Dilated Cardiomyopathy and Ventricular Tachycardia. *J Am Coll Cardiol*. 80(11).1045-1056. 2022.
18. Sakamoto H¹, Goda A², Tobita K¹, Takeuchi K², Kikuchi H², Inami T², Tamura Y³, Kohno T², Yamada S¹, Soejima K², Satoh T² (¹Department of Rehabilitation Kyorin University Hospital, ²Department of Cardiovascular Medicine Kyorin University Hospital, ³Pulmonary Hypertension Center International University of Health and Welfare Mita Hospital) : EmPHasis-10 Health-Related Quality of Life and Exercise Capacity in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension After Balloon Angioplast. *J Am Heart Assoc*. 11(17). e026400. 2022.
19. Ito M¹, Maeda D¹, Matsue Y^{1,2}, Shiraishi Y², Dotare T¹, Sunayama T¹, Nogi K³, Takei M³, Ueda T³, Nogi M³, Ishihara S³, Nakada Y³, Kawakami R⁴, Kagiya N¹, Kitai T⁶, Oishi S⁷, Akiyama E⁸, Suzuki S⁹, Yamamoto M¹⁰, Kida K¹¹, Okumura T¹², Nagatomo Y¹³, Kohno T¹⁴, Nakano S¹⁵, Kohsaka S², Yoshikawa T¹⁶, Saito Y^{3,17}, Minamino T. ^{1,18}(¹Juntendo University Graduate School of Medicine, ²Keio University School of Medicine, ³Nara Medical University, ⁴Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁵Saiseikai Suita Hospital, ⁶National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁷Himeji Cardiovascular Center, ⁸Yokohama City University Medical Center, ⁹Fukushima Medical University, ¹⁰University of Tsukuba, ¹¹St. Marianna University School of Medicine, ¹²Nagoya University Graduate School of Medicine, ¹³National Defense Medical College, ¹⁴Department of Cardiovascular Medicine, ¹⁵Kyorin University School of Medicine, Saitama Medical University, ¹⁶Sakakibara Heart Institute, ¹⁷Nara Prefecture Seiwa Medical Center, ¹⁸Japan Agency for Medical Research and Development) : Association between class of foundational medication for heart failure and prognosis in heart failure with reduced/mildly reduced ejection fraction. *Sci Rep*. 12(1). 6611. 2022.
20. Jimba T¹, Kohsaka S¹, Yamasaki M¹, Otsuka T¹, Harada K¹, Shiraishi Y¹, Koba S¹, Takei M¹, Kohno T, ¹ Matsushita K¹, Miyazaki T¹, Kodera S¹, Tsukamoto S¹, Iida K¹, Shindo A¹, Kitano D¹, Yamamoto T¹, Nagao K¹, Takayama M¹(¹Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Association of ambient temperature and acute heart failure with preserved and reduced ejection fraction. *ESC Heart Fail*. 9(5).2899-2908. 2022.
21. Imaeda S¹, Shiraishi Y¹, Kohsaka S¹, Niimi N¹, Goda A², Nagatomo Y³, Takei M⁴, Saji M⁵, Nakano

- S⁶, Kohno T², Fukuda K¹, Yoshikawa T⁵(¹Keio University School of Medicine,²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ³National Defense Medical College Hospital, ⁴Saiseikai Central Hospital, ⁵Sakakibara Heart Institute, ⁶Saitama Medical University International Medical Center) : Use of short-acting vs. long-acting loop diuretics after heart failure hospitalization . ESC Heart Fail .9(5) .2967-2977. 2022.
22. Chishiki T¹, Nagatomo Y¹, Saji M², Takei M³, Goda A⁴, Kohno T⁴, Nakano S⁵, Nishihata Y⁶, Ikegami Y⁷, Shiraishi Y¹, Kohsaka S¹, Adachi T¹, Yoshikawa T² (National Defense Medical Collegefor WET-HF Investigators; ¹National Defense Medical College, ²Sakakibara Heart Institute, ³Saiseikai Central Hospital, ⁴Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁵Saitama Medical University, International Medical Center, ⁶St Luke's International Hospital) : Divergent effect of blood glucose dysregulation on long-term clinical outcome in acute decompensated heart failure: A reappraisal in contemporary practice. Int J Cardiol. 365.91-99. 2022.
23. Hashimoto S¹, Kitakata H¹, Kohsaka S¹, Fujisawa D¹, Shiraishi Y¹, Nakano N¹, Sekine O¹, Kishino Y¹, Katsumata Y¹, Yuasa S¹, Fukuda K¹, Kohno T²(¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine) : Confidence in self-care after heart failure hospitalization. J Cardiol. 81(1). 42-48. 2023.
24. Takeuchi S¹, Kohno T¹, Goda A¹, Shiraishi Y², Saji M³, Nagatomo Y⁴, Tanaka TD⁵, Takei M⁶, Nakano S⁷, Soejima K¹, Kohsaka S², Yoshikawa T³ (West Tokyo Heart Failure Registry Investigators ; ¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Keio University School of Medicine, ³Sakakibara Heart Institute, ⁴National Defense Medical College, ⁵The Jikei University School of Medicine, ⁶Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁷Saitama Medical University, International Medical Center) : Malnutrition in real-world patients hospitalized for heart failure with preserved ejection fraction and its potential impact on generalizability of EMPEROR-Preserved trial. Int J Cardiol. 370. 263-270. 2023.
25. Sakata K¹, Goda A¹, Furuya M¹, Ito J¹, Endo H², Kubota H², Nagahama K³, Shibahara J³, Soejima K¹ (¹Department of Cardiology, ²Kyorin University School of Medicine, Department of Cardiovascular Surgery, ³Kyorin University School of Medicine, Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Right Atrial Appendage Thrombus in a Patient Undergoing Thoracoscopic Left Atrial Appendectomy for Atrial Fibrillation. JACC Case Rep. 5.101635. 2022.
26. Kitakata H¹, Kohno¹ T, Kohsaka S¹, Fujisawa D¹, Nakano N¹, Sekine O¹, Shiraishi Y¹, Kishino Y¹, Katsumata Y¹, Yuasa S¹, Fukuda K¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine) : Social Isolation and Implementation of Advanced Care Planning Among Hospitalized Patients With Heart Failure. J Am Heart Assoc . 11(21). e026645. 2022.
27. Nakamaru R^{1,2}, Shiraishi Y¹, Sandhu AT³, Heidenreich PA³, Shoji S¹, Kohno T⁴, Takei M⁵, Nagatomo Y⁶, Nakano S⁷, Kohsaka S¹, Yoshikawa T⁸(¹Keio University School of Medicine,²The University of Tokyo, ³Stanford University, ⁴Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁵Saiseikai Central Hospital, ⁶National Defense Medical College, ⁷Saitama Medical University, International Medical Center, Saitama, ⁸Sakakibara Heart Institute) : Cardiovascular vs. non-cardiovascular deaths after heart failure hospitalization in young, older, and very old patients. ESC Heart Fail . 2022 . doi: 10.1002/ehf2.14245.
28. Momose R¹, Inami T², Takeuchi K², Kikuchi H², Goda A², Kohno T², Soejima K², Takayama N, Satoh T² (¹Kyorin University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University School of Medicine. ³Department of Hematology, Kyorin University School of Medicine) : Combination Therapy With Pulmonary Vasodilatation and JAK2 Inhibition for Pulmonary Hypertension With Polycythemia Vera. CJC Open. 5(1). 90-92. 2022.
29. Sakata K¹, Goda A¹, Furuya M¹, Ito J¹, Endo H², Kubota H², Nagahama K³, Shibahara J³, Soejima K¹(¹Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine , ²Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Right Atrial Appendage Thrombus in a Patient Undergoing Thoracoscopic Left Atrial Appendectomy for Atrial Fibrillation. JACC Case Rep. 5.101635. 2022.
30. Nogami A¹, Soejima K², Morishima I³, Hiroshima K⁴, Kato R⁵, Sakagami S⁶, Miura F⁷, Okawa K⁸, Kimura T⁹, Inoue T⁹, Takita A⁹, Uno K¹⁰, Kumagai K¹¹, Kurita T¹², Goshō M¹³, Aonuma K; RYOUMA Investigators.(¹University of Tsukuba, ²Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, ³Ogaki Municipal Hospital, ⁴Kokura Memorial Hospital, ⁵Saitama Medical University, ⁶Kanazawa Medical Center, ⁷Hiroshima Prefectural Hospital, ⁸Kagawa Prefectural Central Hospital, ⁹DAIICHI SANKYO Co., ¹⁰Tokyo Heart Rhythm Hospital, ¹¹Fukuoka Sanno Hospital, ¹²Kindai University School of Medicine, ¹³University of Tsukuba) : Real-World Investigation on Anticoagulation Management Before and After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Japan- Periprocedural and Long-Term Outcomes. Circ J. 87(1). 50-62. 2022.
31. Miura Y¹, Higuchi S², Kohno T¹, Shiraishi Y³, Kitamura M⁴, Nagatomo Y⁵, Takei M⁶, Nakano S⁷, Goda A¹, Soejima K¹, Kohsaka S³, Yoshikawa T⁴(West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Investigator; ¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Hospital, ²Showa University School of Medicine, ³Keio University School of Medicine, ⁴Sakakibara Heart Institute, ⁵National Defense Medical College, ⁶Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁷Saitama Medical University, International Medical Center) :

- Association of Potassium Level at Discharge with Long-Term Mortality in Hospitalized Patients with Heart Failure. *J Clin Med.* 11(24). 7358. 2022.
32. Tamura Y, Tamura Y, Taniguchi Y, Tsujino I, Inami T, Matsubara H, Shigeta A, Sugiyama Y, Adachi S, Abe K, Baba Y, Hatano M, Ikeda S, Kusunose K, Sugimura K, Usui S, Takeishi Y, Dohi K, Hasegawa-Tamba S, Horimoto K, Kikuchi N, Kumamaru H, Tatsumi K ; (Japan Pulmonary hypertension Registry (JAPHR) Network): Clinical management and outcomes of patients with portopulmonary hypertension enrolled in the Japanese multicenter registry. *Circ Rep.* 4. 542-549. 2022.
 33. Namba T¹, Masaki N¹, Hitomi Y¹, Ishinoda Y¹, Iwashita M¹, Takeuchi S,¹ Kagami K¹, Yasuda R¹, Ikegami Y¹, Toya T¹, Nagatomo Y¹, Takase B¹, Soejima K², Adachi T¹(¹National Defense Medical College, ²Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine) : Association of serum nitric oxide metabolite level with mortality in patients undergoing coronary angiography. *J Cardiol.* 80(6). 578-584. 2022.
 34. Izumi K¹, Kohno T¹, Goda A¹, Takeuchi S¹, Shiraishi Y², Saji M³, Nagatomo Y⁴, Tanaka TD⁵, Takei M⁶, Nakano S, Soejima K¹, Kohsaka S², Yoshikawa T³ (West Tokyo Heart Failure Registry Investigators : ¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Keio University School of Medicine, ³Sakakibara Heart Institute, ⁴National Defense Medical College, ⁵The Jikei University School of Medicine, ⁶Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁷Saitama Medical University) : Low blood pressure and guideline-directed medical therapy in patients with heart failure with reduced ejection fraction. *Int J Cardiol.* 370.255-262. 2023.
 35. Yanagisawa Y¹, Goda A¹, Takeuchi S¹, Takeuchi K¹, Kikuchi H¹, Inami T¹, Tanigaki S², Kohno T¹, Soejima K¹, Satoh T¹(¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Hospital, ²Department of Obstetrics and Gynecology, Kyorin University Hospital) : Successful Management and Risk Stratification by Exercise Right Heart Catheterization Before Pregnancy in a Patient With Pulmonary Arterial Hypertension. *CJC Open.* 5(4).312-314. 2023.
 36. Takeuchi S¹, Kohno T¹, Goda A¹, Shiraishi Y², Saji M³, Nagatomo Y⁴, Tanaka TD⁵, Takei M⁶, Nakano S⁷, Soejima K¹, Kohsaka S², Yoshikawa T³(West Tokyo Heart Failure Registry Investigators : ¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Keio University School of Medicine, ³Sakakibara Heart Institute, ⁴Tokyo, National Defense Medical College, ⁵The Jikei University School of Medicine, ⁶Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁷Saitama Medical University) : Malnutrition in real-world patients hospitalized for heart failure with preserved ejection fraction and its potential impact on generalizability of EMPEROR-Preserved trial. *Int J Cardiol.* 370. 263-270. 2023.
 37. Yamamoto T¹, Harada K², Yoshino H², Nakamura M², Kobayashi Y², Yoshikawa T², Maejima Y², Otsuka T², Nagao K², Takayama M¹(¹Tokyo CCU Network Council, ²Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Impact of the COVID-19 pandemic on incidence and mortality of emergency cardiovascular diseases in Tokyo. *J Cardiol.* S0914-5087(23)00001-1. 2023. Epub.
 38. Arao K¹, Yoshikawa T¹, Isogai T¹, Imori Y¹, Mochizuki H¹, Sakata K¹, Takaoka Y¹, Yamaguchi T¹, Nagao K¹, Yamamoto T¹, Takayama M¹ (¹Tokyo Cardiovascular Care Unit Network Scientific Committee) : A study of takotsubo syndrome over 9 years at the Tokyo Cardiovascular Care Unit Network Registry . *J Cardiol.* S0914-5087(22)00332-X. 2023. Epub.
 39. Nakamaru R^{1,2}, Shiraishi Y¹, Niimi N¹, Kohno T³, Nagatomo Y⁴, Takei M⁵, Ikoma T⁶, Nishikawa K⁷, Sakamoto M⁸, Nakano S⁹, Kohsaka S¹, Yoshikawa T^{1,7} (¹Keio University School of Medicine, ²The University of Tokyo, ³Department of Cardiovascular Medicine Kyorin University Faculty of Medicine, ⁴National Defense Medical College, ⁵Saiseikai Central Hospital, ⁶Hamamatsu University School of Medicine ⁷Sakakibara Heart Institute, ⁸National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁹Saitama Medical University, International Medical Center) : Phenotyping of Elderly Patients With Heart Failure Focused on Noncardiac Conditions: A Latent Class Analysis From a Multicenter Registry of Patients Hospitalized With Heart Failure. *J Am Heart Assoc.* 12(3).e027689. 2023.
 40. Funabashi S¹, Kohno T¹, Mohri T¹, Takeuchi S¹, Minamishima T¹, Yokoyama K² (¹Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine Mitaka Japan, ²Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine Mitaka Japan) : Evaluation of Pulmonary Valve Endocarditis by Electrocardiography-Gated Cardiac Computed Tomography. *Circ Rep.* 5(3). 99-100. 2023.
 41. Ono M¹, Mizuno A¹, Kohsaka S², Shiraishi Y², Kohno T³, Nagatomo Y⁴, Goda A¹, Nakano S⁵, Komiyama N¹, Yoshikawa T⁶(¹St. Luke's International Hospital, ²Keio University School of Medicine, ³Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁴National Defense Medical College, ⁵International Medical Center, Saitama Medical University, ⁶Sakakibara Heart Institute) : Geriatric Nutritional Risk Index at Hospital Admission or Discharge in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. *J Clin Med.* 12(5). 1891. 2023.
 42. Shiraishi Y¹, Goto S², Niimi N¹, Katsumata Y¹, Goda A³, Takei M⁴, Saji M⁵, Sano M¹, Fukuda K¹, Kohno T³, Yoshikawa T³, Kohsaka S¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Brigham and Women's Hospital, ³Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁴Saiseikai Central Hospital, ⁵Sakakibara Heart Institute) : Improved prediction of sudden cardiac death in patients with heart failure through digital processing of electrocardiography . *Europace.* 25(3). 922-930. 2023.
 43. Nagai T¹, Inomata T¹, Kohno T¹, Sato T¹, Tada A¹, Kubo T¹, Nakamura K¹, Oyama-Manabe N¹, Ikeda Y¹, Fujino T¹, Asaumi Y¹, Okumura T¹,

Yano T¹, Tajiri K¹, Matsuura H¹, Baba Y¹, Sunami H¹, Tsujinaga S, Ota Y¹, Ohta-Ogo K¹, Ishikawa Y¹, Matama H¹, Nagano N¹, Sato K¹, Yasuda K¹, Sakata Y¹, Kuwahara K¹, Minamino T¹, Ono M¹, Anzai T¹(¹Circulation Society Joint Working Group) : JCS 2023 Guideline on the Diagnosis and Treatment of Myocarditis. *Circ J.* 2023. doi:10.1253/circj.CJ-22-0696. Epub.

44. Kohno T^{1,2}(¹Keio University School of Medicine, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine) : Sex differences in insomnia, sleep apnea and restless legs syndrome-reply. *Sleep Breath.* 2023. doi:10.1007/s11325-023-02816-1. Online ahead of print.

(和文)

1. 河野隆志 : (第2章)循環器・心筋症. 内科. 増大号129(4). 583-586. 2022年.
2. 河野隆志 : 生活習慣に関する疾患の診療評価指標とその実装 心疾患 慢性心不全の診療評価指標. *medicina.* 59(11). 1917-1920. 2022年.
3. 河野隆志 : 心不全パンデミックの時代の治療 心不全の進展ステージ, 原因疾患を踏まえた治療. *看護技術.* 68(12). 1138-1143. 2022年.
4. 河野隆志 : 心不全のマネジメントを身近なものに. *週刊医学界新聞.* 第3477号. Page5. 2022年.
5. 河野隆志 : 心不全の病態を把握しよう. *週刊医学界新聞.* 第3481号. Page5. 2022年.
6. 河野隆志 : 薬剤を使いこなす!ACE阻害薬/ARB/B遮断薬/MRA編. *週刊医学界新聞.* 第3493号. Page5. 2022年.
7. 松下健一¹, 伊藤準之助, 井坂葵, 樋口聡, 南島俊徳, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子(¹熊本大学医学部附属病院 心血管治療先端医療寄附講座) : 左房/機能, 合併症, 心エコー図による左房圧上昇推定の心不全再入院予測における有用性. *超音波医学.* 49巻Suppl. PageS277. 2022年.
8. 小和田敬子¹, 竹脇史絵¹, 久場尅志¹, 樂得隆之¹, 仁科善雄¹, 炭谷由計¹, 田中利明¹, 近藤琢磨¹, 勝目有美, 竹内真介, 西智子, 坂田好美², 安田和基¹(¹杏林大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科, ²杏林大学 保健学部) : 心不全での入院を契機に診断となったLMNA遺伝子異常による脂肪萎縮症の一例. *日本内分泌学会雑誌.* 98巻1号. Page323. 2022年.
9. 吉野秀朗 : 主要な症候に対する鑑別診断と応急・緊急処置 胸背部痛. *Medical Practice.* 39巻臨増. 19-23. 2022.
10. 勝目有美¹, 上田明子², 池脇宏嗣¹, 毛利崇人¹, 磯谷亮太¹, 田代身佳¹, 百瀬裕一¹, 野々口紀子¹, 星田京子¹, 三輪陽介¹, 富樫郁子², 松尾征一郎¹, 佐藤俊明², 萩原陽¹, 前田明子¹, 副島京子¹(¹杏林大・医・循環器内科学, ²杏林大・医・不整脈先進治療学) : 心内臓・心外臓で巣状興奮を示す心筋内リエントリー性VTにおいてEntrainment Pacingが回路の推定に有用であった1例. *臨床心臓電機生理.* 45. 79-86. 2022年.
11. 坂田好美¹, 伊藤準之助, 井坂葵, 西智子, 南島俊徳, 河野隆志, 副島京子, 岸野智則², 服部修²(¹杏林大学 保健学部, ²杏林大学医学部 臨床検査医学, ³慶應義塾大学病院) : 動負荷心エコーの実践的アプローチ エルゴメーター運動負荷心エコーによる心不全患者の運動誘発性肺高血圧, 心予備能および予後についての検討. *日本心臓病学会学術集会抄録*70回. PageS4-5. 2022年.
12. 吉野秀朗 : この症例 全身麻酔は可能ですか?-麻酔のリスクをどう評価するか 循環器内科医が手術はダメとするのはどんなとき? 術前コンサルテーション・システムを導入して. *LiSA.* 30(1). 32-37. 2023年.
13. 勝目有美, 副島京子 : 心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション. *LiSA*29(2). *メディカル・サイエンス・インターナショナル.* 170-174. 2022年

令和3年度追加分

1. 野々口紀子, 河野隆志, 福嶋真由美, 舟橋紗耶華, 勝目有美, 田代身佳, 竹内かおり, 西智子, 菊池華子, 星田京子, 富樫郁子, 合田あゆみ, 上田明子, 坂田好美, 副島京子 : 循環器領域女性医師のキャリア継続の現状と課題. 大学病院における子育て女性循環器医のキャリアアップ支援(Supporting the Career Advancement of Women Childbearing Cardiologists in University Hospital). *日本循環器学会学術集会抄録集.* 86回. PageSY18-2. 2022.
2. 菊池華子, 竹内かおり, 飛田和基, 仲悠太郎, 伊波巧, 合田あゆみ, 河野隆志, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子(杏林大学医学部附属病院 循環器内科) : ガイドラインの先を行く肺高血圧治療-従来治療に挑む 右心カテーテル検査を併用した心肺運動負荷試験による肺動脈性肺高血圧症の患者中心アウトカムを改善する新規戦略(Novel Strategies to Improve Patient-Centered Outcomes for Pulmonary Arterial Hypertension Using Cardiopulmonary Exercise Testing with a Right Heart Catheter). *日本循環器学会学術集会抄録集.* 86回. Page SY03-4. 2022.
3. Isaka A, Sakata K, Ito J, Nishi T, Fukushima M, Goda A, Kohno T, Soejima K : 心不全患者における拡張期負荷心エコー法と心肺運動負荷試験による左室拡張機能障害の評価(Evaluation of Left Ventricular Diastolic Dysfunction Using Diastolic Stress Echocardiography and Cardiopulmonary Exercise Testing in Patients with Heart Failure)(会議録/英語). *日本循環器学会学術集会抄録集.* 86回. Page MPE09-3. 2022.

令和2年度追加分

1. 渡部晃佑, 合田あゆみ, 飛田和基², 菊池華子, 竹内かおり, 伊波巧, 河野隆志, 坂田好美¹, 副島京子, 佐藤徹(¹杏林大学 保健学部, ²杏林大学 保健学部, ²杏林大学医学部附属病院リハビリテーション科) : 治療後の慢性血栓性肺高血圧症患者における健康関連 QOL(Health-Related Quality of Life in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension after Treatment). *日本循環器学会学術集会抄録集.* 85回. Page OJ83-6. 2021.

著書

1. 副島京子(分担執筆) : 海外の現状. 不整脈手技中の鎮静マニュアル. 一般社団法人日本不整脈心電学会. 2022年. 123-127.
2. 副島京子(分担執筆) : 植込み型除細動器. 今日の治療指針 私はこう治療している. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠 編集. 医学書院. Vol.65. 2023年. 353-354.
3. 河野隆志(分担執筆) : 肺炎で増悪した慢性心不全を有する高齢患者のケア移行時におけるポイント. ケア移行実践ガイド. 医学書院. 2022年. 153-155.
4. 吉野秀朗 : 臨床工学技士標準テキスト第4版 単行本. 小野哲章, 堀川宗之, 峰島三千男 (共編). 金原出版. 2022年.
5. 巽浩一郎, 田邊信宏, 阿部弘太郎, 伊波巧, 大郷剛, 荻野均, 辻野一三, 鈴木拓児, 山本慶子, 内藤亮, 鈴木淳夫, 松原広己, 稲垣武, 吉田雅博, 村上紀子(日

本肺高血圧・肺循環学会、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業『難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究』班)：「慢性血栓性肺高血圧症 診療ガイドライン」2022. 2022年.

その他

1. 河野隆志(2021年-2022年度活動ガイドライン作成班副班長)：日本循環器学会ガイドライン「心筋炎の診断・治療に関するガイドライン」2023年改訂版.
2. 河野隆志(2021年-2022年度活動ガイドライン作成班班員)：日本循環器学会ガイドライン「循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン」2023年改訂版.
3. 河野隆志：2022-2024年度 日本医療研究開発機構循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業、生活習慣病の予防・診断・治療のための医療機器開発に関する研究。心血管疾患に対する、運動支援プログラムに関する研究開発.
4. 河野隆志：レジデントのための心不全マネジメント編集。医学界新聞。2022年7月-2023年5月.
5. 合田あゆみ(2021年-2022年度活動ガイドライン作成班 協力員)：日本循環器学会ガイドライン「循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン」2023年改訂版。2023年.

不整脈先進治療学研究講座

講演

学会(国内)

1. 佐藤俊明：ペースメーカー日進月歩:今知っておくべきこと。His-Purkinje刺激伝導系ペーシングの適応。第70回日本心臓病学会学術集会。京都。2022年9月23日.
2. 佐藤俊明：His-Purkinje刺激伝導系ペーシングによる、心臓再同期療法の新展開。第26回日本心不全学会学術集会。奈良。2022年10月21日.
3. 佐藤俊明：教育セミナー1. His東ペーシング。第3回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会。甲府。2023年1月28日.
4. 佐藤俊明：CRT治療の新展開：His東・左脚ペーシングの可能性。日本心臓病学会2023年教育セミナーアドバンス・コース。オンライン。2023年2月12日.
5. 佐藤俊明：刺激伝導系ペーシング(ピデオライブ)。第15回植込みデバイス関連冬季大会。仙台。2023年2月25日.
6. Ueda A：The impact of the previous corticosteroid therapy and its duration on ventricular tachycardia associated with cardiac sarcoidosis. The Japanese Circulation Society Annual Meeting. 福岡。2023年3月10日.

学会(国際)

1. Sato T：Genetic Testing and Risk Stratification of SCD in Brugada Syndrome. International Summit on Diagnosis and Treatment Cardiovascular Disease 2022. Taiwan・Online. Oct 1, 2022.
2. Sato T：HBP or LBBP: How to choose it? For the patients with CRT indications. The 7th Asia Cardiac Arrhythmia Summit 2022. China・Online. Oct 23, 2022.
3. Sato T：Barriers to CIED remote monitoring in the Asia Pacific. The 15th Asian Pacific Heart Rhythm

Society Scientific Session. Singapore. Nov 20, 2022

4. Sato T：HBP or LBBP: Different QRS morphologies and axes linked to the lead location for left bundle branch pacing in patients with atrioventricular block. 6th Symposium of His-Purkinje Conduction System Pacing. China・Online. Dec 3, 2022.

研究会・講演会

1. 佐藤俊明：His東ペーシングをディープダイブする(カテーテルリード操作の基本)。The 39th Live Demonstration in KOKURA. オンライン。2022年5月15日.
2. 上田明子：副伝導路-1：Interventional EP Curriculum SVT module 2022. 東京。2022年5月21日.
3. Ueda A：Scar-related Ventricular Tachycardia Mapping and Ablation. EP Module, Korean Heart Rhythm Society Annual Meeting. オンライン。2022年6月25日.
4. Ueda A：Differentiation of Surface of Interest Using Temporal and Spatial Pacemap Parameters for Scar-related Ventricular Tachycardia. Ablation Summit：Mechanism and Therapy of Ventricular Tachycardia Derived from New Mapping System. Japanese Heart Rhythm Society. 横浜。2022年7月9日.
5. T Sato：His-Purkinje or Left Bundle Pacing for Patients with Indication of CRT. 14th Annual Scientific Session of the Korean Heart Rhythm Society. Republic of Korea・Online. July 25, 2022.
6. 上田明子：副伝導路-2：Interventional EP Curriculum SVT module 2022. 東京。2022年8月20日.
7. 上田明子：EPSにおける放射線被ばく。Interventional EP Curriculum SVT module 2022. 東京。2022年8月20日.
8. 佐藤俊明：左脚領域ペーシング Up-to-date. 第8回 Yokohama EP Conference. 横浜。2022年9月15日.
9. 上田明子：不整脈領域における放射線被ばく低減マネジメント。第34回冠疾患学会最新JCSガイドラインから学ぶ1「放射線防御と女性医師」。東京。2022年12月2日.
10. 富樫郁子：Micra植込みの現状と安全な植込み。Micra Webセミナー。オンライン。2022年10月18日.
11. 富樫郁子：心房細動治療。第一三共社内勉強会。三鷹。2022年11月1日.
12. 上田明子：不整脈領域における放射線被ばく低減マネジメント。第34回冠疾患学会最新JCSガイドラインから学ぶ1「放射線防御と女性医師」。東京。2022年12月2日.
13. Togashi I：Consideration of threshold predictors by fluoroscopic images. Micra Implanter Conference Taiwan & Japan Night. 東京。2022年12月16日.
14. 富樫郁子：不整脈デバイス治療。北多摩循環器WebセミナーVol.17. オンライン。2022年12月19日.

論文

(英文)

1. Togashi I¹, Sato T¹, Maeda A¹, Mohri T², Katsume Y², Tashiro M², Momose Y², Nonoguchi N², Hoshida K², Miwa Y², Ueda A¹ (¹ Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin

- University) : Fluoroscopic predictors of acceptable capture threshold during the implantation of the micra transcatheter pacing system J Cardiovasc Electrophysiol. 33(6). 1255-1261. 2022.
- Ueda A¹, Katsume Y², Miwa Y², Mohri T², Tashiro M², Nonoguchi N², Hoshida K², Togashi I¹, Sato T¹, Soejima K² (¹Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University, ²Department of Cardiovascular Medicine, Kyorin University) : Temporal and spatial pacemap parameters for identification of cardiac surfaces with critical sites for ventricular tachycardia. J Cardiovasc Electrophysiol. 33(8). 1791-1800. 2022.
 - Tung R^{1,2,3}, Xue Y², Chen M, Jiang C⁴, Shatz DY¹, Besser SA¹, Hu H⁶, Chung FP⁷, Nakahara S⁸, Kim YH⁹, Satomi K¹⁰, Shen L¹¹, Liang E¹¹, Liao H², Gu K⁴, Jiang R⁵, Jiang J⁶, Hori Y⁸, Choi JI⁹, Ueda A¹¹, Komatsu Y¹², Kazawa S¹³, Soejima K¹⁴, Chen SA¹⁵, Nogami A¹², Yao Y¹⁰ (PAUSE-SCD Investigators : ¹The University of Chicago, ²Guangdong Provincial People's Hospital, ³Sir Run Shaw Hospital, Zhejiang University, Hangzhou, ⁴The First Affiliated Hospital of Nanjing Medical University, ⁵Sir Run Run Shaw Hospital, ⁶West China Hospital, ⁷Taipei Veterans General Hospital, National Yang Ming Chiao Tung University, ⁸Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ⁹ Korea University Medical Center, ¹⁰Fuwai Hospital, ¹¹ Division of Advanced Arrhythmia Management ¹² University of Tsukuba, ¹³Tokyo Medical University, ¹⁴Department of Cardiovascular Medicine, ¹⁵Taichung Veterans General Hospital) : First-Line Catheter Ablation of Monomorphic Ventricular Tachycardia in Cardiomyopathy Concurrent With Defibrillator Implantation: The PAUSE-SCD Randomized Trial. Circulation. 145(25). 1839-1849. 2022.
 - Kozuma K¹, Chikamori T², Hashimoto J³, Honye J⁴, Ikeda T⁵, Ishiwata S⁶, Kato M⁷, Kondo H⁸, Matsubara K⁹, Matsumoto K¹⁰, Matsumoto N¹¹, Motoyama S¹², Obunai K¹³, Sakamoto H¹⁴, Soejima K¹⁵, Suzuki S¹⁶, Abe K¹⁷, Amano H⁵, Hioki H¹, Imori T¹⁸, Kawai H¹², Kosuge H², Nakama T¹³, Suzuki Y¹¹, Takeda K¹⁹, Ueda A²⁰, Yamashita T²¹, Hirao K²², Kimura T²³, Nagai R²⁴, Nakamura M²⁵, Shimizu W²⁶, Tamaki N (Japanese Circulation Society Joint Working Group : ¹Teikyo University Hospital, ² Tokyo Medical University, ³Tokai University School of Medicine, ⁴Kikuna Memorial Hospital, ⁵Toho University Faculty of Medicine, ⁶Hibiya Ishiwata Clinic, ⁷Akita Cerebrospinal and Cardiovascular Center, ⁸ Teikyo University Hospital, ⁹Kanazawa University, ¹⁰Hyogo College of Medicine College Hospital, ¹¹Nihon University Hospital, ¹²Tokyo Bay Medical Center, ¹⁴ Junten University, ¹⁵Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, ¹⁶Totsuka Kyouritsu Daini Hospital, ¹⁷Tokyo Women's Medical University, ¹⁸Chiba University Hospital, ¹⁹Sakakibara Heart Institute, ²⁰Division of Advanced Arrhythmia Management, Kyorin University School of Medicine, ²¹Tokai University Hospital, ²²AOI Universal Hospital, ²³Kyoto University Graduate School of Medicine, ²⁴Jichi Medical University, ²⁵Toho University Ohashi Medical Center. ²⁶Nippon Medical School, ²⁷Kyoto Prefectural University of Medicine) : JCS 2021 Guideline on Radiation Safety in Cardiology. Circ J. 86(7). 1148-1203. 2022.
 - Togashi I¹, Sato T¹(Division of Advanced Arrhythmia Management) : Conduction system pacing : Current status and prospects. J Cardiol. 2023. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.01.011. Epub. (和文)
 - 上田明子 : 【循環器・腎臓内科医が知りたい循環器・腎臓・高血圧治療のupdate】器質的心疾患に合併する心室頻拍治療におけるカテーテルアブレーション. 循環器内科. 91 (5) . 554-560. 2022年.
 - 佐藤俊明 : 【不整脈非薬物治療の最前線】ヒス束ペーシングと左脚ペーシングの現状と課題. 循環器内科. 92 (2) . 139-144. 2022年.
- 著 書**
- Ueda A, Soejima K (分担執筆) : Fascicular Ventricular Arrhythmias. Zipes and Jalife's Cardiac Electrophysiology: From Cell to Bedside. Jose Jalife. WG Stevenson(Ed) Elsevier. 2022. 970-976.
 - 上田明子 (分担執筆) : 第4章 3虚血性心疾患に伴う心室頻拍. 格段にうまくいく カテーテルアブレーションの基本とコツ 改訂版~エキスパートが教える安全・確実な手技と合併症対策. 高橋敦 編. 羊土社. 2022年. 356.
- 血液内科学教室**
- 講 演**
- 小林誠, 佐藤範英, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 大貫朋也, 増田萌, 百瀬恵美, 高山信之 : 造血器悪性疾患の同種造血幹細胞移植後再発に対する救援療法としての臍帯血移植の治療成績. 第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 横浜・オンライン. 2022年5月13日.
 - Shimada K, Ohmachi K, Machida R, Ota S, Itamura H, Tsujimura H, Takayama N, Shimada T, Kurosawa M, Tabayashi T, Shimoyama T, Ohshima K, Maruyama D, Kinoshita T, Ando K, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H: Characterization of secondary central nervous system involvement in patients with diffuse large B-cell lymphoma -A supplementary analysis of JCOG0601. 27th Annual Congress of EHA. Austria・Online. June 10th. 2022.
 - 辻野千聖, 小林誠, 佐藤範英, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 高山信之 : 2回の臍帯血移植後に早期再発を来すも, 複数の分子標的治療薬で長期寛解を維持しているPh陽性ALL. 第17回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年7月16日.
 - 高山信之 : Unifit AMLに対するベネトクラクス+アザシチジン併用療法の実際. AbbVie Oncology Seminar. オンライン. 2022年9月22日.
 - 関雅史, 佐藤範英, 小林誠, 桑原彩子, 吉森恵未, 高山信之 : 髄外性 T 細胞性急性転化にて発症した minor BCR-ABL 陽性慢性骨髄性白血病. 第84回日本血液学会学術集会. 福岡・オンライン. 2022年10月15日.
 - Kusumoto S, Munakata W, Machida R, Terauchi T, Onaya H, Oguchi M, Iida S, Nosaka K, Suzuki Y, Harada Y, Miyazaki K, Maruta M, Fukuhara N,

Toubai T, Kubota N, Ohmachi K, Yamamoto K, Kumode T, Mizuno I, Tabayashi T, Tsujimura H, Takayama N, Asagoe K, Yoshida I, Takamatsu Y, Fukuhara S, Takeuchi M, Tateishi U, Maruyama D, Tsukasaki K, Nagai K: Interim-PET-guided ABVB or ABVD-escalated BEACOPP for newly diagnosed advanced-stage classic Hodgkin lymphoma (JCOG1305, INNOVATE-HL study). 64th ASH Annual Meeting and Exposition. New Orleans · Online. Dec 10th. 2022.

- 小林誠: FLT3阻害剤の適正使用を考える(症例報告). AML Webセミナー. オンライン. 2022年12月21日.
- 小林誠: 当院における再生不良性貧血に対するTPO-RA使用の実例. Aplastic Anemia Online Seminar. オンライン. 2023年1月26日.
- 小林誠, 佐藤範英, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 大貫朋也, 増田萌, 百瀬恵美, 高山信之: 造血器悪性疾患に対する初回同種造血幹細胞移植後に再発した症例の転帰に関する検討. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 名古屋・オンライン. 2023年2月11日.
- 増田萌, 小林誠, 佐藤範英, 桑原彩子, 関雅史, 日比谷孝志, 高山信之: 両肺野のびまん性浸潤影を主病変として発症した節外性NK/T細胞リンパ腫. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2023年3月11日.
- 大貫朋也, 佐藤友哉, 遠山潤, 三浦由希子, 飯野昌樹, 高山信之: 当院における血液疾患患者の新型コロナウイルス感染による入院症例の解析. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2023年3月11日.

論文

- Iino M, Sato T, Nakadate A, Onuki T, Takayama N: Forodesine maintenance therapy for newly diagnosed peripheral T-cell lymphoma: a single-institutional, observational, retrospective analysis. *Ann Hematol.* 101(10). 2351. 2022.
- Suzuki T, Maruyama D, Machida R, Kataoka T, Fukushima N, Takayama N, Ohba R, Omachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Yamamoto K, Kameoka Y, Kagami Y, Tabayashi T, Maruta M, Kobayashi T, Iida S, Nagai H. Prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in transplant-ineligible patients with multiple myeloma who received a melphalan, prednisolone, and bortezomib regimen: A supplementary analysis of JCOG1105. *Hematol Oncol.* 2022. DOI: 10.1002/hon.3103.
- Sakatoku K, Kim S-W, Okamura H, Kanaya M, Kato K, Yamasaki S, Uchida N, Kobayashi H, Fukuda T, Takayama N, Ishikawa J, Nakazawa H, Sakurai M, Ikeda T, Kondo T, Yoshida S, Miyamoto T, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kondo E: Improved survival after single-unit cord blood transplantation using fludarabine and melphalan-based reduced-intensity conditioning for malignant lymphoma: impact of melphalan dose and graft-versus-host disease prophylaxis with mycophenolate mofetil. *Ann Hematol.* 101(12). 2743. 2022.
- Momose R, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Takayama N, Satoh T: Combination therapy with pulmonary vasodilatation and JAK2 inhibition for pulmonary

hypertension with polycythemia vera. *CJC Open.* 5(1). 90-92. 2022.

消化器内科学教室

講演

国際学会・シンポジウム発表

- Wada H, Miyoshi J, Kuronuma S, Hibi N, Nishinarita Y, Oguri N, Matsuura M, Takeuchi O, Kobayashi T, Akimoto Y, Hibi T, Hisamatsu T: Impacts of 5-aminosalicylic acid on the intestinal microbiota leading to the anti-inflammatory effect. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Hisamatsu T, Kim H.J, Motoya S, Suzuki Y, Ohnishi Y, Marano C, Imai Y, Saadoun C, Zhuo J, Kawamura S: Efficacy and safety of ustekinumab for Ulcerative Colitis through 4 years in Asian patients: Final results from the sub-population of UNIFI long-term extension. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Saito D, Hirai F, Uchiyama K, Takagi T, Naito Y, Takatsu N, Tanabe H, Kishimoto M, Matsuura M, Miyoshi J, Watanabe K, Esaki M, Naganuma M, Hisamatsu T: A new endoscopic scoring system corresponding to histological healing using linked color imaging in ulcerative colitis: SOUL study. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Miyoshi J, Morikubo H, Yonezawa H, Kimura Y, Moue C, Komatsu H, Matsuura M, Hisamatsu T: Predicting the middle-term efficacy of molecular-targeted medications for Ulcerative Colitis based on the intestinal ultrasound findings. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Matsuoka K, Katsumasa N, Murata Y, Hisamatsu T: Symptom Improvement of ulcerative colitis after an Injection dose of Ustekinumab in Japanese clinical practice, measured using patient-reported outcomes (SIRIUS) study, Interim Analysis. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Matsuno Y, Esaki M, Yanai S, Ohmiya N, Hisamatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Kitazono T, Matsumoto T: Clinical features of chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Peyrin-Biroulet L, Louis E, Hisamatsu T, Jamoul C, Santermans E, Harris K, de Haas A, Oortwijn A, Feagan B: Factors associated with partial Mayo Clinic Score over time in patients with Ulcerative Colitis treated with filgotinib in the phase 2b/3 SELECTION trial. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
- Shinzaki S, Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Murata Y,

- Yoshigoe S, Tsuchiya H, Hisamatsu T: Disease activity and treatment patterns of newly diagnosed adult patients with Crohn's disease in Japan: Interim analysis of inception cohort registry study of patients with Crohn's disease (iCREST-CD). 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
9. D'Haens G, Afzali A, Filip R, Rolim A, Terry N.A., Salese L, Sahoo A, Frustaci M.E, Yang Z, Andrews J.M, Danese S, Hisamatsu T: Corticosteroid-free clinical remission rates with guselkumab maintenance therapy in patients with moderately to severely active Crohn's disease: Week 48 analyses from the phase 2 GALAXI 1 study. 18th Congress of ECCO. Denmark. March 1-4th. 2023.
 10. Saito D, Hirai F, Uchiyama K, Takagi T, Naito Y, Takatsu N, Tanabe H, Kishimoto M, Matsuura M, Miyoshi J, Watanabe K, Esaki M, Naganuma M, Hisamatsu T: A new endoscopic scoring system corresponding to histological healing using linked color imaging in ulcerative colitis (SOUL study). The 16th International Gastrointestinal Consensus Symposium (IGICS). Tokyo. February 4th. 2023.
 11. Rubin DT, Allegretti JR, Sands BE, Huang KG, Kavalam M, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Mihály E, Hisamatsu T, Dignass A, Panés J on behalf of the QUASAR Investigators: The Effect of Guselkumab Induction Therapy In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Results at Week 12 by Prior Inadequate Response or Intolerance to Advanced Therapy. American College of Gastroenterology 2022. U.S.A. October 21-25th. 2022.
 12. Peyrin-Biroulet L, Dignass A, Sandborn WJ, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Chen B, Chen M, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Lichtenstein GR on behalf of the QUASAR Investigators: The Effect of Guselkumab Induction Therapy on Inflammatory Biomarkers In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Results Through Week 12. American College of Gastroenterology 2022. U.S.A. October 21-25th. 2022.
 13. Rubin DT, Sands BE, Panaccione R, Han C, Weisel K, Frustaci ME, Yang Z, Sahoo A, Afzali A, Andrews JM, Danese S, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Reinisch W, Sandborn WJ, D'Haens G on behalf of the GALAXI 1 Investigators: Health-related Quality of Life With Guselkumab Induction and Maintenance Therapy as Measured by PROMIS-29: Results Through Week 48 of Phase 2 GALAXI 1 Study. American College of Gastroenterology 2022. U.S.A. October 21-25th. 2022.
 14. Sands BE, Rubin DT, Lichtenstein GR, Shipitofsky N, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, DuVall GA, Cao Q, Allegretti JR, Feagan BG, Peyrin-Biroulet L, Hisamatsu T, Panés J, Dignass A, Bressler B: QUASAR Induction Study 1 Cumulative Response to Guselkumab in Patients With Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis. American College of Gastroenterology 2022. U.S.A. October 21-25th. 2022.
 15. Lichtenstein GR, Dignass A, Sandborn WJ, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Chen B, Chen M, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Peyrin-Biroulet L on behalf of the QUASAR Investigators: The Effect of Guselkumab Induction Therapy on Inflammatory Biomarkers In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Results Through Week 12. American College of Gastroenterology 2022. U.S.A. October 21-25th. 2022.
 16. Travis S, Hibi T, Hisamatsu T, Fisher D, Shan M, Gobble TH, Rubin DT: Effect of Mirikizumab on Bowel Urgency Clinically Meaningful Improvement and Remission: Results From the Phase 3 LUCENT Induction and Maintenance Studies. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 17. Louis E, Feagan B, Hisamatsu T, Taliadouros V, Jongen R, Oortwijn A, Van der Donckt C, Peyrin-Biroulet L: Use of faecal calprotectin as a prognostic marker of response to treatment with filgotinib: post hoc analysis from the SELECTION study. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 18. Feagan B, Peyrin-Biroulet L, Louis E, Taliadouros V, Le Brun FO, Oortwijn A, Patel H, de Haas A, Hisamatsu T: Predictors of response to filgotinib in ulcerative colitis: post hoc analysis from the SELECTION study. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 19. D'Haens G, Sands BE, Panaccione R, Han C, Weisel K, Frustaci ME, Yang Z, Sahoo A, Afzali A, Andrews JM, Danese S, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Reinisch W, Sandborn WJ, Rubin DT on behalf of the GALAXI 1 Investigators: Health-related Quality of Life With Guselkumab Induction and Maintenance Therapy as Measured by PROMIS-29: Results Through Week 48 of Phase 2 GALAXI 1 Study. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 20. Panés J, Allegretti JR, Sands BE, Huang KG, Kavalam M, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Mihály E, Hisamatsu T, Dignass A, Rubin DT on behalf of the QUASAR Investigators: The Effect of Guselkumab Induction Therapy In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Results at Week 12 by Prior Inadequate Response or Intolerance to Advanced Therapy. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 21. D'Haens G, Sands BE, Panaccione R, Han C, Weisel K, Frustaci ME, Yang Z, Sahoo A, Afzali A, Andrews JM, Danese S, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Reinisch W, Sandborn WJ, Rubin DT on behalf of the GALAXI 1 Investigators: Health-related Quality of Life With Guselkumab Induction and Maintenance Therapy as Measured by PROMIS-29: Results Through Week 48 of Phase 2 GALAXI 1 Study. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 22. Peyrin-Biroulet L, Dignass A, Sandborn WJ, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Chen B, Chen M, Hisamatsu T, Feagan BG, Panés J, Lichtenstein GR on behalf of the QUASAR

- Investigators: The Effect of Guselkumab Induction Therapy on Inflammatory Biomarkers In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Results Through Week 12. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
23. D'Haens G, Panaccione R, Panés J, Hisamatsu T, Bossuyt P, Danese S, Neimark E, Song A, Liao X, Wallace K, Zambrano J, Duan WR, Kligys K, Dubinsky M: 52-weeks Risankizumab Subcutaneous Maintenance Dosing Is Efficacious And Well Tolerated In Patients With Moderate To Severe Crohn's Disease Who Had Delayed Response To 12-weeks IV Risankizumab Induction. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 24. Hisamatsu T, Kim HJ, Motoya S, Suzuki Y, Ohnishi Y, Marano C, Imai Y, Saadoun C, Zhuo J, Kawamura S: Efficacy And Safety Of Ustekinumab In Asian Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: A Subpopulation Analysis Of UNIFI Long-term Extension Through 3 Years. UEGW 2022. Austria · Online. October 8-11th. 2022.
 25. Danese S, Panaccione R, Rubin DT, Sands BE, Reinisch W, D'Haens G, Panés J, Gonzalez S, Weisel K, Sahoo A, Frustaci ME, Yang Z, Sandborn WJ, Afzali A, Hisamatsu T, Andrews JM, Feagan BG: Efficacy and safety of guselkumab maintenance therapy in moderately-to-severely active Crohn's disease (CD) patients: Week 48 analyses from GALAXI-1 Study. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 26. Naganuma M, Kunisaki R, Yamaoto S, Matsuoka K, Saito D, Kawamoto A, Nanki K, Hokari R, Shiga H, Kobayashi T, Hisamatsu T: The efficacy of calcinurin inhibitor, biologics, and JAK inhibitor in hospitalized patients with acute severe ulcerative colitis. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 27. Morikubo H, Saito D, Fujima T, Ogihara R, Ozaki R, Tokunaga S, Minowa S, Mitsui T, Miura M, Hyashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Hisamatsu T: Clinical factors associated with endoscopic remission in ustekinumab treatment of ulcerative colitis. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 28. Matsuoka K, Hisamatsu T, Kim HJ, Ye BD, Arai S, Hoshi M, Yuasa H, Tabira J, Toyozumi S, Shi N, Woo JS, Hibi T: Safety and efficacy of long-term tofacitinib treatment in East Asian patients with ulcerative colitis in OCTAVE Open. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 29. Matsuoka K, Motoya S, Yamamoto T, Matsuura M, Fujii T, Shinzaki S, Mikami Y, Arai S, Oshima J, Endo Y, Yuasa H, Hoshi M, Hisamatsu T: Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: an updated interim report of safety data. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 30. Hisamatsu T, Danese S, Hnauer SB, Jairath V, Mihaly E, Lidón RV, Ott E, Gasink C, Niao Y, Ma T, Marano C, Sands BE: Long-term Cumulative Safety of Ustekinumab in Bionative Patients with Crohn's Disease (CD) and Ulcerative Colitis (UC). The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 31. Hisamatsu T, Dignass A, Rubin DT, Bressler B, Huang KG, Shipitofsky N, Germinaro M, Zhang H, Johanns J, Feagan BG, Sandborn WJ, Sands BE, Lichtenstein G, Panes J, Allegretti JR: Efficacy and Safety of Guselkumab Induction Therapy for Moderate to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 2b QUASAR Study 12-Week Results. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 32. Wada H, Miyoshi J, Kuronuma S, Hibi N, Nishinarita Y, Oguri N, Matsuura M, Takeuchi O, Kobayashi T, Akimoto Y, Hibi T, Hisamatsu T: Impacts of 5-aminosalicylic acid on the intestinal microbiota and the anti-inflammatory effect. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 33. Miyoshi J: Early life perturbations of the gut microbiome and inflammatory bowel disease later in life. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 34. Miyoshi J: Introduction of intestinal ultrasound for IBD in daily practice. The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 35. Hisamatsu T: Best evidence to answer the clinical question of GMA treatment for ulcerative colitis (Evening Seminar 2). The 10th Asian Organization for Crohn's and Colitis. Online. June 16-18th. 2022.
 36. Hayashi Y, Nakase H, Hirayama D, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Hisamatsu T: Interim Analysis Of A Multicenter Registry Study Of COVID-19 Infected Patients With Inflammatory Bowel Disease In Japan (J-COSMOS). Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.
 37. Panaccione R, Rubin DT, Sands BE, Reinisch W, D'Haens G, Panés J, Gonzalez S, Weisel K, Sahoo A, Frustaci ME, Yang Z, Sandborn WJ, Afzali A, Hisamatsu T, Danese S, Andrews JM, Feagan BG: Efficacy And Safety Of Guselkumab Maintenance Therapy In Patients With Moderately To Severely Active Crohn's Disease: Week 48 Analyses From The Phase 2 GALAXI 1 Study. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.
 38. Allegretti JR, Rubin DT, Bressler B, Huang KG, Shipitofsky N, Germinaro M, Zhang H, Johanns J, Feagan BG, Sandborn WJ, Sands BE, Hisamatsu T, Lichtenstein GR, Panés J, Dignass A. The Efficacy And Safety Of Guselkumab Induction Therapy In Patients With Moderately To Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 2B QUASAR Study Results Through Week 12. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.
 39. Atreya R, Feagan BG, Shchukina O, Jairath V, Rieder F, Hisamatsu T, Siegmund B, Rizzo J, Kligys K, Neimark E, Song AP, Zambrano JA, Mallick M, Cheng E, Armuzzi A: Normalisation Of

Biomarkers And Improvement In Clinical Outcomes In Patients With Crohn's Disease Treated With Risankizumab In The Phase 3 Advance, Motivate, And FORTIFY Studies. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.

40. Wagatsuma K, Nakase H, Nojima M, Matsumoto T, Matsuoka K, Matsuura M, Ohmiya N, Iijima H, Ishihara S, Hirai F, Hisamatsu T: A Multicenter, Observational Study Of A Questionnaire Survey On Anxiety And Behavioral Changes Felt By Japanese Patients With Inflammatory Bowel Disease Due To COVID-19 Epidemic. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.
41. Naganuma M, Kunisaki R, Yamamoto S, Matsuoka K, Kawamoto A, Nanki K, Hokari R, Kobayashi T, Esaki M, Mitsuyama K, Hisamatsu T: The Real-world Effectiveness And Safety Of Corticosteroids, Calcineurin Inhibitor, Biologics, And JAK Inhibitor In Hospitalized Patients With Ulcerative Colitis. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. · Online. May 21-24. 2022.
42. Watanabe K, Hisamatsu T, Nakase H, Nagase K, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Yokoyama K, Nishishita M, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Shinzaki S, Kato S, Tanaka H, Uraoka T, Takatsu N, Suzuki H, Takahashi K, Umeno J, Mishima Y, Tsuchida K, Fujiya M, Hiraoka S, Yamamoto S, Saruta M, Nojima M, Andoh A: Japan Prospective Vaccination Study For Optimization Of COVID-19 Vaccinations Based On The Immune Response And Safety Profile In Inflammatory Bowel Disease Patients: Interim Analyses. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. & Online. May 21-24. 2022.
43. Hermanson JB, Fei N, Miyoshi S, Hawkins M, Miyoshi J, Xie B, Sulakhe D, Hart J, Chang EB, Charlton M, Leone VA: Dietary Cholesterol-Induced Gut Microbes Drive Nonalcoholic Fatty Liver Disease Pathogenesis in a Murine Model. Digestive Disease Week 2022. U.S.A. & Online. May 21-24. 2022.
44. Hermanson JB, Fei N, Miyoshi S, Miyoshi J, Hawkins M, Xie B, Sulakhe D, Hart J, Chang EB, Leone VA, Charlton M: Dietary Cholesterol-Induced Gut Microbes Drive Nonalcoholic Fatty Liver Disease Pathogenesis in a Murine Model. Experimental Biology 2022. U.S.A. April 2-5th. 2022.

国内学会発表、厚生労働省班会議等発表

1. 小栗典明, 三好潤, 西成田悠, 和田晴香, 川村直弘, 松浦稔, 久松理一: 肝硬変・肝性脳症における小腸微生物叢dysbiosisとリファキシミンによる是正. 第6回消化器臓器間ネットワーク研究会. オンライン. 2023年3月25日.
2. Nishioka M, Okano N, Onozawa S, Miyauchi R, Hayashi M, Maesono T, Mizutani T, Seki S, Naohiro Kawamura, Kuroki K, Nagashima F, Furuse J: Vp4 hepatocellular carcinoma with Child-Pugh B treated with lenvatinib plus hepatic intra-arterial cisplatin infusion. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡. 2023年3月16日.

3. 友近瞬, 落合一成, 澁田秀則, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 権藤興一, 百瀬博一, 渡邊俊介, 磯谷一暢, 松木亮太, 小暮正晴, 林玲匡, 土岐真朗, 鈴木裕, 柴原純二, 阪本良弘, 久松理一: 臍粘液性囊胞腫瘍との鑑別が困難であった臍内副脾に発生したepidermoidcystの1例. 第373回日本消化器病学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2023年2月25日.
4. 三好潤, 戸嶋隆太, 森久保拓, 松岡克善, 松浦稔, 田村哲嗣, 久松理一: 機械学習を用いた潰瘍性大腸炎におけるウステキヌマブの有効性予測ツールの探索. 第19回日本消化管学会総会学術集会. 2023年2月3-5日.
5. 三井達也, 林田真理, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三浦みき, 齋藤大祐, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 当院におけるクローン病初回診断時における小腸カプセル内視鏡検査の現状について. 第16回日本カプセル内視鏡学会学術集会. 2023年2月5日.
6. 松岡克善, 松浦稔, 加藤順, 水島恒和, 熊谷秀規, 村上義孝, 朝倉敬子, 久松理一, 西脇祐司: 新規診断炎症性腸疾患患者を対象とした全国規模レジストリ構築. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
7. 仲瀬裕志, 林優希, 松本主之, 松浦稔, 飯島英樹, 松岡克善, 大宮直木, 石原俊治, 平井郁仁, 久松理一: JAPAN IBD-COVID 19 Taskforceの活動報告(J-COSMOS(中間解析後のデータ)・J-DESIRE). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
8. 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 松浦稔, 横山佳浩, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 前本篤男, 田中浩紀, 櫻庭裕丈, 橋本悠, 浦岡俊夫, 鈴木英雄, 土屋輝一郎, 松岡克善, 加藤真吾, 長堀正和, 吉村直樹, 豊永貴彦, 猿田雅之, 大森鉄平, 佐上晋太郎, 小林拓, 横山薫, 南條宗八, 北村和哉, 杉本健, 大宮直木, 中村正直, 谷田論史, 土田研司, 横山正, 山本修司, 守屋圭, 深田憲将, 長沼誠, 新崎信一郎, 西下正和, 青山伸郎, 佐藤寿行, 河合幹夫, 上小鶴孝二, 横山陽子, 平岡佐規子, 半田修, 塩谷昭子, 三島義之, 石原俊治, 船越禎広, 平井郁仁, 武富啓展, 江崎幹宏, 高津典孝, 梅野淳嗣, 野島正寛, 安藤朗: 日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化: 多施設共同前向き研究(J-COMBAT). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
9. 松岡克善, 小林拓, 新崎信一郎, 高津典孝, 藤井俊光, 三好潤, 河口貴昭, 山崎大, 内野基, 岩間達, 岩田直美, 野島正寛, 長沼誠, 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的薬レジストリの構築. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
10. 松本主之, 梁井俊一, 久部高司, 川崎啓祐, 江崎幹宏, 志賀永嗣, 前田康晴, 吉田直久, 岡志郎, 斎藤豊, 渡辺憲治, 浦岡俊夫, 国崎玲子, 石原聡一郎, 緒方晴彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.

11. 小林拓, 松岡克善, 藤谷幹浩, 竹内健, 東山正明, 新崎信一郎, 藤井俊光, 三好潤, 山崎大, 内野基, 野島正寛, 久松理一: 高齢者IBD患者データベース(レジストリ)作成. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
12. 梅野淳嗣, 冬野雄太, 鳥巢剛弘, 内田恵一, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 久部高司, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
13. 長沼誠, 福井寿朗, 長堀正和, 井上詠, 桐野洋平, 田中良哉, 安藤朗, 馬場重樹, 三上洋平, 平井郁仁, 内野基, 松岡克善, 渡辺憲治, 松本主之, 松浦稔, 久松理一, 根本泰宏, 岡本隆一: 腸管ペーチェット病(岳野班・AMED水木班連携プロジェクト). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
14. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとこ, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 長沼誠, 細見周平, 鎌田紀子, 山本修司, 平田敬, 石田哲也, 松本史弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 穂苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 山下真幸, 金井隆典, 櫻井俊之, 猿田雅之, 本谷聡, 邊見慎一郎, 安川重義, 高津典孝, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 山田哲弘, 松岡克善, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
15. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 冬野雄太, 平井郁仁, 武田輝之, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 仲瀬裕志, 山本修司, 藤谷幹浩, 志賀永嗣, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二朗, 光山慶一, 猿田雅之, 櫻庭裕丈, 小山文一, 細江直樹, 緒方晴彦, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 杉田昭, 松岡克善, 鈴木康夫, 久松理一: クロウン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義—多施設前向きコホート研究—. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
16. 中村志郎, 渡辺憲治, 江崎幹宏, 柿本一城, 竹内健, 長堀正和, 馬場重樹, 平井郁仁, 平岡佐規子, 穂苺量太, 三上洋平, 内野基, 小金井一隆, 東大二郎, 新井勝大, 清水泰岳, 長沼誠, 仲瀬裕志, 久松理一: 治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
17. 長沼誠, 中村志郎, 深田憲将, 松岡克善, 小林拓, 松浦稔, 猿田雅之, 加藤真吾, 加藤順, 横山薫, 石原俊治, 小金井一隆, 内野基, 水落建輝, 虻川大樹, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療指針改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
18. 長沼誠, 中村志郎, 宮寄孝子, 松岡克善, 吉岡慎一郎, 光山慶一, 阿部貴行, 小林拓, 斎藤大祐, 猿田雅之, 国崎玲子, 志賀永嗣, 横山薫, 石原俊治, 南條宗八, 佐々木誠人, 中澤敦, 中里圭宏, 守屋圭, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 高木智久, 林亮平, 田中信治, 長堀正和, 南木康作, 金井隆典, 仲瀬裕志, 我妻康平, 穂苺量太, 坂田資尚, 江崎幹宏, 大宮直木, 村杉瞬, 大森鉄平, 竹内健, 吉村直樹, 渡辺憲治, 田原利行, 北村和哉, 加藤順, 安富絵里子, 平岡佐規子, 梁井俊一, 松本主之, 山本章二朗, 橋本真一, 都築義和, 大井充, 日浅陽一, 細見周平, 久松理一: 治療指針に反映させるためのエビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築(日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業との共同研究). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
19. 松浦稔, 長沼誠, 松岡克善, 小林拓, 猿田雅之, 藤井俊光, 加藤順, 加藤真吾, 平井郁仁, 渡辺憲治, 内野基, 新崎信一郎, 高木智久, 新井勝大, 虻川大樹, 岸本暢将, 樋口哲也, 中村志郎, 久松理一: 腸管外合併症治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
20. 松本主之, 江崎幹宏, 大森鉄平, 櫻庭裕丈, 新崎新一郎, 杉本健, 竹中健人, 大塚和朗, 長沼誠, 馬場重樹, 久部高司, 平岡佐規子, 藤谷幹浩, 松浦稔, 梁井俊一, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 平井郁仁, 緒方晴彦, 久松理一: 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成進捗状況. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
21. 杉田昭, 二見喜太郎, 池内浩基, 根津理一郎, 高橋賢一, 舟山裕士, 板橋道朗, 福島浩平, 藤井久雄, 小金井一隆, 東大二郎, 小山文一, 水島恒和, 松岡克善, 平井郁仁, 長堀正和, 中村志郎, 安藤朗, 久松理一, 橋本秀樹: 潰瘍性大腸炎治療例の予後・QOLの観点から(prospective study): 横断研究解析. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
22. 石原聡一郎, 味岡洋一, 池内浩基, 板橋道朗, 内野基, 浦岡俊夫, 大北喜基, 岡林剛史, 河内洋, 小金井一隆, 斎藤豊, 下田将之, 杉田昭, 菅井有, 高橋賢一, 高丸博之, 田中信治, 仲瀬裕志, 長沼誠, 畑啓介, 東大二郎, 藤井俊光, 二見喜太郎, 松浦稔, 松田圭二, 松本主之, 水島恒和, 渡辺憲治, 渡谷祐介, 山口直比古, 吉田雅博, 杉原健一, 久松理一: 「炎症性腸疾患関連癌診療ガイドライン」の作成について. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
23. 清水俊明, 水落建輝, 清水泰岳, 虻川大樹, 新井勝大, 工藤孝広, 熊谷秀規, 石毛崇, 渡間達, 内田恵一, 井上幹大, 国崎玲子, 長沼誠, 渡辺憲治, 中村志郎, 久松理一: 小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.

24. 清水俊明, 熊谷秀規, 岩間達, 萩原真一郎, 工藤孝広, 高橋美智子, 齋藤武, 国崎玲子, 内野基, 平岡佐規子, 長沼誠, 杉本健, 三好潤, 澁谷智義, 久松理一: トランジションのコンセンサス形成に関するプロジェクト. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
25. 石毛崇, 久松理一, 清水俊明, 渡辺憲治, 新井勝大, 亀井宏一, 工藤孝広, 国崎玲子, 徳原大介, 長沼誠, 水落建輝, 村島温子, 猪野木雄太, 岩田直美, 岩間達, 肥沼幸, 清水泰岳, 神保圭佑, 高木祐吾, 高橋昌兵, 趙有季, 南部隆亮, 西田大恭, 萩原真一郎, 匹田典克, 藤川皓基, 細井賢二, 細見周平, 三上洋平, 三好潤, 八木隆介, 横山陽子: IBD患者における予防接種エキスパートコンセンサス. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
26. 仲瀬裕志, 林優希, 松浦稔, 久松理一: MEFV遺伝子変異に基づく炎症性腸疾患の層別化. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
27. 竹中健人, 大塚和朗, 土屋輝一郎, 渡辺守, 安藤朗, 馬場重樹, 大宮直木, 小林拓, 猿田雅之, 櫻井俊之, 田中信治, 林亮平, 久松理一, 松浦稔, 平井郁仁, 松岡克善, 松本主之, 梁井俊一, 山本博徳, 矢野智則, 長沼誠, 今枝博之, 渡辺憲治: クロウン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治癒検討 (SEBIO study). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会. オンライン. 2023年1月26日.
28. 齋藤勇利, 楠原光謹, 藤川やすえ, 堀越友樹, 鍛冶諒介, 宮本尚彦, 羽田裕, 大野亜希子, 久松理一, 二階雪野, 磯村杏耶, 柴原純二: 胃ポリポースに合併した胃腫瘍に対しESDを施行した一例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年12月10-11日.
29. 三井達也, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: クロウン病の診断およびモニタリングにおける小腸カプセル内視鏡の有用性についての検討. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年12月10-11日.
30. 稲田絢子, 権藤興一, 澁田秀則, 萩本直堯, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 吉池信哉, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 下山田博明, 柴原純二, 阪本良弘, 久松理一: EUS-guided tissue acquisitionにて診断し得た胆嚢癌肝転移の1例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年12月10-11日.
31. 友近瞬, 川村直弘, 加藤敦士, 關里和, 朽名貴史, 小暮正晴, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阪本良弘: CTが診断に有用であった肝内胆管内発育により再発した肝細胞癌の1例. 第372回日本消化器病学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年12月10日.
32. 大野亜希子: 上部消化管癌の内視鏡診断と治療. 第372回日本消化器病学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年12月10日.
33. 松浦稔: IBD治療薬における最新治療の使い分けとポイントー医師の立場からー. JSIBD主催メディカルスタッフ向け教育セミナー. オンライン. 2022年11月28日.
34. 齋藤大祐: ベドリズムマブによる潰瘍性大腸炎の治療戦略～内視鏡的寛解を目指して～. 伊勢崎佐波医師会学術講演会. オンライン. 2022年11月28日.
35. 久松理一: 特別企画1-半世紀を迎えた難病研究班の現在, 過去, 未来. 久松班(2020-2022)総括および今の研究班に求められているもの. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月25日.
36. 久松理一, Bruce E. Sands, David T. Rubin, Gary R. Lichtenstein, Nicole Shipitofsky, Kuan-Hsiang G. Huang, Matthew Germinaro, Rebecca Wilson, Hongyan Zhang, 永坂真也, G. Aaron DuVall, Qian Cao, Jessica R. Allegretti, Brian G. Feagan, Laurent Peyrin-Biroulet, Julián Panés, Axel Dignass, Brian Bressler: 中等症から重症の潰瘍性大腸炎に対するグセルクマブの導入療法の有効性と安全性: QUASAR導入試験1. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
37. 久松理一, Remo Panaccione, David T. Rubin, Bruce E. Sands, Walter Reinisch, Geert D'Haens, Julián Panés, Susana Gonzalez, Kathleen Weisel, Aparna Sahoo, Mary Ellen Frustaci, Zijiang Yang, 永坂真也, William J. Sandborn, Anita Afzali, Silvio Danese, Jane M. Andrews: Brian G. Feagan on behalf of the GALAXI 1 investigators: 中等症から重症のクロウン病に対するグセルクマブの維持療法の有効性と安全性: GALAXI 1試験. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
38. 仲瀬裕志, 佐藤真弘, 新山勇人, 久松理一: 中等症から重症のクロウン病に対するウパダシチニブの第3相導入療法試験: 全体集団と日本人集団の結果. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
39. 杉本健, 村越かおる, 大野浩太, 久松理一: クロウン病患者におけるリサンキズマブの有効性: 生物学的製剤無効歴及び疾患部位別の第3相部分集団解析. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
40. 角田洋一, 村越かおる, 大野浩太, 久松理一: リサンキズマブはクロウン病患者の内視鏡所見を持続的に改善し, 炎症性バイオマーカーを正常化する. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
41. K Matsuoka, S Motoya, T Yamamoto, M Matsuura, T Fujii, S Shinzaki, Y Mikami, S Arai, J Oshima, Y Endo, H Yuasa, M Hoshi, T Hisamatsu: Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: an updated interim report of safety data. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月25日.
42. 藤麻武志, 松浦稔, 森久保拓, 萩原良太, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 発症早期の炎症性腸疾患患者における腸管外合併症の臨床的特徴. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月25日.
43. 小林拓, 日比紀文, 松岡克善, 渡辺守, 久松理一, 平井郁仁, Trevor Lissos, Xingyuan Li, Vipin Arora, 石塚智子, 里井洋一, Catherine Milch, Geert D'Haens, Bruce E. Sands: Mirikizumab (抗IL-23p19抗体)の日本人を含む潰瘍性大腸炎患者での第3相寛解導入試験. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
44. 小林拓, 日比紀文, 松岡克善, 渡辺守, 久松理一, 平井郁仁, Kathy Krueger, Trevor Lissos, Nathan Morris, Vipin Arora, 石塚智子, 里井洋一, Catherine

- Milch, Marla C. Dubinsky, Bruce E. Sands : Mirikizumab (抗IL-23p19抗体) の日本人を含む潰瘍性大腸炎患者での第3相維持療法試験. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月26日.
45. 松浦稔: IBD診療における地域連携. 第13回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 大阪. 2022年11月25日.
 46. 三好潤: IBD腸管エコーの導入と運用—自施設における経験—. 第40回日本大腸検査学会総会. 東京・オンライン. 2022年11月4-5日.
 47. 久松理一: 「クローン病小腸病変の診断・治療・モニタリング」. 第60回日本小腸学会学術集会. 広島. 2022年11月12日.
 48. 關里和, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 櫻井裕之, 久松理一: CEASにおける変異SLCO2A1トランスポーターの機能解析. 第60回日本小腸学会学術集会. 広島. 2022年11月12日.
 49. 長沼誠, 岡崎玲子, 久松理一: 多施設コホート研究による潰瘍性大腸炎入院例に対する各種治療法の評価. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 50. 三好潤, 森久保拓, 久松理一: 機械学習を用いた潰瘍性大腸炎におけるウステキスマブの有効性予測. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 51. 麻生喜祥, 小島洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大園研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸SM癌における粘液形質マーカーおよびp53による免疫組織化学的検討. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 52. 落合一成, 土岐真朗, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 権藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 悪性胆道狭窄に対するanti-reflux metal stent (ARMS) の使用経験. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 53. 久松理一, 村越かおる, 大野浩太, 仲瀬裕志: クローン病患者を対象としたリサンキズマブのPhase3維持療法試験: 全体集団と日本人部分集団の結果. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 54. 仲瀬裕志, 佐藤真弘, 池田公俊, 久松理一: 潰瘍性大腸炎に対するウパダシチニブの維持療法. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 55. 齋藤大祐: 5ASA不耐・アレルギー-現状と対応-. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 56. 大野亜希子: 今さら聞けない「大腸内視鏡スクリーニング」の基本. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27-30日.
 57. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の薬物治療について～ウステキスマブのリアルワールドエクスぺリエンス～. 第53回日本消化吸収学会総会. 東京. 2022年10月22日.
 58. 神林孔明, 土岐真朗, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 内視鏡的結石除去が困難な症例に対するMTWディスプレイザブルクラッシュャーカテーテル POWER CATCHの使用経験. 第58回日本胆道学会学術集会. 横浜. 2022年10月14日.
 59. 西成田悠, 三好潤, 和田晴香, 小栗典明, 黒沼智, 日比則孝, 竹内修, 松浦稔, 小林拓, 秋元義弘, 日比紀文, 久松理一: 幼少期における腸管微生物叢成立と宿主免疫発達の特徴. 第50回臨床免疫学会総会. 東京. 2022年10月14日.
 60. 江藤晃一郎, 三浦みき, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 磯村杏耶, 林玲匡, 柴原純二, 長島文夫, 久松理一: 肝門部胆管癌に対するPembrolizumab投与中に腸炎症状の増悪をみとめた潰瘍性大腸炎の1例. 第371回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2022年9月24日.
 61. 加藤敦士, 關里和, 馬上千尋, 友近瞬, 宮内亮輔, 森久保拓, 箕輪慎太郎, 竹内かおり, 菊池華子, 川村直弘, 小野澤志郎, 森秀明, 久松理一: 肺動脈性肺高血圧症と肝限局性結節性過形成を併発した先天性肝内門脈肝静脈短絡の1例. 第29回日本門脈圧亢進症学会総会. 大阪・オンライン. 2022年9月8日.
 62. 久松理一: 5-ASAの作用機序を再考する～腸内細菌叢の関与も含めて～. モーニングセミナー. 第59回日本消化器免疫学会総会. 大阪・オンライン. 2022年7月28-29日.
 63. 西成田悠, 三好潤, 和田晴香, 小栗典明, 黒沼智, 日比則孝, 竹内修, 松浦稔, 小林拓, 秋元義弘, 日比紀文, 久松理一: 幼少期における腸管微生物叢成立と宿主免疫発達の特徴. 第59回日本消化器免疫学会総会. 大阪・オンライン. 2022年7月28-29日.
 64. 白川貴大, 楠原光謹, 藤川やすえ, 堀越友樹, 鍛冶諒介, 宮本尚彦, 羽田裕, 大野亜希子, 久松理一: 経口腸管洗浄剤服用後に低ナトリウム血症をきたした一例. 第370回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2022年7月16日.
 65. 神林孔明, 土岐真朗, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 三好潤, 久松理一: 胆石性膵炎に対する緊急内視鏡治療介入の要因における性差. 第18回消化器病における性差医学・医療研究会. 京都. 2022年7月16日.
 66. 齋藤大祐, 松浦稔, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 当院における高齢化および高齢発症潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴に関する検討. 第24回日本高齢消化器病学会. 京都. 2022年7月16日.
 67. 松岡克善, 松浦稔, 加藤順, 水島恒和, 熊谷秀規, 村上義孝, 朝倉敬子, 久松理一, 西脇祐司: 新規診断炎症性腸疾患患者を対象とした全国規模レジストリ構築. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会. オンライン. 2022年7月14日.
 68. 仲瀬裕志, 林優希, 松本主之, 松浦稔, 飯島英樹, 松岡克善, 大宮直木, 石原俊治, 平井郁仁, 久松理一: JAPAN IBD-COVID 19 Taskforceの活動報告(J-COSMOS(中間解析後のデータ)・J-DESIRE). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会. オンライン. 2022年7月14日.
 69. 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 松浦稔, 横山佳浩, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 前本篤男, 田中浩紀, 櫻庭裕丈, 橋本悠, 浦岡俊夫, 鈴木英雄, 土屋輝一郎, 松岡克善, 加藤真吾, 長堀正和, 吉村直樹, 豊永貴彦, 猿田雅之, 大森鉄平, 佐上晋太郎, 小林拓, 横山薫, 南條宗八, 北村和哉, 杉本健, 大宮直木, 中村正直, 谷田諭史, 土田研司, 横山正, 山本修司, 守屋圭, 深田憲将, 長沼誠, 新崎信一郎, 西下正和, 青山伸郎, 佐藤寿行, 河合幹夫, 上小鶴孝二, 横山陽子, 平岡佐規子, 半田修, 塩谷昭子, 三島義之, 石原俊治, 船越禎広, 平井郁仁, 武富啓展, 江崎幹宏, 高津典孝, 梅野淳嗣, 野島正寛, 安藤朗: 日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化: 多施設共同前向き研究(J-COMBAT). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸

- 管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
70. 松岡克善, 小林拓, 新崎信一郎, 高津典孝, 藤井俊光, 三好潤, 河口貴昭, 山崎大, 内野基, 岩間達, 岩田直美, 野島正寛, 長沼誠, 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的薬レジストリの構築。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 71. 松本主之, 梁井俊一, 久部高司, 川崎啓祐, 江崎幹宏, 志賀永嗣, 前田康晴, 吉田直久, 岡志郎, 斎藤豊, 渡辺憲治, 浦岡俊夫, 国崎玲子, 石原聡一郎, 緒方晴彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 72. 小林拓, 松岡克善, 藤谷幹浩, 竹内健, 東山正明, 新崎信一郎, 藤井俊光, 三好潤, 山崎大, 内野基, 野島正寛, 久松理一: 高齢者IBD患者データベース(レジストリ)作成。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 73. 梅野淳嗣, 冬野雄太, 鳥巢剛弘, 内田恵一, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 久部高司, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 74. 長沼誠, 福井寿朗, 長堀正和, 井上詠, 桐野洋平, 田中良哉, 馬場重樹, 三上洋平, 平井郁仁, 内野基, 松岡克善, 渡辺憲治, 松本主之, 松浦稔, 久松理一: 腸管ペーチェット病(岳野班・AMED水木班連携プロジェクト)。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 75. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田論史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 長沼誠, 細見周平, 鎌田紀子, 山本修司, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 穂苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 山下真幸, 金井隆典, 櫻井俊之, 猿田雅之, 本谷聡, 邊見慎一郎, 安川重義, 高津典孝, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 山田哲弘, 松岡克善, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 76. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 冬野雄太, 平井郁仁, 武田輝之, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 仲瀬裕志, 山本修司, 藤谷幹浩, 志賀永嗣, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二郎, 光山慶一, 猿田雅之, 櫻庭裕丈, 小山文一, 細江直樹, 緒方晴彦, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 杉田昭, 松岡克善, 鈴木康夫, 久松理一: クローン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義—多施設前向きコホート研究—。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 77. 中村志郎, 渡辺憲治, 江崎幹宏, 柿本一城, 竹内健, 長堀正和, 馬場重樹, 平井郁仁, 平岡佐規子, 穂苺量太, 三上洋平, 内野基, 小金井一隆, 東大二郎, 新井勝大, 清水泰岳, 長沼誠, 仲瀬裕志, 久松理一: 治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 78. 長沼誠, 中村志郎, 深田憲将, 松岡克善, 小林拓, 松浦稔, 猿田雅之, 加藤真吾, 加藤順, 横山薫, 石原俊治, 小金井一隆, 内野基, 水落建輝, 虻川大樹, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療指針改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 79. 長沼誠, 中村志郎, 宮寄孝子, 松岡克善, 吉岡慎一郎, 光山慶一, 阿部貴行, 小林拓, 斎藤大祐, 猿田雅之, 国崎玲子, 志賀永嗣, 横山薫, 石原俊治, 南條宗八, 佐々木誠人, 中澤敦, 中里圭宏, 守屋圭, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 高木智久, 林亮平, 田中信治, 長堀正和, 南木康作, 金井隆典, 仲瀬裕志, 我妻康平, 穂苺量太, 坂田資尚, 江崎幹宏, 大宮直木, 村杉瞬, 大森鉄平, 竹内健, 吉村直樹, 渡辺憲治, 田原利行, 北村和哉, 加藤順, 安富絵里子, 平岡佐規子, 梁井俊一, 松本主之, 山本章二郎, 橋本真一, 都築義和, 大井充, 日浅陽一, 細見周平, 久松理一: 治療指針に反映させるためのエビデンスに基づいた難治性炎症性腸疾患に対する治療ポジショニングの構築(日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業との共同研究)。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 80. 松浦稔, 長沼誠, 松岡克善, 小林拓, 猿田雅之, 藤井俊光, 加藤順, 加藤真吾, 平井郁仁, 渡辺憲治, 内野基, 新崎信一郎, 高木智久, 新井勝大, 虻川大樹, 岸本暢将, 樋口哲也, 中村志郎, 久松理一: 腸管外合併症治療指針の改訂。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 81. 滝川哲也, 角田洋一, 菊田和宏, 諸井林太郎, 志賀永嗣, 松本諒太郎, 木内喜孝, 久松理一, 中村誠司, 正宗淳: 炎症性腸疾患に合併する2型自己免疫性膵炎を含めた膵炎患者の実態調査。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 82. 猿田雅之, 小林拓, 新井勝大, 松浦稔, 新崎信一郎, 岸本暢将, 富田哲也: 炎症性腸疾患における骨・関節合併症の実態調査。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会。オンライン。2022年7月14日。
 83. 松本主之, 江崎幹宏, 大森鉄平, 櫻庭裕丈, 新崎新一郎, 杉本健, 竹中健人, 大塚和朗, 長沼誠, 馬場重樹, 久部高司, 平岡佐規子, 藤谷幹浩, 松浦稔, 梁井俊一, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 平井郁仁, 緒方晴彦, 久松理一: 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成にむけて。厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事

- 業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
84. 杉田昭，二見喜太郎，池内浩基，根津理一郎，高橋賢一，舟山裕士，板橋道朗，福島浩平，藤井久雄，小金井一隆，東大二郎，小山文一，水島恒和，松岡克善，平井郁仁，長堀正和，中村志郎，安藤朗，久松理一，橋本秀樹：潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOLの観点から- (prospective study)：横断研究中間解析．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
85. 石原聡一郎，味岡洋一，池内浩基，板橋道朗，内野基，浦岡俊夫，大北喜基，岡林剛史，河内洋，小金井一隆，斎藤豊，下田将之，杉田昭，菅井有，高橋賢一，高丸博之，田中信治，仲瀬裕志，長沼誠，畑啓介，東大二郎，藤井俊光，二見喜太郎，松浦稔，松田圭二，松本主之，水島恒和，渡辺憲治，渡谷祐介，山口直比古，吉田雅博，杉原健一，久松理一：「炎症性腸疾患関連癌診療ガイドライン」の作成について．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
86. 清水俊明，水落建輝，清水泰岳，虻川大樹，新井勝大，工藤孝広，熊谷秀規，石毛崇，岩間達，内田恵一，井上幹大，国崎玲子，長沼誠，渡辺憲治，中村志郎，久松理一：小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
87. 清水俊明，熊谷秀規，岩間達，萩原真一郎，工藤孝広，高橋美智子，齋藤武，国崎玲子，内野基，平岡佐規子，長沼誠，杉本健，三好潤，澁谷智義，久松理一：トランジションのコンセンサス形成に関するプロジェクト．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
88. 石毛崇，久松理一，清水俊明，渡辺憲治，新井勝大，亀井宏一，工藤孝広，国崎玲子，徳原大介，長沼誠，水落建輝，村島温子，猪野木雄太，岩田直美，岩間達，肥沼幸，清水泰岳，神保圭佑，高木祐吾，高橋昌兵，趙有季，南部隆亮，西田大恭，萩原真一郎，匹田典克，藤川皓基，細井賢二，細見周平，三上洋平，三好潤，八木隆介，横山陽子：IBD患者における予防接種 エキスパートコンセンサス．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
89. 仲瀬裕志，林優希，松浦稔，久松理一：MEFV遺伝子変異に基づく炎症性腸疾患の層別化．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
90. 竹中健人，大塚和朗，土屋輝一郎，渡辺守，安藤朗，馬場重樹，大宮直木，小林拓，猿田雅之，櫻井俊之，田中信治，林亮平，久松理一，松浦稔，平井郁仁，松岡克善，松本主之，梁井俊一，山本博徳，矢野智則，長沼誠，今枝博之，渡辺憲治：クローン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治療検討 (SEBIO study)．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
91. 仲瀬裕志，林優希，松本主之，松浦稔，飯島英樹，松岡克善，大宮直木，石原俊治，平井郁仁，久松理一：J-COSMOS中間解析・サブ解析報告．厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第1回総会．オンライン．2022年7月14日．
92. 久松理一：潰瘍性大腸炎におけるVedolizumabのポテンシャル～自施設の成績も含めて～．第119回日本消化器病学会九州支部例会・第113回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．佐賀．2022年6月24日．
93. 荻本直亮，尾崎良，藤麻武志，森久保拓，宮本尚彦，徳永創太郎，羽田裕，楠原光謹，磯谷一暢，神保陽子，大野亜希子，齋藤大祐，橋本佳和，長濱清隆，竹内弘久，藤原正親，阿部展次，久松理一：消化管出血を契機に診断された胃異所性腺の1例．第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会．東京・オンライン．2022年6月11-12日．
94. 森久保拓，齋藤大祐，三好潤，松浦稔，久松理一：潰瘍性大腸炎におけるUstekinumab治療による内視鏡的寛解に関連する臨床的因子の検討．第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会．東京・オンライン．2022年6月11-12日．
95. 久松理一：LCIを用いた潰瘍性大腸炎の内視鏡観察と評価．第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会．東京・オンライン．2022年6月11-12日．
96. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎の基本的な治療の最適化．炎症性腸疾患治療のUp to Date～日本から発信された炎症性腸疾患の新しい知見．第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会．東京・オンライン．2022年6月11-12日．
97. 松浦稔，小野慶介，岸本暢将，久松理一：炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎．第95回日本整形外科学会学術総会．神戸．2022年5月21日．
98. 川村直弘，加藤敦士，關里和，西川かおり，岸野智則，森秀明，久松理一：Complicated liver cystの形態分類．日本超音波医学会第95回学術集会．名古屋．2022年5月20日．
99. 落合一成，土岐真朗，山田貴大，川本翔，神林孔明，野坂岳志，権藤興一，渡邊俊介，久松理一：内視鏡的経乳頭の胆管深部挿管が困難な症例に対するPTGBD rendezvous法の有用性．第103回日本内視鏡学会総会．京都・オンライン．2022年5月13-15日．
100. 齋藤大祐，平井郁仁，久松理一：Linked color imagingによる潰瘍性大腸炎内視鏡観察～組織所見を反映する内視鏡評価スケールの確立 (SOUL Study)～．第103回日本内視鏡学会総会．京都・オンライン．2022年5月13-15日．
101. 土岐真朗，渡邊俊介，久松理一：ERCP関連手技における新型コロナウイルス感染対策-室内換気指標としてCO₂濃度モニタリングを用いた検討-．第103回日本内視鏡学会総会．京都・オンライン．2022年5月13-15日．
102. 権藤興一，土岐真朗，山田貴大，川本翔，神林孔明，野坂岳志，落合一成，渡邊俊介，林玲匡，柴原純二，久松理一：膵管癌に対するEUS-FNA/Bの白色検体の有無による診断能の検討．第103回日本内視鏡学会総会．京都・オンライン．2022年5月13-15日．
103. 澁田秀則，権藤興一，山田貴大，川本翔，神林孔明，鶴久大介，野坂岳志，落合一成，仁科善雄，石本麻衣，北濱圭一郎，渡邊俊介，松木亮太，小暮正晴，土岐真朗，鈴木裕，下山田博明，柴原純二，阪本良弘，久松理一：診断基準を満たさないものの臨床経過からインスリンノーマが考えられた膵NETの1例．第369回日本消化器病学会関東支部例会．オンライン．2022年5月14日．
104. 広田玲，岡野尚弘，林雅人，西岡真理子，前園知宏，河合桐男，水谷友紀，關里和，川村直弘，長島文夫：5次治療のアテゾリズマブ/ペバシズマブ併用療法に

より mRECIST で CR が得られた肝細胞癌の一例。第 369 回日本消化器病学会関東支部例会。オンライン。2022 年 5 月 14 日。

105. 三好潤, 和田晴香, 久松理一: 5-アミノサリチル酸の抗炎症作用機序における腸管微生物叢の関与。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
106. 齋藤大祐, 松浦稔, 久松理一: 潰瘍性大腸炎患者に対する Vedolizumab 治療による内視鏡的寛解の予測因子と長期経過に関する検討。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
107. 我妻康平, 仲瀬裕志, 松本主之, 松岡克善, 松浦稔, 大宮直木, 飯島英樹, 平井郁仁, 石原俊治, 野島正寛, 久松理一: Japan COVID-19 Surver and Questionnaire in inflammatory bowel disease (J-DESIRE)。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
108. 久松理一, 村越かおる, 大野浩太, 仲瀬裕志: 中等症から重症のクローン病患者に対するリサンキズマブ導入療法: 国際共同第 3 相導入療法試験 (ADVANCE) における全体集団及び日本人部分集団の結果。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
109. 藤井俊光, 村越かおる, 大野浩太, 久松理一: 中等症から重症のクローン病患者に対するリサンキズマブ導入療法による内視鏡的寛解/改善の効果: 国際共同第 3 相導入療法試験 (ADVANCE)。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
110. 本谷聡, 村越かおる, 大野浩太, 久松理一: 中等症から重症のクローン病患者に対するリサンキズマブ導入療法による早期臨床的寛解/改善の効果: 国際共同第 3 相導入療法試験 (ADVANCE)。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
111. 杉本健, 村越かおる, 大野浩太, 久松理一: クローン病患者の Patient-Reported Outcome に対するリサンキズマブの効果: 国際共同第 3 相導入療法試験 (ADVANCE)。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
112. 仲瀬裕志, 佐藤真弘, 池田公俊, 久松理一: 中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者におけるウパダシチニブ導入療法の有効性及び安全性: 全体集団及び日本人集団の結果。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
113. 大野亜希子, 楠原光謹, 久松理一: 高齢者早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剝離術施行後の長期予後に関する検討。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
114. 川村直弘, 森秀明, 久松理一: CAP, ATI による脂肪肝の評価。第 108 回日本消化器病学会総会。東京・オンライン。2022 年 4 月 21-23 日。
115. 徳永創太郎, 松浦稔, 齋藤大祐, 箕輪慎太郎, 三井達也, 久松理一: 腸閉塞を繰り返す非特異性多発性小腸潰瘍症の小腸狭窄に対して内視鏡的拡張術を施行した一例。第 1 回 Interventional IBD 研究会“IBD 診療における消化器内視鏡の可能性を探る”。東京。2022 年 4 月 23 日。
116. 久松理一: 分子標的治療薬登場による炎症性腸疾患診療のパラダイムシフト。第 119 回日本内科学会講演会。京都・オンライン。2022 年 4 月 15-17 日。
117. 野口伸一郎, 野坂岳志, 渡邊俊介, 神林孔明, 落合一成, 権藤興一, 土岐真朗, 鈴木裕, 阪本良弘, 久松理一: 腹腔鏡下胆嚢摘出術で使用した金属クリップを

核として形成された総胆管結石の 1 例。第 119 回日本内科学会講演会。京都・オンライン。2022 年 4 月 15-17 日。

研究会等発表

1. 川本翔, 落合一成, 土岐真朗, 久松理一: 診断に苦慮した膵尾部腫瘍の 1 例。肝胆膵外科・消化器内科合同カンファレンス。東京。2023 年 3 月 30 日。
2. 三好潤: はじめてみよう! 腸管エコー。Future Focused IBD。オンライン。2023 年 3 月 29 日。
3. 三好潤: 潰瘍性大腸炎における分子標的治療薬の有効性予測法の探求-機械学習を用いた新規アプローチを含めて-。下部消化管疾患 web seminar。オンライン。2023 年 3 月 24 日。
4. 落合一成, 土岐真朗: EUS-FNA にて診断し得た胆嚢癌肝転移の 1 例。東京 FNA クラブ。東京。2023 年 3 月 22 日。
5. 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療における腸管エコー~導入からモニタリングの実際~。IBD アップデートセミナー IN KANAGAWA。オンライン。2023 年 3 月 20 日。
6. 齋藤大祐: 5ASA 不耐症例への対応と治療戦略。IBD Web Seminar。オンライン。2023 年 3 月 10 日。
7. 三好潤: 炎症性腸疾患診療における腸管エコー。IBD セミナー 2023。オンライン。2023 年 3 月 16 日。
8. 土岐真朗: 急性胆道感染症の診断と治療。旭化成ファーマ株式会社講演会。オンライン。2023 年 2 月 27 日。
9. 神林孔明, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 土岐真朗: ERCP 関連手技におけるトラブルシューティング。第 6 回東京胆膵テクニカルカンファレンス。東京。2023 年 2 月 25 日。
10. 久松理一: 臨床医が炎症性腸疾患の基礎・臨床研究をする意味を考える。第 2 回熊本県 IBD フォーラム。熊本。2023 年 2 月 24 日。
11. 久松理一: T2T コンセンサス作成の背景と意義。T2T コンセンサス Web セミナー。オンライン。2023 年 2 月 21 日。
12. 三好潤: 炎症性腸疾患診療における腸管エコーの実際-当施設における導入と運用を含めて-。IBD Management Webinar。オンライン。2023 年 2 月 21 日。
13. 久松理一: クローン病 microbiome 治療時代における成分栄養療法のポテンシャル。第 3 回 Aminoacid Nutritional Immunology Seminar in 甲信越。オンライン。2023 年 2 月 17 日。
14. 久松理一: 潰瘍性大腸炎診療の up-to-date。潰瘍性大腸炎 最新情報 ハイブリッドセミナー。オンライン。2023 年 2 月 16 日。
15. 久松理一: クローン病診療の Up-to-date。第 20 回下野 IBD 研究会。東京。2023 年 2 月 15 日。
16. 久松理一: 潰瘍性大腸炎診療の up-to-date ~ ウステキスマブの成績を含めて ~。第 15 回埼玉 IBD フォーラム。浦和。2023 年 2 月 7 日。
17. 松浦稔: Best of 2022。トピックス & 生物学的製剤関連 (既存薬)。第 9 回 Kitasato Institute Webinars on IBD (KIWI)。オンライン。2023 年 2 月 7 日。
18. 久松理一: クローン病治療の Up To Date ~ スキリー久松® も含めて ~。IBD Forum in Toyama。富山。2023 年 1 月 27 日。
19. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療 ~ 基本から最新トピックス ~。小平市医師会学術講演会。オンライン。2023 年 1 月 19 日。

20. 土岐真朗：Endoscopic biliary drainage. 第1回杏林大学医学部付属病院胆膵勉強会. オンライン. 2023年1月19日.
 21. 久松理一：UC治療のUp To Date. 順天堂大学医学部附属練馬病院講演会. オンライン. 2023年1月18日.
 22. 久松理一：炎症性腸疾患マネージメントにおけるEBV感染. 第10回関西Bio Safety Forum. 大阪. 2023年1月14日.
 23. 大野亜希子：Helicobacter pylori除菌後胃癌に関する内視鏡所見と考慮すべき検査間隔. 多摩消化管治療セミナー. 東京. 2022年12月21日.
 24. 久松理一：クローン病治療におけるスキリージの有用性. 適応追加記念講演会 in 千葉. オンライン. 2022年12月15日.
 25. Miyoshi J：Intestinal ultrasound for IBD in Asia-current situation and challenges. Janssen Asia Pacific社内講演. オンライン. 2022年12月13日.
 26. 久松理一：潰瘍性大腸炎治療におけるCAM inhibitor. カログラ錠新発売記念講演会in TOKAI. オンライン. 2022年12月9日.
 27. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎の診断と診療. 城南・島しょ支部勉強会. オンライン. 2022年12月9日.
 28. 久松理一：Covid-19禍におけるIBD診療. 医療従事者や患者に何が必要だったのか?～厚労省IBD班タスクフォース結成まで～. 全国Webセミナー企画Katariba. オンライン. 2022年12月7日.
 29. 久松理一：「潰瘍性大腸炎治療における新規治療薬について～ウステキヌマブをはじめとした分子標的治療の進歩を含めて～」. Tokyo IBD Surgical Conference 2022. 2022年12月2日.
 30. 松浦稔：IBD診療における地域連携. 日本化薬 社内研修会. オンライン. 2022年11月28日.
 31. 三好潤：潰瘍性大腸炎診療における腸管エコーのエビデンスと実践. IBD Academic Program. オンライン. 2022年11月16日.
 32. 久松理一：IBD診療のup to date. ～RisankizumabとUpadacitinibを含めて～ HIROSHIMA IBD Expert Forum 2022. 広島. 2022年11月10日.
 33. 久松理一：5年間で培われたEvidenceに基づくUstekinumabの有用性. Stelara® Crohn's Disease Expert Seminar. 東京. 2022年11月8日.
 34. 久松理一：IBD診療のup to date～RisankizumabとUpadacitinibを含めて～. 函館消化器病懇談会 学術講演会. 函館. 2022年11月4日.
 35. 久松理一：炎症性腸疾患の薬物療法の進歩. 薬薬連携講演会. オンライン. 2022年11月2日.
 36. 松浦稔：潰瘍性大腸炎の粘膜治癒における画像強調内視鏡 (IEE) の役割. IBD Expert Webセミナー. オンライン. 2022年10月19日.
 37. 久松理一：潰瘍性大腸炎診療のUp to date～患者参加型医療の実践も含めて～. 第20回Nagasaki Bowel Club. 長崎. 2022年10月6日.
 38. 松浦稔：EBMから考えるUstekinumabの有用性. IL-12/23p40 CLUB in Kansai. オンライン. 2022年10月1日.
 39. 神林孔明, 石田拓也, 澁田秀則, 白川貴大, 木村容子, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 土岐真朗, 久松理一：DICを合併した重症急性胆管炎の1例. 多摩消化器内科DIC講演会. オンライン. 2022年9月9日.
 40. 久松理一：潰瘍性大腸炎診療のup-to-date. ～ウステキヌマブをはじめとした分子標的治療の進歩を含めて～. 炎症バイオ製剤勉強会. 甲府・オンライン. 2022年9月7日.
 41. 久松理一：UC診療の現状と今後の課題－患者増にどう立ち向かうか－. カログラ錠新発売記念講演会. 東京. 2022年9月3日.
 42. 久松理一：潰瘍性大腸炎診療におけるT2T (Treat to Target) の重要性. 北多摩地区UCカンファレンス. オンライン. 2022年9月2日.
 43. 松浦稔：IBDの病態とメカニズム. 武田薬品工業 医学教育会. オンライン. 2022年8月30日.
 44. Hisamatsu T：From Trial to the Real World: Experience with Stelara in Patients with Ulcerative Colitis in JapanThe 2nd Anniversary Symposium of Stelara Treatment for Patients with Inflammatory Bowel Disease. 台湾・オンライン. 2022年8月27-28日.
 45. 松浦稔：IBDにおけるチオプリン製剤. ヤンセンファーマWeb社内勉強会. オンライン. 2022年8月9日.
 46. 久松理一：ランチョンセミナー 潰瘍性大腸炎治療UP TO DATE. 臨床消化器病研究会. 東京. 2022年7月30日.
 47. 松浦稔：進歩するIBD診療－その基本と注意点. ヴィアトリス消化管セミナー. オンライン. 2022年7月26日.
 48. 久松理一：UCの基本治療を考える－ステロイドを中心に－. 潰瘍性大腸炎 Hybrid seminar in 東京. 東京・オンライン. 2022年7月23日.
 49. 久松理一：IBD診療のup to date. IBD FORUM in 新潟 2022. オンライン. 2022年7月19日.
 50. 久松理一：潰瘍性大腸炎治療 UP TO DATE. 第39回北河内炎症性腸疾患カンファレンス. 大阪. 2022年7月16日.
 51. 松浦稔：高齢発症UCの臨床的特徴とその注意点－自施設の検討を含めて. Ulcerative Colitis 全国Webセミナー. オンライン. 2022年7月6日.
 52. 松浦稔：IBD診療のABC－その基本と注意点. 第1回阪和下部消化管研究会. オンライン. 2022年6月23日.
 53. 三好潤：幼少期マイクロバイオーームと炎症性腸疾患. Future Focused IBD. オンライン. 2022年6月22日.
 54. 土岐真朗：急性膵炎・慢性膵炎・自己免疫性膵炎. 旭化成ファーマ株式会社社内講演会. 東京・オンライン. 2022年6月16日.
 55. 久松理一：実地医家に向けた「令和3年度潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針」改訂のポイント. ヒュミラ Internet Live Seminar. オンライン. 2022年6月9日.
 56. 久松理一：潰瘍性大腸炎治療のトピックス ジセレカを中心に. ジセレカ錠UC適応追加記念講演会in関東甲信越. オンライン. 2022年5月31日.
 57. 松浦稔：IBD治療におけるチオプリン製剤. Meet the Expert in多摩 ～炎症性腸疾患編①～. オンライン. 2022年4月5日.
- 公開講座等**
1. 久松理一：潰瘍性大腸炎の診断と治療～基本から最新トピックス～. 小平市医師会学術講演会. オンライン. 2023年1月19日.
 2. 久松理一：炎症性腸疾患の薬物療法の進歩. 薬薬連携講演会. オンライン. 2022年11月2日.

3. 久松理一：腸管パーचेット病とはどんな病気？. 第43回パーचेット病友の会全国総会・医療講演会. オンライン. 2022年5月22日.
4. 久松理一：潰瘍性大腸炎治療の最前線 ～5ASAからBIOまで～. 世田谷区医師会内科医会 消化器研究会. オンライン. 2022年4月8日.

論文

英文原著・総説(original article, review)

1. Tokunaga K, Nakamura H, Toue S, Kato Y, Ida Y, Miyoshi S, Yoneyama R, Ohnishi H, Hisamatsu T, Okamoto S: Plasma free amino acid profiles are associated with serum high molecular weight adiponectin levels in Japanese medical check-up population without type 2 diabetes mellitus. *Amino Acids*. 2023. doi: 10.1007/s00726-023-03257-6.
2. Yamamoto T, Nakase H, Watanabe K, Shinzaki S, Takatsu N, Fujii T, Okamoto R, Matsuoka K, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Shiga H, Bamba S, Mikami Y, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Maemoto A, Murata Y, Yoshigoe S, Nagasaka S, Yajima T, Hisamatsu T; iCREST-CD Study Group: Diagnosis and Clinical Features of Perianal Lesions in Newly Diagnosed Crohn's Disease: Subgroup Analysis from Inception Cohort Registry Study of Patients with Crohn's Disease (iCREST-CD). *J Crohns Colitis*. 2023. doi: 10.1093/ecco-jcc/jjad038. Online ahead of print.
3. Okano N, Matsuki R, Toki M, Gondo K, Ochiai K, Watanabe S, Tateishi H, Kogure M, Suzuki Y, Sugiyama M, Nagashima F, Shibahara J, Sakamoto Y, Furuse J: A Prospective Study of Neoadjuvant Gemcitabine Plus Nab-paclitaxel in Patients with Borderline-resectable Pancreatic Cancer. *Intern Med*. 62(3). 327-334. 2023.
4. Shigoka H, Toki M, Takahashi S, Takahara N, Kitamura K, Iwasaki E, Nakahara K, Isayama H, Nakai Y, Maetani I: Gastroduodenal Stenting with a Flexible Stent Demonstrates Favorable Clinical Effectiveness despite Gradual Expansion: A Multicenter Prospective Study. *J Clin Med*. 12(3).850. 2023.
5. Ishige T, Shimizu T, Watanabe K, Arai K, Kamei K, Kudo T, Kunisaki R, Tokuhara D, Naganuma M, Mizuochi T, Murashima A, Inoki Y, Iwata N, Iwama I, Koinuma S, Shimizu H, Jimbo K, Takaki Y, Takahashi S, Cho Y, Nambu R, Nishida D, Hagiwara SI, Hikita N, Fujikawa H, Hosoi K, Hosomi S, Mikami Y, Miyoshi J, Yagi R, Yokoyama Y, Hisamatsu T: Expert consensus on vaccination in patients with inflammatory bowel disease in Japan. *J Gastroenterol*. 58(2). 135-157. 2023.
6. Nakase H, Wagatsuma K, Nojima M, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Takeuchi K, Tamura S, Kinjo F, Ueno N, Naganuma M, Watanabe K, Moroi R, Nishimata N, Motoya S, Kurahara K, Takahashi S, Maemoto A, Sakuraba H, Saruta M, Tominaga K, Hisabe T, Tanaka H, Terai S, Hiraoka S, Takedomi H, Narimatsu K, Endo K, Nakamura M, Hisamatsu T: Anxiety and behavioral changes in Japanese patients with inflammatory bowel disease due to

COVID-19 pandemic: a national survey. *J Gastroenterol*. 58(3).205-216. 2023.

7. Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Koyano KS, Ishikawa T, Toyoda H, Takaguchi K, Watanabe T, Matsuura K, Ogawa C, Hiraoka A, Okubo H, Tateyama M, Uojima H, Nozaki A, Chuma M, Kato K, Mikami S, Tani J, Morishita A, Kawata K, Tada T, Furuichi Y, Okubo T, Kawano T, Arai T, Kawabe N, Kawamura N, Ikegami T, Nakamuta M, Shigefuku R, Iwasa M, Tanaka Y, Hatano M, Iwakiri K: Risk factors for portopulmonary hypertension in patients with cirrhosis: a prospective, multicenter study. *Hepatol Int*. 17(1). 139-149. 2023.
8. Yamawaka T, Kitamoto H, Nojima M, Kazama T, Wagatsuma K, Ishigami K, Yamamoto S, Honzawa Y, Matsuura M, Seno H, Nakase H: The association between antigenemia, histology with immunohistochemistry, and mucosal PCR in the diagnosis of ulcerative colitis with concomitant human cytomegalovirus infection. *J Gastroenterol*. 58(1). 44-52. 2023.
9. Matsuura M, Saito D, Miyoshi J, Hisamatsu T: Possible Role of Image-Enhanced Endoscopy in the Evaluation of Mucosal Healing of Ulcerative Colitis. *Digestion*. 104(1). 42-50. 2023.
10. Dubinsky MC, Clemow DB, Hunter Gible T, Li X, Vermeire S, Hisamatsu T, Travis SPL: Clinical Effect of Mirikizumab Treatment on Bowel Urgency in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis and the Clinical Relevance of Bowel Urgency Improvement for Disease Remission. *Crohns Colitis* 360. 5(1). otac044. 2022.
11. Kumagai H, Shimizu T, Iwama I, Hagiwara SI, Kudo T, Takahashi M, Saito T, Kunisaki R, Uchino M, Hiraoka S, Naganuma M, Sugimoto K, Miyoshi J, Shibuya T, Hisamatsu T: A consensus statement on health-care transition for childhood-onset inflammatory bowel disease patients. *Pediatr Int*. 64(1). e15241. 2022.
12. Matsuoka K, Fujii T, Okamoto R, Yamada A, Kunisaki R, Matsuura M, Watanabe K, Shiga H, Takatsu N, Bamba S, Mikami Y, Yamamoto T, Shimoyama T, Motoya S, Torisu T, Kobayashi T, Ohmiya N, Saruta M, Matsuda K, Matsumoto T, Nakase H, Maemoto A, Shinzaki S, Murata Y, Yoshigoe S, Sasaki A, Yajima T, Hisamatsu T: Characteristics of adult patients newly diagnosed with Crohn's disease: interim analysis of the nation-wide inception cohort registry study of patients with Crohn's disease in Japan (iCREST-CD). *J Gastroenterol*. 57(11). 867-878. 2022.
13. Kita T, Ashizuka S, Takeda T, Matsumoto T, Ohmiya N, Nakase H, Motoya S, Ohi H, Mitsuyama K, Hisamatsu T, Kanmura S, Kato N, Ishihara S, Nakamura M, Moriyama T, Saruta M, Nozaki R, Yamamoto S, Inatsu H, Watanabe K, Kitamura K: Adrenomedullin for biologic-resistant Crohn's disease: a randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2a clinical trial. *J Gastroenterol Hepatol*. 37(11). 2051-2059. 2022.
14. Matsuoka K, Hisamatsu T, Kim HJ, Ye BD, Arai S, Hoshi M, Yuasa H, Tabira J, Toyozumi S, Shi N, Woo JS, Hibi T: Safety and efficacy of long-term

- tofacitinib treatment in East Asian patients with ulcerative colitis in OCTAVE Open. *J Gastroenterol Hepatol.* 37(10). 1884-1892. 2022.
15. Ono K, Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Kawai S, Sawada H, Matsuura M, Rodriguez VR, Proft F, Tada K, Tamura N, Taniguchi Y, Hirata A, Kameda H, Tsuji S, Kaneko Y, Dobashi H, Okano T, Haji Y, Morita A, Okada M, Komagata Y, Medina CL, Molto A, Dougados M, Hisamatsu T, Tomita T, Kaname S: Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis. *Rheumatol Int.* 42(10). 1751-1766. 2022.
 16. Seki S, Tanaka G, Kimura T, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Sakurai H, Hisamatsu T: Functional analysis of mutant SLCO2A1 transporters found in patients with chronic enteropathy associated with SLCO2A1. *J Gastroenterol Hepatol.* 37(9). 1776-1784. 2022.
 17. Frazier K, Kambal A, Zale EA, Pierre JF, Hubert N, Miyoshi S, Miyoshi J, Ringus DL, Harris D, Yang K, Carroll K, Hermanson JB, Chlystek JS, Overmyer KA, Cham CM, Musch MW, Coon JJ, Chang EB, Leone VA: High-fat diet disrupts REG3γ and gut microbial rhythms promoting metabolic dysfunction. *Cell Host Microbe.* 30(6). 809-823.e6. 2022.
 18. Kimoto Y, Ohata K, Sakai E, Ohno A, Ito T, Tsuji Y, Chiba H: Use of a detachable snare with polyglycolic acid sheets in a simple and novel shielding method for post-endoscopic submucosal dissection ulcers. *Endoscopy.* 54(7). E389-E390. 2022.
 19. Watanabe S, Toki M, Kambayashi K, Kitada S, Nosaka T, Ochiai K, Gondo K, Shibahara J, Hisamatsu T: Successful treatment of mediastinal pancreatic pseudocyst and pancreatic pleural effusion with endoscopic pancreatic duct drainage: A case report. *DEN open.* 3(1). e133. 2022.
 20. Ferrante M, Panaccione R, Baert F, Bossuyt P, Colombel JF, Danese S, Dubinsky M, Feagan BG, Hisamatsu T, Lim A, Lindsay JO, Loftus EV Jr, Panés J, Peyrin-Biroulet L, Ran Z, Rubin DT, Sandborn WJ, Schreiber S, Neimark E, Song A, Kligys K, Pang Y, Pivorunas V, Berg S, Duan WR, Huang B, Kalabic J, Liao X, Robinson A, Wallace K, D'Haens G: Risankizumab as maintenance therapy for moderately to severely active Crohn's disease: results from the multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, withdrawal phase 3 FORTIFY maintenance trial. *Lancet.* 399(10340). 2031-2046. 2022.
 21. D'Haens G, Panaccione R, Baert F, Bossuyt P, Colombel JF, Danese S, Dubinsky M, Feagan BG, Hisamatsu T, Lim A, Lindsay JO, Loftus EV Jr, Panés J, Peyrin-Biroulet L, Ran Z, Rubin DT, Sandborn WJ, Schreiber S, Neimark E, Song A, Kligys K, Pang Y, Pivorunas V, Berg S, Duan WR, Huang B, Kalabic J, Liao X, Robinson A, Wallace K, Ferrante M: Risankizumab as induction therapy for Crohn's disease: results from the phase 3 ADVANCE and MOTIVATE induction trials. *Lancet.* 399(10340). 2015-2030. 2022.
 22. Ozaki R, Saito D, Mizukawa Y, Hisamatsu T: Ulcerative colitis complicated with linear immunoglobulin A bullous dermatosis. *BMJ Case Rep.* 15(5). e248814. 2022.
 23. Matsuoka K, Nagano K, Nagasaki S, Murata Y, Hisamatsu T: Symptom Improvement of ulcerative colitis after an Induction dose of Ustekinumab in Japanese clinical practice (SIRIUS), measured using patient-reported outcomes: a prospective observational study. *BMJ Open.* 12(5). e060081. 2022.
 24. Okano N, Matsuki R, Toki M, Gondo K, Ochiai K, Watanabe S, Tateishi H, Kogure M, Suzuki Y, Sugiyama M, Nagashima F, Shibahara J, Sakamoto Y, Furuse J: A Prospective Study of Neoadjuvant Gemcitabine Plus Nab-paclitaxel in Patients with Borderline-resectable Pancreatic Cancer. *Intern Med.* 62(3). 327-334. 2023.
 25. Kakuta Y, Iwaki H, Umeno J, Kawai Y, Kawahara M, Takagawa T, Shimoyama Y, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Shiga H, Watanabe K, Nakamura S, Nakase H, Sasaki M, Hanai H, Fuyuno Y, Hirano A, Matsumoto T, Kudo H, Minegishi N, Nakamura M, Hisamatsu T, Andoh A, Nagasaki M, Tokunaga K, Kinouchi Y; MENDEL study group, Masamune A: Crohn's disease and early exposure to thiopurines are independent risk factors for mosaic chromosomal alterations in patients with inflammatory bowel diseases. *J Crohns Colitis.* 16(4). 643-655. 2022.
 26. Kishi M, Hirai F, Takatsu N, Hisabe T, Takada Y, Beppu T, Takeuchi K, Naganuma M, Ohtsuka K, Watanabe K, Matsumoto T, Esaki M, Koganei K, Sugita A, Hata K, Futami K, Ajioka Y, Tanabe H, Iwashita A, Shimizu H, Arai K, Suzuki Y, Hisamatsu T: A review on the current status and definitions of activity indices in inflammatory bowel disease: how to use indices for precise evaluation. *J Gastroenterol.* 57(4). 246-266. 2022.
 27. Urata T, Kishino T, Watanabe K, Shibasaki S, Yotsukura M, Mori H, Kawamura N, Tanaka T, Osaka M, Matsushima S, Yamasaki S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T: Sonographically Measured Adipose Tissue Thickness Correlates with Laboratory Test Abnormalities Reflecting Metabolic State in Elderly Women. *Metab Syndr Relat Disord.* 20(3). 148-155. 2022.
- 邦文原著（学会誌等）
1. 落合一成, 土岐真朗, 澁田秀則, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 権藤興一, 渡邊俊介, 三好潤, 久松理一: 当院におけるERCP関連手技に対するCOVID-19感染防護対策の変遷. *Kyorin University Journal.* 40. 1-8. 2023.
 2. 久松理一: 炎症性腸疾患の薬物治療. *東京都病院薬剤師会雑誌.* 72(1). 9-18. 2023.
 3. 久松理一: 分子標的治療が変える内科学 分子標的治療登場による炎症性腸疾患診療のパラダイムシフト. *日本内科学会雑誌.* 111(9). 1811-1817. 2022.
 4. 久松理一, 桶川隆嗣: 対談-急増する炎症性腸疾患診療の現状と課題-. *杏林医学会雑誌.* 53(1). 11-15. 2022.
 5. 久松理一, 猿田雅之, 緒方晴彦: 主題5「IBD診療における内視鏡診断・モニタリング・治療の進歩」. 司

会者総括 *Progress of Digestive Endoscopy* . 100(1). 12-13. 2022.

6. 神林孔明, 土岐真朗, 荻本直堯, 山田貴大, 川本翔, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 高齢者総胆管結石症内視鏡治療例における退院困難因子の検討. *日本高齢消化器病学会雑誌*. 24(2). 19-25. 2022.

邦文商業誌

1. 三好潤, 久松理一: 幼小児期の腸内微生物叢の発達. *小児外科*. 55(2). 125-128. 2023.
2. 大野亜希子: 治療・技術的アプローチ T1癌の内視鏡治療戦略 部位別・肉眼型別におけるESD治療-Gateway methodも含め. *消化器内視鏡*. 35(1). 67-74. 2023.
3. 土岐真朗, 澁田秀則, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 【胆石症診療-最新のガイドラインをふまえて-】胆嚢結石 胆嚢結石に対する内科的治療. *肝胆膵*. 86(1). 31-35. 2023.
4. 三好潤, 久松理一: IBD診療現場のPros & Cons 免疫調節薬と抗TNF α 抗体製剤(併用)で長期寛解維持中の潰瘍性大腸炎患者, 止めるならどちらか? 免疫調節剤orTNF α 抗体製剤 免疫調節薬の立場から. *IBD Research*. 16(3). 180-183. 2022.
5. 三好潤: Lab. Scope研究室によるこそ. *消化器病学サイエンス*. 6(3). 198-200. 2022.
6. 大野亜希子: 【胃疾患アトラス改訂版】特殊な形態を呈する病変 胃内異物. *消化器内視鏡*. 34巻増刊号. 326-327. 2022.
7. 土岐真朗, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 権藤興一, 久松理一: 【胆道ドレナージのすべて-適応・方法】総論 ドレナージカテーテル, ステンツの種類と特徴. *臨床消化器内科*. 37(10). 1281-1299. 2022.
8. 久松理一: 【炎症性腸疾患の治療戦略と手術】総論炎症性腸疾患の内科治療-現状と課題-. 手術. 76(7). 993-1000. 2022.
9. 大野亜希子: 【症例から学ぶ胃ESD-改訂ガイドラインwith and beyond-】高難度症例を克服する 噴門部病変の攻略方法. *消化器内視鏡*. 34(7). 1255-1261. 2022.
10. 久松理一, 田村哲嗣, 竹中健人, 三好潤: 特集 消化器診療を変えるartificial intelligence (AI)~あなたは人工知能と機械学習と真相学習の違いを説明できる?~炎症性腸疾患マネジメントへのAI・機械学習の導入 座談会. *消化器病学サイエンス*. 6(2). 69-77. 2022.
11. 三好潤, 久松理一: 【消化器診療を変えるartificial intelligence (AI)~あなたは人工知能と機械学習と真相学習の違いを説明できる?~】炎症性腸疾患治療薬の有効性予測における機械学習の可能性. *消化器病学サイエンス*. 6(2). 101-104. 2022.
12. 松浦稔, 久松理一: 【潰瘍性大腸炎 内科診療の即戦力を身につける!-急増する患者の日常診療に求められる必須アップデート-】COVID-19流行下の内科診療とワクチン接種における注意点-今一番必要な情報を学ぶ-. *消化器内科*. 4(6). 40-47. 2022.
13. 久松理一, 松浦稔: 【COVID-19と消化器疾患】炎症性腸疾患とCOVID-19. *消化器・肝臓内科*. 11(3). 366-375. 2022.
14. 福本祐子, 土居洋介, 山本隆行, 下山貴寛, 久松理一, 櫻庭彰人, 松岡克善, 藤井俊光, 本林麻衣子, 竹中健人, 大塚和朗, 渡辺守, 小林拓, 日比紀文: 潰瘍性大

腸炎における便中バイオマーカー測定 of 臨床的有用性. *医学と薬学*. 79(4). 575-584. 2022.

著書 英文

1. Ryota Hokari, Tadakazu Hisamatsu, Masaaki Higashiyama: Atlas of Cronkhite-Canada Syndrome. Ryota Hokari and Tadakazu Hisamatsu (Editors). Springer. 2022. 1-178.
2. Tahliyah S. Mims, Jun Miyoshi, Joseph F. Pierre: Chapter 7: Early Life Microbiome Colonization and Human Health. Metabolism of Nutrients by Gut Microbiota. Joseph F. Pierre (Editor). Royal Society of Chemistry. 2022. 150-172.

邦文

1. 齋藤大祐, 久松理一(分担執筆): III章消化器疾患 C. 腸 6.潰瘍性大腸炎. *消化器疾患最新の治療2023-2024*. 山本博徳, 瀬戸泰之, 吉治仁志 編集. 南江堂. 2022. 182-185.
2. 土岐真朗, 久松理一(分担執筆): 急性胆嚢炎/急性胆管炎. *消化器疾患のゲシュタルト*. 中野弘康 編著. 金芳堂. 2022. 248-256.

報告書

1. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究(令和4年度)総括/分担研究報告書: 総括研究報告.

受賞

1. 三浦みき: 第11回杏林医学会研究奨励賞受賞.

その他

1. 久松理一: 特別発言JGES Core Session 3 AIを用いた下部消化管内視鏡診断の現状と課題. 第103回日本内視鏡学会総会. 京都・オンライン. 2022年5月13-15日.
2. 久松理一: 特別発言シンポジウム1炎症性腸疾患へのカプセル内視鏡の果たすべき役割-診断と治療より-. 第16回日本カプセル内視鏡学会学術集会. 東京. 2023年2月5日.

糖尿病・内分泌・代謝内科学教室

講演

1. 近藤琢磨: 経口GLP-1受容体作動薬を用いた糖尿病治療の新たな展開. GLP-1 Web講演会. オンライン. 2022年4月4日.
2. 安田和基: 糖尿病医から見た、合併症としての糖尿病性腎症の特徴. 第2回TAMA Diabetes & Kidney Conference. オンライン. 2022年4月20日.
3. 近藤琢磨: 2型糖尿病における1日1回注射の上手な活用法. Microsoft Teams Web講演会. オンライン. 2022年4月22日.
4. 和田祥佳, 鶴久大介, 藤井隆史郎, 山崎宰, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: プロトンポンプ阻害薬の内服により低Mg血症, 低Ca血症を呈した一例. 第677回日本内科学会関東地方会. 東京・オンライン. 2022年5月8日.
5. 久場越志, 七条裕孝, 恩田智子, 竹脇史絵, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 安田和基: COVID-19パンデミック対応の妊娠糖尿病の基準から得られた臨床的特徴について. 第65回日

- 本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月12日.
6. 南塚拓也, 前澤善朗, 宇田川陽秀, 遠藤裕介, 安田和基, 横手幸太郎: 内臓脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化を抑制する. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月13日.
 7. 小谷紀子, 島田朗, 川崎英二, 福井智康, 中條大輔, 今川彰久, 霜田雅之, 寺川瞳子, 阿比留教生, 粟田卓也, 池上博司, 及川洋一, 大澤春彦, 小澤純二, 香月健志, 金重勝博, 高橋和真, 土屋恭一郎, 長澤幹, 能宗伸輔, 安田和基, 安田尚史, 春日雅人, 小林哲郎, 花房俊昭, 梶尾裕: 緩徐進行1型糖尿病における膵島関連自己抗体の評価「日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開」より. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月13日.
 8. 岩佐宏晃, 前田健吾, 堀岡希衣, 三宅克也, 松本征仁, 安田和基, 西村渉: 膵島内における成熟膵β細胞のサブタイプとその局在の解析. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月14日.
 9. 北原敦子, 高橋和人, 近藤健, 近藤琢磨, 安田和基: 膵β細胞株MIN6細胞におけるオートファジー不全化でのアスタキサンチンの抗炎症作用の検討. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月14日.
 10. 南茂隆生, 小澤純二, 福井健司, 下村伊一郎, 安田和基: 環境因子による膵島ヒストンアセチル化の網羅的变化の解析を通じた, 自然発症2型糖尿病モデルマウスの遺伝的構造に関する検討. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月14日.
 11. 恩田智子, 竹脇史絵, 久場起志, 七条裕孝, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 安田和基: 妊娠糖尿病スクリーニングにおけるCOVID-19パンデミック対応の妥当性について. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月14日.
 12. 長江亮太, 橘恵, 今川彰久, 寺前純吾, 金網規夫, 小谷紀子, 高橋信行, 寺川瞳子, 阿比留教生, 粟田卓也, 池上博司, 能宗伸輔, 岩橋博見, 及川洋一, 島田朗, 大澤春彦, 川村良一, 大津洋, 香月健志, 金重勝博, 川崎英二, 小澤純二, 小林哲郎, 霜田雅之, 高橋和真, 中條大輔, 辻本哲郎, 土屋恭一郎, 長澤幹, 福井智康, 安田和基, 安田尚史, 柳内秀勝, 春日雅人, 花房俊昭, 梶尾裕: 1型糖尿病の発症時のビタミンD濃度 日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開(TIDE-J)より. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸・オンライン. 2022年5月14日.
 13. 近藤琢磨: 2型糖尿病治療における新たな経口GLP-1受容体作動薬の位置づけ. GLP-1 Web講演会. オンライン. 2022年5月24日.
 14. 近藤琢磨: 併存症のある2型糖尿病の治療を考える. Joint Lecture Meeting. オンライン. 2022年5月30日.
 15. 小和田敬子, 竹脇史絵, 久場起志, 樂得隆之, 仁科善雄, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 勝目有美, 竹内真介, 西智子, 坂田好美, 安田和基: 心不全での入院を契機に診断となったLMNA遺伝子異常による脂肪萎縮症の一例. 第95回日本内分泌学会学術総会. 別府・オンライン. 2022年6月4日.
 16. 金森徹, 七条裕孝, 竹脇史絵, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: αリポ酸によるインスリン自己免疫症候群(IAS)に対してiCGM・SMBGを用いて血糖プロファイリングを行った1例. 第95回日本内分泌学会学術総会. 別府・オンライン. 2022年6月2-4日.
 17. 織田麻衣, 恩田智子, 七条裕孝, 近藤琢磨, 田中利明, 炭谷由計, 安田和基: 先天性難聴を伴ったKallmann症候群の一例. 第95回日本内分泌学会学術総会. 別府・オンライン. 2022年6月2-4日.
 18. 安田和基: AGPレポートを活用した診療における療養指導について. 第5回Free Style リブレ 療養指導士次世代育成プログラム. オンライン. 2022年6月21日.
 19. 三ツ間智也, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博, 平野浩一: 診断に難渋したリンパ濾胞上皮腫の1例. 第34回日本内分外科学会総会. つくば・オンライン. 2022年6月23日.
 20. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博: 甲状腺乳頭癌におけるTERTプロモーター領域のrSNPと点突然変異. 第34回日本内分外科学会総会. つくば・オンライン. 2022年6月25日.
 21. 安田和基: 経口血糖降下薬の進化(深化). 2022年度西東京糖尿病療養指導プログラム 第18回西東京薬剤研修会. オンライン. 2022年7月10日.
 22. 近藤琢磨: 高齢者糖尿病治療ガイド2021を踏まえた高齢者への療養指導～高齢者に潜むスティグマ～. 第18回西東京病態栄養研修会. オンライン. 2022年7月10日.
 23. 安田和基: ミトコンドリア糖尿病について学ぶ. 西東京CDEの会 第20回例会(臨床糖尿病支援ネットワーク). オンライン. 2022年7月16日.
 24. 安田和基: 乾癬と糖尿病・代謝異常. Psoriatic Disease Total Management Forum. オンライン. 2022年7月19日.
 25. 近藤琢磨: 経口GLP-1受容体作動薬を活用した糖尿病治療. GLP-1 Web講演会. オンライン. 2022年7月19日.
 26. 安田和基: 遺伝情報は糖尿病臨床に役立つのか. 第22回日本糖尿病インフォマティクス学会. 徳島・オンライン. 2022年8月27日.
 27. 近藤琢磨: 個別化を目指した2型糖尿病治療の実践. Microsoft Teams Web講演会. オンライン. 2022年9月9日.
 28. 近藤琢磨: 妊娠中にみられる糖代謝異常への対応と産後のフォローアップについて. 第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会. オンライン. 2022年9月17日.
 29. 近藤琢磨: 糖尿病在宅患者の治療と医療従事者の役割～「療養・介護支援ガイド」の活用～. 第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会. オンライン. 2022年9月17日.
 30. 近藤琢磨: 高齢糖尿病患者の治療と介護～「糖尿病在宅患者の療養・介護支援ガイド」の活用～. DiaMond Seminar in 多摩. オンライン. 2022年10月4日.
 31. 安田和基: 糖尿病治療における最近の治療と展望. 第25回Diabetes Research Forum in Tokyo. オンライン. 2022年10月18日.
 32. 南塚拓也, 前澤善朗, 寺本直弥, 宇田川陽秀, 安田和基, 横手幸太郎: 内臓脂肪前駆細胞に発現する転写因子Tcf21は脂肪分化と炎症を抑制する. 第37回日本糖尿病合併症学会. 京都・オンライン. 2022年10月22日.
 33. 安田和基: 糖尿病とミトコンドリア 新規糖尿病治療薬への期待. DUAL Symposium. 三鷹. 2022年10月

- 24日.
34. 近藤琢磨: 2型糖尿病の薬物療法update. GLP-1 Web講演会. オンライン. 2022年10月25日.
 35. 安田和基: AGPレポートを活用した診療における療養指導について. 第6回Free Styleリブレ療養指導士次世代育成プログラム. オンライン. 2022年10月26日.
 36. 近藤琢磨: 合併症・併存症を意識した2型糖尿病治療と医療連携. 第2回多摩ファーマシーセミナー. オンライン. 2022年10月27日.
 37. Takewaki F, Nakajima H, Takewaki D, Hashimoto Y, Tanaka Y, Nakajima S, Ohno H, Yasuda K, Fukui M: Associations between gut microbiome and abdominal symptoms due to acarbose administration in patients with type 2 diabetes. The 9th International Human Microbiome Consortium (IHMC) Congress 2022. Kobe. 8-10 November, 2022.
 38. 龍加那子, 竹脇史絵, 金森徹, 穴水理加, 小和田敬子, 佐々木美緒, 山崎幸, 樂得隆之, 鶴久大介, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 致死性不整脈を生じた高齢者原発性副甲状腺機能亢進症の一例. 第32回臨床内分泌update. 東京. 2022年11月11-12日.
 39. 小野大輝, 七条裕孝, 久場起志, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 舩田一樹, 菅間博, 安田和基: 高度な低K血症を来した原発性アルドステロン症の1例. 第32回臨床内分泌update. 東京. 2022年11月11-12日.
 40. 島矢沙規子, 石井秀明, 小藤知輝, 佐伯浩介, 百瀬崇, 川崎元樹, 佐藤文紀, 櫻田麻耶, 辻野元祥, 松吉健夫, 佐藤隼人, 安田和基, 山田哲也: SGLT2阻害薬服用中にフルニエ壊疽を呈した2型糖尿病の1例. 第32回臨床内分泌update. 東京. 2022年11月11-12日.
 41. 近藤琢磨: GLP-1受容体作動薬を活かした1日1回注射療法. Teams Web講演会. オンライン. 2022年11月15日.
 42. 近藤琢磨: 糖尿病の内科的合併症～音もなく忍び寄るサイレントキラー. 令和4年度杏林医学会 市民公開講演会. オンデマンド. 2022年11月19-30日.
 43. 山崎幸, 林里佳, 仁科善雄, 野田香奈子, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 著明な低ナトリウム血症の補正後に、急性症候性発作を発症した1例. 第49回内分泌代謝研究会. 東京. 2022年11月26日.
 44. 安田和基: Person-centeredな糖尿病治療. Scientific Exchange Meeting ～Cardio-Renalを鑑みたこれからの医療連携～. オンライン. 2022年11月29日.
 45. 安田和基: オープニングリマークス. スイニー発売10周年記念講演会. オンライン. 2022年11月30日.
 46. 宇田川陽秀, 柳田圭介, 舟橋伸昭, 添田光太郎, 南茂隆生, 平本正樹, 西村渉, 進藤英雄, 今泉美佳, 植木浩二郎, 安田和基: 内臓脂肪組織由来培養細胞の中皮細胞関連マーカー発現におけるGATA5の機能. 第43回日本肥満学会. 那覇. 2022年12月3日.
 47. 安田和基: 糖尿病とミトコンドリア～糖尿病治療における重要性～. 府中市医師会学術講演会. オンライン. 2022年12月27日.
 48. 近藤琢磨: 糖尿病における早期治療の重要性とその方法. DiaMond Seminar in 西東京. オンライン. 2023年1月19日.
 49. 白井美希, 七条裕孝, 久場起志, 鮫島未央, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 気腫性腎盂腎炎を発症した未治療2型糖尿病の一例. 第60回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 長野. 2023年1月28日.
 50. 斎藤雄太, 竹脇史絵, 樂得隆之, 鶴久大介, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: COVID-19に罹患し糖尿病ケトアシドーシスを発症した高齢者1型糖尿病の1例. 第60回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 長野. 2023年1月28日.
 51. 野村慶三, 東海俊史, 川上来知, 大島孝則, 江角仁志, 若山真理子, 池田和穂, 三橋順子, 村嶋俊隆, 田中利明, 安田和基: 2型糖尿病の治療経過中に発症した骨髄異形成/骨髄増殖性疾患 (MDFS/MPN) の2例. 第60回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 長野. 2023年1月28日.
 52. 近藤琢磨: ステイグマとアドボカシー活動について. 西東京CDEの会 第21回症例検討会. オンライン. 2023年2月1日.
 53. 安田和基: 糖尿病関連遺伝子研究最前線. 第57回糖尿病学の進歩. 東京・オンライン. 2023年2月17-18日.
 54. 近藤琢磨: 経口GLP-1受容体作動薬を用いた糖尿病治療の新たな展開. GLP-1 Web講演会. オンライン. 2023年2月21日.
 55. 安田和基: 糖尿病と一病息災. 第27回西東京糖尿病患者会連合特別講演会<糖尿病を勉強しませんか?～正しい知識があなたの未来を明るくする～>. オンライン. 2023年3月11日.
 56. 穴水理加, 鶴久大介, 山崎幸, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: ニボルマブ使用後、劇症1型糖尿病を疑われ甲状腺機能低下症を呈した高齢者の1例. 第685回日本内科学会関東地方会. 東京・オンライン. 2023年3月11日.
 57. 近藤琢磨: 2型糖尿病の早期治療強化の重要性とその方法. DiaMond Seminar in 西多摩. オンライン. 2023年3月23日.

論文

1. Kuramoto J¹, Arai E¹, Fujimoto M¹, Tian Y¹, Yamada Y², Yotani T², Makiuchi S¹, Tsuda N¹, Ojima H¹, Fukai M³, Seki Y⁴, Kasama K⁴, Funahashi N⁵, Udagawa H⁶, Nammo T⁷, Yasuda K, Taketomi A³, Kanto T⁸, Kanai Y¹ (1Keio University School of Medicine, 2Sekisui Medical Co., Ltd., 3Hokkaido University, 4Yotsuya Medical Cube, 5Tokyo Institute of Technology, 6Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, 7Osaka University, 8National Center for Global Health and Medicine): Quantification of DNA methylation for carcinogenic risk estimation in patients with non-alcoholic steatohepatitis. Clin Epigenetics. 14(1). 168. 2022.
2. Kawasaki E¹, Shimada A², Imagawa A³, Abiru N⁴, Awata T⁵, Oikawa Y², Osawa H⁶, Kawabata Y⁷, Kozawa J⁸, Kobayashi T⁹, Takahashi K¹⁰, Chujo D¹¹, Fukui T¹², Miura J¹³, Yasuda K, Yasuda H¹⁴, Kajio H¹⁵, Hanafusa T¹⁶, Ikegami H⁷ (1 Shin-Koga Hospital, 2 Saitama Medical University, 3 Osaka Medical and Pharmaceutical University, 4Nagasaki University Hospital, 5National Center for Global Health and Medicine, 6Ehime University Graduate School of Medicine, 7Kindai University Faculty of Medicine, 8Osaka University, 9Okinaka Memorial Institute for Medical Research, 10Iwate Prefectural University, 11Toyama University Hospital, 12 Showa University School of Medicine, 13Women's Medical University School of Medicine, 14Kobe University Graduate School of Health Sciences, 15National Center for Global

Health and Medicine, ¹⁶Sakai City Medical Center); Committee of type 1 diabetes, Japan Diabetes Society. Comparing the clinical significance and antigen specificity of insulinoma-associated antigen-2 autoantibodies between radioimmunoassay and enzyme-linked immunosorbent assay in Japanese patients with type 1 diabetes. *J Diabetes Investig.* 2022. doi:10.1111/ldi.13910.

- 舟橋伸昭, 中西美紗緒, 安田和基: 最先端医療の今母体血中コリン濃度と児の出生体重との関連性. *Medical Science Digest.* 48巻(4). 203-205. 2022.
- 安田和基: トピックス 糖尿病治療の Precision Medicine ~臨床での活用に向けて~. *DITN.* 495号. 2022.
- 安田和基: 2型糖尿病の発症予防-遺伝子情報の活用を通じて. *糖尿病プラクティス.* 39巻(6). 616-624. 2022.
- 安田和基: 日本DOHaD学会10周年にあたって. *DOHaD研究.* 11巻1号(日本DOHaD学会設立10周年記念号). 33-34. 2023.

著書

- 安田和基: 遺伝性糖尿病がうたがわれたとき. *糖尿病コンサルテーションブック.* 吉岡成人, 森保道 編集. 医歯薬出版. 2022. 167-171.
- 安田和基(監修): 食後高血糖について. テルモ株式会社. 2023.

腫瘍内科学教室

講演

- 長島文夫: Vulnerable症例への治療戦略 診療ガイドラインを参考に. 第8回お茶の水 Cancer Conference. オンライン. 2022年4月7日.
- 廣田玲, 岡野尚弘, 林雅人, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 關里和, 川村直弘, 水谷友紀, 長島文夫: 5次治療のアテゾリズマブ/ペバシズマブ併用療法により modified RECISTで complete responseが得られた肝細胞癌の一例, 第369回日本消化器病学会関東支部例会. 東京・オンライン. 2022年5月14日.
- 岡野尚弘: 高頻度マイクロサテライト不安定性高齢者膵癌にペムプロリズマブを投与した1例. 第64回日本老年医学会. 大阪・オンライン. 2022年6月3日.
- Ohba A, Morizane C, Kawamoto Y, Komatsu Y, Ueno M, Kobayashi S, Ikeda M, Sasaki M, Furuse J, Okano N, Hiraoka N, Yoshida H, Kuchiba A, Sadachi R, Nakamura K, Matsui N, Nakamura Y, Okamoto W, Yoshino T, Okusaka T: Trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) in patients (pts) with HER2-expressing unresectable or recurrent biliary tract cancer (BTC): An investigator-initiated multicenter phase 2 study (HERB trial). 2022 ASCO Annual Meeting. USA・Online. June 3rd-7th. 2022.
- 松井敏史, 木棚究, 山中崇, 長島文夫: ロボットによる認知症高齢者の介護支援. 日本老年医学会. 大阪・オンライン. 2022年6月4日.
- 松井敏史, 須藤珠水, 永田あかね, 前野聡子, 長島文夫, 木棚究, 山中崇: 排泄支援ロボット「ラップボン」の自立支援排泄ケアプランへの組み込み. 日本老年医学会. 大阪・オンライン. 2022年6月4日.
- 松井敏史, 須藤珠水, 永田あかね, 水木麻衣子, 木棚究, 山中崇, 長島文夫: 移動支援ロボット「RT-2」の疾患イベント後の在宅使用での3次予防効果の検証. 日本老年医学会. 大阪・オンライン. 2022年6月4日.
- 長島文夫: 胃がん治療ガイドラインと最新の薬物治療について. 武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会. オンライン. 2022年6月21日.
- 長島文夫: 全身状態の把握とそれに基づく治療の考え方. 高齢者の口腔がん治療を考える会. オンライン. 2022年7月8日.
- 長島文夫: 高齢者のがん治療の考え方. Gastric Cancer Leaders Meeting. オンライン. 2022年8月31日.
- Ueno M, Morizane C, Ikeda M, Ozaka M, Nagashima F, Kataoka T, Mizusawa J, Ohba A, Kobayashi S, Imaoka H, Kasuga A, Okano N, Nagasaka Y, Kurishita K, Tomatsuri S, Sasaki M, Shibata T, Nakamura K, Furuse J, Okusaka T: Phase I/II study of nivolumab plus lenvatinib for advanced biliary tract cancer (JCOG1808/NCCH1817, SNIPE). ESMO Congress 2022. France・Online. September 9th-13th. 2022.
- Shoji H, Boku N, Kudo-Saito C, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, K Aoki K, Muro K: Profiling of myeloid cells associated with prognosis in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). ESMO Congress 2022. France・Online. September 9th-13th. 2022.
- Boku N, Kudo-Saito C, Imazeki H, Shoji H, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Nagashima K, Aoki K, Muro K: Prognostic impact of myeloid subsets in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). ESMO Congress 2022. France・Online. September 9th-13th. 2022.
- 岡野尚弘: 消化器がんに対する最新の化学療法-がん治療医とかかりつけ医の連携の重要性. 東大和上市医師会学術講演会. オンライン. 2022年9月9日.
- 長島文夫: 食道がん・胃がんの薬物療法. 杏林大学がん看護研修会. オンライン. 2022年9月24日.
- Okano N, Inoue Y, Kawai M, Ueno M, Yu X, Takahashi S, Wang W, Takahashi H, Yukiyasu Okamura Y, Morinaga S, Matsumoto I, Shimizu Y, Yoshida K, Yamamoto T, Ohtsuka M, Inokawa Y, Esaki M, Yamamoto K, Yamaue H, Furuse J: Cohort study of patients with initially unresectable pancreatic cancer in whom conversion surgery was planned after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel (PC-CURE-1). 33rd IASGO World Congress. TURKEY. September 29th. 2022.
- 林雅人, 岡野尚弘, 鈴木裕, 廣田玲, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 水谷友紀, 松木亮太, 小暮正晴, 杉山政則, 柴原純二, 阪本良弘, 長島文夫: 遠位胆管癌術後肝転移に対して化学療法後に肝切除を行い長期生存が得られた1例. 第58回日本胆道学会学術集会. 横浜・オンライン. 2022年10月14日.
- 廣中秀一: 食道がん1次化学療法の New Strategy~

- Nivo+Ipi, Nivo+Chemo併用療法～. 食道がん1次治療 オプジーボ併用療法WEBライブセミナー IO併用療法におけるirAEマネジメント. オンライン. 2022年10月17日.
19. Ohba A, Morizane C, Kawamoto Y, Komatsu Y, Ueno M, Kobayashi S, Ikeda M, Sasaki M, Furuse J, Okano N, Hiraoka N, Yoshida H, Kuchiba A, Sadachi R, Nakamura K, Matsui N, Nakamura Y, Okamoto W, Yoshino T, Okusaka T : Trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in patients (pts) with HER2-expressing unresectable or recurrent biliary tract cancers (BTCs) : An investigator-initiated multicenter phase 2 trial (HERB trial). 第60回日本癌治療学会学術集会. 神戸・オンライン. 2022年10月20日-22日.
 20. Mizutani T: Interpretation of Randomized Clinical Trials. SIOG 2022 Annual Conference. Switzerland. October 30th. 2022.
 21. 廣中秀一：進行・再発食道がんに対する一次化学療法～ペムプロリズマブ併用でどう変わる？～. 食道がん治療セミナー. オンライン. 2022年11月10日.
 22. 廣中秀一：進行再発食道がん～最新の化学療法と支持療法～. 第19回HEMCO. オンライン. 2022年11月15日.
 23. 岡野尚弘：GISTに対する薬物療法の進歩. 新宿消化器がんフォーラム2022. 新宿. 2022年11月15日.
 24. 廣中秀一：更なる治療成績向上を目指した新たな胃癌薬物療法シークエンス. 第52回胃外科・術後障害研究会. 沼津. 2022年11月19日.
 25. 廣中秀一：胃癌に対する化学療法～エビデンスから考える治療戦略～. Gastric Cancer Web Seminar. オンライン. 2022年11月22日.
 26. 廣中秀一：進行・再発食道がんに対する一次化学療法～ペムプロリズマブ併用でどう変わる？～. Esophageal Cancer Seminar. オンライン. 2022年12月2日.
 27. 岡野尚弘：消化器がんにおけるエドルミズの役割. GI Cancer Seminar in TAMA. オンライン. 2022年12月2日.
 28. 廣中秀一：進行・再発食道がんに対する一次化学療法～ペムプロリズマブ併用でどう変わる？～. Esophageal Cancer Clinical Seminar. 徳島. 2022年12月6日.
 29. 廣中秀一：切除不能・再発胃癌に対する化学療法～ニボルマブによる新しい治療シークエンス～. 第7回長岡胃癌講演会. オンライン. 2022年12月16日.
 30. 廣中秀一：進行・再発食道がんに対する一次化学療法～ペムプロリズマブ併用でどう変わる？～. Shizuoka Esophageal Cancer Seminar. オンライン. 2022年12月20日.
 31. Imazeki H, Kudo-Saito C, Shoji H, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Nagashima K, Muro K, Aoki K, Boku N : CD11b+ myeloid subsets as significant prognostic biomarkers in the nivolumab therapy of gastric cancer. 国際がん研究シンポジウム. オンライン. 2023年1月14日.
 32. Mitani S, Kito Y, Kawakami H, Nishina S, Matsumoto T, Tsuzuki T, Shinohara Y, Shimokawa H, Kumanishi R, Ohta T, Kimura S, Kawakami T, Nishina T, Hasegawa H, Akiyoshi K, Chiba Y, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K : Multicenter retrospective study of trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) plus bevacizumab (BEV) for vulnerable patients with pretreated metastatic colorectal cancer (mCRC): WJOG14520G (TWILIGHT). 2023 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 33. Suzuki Y, Morizane C, Mizusawa J, Sano Y, Kobayashi S, Imaoka H, Terashima T, Ikeda M, Okano N, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Wada K, Tobimatsu K, Katanuma A, Okusaka T, Ozaka M, Ueno M: Comparison of clinical features by primary sites in patients with biliary tract cancer who received gemcitabine-based chemotherapy: an exploratory analysis of JCOG1113. 2023 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 34. Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Kamei K, Yanagibashi H, Mizuno N, Gotoh K, Kawamoto Y, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Makino I, Takahashi A, Anbo Y, Ohta K, Katayama H, Konishi M, Ueno M, Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG) : Effects of gene expressions of 5-FU metabolic pathway in a phase III trial evaluating adjuvant S-1 compared to surgery alone following curative resection for biliary tract cancer (JCOG1202A1). 2023 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 35. Furuse J, Ikeda M, Ueno M, Furukawa M, Morizane C, Takehara T, Nishina T, Todaka A, Okano N, Hara K, Nakai Y, Ohkawa K, Sasaki T, Sugimori K, Yokoyama N, Yamamoto K : Nanvuranlat, an L-type amino acid transporter (LAT1) inhibitor, for pre-treated patients with advanced, refractory biliary tract cancers (BTC): Primary endpoint results of a randomized, double-blind, placebo-controlled Phase 2 study. 2023 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 36. Tsugaru K, Boku N, Kudo-Saito C, Shoji H, Imazeki H, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Nagashima K, Aoki K, Muro K : Increased LAG3-related factors predict poor prognosis after nivolumab monotherapy in advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). 2023 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 37. Ohba A, Takumoto Y, Terashima T, Ueno M, Kobayashi S, Ikezawa K, Okano N, Fujimori N, Tsumura H, Murohisa G, Ohya A, Yamashita T, Ozaka M, Ikeda M, Okusaka T, Morizane C, Narimatsu H, Akazawa M, Shiroyiwa T, Furuse J : patient-reported outcome measured in patients with pancreatic cancer receiving second-line chemotherapy : A multicenter prospective observational study. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. USA・Online. January 19th-21st. 2023.
 38. Okano N, Sakamaki K, Mie T, Watanabe K, Kobayashi S, Todaka A, Suzuki Y, Kitamura H, Tanaka K, Nakagawa K, Kamei K, Umemoto K, Azemoto N, Kawamoto Y, Yanagimoto H, Tsuji K, Imaoka H, Terashima T, Ueno M, Furuse J :

Outcomes of FOLFIRINOX and gemcitabine plus nab-paclitaxel in patients with early recurrent pancreatic cancer after adjuvant S-1 : A propensity score-matching analysis. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium. Online · USA. January 19th-21st. 2023.

39. 長島文夫：みんなでつくろう！がん情報迷路の羅針盤～がん情報/教育の現状と課題～. World Cancer Week 2023. オンライン. 2023年2月5日
40. 岡野尚弘：肝細胞癌. 肝胆膵エビデンス Update2023 Winter. オンライン. 2023年2月11日.
41. 陳勁松, 川端良平, 保坂尚志, 武藤理, 進藤吉明, 永田直幹, 藪崎裕, 今村博司, 遠藤俊治, 柏田知美, 中村将人, 檜原淳, 小林道也, 長島文夫, 高張大亮, 石塚直樹, 山口研成：高齢者転移進行胃癌に対するCapeOX第2相試験(TCOG GI-1601) G8/Mini-Cogを用いた探索的解析. 日本胃癌学会. 札幌. 2023年2月24日.
42. 廣中秀一, 菊香準史, 牧野怜奈, 石田武浩, 君嶋悠矢, 西山英児, 松田祐子, Tejada Mariella, Carroll Robert, 吉川貴己：診療データベースを用いた実診療下における胃癌患者の術後補助化学療法及び再発後の治療パターンの解析. 第95回日本胃癌学会総会. 札幌. 2023年2月25日.
43. Shoji H, Boku N, Kudo-Saito C, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, Aoki K, Muro K : Profiling of myeloid cells associated with prognosis in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer. 第95回日本胃癌学会総会. 札幌. 2023年2月25日.
44. Kawakami T, Boku N, Kudo-Saito C, Shoji H, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, Aoki K, Muro K : Prognostic impact of myeloid subsets in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer. 第95回日本胃癌学会総会. 札幌. 2023年2月25日.
45. 廣中秀一：進行胃癌に対する化学療法～エビデンスと有害事象マネジメント～. 地域で診る消化器疾患連携セミナー. オンライン. 2023年3月10日.
46. 長島文夫, 中島恵美子, 橋詰崇：「がん教育」がつかなく地域の健康と次世代への教育. 地域総合研究所フォーラム. 三鷹. 2023年3月11日.
47. 庄司広和, 木藤陽介, 山崎健太郎, 山田武史, 對馬隆浩, 三谷誠一郎, 白石和寛, 安井久晃, 原浩樹, 下寄啓太郎, 江崎泰斗, 下川穂積, 築木隆雄, 舛石俊樹, 馬場英司. 吉村健一, 川上尚人, 廣中秀一, 室圭：WJOG9216G (RECAST) : 切除不能大腸がん一次治療例に対する FOLFIRI + ラムシルマブと FOLFOXIRI + ラムシルマブのランダム化第II相試験. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日.
48. 仁科慎一, 木藤陽介, 川上尚人, 三谷誠一郎, 築木隆雄, 松本俊彦, 下川穂積, 篠原雄大, 熊西亮介, 太田高志, 木村晋也, 川上武志, 仁科智裕, 長谷川裕子, 秋吉宏平, 千葉康敬, 廣中秀一, 山崎健太郎, 室圭：WJOG14520G (TWILIGHT) : 前治療歴を有するVulnerableな切除不能大腸がん患者に対するFTD/TPI+ベバシズマブの多施設レトロ研究. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日.
49. 中村真穂, 下寄啓太郎, 平田堅郎, 三谷誠一郎, 杉山

圭司, 廣田玲, 有山寛, 杉本直俊, 井澤直樹, 山本祥之, 高山歳三, 篠原雄大, 国枝献治, 安藤孝将, 長島健悟, 佐藤泰憲, 山崎健太郎, 廣中秀一, 高石官均, 室圭：BRAV V600E変異型切除不能・再発大腸癌に対するFOLFOXIRI+/-Bevacizumab療法とDoublet療法の有効性および安全性に関する後方視的検討. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日.

50. 菊香順史, 廣中秀一, 牧野怜奈, 石田武浩, 君嶋悠矢, 西山英児, 松田祐子, Tejada Mariella, Carroll Robert, 吉川貴己：診療データベースを用いた実診療下における胃癌患者の術後補助化学療法及び再発後の治療パターンの解析. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日.
51. 牧山明資, 庄司広和, 川上尚人, 田村孝雄, 杉山圭司, 原浩樹, 長瀬通隆, 西川和夫, 江崎泰斗, 伊澤直樹, 中村将人, 安藤孝将, 三浦裕司, 成田有季哉, 下川元継, 山崎健太郎, 廣中秀一, 朴成和, 兵頭一之介, 室圭：高齢者切除不能・再発胃癌に対するS-1単剤療法とS-1/L-OHP併用(SOX)療法のランダム化第II相試験. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日.
52. Shoji H, Boku N, Kudo-Saito C, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, Aoki K, Muro K : Profiling of myeloid cells associated with prognosis in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日-18日.
53. Kawakami T, Boku N, Kudo-Saito C, Shoji H, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, Aoki K, Muro K : Prognostic impact of myeloid subsets in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日-18日.
54. Nishioka M, Okano N, Onozawa S, Miyauchi R, Hayashi M, Maesono T, Mizutani T, Seki S, Kawamura N, Kuroki K, Nagashima F, Furuse J : 4Vp4 hepatocellular carcinoma with Child-Pugh B treated with lenvatinib plus hepatic intra-arterial cisplatin infusion. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月16日-18日.
55. 岡野尚弘：治癒切除不能な胆道癌の新たな一次治療. 肝胆Network Seminar. オンライン. 2023年3月16日.
56. 水谷友紀：世界の高齢がん診療の実態：SIOG National Representative's Survey第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡・オンライン. 2023年3月18日.

論文 欧文

1. Tsukamoto Y¹, Kurogi S¹, Shibata T¹, Suzuki K¹, Hirashita Y¹, Fumoto S¹, Yano S¹, Yanagihara K¹, Nakada C¹, Mieno F¹, Kinoshita K¹, Fuchino T¹, Mizukami K¹, Ueda, Y¹, Etoh T¹, Uchida T¹, Hanada T¹, Takekawa M², Daa T¹, Shirao K¹, Hironaka S¹, Murakami K¹, Inomata M¹, Hijiya N¹, Moriyama M¹. ¹Oita University, ²University of Tokyo) : Enhanced phosphorylation of c-Jun by cisplatin treatment as a potential predictive

biomarker for cisplatin response in combination with patient-derived tumor organoids. *Lab Invest.* 102(12). 1355-1366. 2022.

2. Takeuchi H¹, Ito Y², Machida R³, Kato K⁴, Onozawa M⁵, Minashi K⁶, Yano T⁵, Nakamura K³, Tsushima T⁷, Hara H⁸, Okuno T⁹, Hironaka S⁶, Nozaki I¹⁰, Ura T¹¹, Chin K¹², Kojima T⁵, Seki S¹³, Sakanaka K¹⁴, Fukuda H³, Kitagawa Y¹⁵, Japan Esophageal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group. (1Department of Surgery, Hamamatsu University School of Medicine, 2Department of Radiation Oncology, Showa University School of Medicine, 3JCOG Data Center, 4Department of Head and Neck, Esophageal Medical Oncology, National Cancer Center Hospital, 5Division of Radiation Oncology and Particle Therapy, National Cancer Center Hospital East, 6Clinical Trial Promotion Department, Chiba Cancer Center, 7 Department of Gastroenterology and Endoscopy, National Cancer Center Hospital East, 8Department of Gastroenterology and Endoscopy, Shizuoka Cancer Center, 9Division of Gastrointestinal Oncology, Saitama Cancer Center, 10Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Kobe University, 11Department of Gastroenterological Surgery, Shikoku Cancer Center, 12 Department of Clinical Oncology, Aichi Cancer Center, 13Department of Gastroenterology, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, 14Department of Gastroenterology and Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hospital East, 15Department of Surgery, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, 16 Department of Radiation Oncology and Image-Applied Therapy, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 17Department of Surgery, Keio University) : A Single-Arm Confirmatory Study of Definitive Chemoradiation Therapy Including Salvage Treatment for Clinical Stage II/III Esophageal Squamous Cell Carcinoma (JCOG0909 Study). *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* 114(3). 454-462. 2022.
3. Yoshida Y¹, Kobayashi S², Ueno M², Morizane C³, Tsuji K⁴, Maruki Y³, Mori K⁵, Watanabe K⁶, Ohba A³, Furuta M⁷, Todaka A⁸, Tsujimoto A⁹, Ozaka M¹⁰, Okano N¹¹, Yane K¹², Umemoto K¹³, Kawamoto Y¹⁴, Terashima T¹⁵, Tsumura H¹⁶, Doi K¹⁷, Shioji K¹⁸, Asagi A¹⁹, Kojima Y²⁰, Suzuki E²¹, Toshiyama R²², Furukawa M²³, Naganuma A²⁴, Suzuki R²⁵, Miwa H²⁶, Ikeda M⁶, Furuse J²⁷ (1Division of Oncology and Hematology, Okinawa Chubu Hospital, 2Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, 3Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, 4Department of Gastroenterology, Ishikawa Prefectural Central Hospital, 5Department of Biostatistics, Clinical Research Support Center, Shizuoka Cancer Center, 6Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, 7Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, 8Division of Gastrointestinal Oncology, Shizuoka Cancer Center, 9Division of Gastroenterology, Chiba Cancer Center, 10Hepato-Biliary-Pancreatic Medicine Department, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 11Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, 12Center for Gastroenterology, Teine Keijinkai Hospital, 13 Department of Clinical Oncology, St. Marianna University School of Medicine, 14Division of Cancer Center, Hokkaido University Hospital, 15Department of Gastroenterology, Kanazawa University, 16Department of Gastroenterological Oncology, Hyogo Cancer Center, 17Department of Therapeutic Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 18Department of Internal Medicine, Niigata Cancer Center Hospital, 19 Department of Gastrointestinal Medical Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 20Department of Gastroenterology, National Center for Global Health and Medicine, 21Department of Gastroenterology and Nephrology, Graduate School of Medicine, Chiba University, 22Department of Surgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, 23Department of Hepato-Biliary-Pancreatology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 24Department of Gastroenterology, National Hospital Organization Takasaki General Medical Center, 25Department of Gastroenterology, Fukushima Medical University, School of Medicine, 26 Gastroenterological Center, Yokohama City University Medical Center, 27Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Efficacy of chemotherapy for patients with metastatic or recurrent pancreatic adenosquamous carcinoma: A multicenter retrospective analysis. *Pancreatol.* 22(8). 1159-1166. 2022.
4. Matsuki R¹, Okano N², Hasui N¹, Kawaguchi S¹, Momose H¹, Kogure M¹, Suzuki Y¹, Nagashima F², Sakamoto Y¹ (1 Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital, 2 Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Trends in the surgical treatment for pancreatic cancer in the last 30 years. *BioScience Trends.* 16(3). 198-206. 2022.
5. Mizutani T (Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Practical management of older adults with cancer: geriatric oncology in Japan. *Jpn J Clin Oncol.* 52(10). 1073-1081. 2022.
6. Kajiwaru T¹, Nishina T², Nakasya A², Yamashita N³, Yamashita R⁴, Nakamura Y⁵, Shiozawa M⁶, Yuki S⁷, Taniguchi H⁸, Hara H⁹, Ohta T¹⁰, Esaki T¹¹, Shinozaki E¹², Takashima A¹³, Moriwaki T¹⁴, Denda T¹⁵, Ohtsubo K¹⁶, Sunakawa Y¹⁷, Horita Y¹⁸, Kawakami H¹⁹, Kato T²⁰, Satoh T²¹, Ando K²², Mizutani T²³, Yasui H²⁴, Goto M²⁵, Hiroyuki Okuyama H²⁶, Yamazaki K²⁷, Yoshino T⁵, Hyodo I² (1Department of Gastrointestinal Medical Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 2 Department of Gastrointestinal Medical Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 3 Clinical Research Center, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 4 Division of

- Translational Informatics, Exploratory Oncology Research and Clinical Trial Center, National Cancer Center, ⁵ Department of Gastroenterology and Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hospital East, ⁶ Department of Gastrointestinal Surgery, Kanagawa Cancer Center, ⁷ Department of Gastroenterology and Hepatology, Hokkaido University Hospital, ⁸ Department of Clinical Oncology, Aichi Cancer Center Hospital, ⁹ Department of Gastroenterology, Saitama Cancer Center, ¹⁰ Department of Clinical Oncology, Kansai Rosai Hospital, ¹¹ Department of Gastrointestinal and Medical Oncology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ¹² Department of Gastroenterological Chemotherapy, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ¹³ Department of Gastrointestinal Medical Oncology, National Cancer Center Hospital, ¹⁴ Department of Gastroenterology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ¹⁵ Division of Gastroenterology, Chiba Cancer Center, ¹⁶ Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University, ¹⁷ Department of Clinical Oncology, St. Marianna University School of Medicine, ¹⁸ Department of Medical Oncology, Saitama Medical University International Medical Center, ¹⁹ Department of Medical Oncology, Kindai University Faculty of Medicine, ²⁰ Department of Surgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²¹ Department of Frontier Science for Cancer and Chemotherapy, Graduate School of Medicine, Osaka University, ²² Department of Surgery and Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ²³ Department of General Medicine, Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ²⁴ Department of Medical Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, ²⁵ Cancer Chemotherapy Center, Osaka Medical and Pharmaceutical University, ²⁶ Department of Clinical Oncology, Kagawa University Hospital, ²⁷ Division of Gastrointestinal Oncology, Shizuoka Cancer Center) : NOTCH gene alterations in metastatic colorectal cancer in the Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan (SCRUM-Japan GI-SCREEN). *J Cancer Res Clin Oncol.* 148(10). 2841-2854. 2022.
7. Matsuki R¹, Okano N², Hasui N¹, Kawaguchi S¹, Momose H¹, Kitahama K³, Nagahama K³, Kogure M¹, Suzuki Y¹, Nagashima F², Shibahara J³, Mori H⁴, Sakamoto Y¹ (¹ Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital, ² Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ³ Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁴ Department of Hepatology and Gastroenterology, Kyorin University Faculty of Medicine): Atezolizumab and Bevacizumab Combination Therapy and Sequential Conversion Hepatectomy for Advanced Fibrolamellar Hepatocellular Carcinoma Presenting Pseudoprogression. *Liver Cancer.* 180-183. 2022.
8. Ohba A¹, Morizane C¹, Ueno M², Kobayashi S², Kawamoto Y³, Komatsu Y⁴, Ikeda M⁵, Sasaki M⁵, Okano N⁶, Furuse J⁶, Hiraoka N⁷, Yoshida H⁷, Kuchiba A⁸, Sadachi R⁸, Nakamura K⁹, Matsui N⁹, Nakamura Y¹⁰, Okamoto W¹¹, Yoshino T¹⁰, Okusaka T¹ (¹Department of Hepatobiliary & Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, ²Division of Hepatobiliary & Pancreatic Oncology, Kanagawa Cancer Center, ³Department of Gastroenterology & Hepatology, Hokkaido University Hospital, ⁴Department of Cancer Chemotherapy, Hokkaido University Hospital Cancer Center, ⁵Department of Hepatobiliary & Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ⁶Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁷Division of Pathology & Clinical Laboratories, National Cancer Center Hospital, ⁸Biostatistics Section, Clinical Research Support Office, National Cancer Center Hospital/Biostatistics Division, Center for Research Administration & Support, National Cancer Center, ⁹Clinical Research Support Office, National Cancer Center Hospital, ¹⁰Department of Gastroenterology & Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hospital East, ¹¹Cancer Treatment Center, Hiroshima University Hospital): Multicenter phase II trial of trastuzumab deruxtecan for HER2-positive unresectable or recurrent biliary tract cancer: HERB trial. *Future Oncol.* 18(19). 2351-2360. 2022.
9. Mizusawa J¹, Ohba A², Ozaka M³, Katayama H¹, Okusaka T², Kobayashi S⁴, Ikeda M⁵, Terashima T⁶, Sasahira N³, Okano N⁷, Miki I⁸, Kaneko T⁹, Mizuno N¹⁰, Todaka A¹¹, Furukawa M¹², Kajiura S¹³, Kataoka T¹, Fukuda H¹, Furuse J⁴, Ueno M⁴, and Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of Japan Clinical Oncology Group(JCOG Data Center/Operations Office, National Cancer Center Hospital, ²Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, ³Department of Gastroenterology, Cancer Institute Hospital, ⁴Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, ⁵Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ⁶Department of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, ⁷Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁸Department of Gastroenterology, Hyogo Cancer Center, ⁹Gastroenterological Center, Yokohama City University Medical Center, ¹⁰Department of Gastroenterology, Aichi Cancer Center Hospital, ¹¹Division of Gastrointestinal Oncology, Shizuoka Cancer Center, ¹²Department of Hepato-Biliary-Pancreatology, National Kyushu Cancer Center, ¹³ Third Department of Internal Medicine, University of Toyama Hospital): Protocol of a randomized phase II/III study of gemcitabine plus nabpaclitaxel combination therapy versus modified FOLFIRINOX versus S-IROX for metastatic or recurrent pancreatic cancer: JCOG1611(GENERATE). *Japanese Journal of Clinical Oncology.* 53(1). 80-84. 2022.
10. Morizane C¹, Machida N², Honma Y¹, Okusaka T¹, Boku N¹, Kato K¹, Nomura S^{3,4}, Hiraoka N¹, Sekine S¹, Taniguchi H¹, Okano N⁵, Yamaguchi K⁶, Sato T⁷, Ikeda M⁸, Mizuno N⁹, Ozaka M⁶, Kataoka T³, Ueno M², Kitagawa Y¹⁰, Terashima M¹¹, Furuse J⁵,

for the Japan Clinical Oncology Group (JCOG) (1 National Cancer Center Hospital, 2Kanagawa Cancer Center, 3Japan Clinical Oncology Group Data Center/Operations Office, National Cancer Center Hospital, 4The University of Tokyo, 5Kyorin University Faculty of Medicine, 6Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 7Kochi Health Sciences Center, 8National Cancer Center Hospital East, 9Aichi Cancer Center Hospital, 10Keio University School of Medicine, 11 Shizuoka Cancer Center): Effectiveness of Etoposide and Cisplatin vs Irinotecan and Cisplatin Therapy for Patients With Advanced Neuroendocrine Carcinoma of the Digestive System The TOPIC-NEC Phase 3 Randomized Clinical Trial. *JAMA Oncol.* 8(10). 1447-1455. 2022.

11. Kobayashi S¹, Suzuki M², Ueno M¹, Maruki Y³, Okano N⁴, Todaka A⁵, Ozaka M⁶, Tsuji K⁷, Shioji K⁸, Doi K⁹, Kojima Y¹⁰, Tsumura H¹¹, Tanaka K¹², Higuchi H¹³, Kawabe K¹⁴, Imaoka H¹⁵, Yamashita T¹⁶, Miwa H¹⁷, Nagano H¹⁸, Arima S¹⁹, Hayashi H²⁰, Naganuma A²¹, Yamaguchi H²², Hisano T²³, Umemoto K²⁴, Ishii S²⁵, Nakashima K²⁶, Suzuki R²⁷, Kitano Y²⁸, Misumi T², Furuse J⁴, Ishii H²⁹ (¹Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, ² Department of Data Science, National Cancer Center Hospital East, ³Department of Gastroenterology, Hepatobiliary and Pancreatic Medical Oncology Division, National Cancer Center Hospital, ⁴Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁵Division of Gastrointestinal Oncology, Shizuoka Cancer Center, ⁶Department of Gastroenterology, The Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ⁷Department of Gastroenterology, Ishikawa Prefectural Central Hospital, ⁸Department of Internal Medicine, Niigata Cancer Center Hospital, ⁹Department of Therapeutic Oncology, Kyoto University, Graduate School of Medicine, ¹⁰Department of Gastroenterology, National Center for Global Health and Medicine, ¹¹Department of Gastroenterological Oncology, ¹²Center for Gastroenterology, Teine Keijinkai Hospital, ¹³Department of Clinical Oncology, International University of Health and Welfare, Narita Hospital, ¹⁴Department of Gastroenterology, Clinical Research Institute, National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ¹⁵Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ¹⁶Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Medicine Sciences, ¹⁷Gastroenterological Center, Yokohama City University Medical Center, ¹⁸Department of Gastroenterological, Breast and Endocrine Surgery, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ¹⁹Digestive and Lifestyle Diseases, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ²⁰Genomics Unit, Keio Cancer Center, Keio University School of Medicine, ²¹Department of Gastroenterology, National Hospital Organization Takasaki General Medical Center, ²²Department of Surgery, Jichi Medical University, ²³Department of Hepato-Biliary-Pancreatology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ²⁴Department of Clinical Oncology, St. Marianna University School of Medicine, ²⁵Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka General Medical Center, ²⁶Department of Clinical Oncology, University of Miyazaki Hospital, ²⁷Department of Gastroenterology, Fukushima Medical University, ²⁸Division of Metabolism and Biosystemic Science, Gastroenterology and Hematology/Oncology, Department of Medicine, Asahikawa Medical University, ²⁹Clinical Research Center, Chiba Cancer Center) : Comparing the Efficacy and Safety of Gemcitabine plus Nab-Paclitaxel versus Gemcitabine Alone in Older Adults with Unresectable Pancreatic Cancer. *Oncologist.* 27(10). e774-e782. 2022.
12. Ohba A¹, Ueno H¹, Shiba S¹, Okano N², Kobayashi T², Nagashima F², Sasahira N³, Sasaki M⁴, Imaoka H⁴, Sakamoto Y¹, Kondo S¹, Morizane C¹, Ozaka M³, Ikeda M⁴, Furuse J², Okusaka T¹(¹Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, ²Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, ³Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁴Department of Gastroenterology, Cancer Institute Hospital, ⁵ Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East) : Safety and efficacy of S-IROX (S-1, irinotecan and oxaliplatin combination therapy) in patients with advanced pancreatic cancer: A multicenter phase 1b dose-escalation and dose-expansion clinical trial. *Eur J Cancer.* 174. 40-47. 2022.
13. Ozaka M¹, Nakachi K², Kobayashi S³, Ohba A⁴, Imaoka H⁵, Terashima T⁶, Ishii H⁷, Mizusawa J⁸, Katayama H⁹, Kataoka T¹⁰, Okusaka T¹¹, Ikeda M¹², Sasahira N¹³, Miwa H¹⁴, Mizukoshi E¹⁵, Okano N¹⁶, Mizuno N¹⁷, Yamamoto T¹⁸, Komatsu Y¹⁹, Todaka A²⁰, Kamata K²¹, Furukawa M²², Fujimori N²³, Katanuma A²⁴, Takayama Y²⁵, Tsumura H²⁶, Fukuda H²⁷, Ueno M²⁸, Furuse J²⁹, Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG) (¹Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Medicine, Gastroenterology Center, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ²Department of Medical Oncology, Tochigi Cancer Center, ³Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, ⁴Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital, ⁵Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ⁶Department of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, ⁷Clinical Research Center, Chiba Cancer Center, ⁸Japan Clinical Oncology Group Data Center/Operations Office, National Cancer Center Hospital, ⁹Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Medicine, Gastroenterology Center, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ¹⁰Department of Gastroenterology, Yokohama City University Medical Center, ¹¹Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine,

- ¹²Department of Gastroenterology, Aichi Cancer Center Hospital, ¹³Department of Surgery, Kansai Medical University Hospital, ¹⁴Department of Gastroenterology, Hokkaido University Hospital, ¹⁵Division of Gastrointestinal Oncology, Shizuoka Cancer Center, ¹⁶Department of Gastroenterology and Hepatology, Kindai University Faculty of Medicine, ¹⁷Department of Hepato-Biliary-Pancreatology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ¹⁸Department of Medicine and Bioregulatory Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹⁹Center for Gastroenterology, Teine-Keijinkai Hospital, ²⁰Department of Gastroenterology, Tokyo Women's Medical University, ²¹Department of Gastroenterological Oncology, Hyogo Cancer Center, ²²Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan; Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine) : A randomised phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel for locally advanced pancreatic cancer (JCOG1407). *European Journal of Cancer*. 181. 135-144. 2023.
14. Okano N¹, Matsuki R², Toki M³, Gondo K³, Ochiai K³, Watanabe S³, Tateishi H⁴, Kogure M², Suzuki Y², Sugiyama M⁵, Nagashima F¹, Shibahara J⁶, Sakamoto Y², Furuse J¹ (¹Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ² Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital, ³ Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University School of Medicine, ⁴ Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁵Tokyo Rosai Hospital, ⁶Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine) : A Prospective Study of Neoadjuvant Gemcitabine Plus Nab-paclitaxel in Patients with Borderline-resectable Pancreatic Cancer. *Intern Med*. 62(3). 327-334. 2023.
15. Takahara N¹, Nakai Y², Isayama H³, Sasaki T⁴, Morine Y⁵, Watanabe K⁶, Ueno M⁷, Ioka T⁸, Kanai M⁹, Kondo S¹⁰, Okano N¹¹, Koike K¹ (¹Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ³Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, Juntendo University, ⁴Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Medicine, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ⁵Department of Surgery, Graduate School of Biomedical Sciences, Tokushima University, ⁶Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ⁷Department of Gastroenterology, Hepatobiliary and Pancreatic Medical Oncology Division, Kanagawa Cancer Center, ⁸Oncology Center, Yamaguchi University Hospital, ⁹Department of Therapeutic Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, ¹⁰Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital Tokyo, ¹¹Department of Medical Oncology, Faculty of Medicine, Kyorin University) : A prospective multicenter phase II study of FOLFIRINOX as a first-line treatment for patients with advanced and recurrent biliary tract cancer. *Invest New Drugs*. 41(1). 76-85. 2023.
16. Umemoto K¹, Sunakawa Y², Ueno M³, Furukawa M⁴, Mizuno N⁵, Sudo K⁶, Kawamoto Y⁷, Kajiwara T⁸, Ohtsubo K⁹, Okano N¹⁰, Matsuhashi N¹¹, Itoh S¹², Matsumoto T¹³, Shimizu S¹⁴, Otsuru T¹⁵, Hasegawa H¹⁶, Okuyama H¹⁷, Ohama H¹⁸, Moriwaki T¹⁹, Ohta T²⁰, Odegaard J²¹, Nakamura Y^{22,23}, Bando H²², Yoshino T²², Ikeda M²⁴ and Morizane C²⁵ (¹Department of Clinical Oncology, St. Marianna University School of Medicine, ²Department of Clinical Oncology, St. Marianna University School of Medicine, ³Department of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center, ⁴Department of Hepato-Biliary-Pancreatology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ⁵Department of Gastroenterology, Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Department of Gastroenterology, Chiba Cancer Center, ⁷Division of Cancer Center, Hokkaido University Hospital, ⁸Department of Gastrointestinal Medical Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁹Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University, ¹⁰Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ¹¹Department of Gastroenterological Surgery, Gifu University, ¹²Department of Surgery and Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹³Department of Medical Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, ¹⁴Department of Gastroenterology, Saitama Cancer Center, ¹⁵Osaka University Graduate School of Medicine, ¹⁶Department of Gastroenterology and Hepatology, National Hospital Organization, ¹⁷Department of Clinical Oncology, Kagawa University, ¹⁸Department of Gastroenterology, Osaka Medical College, ¹⁹Department of Gastroenterology, University of Tsukuba Hospital, ²⁰Department of Clinical Oncology, Kansai Rosai Hospital, ²¹Guardant Health, Redwood City, ²²Department of Gastroenterology and Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hospital East, ²³Translational Research Support Section, National Cancer Center Hospital East, ²⁴Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ²⁵Department of Hepatobiliary and Pancreatic Oncology, National Cancer Center Hospital) : Clinical significance of circulating-tumour DNA analysis by metastatic sites in pancreatic cancer. *Br J Cancer*. 128(8). 2023. Epub

和文

1. 廣中秀一：【実地医家が知っておくべきがんの薬物療法 がんの薬物療法の必要性・重要性】各がん種の最新情報と知っておくべき標準治療 食道がん. *Medical Practice*. 39(10). 1481-1486. 2022.
2. 水谷友紀：【がん・がん治療の合併症と対策】高齢がん患者に対する有害事象マネジメント. *腫瘍内科*. 30(3). 272-277.
3. 岡野尚弘：【膵癌 Conversion Surgery への挑戦】コラム 転移性膵癌に対する Conversion Surgery の適応と至適タイミング～腫瘍内科医の立場から～. *胆と膵*. 44(2). 159-162. 2023.

著書

1. 岸千鶴, 長島文夫 (分担執筆): 分子標的薬 抗EGFR抗体 セツキシマブ. これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調ベノート2023・2024年版. 上野誠, 古瀬純司監修. メディカ出版. 2023年. 22-23.
2. 岸千鶴, 長島文夫. (分担執筆): 分子標的薬 抗EGFR抗体 パニツムマブ. これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調ベノート2023・2024年版. 上野誠, 古瀬純司監修. メディカ出版. 2023年. 26-27.
3. 岸千鶴, 長島文夫. (分担執筆): 分子標的薬 抗VEGF抗体 ベバシズマブ. これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調ベノート2023・2024年版. 上野誠, 古瀬純司監修. メディカ出版. 2023年. 38-39.
4. 長島文夫 (分担執筆): 第1章高齢がん患者の特徴? 非高齢者と何が違うのか? 1) 疫学1 病因. よくわかる老年腫瘍学. 日本がんサポーターティブケア学会. 金原出版. 2023年. 2-6.
5. 水谷友紀 (分担執筆): 第5章老年腫瘍学領域における研究手法1) 高齢者を対象としたがんの臨床試験. よくわかる老年腫瘍学. 日本がんサポーターティブケア学会. 金原出版. 2023年. 292-300.
6. 水谷友紀 (分担執筆): ダコミニブ水和物. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 86-87.
7. 水谷友紀 (分担執筆): ロルラチニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 134-135.
8. 岡野尚弘 (分担執筆): レゴラフェニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. メディカ出版. 2023年. 114-115.
9. 岡野尚弘 (分担執筆): バンテダニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 116-117.
10. 岡野尚弘 (分担執筆): ゲムシタビン. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 250-251.
11. 岡野尚弘 (分担執筆): パクリタキセル. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 280-281.
12. 岡野尚弘 (分担執筆): ナブパクリタキセル. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 280-281.
13. 岡野尚弘 (分担執筆): ドセタキセル. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 284-285.
14. 岡野尚弘 (分担執筆): オラパリブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023年. 164-165.
15. 岡野尚弘 (分担執筆): 腫瘍. ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと促進 (1) 病態生理学. 山内豊明 編. メディカ出版. 2023年. 49-58.
16. 岡野尚弘 (分担執筆): 第8章 症例でわかる! 膵癌薬物療法. 6 一次治療以降の治療をどのように選択すべきか?. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法 第3版. 室圭, 加藤健, 池田公史 編集. 羊土社. 2023年. 389-392.
17. 岡野尚弘 (分担執筆): 第8章 症例でわかる! 膵癌薬物療法. 7 術後補助化学療法としてS-1施行後に再

発した膵がんに対する薬物療法は?. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法 第3版. 室圭, 加藤健, 池田公史 編集. 羊土社. 2023年. 393-395.

18. 岡野尚弘 (分担執筆): 第8章 症例でわかる! 膵癌薬物療法. 8 BRCA遺伝子検査や遺伝子パネル検査はいつ行い, どんな治療選択をすべきか?. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法. 室圭, 加藤健, 池田公史 編集. 羊土社. 2023年. 396-399.
19. 岡野尚弘 (分担執筆): 第8章 症例でわかる! 膵癌薬物療法. 9 悪性腹水が貯留している膵がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法第3版. 室圭, 加藤健, 池田公史 編集. 羊土社. 2023年. 400-402.
20. 岡野尚弘 (分担執筆): 第8章 症例でわかる! 膵癌薬物療法. 10 浸潤性膵管がん以外の特殊ながんにどのような薬物療法を選択すべきか?. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法第3版. 室圭, 加藤健, 池田公史 編集. 羊土社. 2023年. 403-405.

その他

1. 廣中秀一: 後期ラインを見据えた胃癌化学療法-実臨床における治療移行率-. オンライン (https://www.medicalcommunity.jp/products/brand/enhertu/gastric_cancer/disease). 2023年3月1日.
2. 長島文夫, 梅田恵: 今こそ考えたい! 高齢のがん患者を取り巻く課題・解決策 (対談). CNJ Speakers27号 (2023年Winter).

高齢医学教室

講演

教育講演

1. 海老原孝枝: Medical aromathreapyと老年症候群. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月2日-4日.

シンポジウム

1. 神崎恒一: 認知機能の低下を起点とするフレイル. 第22回日本抗加齢医学会総会. 大阪・オンライン. 2022年6月18日.
2. 神崎恒一: コグニティブフレイルの概念と介入方法の提案. 九州理学療法士学術大会2022in福岡. 北九州・オンライン. 2022年11月27日.
3. 海老原孝枝: 病態時間軸で診る, 認知症者の誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害・EOL. 第41回日本認知症学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年11月27日.

講演

1. Kozaki k: Cincial Diagnosis and Treatment of Dementia. IAGG e-TRIGGER-5th. オンライン. 2022年4月9日.
2. 神崎恒一: 高齢者認知症. 老年医学スプリングセミナー2022. オンライン. 2022年4月23日.
3. 神崎恒一: 老年医学から見た糖尿病ならびに生活習慣病の管理. Tejin Health Care社内研修会. オンライン. 2022年5月17日.
4. 赤坂憲, 山本浩一, 安延由紀子, 清水敦哉, 神崎恒一, 葛谷雅文, 大石充, 秋下雅弘, 柴木宏実, Cherry研究グループ: 高齢者高血圧における潜在的な認知機能変化に関連する因子の検討. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月2日.
5. 杏林大学医学部附属病院 認知症ケアサポートチーム 石井礼奈, 海老原孝枝, 小俣朋葉, 十文字菜穂,

- 内山雅貴, 相馬圭介, 杉町香, 名古屋恵美子, 根本康子, 市村正一: 大学病院における認知症サポートチーム活動の現況. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月2日.
6. 宮本孝英, 海老原孝枝, 永井久美子, 玉田真美, 神崎恒一: 体組成と高齢者誤嚥性肺炎. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月3日.
 7. 宮本孝英, 海老原孝枝, 田中政道, 碩みはる, 永井久美子, 神崎恒一: 高齢者年齢区分による上部消化管疾患の特徴—上部消化管内視鏡検査結果から. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月4日.
 8. 碩みはる, 永井久美子, 玉田真美, 神崎恒一: 新型コロナウイルス感染拡大前後で, もの忘れ外来にて妄想性障害と診断された患者の特徴. 第64回日本老年医学会学術集会. 大阪・オンライン. 2022年6月4日.
 9. 神崎恒一: フレイル, サルコペニアとその対策. 2022年度日本内科学会生涯教育講演会. 大阪・オンライン. 2022年6月12日.
 10. 永井久美子, 輪千安希子, 玉田真美, 神崎恒一: もの忘れ外来患者における好中球/リンパ球比の意義—脳小血管病および認知機能との関連—. 第54回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 久留米・オンライン. 2022年7月23日.
 11. 神崎恒一: 高齢者の心身の機能低下と認知症. 第12回日本脳血管・認知症学会総会. 東京・オンライン. 2022年8月6日.
 12. 内田奈緒子, 輪千督高, 長田正史, 井上慎一郎, 海老原孝枝, 神崎恒一: 94歳で発症した後天性血友病Aの1例. 第74回日本老年医学会関東甲信越地方会. さいたま・オンライン. 2022年9月24日.
 13. 神崎恒一: 高齢診療科の医師が行っている高齢者の診療. アミティーザ発売10周年記念講演会in西東京. オンライン. 2022年9月27日.
 14. 海老原孝枝, 大荷満生: 体組成と高齢者誤嚥性肺炎. 第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会. 岩手・オンライン. 2022年10月8日.
 15. 神崎恒一: フレイル, サルコペニアとその対策. 2022年度日本内科学会生涯教育講演会. 松本・オンライン. 2022年10月9日.
 16. 海老原孝枝, 石井礼奈, 小俣朋菜, 十文字奈穂, 内山雅貴, 相馬圭介, 杉町香, 名古屋恵美子, 根本康子, 近藤晴彦, 神崎恒一: 大学病院における認知用サポート医活動と入院認知症患者の多病性について. 第41回日本認知症学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年11月26日.
 17. 碩みはる, 永井久美子, 玉田真美, 神崎恒一: COVID-19感染拡大前後で, もの忘れ外来にて妄想性障害と診断された患者の特徴. 第41回日本認知症学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年11月26日.
 18. 神崎恒一: 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年度版に基づく資質管理. KOWA Web Conference. オンライン. 2023年1月17日.
 19. 神崎恒一: 高齢者のフレイル・サルコペニアについて. 令和4年度三鷹市介護保険事業者連絡協議会居宅介護支援部会研修. 三鷹. 2023年2月17日.
 20. 神崎恒一: 高齢者の認知症にかかわるフレイル. 第11回認知症研究会. オンライン. 2023年2月17日.
 21. 神崎恒一: 認知症薬物療法について. 興和株式会社社内研修会. 調布. 2023年3月7日.
 1. 海老原孝枝, 海老原覚: 【最新知見を現場に活かす! 誤嚥性肺炎 治療と予防の新常識】(2章)各論 摂食嚥下障害と口腔問題 誤嚥性肺炎を予防・治療する摂食嚥下リハビリテーション. jmed mook. 79号. 61-66. 2022.
 2. 永井久美子, 玉田真美, 碩みはる, 神崎恒一: もの忘れ外来における初診患者の変化—緊急事態宣言の影響—. 日本老年医学会雑誌. 59(2). 178-189. 2022.
 3. 海老原孝枝, 海老原覚: 【咀嚼と嚥下と誤嚥性肺炎】咀嚼, 嚥下, 誤嚥性肺炎の治療 誤嚥性肺炎の治療, 呼吸機能のリハビリテーション. JOHNS. 38巻5号. 543-548. 2022.
 4. Hirasawa I¹, Nagai K, Miyazawa T², Koshihara H, Tamada M, Shibata S¹, Kozaki K² (¹Department of Health and Welfare, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, ²Shigakkan University): Relationship between arterial stiffness and cognitive function in outpatients with dementia and mild cognitive impairment compared with community residents without dementia. Journal of Geriatric Cardiology. 19(8). 594-602. 2022.
 5. 神崎恒一: 【"認知症+併存疾患" アプローチの最前線】フレイル・サルコペニア. 内科. 129(6). 1337-1340. 2022.
 6. 海老原孝枝: 【"認知症+併存疾患" アプローチの最前線】各併存疾患の対策と管理 摂食嚥下障害と低栄養. 内科. 129(6). 1327-1330. 2022.
 7. 海老原孝枝: 【老年栄養-高齢者の低栄養, フレイル, サルコペニア】疾患と栄養ケア 誤嚥性肺炎の栄養障害・栄養ケア. 内科. 130(2). 227-231. 2022.
 8. Ebihara T: Comprehensive Approaches to Aspiration Pneumonia and Dysphagia in the Elderly on the Disease Time-Axis. J Clin Med. 11(18). 5323. 2022.
 9. 海老原覚, 三浦久子, 海老原孝枝: 【メカニズム・治療とケア・チーム医療・加算・嚥下調整食をまるごと解説 栄養治療に役立つ これだけでわかる! 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎】第1章 摂食嚥下機能のメカニズム・誤嚥性肺炎 誤嚥性肺炎とその兆候, 治療と予防. Nutrition Care. 40-43. 2022.
 10. 神崎恒一: 認知機能の低下を起点とするフレイル. 日本骨粗鬆症学会雑誌. 8(4). 189-192. 2022.
 11. Ebihara S¹, Miura T¹, Yoshida N¹, Nakazawa C¹, Takahashi R¹, Ebihara T (¹Department of Internal Medicine and Rehabilitation Science, Tohoku University Graduate School of Medicine): Sarcopenic dysphagia and aspiration pneumonia in older people. Geriatr Gerontol Int. 22(12). 1057-1058. 2022.
 12. 海老原孝枝: 【人生100年時代の高齢者リハビリテーション医療の新潮流】高齢者リハビリテーション医療におけるアロマセラピーの活用. Geriatric Medicine. 60巻11号. 1013-1016. 2022.
 13. 海老原孝枝: 【今おさえておきたい呼吸器診療】おさえておきたい呼吸器疾患の診断・治療 高齢者の肺炎診療のポイント. 診断と治療. 110巻11号. 1433-1438. 2022.
 14. 海老原孝枝: 高齢者診療の実際(No.9) 老年症候群誤嚥. 日本医師会雑誌. 151巻10号. 1814-1815. 2023.
 15. Ebihara S¹, Okazaki T¹, Miura H¹, Wu X¹, Ebihara T. (¹ Department of Internal Medicine and Rehabilitation Science, Tohoku University Graduate School of Medicine): Who treats older

論文

patients with aspiration pneumonia?. *Geriatr Gerontol Int.* 23(3). 256-257. 2023.

著書

1. 海老原孝枝(分担執筆):【高齢者診療のための臨床検査ガイド】嚥下障害. 小川純人, 武藤真祐, 山田俊幸 編集. 診断と治療社. 2022. 015.
2. 海老原孝枝(分担執筆):【高齢女性診療Q&A】誤嚥性肺炎・嚥下障害. 小川純人 編集. 日本医事新報社. 2023. 196-210.

報告書

1. 神崎恒一:フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ, サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究. 長寿医療研究開発費(令和4年度)分担研究報告書.
2. 神崎恒一:コグニティブフレイルの臨床的意義解明のための総合研究. 科学研究費補助金(基盤研究(C))(令和4年度)実績報告書:研究成果報告書.
3. 神崎恒一:サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン開発研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(ヘルスケア社会実装基盤整備事業)(令和4年度)成果報告書.
4. 海老原孝枝:高齢者肺炎における, DPP-IV阻害剤の pros and cons. 科学研究費補助金(基盤研究(C))(令和4年度)実績報告書.
5. 海老原孝枝:併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)(令和4年度)分担研究報告書.

その他

1. 神崎恒一:第12回日本脳血管・認知症学会総会. 学会主催. 東京・オンライン. 2022年8月6日.

精神神経科学教室

講演

1. 坪井貴嗣:当事者中心のうつ病治療2022 コロナ禍での状況を踏まえて考える. 令和4年度国分寺市医師会学術講演会. 国分寺市. 2022年4月27日.
2. 今村弥生:医学的モデルによる対象理解 精神科診療学F5-F9. 精神科認定看護師研修会. オンライン. 2022年5月4日.
3. 今村弥生:「令和の武士道」鬼滅の刃から学ぶ医道探求の道. 自治医科大学医学部1年生「思考のプロセス」. オンライン. 2022年5月8日-5月20日.
4. 大井一高, 坪井貴嗣, 多田光宏, 高塩理:不安症と双極性障害From Bench to Bedside. 第14回日本不安症学会学術大会. 東京. 2022年5月21日.
5. 渡邊衡一郎:会長講演「不安の時代」を生き抜くために. 第14回日本不安症学会学術大会. 東京. 2022年5月21日.
6. 坪井貴嗣:うつ病と双極性障害をいつどのように見分けるか. 第14回日本不安症学会学術大会. 東京. 2022年5月21日.
7. 櫻井準, Bentley KH, Lowman KL, Rines-Toth L, McKowen J, Pedrelli P, Evins AE, Yule AM:物質使用障害を有する若年者における不安症の簡易スクリーニング法の検証. 第14回日本不安症学会学術大会. 東京. 2022年5月21日.
8. 奥山真司, 田中克俊, 坪井貴嗣, 堀輝:産業メンタルヘルスと不安関連領域について. 第14回日本不安症

学会学術大会. 東京. 2022年5月22日.

9. 坪井貴嗣:不安性苦痛や不安症の合併も含めたうつ病の復職について考える. 第14回日本不安症学会学術大会. 東京. 2022年5月22日.
10. Ochi S, Tagata H, Hasegawa H, Yasui-Furukori N, Iga J, Kashiwagi H, Kodaka F, Komatsu H, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S, Ichihashi K, Onitsuka T, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Atake K, Kishimoto T, Hori H, Takaesu Y, Takeshima M, Usami M, Makinodan M, Hashimoto N, Fujimoto M, Furihata R, Nagasawa T, Yamada H, Matsumoto J, Miura K, Kido M, Hishimoto A, Ueno S, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study. 33rd Committee of the International College of Neuropsychopharmacology. Chinese Taipei · Online. June 10th. 2022.
11. 渡邊衡一郎:わが国における大規模調査MUSUBI-Jの結果から分かった双極性障害を巡る諸問題に対するヒント. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月16日.
12. 中村敏範, 降旗隆二, 長谷川尚美, 大槻怜, 古郡規雄, 坪井貴嗣, 越智紳一郎, 市橋香代, 山田恒, 渡邊衡一郎, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 鷲塚伸介, 橋本亮太:統合失調症の入院治療における睡眠薬増減の関連要因:全国調査の分析. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
13. 五十嵐俊, 坪井貴嗣, 長谷川尚美, 古郡規雄, 越智紳一郎, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 岡田剛史, 柏木宏子, 小高文聡, 福本健太郎, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太:入院うつ病患者におけるECT後の炭酸リチウムの処方実態について. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
14. 渡邊衡一郎, 堀口淳, 近藤和興, 岩武敦司, 坂本創, 須々田寛, 増井秀昭, 渡邊裕美:Valbenazineの日本人遅発性ジスキネジア患者を対象とした第2/3相臨床試験の成績. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
15. 菅原典夫, 足立直人, 窪田幸久, 渡辺洋一郎, 三木和平, 阿瀬川孝治, 枝川浩二, 勝元榮一, 本郷誠司, 後藤栄一郎, 上田均, 加藤正樹, 吉村玲児, 中川敦夫, 菊池俊暁, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 下田和孝, 古郡規雄:双極性障害外来患者における3年後治療反応の予測因子. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
16. 大槻怜, 降旗隆二, 長谷川尚美, 中村敏範, 古郡規雄, 小高文聡, 堀輝, 坪井貴嗣, 沼田周助, 柏木宏子, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 鈴木正泰, 橋本亮太:日本のうつ病入院治療における睡眠薬処方率の施設間の違いとその関連要因. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
17. 渡邊衡一郎:うつ病と双極性障害におけるパーソナルリカバリーについて考える. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月17日.
18. 坪井貴嗣:精神科で本当に必要な薬は何か?(抗うつ薬, 気分安定薬, その他の薬剤). 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡・オンライン. 2022年6月16日-18日.
19. 坪井貴嗣:産業メンタルヘルスの立場から考えるうつ病のパーソナルリカバリー. 第118回日本精神神経

- 学会学術総会. 福岡・オンライン. 2022年6月16日-18日.
20. 坪井貴嗣: うつ病治療ガイドラインと精神療法-ガイドラインは有用か?-. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡・オンライン. 2022年6月16日-18日.
 21. 松本泰幸, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 就労中のうつ病患者における精神科主治医の対応に関するアンケート調査. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月18日.
 22. 大石和史, 松本泰幸, 平野祥子, 坪井貴嗣, 青鹿由紀, 渡邊衡一郎: 修正型電気けいれん療法後に軽躁状態を呈し診断再考した双極性障害の1例. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月18日.
 23. 渡邊衡一郎: 精神療法が必須な精神障害にガイドラインはどこまで有効か. 第118回日本精神神経学会学術総会. 福岡. 2022年6月18日.
 24. 坪井貴嗣: 就労を中心としたリカバリー判定における評価尺度とその限界. 第29回日本産業精神保健学会. 東京. 2022年7月9日.
 25. 村岡寛之, 長谷川尚美, 古郡規雄, 小高文聰, 福本健太郎, 柏木宏子, 大井一高, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 西村勝治, 橋本亮太: うつ病の治療に対するEGUIDE講習の効果と重症度の付記の影響. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 26. 岡田剛史, 福本健太郎, 坪井貴嗣, 長谷川尚美, 村岡寛之, 柏木宏子, 越智伸一郎, 五十嵐俊, 飯田仁志, 小高文聰, 大井一高, 高江洲義和, 古郡規雄, 三浦健一郎, 松本純弥, 須田史郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病に対する維持ECT患者に併用する薬物療法の実態. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 27. 長島泉, 早坂友成, 二田未来, 櫻井準, 片桐建志, 今村弥生, 神田優太, 栗原真理子, 大江悠樹, 吉田信子, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態を呈する注意欠如・多動症の行動特徴-作業療法による診断補助の試み. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 28. 大江悠樹: 難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連. 第19回日本うつ病学会総会. 大分・オンライン. 2022年7月14日.
 29. 大江悠樹, 栗原真理子, 櫻井準, 坪井貴嗣, 片桐建志, 早坂友成, 二田未来, 長島泉, 青鹿由紀, 小野田直子, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 30. 山田亢恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病治療ガイドライン講習受講効果の検討-ガイドライン講習前と受講後5年間のガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 31. 本山美久仁, 山田亢恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対するうつ病治療ガイドライン講習の効果の検討-ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較-. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 32. 渡邊衡一郎: 「うつ病診療におけるShared Decision Making(SDM)」の実現可能性. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 33. 坪井貴嗣: うつ病におけるオンライン診療の可能性について. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月14日.
 34. 櫻井準, 米澤賢吾, 谷英明, 三村將, Bauer M, 内田裕之: 開発中の新しい抗うつ薬: 米国臨床試験登録の系統的レビュー. 第19回日本うつ病学会. 大分. 2022年7月14日.
 35. 渡邊衡一郎: 精神疾患におけるパーソナルリカバリー. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月15日.
 36. 坪井貴嗣: 当事者・家族のためのわかりやすいうつ病治療ガイドを作成して. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月15日.
 37. 坪井貴嗣: あらためて遅発性ジスキネジアの診断・治療・当事者への影響を考える. 第19回日本うつ病学会総会. 大分. 2022年7月15日.
 38. 櫻井準: ケタミンという新しい選択肢. 第19回日本うつ病学会. 大分. 2022年7月15日.
 39. 渡邊衡一郎: 当事者目線のうつ病診療と復職. 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会. 大分. 2022年7月16日.
 40. 渡邊衡一郎: うつ病治療における「真のrecovery」に向けて. 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会. 大分. 2022年7月16日.
 41. 渡邊衡一郎, 坪井貴嗣: コロナ禍とうつ病-予防と治療の点から学んでみましょう-. 2022年度杏林大学公開講演会. オンライン. 2022年8月6日.
 42. 坪井貴嗣: 異質性・多様性に富むうつ病当事者に我々はどう向き合うべきか. 令和4年度調布市医師会精神科医会学術講演会. 東京. 2022年8月25日.
 43. 大江悠樹: 慢性痛の認知行動療法. 第6回看護のための認知行動療法研究会総会. オンライン. 2022年9月17日.
 44. 今村弥生: 「精神医学」. 日本社会事業大学通信教育学科 講義. 清瀬市・オンライン. 2022年9月18日.
 45. 今村弥生, 河田祥吾, 横谷省治, 森屋淳子, 喜瀬守人, 新野青那, 若林英樹, 家研也: シン・家庭医療専門医時代のメンタルヘルズ診療. 第19回プライマリ・ケア連合学会秋季生涯教育セミナー. 大阪市. 2022年9月24日.
 46. 坪井貴嗣: 自身や周囲の人がうつ病かなと思ったら-うつ病の正しい理解と周囲の接し方, 医師とのコミュニケーションの取り方-. 令和4年度世界メンタルヘルスデーセミナー. オンライン. 2022年10月3日.
 47. 坪井貴嗣: 精神科領域における慢性便秘症を考察する. 第34回東京精神科病院協会学会. 東京. 2022年10月26日.
 48. 増田万里亜, 今村弥生, 櫻井準, 神田優太, 片桐建志, 坪井貴嗣, 青鹿由紀, 西園マーハ文, 渡邊衡一郎: 入院治療は摂食障害の治療継続に寄与するか. 第25回日本摂食障害学会学術集会・オンライン. 2022年10月15-16日.
 49. 金子怜史, 神田優太, 今村弥生, 片桐建志, 櫻井準, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 西園マーハ文, 渡邊衡一郎: 身体合併症を有する最重度の神経性やせ症に対し集中治療室から心理的介入を行った一例. 第25回日本摂食障害学会学術集会・オンライン. 2022年10月15-16日.
 50. 今村弥生: 思春期青年期の精神医療の現在 新しいこころの健康教育への精神医療の現場からの期待. 東京都精神保健福祉協議会講演会. 東京都. 2022年10月30日.
 51. 坪井貴嗣: 抗精神病薬の薬剤性錐体外路系副作用およびその他の副作用. BPCNP4学会合同年会.

- 東京．2022年11月4日．
52. 櫻井準：双極性障害診療アップデート．第32回日本臨床精神神経薬理学会．東京．2022年11月4日．
 53. 櫻井準：新世代の抗うつ薬．第32回日本臨床精神神経薬理学会．東京．2022年11月5日．
 54. 大江悠樹：今後の外来精神医療の多様性について-心理士（師）の立場から-．第22回日本外来精神医療学会・総会．三鷹市．2022年11月5日．
 55. 豊田彩花，大江悠樹，細越寛樹，伊藤正哉：身体症状に対する統一プロトコルの適応可能性について：文献的検討．東京・オンライン．2022年11月11-13日．
 56. 金子響介，伊藤正哉，中島俊，山口慶子，加藤典子，藤里紘子，重枝裕子，竹林由武，大江悠樹，中山千秋：「うつと不安への診断を越えた治療のための統一プロトコル研修」における研修効果の予備的検討．東京・オンライン．2022年11月11-13日．
 57. 山口慶子，宮前光宏，大江悠樹，中山千秋，金子響介，豊田彩花，堀越勝，久我弘典，伊藤正哉認知行動療法のための臨床査定に関する研修の効果-研修前後の調査結果による検証-．東京・オンライン．2022年11月11-13日．
 58. 坪井貴嗣：異質性・多様性に富むうつ病当事者をどう支援していくべきか．令和4年度西多摩医師会学術講演会．東京．2022年11月17日．
 59. 坪井貴嗣：遅発性ジスキネジア再考-バルベナジンへの期待-．第21回武蔵野地域精神医療懇話会．東京．2022年11月21日．
 60. 坪井貴嗣：職場メンタルヘルスにおけるうつ病のリカバリーを考える．令和4年度三区（中野，新宿，杉並）合同産業医研修会．東京．2022年11月26日．
 61. 渡邊衡一郎，坪井貴嗣：うつ病のおすすめる治療・しない治療-ガイドラインと共同意思決定（SDM）-．第83回こんぼ亭月例会．オンライン．2022年12月7日．
 62. 坪井貴嗣：当事者とともに目指す精神疾患への臨床的アプローチについて．第9回精神病態セミナー．オンライン．2022年12月9日．
 63. 今村弥生：腑に落ちる発達症．令和4年度新発田地域行政保健師業務研究会．オンライン．2022年12月27日．
 64. 坪井貴嗣：遅発性ジスキネジアの治療とその重要性について．令和4年度熊本県精神科協会学術講演会．熊本．2023年1月19日．
 65. 伊藤正哉，大江悠樹，山口慶子，宮前光宏：認知行動療法における症状評価研修，国立精神神経医療研究センター認知行動療法センター主催 オンライン研修．オンライン．2022年12月20日-2023年1月31日．
 66. 堀越勝，細越寛樹，大江悠樹，高岸百合子，平子雪乃，豊田彩花：慢性痛に対する認知行動療法研修．2022年度国立精神神経医療研究センター認知行動療法センター主催 オンライン研修．オンライン．2023年2月3日-3月20日．
 67. 渡邊衡一郎：若年者の自殺対応のためのメンタルヘルスの推進．うつ病ガイドラインについてわかりやすくご紹介．一般社団法人うつ病センター JDCメンタルヘルスセミナー2022．東京．2023年3月4日．
 68. 坪井貴嗣：心身医療において漢方治療をいかに用いるか．令和4年度西東京市医師会学術講演会．東京．2023年3月14日．
 69. 渡邊菜保子，神田優太，平野祥子，片桐建志，坪井貴嗣，西園マーハ文，渡邊衡一郎：Child-Adult Relationship Enhancement (CARE) を用いて家族介入した神経性食思不振症児童の症例．第41回日本社会精神医学会．オンデマンド配信．2023年3月16-17日．
 70. 中村慎太郎，村尾昌美，宮原嵩明，丸木拓，長島泉，早坂友成，大江悠樹，栗原真理子，青鹿由紀，櫻井準，坪井貴嗣，渡邊衡一郎：診断に難渋したものの，多職種による評価にて最終的にADHDの診断に至った一例．第41回日本社会精神医学会．神戸．オンライン．2023年3月16-17日．
 71. 今村弥生，櫻井準，坪井貴嗣，青鹿由紀，西園マーハ文，渡邊衡一郎：神経性やせ症の入院治療における診療ガイドラインの効果についての検討．第41回日本社会精神医学会．神戸・オンライン．2023年3月16-17日．
 72. 渡邊衡一郎：日本うつ病学会・うつ病ガイドラインの特徴とこれから．第41回日本社会精神医学会．神戸・オンライン．2023年3月17日．
 73. 渡邊衡一郎：気分障害のリカバリー．第41回日本社会精神医学会．神戸・オンライン．2023年3月17日．
 74. 渡邊衡一郎：改めて遅発性ジスキネジアについて考える-リカバリーの観点から-．日本うつ病学会・うつ病ガイドラインの特徴とこれから．第41回日本社会精神医学会．神戸・オンライン．2023年3月17日．
 75. 坪井貴嗣：気分障害の寛解，そしてリカバリー．第41回日本社会精神医学会．神戸・オンライン．2023年3月17日．
 76. Sakurai H: Treatments for Depression Focusing on Individual Symptoms. 1st NPPR seminar. Tokyo. March 29th, 2023.

論文

1. Yamada H¹, Motoyama M², Hasegawa N³, Miura K³, Matsumoto J³, Ohi K⁴, Yasui-Furukori N⁵, Numata S⁶, Takeshima M⁷, Sugiyama N⁸, Nagasawa T⁹, Kubota C¹⁰, Atake K¹¹, Tsuboi T, Ichihashi K¹², Hashimoto N¹³, Inagaki T¹⁴, Takaesu Y, Iga J¹⁵, Hori H¹⁶, Onitsuka T¹⁷, Komatsu H¹⁸, Hishimoto A¹⁹, Fukumoto K²⁰, Fujimoto M²¹, Nakamura T²², Nemoto K²³, Furihata R²⁴, Yamamura S²⁵, Yamagata H²⁶, Ogasawara K²⁷, Katsumoto E²⁸, Murata A³, Iida H²⁹, Ochi S³⁰, Makinodan M³¹, Kido M³², Kishimoto T³³, Yasuda Y³⁴, Usami M³⁵, Suwa T²⁴, Inada K³⁶, Watanabe K, Hashimoto R³¹(Hyogo Medical University, ²Hyogo College of Medicine, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Gifu University, ⁵Dokkyo Medical University, ⁶Tokushima University, ⁷Akita University, ⁸Shinshu University, ⁹Kanazawa Medical University, ¹⁰National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, ¹¹Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, ¹²The University of Tokyo, ¹³Hokkaido University, ¹⁴Biwako Hospital, ¹⁵Ehime University, ¹⁶Fukuoka University, ¹⁷Kyushu University, ¹⁸Tohoku University, ¹⁹Yokohama City University, ²⁰Iwate Medical University, ²¹Osaka University, ²²Shinshu University, ²³University of Tsukuba, ²⁴Kyoto University, ²⁵Suzuka Kosei Hospital, ²⁶Yamaguchi University, ²⁷Nagoya University, ²⁸The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ²⁹Fukuoka University, ³⁰Ehime University, ³¹Nara Medical University, ³²University of Toyama, ³³Keio University, ³⁴Ikiru Hagukumu Kagayaku mental clinic, ³⁵Kohnodai Hospital, ³⁶Kitasato University): A dissemination and education programme to improve the clinical behaviours of psychiatrists in accordance with treatment guidelines for schizophrenia and major depressive

- disorders: the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE) project. *BJPsych Open*. 8(3). e83. 2022.
2. Ikenouchi A¹, Konno Y¹, Fujino Y¹, Adachi N², Kubota Y³, Azekawa T⁴, Ueda H⁵, Edagawa K⁶, Katsumoto E⁶, Goto E⁶, Hongo S⁷, Kato M⁸, Tsuboi T, Yasui-Furukori N⁹, Nakagawa A¹⁰, Kikuchi T¹¹, Watanabe K, Yoshimura R¹ (1University of Occupational and Environmental Health, 2Adachi Mental Clinic, 3Chuo Kouen Clinic, 4Shioiri Mental Clinic, 5Morioka Mental Clinic, 6The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 7Ichigaya Himorogi Clinic, 8Kansai Medical University, 9Dokkyo Medical University, 10St.Marianna University, 11Keio University) : Relationship Between Employment Status and Unstable Periods in Outpatients with Bipolar Disorder: A Multicenter Treatment Survey for Bipolar Disorder in Psychiatric Outpatient Clinics (MUSUBI) Study. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 18. 801-809. 2022.
 3. Hori H¹, Yasui-Furukori N², Hasegawa N³, Iga J⁴, Ochi S⁴, Ichihashi K⁵, Furihata R⁶, Kyo Y, Takaesu Y⁷, Tsuboi T, Kodaka F⁸, Onitsuka T⁹, Okada T¹⁰, Murata A³, Kashiwagi H³, Iida H¹, Hashimoto N¹¹, Ohi K¹², Yamada H¹³, Ogasawara K¹⁴, Yasuda Y¹⁵, Muraoka H¹⁶, Usami M¹⁷, Numata S¹⁸, Takeshima M¹⁹, Yamagata H²⁰, Nagasawa T²¹, Tagata H²³, Makinodan M²³, Kido M²⁴, Katsumoto E²⁵, Komatsu H²⁶, Matsumoto J³, Kubota C²⁷, Miura K²⁶, Hishimoto A²⁸, Watanabe K, Inada K¹⁶, Kawasaki H¹, Hashimoto R³ (1 Fukuoka University, 2Dokkyo Medical University, 3National Center of Neurology and Psychiatry, 4Ehime University, 5The University of Tokyo, 6Kyoto University, 7University of the Ryukyus, 8Jikei University School of Medicine, 9Kyushu University, 10Jichi Medical University, 11Hokkaido University, 12Gifu University, 13Hyogo Medical University, 14Nagoya University, 15Ikiru Hagukumu Kagayaku mental clinic, 16Kitasato University, 17Kohnodai Hospital, 18Tokushima University, 19Akita University, 20Yamaguchi University, 21 Kanazawa Medical University, 22Toho University, 23Nara Medical University, 24University of Toyama, 25The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 26Tohoku University, 27National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, 28Yokohama City University) : Prescription of Anticholinergic Drugs in Patients With Schizophrenia: Analysis of Antipsychotic Prescription Patterns and Hospital Characteristics. *Front Psychiatry*. 13. 823826. 2022.
 4. Ochi S¹, Tagata H², Hasegawa N³, Yasui-Furukori N⁴, Iga J⁵, Kashiwagi H³, Kodaka F⁶, Komatsu H⁷, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S⁸, Ichihashi K⁹, Onitsuka T¹⁰, Muraoka H¹¹, Iida H¹², Ohi K¹³, Atake K¹⁴, Kishimoto T¹⁵, Hori H¹², Takaesu Y¹⁶, Takeshima M¹⁷, Usami M¹⁸, Makinodan M¹⁹, Hashimoto N²⁰, Fujimoto M²¹, Furihata R²², Nagasawa T²³, Yamada H²⁴, Matsumoto J³, Miura K³, Kido M²⁵, Hishimoto A²⁶, Ueno S⁵, Watanabe K, Inada K¹¹, Hashimoto R³ (1Ehime University, 2Toho University, 3National Center of Neurology and Psychiatry, 4Dokkyo Medical University, 5Ehime University, 6Jikei University School of Medicine, 7Tohoku University, 8Tokushima University, 9The University of Tokyo, 10Kyushu University, 11Kitasato University, 12Fukuoka University, 13Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, 14Keio University) : Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study. *Int J Neuropsychopharmacol*. 25(10). 818-826. 2022.
 5. 浦田実¹, 志賀浪貴文¹, 倉持泉¹, 渡邊衡一郎, 吉益晴夫¹ (1埼玉医科大学総合医療センター) : Mirtazapine増量後から食欲亢進を主訴に自殺企図に至ったうつ病患者. *総合病院精神医学*. 34巻3号. 284-288. 2022.
 6. Sugawara N¹, Adachi N², Kubota Y³, Watanabe Y⁴, Miki K⁴, Azekawa T⁵, Edagawa K⁴, Katsumoto E⁴, Hongo S⁶, Goto E⁴, Ueda H⁷, Kato M⁸, Yoshimura R⁹, Nakagawa A¹⁰, Kikuchi T¹¹, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K¹, Yasui-Furukori N¹ (1Dokkyo Medical University, 2Adachi Mental Clinic, 3Chuo Kouen Clinic, 4The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 5Shioiri Mental Clinic, 6Ichigaya Himorogi Clinic, 7Morioka Mental Clinic, 8Kansai Medical University, 9University of Occupational and Environmental Health, 10St.Marianna University, 11Keio University) : Determinants of three-year clinical outcomes in real-world outpatients with bipolar disorder: The multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric outpatient clinics (MUSUBI). *J Psychiatr Res*. 151. 683-692. 2022.
 7. Muraoka H¹, Kodaka F², Hasegawa N³, Yasui-Furukori N⁴, Fukumoto K⁵, Kashiwagi H³, Tagata H⁶, Hori H⁷, Atake K⁸, Iida H⁷, Ichihashi K⁹, Furihata R¹⁰, Tsuboi T, Takeshima M¹¹, Komatsu H¹², Kubota C¹³, Ochi S¹⁴, Takaesu Y¹⁵, Usami M¹⁶, Nagasawa T¹⁷, Makinodan M¹⁸, Nakamura T¹⁹, Kido M²⁰, Ueda I²¹, Yamagata H²², Onitsuka T²³, Asami T²⁴, Hishimoto A²⁴, Ogasawara K²⁵, Katsumoto E²⁶, Miura K³, Matsumoto J³, Ohi K²⁷, Yamada H²⁸, Watanabe K, Inada K²⁹, Nishimura K³⁰, Hashimoto R³ (1Kitasato University, 2Jikei University School of Medicine, 3National Center of Neurology and Psychiatry, 4Dokkyo Medical University, 5Iwate Medical University, 6Toho University, 7Fukuoka University, 8Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, 9The University of Tokyo, 10Kyoto University, 11Akita University, 12Tohoku University, 13National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, 14Ehime University, 15University of the Ryukyus, 16Kohnodai Hospital, 17Kanazawa Medical University, 18Nara Medical University, 19Shinshu University, 20University of Toyama, 21Miyagi Psychiatric Center, 22Yamaguchi University, 23Kyushu University, 24Yokohama City University, 25Nagoya University, 26The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 27Gifu University,

- ²⁸Hyogo Medical University, ²⁹Kitasato University, ³⁰Tokyo Women's Medical University) : Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study. *Asian J Psychiatr*. 74. 103174. 2022.
8. Takaesu Y¹, Aoki Y², Tomo Y³, Tsuboi T, Ishii M, Imamura Y, Tachimori H⁴, Watanabe K⁽¹University of the Ryukyus, ²St.Luke's International University, ³National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, ⁴Keio University) : Implementation of a shared decision-making training program for clinicians based on the major depressive disorder guidelines in Japan: A multi-center cluster randomized trial. *Front Psychiatry*. 13. 967750. 2022.
 9. Tajika A¹, Hori H², Iga J³, Koshikawa Y⁴, Ogata H⁴, Ogawa Y¹, Watanabe K, Kato T⁵, Matsuo K⁶, Kato M⁴(¹Kyoto University, ²Fukuoka University, ³Ehime University, ⁴Kansai Medical University, ⁵Juntendo University, ⁶Saitama Medical University) : Mood Stabilizers and Antipsychotics for Acute Mania: Systematic Review and Meta-Analysis of Augmentation Therapy Versus Monotherapy from the Perspective of Time to the Onset of Treatment Effects. *Int J Neuropsychopharmacol*. 25(10). 839-852. 2022.
 10. Takaesu Y¹, Takeshima M², Watanabe K⁽¹University of the Ryukyus, ²Akita University) : Effectiveness and Tolerability of Lurasidone for Bipolar Types I and II and Other Specified Bipolar Depression: A 12-Week Observational Study. *J Clin Psychopharmacol* 42(5): 485-488. 2022.
 11. Kawamata Y¹, Yasui-Furukori N¹, Adachi N², Ueda H³, Hongo S⁴, Azekawa T⁵, Kubota Y⁶, Katsumoto E⁷, Edagawa K⁷, Goto E⁷, Miki K⁷, Kato M⁸, Nakagawa A⁹, Kikuchi T¹⁰, Tsuboi T, Yoshimura R¹¹, Shimoda K¹, Watanabe K⁽¹Dokkyo Medical University, ²Adachi Mental Clinic, ³Morioka Mental Clinic, ⁴Ichigaya Himorogi Clinic, ⁵Shioiri Mental Clinic, ⁶Chuo Kouen Clinic, ⁷The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ⁸Kansai Medical University, ⁹St.Marianna University, ¹⁰Keio University, ¹¹University of Occupational and Environmental Health) : Effect of age and sex on prescriptions for outpatients with bipolar disorder in the MUSUBI study: a cross-sectional study. *Ann Gen Psychiatry*, 21(1). 37. 2022.
 12. Maruki T, Utsumi T¹, Takeshima M², Fujiwara Y³, Matsui M³, Aoki Y⁴, Toda H³, Watanabe N, Watanabe K, Takaesu Y⁵(¹The Jikei University School of Medicine, ²Akita University, ³National Defense Medical College, ⁴St.Luke's International University, ⁵University of the Ryukyus) : Efficacy and safety of adjunctive therapy to lamotrigine, lithium, or valproate monotherapy in bipolar depression: a systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *Int J Bipolar Disord*. 10(1). 24. 2022.
 13. Watanabe K, Marumoto T¹, Ge Holly², Moriguchi Y³, Fujikawa K⁴, Fernandez Jovelle L¹ (¹Takeda Pharmaceutical Company Limited, ²Lundbeck Singapore Pte Ltd ³Lundbeck Japan K.K, ⁴Takeda Pharmaceutical Company Limited) : Association between baseline cognitive symptoms and the subsequent presenteeism and global function in patients with major depressive disorder. *J Psychiatr Res*. 154: 324-331. 2022.
 14. Takeshima M¹, Aoki Y², Ie K³, Katsumoto E⁴, Tsuru E⁵, Tsuboi T, Inada K⁶, Kise M⁷, Watanabe K, Mishima K¹, Takaesu Y⁸ (¹Akita University, ²St.Luke's International University, ³St.Marianna University School of Medicine, ⁴The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ⁵Munakata Suikokai General Hospital, ⁶Kitasato University, ⁷Japanese Health and Welfare Co-Operative Federation, ⁸University of the Ryukyus) : Attitudes and Difficulties Associated with Benzodiazepine Discontinuation. *Int J Environ Res public Health* 19(23): 15990. 2022.
 15. Aoki Y¹, Yaju Y¹, Utsumi T², Sanyaolu L³, Storm M^{4,5}, Takaesu Y⁶, Watanabe K, Watanabe N, Duncan E⁷, Edwards AG³ (¹St.Luke's International University, ²The Jikei University School of Medicine, ³Cardiff University, ⁴University of Stavanger, ⁵Molde University College. ⁶University of the Ryukyus, ⁷The University of Stirling) : Shared decision-making interventions for people with mental health conditions. *Cochrane Database Syst rev*. 11(11). CD007297. 2022.
 16. Takaesu Y¹, Kanda Y, Nagahama Y¹, Shiroma A¹, Ishii M, Hashimoto T², Watanabe K⁽¹ University of the Ryukyus, ²International University of Health and Welfare) : Delayed sleep-wake rhythm is associated with cognitive dysfunction, social dysfunction, and deteriorated quality of life in patients with major depressive disorder. *Front Psychiatry* 13: 1022144. 2022.
 17. Okada T¹, Hori H², Hasegawa N³, Murata A³, Kyou Y⁴, Kodaka F⁵, Iida H⁶, Ochi S⁷, Takaesu Y⁸, Tsuboi T, Iga J⁷, Ichihashi K⁹, Muraoka H⁴, Furihata R¹⁰, Yasui-Furukori N¹¹, Usami M¹², Onitsuka T¹³, Ogasawara K¹⁴, Tagata H¹⁵, Takeshima M¹⁶, Ohi K¹⁷, Numata S¹⁸, Hashimoto N¹⁹, Yamada H²⁰, Makinodan M²¹, Komatsu H²², Hishimoto A²³, Yamagata H²⁴, Kido M²⁵, Kubota C²⁶, Atake K²⁷, Yamada H²⁸, Nagasawa T²⁹, Matsumoto J³, Miura K³, Inada K⁴, Watanabe K, Suda S, Hashimoto R³ (¹Jichi Medical University, ²Fukuoka University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Kitasato University, ⁵Jikei University School of Medicine, ⁶Fukuoka University, ⁷Ehime University, ⁸University of the Ryukyus, ⁹The University of Tokyo, ¹⁰Kyoto University, ¹¹Dokkyo Medical University, ¹²Kohnodai Hospital, ¹³Kyushu University, ¹⁴Nagoya University, ¹⁵Toho University, ¹⁶Akita University, ¹⁷Gifu University, ¹⁸Tokushima University, ¹⁹Hokkaido University, ²⁰Hyogo Medical University, ²¹Nara Medical University, ²²Tohoku University, ²³Yokohama City University, ²⁴Yamaguchi University, ²⁵University of Toyama, ²⁶National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, ²⁷Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, ²⁸Hyogo Medical University, ²⁹Kanazawa Medical University) : Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia. *J Clin Psychopharmacol*. 42(6). 591-593. 2022.
 18. Inada K¹, Fukumoto K², Hasegawa N³, Yasuda Y⁴, Yamada H⁵, Hori H⁶, Ichihashi K⁷, Iida H⁶, Ohi K⁸, Muraoka H¹, Kodaka F⁹, Ide K¹⁰, Hashimoto N¹¹,

- Iga J¹², Ogasawara K¹³, Atake K¹⁴, Takaesu Y¹⁵, Nagasawa T¹⁶, Komatsu H¹⁷, Okada T¹⁸, Furihata R¹⁹, Kido M²⁰, Kikuchi S¹⁷, Kubota C²¹, Makinodan M²², Ochi S²³, Takeshima M²⁴, Yamagata H²⁵, Matsumoto J³, Miura K³, Usami M²⁶, Kishimoto T²⁷, Onitsuka T²⁸, Katsumoto E²⁹, Hishimoto A³⁰, Numata S³¹, Yasui-Furukori N³², Watanabe K, Hashimoto R³(¹Kitasato University, ²Iwate Medical University, ³National Center of Neurology and Psychiatry, ⁴Ikiru Hagukumu Kagayaku mental clinic, ⁵Hyogo Medical University, ⁶Fukuoka University, ⁷The University of Tokyo, ⁸Gifu University, ⁹Jikei University School of Medicine, ¹⁰Hospital of University of Occupational and Environmental Health, ¹¹Hokkaido University, ¹²Ehime University, ¹³Nagoya University, ¹⁴Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, ¹⁵University of the Ryukyus, ¹⁶Kanazawa Medical University, ¹⁷Tohoku University, ¹⁸Jichi Medical University, ¹⁹Kyoto University, ²⁰University of Toyama, ²¹National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, ²²Nara Medical University, ²³Ehime University, ²⁴Akita University, ²⁵Yamaguchi University, ²⁶Kohnodai Hospital, ²⁷Keio University, ²⁸Kyushu University, ²⁹The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ³⁰Yokohama City University, ³¹Tokushima University, ³²Dokkyo Medical University) : Development of individual fitness score for conformity of prescriptions to the "Guidelines For Pharmacological Therapy of Schizophrenia". *Neuropsychopharmacol Rep.* 42(4). 502-509. 2022.
19. Tsuboi T, Takaesu Y¹, Hasegawa N², Ochi S³, Fukumoto K⁴, Ohi K⁵, Muraoka H⁶, Okada T⁷, Kodaka F⁷, Igarashi S⁷, Iida H⁸, Kashiwagi H², Hori H⁸, Ichihashi K⁹, Ogasawara K¹⁰, Hashimoto N¹¹, Iga J³, Nakamura T¹², Usami M¹³, Nagasawa T¹⁴, Kido M¹⁵, Komatsu H¹⁶, Yamagata H¹⁷, Atake K¹⁸, Furihata R¹⁹, Kikuchi S¹⁶, Horai T²⁰, Takeshima M²¹, Hirano Y, Makinodan M²², Matsumoto J¹, Miura K¹, Hishimoto A²³, Numata S²⁴, Yamada H²⁵, Yasui-Furukori N²⁶, Inada K⁶, Watanabe K, Hashimoto R²(¹University of the Ryukyus, ²National Center of Neurology and Psychiatry, ³Ehime University, ⁴Iwate Medical University, ⁵Gifu University, ⁶Kitasato University, ⁷Jichi Medical University, ⁸Fukuoka University, ⁹The University of Tokyo, ¹⁰Nagoya University, ¹¹Hokkaido University, ¹²Shinshu University, ¹³Kohnodai Hospital, ¹⁴Kanazawa Medical University, ¹⁵University of Toyama, ¹⁶Tohoku University, ¹⁷Yamaguchi University, ¹⁸Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, ¹⁹Kyoto University, ²⁰Kobe University, ²¹Akita University, ²²Nara Medical University, ²³Yokohama City University, ²⁴Tokushima University, ²⁵Hyogo Medical University, ²⁶Dokkyo Medical University) : Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis. *Psychiatry Clin Neurosci.* 77(1). 30-37. 2023.
20. Kubo K¹, Sakurai H, Tani H¹, Watanabe K, Mimura M¹, Uchida H¹ (¹Keio University) : Predicting relapse from the time to remission during the acute treatment of depression: A re-analysis of the STAR*D data. *J Affect Disord.* 320. 710-715. 2023.
21. Sakurai H, Inada K¹, Aoki Y², Takeshima M³, Ie K⁴⁵, Kise M, Yoshida E⁶, Tsuboi T, Yamada H⁷, Hori H⁸, Inada Y¹, Shimizu E⁹, Mishima K¹⁰, Watanabe K, Takaesu Y¹¹ (¹Kitasato University, ²St.Luke's International University, ³Akita University, ⁴St.Marianna University School of Medicine, ⁵Kawasaki Municipal Tama Hospital, ⁶Kawasaki Kyodo Hospital, ⁷Hyogo Medical University, ⁸Fukuoka University, ⁹Chiba University, ¹⁰Akita University, ¹¹University of the Ryukyus) : Management of unspecified anxiety disorder; Expert consensus. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2023. Online ahead of print.
22. Takeshima M¹, Aoki Y², Ie K³, Katsumoto E⁴, Tsuru E⁵, Tsuboi T, Inada K⁶, Kise M, Watanabe K, Mishima K⁷, Takaesu Y⁸ (¹Akita University, ²St.Luke's International University, ³St.Marianna University School of Medicine, ⁴The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ⁵Munakata Suikokai General Hospital, ⁶Kitasato University, ⁷Akita University, ⁸University of the Ryukyus) : Physicians' attitudes toward hypnotics for insomnia: A questionnaire-based study. *Front Psychiatry.* 14. 1071962. 2023.
23. Iida H¹, Okada T², Nemoto K³, Hasegawa N⁴, Numata S⁵, Ogasawara K⁶, Miura K⁴, Matsumoto J⁴, Hori H¹, Iga J⁷, Ichihashi K⁸, Hashimoto N⁹, Yamada H¹⁰, Ohi K¹¹, Yasui-Furukori N¹², Fukumoto K¹³, Tsuboi T, Usami M¹⁴, Furihata R¹⁵, Takaesu Y¹⁶, Hishimoto A¹⁷, Muraoka H¹⁸, Katsumoto E¹⁹, Nagasawa T²⁰, Ochi S²¹, Komatsu H²², Kikuchi S²², Takeshima M²³, Onitsuka T²⁴, Tamai S²⁵, Kubota C²⁶, Inada K¹⁸, Watanabe K, Kawasaki H¹, Hashimoto R⁴ (¹Fukuoka University, ²Jichi Medical University, ³University of Tsukuba, ⁴National Center of Neurology and Psychiatry, ⁵Tokushima University, ⁶Nagoya University, ⁷Ehime University, ⁸The University of Tokyo, ⁹Hokkaido University, ¹⁰Hyogo Medical University, ¹¹Gifu University, ¹²Dokkyo Medical University, ¹³Iwate Medical University, ¹⁴Kohnodai Hospital, ¹⁵Kyoto University, ¹⁶University of the Ryukyus, ¹⁷Yokohama City University, ¹⁸Kitasato University, ¹⁹The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, ²⁰St.Marianna University, ²¹Ehime University, ²²Tohoku University, ²³Akita University, ²⁴Kyushu University, ²⁵Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ²⁶National Center of Neurology and Psychiatry Hospital) : Satisfaction with web-based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacol Rep.* 43(1). 23-32. 2023.
24. 渡邊 衡一郎 : 【精神疾患の適切なゴールにつながる評価法】精神疾患のゴール設定と評価. *臨床精神医学.* 51巻6. 593-599. 2022.
25. 渡邊 衡一郎 : 【より良い治療への挑戦 その2】Shared Decision Making(SDM: 共同意思決定)の概念と精神科領域における現状, そして今後の可能性. *福岡行動医学雑誌.* 28巻1号. 7-13. 2022.
26. 渡邊 衡一郎, 青木 裕見 : 共同意思決定 (Shared Decision Making : SDM) における対話. *精神科治療学.* 37 (10) . 1095-1098. 2022.

27. 渡邊 衡一郎：【精神疾患診療】(第1部)精神疾患を理解するための基礎知識 精神疾患の動向 リカバリー、レジリエンス、共同意思決定(SDM). 日本医師会雑誌. 151巻特別2. S39-S40. 2022.
28. 渡邊 衡一郎：【遅発性ジスキネジア治療の新たな展開—新規治療薬 valbenazine】 Vallbenazineの国内第Ⅱ／Ⅲ相試験の紹介. 臨床精神薬理. 26(1). 69-85. 2023.
29. 渡邊 衡一郎：【不安症再考】不安の時代を生き抜くために. 精神科. 42(2). 242-249. 2023.
30. Hirata R¹, Kawashima H^{1,2}, Tsuboi T, Wada K^{2,3}, Takebayashi M^{2,4}, Suwa T^{1,2} (1Kyoto University Hospital, 2Japanese Society of General Hospital Psychiatry (JSGHP), 3Hiroshima Citizens Hospital, 4Kumamoto University): An Online Survey About Electroconvulsive Therapy in Japan During the COVID-19 Pandemic: Comparison of Early and Recent Stages. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 18. 1277-1285. 2022.
31. 上島 国利¹, 中村 伸一², 坪井 貴嗣 (1昭和大学, 2中村心理療法研究室): うつ病診療のUpdate座談会 うつ病と家族. *Depression Journal.* 10(2). 47-51. 2022.
32. 丸木 拓, 坪井 貴嗣: 【よく目にする向精神薬の副作用への対処法】便秘. 精神科. 41(3). 353-360. 2022.
33. 坪井 貴嗣: 薬物療法における説明の重要性. 臨床精神薬理. 25(11). 1159-1168. 2022.
34. Kyou Y¹, Yasui-Furukori N², Hasegawa N³, Ide K^{3,4}, Ichihashi K⁵, Hashimoto N⁶, Hori H⁷, Shimizu Y⁸, Imamura Y, Muraoka H¹, Iida H⁷, Ohi K⁹, Yasuda Y^{3,10}, Ogasawara K¹¹, Numata S¹², Iga JI¹³, Tsuboi T, Ochi S¹³, Kodaka F¹⁴, Furihata R¹⁵, Onitsuka T¹⁶, Makinodan M¹⁷, Komatsu H¹⁸, Takeshima M¹⁹, Kubota C²⁰, Hishimoto A²¹, Atake K²², Yamagata H²³, Kido M²⁵, Nagasawa T²⁶, Usami M²⁷, Kishimoto T²⁸, Kikuchi S¹⁸, Matsumoto J³, Miura K³, Yamada H^{3,29}, Watanabe K, Inada K¹, Hahimoto R³(1Kitasato University, 2Dokkyo Medical University, 3National Institute of Mental Health, 4Hospital of University of Occupational and Environmental Health, 5University of Tokyo Hospital, 6Hokkaido University, 7Fukuoka University, 8Kanazawa Medical University, 9Gifu University, 10Life Grow Brilliant Mental Clinic, 11Nagoya University Hospital, 12Tokushima University, 13Ehime University, 14The Jikei University, 15Kyoto University, 16Kyusyu University, 17Nara Medical University, 18Tohoku University Hospital, 19Akita University, 20National Center Hospital, 21Yokohama City University, 22Nippon Telegraph and Telephone West Corporation, 23Yamaguchi University, 24Kido Clinic, 25University of Toyama, 26Kanazawa Medical University, 27Kohndai Hospital, 28Keio University, 29Hyogo Medical University): The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the "Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Ann Gen Psychiatry.* 21(1). 52. 2022.
35. 坪井 貴嗣: 【遅発性ジスキネジア治療の新たな展開—新規治療薬 valbenazine】遅発性ジスキネジアに関するガイドライン. 臨床精神薬理. 26(1). 41-48. 2023.
36. Tokumitsu K¹, Yasui-Furukori N^{1,2}, Adachi N³, Kubota Y³, Watanabe Y³, Miki K³, Azekawa T³, Edagawa K³, Katsumoto E³, Hongo S³, Goto E³, Ueda H³, Kato M^{2,4}, Nakagawa A^{2,5}, Kikuchi T^{2,6}, Tsuboi T², Watanabe K², Shimoda K¹, Yoshimura R^{2,7} (1Dokkyo Medical University, 2The Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacology, 3The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 4Kansai Medical University, 5St. Marianna University, 6Keio University, 7University of Occupational and Environmental Health): Predictors of psychiatric hospitalization among outpatients with bipolar disorder in the real-world clinical setting. *Front Psychiatry.* 14. 1078045. 2023.
37. Sakurai H, Yonezawa K¹, Tani H¹, Mimura M¹, Bauer M², Uchida H¹ (1Keio University, 2Technische Universität Dresden): Novel Antidepressants in the Pipeline (Phase II and III): A Systematic Review of the US Clinical Trials Registry. *Pharmacopsychiatry.* 55(4). 193-202. 2022.
38. Sakurai H, Tsujii T¹, Takeuchi H¹, Suzuki T², Mimura M¹, Uchida H¹ (1Keio University, 2University of Yamanashi Faculty of Medicine): Predictors of response to pharmacotherapy in children and adolescents with psychiatric disorders: a combined post-hoc analysis of four clinical trial data. *Neuropsychopharmacol Rep.* 42(4). 516-520. 2022.
39. Sakurai H, Kubo K¹, Tani H¹, Watanabe K², Mimura M¹, Uchida H¹ (1Keio University, 2Department of Neuropsychiatry, Kyorin University Faculty of Medicine): Predicting relapse from the time to remission during the acute treatment of depression: A re-analysis of the STAR*D data. *J Affect Disord.* 320. 710-715. 2023.
40. 櫻井 準: 【治療抵抗性うつ病への挑戦】治療抵抗性うつ病に対するketamine使用のリスク・ベネフィット. 精神科治療学. 37(8). 865-869. 2022.
41. 櫻井 準: 【臨床につながる気分障害研究最前線】新世代の抗うつ薬 米国で承認／第Ⅲ相の抗うつ薬. 臨床精神医学. 51(10). 1165-1170. 2022.
42. 櫻井 準: 【薬物療法についてどのように当事者に説明すればよいのだろうか】うつ病における薬物療法の説明. 臨床精神薬理. 25(11). 1179-1183. 2022.
43. 今村 弥生: 【総合診療外来に”実装したい”最新エビデンス My Best 3】知っておきたい! Common Disease 最新エビデンス My Best3 うつ病 生物心理社会的に読むうつ病論文 My Best3. 総合診療. Vol.32. No6. 746-747. 2022.
44. 今村 弥生: 【日常診療に潜む「処方カスケード」-その症状、薬のせいではないですか?】不眠 眠れない理由に薬も. 総合診療. Vol.32. No10. 1196-1198. 2022.
45. Kikuchi S¹, Oe Y, Ito Y², Sozu T³, Sasaki Y⁴, Sakata M¹, Luo Y¹, Sahker E¹, Horikoshi M⁴, Seno H¹, Furukawa TA¹. (1Kyoto University, 2Kyoto University Hospital, 3Tokyo University of Science, 4National Center of Neurology and Psychiatry): Group Cognitive-Behavioral Therapy With Interoceptive Exposure for Drug-Refractory Irritable Bowel Syndrome: A Randomized Controlled Trial. *Am J Gastroenterol.* 117(4). 668-677. 2022.
46. Sasaki Y¹, Oe Y, Horikoshi M¹, Rimes K². (1National Center of Neurology and Psychiatry, 2King's College London): Development of the Japanese Version of the Beliefs about Emotions

Scale. Jpn Psychol Res. 2022. DOI:10.1111/jpr.12434.

47. Nagai M¹, Oe Y, Horikoshi M², Nakajima S², Oi H², Kita Y¹. (1Tsuruga Nursing University, 2National Center of Neurology and Psychiatry): Evaluation of a Japanese brief CBT-I administered by a nurse: a pilot study. Prim Health Care Res Dev. 23. e42. 2022.
48. Takagishi Y¹, Ito M¹, Kanie A^{1,2}, Morita N³, Makino M¹, Katayanagi A¹, Sato T¹, Imamura F¹, Nakajima S⁴, Oe Y, Kashimura M⁵, Kikuchi A⁴, Narisawa T⁴, Horikoshi M¹. (1National Center of Neurology and Psychiatry, 2The University of Tokyo Hospital, 3University of Tsukuba, 4Musashino University, 5Tokiwa University): Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder. J Trauma Stress. 36(1). 205-217. 2022.

著書

1. 坪井貴嗣(分担執筆): A26, C8, D70. 第116回医師国家試験問題解説. メディックメディア. 2022.
2. 坪井貴嗣(監修): 当事者・家族のためのわかりやすいうつ病治療ガイド. 日本うつ病学会当事者のためのガイド小委員会 編. 認定NPO法人地域精神保健福祉機構. 2022.
3. 坪井貴嗣(分担執筆): 抗精神病薬の薬剤性錐体外路症状. 統合失調症薬物治療ガイドライン2022. 一般社団法人日本神経精神薬理学会, 一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会 編集. 2022. 57-75.
4. 坪井貴嗣(分担執筆): 漢方薬. 精神医学テキスト改訂第5版. 上島国利, 立山萬里, 三村將 編集. 南江堂. 2023. 376-377.
5. 坪井貴嗣(分担執筆): 薬剤性せん妄. 改訂新版重篤副作用疾患別対応マニュアル第5集. 日本医薬情報センター. 2023. 387-417.
6. 櫻井準(分担執筆): 今回のエキスパートコンセンサスの作り方. そこが知りたい!精神科薬物療法のエキスパートコンセンサス. 古郡規雄, 稲田健 編集. 新興医学出版社. 2022. 20-25.
7. 櫻井準(分担翻訳): 嗜癮および物質乱用. モーズレイ処方ガイドライン第14版日本語版. 内田裕之, 鈴木健文, 三村將 翻訳. WILEY Publishing Japan. 2022. 401-443.
8. 今村弥生(分担執筆): 第2章 健康障害別看護過程 [1]慢性疾患 8統合失調症. 強みと弱みから見た地域・在宅看護過程第2版+総合機能相関図. 医学書院. 河野あゆみ, 草場鉄周 編集. 医学書院. 2023.

報告書

1. 坪井貴嗣: 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業) 睡眠薬・抗不安薬の処方実態調査ならびに共同意思決定による適正使用・出口戦略のための研修プログラムの開発と効果検証研究(21GC1016). 令和3年度研究分担報告書.
2. 坪井貴嗣: 日本医療研究開発機構障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) 精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証(21dk0307083h0003). 令和3年度研究分担者報告書.

その他

1. 坪井貴嗣: うつ病治療平易に解説 当事者向けガイド. 宮崎日日新聞. 2022年4月28日.
2. 坪井貴嗣: うつ病治療で平易なガイド. 高知新聞. 2022年4月29日.
3. 坪井貴嗣: 「当事者・家族のためのわかりやすいうつ病治療ガイド」. 愛媛新聞. 2022年5月2日.
4. 坪井貴嗣: うつ病治療の平易なガイド. 東奥日報.

2022年5月2日.

5. 坪井貴嗣: うつ病に「お勧めできない治療法」 NPOが学会指針のガイド本. 毎日新聞. 2022年6月16日.
6. 今村弥生: 書評「僕は発達凸凹の大学生・発達障害を超えて」. 日本精神神経学会雑誌. Vol.124No.9. 671. 2022.
7. 今村弥生: 書評「講座精神疾患の臨床 1気分症群, 2統合失調症」. 日本精神神経学会雑誌. Vol.124No.12. 902. 2022.
8. 今村弥生: 書評「キャラクターが来る精神科外来」. 日本精神神経学会雑誌. Vol.125No. 2. 175. 2023.
9. 大江悠樹: 難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連. 第17回日本うつ病学会学会奨励賞. 2022年7月14日.

小児科学教室

講演

学会・研究会

1. 川口明日香, 尾戸真由, 保崎明, 成田雅美, 木村真衣, 佐藤洋平, 磯村杏那, 下山田博明, 尾崎峰: 抜歯後に発生した肉芽腫性口唇炎の1例. 第125回日本小児科学会学術集会. 郡山・オンライン. 2022年4月17日.
2. 田中佐和子, 大熊こずえ, 阿部真麻, 木内善太郎, 宮田世羽, 保崎明, 成田雅美: けいれん時の血清Ca低値から診断された22q11.2欠失症候群の一例. 第125回日本小児科学会. 郡山・オンライン. 2022年4月15日-17日.
3. 吉田瑠莉, 瀧浦俊彦, 小谷昌史, 長堀由香里, 花井彩江, 麓聖子, 細井健一郎, 成田雅美: 甲状腺全摘術を施行したBasedow病母体から出生した新生児Basedow病の1例. 第125回日本小児科学会学術集会. 郡山・オンライン. 2022年4月15日.
4. 西條智子, 田中絵里子, 羽田伊知郎, 木内善太郎, 福原大介, 木村徹, 成田雅美, 楊國昌: 特発性ネフローゼ症候群の発症機序解明に繋がる生体内免疫分子の同定と機能解析. 第57回日本小児腎臓病学会学術集会. 宜野湾・オンライン. 2022年5月27日-28日.
5. 布川紗彩, 木内善太郎, 田中絵里子, 森久保美保, 妻木裕太郎, 羽田伊知郎, 楊國昌, 成田雅美: 巨大くも膜嚢胞に外傷性硬膜下水腫を合併し抗利尿ホルモン不適合分泌症候群を来した1例. 第57回日本小児腎臓病学会学術集会. 沖縄・オンライン. 2022年5月27日-28日.
6. 阿部真麻, 宮田世羽, 大熊こずえ, 成田雅美: 心筋障害を初発症状とした小児全身型重症筋無力症の1例. 第64回小児神経学会・小児免疫性神経筋疾患研究会(MG/CIDP研究会). 高崎・オンライン. 2022年6月3日.
7. 野村賢太郎, 妻木裕太郎, 宮澤永尚, 宮田世羽, 保崎明, 吉野浩, 成田雅美: 当院に搬送されたCOVID-19患者の熱性けいれんの特徴. 第134回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹・オンライン. 2022年6月3日.
8. 大津絢香, 鴫田雅俊, 細井健一郎, 成田雅美: 母親が新型コロナウイルス感染症のためECMO治療を必要とした極低出生体重児例. 第5回母乳バンクカンファレンス. 東京. 2022年6月4日.
9. 成田雅美: アトピー性皮膚炎. 第46回日本小児皮膚科学会学術大会. 東京. 2022年7月2日.
10. 成田雅美: 腸内細菌叢とアレルギー疾患の不思議な関係. 第38回日本小児臨床アレルギー学会. 東京. 2022年7月3日.

11. 野村賢太郎, 神山裕司, 石澤みき, 細井健一郎: 当院 NICU卒業生に対する発達支援の現状と課題. 東京都新生児研究会. 三鷹・オンライン. 2022年9月13日.
 12. 成田雅美: 小児アレルギー患者の移行期における2型炎症治療. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京. 2022年10月8日.
 13. 成田雅美: 食物アレルギー予防戦略としてのアトピー性皮膚炎治療. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京. 2022年10月9日.
 14. 三井清誉, 木内善太郎, 福原大介, 成田雅美: 全身性エリテマトーデスの維持療法中に感染を契機に著明な腓醇素上昇を認めた一例. 第31回日本小児リウマチ学会学術集会. 新潟・オンライン. 2022年10月14日-16日.
 15. 山岡寛範, 木内善太郎, 布川紗彩, 濱野祥子, 安藤理恵, 大熊こずえ, 成田雅美: 皮膚軟部組織感染症を契機に診断されたX連鎖無ガンマグロブリン血症の1例. 第135回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹・オンライン. 2022年10月28日.
 16. 濱野祥子, 濱野翔, 柳下康博, 木村俊彦, 森久保美保, 川原亜友美, 那須ゆかり, 増古康子, 川口明日香, 成田雅美: ソバによる Food protein-induced enterocolitis syndrome(FPIES)の一例. 日本小児アレルギー学会. 宜野湾・オンライン. 2022年11月13日.
 17. 野村賢太郎, 原木悠, 渡邊泰二郎, 草野泰造, 山本翔大, 長澤耕男, 小川優一, 星野直: 淋菌性外陰陰炎の3歳女児. 小児感染症学会. 福岡. 2022年11月5日.
 18. 野村賢太郎, 宮澤永尚, 宮田世羽, 保崎明, 吉野浩, 成田雅美: 当院に搬送された熱性けいれん患者におけるSARS-COV-2陽性例の特徴. 杏林医学会. 三鷹. 2022年11月19日.
 19. 野村賢太郎, 原木悠, 渡邊泰二郎, 草野泰造, 山本翔大, 長澤耕男, 小川優一, 星野直: 淋菌性外陰陰炎の3歳女児. 千葉県小児感染症懇話会. 千葉. 2022年11月30日.
 20. 吉野浩: 外来で気になる小児がんの症状. 北多摩南部小児がん症例検討会・講演会. 三鷹市. 2023年1月12日.
 21. 野村賢太郎, 若園大輔, 長堀由香里, 阿部真麻, 大熊こずえ, 宮田世羽, 成田雅美: 淋菌性結膜炎の1例. 多摩小児感染症懇話会. 三鷹市. 2022年2月25日.
 22. 細井健一郎: 自己臍帯血幹細胞治療の経験を通して. 第10回脳性麻痺予防研究会. オンライン. 2023年3月3日.
 23. 細井健一郎: こんなときどうしていますか?～新生児対応編～. 令和4年度 第2回多摩周産期医療ネットワークグループ検討会. オンライン. 2023年3月6日.
- 講演会
1. 宮澤永尚: 半減期延長製剤によって定期補充療法を外来で行っている血友病Bの経験. Total care Hemophilia Seminar. 三鷹・オンライン. 2022年4月22日.
 2. 成田雅美: 小児アレルギー疾患の発症・予防とマイクロバイオーム. 第3回山口小児消化器学術講演会. オンライン. 2022年5月19日.
 3. 宮田世羽: 小児てんかん～抗てんかん薬の使い方～. 第2回てんかんWebセミナー for Pharmacist. 三鷹・オンライン. 2022年6月17日.
 4. 成田雅美: 「授乳・離乳の支援ガイド(2019年改訂版)」と食物アレルギー. 第7回東京小児アレルギー疾患研究会. 東京・オンライン. 2022年6月23日.
 5. 宮田世羽: インシデントアクシデントへの対応の仕方について. 東京都立府中けやきの森学園「医療的ケア教職員研修会」. 府中. 2022年7月25日.
 6. 成田雅美: 小児アレルギー疾患の発症・予防とマイクロバイオーム. 第2回愛媛小児医療学術講演会. オンライン. 2022年9月13日.
 7. 成田雅美: 小児アレルギー疾患と腸内細菌叢. 第2章腸内微生物叢研究の最前線シリーズ(第8弾). オンライン. 2022年9月21日.
 8. 川口明日香: 小児科医からみるアトピー性皮膚炎の治療～ツルツルの肌, その先を目指して～. 皮膚科医と小児科医のためのアトピー性皮膚炎WEBセミナー. オンライン. 2022年11月4日.
 9. 成田雅美: 今さら聞けないこどものアレルギーのきほん～アレルギーの病態について再確認～. 小児アレルギー専門医が答える アレルギー診療のぎもん. 東京. 2022年12月8日.
 10. 川口明日香: 最近遭遇する機会が増えている食物アレルギー. 第50回多摩小児アレルギー臨床懇話会. 府中. 2022年12月17日.
 11. 田中絵里子: 女性医師・研究・ポドサイト. 久留米大学医学部小児科Grand Rounds講演. 久留米市. 2023年1月13日.
 12. 成田雅美: 小児アレルギー疾患の発症予防戦略. 第29回大阪小児感染免疫カンファレンス. 大阪・オンライン. 2023年1月14日.
 13. 成田雅美: 小児アレルギー疾患と腸内細菌叢の最新トピックス. Pediatrics×Dermatology Allergic Seminar. 東京. 2023年2月2日.
 14. 宮田世羽: てんかんの診断と治療の向上. 第3回三鷹てんかん・脳波セミナー. オンライン. 2023年2月16日.
- 一般向け公開講座
1. 成田雅美: アトピー性皮膚炎の予防と治療. 令和4年度小児医学研究振興財団 web市民公開講座「子どものアレルギー疾患」. オンライン. 2023年7月-2023年3月.

論文

英語論文

1. Tabata K¹, Fukuie T¹, Narita M², Inagaki S¹, Ohnishi S¹, Tsuji S¹, Kubota M¹, Ishiguro A¹, Ohya Y¹ (1Allergy Center, National Center for Child Health and Development, 2Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): Food-Induced Anaphylaxis among Children Weighing <15kg: A Single-Center Case Series of the Pediatric Emergency Department. Int Arch Allergy Immunol. 83(5). 507-516. 2022.
2. Yasudo H¹, Ando T², Kitaura J², Maruyama N³, Narita M⁴, Natsume O¹, Uneoka K⁵, Miura K⁵, Morita Y⁶, Kamei A², Okamoto Y², Shirakawa S⁷, Kitabayashi T⁸, Kurihara K⁹, Nogami K⁹, Takasato Y¹¹, Nagao M¹⁰, Ito K¹¹, Fujisawa T¹⁰, Ebisawa M¹², Kawakami T¹³, Matsumoto K¹⁴, Saito H¹⁴, Hasegawa S¹⁵, Ohya Y¹ (1National Centre for Child Health and Development, 2Juntendo University, 3Kyoto University, 4Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 5Miyagi Children's Hospital, 6IMS Memorial Hospital, 7The Fraternity Memorial Hospital, 8International University of Health and Welfare, 9Higashinaebo Hospital, 10National Mie Hospital, 11Aichi Children's Health and Medical Centre,

- ¹²Sagamihara National Hospital, ¹³La Jolla Institute for Immunology, La Jolla, Calif. ¹⁴National Research Institute for Child Health and Development, ¹⁵Yamaguchi University): Predictive value of 7S globulin-specific IgE in Japanese macadamia nut allergy patients. *J Allergy Clin Immunol Pract.* 10(5). 1389-1391.e1. 2022.
3. Iio M¹, Sato M², Narita M³, Yamamoto-Hanada K², Oishi T⁴, Kishino A⁵, Kawaguchi T⁶, Nishi R⁷, Nagata M¹, Ohya Y² (¹College of Nursing, Kanto Gakuin University, ²Allergy Center, National Center for Child Health and Development, ³Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Pediatrics, Kochi Medical School, Kochi University, ⁵Division of Pediatrics, Tokyo Bay Urayasu Ichikawa Medical Center, ⁶Division of Pediatrics, Showa General Hospital, ⁷Division of Pediatrics, Yutenji Family Clinic): Development and Feasibility of a Mobile Asthma App for Children and Their Caregivers. Mixed Methods Study. *JMIR Form Res.* 6(5).e34509. 2022.
 4. Ozawa Y¹, Miyake F^{2,3}, Isayama T²(¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²National Center for Child Health and Development, ³University of Occupational and Environmental Health): Efficacy and safety of permissive hypercapnia in preterm infants. A systematic review. *Pediatr Pulmonol.* 57(11). 2603-2613. 2022.
 5. Miyaji Y¹, Yamamoto-Hanada K¹, Fukuie T¹, Narita M², Ohya Y¹ (¹Allergy Center, National Center for Child Health and Development, ²Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): Risk factors of admission in school children with severe atopic dermatitis. *J Dermatol.* 50(1). 72-81. 2023.
 6. Tobai H^{1,2}, Endo M³, Ishimura M³, Moriya K^{1,4}, Yano J¹, Kanamori K¹, Sato N¹, Amanuma F¹, Maruyama H¹, Muramatsu H⁵, Shibahara J⁶, Narita M⁷, Fumoto S⁷, Peltier D⁸, Ohga S¹ (¹Division of Pediatrics, Iwate Prefectural Iwai Hospital, ²Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Sciences, Kyusyu University, ³Department of Pediatrics, Iwate Medical University, School of Medicine, ⁴Department of Pediatrics, National Defense Medical College, ⁵Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, ⁶Department of Pathology, ⁷Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ⁸Pediatric Hematology and Oncology, Indiana University School of Medicine) : Neonatal intestinal obstruction in Hoyeraal-Hreidarsson syndrome with novel RTEL1 variants. *Pediatr Blood Cancer.* 2023. doi: 10.1002/pbc.30250. Epub.
 7. Takei S¹, Igarashi T², Kubota T¹, Tanaka E^{3,4}, Yamaguchi K⁵, Yamazaki K⁶, Yasuhiko Itoh², Arai S⁷, Okamoto K⁸, Mori M⁹(¹Department of Pediatrics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, ²Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³Department of Pediatrics and Developmental Biology, Tokyo Medical and Dental University, ⁴Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ⁵Immune Rheumatology Center, St. Luke's International Hospital, ⁶Division of Rheumatology and Allergology, Department of Internal Medicine, St. Marianna University School of Medicine, ⁷Department of Dermatology, St. Luke's International Hospital, ⁸Department of Pediatrics and Developmental Biology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University, ⁹Department of Lifetime Clinical Immunology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University): Clinical practice guidance for childhood-onset systemic lupus erythematosus-secondary publication. *Mod Rheumatol.* 32(2). 239-247. 2022.
 8. Iijima K^{1,2}, Sako M³, Oba M⁴, Tanaka S⁵, Hamada R⁶, Sakai T⁷, Ohwada Y⁸, Ninchoji T¹, Yamamura T¹, Machida H⁹, Shima Y¹⁰, Tanaka R¹¹, Kaito H¹¹, Araki Y¹², Morohashi T¹³, Kumagai N¹⁴, Gotoh Y¹⁵, Ikezumi Y¹⁶, Kubota T¹⁷, Kamei K¹⁸, Fujita N¹⁹, Ohtsuka Y²⁰, Okamoto T²¹, Yamada T²², Tanaka E²³, Shimizu M²⁴, Horinouchi T¹, Konishi A²⁵, Omori T²⁵, Nakanishi K²⁶, Ishikura K²⁷, Ito S⁹, Nakamura H²⁸, Nozu K¹(¹Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine, ²Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ³Department of Clinical Research Promotion, National Center for Child Health and Development, ⁴Department of Medical Statistics, Toho University, ⁵Department of Pediatrics and Child Health, Kurume University School of Medicine, ⁶Department of Nephrology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, ⁷Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science, ⁸Department of Pediatrics, Dokkyo Medical University School of Medicine, ⁹Department of Pediatrics, Yokohama City University, ¹⁰Department of Pediatrics, Wakayama Medical University, ¹¹Department of Nephrology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ¹²Department of Pediatrics, National Hospital Organization Hokkaido Medical Center, ¹³Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, ¹⁴Department of Pediatrics, Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹⁵Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital, ¹⁶Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine, ¹⁷Department of Pediatrics, Osaka University, ¹⁸Division of Nephrology and Rheumatology, National Center for Child Health and Development, ¹⁹Department of Nephrology, Aichi Children's Health and Medical Center, ²⁰Department of Pediatrics, Saga University, ²¹Department of Pediatrics, Hokkaido University Hospital, ²²Department of Pediatrics, Niigata University Medical and Dental Hospital, ²³ Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²⁴Department of Pediatrics, Kanazawa University, ²⁵Clinical and Translational Research Center, Kobe University Hospital, ²⁶Department of Child Health and Welfare (Pediatrics), Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus, ²⁷Department of Pediatrics, Kitasato University School of Medicine, ²⁸Department of Research and Development Supervision, Clinical Research Center, National

- Center for Child Health and Development) : Mycophenolate Mofetil after Rituximab for Childhood-Onset Complicated Frequently-Relapsing or Steroid-Dependent Nephrotic Syndrome. *J Am Soc Nephrol.* 33(2). 401-419. 2022.
9. Takada M¹, Fukuhara D¹, Takiura T¹, Nishibori Y¹, Kotani M¹, Kiuchi Z¹, Kudo A², Olga Beltcheva³, Ito-Nitta N¹, R Nitta K⁴, Kimura T⁵, Suehiro J⁵, Katada T⁵, Takematsu H⁶, Yan K¹(¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³Molecular Medicine Center and Department of Medical Chemistry and Biochemistry, Medical University of Sofia, ⁴Diagnostics and Therapeutics of Intractable Diseases, Intractable Disease Research Center, Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁵Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Molecular Cell Biology, Faculty of Medical Technology, Graduate School of Health Sciences, Fujita Health University): Involvement of GLCC11 in mouse spermatogenesis. *FASEB J.*37(1). e22680. 2023.
 10. Hada I¹, Shimizu A², Takematsu H³, Nishibori Y¹, Kimura T⁴, Fukutomi T⁴, Kudo A⁵, Ito-Nitta N¹, Kiuchi Z¹, J.Patrakka⁶, Mikami N¹, S.Leclerc⁷, Akimoto Y⁵, Hirayama Y⁸, Mori S⁹, Takano T¹⁰, Yan K¹¹(¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ³Department of Molecular Cell Biology, Faculty of Medical Technology, Graduate School of Health Sciences, Fujita Health University, ⁴ Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁶KIAZ Integrated Cardio Metabolic Center, Department of Laboratory Medicine, Karolinska Institutet at Karolinska University Hospital, ⁷Department of Medicine, Division of Nephrology, Research Institute of the McGill University Health Centre, ⁸Vaccine & Reagent, R&D Department, Denka Co., Ltd, Japan. ⁹Denka Innovation Center, Denka Co., Ltd, ¹⁰Department of Medicine, Division of Nephrology, Research Institute of the McGill University Health Centre, ¹¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): A Novel Mouse Model of Idiopathic Nephrotic Syndrome Induced by Immunization with the Podocyte Protein Crb2. *J Am Soc Nephrol.* 33(11). 2008-2025. 2022.
 11. Narazaki H^{1,2}, Akioka S³, Akutsu Y⁴, Araki M⁵, Fujieda M⁵, Fukuhara D⁶, Hara R⁷, Hashimoto K⁸, Hattori S⁷, Hayashibe R⁷, Imagawa T^{1,9}, Inoue Y^{1,10,11}, Ishida H¹², Ito S⁷, Itoh Y², Kawabe T¹³, Kitoh T¹⁴, Kobayashi I¹⁵, Matsubayashi T¹⁶, Miyamae T¹³, Mizuta M¹⁷, Mori M^{18,19}, Murase A⁷, Nakagishi Y¹⁷, Nagatani K²⁰, Nakano N²¹, Nishimura T²², Nozawa T⁷, Okamoto N^{23,24}, Okura Y¹⁵, Sawada H²⁵, Sawanobori E²⁶, Sugita Y²³, Tanabe Y², Tomiita M^{11,27}, Yamaguchi K²⁸, Yasuoka R²⁹, Yokoyama K³⁰(¹Committee on Patient Registries System, Pediatric Rheumatology Association of Japan, ²Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³Department of Pediatrics, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto, ⁴Department of Pediatrics and Developmental Biology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University, ⁵Department of Pediatrics, Kochi Medical School, Kochi University, ⁶Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, Department of Pediatrics, ⁷Yokohama City University Graduate School of Medicine, ⁸Department of Pediatrics, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, ⁹Department of Infection and Immunology, Kanagawa Children's Medical Center, ¹⁰Department of General Medical Science, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan. ¹¹Department of Allergy and Rheumatology, Chiba Children's Hospital, ¹²Department of Pediatrics, Kyoto City Hospital, ¹³Department of Pediatric Rheumatology, Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical University Hospital, ¹⁴Laboratory of Pediatrics, Aichi Gakuin University, School of Pharmacy, ¹⁵Center for Pediatric Allergy and Rheumatology, KKR Sapporo Medical Center, ¹⁶Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka, Japan. ¹⁷Department of Pediatric Rheumatology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ¹⁸Department of Lifetime Clinical Immunology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University, ¹⁹Division of Rheumatology and Allergology, St. Marianna University School of Medicine, ²⁰Department of Pediatrics, Uwajima City Hospital, Ehime, Japan. ²¹Department of Pediatrics, Ehime Prefectural Central Hospital, ²²Division of Pediatrics, Faculty of Medicine, University of Miyazaki, ²³Department of Pediatrics, Osaka Medical and Pharmaceutical University, ²⁴Department of Pediatrics, Osaka Rosai Hospital, Osaka, Japan. ²⁵Tokyo West Tokushukai Hospital, Tokyo, Japan. ²⁶Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, University of Yamanashi, ²⁷Center of Pediatric Allergy and Rheumatology, National Hospital Organization Shimoshizu National Hospital, ²⁸Immuno-Rheumatology Center, St. Luke's International Hospital, ²⁹Department of Pediatrics, Hamamatsu University School of Medicine, ³⁰Japanese Red Cross Wakayama Medical Center): Epidemiology and pathogenesis of paediatric rheumatic diseases based on the registry database of the Pediatric Rheumatology Association of Japan. *Mod Rheumatol.* 2022. doi: 10.1093/mr/roac112. Online ahead of print.
 12. Kiuchi Z¹, Nozu K², Yan K^{1,3}, H.Jüppner^{4,5}(¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine, ³Department of Pediatrics, Kosei Hospital, ⁴Endocrine Unit, Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, ⁵Pediatric Nephrology Unit, Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School): Bartter syndrome type 1 due to novel *SLC12A1* mutations associated with pseudohypoparathyroidism type II. *JCEM Case Reports.* 1. 1-7. 2023.
 13. Takahashi S¹, Fukuhara D¹, Kimura T², Fukutomi T², Tanaka E¹, Mikami N¹, Hada I¹, Takematsu H³,

Nishibori Y¹, Akimoto Y⁴, Kiyonari H⁵, Abe T⁵, Huber O⁶, Yan K⁷(¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Molecular Cell Biology, Faculty of Medical Technology, Graduate School of Health Sciences, Fujita Health University, ⁴Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁵Laboratory for Animal Resources and Genetic Engineering, RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, ⁶Institute of Biochemistry II, Jena University Hospital, Friedrich Schiller University Jena, ⁷Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): USP40 deubiquitinates HINT1 and stabilizes p53 in podocyte damage. *Biochem Biophys Res Commun.* 614. 198-206. 2022.

14. Saeki H¹, Ohya Y², Furuta J³, Arakawa H⁴, Ichiyama S¹, Katsunuma T⁵, Katoh N⁶, Tanaka A⁷, Tsunemi Y⁸, Nakahara T⁹, Nagao M¹⁰, Narita M¹¹, Hide M^{7,12}, Fujisawa T¹⁰, Futamura M¹³, Masuda K¹⁶, Matsubara T¹⁴, Murota H¹⁵, Yamamoto-Hanada K²(¹Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²Allergy Center, National Center for Child Health and Development, ³Medical Informatics and Management, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ⁴Kitakanto Allergy Research Institute, Kibounoie Hospital, ⁵Department of Pediatrics, The Jikei University Daisan Hospital, ⁶Department of Dermatology, Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, ⁷Department of Dermatology, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, ⁸Department of Dermatology, Saitama Medical University, ⁹Department of Dermatology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹⁰Allergy Center, National Hospital Organization Mie National Hospital, ¹¹Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kyorin University, ¹²Department of Dermatology, Hiroshima Citizens Hospital, ¹³Division of Pediatrics, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, ¹⁴Department of Pediatrics, Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, ¹⁵Department of Dermatology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences)English Version of Clinical Practice Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis 2021. *J Dermatol.* 49(10). e315-e375. 2022.

和文論文

- 平尾恵子¹, 村上綾子¹, 岸部峻², 森川恵美², 吉田幸一², 成田雅美³(¹あきつこどもクリニック, ²東京都立小児総合医療センター, ³杏林大学医学部小児科学教室) : 強い上気道狭窄が遷延した豆乳によるアナフィラキシーショックの10歳男児例. *小児科.* 63巻6号. 2022年. Page681-684.
- 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【機能性食品とアレルギー】アトピー性皮膚炎と皮膚細菌叢および腸内細菌叢. 機能性食品と薬理栄養. 16巻2号. 2022年. Page62-65.
- 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【腸内細菌を学ぶ】腸内細菌とアレルギー. *小児外科.* 55巻2号. 2023年. Page141-145.

- 吉野浩¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 血液・腫瘍性疾患 鉄欠乏性貧血. *小児内科.* 54. 2022. 828-832.
- 渡邊浩太郎¹, 宇田川智宏¹, 奥津美夏¹, 真保麻実¹, 阿久津裕子¹, 山崎晋², 森雅亮², 田中絵里子^{3,4}, 富井翔平⁵, 三浦健一郎⁶, 服部元史⁶, 森尾友宏¹(¹東京医科歯科大学発生発達病態学分野, ²東京医科歯科大学生涯免疫難病学講座, ³JA とりで総合医療センター小児科, ⁴杏林大学医学部小児科学教室, ⁵東京医科歯科大学病理診断学, ⁶東京女子医科大学腎臓小児科) : 混合性結合組織病の診断に先行した膜性腎症の1例. *日本小児腎臓病学会雑誌.* 35巻(2). 2022年. 117頁-123頁.
- 川口明日香¹, 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【食物アレルギー「食べる」ということを根本から見なおしてみる】食物アレルギーガイドライン 離乳食のすすめかた 食物アレルギーの視点. *小児科診療.* 85巻(10号). 2022. 1279-1282.
- 森久保美保¹, 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【夏の皮膚トラブル】アトピー性皮膚炎. *チャイルドヘルス.* 25巻6号. 2022年. Page433-436.
- 宮田世羽¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 研修医のためのクリニカルクイズ. *小児内科*54巻8号(2022年8月増大号). 2022. 1205-6.
- 那須ゆかり¹, 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【191の疑問に答える 周産期の栄養】新生児・乳児の栄養 食物アレルギー 妊娠中・授乳中の食事と児のアレルギーの関係. *周産期医学.* 52巻増刊. 2022年. Page711-713.
- 木村俊彦¹, 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【191の疑問に答える 周産期の栄養】産科編 Q&A 妊娠全期間(Question27)生まれてくる子どものアレルギー疾患予防のために, 妊娠中の食事にどんな注意が必要ですか?. *周産期医学*52巻増刊. 2022年. Page61-62.
- 木村俊彦¹, 成田雅美¹(杏林大学医学部小児科学教室) : 【191の疑問に答える 周産期の栄養】産科編 Q&A妊娠全期間(Question28)生まれてくる子どものアレルギー疾患を予防するために, サプリメントを摂取したほうがよいですか?. *周産期医学*52巻増刊. 2022年. Page63-64.

その他

- 成田雅美 : 第24回日本子ども健康科学学会学術大会主催. 三鷹. 2022年11月26日 - 27日.
- 成田雅美 : 第134回多摩小児科臨床懇話会主催. 三鷹. 2022年6月3日.
- 成田雅美 : 第135回多摩小児科臨床懇話会主催. 三鷹. 2022年10月28日.
- 成田雅美 : 第136回多摩小児科臨床懇話会主催. 三鷹. 2023年3月3日.
- 成田雅美 : 東京都アレルギー疾患対策検討部会. オンライン. 2022年7月15日, 10月12日, 2023年3月10日.
- 吉野浩 : こどもの鉄欠乏. こどもの健康週間2022(パンフレット). 日本小児科学会東京都地方会.
- 保崎明 : 令和4年度 薬剤師のための予防接種研修会における講師および実技指導. 三鷹市. 第1回2022年7月24日. 第2回2022年12月4日. 第3回2023年2月26日.
- Hosoi K: International Neonatal Consortium Data Pioneer Award. Critical Path Institute. INC's annual meeting. Washington DC. Nov. 15-16, 2022.
- 木内善太郎 : 「小児医薬品開発ネットワーク支援事

業」におけるワーキンググループ参画。

消化器・一般外科学教室

講演

1. 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 金翔哲, 磯部聡史, 石井俊, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の実状と問題点. 第55回日本成人病学会. 東京. 2022年1月15日.
2. 金翔哲, 吉敷智和, 磯部聡史, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 長島文夫, 古瀬純司, 須並英二: 切除不能大腸癌に対するconversion therapyで完全切除(RM0)が困難となる因子はなにか. 第96回大腸癌研究会. 東京. 2022年1月21日.
3. 小嶋幸一郎: がん患者の経過における栄養管理の重要性. がんと栄養 Webセミナー. 東京・オンライン. 2022年1月20日.
4. 竹内弘久, 鶴見賢直, 小嶋洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 胃GISTに対する内視鏡的切除の安全性について. 第18回日本消化管学会学術集会. 東京. 2022年2月11日.
5. Kogure M, Momose H, Suzuki Y, Mori T, Sakamoto Y: Rescue partial ALPPS for left hemihepatectomy with resection and reconstruction of the middle hepatic vein. EWALT. オンライン. 2022年2月11-12日.
6. 小嶋幸一郎, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 吉敷智和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 口側腸管が脱出したストーマ脱出の一例. 第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会. 高松・オンライン. 2022年2月12日.
7. Takeuchi H, Kojima Y, Tsurumi M, Hashimoto Y, Ooki A, Abe N: Examination of the significance of No1 and No4sb lymph node dissection in distal gastrectomy. 第94回日本胃癌学会総会. オンライン. 2022年3月3日.
8. 大木亜津子, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 菅間博, 阿部展次: 胃癌手術時の自動縫合器に癌細胞は付着しているのか-縫合器の洗浄細胞診-. 第94回胃癌学会総会. ハイブリッド・横浜. 2022年3月3日.
9. 阪本良弘: 良い外科医になるための軌跡とオペレコ的重要性. エキスパートセミナー. 新宿. 2022年3月6日.
10. 林志奈, 橋本佳和, 朽名貴史, 木庭露葉, 山崎彩, 井手麻友美, 鶴見賢直, 小嶋洋平, 吉敷智和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: B-I再建後の遅発性縫合不全に対しPGAシートを用いた内視鏡的治療が奏功した1例. 第863回外科集談会(日本臨床外科学会東京支部会). オンライン. 2022年3月12日.
11. Suzuki Y, Mori T, Matsuki R, Kogure M, Abe N, Isayama H, Tazume S, Tanaka A, Takikawa H, Sakamoto Y: Predictive factors for subsequent intrahepatic cholangiocarcinoma associated with hepatolithiasis - Japanese national cohort study for 18 years. IHPBA 2022. Online. March 30- April 2, 2022.
12. Kishiki T, Kuchta K, Chen M, Linn J, Carbray JM, Joehl R, Sunami E, Michael B, Ujiki M, Haggerty S: A Valid Tool For Training and Assessment in Laparoscopic Appendectomy. 22nd Annual International congress of Korean Society of Acute care surgery. Online. April 9th.2022
13. 大木亜津子, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 菅間博, 阿部展次: 胃癌手術時自動縫合器の洗浄細胞診自動縫合器細胞診. 第122回日本外科学会総会. 熊本・オンライン. 2022年4月14日.
14. 吉田智幸, 松木亮太, 岡野尚弘, 新井孝明, 小暮正晴, 鈴木裕, 古瀬純司, 阪本良弘: 膵癌の術後補助化学療法未完遂となるリスク因子を補助化学療法完遂の予後に与える影響. 第122回日本外科学会定期学術集会. 熊本・オンライン. 2022年4月14日.
15. 竹内弘久, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 胃癌幽門側胃切除症例に対するNo.1, No.4sbリンパ節郭清意義についての検討. 第122回日本外科学会定期学術集会. 熊本・オンライン. 2022年4月15日.
16. 麻生喜祥, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大圃研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸腺腫・腺癌における臨床病理学のおよびp53とKi-67による免疫組織化学的検討. 第122回日本外科学会定期学術集会. 熊本・オンライン. 2022年4月16日.
17. 鶴見賢直, 大木亜津子, 小嶋洋平, 橋本佳和, 竹内弘久, 阿部展次: 幽門側胃切除術後の縫合不全に対する内視鏡下ポリグリコール酸シート充填法. 第122回日本外科学会定期学術集会. 熊本・オンライン. 2022年4月16日.
18. 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 全国調査からみた肝内結石症診療の変遷と現況. 第108回日本消化器病学会総会. 東京・オンライン. 2022年4月22日.
19. 小嶋幸一郎: 知っておきたい排便のこと～便秘など排便にまつわるお話～. 東京都社会適応訓練事業による「消化器系ストーマのオストメイト講習会」. 東京. 2022年5月8日.
20. 竹内弘久, 佐藤大, 阿部展次, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 齋藤康一郎: 咽喉頭癌に対する耳鼻科との合同診療による内視鏡下経口的切除術の有用性について. 第103回日本消化器内視鏡学会総会. 京都・オンライン. 2022年5月13日.
21. Takeuchi H, Kojima Y, Tsurumi M, Hashimoto Y, Ohki A, Sakamoto Y, Sunami E, Abe N: Two-step endoscopic self-expandable metal stent placement for malignant afferent loop obstruction caused by gastric cancer. ENDO 2022. Online. May 13, 2022.
22. 麻生喜祥, 小嶋洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大圃研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍における臨床病理学のおよびp53とKi-67による免疫組織化学的検討. 第103回日本消化器内視鏡学会総会. 京都・オンライン. 2022年5月13日.
23. 大木亜津子, 小嶋洋平, 鶴見賢直: 胃癌から脱落する遊離癌細胞 - 胃内洗浄細胞診および手術器具洗浄細胞診による検討 -. 第103回日本消化器内視鏡学会総会. 京都・オンライン. 2022年5月14日.
24. 坪川康仁, 吉敷智和, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 河合桐男, 古瀬純司, 須並英二: 切除不能

- 直腸癌の化学療法中にフルニエ症候群をきたした1例. 第369回日本消化器病学会関東支部例会. オンライン. 2022年5月14日.
25. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 胃SMTに対するEFTRの成績. 第3回胃粘膜下腫瘍の内視鏡切除に関する研究会. オンライン. 2022年5月15日.
 26. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 成人女性鼠径部腫瘍に対する外視鏡下手術の検討. 第20回日本ヘルニア学会学術集会. 横浜. 2022年6月3日.
 27. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 成人女性鼠径部嚢胞性腫瘍に対する治療戦略. 第20回日本ヘルニア学会学術集会. 横浜. 2022年6月3日.
 28. Sugiyama M, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y, Abe N: Visualization of mesopancreas using intestinal derotation procedure. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月10日.
 29. Sakamoto Y, Kawaguchi S, Arai T, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Akamatsu N, Hasegawa K: From a viewpoint of recommending liver resection for HCC in Child A patients in Japan. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月10日.
 30. Suzuki Y, Arai T, Kawaguchi S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Sakamoto Y: Re-evaluation of surgical indications for IPMN reviewing the recurrence and survival of 105 surgical patients. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月10日.
 31. Matsuki R, Arai T, Kawaguchi S, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Conversion surgery for advanced hepatocellular carcinoma induced by Lenvatinib. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月10日.
 32. Sakamoto Y, Kumon M, Arai T, Momose H, Kawaguchi S, Kogure M, Matsuki R, Suzuki Y: Definition of the caudate lobe of the liver based on the portal segmentation for liver and biliary surgery. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月11日.
 33. 吉敷智和, 麻生喜祥, 若松喬, 藤原愛子, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 松岡弘芳, 須並英二: 陰部神経伝導速度検査のピットフォール. 第31回骨盤機能温存研究会. 東京. 2022年6月11日.
 34. Kogure M, Arai T, Momose H, Kawaguchi S, Matsuki R, Suzuki Y, Hasegawa K, Kokudo N, Sakamoto Y: Impact of partial TIPE ALPPS for hepatobiliary malignancies. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月11日.
 35. Arai T, Kawaguchi S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Surgical outcomes of five patients with pancreatic anaplastic carcinoma including for survivals. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月11日.
 36. Yamazaki A, Suzuki Y, Kawaguchi S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Mori T, Sakamoto Y: Predictors for bailout surgery in laparoscopic cholecystectomy using the cystic plate approach. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山市. 2022年6月11日.
 37. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 須並英二, 阪本良弘, 菅間博: 胃癌から脱落する遊離癌細胞 - 胃内洗浄細胞診および手術器具洗浄細胞診による検討 -. 外科系連合学会総会. 盛岡. 2022年6月16日.
 38. 高澤航輝, 小暮正晴, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 門脈後区域本幹と右肝静脈のシャントと多発肝FNHを伴うカノン部領域胆管癌の一切除例. 第864回外科集談会. 東京. 2022年6月18日.
 39. 小嶋幸一郎: 知っておきたい排便のこと〜便秘を中心に排便にまつわるお話し〜. メディカルWEBフォーラム. オンライン. 2022年6月30日.
 40. Sakamoto Y, Matsuki R, Arai T, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Okano N, Furuse J: A standard reconstruction method of CHA and PV during pancreaticoduodenectomy for locally advanced pancreatic cancer. The Joint Conference of the 53rd annual meeting of the Japan Pancreas Society and the 26th meeting of the International Association of Pancreatology. Online. July, 7. 2022.
 41. Suzuki Y, Kawaguchi S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Sugiyama M, Sakamoto Y: Does positive pancreatic cut margin impact recurrence and prognosis of IPMN?. The Joint Conference of the 53rd annual meeting of the Japan Pancreas Society and the 26th meeting of the International Association of Pancreatology. Kyoto. July, 8. 2022.
 42. 小嶋幸一郎, 遠藤俊吾, 天野邦彦, 藤本竜也, 白鳥俊康, 河村卓二, 加藤博之, 渡邊典子, 岡村修, 斉田芳久: 左側閉塞性大腸癌の予後因子に関する検討. 第97回大腸癌研究会学術集会. 東京. 2022年7月8日.
 43. 若松喬, 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 井手麻友美, 佐々木海人, 須並英二: 閉塞性大腸癌BTS症例の術後合併症のリスク因子の検討. 第97回大腸癌研究会. 東京・オンライン. 2022年7月8日.
 44. 大木亜津子, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 菅間博, 阿部展次: 胃癌手術時に使用した自動縫合器の洗浄細胞診・消化器外科学会. 自動縫合器細胞診. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月20日.
 45. 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: Impact of intestinal anastomosis training for young surgical residents. 第77回日本消化器外科学会. 横浜・オンライン. 2022年7月20日.
 46. 鶴見賢直, 大木亜津子, 小島洋平, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 幽門側胃切除術後の縫合不全に対して内視鏡下ポリグリコール酸シート充填法が有用であった6例. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月20日.
 47. 金翔哲, 吉敷智和, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 古瀬純司, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 切除不能大腸癌におけるconversion therapy後の再発因子についての検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月20日.
 48. 磯部聡史, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 阿部展次, 阪本良弘, 須並英二: クローン病に対する手術症例の検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月20日.
 49. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 早期胃癌幽門側胃切除症例に対するNo.1, No.4sbリンパ節転移の検

- 討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2021年7月21日.
50. 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 腹腔鏡手術にて術中内視鏡の有効性の検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月21日.
 51. 小暮正晴, 新井孝明, 松木亮太, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: Clump crushing法による出血の少ない主肝静脈に沿った肝離断-IVC half clumpingの併用. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月21日.
 52. 新井孝明, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 林玲匡, 柴原純二, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 膵退形成癌の5例の切除成績-4例の生存例を含めて. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月21日.
 53. 山崎彩, 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 森俊幸, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: Cystic plate approachを用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるペイルアウト手術に至る因子の予測. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月21日.
 54. Sakamoto Y, Matsuki R, Momose H, Kawaguchi S, Kogure M, Suzuki Y, Abe N, Sunami E. Standard reconstruction of CHA and PV during resection for locally advanced pancreatic cancer. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月22日.
 55. 松木亮太, 小暮正晴, 山崎彩, 吉田智幸, 新井孝明, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘. 切除不能膵癌に対するConversion surgery -UR-LA/UR-M膵癌12例の切除経験から. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜・オンライン. 2022年7月22日.
 56. 阪本良弘: Intermediate stage HCCの治療戦略. 外科の視点から. 第2回多職種で挑むintermediate HCC治療~s切除/RFA/TACEから薬物療法まで. 大阪. 2022年8月20日.
 57. 阪本良弘: 両葉多発肝転移に対する治療戦略. 第1回名古屋腫瘍外科セミナー JPワー名古屋ホール&カンファレンス. 名古屋. 2022年9月2日.
 58. 小暮正晴, 川口翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘: 術後の門脈狭窄に対するステント留置が奏功した4症例の経験. 第29回日本門脈圧亢進症学会. 大阪. 2022年9月8日.
 59. 代田利弥, 吉敷智和, 佐々木海人, 井手麻友美, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 傍ストマヘルニア発生のリスク因子の検討. 第53回東京ストーマリハビリテーション研究会. 東京. 2022年9月3日.
 60. 小暮正晴, 川口翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘: 術後の門脈狭窄に対するステント留置が奏功した4症例の経験. 第29回日本門脈圧亢進症学会. 大阪. 2022年9月8日.
 61. 水野英彰, 竹内弘久, 阿部展次: PEG後の半固形栄養製品低粘度と自然落下注入法に関する現状と展望. 第26回PEG・在宅医療学会学術集会. オンライン. 2022年9月10日.
 62. 阪本良弘: HCCに対する集学的治療を実現するためのMultidisciplinary conference. 第3回外科医のための肝細胞癌治療を考える会. エーザイ株式会社主催. オンライン. 2022年9月15日.
 63. 小島洋平, 田中良太, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: General skills rotationの導入. 第9回Surgical Education Summit. 札幌. 2022年9月17日.
 64. 坪川康仁, 若松喬, 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 大前皓一, 里見介史, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 腹腔鏡下に切除した直腸間膜原発神経内分泌腫瘍の1例. 第865回外科集談会. 2022年9月17日.
 65. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 放射線治療後・局所遺残再発食道癌(T2)に対して光線力学的療法を施行した2例. 第76回日本食道学会学術集会. オンライン. 2022年9月24-26日.
 66. 阪本良弘: BR/UR膵癌に対する集学的治療戦略. 第9回静岡肝胆膵腫瘍外科フォーラム. 静岡市. 2022年10月8日.
 67. 阪本良弘, 川口翔平, 蓮井宣宏, 深沢智将, 朽名貴史, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕. 肝門部胆管癌切除におけるALPPSの適応と限界. 第58回日本胆道学会学術集会. 横浜. 2022年10月13日.
 68. 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 登録18年後の多施設コホート調査からみた肝内結石症の長期予後と異時性肝内胆管癌発生の解析. 第58回日本胆道学会学術集会. 横浜. 2022年10月13日.
 69. 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 須並英二: 腹腔鏡下大腸癌手術SSI対策に術中内視鏡の有用性の検討. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉. 2022年10月14日.
 70. 小嶋幸一郎, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 吉敷智和, 須並英二: 困難症例への人工肛門造設手技の統一化に対する当院の工夫. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉. 2022年10月14日.
 71. 若松喬, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 須並英二: 術前化学放射線療法後の下部直腸癌に対するcCRの判断基準の妥当性についての検討. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉. 2022年10月14日.
 72. 金翔哲, 吉敷智和, 磯部聡史, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 須並英二: T4b大腸癌術後再発のリスク因子についての検討. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉. 2022年10月14日.
 73. 飯岡愛子, 吉敷智和, 麻生喜祥, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 井手麻友美, 須並英二: ストーマ管理指導期間延長に寄与する因子の検討. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉. 2022年10月15日.
 74. 麻生喜祥, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大圃研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸SM癌における粘液形質マーカーおよびp53による免疫組織化学的検討. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27日.
 75. 大木亜津子, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 抗血栓内服例に対し胃ESD後第6病日に施行した2nd look内視鏡の臨床的意義. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月27日.
 76. 朽名貴史, 金翔哲, 吉敷智和, 磯部聡史, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 原発性腸

- 間膜腺癌の1例. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月28日.
77. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 成人女性鼠径部腫瘍に対する外視鏡下手術の経験. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月28日.
 78. 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: Introducer法初回交換時, 腹壁内バルーン逸脱症例に対するトラブルシューティング. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月29日.
 79. 阪本良弘: 胆道癌に対する集学的治療. 外科医の立場から. JDDW2022. 福岡・オンライン. 2022年10月29日.
 80. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 管内内優位型胃SMTに対するEFTRの成績. 第15回先進内視鏡治療研究会(J-CASE). オンライン. 2022年10月30日.
 81. 阪本良弘: BR/UR-LA腺癌に対する集学的治療戦略. 福島県周術期管理セミナー. 福島. 2022年11月11日.
 82. 荒井奈緒子, 若松喬, 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 術前化学放射線療法が著効しWatch and Waitの方針とした下部直腸癌症例の経験と当院の治療成績. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
 83. 阿部展次, 須並英二: 閉塞性大腸癌に対するBridge to surgery目的での大腸ステント留置症例における術後在院日数延長のリスク因子の検討. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月24日.
 84. 小暮正晴, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 阪本良弘: ICG蛍光法を用いて尾状葉肝部下大静脈部を同定・温存する右肝切除. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月24日.
 85. 佐々木海人, 若松喬, 吉敷智和, 代田利弥, 井手麻友美, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 阪本良弘: 閉塞性大腸がんに対するBridge to surgery目的での大腸ステント留置症例における術後在院日数延長のリスク因子の検討. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月24日.
 86. 川口翔平, 船越早織, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 脾動脈瘤を伴う巨脾に対する脾門操作を避けた脾体尾部脾臓摘出の有用性. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月25日.
 87. 船越早織, 小林祐太, 鈴木裕, 山崎彩, 蓮井宣宏, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 泰正二郎, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 門脈輪状瘻を有する患者に対する膵頭十二指腸切除術の2例. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月25日.
 88. 矢那瀬拓哉, 小暮正晴, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 土岐真朗, 磯谷一暢, 林玲匡, 長濱清隆, 柴原純二, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 胆管ブラシ(Class IV)・FDG-PETを含めて胆嚢癌の肝門浸潤と術前診断した慢性胆嚢炎の一切除例. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月25日.
 89. 杉山政則, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次: 腸回転解除法によるmesopancreasの可視化と合理的切除. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月26日.
 90. 鈴木裕, 船越早織, 山崎彩, 蓮井宣宏, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: デジタルツールを用いたイラスト作成とオペレコの工夫—術前オペレコと術後オペレコ—. 第85回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月26日.
 91. 本多五奉, 吉敷智和, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 当院における切除不能大腸癌に対するConversion surgeryの治療成績. 第84回日本臨床外科学会学術集会. 福岡. 2022年11月26日.
 92. 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 井手麻友美, 佐々木海人, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 大腸憩室炎手術における合併症発生に影響する因子についての検討. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月26日.
 93. 代田利弥, 吉敷智和, 佐々木海人, 井手麻友美, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 傍ストマヘルニア発生のリスク因子の検討. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月26日.
 94. Kishiki T, Kojima K, Aso N, Iioka A, Wakamatsu T, Honda K, Kataoka I, Kim S, Isobe S, Shirota T, Ide M, Sakamoto Y, Abe N, Sunami E: Examination of risk factors for anastomotic leakage in laparoscopic rectal cancer surgery. The Asia-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic surgery 2022. Nagoya. December 8th-10th. 2022.
 95. 阪本良弘, 松木亮太, 船越早織, 蓮井宣宏, 川口翔平, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 森俊幸: 杏林大学病院肝胆膵外科での腹腔鏡下肝切除の導入. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月9日.
 96. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 成人女性鼠径部腫瘍に対する外視鏡下手術の経験. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月9日.
 97. 金翔哲, 吉敷智和, 高木泰介, 磯部聡史, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 切除不能直腸癌に対するconversion therapy後の再発リスク因子についての検討. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月9日.
 98. 磯部聡史, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 代田利弥, 井手麻友美, 朽名貴史, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 当院での潰瘍性大腸炎手術における開腹手術と腹腔鏡手術の比較検証. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月9日.
 99. 船越早織, 鈴木裕, 山崎彩, 蓮井宣宏, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 須並英二, 阿部展次, 森俊幸, 阪本良弘: 低悪性度脾体尾部腫瘍に対する腹腔鏡下脾体尾部切除術の短期成績の検討. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月9日.
 100. 鈴木裕, 船越早織, 山崎彩, 蓮井宣宏, 川口翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 森俊幸, 須並英二, 阪本良弘: 術前因子による腹腔鏡下胆嚢摘出術回避手術の予測式. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月10日.
 101. 大木亜津子, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 菅間博, 阿部展次: 胃癌手術時の自動縫合器に癌細胞は付着しているのか-縫合器の洗浄細胞診-. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月10日.
 102. 鶴見賢直, 大木亜津子, 小島洋平, 橋本佳和, 竹内弘久, 阿部展次: 腹腔鏡下胃切除術後の縫合不全に対する内視鏡下ポリグリコール酸シート充填法. 第35

回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋. 2022年12月10日.

103. 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: INTRODUCTION OF ROBOTIC SKILLS ROTATION FOR SURGICAL RESIDENTS OF NORTHSORE UNIVERSITY HEALTH SYSTEM. ACRLS 2022. 名古屋. 2022年12月10日.
104. 荒井奈緒子, 大木亜津子, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 須並英二, 阪本良弘, 阿部展次: 胃癌の腹膜播種による人工肛門悪性狭窄に対して金属ステント留置術を施行した1例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2022年12月11日.
105. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 胃SMTに対する内視鏡的切除後経口的摘出困難時の工夫. 第4回内視鏡的全層切除・縫合研究会. オンライン. 2022年12月17日.

論文

1. Ohki A¹, Koba T¹, Tsurumi M¹, Hashimoto Y¹, Nagao G¹, Takeuchi H¹, Okano N², Fujiwara M³, Shibahara J³, Abe N¹ (¹Department of Gastroenterological and General Surgery, Faculty of Medicine, Kyorin University, ²Department of Medical Oncology, Faculty of Medicine, Kyorin University, ³Department of Pathology, Faculty of Medicine, Kyorin University) : Early-stage gastric cancer with solitary brain metastasis four years after curative surgery: a case report and literature review. Clin J Gastroenterol .15(1). 90-94. 2022.
2. Aso N¹, Ohtsuka K², Shibahara J³, Koda H⁴, Morikawa T⁴, Abe N¹, Watanabe T², Ohnishi H² (¹Department of Gastroenterological and General Surgery, Faculty of Medicine, Kyorin University, ²Department of Laboratory Medicine, Faculty of Medicine, Kyorin University, ³Department of Pathology, Faculty of Medicine, Kyorin University, ⁴NTT Medical Center Tokyo) : Microsatellite instability in the high-grade dysplasia component of duodenal adenoma is associated with progression to adenocarcinoma. Surg Today. 2022. doi: 10.1007/s00595-022-02558-9.
3. Wong HJ¹, Kojima Y², Ujiki M¹, et al. (¹Department of Surgery, NorthShore University HealthSystem, ²Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Long-term retention after structured curriculum on attainment of critical view of safety during laparoscopic cholecystectomy for surgeons. Surgery. 171(3). 577-583. 2022.
4. Kato M¹, Abe N², Yahagi N¹, et al. (¹Division of Research and Development for Minimally Invasive Treatment, Cancer Center, Keio University School of Medicine, ²Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Reply to Lv and Yang. Endoscopy. 54(5). 523-524. 2022.
5. Kato M¹, Abe N², Yahagi N¹, et al. (¹Division of Research and Development for Minimally Invasive Treatment, Cancer Center, Keio University School of Medicine, ²Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Outcomes of endoscopic resection for superficial duodenal tumors: 10 years' experience in 18 Japanese high volume centers. Endoscopy. 54(7). 663-670. 2022.
6. Mori T, Endo H, Misawa T, Yamaguchi S, Sakamoto Y, Inomata M, Sakai Y, Kakeji Y, Miyata H, Kitagawa Y, Watanabe M: Involvement of a skill-qualified surgeon favorably influences outcomes of laparoscopic cholecystectomy performed for acute cholecystitis. Surgical Endosc. 36(8). 5956-5963.2022.
7. Kojima Y¹, Wong HJ², Ujiki M², et al. (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Surgery, NorthShore University HealthSystem) : Subjective vs. objective assessment of simulation performance on laparoscopic cholecystectomy: are we evaluating the right things?. Surg Endosc. 36(9). 6661-6671. 2022.
8. Kojima Y¹, Wong HJ², Ujiki M², et al. (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Surgery, NorthShore University HealthSystem) : Resident performance in simulation module is associated with operating room performance for laparoscopic cholecystectomy. Surg Endosc. 36(12). 9273-9280. 2022.
9. Kono Y, Inomata M, Sumi Y, Ohigashi S, Satoshi Ieiri S, Shin T, Shinohara T, Abe T, Osoegawa A, Fujisawa M, Mori T, Kitagawa Y, Kitano S, on behalf of the Forum of 8K Endoscopy Medical Application Forum: A multicenter survey of effects and challenges of an 8K ultra-high-definition endoscopy system compared to existing endoscopy systems for endoscopic surgery. Ajan J Endosc Surg. 2022. doi:10.1111/ases.13118. Epub.
10. 阿部展次, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久 ほか: 高齢社会における胃外科の現状と方向性. 東京都医師会雑誌. 75巻7号. 624-630. 2022.
11. 阿部展次: 臨床研究の種類とエビデンス. 消化器内視鏡. 34巻5号. 1001-1007. 2022.
12. 阿部展次, 田中佑治, 中山快貴, 大木亜津子, 竹内弘久: 研修医へ贈る・症例報告のスライド作成法と発表の心得. 消化器内視鏡. 34巻3号. 467-472. 2022.
13. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 高難度症例を克服する 難しすぎるESD 他の一手は?. 消化器内視鏡. 34巻7号. 1281-1287. 2022.
14. 竹内弘久, 阿部展次: 乳び漏時の排液. 消化器ナーシング. 27巻6号. 555-560. 2022.
15. 大木亜津子, 北濱圭一郎, 阿部展次: 【胃疾患アトラス 改訂版】びまん性病変 ポリポーシス 胃底腺ポリポーシス. 消化器内視鏡. 34巻増刊. 292-293. 2022.
16. 橋本佳和, 朽名貴史, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 術後の正常排液. 消化器ナーシング. 27巻6号. 518-519. 2022.
17. 鶴見賢直, 阿部展次: 上部消化管縫合不全時の排液. 消化器ナーシング. 27巻6号. 526-531. 2022.
18. 小島洋平, 阿部展次: 術後出血時の排液. 消化器ナーシング. 27巻6号. 520-525. 2022.
19. 麻生喜祥¹, 小島洋平¹, 大木亜津子¹, 竹内弘久¹, 鈴木裕¹, 阪本良弘¹, 磯村杏耶², 柴原純二², 阿部展次¹ (¹杏林大・医・消化器一般外科, ²杏林大・医・病理学) : 【内視鏡的乳頭切除術まるわかり】十二指腸乳頭部の臨床解剖. 消化器内視鏡. 34巻1号. 12-19. 2022.
20. 下山勇人, 杉山政則, 小川雅代, 中村香織, 大槻直美, 林里香, 阿部展次: 両側側腹部圧迫法による腹部手

術後の咳嗽時創部痛の軽減. 消化器ナーシング. 27巻7号. 678-683. 2022.

21. 下山勇人, 杉山政則, 鈴木裕, 吉敷智和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次 ほか: FOCUS 両側側腹部圧迫法による腹部手術後の咳嗽時創部痛の軽減効果. 臨床外科. 77巻4号. 466-470. 2022.
22. 中村康弘, 山口高史, 森俊幸: 【ここまで進んだ鏡視下手術】消化器領域 胆嚢・胆管. 臨牀と研究. 99(6). 685-692. 2022.

著書

1. 横山政明(分担執筆), 中村康弘, 森俊幸: 3章たんできに知りたい!胆道のすべて<治療・ケア編>腹腔鏡下胆嚢摘出術. 解剖生理も, 最新の治療も, 患者ケアも 決定版! ぜんぶ知りたい肝・胆・膵 ポイントがつかめるビジュアル解説!. 阪本良弘 監修. メディカ出版. 2022年. Page151-154.
2. 横山政明(分担執筆), 中村康弘, 森俊幸: 3章たんできに知りたい!胆道のすべて<治療・ケア編>総胆管結石に対する外科治療. 【解剖生理も, 最新の治療も, 患者ケアも 決定版! ぜんぶ知りたい肝・胆・膵 ポイントがつかめるビジュアル解説!】. 阪本良弘 監修. メディカ出版. 2022年. Page155-158.

呼吸器・甲状腺外科学教室

講演

国際学会

1. Hirata Y, Sun C, Suda K, Tachibana K, Tanaka R, Kondo H, Anraku M: Respiratory sarcopenia predicts postoperative outcomes in patients with non-small cell lung cancer. IASLC 2022 Asia Conference on lung cancer. Nara. July 22nd. 2022.
2. Nakazato Y, Kamma H, Toba M, Mitsuma T, Hirano K: rSNP rs2853669 in the TERT Promotor as a Molecular Marker for Increased Growth and Malignancy of Follicular Thyroid Tumors. The 18th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons. Tokyo. 16th March. 2023.

国内学会

1. 安樂真樹: CT画像で筋肉量に着目したら~これからの肺癌診療に活かせること. 第184回城西胸部画像研究会. 武蔵野. 2022年4月19日.
2. 佐藤幸夫, 池田徳彦, 遠藤俊輔, 岡田克典, 近藤晴彦, 新谷康, 豊岡伸一, 中村廣繁, 星川康, 芳川豊史, 吉野一郎, 千田雅之: 新型コロナウイルス感染下での呼吸器外科診療 NCDデータを用いたCOVID-19の日本の呼吸器外科手術に対する影響. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京. 2022年5月20日.
3. 須田一晴, 堀秀有, 伊藤未奈, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 安樂真樹, 近藤晴彦: 分葉不全に対するc-VATS右S1+2およびS3区域切除術. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京・オンライン. 2022年5月20日.
4. 佐藤寿彦, 伊達洋至, 岡田守人, 鈴木健司, 近藤晴彦, 吉野一郎, 中島淳, 奥村明之進, 日本呼吸器外科学会学術委員会: 間質性肺炎合併肺癌患者にたいする外科治療 REVEAL-IP報告. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京. 2022年5月21日.
5. 橘啓盛, 平田佳史, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 田

中良太, 安樂真樹, 近藤晴彦: 巨大肺癌の腫瘍内感染により呼吸不全を呈し致死的な状況下での外科治療戦略. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京. 2022年5月21日.

6. 伊藤未奈, 中里陽子, 堀秀有, 渡部こずえ, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 平田佳史, 橘啓盛, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦: 当院における気道異物11例の検討. 第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 岐阜・オンライン. 2022年5月27日-28日.
7. 坂本憲彦, 岸本浩次, 田邊一成, 鈴木瞳, 坂口碧, 橘啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 藤原正親, 柴原純二: EBUSの検体処理および基本的感染対策-LBC, セルブロック, ゲノムへの応用. 第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 東京. 2022年6月12日.
8. 橘啓盛: 転移性肺腫瘍に対する外科治療. 第2回あみず外科合同カンファレンス. オンライン. 2022年6月22日.
9. 三ツ間智也, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博, 平野浩一: 診断に難渋した甲状腺リンパ上皮嚢胞の1例. 第34回日本内分泌外科学会総会. つくば. 2022年6月24日.
10. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博: 甲状腺乳頭癌におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNPの検討. 第34回日本内分泌外科学会総会. つくば. 2022年6月25日.
11. 登裕哉, 安樂真樹, 周雨奇, 削延輝, 合田圭介, 小野稔, 中島淳: 人工臓器回路内血栓の早期発見に向けた循環血小板凝集塊検出の有用性の基礎的検討. 第44回血栓止血学会学術集会. 仙台. 2022年6月25日.
12. 周雨奇, 登裕哉, 西川真子, 削延輝, 安樂真樹, 矢富裕, 合田圭介: アゴニストの種類による血小凝集塊の分類: 深層学習を用いた解析. 第44回血栓止血学会学術集会. 仙台. 2022年6月25日.
13. 鶴田貴大, 平田佳史, 伊佐間樹生, 片平勇介, 渋谷幸見, 新井信晃, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橘啓盛, 田中良太, 高田佐織, 皿谷健, 藤原正親, 宮敏路, 近藤晴彦, 安樂真樹: 肺切除後にPembrolizumabによる免疫関連有害事象(irAE)を経験した一例. 第193回日本肺癌学会関東支部学術集会. 東京・オンライン. 2022年7月16日.
14. 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田貴大, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦: 胸壁膿瘍を疑って摘出術を行なった胸壁腫瘍の1例. 第13回多摩呼吸器外科医会. 立川・オンライン. 2022年7月23日.
15. 須田一晴: 胸部単純レントゲン写真のみかた. 胸部X線読影講習会. 三鷹. 2022年9月8日.
16. 渡邊美佳, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田孝博, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦, 同病理部, 藤原正親: 肺上皮置換型腺癌と鑑別を要したキャッスルマン病の1例. 第865回外科集談会. オンライン. 2022年9月17日.
17. 安樂真樹: 肺癌手術症例における呼吸筋サルコペニア~Cancer total care/pain controlの一視点~. Cancer Total Care Seminar- Lung Cancer. 千葉. 2022年9月30日.
18. 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦, 安樂真樹: 肺動脈遮断を要する血管処理や気管支形成が必要な中極型肺癌に対してのcVATS

- アプローチ. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会. 横浜. 2022年10月6日.
19. 一瀬淳二, 山本博之, 青景圭樹, 近藤晴彦, 佐藤幸夫, 鈴木健司, 宮田裕章, 千田雅之: 肺癌に対する縮小手術(区域切除・楔状切除)の功罪 NCDデータを用いた肺癌に対する区域切除と肺葉切除の短期成績の比較. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会. 東京. 2022年10月6日.
 20. 平田佳史, 孫長博, 中島淳, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 新井信晃, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 安樂真樹: 肺癌術前の呼吸筋サルコペニア評価の意義. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会. 横浜. 2022年10月7日.
 21. 橋啓盛, 坂本憲彦, 岸本浩次, 田中良太, 藤原正親, 柴原純二: 呼吸器領域におけるROSE (rapid on-site cytologic evaluation)の取り組みと工夫. 第36回関東臨床細胞学会学術集会. 横浜. 2022年10月16日.
 22. 安樂真樹: 肺癌治療の新たな展開～患者中心の医療を心にとどめて～. 三鷹市医師会外科医会. 三鷹. 2022年10月18日.
 23. 中里陽子, 三ツ間智也, 鳥羽麻友子, 平野浩一, 菅間博: 甲状腺濾胞性腫瘍におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNPの検討. 第26回日本臨床内分泌病理学会総会. 東京. 2022年10月28日.
 24. 平野浩一: 2022年WHO病理分類(第5版)とその臨床, 甲状腺. 第26回日本臨床内分泌病理学会総会. 東京. 2022年10月29日.
 25. 新井信晃: 成人で見られる先天性嚢胞性肺疾患—呼吸器外科医の視点から—. 第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム. 岡山・オンライン. 2022年10月29日.
 26. 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 中里陽子, 石本麻衣, 炭谷由計, 田中利明, 磯谷一暢, 萬昂士, 里見介史, 菅間博, 平野浩一: 腺腫様甲状腺腫に嚢胞内出血を伴うことで気道狭窄を来した2症例の経験. 第65回日本甲状腺学会学術集会. 大阪. 2022年11月1日.
 27. 三ツ間智也, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 平野浩一: 当院で手術を施行したパセドウ病24例の検討. 第65回日本甲状腺学会学術集会. 大阪. 2022年11月2日.
 28. 田中良太: ゲノム時代における液状化細胞診検体の活用と応用. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台. 2022年11月5日.
 29. 片平勇介, 須田一晴, 伊佐間樹生, 鶴田貴大, 平田佳史, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦, 安樂真樹: 胸腔鏡下右上葉切除術後肺気腫(Pneumatocele)形成から気胸を発症した1例. 第190回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年11月5日.
 30. 安樂真樹: 肺がん外科手術に関する話題. 多摩Lung Cancer Symposium. オンライン. 2022年11月10日.
 31. 中里陽子: 甲状腺腫瘍における個別化診療の今後の展望. Lilly Thyroid Cancer Web Seminar 講演会. オンライン. 2022年11月28日.
 32. 渋谷幸見, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田貴大, 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦: X線動画撮影システムを用いた肺腫瘍切除後の横隔膜運動評価. 第63回日本肺癌学会学術集会. 福岡. 2022年12月3日.
 33. 田中良太: 肺がんの最新のトピック～ゲノム診断から治療まで～. 群馬パース大学第3回公開講座. 高崎. 2022年12月3日.
 34. 傅瑞華, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田孝博, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦, 安樂真樹, 藤原正親: 巨大肺過誤腫に対して胸腔鏡下核出術を施行した1例. 第866回外科集談会. 東京. 2022年12月17日.
 35. 伊佐間樹生, 須田一晴, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 安樂真樹, 野田晃成: 縦隔原発不明癌に伴う気道狭窄により緊急VV-ECMO導入後, 気管支ステントを挿入した1例. 第183回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. 東京. 2022年12月17日.
 36. 鶴田貴大, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 藤原正親, 宮敏路, 近藤晴彦, 安樂真樹: 左血胸で発症した縦隔原発混合性胚細胞腫瘍の一切除例. 第14回多摩呼吸器外科医会. 調布・オンライン. 2023年1月28日.
 37. 橋啓盛: アプローチ別に見たMGに対する胸腺切除ロボット支援手術. 第16回General Thoracic Surgical Forum. 東京. 2023年2月4日.
 38. 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田孝博, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦, 安樂真樹, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博, 萬昂士, 藤原正親: 左房内に進展した左下葉Pleomorphic carcinomaの1例. 第4回あんず外科合同カンファレンス. オンライン. 2023年2月22日.
 39. 鶴田貴大, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 藤原正親, 宮敏路, 近藤晴彦, 安樂真樹: 左血胸で発症した縦隔原発混合性胚細胞腫瘍の一切除例. 第191回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 横浜・オンライン. 2023年2月25日.
 40. 安樂真樹: CT画像と呼吸機能から見えてくる呼吸筋サルコペニア～肺がん手術症例での知見～. 第73回栃木肺癌研究会. 栃木・オンライン. 2023年3月9日.
 41. 川名里沙, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田孝博, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 柴山隆宏, 藤原正親, 近藤晴彦, 安樂真樹: 胸壁外に伸展した後縦隔神経鞘腫の1例. 第867回外科集談会. 三鷹. 2023年3月18日.
 42. 片平勇介, 平田佳史, 伊佐間樹生, 鶴田貴大, 鳥羽麻友子, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 橋啓盛, 須田一晴, 田中良太, 中里陽子, 長島鎮, 柴山隆宏, 藤原正親, 近藤晴彦, 安樂真樹: 肺原発の炎症性筋線維芽細胞性腫瘍の1例. 第867回外科集談会. 三鷹. 2023年3月18日.

論文

1. Sun C, Anraku M, Kawahara T, Karasaki T, Konoeda C, Kitano K, Sato M, Nakajima J: Combination of Skeletal Muscle Mass and Density Predicts Postoperative Complications and Survival of Patients With Non-Small Cell Lung Cancer. *Ann Surg Oncol*. 29(3). 1816-1824. 2022.
2. Sun C, Anraku M, Kawahara T, Karasaki T, Kitano K, Nagayama K, Sato M, Nakajima J: Respiratory strength and pectoralis muscle mass as measures of sarcopenia: Relation to outcomes in resected non-small cell lung cancer. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 163(3). 779-787. e2. 2022.
3. Sato Y¹, Yamamoto H², Ikeda N³, Konishi H⁴, Endo

- S⁵, Okada Y⁶, Kondo H, Shintani Y⁷, Toyooka S⁸, Nakamura H⁹, Hoshikawa Y¹⁰, Chen-Yoshikawa TF¹¹, Yoshino I¹², Kakizoe T⁴, Chida M¹³(¹Department of Thoracic Surgery, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan, ²Department of Healthcare Quality Assessment, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ³Department of Surgery, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, ⁴Japan Cancer Society, Tokyo, Japan, ⁵Department of Thoracic Surgery, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, ⁶Department of Thoracic Surgery, Tohoku University, Miyagi, Japan, ⁷Department of Thoracic Surgery, Osaka University, Osaka, Japan, ⁸Department of Thoracic Surgery, Okayama University, Okayama, Japan, ⁹Department of Thoracic Surgery, Tottori University, Tottori, Japan, ¹⁰Department of Thoracic Surgery, Fujita Health University, Aichi, Japan, ¹¹Department of Thoracic Surgery, Nagoya University, Aichi, Japan, ¹²Department of Thoracic Surgery, Chiba University, Chiba, Japan, ¹³Department of Thoracic Surgery, Dokkyo Medical University, Tochigi) : The impact of COVID-19 on thoracic surgical procedures in Japan: Analysis of data from the National Clinical Database. *Lung Cancer*. 172. 127-135. 2022.
4. Ichinose J^{1,2}, Yamamoto H³, Aokage K^{1,4}, Kondo H, Sato Y^{1,5}, Suzuki K^{1,6}, Chida M^{1,7} (¹Japanese Association for Chest Surgery, Kyoto, Japan, ²Department of Thoracic Surgical Oncology, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, ³Department of Healthcare Quality Assessment, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁴Division of Thoracic Surgery, National Cancer Centre Hospital East, Chiba, Japan, ⁵Faculty of Medicine, Department of Thoracic Surgery, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan, ⁶Department of General Thoracic Surgery, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁷Department of General Thoracic Surgery, Dokkyo Medical University, Tochigi, Japan.) : Real-world perioperative outcomes of segmentectomy versus lobectomy for early-stage lung cancer: a propensity score-matched analysis. *Eur J Cardiothorac Surg*. 63(1). ezac529. 2022.
5. Tanaka R, Fujiwara M¹, Nakazato Y, Arai N, Tachibana K, Sakamoto N¹, Kishimoto K¹, Kamma H¹, Shibahara J¹, Kondo H (¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Optimal Preservations of Cytological Materials using Liquid-based Cytology Fixatives for Next-generation Sequencing Analysis. *Acta Cytologica*. 66(5). 457-466. 2022.
6. Tanaka R, Fujiwara M¹, Sakamoto N¹, Suzuki H¹, Tachibana K, Ohtsuka K², Kishimoto K¹, Kamma H¹, Shibahara J¹, Kondo H (¹Department of Pathology, ²Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine) : Cytomorphometric and Flow Cytometric Analyses Using Liquid-based Cytology Materials in Subtypes of Lung Adenocarcinoma. *Diagn Cytopathol*. 50(8). 394-403. 2022.
7. Nobori Y, Anraku M, Yamauchi Y, Mun M, Yoshino I, Nakajima J, Ikeda N, Matsuguma H, Iwata T, Shintani Y, Nakayama M, Oyama T, Chida M, Kuroda H, Hashimoto H, Azuma Y, Funai K, Endoh M, Uemura U, Kawamura M : Risk-adjusted hazard analysis of survival after pulmonary metastasectomy for uterine malignancies in 319 cases. *JTCVS Open*. 13 411-422. 2023.
8. 近藤晴彦：本庄ら“右下葉肺癌術前に高周波スネアによる気管ポリープ切除を要した気管支骨軟骨形成症の1例”。*気管支学*. 45(1). 3-4. 2023.
9. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 大森嘉彦, 藤原正親, 菅間博：WDT-UMP相当の結節を伴った縦隔内甲状腺腫の一例。日本内分泌外科学会雑誌. 39(2). 138-144. 2022.
10. Shibuya Y, Hirano K, Machida H^{1,2}, Miyamoto M³, Watabe K, Mitsuma T, Nakazato Y, Tachibana K, Tanaka R, Kondo H (¹Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Radiology, Tokyo Women's Medical University, ³Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Bilateral recurrent laryngeal nerve paralysis diagnosed using dynamic digital radiography during the COVID-19 pandemic. *Clin Case Rep*. 10(7). e6124. 2022.
11. 渡部こずえ, 平野浩一, 中里陽子, 三ツ間智也, 菅間博, 近藤晴彦：多発骨折を契機に発見された副甲状腺癌の1例。杏林医学会雑誌. 55(2). 39-43. 2022.
12. 渡部こずえ, 橋啓盛, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 平田佳史, 中里陽子, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦：気管内ステロイド噴霧により改善した放射線照射後気管・気管支炎の1例。気管支学. 53(2). 39-43. 2022.
- 論文（共著）**
1. Morii E¹, Hatanaka Y², Motoi N³, Kawahara A⁴, Hamakawa S⁵, Kuwata T⁶, Nagatomo T¹, Oda Y⁷, Okamoto A⁸, Tanaka R, Iyoda A⁹, Ichiro M¹⁰, Matsuo Y¹¹, Nakamura N¹², Nakai T¹³, Fukuhara M¹⁴, Tokita K¹⁴, Yamaguchi T⁷, Takenaka M⁸, Kawabata A⁸, Hatanaka KC¹⁵, Tsubame K¹⁵, Satoh Y¹¹; Working Group on Cytology in the Era of Genomic Medicine (¹Osaka University, ²Hokkaido University Hospital, ³Saitama Cancer Center, ⁴Kurume University Hospital, ⁵Showa General Hospital, ⁶National Cancer Center Hospital East, ⁷Kyushu University, ⁸The Jikei University School of Medicine, ⁹Toho University School of Medicine, ¹⁰Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ¹¹Kitasato University School of Medicine, ¹²National Cancer Center Hospital East, ¹³Harima-Himeji General Medical Center, ¹⁴National Cancer Center Hospital, ¹⁵Hokkaido University Hospital) : Guidelines for Handling of Cytological Specimens in Cancer Genomic Medicine. *Pathobiology*. 2023. DOI: 10.1159/000528346. Online ahead of print.
- 著書**
1. 須田一晴（分担執筆）：第5章2. 呼吸器外科術後経過観察のポイント。レジデントノート増刊『読影力がグッと上がる！胸部X線写真・CTの読み方、考え方』。室田真希子 編集。羊土社。Vol.24. No.5. 2022. 185-197.
2. 新井信晃（分担執筆）：第II章呼吸器内科医がよく遭遇するコンサルト案件-日常診療で頻度の高い先天性肺疾患のoverview-. 呼吸器ジャーナル。Vol.70 No.4. 皿谷健 編集。医学書院。2022. 554-559.
- その他**

1. 近藤晴彦, 須田一晴: 「患者にも影響!? 迫る“医師の働き方改革”」. NHK 首都圏情報ネタどり. 2023年1月27日.

乳腺外科学教室

講演

1. 麻賀創太, 石坂欣大, 土屋あい, 伊坂泰嗣, 井本滋: 乳房再建症例に対するPMRTの安全性と予後への影響. 第122回日本外科学会定期学術集会. 熊本・オンライン. 2022年4月16日.
2. Yasojima H, Imoto S, Nagashima T, Onishi T, Takashima T, Kitada M, Kawada M, Hayashida T, Naoi N, Aihara T, Wada N, Kawabata H, Yoshida M, Toh U, Yoneyama K, Yamada A, Tsuda H, Masuda N, Saito-Oba M, Sakamoto J: Observational study of axilla treatment for breast cancer patients with 1 to 3 positive micrometastases or macrometastases in sentinel lymph nodes. ASCO2022.online. 2022年6月4日-6月8日.
3. 麻賀創太, 石坂欣大, 土屋あい, 伊坂泰嗣, 井本滋: リンパ節転移陽性症例に対する乳房再建-合併症と予後の評価-. 第47回日本外科系連合学会学術集会. 盛岡. 2022年6月16日.
4. 麻賀創太, 石坂欣大, 土屋あい, 伊坂泰嗣, 井本滋: CDK4/6阻害剤2剤の逐次投与に関する検討. 第30回日本乳癌学会学術集会. 横浜・オンライン. 2022年6月30日-7月2日.
5. Imoto S: Current management of the axilla in operable breast cancer. 2022 Annual Meeting of Chinese Society of Clinical Oncology. Online. November 10, 2022.
6. 麻賀創太, 石坂欣大, 土屋あい, 伊坂泰嗣, 井本滋: 腋窩リンパ節単独再発症例における予後因子の検討. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡. 2022年11月24日.
7. 土屋あい, 石坂欣大, 伊坂泰嗣, 麻賀創太, 井本滋, 吉池信哉, 菅間博: CDK4/6阻害剤併用の内分泌療法後に局所制御手術を実施したStageIV乳癌の1例. 第18回日本乳癌学会関東地方会. 東京. 2022年12月3日.

論文

1. Shimomura A, Nagahashi M, Kumamaru H, Aogi K, Asaga S, Hayashi N, Iijima K, Kadoya T, Kojima Y, Kubo M, Miyashita M, Miyata H, Niikura N, Ogo E, Tamura K, Tanakura K, Yoshida M, Yamamoto Y, Imoto S, Jinno H: Clinicopathological features of male patients with breast cancer based on a nationwide registry database in Japan. *Breast Cancer*. 29(6) 985-992. 2022.
2. Yamada A, Hayashi N, Kumamaru H, Nagahashi M, Usune S, Asaga S, Iijima K, Kadoya T, Kojima Y, Kubo M, Miyashita M, Miyata H, Ogo E, Tamura K, Tanakura K, Tada K, Niikura N, Yoshida M, Ohno S, Ishikawa T, Narui K, Endo I, Imoto S, Jinno H: Prognostic impact of postoperative radiotherapy in patients with breast cancer and with pT1-2 and 1-3 lymph node metastases: A retrospective cohort study based on the Japanese Breast Cancer Registry. *Eur J Cancer*. 172. 31-40. 2022.

3. Mathelin C, Lodi M, Alghamdi K, Arboleda-Osorio B, Avisar E, Anyanwu S, Boubnider M, Costa MM, Elder E, Elongue T, Gebrim L, Hao X, Imoto S, Meka E, Mouelle M, Mundingner A, Ostapenko V, Özbaş S, Özmen T, Özmen V, Pienkowski T, Sarria G, Selim A, Semiglazov V, Schneebaum S: The Senologic International Society survey on ductal carcinoma *in situ*: Present and Future. *Eur J Breast Health*. 18(3). 205-221. 2022.
4. Hayashida T, Odani E, Kikuchi M, Nagayama A, Seki T, Takahashi M, Futatsugi N, Matsumoto A, Murata T, Watanuki R, Yokoe T, Nakashoji A, Maeda H, Onishi T, Asaga S, Hojo T, Jinno H, Sotome K, Matsui A, Suto A, Imoto S, Kitagawa Y: Establishment of a deep-learning system to diagnose BI-RADS4a or higher using breast ultrasound for clinical application. *Cancer Sci*. 113(10). 3528-3534. 2022.
5. Aihara T, Kumamaru H, Ishitobi M, Miyashita M, Miyata H, Tamura K, Yoshida M, Ogo E, Nagahashi M, Asaga S, Kojima Y, Kadoya T, Aogi K, Niikura N, Iijima K, Hayashi N, Kubo M, Yamamoto Y, Takeuchi Y, Imoto S, Jinno H: Prognosis and effectiveness of chemotherapy for medullary breast carcinoma. *Breast Cancer Res Treat*. 196(3). 635-645. 2022.
6. Tada K, Kumamaru H, Miyata H, Asaga S, Iijima K, Ogo E, Kadoya T, Kubo M, Kojima Y, Tanakura K, Tamura K, Nagahashi M, Niikura N, Hayashi N, Miyashita M, Yoshida M, Ohno S, Imoto S, Jinno H: Characteristics of female breast cancer in japan: annual report of the National Clinical Database in 2018. *Breast Cancer*. 30(2). 157-166. 2023.
7. Imoto S, Wang K, Bi X-W, Liu G, Im Y-H, Im S-A, Sim SH, Ueno T, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Ahn SG, Lee JE, Park YH, Takao S, Oba MS, Kitagawa Y, Nishiyama M: Survival advantage of locoregional and systemic therapy in oligometastatic breast cancer: an international retrospective cohort study (OLIGO-BC1). *Breast Cancer*. 30(3). 412-423. 2023.

著書

1. 井本滋(分担執筆): 第32章 再発転移部位別の治療と管理「オリゴ転移の治療: 全身療法と局所療法」. 乳癌診療state of arts-科学に基づく最新診療. 戸井雅和 編. 医歯薬出版株式会社. 2022. 636-638.

その他

1. 井本滋: 乳がん診療の最前線. 杏林大学市民公開講座. YouTube. 2022年11月.

小児外科学教室

講演

1. 渡邊佳子, 浮山越史, 石濱秀雄: 術後両側反回神経麻痺となった先天性食道閉鎖症の1例. 第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム. 岡山. 2022年10月29日.
2. 渡邊佳子: 小児便秘症の診断と治療. モビコール配合内容剤HD新発売記念講演会. オンライン. 2023年1月12日.
3. 渡邊佳子: 子どもの便秘症を診る. 三鷹市薬剤師会勉強会. オンライン. 2023年2月15日.

- 渡邊佳子：子どもの便秘症を診る．第2回便秘について考える会．八王子市・オンライン．2023年3月28日

論文

- 渡邊佳子¹，浮山越史¹(¹杏林大学医学部小児外科学教室)：【小児の便秘：最近の知見】多職種連携による便秘症外来．小児外科．54巻4号．406-411．2022．
- 浮山越史¹，渡邊佳子¹，石濱秀雄¹(¹杏林大学医学部小児外科学教室)：連載 消化管異物の診断と治療 小児の消化管異物．臨床消化器内科．37(5)．583-586．2022．
- 浮山越史¹，渡邊佳子¹(¹杏林大学医学部小児外科学教室)：小腸疾患 診断・治療の最新動向 腸閉塞 腸重積症．日本臨床．80(増刊号7)．333-337．2022．
- 渡邊佳子¹，浮山越史¹(¹杏林大学医学部小児外科学教室)：【診断困難な小児外科症例：早期診断へのポイントとヒント】腸回転異常を伴わない新生児小腸捻転症．小児外科．54巻11号．1066-1069．2022．
- 渡邊佳子(杏林大学医学部小児外科学教室)：【おなか痛い，気持ちわるい 子どもの腹部疾患】内科的疾患 便秘．小児看護．46巻2号．153-156．2023．

著書

- 浮山越史(分担執筆)：正中頸嚢胞・瘻，側頸嚢胞・瘻，鯉原性嚢胞・瘻，(下咽頭)梨状窩瘻・嚢胞，異所性甲状腺，甲状腺機能亢進症，甲状腺腫瘍，その他の口腔内疾患．標準小児外科学第8版．上野滋 監修．医学書院．2022．99-110．
- 浮山越史(共同執筆)：エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン改訂第2版．日本小児救急医学会ガイドライン作成委員会編．へるす出版．2022．31-40．

救急医学教室

講演

- 加藤聡一郎，井上孝隆，山口芳裕：東京2020大会都市オペレーションセンターにおける医療統括．第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会．大阪・オンライン．2022年5月26日．
- 西野華央里，山田賢治，荒谷雄大，吉川慧，海田賢彦，山口芳裕：携帯型サーモグラフィーカメラを用いた救急傷病者における体温測定の有用性の検討(第2報)．第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会．大阪・オンライン．2022年5月27日．
- 笹沢俊吉，守永広征，原田巽矢，小野澤志郎，西沢良平，荻野聡之，海田賢彦，山口芳裕：ECMO管理中の帝王切開術後の合併症に対しIVRによって治療成功した一例．第51回日本IVR学会総会．神戸・オンライン．2022年6月5日．
- 野田祐司，荻野聡之，山口芳裕：ゼリーに溶解服薬することにより強い治療抵抗性を示したカフェイン中毒の一例．第44回日本中毒学会総会・学術集会．オンライン．2022年7月16日．
- 相澤陽太，海田賢彦，落合剛二，加藤聡一郎，井上孝隆，山口芳裕：重症熱傷患者におけるカンジダ血症のリスク因子．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月28日．
- 海田賢彦，山口芳裕：MEEK micrograftを用いた新しい植皮術．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月28日．
- 吉川慧，海田賢彦，山口芳裕：熱傷患者における敗血

症診断に関する検討．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月28日．

- 櫻谷孝美，岩見優志，阿部穂奈美，本田美奈子，海田賢彦，山口芳裕：熱傷看護教育システム運用開始後の受け持ち看護師のケアの現状．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月28日．
- 田中佑也，海田賢彦，吉川慧，山口芳裕：広範囲熱傷患者に対する植皮術の変遷．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月29日．
- 清水亮祐，持田勇希，宮国泰彦，海田賢彦，山口芳裕：無石胆嚢炎を発症した重症熱傷の1救命例．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月29日．
- 海田賢彦：熱傷患者に対する再生医療の今後の展望．第48回日本熱傷学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年7月29日．
- 山口芳裕：放射線の基礎知識と被ばく傷病者対応時の留意点．第6回日本在宅救急医学会総会・学術集会．水戸．2022年9月11日．
- 大畑徹也，稲田成作，小谷明弘，山口芳裕，市村正一，細金直文：適切なダメージコントロールを行った重症骨盤輪骨折を伴う多発外傷に対する死亡原因の検討．第71回東日本整形災害外科学会．東京・オンライン．2022年9月17日．
- 山口芳裕：CBRNE テロの基礎知識．第88回東京女子医科大学大学総会．オンライン．2022年9月24日．
- 濱田尚一郎，中島幹男，大邊寛幸，後藤英昭，山口芳裕，康永秀生：65歳以上の院外心肺停止症例における介護度と予後の関連～DPCデータベース研究～．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 西沢良平，山田賢治，小嶋智志，吉川慧，加藤聡一郎，照屋浩司，海田賢彦，山口芳裕：心肺蘇生中の心電図モニター波形診断の可能性について(第2報)．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 假谷玲維，落合剛二，清水亮祐，西方亮太郎，海田賢彦，山口芳裕：食物の窒息により陰圧性肺水腫を呈した1例．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 関口航也，持田勇希，相澤陽太，落合剛二，宮国泰彦，海田賢彦，山口芳裕：Streptococcus pyogenesによる急性膿胸に対し早期胸腔鏡下膿胸膜切除術を施行した一例．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 芳鐘一，守永広征，加藤聡一郎，宮国泰彦，海田賢彦，山口芳裕：うつ病に対してエスシタロプラムシユウ酸塩(レクサプロ)使用中に著明な低Na血症を認められた一例．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 石川駿，海田賢彦，田中佑也，井上孝隆，山田賢治，山口芳裕：寒冷曝露によりアナフィラキシーショックを呈した1例．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 辻野伸明，守永広征，加藤聡一郎，宮国泰彦，海田賢彦，山田賢治，山口芳裕：急性骨髄性白血病が契機となった腸腰筋膿瘍による敗血症性ショックの1例．第50回日本救急医学会総会・学術集会．東京・オンライン．2022年10月19-21日．
- 大畑徹也，稲田成作，小谷明弘，市村正一，山口芳裕，細金直文：適切なダメージコントロールを行った重症骨盤輪骨折を伴う多発外傷に対する6時間後乳酸

値が改善しない原因の検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.

23. 海田賢彦, 松田剛明, 山口芳裕: 火災現場から搬送された熱傷患者における血中シアン濃度の検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
24. 清水裕介, 海田賢彦, 緒方友紀, 荻野聡之, 井上孝隆, 山田賢治, 山口芳裕: カフェイン中毒患者におけるテオフィリンの血中濃度に関する検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
25. 山田賢治, 井上孝隆, 西野華央里, 照屋浩司, 海田賢彦, 山口芳裕: 救急傷病者におけるサーモグラフィカメラを用いた体温測定の有用性の検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
26. 持田勇希, 長瀬美樹, 山口芳裕: メカノセンサーPiezo2の体液恒常性維持への関与. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
27. 廣橋伸之, 山口芳裕, 橋口尚幸, 立崎英夫, 花田裕之, 長谷川有史, 田崎修, 前田重信, 山内健嗣, 山本尚幸: 原子施設オンサイト医療体制整備に向けて. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
28. 石川秀樹, 山口芳裕, 渡辺寛, 北村伸哉, 本多満, 青木悟郎, 益子邦洋, 大桃丈知: 国際都市東京の玄関羽田空港の救急医療を再考する. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
29. 山本拓也, 宮城博幸, 関口久美子, 山口芳裕, 渡邊卓, 大西宏明: 全自動薬物分析装置を用いた LC/MS/MS による薬物スクリーニング法の検討(第2報)~定量精度の検討~. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月19日.
30. 土屋大介, 加藤聡一郎, 清水裕介, 田中佑也, 西沢良平, 吉川慧, 落合剛二, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕: 東京都ドクターヘリと連携・活動することで良好な転帰をえた破裂性腹部大動脈瘤の一例. 第73回日本救急医学会関東地方会学術集会. 八王子. 2023年2月18日.

論文

1. 原田巽矢¹, 荻野聡之², 笹沢俊吉², 浅野史男³, 谷垣伸治³, 海田賢彦², 山口芳裕² (¹杏林大学医学部付属病院・救急科, ²杏林大・医・救急医学, ³杏林大・医・産婦人科学): 妊娠中期に重症化した新型コロナウイルス感染症に対して集学的加療を行い母子ともに救命した1例. 日救急医学会誌. 33 (4). 166-172. 2022.
2. Kaita Y¹, Otsu A¹, Tanaka Y¹, Yoshikawa K¹, Matsuda T¹, Yamaguchi Y¹ (¹Department of Trauma and Critical Care Medicine Kyorin University School of Medicine): Epidemiology of bloodstream infections and surface swab cultures in burn patients. *Acute Med Surg.* 9 (1). 752. 2022.
3. Mochida Y¹, Nishizawa R¹, Ochiai K¹, Inoue Y², Kaita Y¹, Yamaguchi Y¹ (¹Department of Trauma and Critical Care Medicine Kyorin University School of Medicine, ²Department of Paramedics Kyorin University School of Health Sciences): Delayed tension gastrothorax caused necrosis of stomach and re-expansion pulmonary edema: a

case report. *Surg Case Rep.* 8 (1). 100. 2022.

4. 根田知明¹, 落合剛二¹, 樽井武彦², 稲田成作¹, 土岐真朗³, 久松理一³, 山田賢治², 山口芳裕¹ (¹杏林大・医・救急医学, ²杏林大・保・救急救命学科, ³杏林大・医・消化器内科学): 不安定型骨盤骨折を併発したIIIb型肝損傷に急性期非手術療法を行い良好な経過をたどった1例. 日救急医学会誌. 43 (3). 76-80. 2022.
5. 西方亮太郎¹, 吉川慧², 西沢良平², 海田賢彦², 松田剛明², 山口芳裕² (¹杏林大学医学部付属病院・救急科, ²杏林大・医・救急医学): トラゾドン塩酸塩の過量内服により致死性不整脈を呈した1例. 日救急医学会誌. 33 (12). 1022-1027. 2022.
6. 池田憲祐¹, 海田賢彦², 西方亮太郎¹, 西沢良平², 吉川慧², 松田剛明², 山口芳裕² (¹杏林大学医学部付属病院・救急科, ²杏林大・医・救急医学): HIT (heparin-induced thrombocytopenia) により両側副腎出血を来し副腎機能不全を呈した墜落外傷の1例. 日救急医学会誌. 34 (1). 36-41. 2023.
7. Ochiai K¹, Mochida Y¹, Nagase T², Fukuhara H³, Yamaguchi Y¹, Nagase M⁴ (¹Department of Trauma and Critical Care Medicine Kyorin University School of Medicine, ²Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ³Kunitachi Aoyagien Tachikawa Geriatric Health Services Facility, ⁴Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine): Upregulation of Piezo2 in the mesangial, renin, and perivascular mesenchymal cells of the kidney of Dahl salt-sensitive hypertensive rats and its reversal by esaxerenone. *Hypertens Res.* 46 (5). 1234-1246. 2023.
8. 緒方友紀¹, 持田勇希², 海田賢彦², 山口芳裕² (¹杏林大学医学部付属病院・救急科, ²杏林大・医・救急医学): 構音障害を主訴に脳卒中選定された劇症1型糖尿病尿の1例. 日救急医学会誌. 44 (2). 261-264. 2023.

著書

1. 田中佑也, 山口芳裕 (分担執筆): 熱中症. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2023. 995-996.
2. 清水裕介, 山口芳裕 (分担執筆): 熱中症. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2023. 996.

その他

1. 山口芳裕: 東京五輪で都市オペレーションセンター医療統括責任者を務めた経験を踏まえ, 今後の大規模イベントの有事に, より万全の態勢を整える必要性について (コメント). サンケイスポーツ. 2022年4月11日.
2. 山口芳裕: オリンピック開催中に表在化したセキュリティ上の課題について (セミナー紹介). 安全保障と危機管理. 60. 6-7. 2022.
3. 山口芳裕: 熱中症対策について呼びかけ. NHK NEWS WEB「News Upコーナー」. 2022年6月17日.
4. 山口芳裕: 救急搬送された熱中症患者の処置・熱中症予防について (コメント). TBSテレビ「NEWS 23」. 2022年6月29日.
5. 山口芳裕: 岡山県医師会主催「救急の日講演会」東京五輪・パラリンピックの期間中の事故などに対応する専門機関の医療分野を統括した講演内容 (紹介). 山陽新聞. 2022年9月18日.
6. 山口芳裕: 「命の灯火」東京DMAT崩壊を救った男 (寄

稿). SAFETY LIFE TOKYO東京防災救急協会. 23. 5-6. 2022.

- 山口芳裕: 第50回日本救急医学会総会・学術集会(主催). 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
- 山口芳裕: 「進む温暖化50年後の救急は」主催した第50回日本救急医学会総会・学術集会(紹介)。気候変動による社会の変化と救急医療のあり方などのシンポジウムを行ったねらいについて(コメント)。朝日新聞. 2022年12月17日.

脳神経外科学教室

講演

- 永根基雄: PCNSLの病態・診断・治療ー最近の知見も含めー. Kurume PCNSL WEB Seminar. オンライン. 2022年4月8日.
- 中富浩文: 脳動静脈奇形に対する深部穿通枝フィードアの微細解剖に基づく治療戦略と神経機能の可視化による機能温存. 第45回日本脳神経CI学会. オンライン. 2022年4月8日.
- 齋藤邦昭: 医師が臨床工学士に求めるナビゲーション業務. StealthStation™ナビゲーションシステムCEトレーニングWebセミナー2022. オンライン. 2022年4月10日.
- 永根基雄: PCNSLの病態・診断・治療ー最近の進歩と展望ー. 四国PCNSL Web Conference. オンライン. 2022年4月13日.
- 中富浩文: 脳動静脈奇形に対する深部穿通枝フィードアの微細解剖に基づく治療戦略と神経機能の可視化による機能温存. 第31回脳神経外科手術と機器学会. 東京・オンライン. 2022年4月15日.
- 中富浩文: 巨大, 大型fusiform and dolichoectatic aneurysmの治療. 第31回脳神経外科手術と機器学会. 東京・オンライン. 2022年4月15日.
- 中富浩文: CPA髄膜腫手術に於けるpial feederの“解剖と神経機能の可視化”による機能温存. 第31回脳神経外科手術と機器学会. 東京・オンライン. 2022年4月15日.
- 永根基雄: 中枢神経系原発リンパ腫の病態と治療. 第2回PCNSL Web Conference in Kanagawa. オンライン. 2022年4月19日.
- 中富浩文: 聴神経腫瘍に対する蝸牛, 顔面神経の“解剖と神経機能の可視化”による機能温存手術. 第35回日本老年脳神経外科学会. 徳島. 2022年4月23日.
- 岡田啓, 末松慎也, 佐々木佑太, 今井大也, 松本淑恵, 畑中良, 吉田裕毅, 笹森寛生, 丸山啓介, 野口明男, 中富浩文, 塩川芳昭: 人生100年時代を見すえた80歳以上高齢者SAHの治療再考. 第35回日本老年脳神経外科学会. 徳島. 2022年4月23日.
- 中富浩文: Virtual手術シミュレーションおよびrealtime神経機能モニタリングの融合による“見える化”を駆使した手術. 第42回日本脳神経外科コンgres. オンライン. 2022年5月12日.
- 齋藤邦昭: 脳腫瘍手術における術中モニタリングと手術支援技術. 第42回日本脳神経外科コンgres. オンライン. 2022年5月12日.
- 丸山啓介: 脳神経外科診療でのIT活用. 第42回日本脳神経外科コンgres総会. 大阪. 2022年5月15日.
- 齋藤幹人, 河野浩之, 天野達雄, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞でのGhost infarct coreはCT灌流画像から有効再開通までの時間と関連する. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月20日.
- 中西郁, 岡崎太一, 川竹彩音, 齋藤幹人, 丸岡響, 天野達雄, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 佐藤俊明, 塩川芳昭, 平野照之: 心房心筋症に注目した潜在性心房細動の検出. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月20日.
- 山岸夢希, 佐々木重嘉, 清水早紀, 松下裕子, 齋藤邦昭, 小林啓一, 中富浩文, 近藤聡英, 塩川芳昭, 成田善孝, 市村幸一, 永根基雄: 中枢神経系リンパ腫のサロゲートマーカーとしての髄液中MYD88変異検出の意義. 第40回日本脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.
- Saito K: Real-time continuous navigation with 3D/4K exoscope for brain tumor surgery. CARS 2022 Computer Assisted Radiology and Surgery, 36th International Congress and Exhibition. Tokyo. 2022年6月9日.
- 塩川芳昭: 脳卒中合併がん患者のケアと治療と連携のあり方〜Stroke Oncologyの確立へ. 第7回日本がんサポーターシップケア学会(JASCC)学術集会. オンライン. 2022年6月18日.
- 齋藤邦昭: 脳腫瘍電場療法の現状ー日々の生活と工夫ー. 脳腫瘍電場療法に関する情報交換会. オンライン. 2022年6月19日.
- 能中陽平, 塩川芳昭, 中富浩文: 脳神経外科における頭蓋底外科と教育体制. 第34回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2022年7月7日.
- 中富浩文: 脳幹部海綿状血管腫手術に於けるハイリスク伝導路の解剖と神経機能の可視化による機能温存手術. 第34回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2022年7月7日.
- 中富浩文: TSI PHANTOM-Fリトラクターシステムの使用経験. 第34回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2022年7月8日.
- 中富浩文: 聴神経腫瘍に対する蝸牛, 顔面神経の“解剖と神経機能の可視化”による機能温存手術. 第34回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2022年7月8日.
- 中富浩文: 手術力学のススメ. 第66回春秋コンgres. 東京. 2022年7月16日.
- 齋藤邦昭: 外視鏡を用いたグリオーマのAwake surgery. 第20回日本Awake surgery学会. 東京. 2022年7月16日.
- 齋藤邦昭: 覚醒下手術とてんかんマネジメント. 脳障害後てんかんWebセミナー. オンライン. 2022年7月21日.
- 永根基雄: PCNSLに対する治療開発: エビデンスと展望. PCNSL/PIOLジョイントセミナー. 広島・オンライン. 2022年7月23日.
- 中富浩文: 見える化を駆使した聴神経腫瘍手術の適応. 第31回日本聴神経腫瘍研究会. 東京. 2022年7月30日.
- 中西郁, 河野浩之, 齋藤幹人, 城野喬史, 丸岡響, 松本淑恵, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: がん関連脳梗塞のHyperdense vessel signと血栓病理の関連. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.
- 松田恭平, 田代祥一, 塩川芳昭, 平野照之, 山田深: 急性期リハビリテーション治療を行ったがん関連脳梗塞患者の転帰. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.

31. 河野浩之, 平野照之, 辻哲也, 高野利実, 成田善孝, 藤本茂, 塩川芳昭: 日本脳卒中Stroke Oncology PT 調査報告. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.
32. 小松原弘一郎, 河野浩之, 平野照之, 塩川芳昭: 当院における関連脳梗塞に対する機械的血栓回収療法の有効性の検討. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.
33. 中西郁, 河野浩之, 齋藤幹人, 城野喬史, 丸岡響, 松本淑恵, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: がん関連脳梗塞のHyperdense vessel signと血栓病理の関連. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.
34. Nagane M: PCNSL – A clinical practice for PCNSL and experience of VELEXBRU. VELEXBRU (Tirabrutinib) Expert Meeting. Taiwan, Online. 2022 August 28.
35. 齋藤邦昭: 脳腫瘍に関わるてんかん・けいれん対策について. 脳腫瘍連携会WEBセミナー. オンライン. 2022年8月30日.
36. 清矢陽右, 吉田裕毅, 松本淑恵, 岡田啓, 丸山啓介, 野口明男, 永根基雄, 中富浩文, 塩川芳昭: ハイブリッド手術室での頸動脈内膜剥離術の手術経験. 第79回三鷹ニューロ研究会. オンライン. 2022年9月15日.
37. 塩川芳昭: Stroke Oncologyの提唱ーがん脳卒中の併発例に対する領域横断的なコンセンサス形成の必要性ー. 第5回日本腫瘍循環器学会学術集会. オンライン. 2022年9月17日.
38. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫治療の現状と課題. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月28日.
39. 塩川芳昭: Stroke Oncologyとは. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月30日.
40. 永根基雄, 佐々木重嘉, 小林啓一, 齋藤邦昭, 山岸夢希, 塩川芳昭, 中富浩文: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の新規診断・治療開発: Liquid biopsy, BTK阻害薬の当科実績と展望. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月30日.
41. 中富浩文: 臨床病理所見とCFD解析に基づく巨大, 大型fusiform and dolichoectatic aneurysmの治療. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月30日.
42. 丸山啓介: 微小血管減圧術の局所微小解剖と術中神経機能の見える化. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月30日.
43. 齋藤邦昭: 高画質外視鏡を用いた情報統合グリオーマ手術. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月28日-10月1日.
44. 佐々木佑太, 齋藤邦昭, 清水早紀, 永井淳, 山岸夢希, 佐々木重嘉, 小林啓一, 塩川芳昭, 中富浩文, 永根基雄: 2021年版WHO分類におけるグリオーマの摘出度と予後の相関. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜. 2022年9月28日.
45. 野澤隆志, 佐々木佑太, 眞田笑吉, 熊井しんたろう, 原昌幸, 影山英治, 村野祐司, 齋藤邦昭: もやもや病のバイパス術後の脳動脈瘤に対するトラッピング術において術中画像支援が有用であった1例. 第12回中四国臨床工学会. 岡山. 2022年10月1日.
46. 永根基雄: PCNSLに関する最近の話題. Tama plum seminar. 三鷹市・オンライン. 2022年10月4日.
47. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療開発: 最近の動向と展望. 第84回日本血液学会学術総会. 福岡市・オンライン. 2022年10月14日.
48. 齋藤邦昭: 外視鏡を用いた情報統合脳腫瘍手術. 第27回日本脳腫瘍の外科学会. 東京. 2022年10月14日.
49. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療開発ー最近の動向と展望ー. 第84回日本血液学会学術集会コーポレートセミナー. 福岡市・オンライン. 2022年10月15日.
50. 齋藤邦昭: 脳梁グリオーマの治療方針と積極的摘出術の限界と挑戦. 第27回日本脳腫瘍の外科学会. 東京. 2022年10月15日.
51. Nagane M: Recent progress and issues in treatment of PCNSL in Japan. VELEXBRU HEADLINE CHANNEL~PCNSL Meet the Expert~. Taiwan・Online. 2022年10月17日.
52. 塩川芳昭: 多摩脳神経外科懇話会の歩み. 第64回多摩脳神経外科懇話会. 三鷹. 2022年10月20日.
53. 永根基雄: 中枢神経系悪性腫瘍. 第60回日本癌治療学会学術集会. 神戸. 2022年10月20日.
54. 齋藤幹人, 河野浩之, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞における Ghost infarct coreは血栓回収療法での早期友好再開通と関連する. 第43回多摩脳卒中研究会. 立川市. 2022年10月21日.
55. 松田恭平, 田代祥一, 平野照之, 塩川芳昭, 山田深: 急性期前大脳動脈領域脳梗塞患者におけるADL変化とその特徴. 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山. 2022年11月5日.
56. 山岸夢希, 花山尚美, 佐々木重嘉, 齋藤邦昭, 小林啓一, 中富浩文, 塩川芳昭, 永根基雄: 中枢神経系悪性リンパ腫の治療経過におけるQOL評価. 第40回日本脳腫瘍学会学術集会. 鴨川市. 2022年12月4日.
57. 齋藤邦昭, 佐々木重嘉, 佐々木佑太, 山岸夢希, 小林啓一, 塩川芳昭, 中富浩文, 永根基雄: 再発膠芽腫に対する拡大摘出~FLAIRectomy~の意義. 第40回日本脳腫瘍学会学術集会. 鴨川市. 2022年12月5日.
58. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫 治療の課題と展望. 第40回日本脳腫瘍学会学術集会. 鴨川市. 2022年12月6日.
59. 佐々木重嘉, 久米賢, 立石健祐, 中村大志, 井林賢志, 山岸夢希, 齋藤邦昭, 小林啓一, 松下裕子, 日比谷優子, 北原麻衣, 鈴木早紀, 永野玲子, 山下聡, 中富浩文, 塩川芳昭, 市村幸一, 永根基雄: SCNSLとPCNSL全身再発における初発. 再発時遺伝子変異プロファイル比較. 第40回日本脳腫瘍学会学術集会. 鴨川市. 2022年12月6日.
60. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の手術と化学療法. 日本化薬株式会社主催山口脳腫瘍カンファレンス. 宇部市. 2022年12月16日.
61. 吉田裕毅: “当たり前”のレベルをあげるための術前準備ー3次元趣味レーション画像の利用. 第10回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス. 東京. 2023年1月28日.
62. 小野田凌, 今井大也, 松本淑恵, 吉田裕毅, 中富浩文, 塩川芳昭: 血流感染を介して口腔連鎖球菌(Streptococcus anginosus group)による多発脳膿瘍を呈した65歳男性~脳神経外科から術中所見を中心に~. 第80回三鷹ニューロ研究会. オンライン. 2023年2月2日.
63. 中富浩文: 巨大大型血栓化紡錘状動脈瘤の治療. ISCVD2023. オンライン. 2023年2月18日.
64. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の治療: チラブルチニブを含めた最近の話題を中心に. 栃木小野セミナー. オンライン. 2023年3月7日.
65. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫 (PCNSL)

の治療の進歩と課題. 造血管腫瘍キャンパスWEBセミナー. オンライン. 2023年3月8日.

66. 齊藤邦昭: 脳腫瘍関連てんかんについて. 第2回多摩脳腫瘍連携会. オンライン. 2023年3月14日.
67. 安達卓哉, 河野浩之, 五明美德, 塩川芳昭, 平野照之: CT灌流画像により急性期脳梗塞とてんかんを鑑別できた6例. 第48回日本脳卒中学会学術集会. 横浜. 2023年3月16日.
68. 齋藤幹人, 河野浩之, 大貫颯, 池田憲祐, 緒方健亮, 城野喬史, 丸岡響, 中西郁, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞におけるGhost infarct coreは血栓回収療法での早期有効再開通と関連する. 第48回日本脳卒中学会学術集会. 横浜. 2023年3月16日.
69. 山岸夢希, 佐々木重嘉, 清水早紀, 松下裕子, 齊藤邦昭, 小林啓一, 中富浩文, 塩川芳昭, 成田善孝, 市村幸一, 永根基雄: 髄液中MYD88検出による中枢神経系悪性リンパ腫のサロゲートマーカーとしての有用性. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡. 2023年3月16日.
70. 丸岡響, 河野浩之, 大貫颯, 川竹彩音, 岡崎太一, 池田憲祐, 緒方健亮, 齋藤幹人, 城野喬史, 中西郁, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 非心原性脳梗塞再発高リスク群はクロピドグレルのpoor responderが多い. 第48回日本脳卒中学会学術集会. 横浜. 2023年3月17日.
71. 山道惇, 本田有子, 中西郁, 二階雪野, 柴原純二, 佐々木重嘉, 山岸夢希, 竹丸誠, 河野浩之, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 脳アミロイド血管症関連炎症とアミロイドβ関連炎症を合併し治療に難渋した一例. 第48回日本脳卒中学会学術集会. 横浜. 2023年3月17日.
72. 中富浩文: 巨大, 大型fusiform and dolichoectatic aneurysmの病態と治療. STROKE2023. 横浜. 2023年3月17日.
73. 小松原弘一郎, 河野浩之, 竹丸誠, 大貫颯, 緒方健亮, 山道惇, 城野喬史, 齋藤幹人, 丸岡響, 中西郁, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: がん関連脳梗塞に対する機械的血栓回収療法の有効性の検討-院内発症と転帰との関連について. STROKE2023. 横浜. 2023年3月17日.
74. 岡田啓, 今井大也, 松本淑恵, 吉田裕毅, 丸山啓介, 野口明男, 中富浩文, 塩川芳昭: 3次元シミュレーションと数値流体力学に基づいた未破裂前交通脳動脈瘤における新規術前検討方法の有用性. STROKE2023. 横浜. 2023年3月17日.
75. 佐々木重嘉: BRD4-NUTM1 fusionを有したhigh-grade neuroepithelial tumorの一例. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡. 2023年3月17日.
76. 吉田裕毅: 3次元シミュレーション画像が有効だった脊椎動脈 巨大血栓化脳脈瘤に対する直達手術の1例. STROKE2023. 横浜. 2023年3月18日.
77. 今井大也: 出血発症の小脳Angiographically occult arteriovenous malformationの1例. STROKE2023. 横浜. 2023年3月18日.

論文

1. 位田隆一, 井林雪郎, 小笠原邦昭, 古賀政利, 塩川芳昭, 中島弘, 橋本洋一郎, 藤本茂, 宮本享, 薬師寺祐介, 片岡大治: 重症脳卒中の維持期における緩和と療養に関する提言. 脳卒中. 44(1). 82-85. 2022.
2. 山道惇, 岡田啓, 天野達雄, 河野浩之, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 左片麻痺を呈した両側前大脳動脈解離を呈した若年性脳梗塞の1例. 臨床神経学.

62(1). 78. 2022.

3. 塩川芳昭, 河野浩之, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 藤本茂, 平野照之: NEURO-ONCOLOGIC EMERGENCYにおけるがん脳卒中の併発例への対応 領域横断的なコンセンサス形成の必要性. Neurosurgical Emergency. 26(3). 291. 2022.
4. Miyamoto S, Ogasawara K, Kuroda S, Itabashi R, Toyoda K, Itoh Y, Iguchi Y, Shiokawa Y, Takagi Y, Ohtsuki T, Kinouchi H, Okada Y, Takahashi JC, Nakase H, Kakuda W: Japan Stroke Society Guideline 2021 for the Treatment of Stroke. Committee for Stroke Guideline 2021, the Japan Stroke Society. 17(9). 1039-1049. 2022.
5. Nagase M, Nagase T, Tokumine J, Saito K, Sunami E, Shiokawa Y, Matsumura G: Formalin-free soft embalming of human cadavers using N-vinyl-2-pyrrolidone: perspectives for cadaver surgical training and medical device development. Anat Sci Int. 97(3). 273-282. 2022.
6. Teranishi Y, Okano A, Miyawaki S, Ohara K, Ishigami D, Hongo H, Dofuku S, Takami H, Mitsui J, Ikemura M, Komura D, Katoh H, Ushiku T, Ishikawa S, Shin M, Nakatomi H, Saito N: Clinical significance of NF2 alteration in grade I meningiomas revisited; prognostic impact integrated with extent of resection, tumour location, and Ki-67 index. Neuropathol Commun. 10(1) 76. 2022.
7. Teranishi Y, Miyawaki S, Nakatomi H, Ohara K, Hongo H, Dofuku S, Okano A, Takayanagi S, Ota T, Yoshimura J, Qu W, Mitsui J, Morishita S, Tsuji S, Saito N: Early prediction of functional prognosis in neurofibromatosis type 2 patients based on genotype-phenotype correlation with targeted deep sequencing. Sci Rep. 12(1). 9543. 2022.
8. Sakai Y, Miyawaki S, Teranishi Y, Okano A, Ohara K, Hongo H, Ishigami D, Shimada D, Mitsui J, Nakatomi H, Saito N: NF2 Alteration/22q Loss Is Associated with Recurrence in WHO Grade 1 Sphenoid Wing Meningiomas. Cancers (Basel). 14(13). 3183. 2022.
9. Dofuku S, Sonehara K, Miyawaki S, Sakaue S, Imai H, Shimizu M, Hongo H, Shinya Y, Ohara K, Teranishi Y, Okano A, Ono H, Nakatomi H, Teraoka A, Yamamoto K, Maeda Y, Nii T, Kishikawa T, Suzuki K, Hirata J, Takahashi M, Matsuda K, Kumanogoh A, Matsuda F, Okada Y, Saito N: Genome-Wide Association Study of Intracranial Artery Stenosis Followed by Phenome-Wide Association Study. Transl Stroke Res. 2022. DOI: 10.1007/s12975-022-01049-w. Online ahead of print.
10. Hongo H, Miyawaki S, Teranishi Y, Mitsui J, Katoh H, Komura D, Tsubota K, Matsukawa T, Watanabe M, Kurita M, Yoshimura J, Dofuku S, Ohara K, Ishigami D, Okano A, Kato M, Hakuno F, Takahashi A, Kunita A, Ishiura H, Shin M, Nakatomi H, Nagao T, Goto H, Takahashi S, Ushiku T, Ishikawa S, Okazaki M, Morishita S, Tsuji S, Saito N: Somatic GJA4 gain-of-function mutation in orbital cavernous venous malformations. Angiogenesis. 26(1). 37-52. 2023.
11. Hongo H, Miyawaki S, Teranishi Y, Ishigami D, Ohara K, Sakai Y, Shimada D, Umekawa M,

- Koizumi S, Ono H, Nakatomi H, Saito N: Genetics of brain arteriovenous malformations and cerebral cavernous malformations. *J Hum Genet.* 68(3). 157-167. 2023.
12. 河野浩之, 塩川芳昭, 平野照之: Stroke Oncology. 腫瘍内科. 30巻2号. 204-210. 2022年.
 13. Okano A, Miyawaki S, Teranishi Y, Ohara K, Hongo H, Sakai Y, Ishigami D, Nakatomi H, Saito N: Advances in Molecular Biological and Translational Studies in World Health Organization Grades 2 and 3 Meningiomas: A Literature Review. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 62(8). 347-360. 2022.
 14. Yoshimoto T, Yamagami H, Sakai N, Toyoda K, Hashimoto Y, Hirano T, Iwama T, Goto R, Kimura K, Kuroda S, Matsumaru Y, Miyamoto S, Ogasawara K, Okada Y, Shiokawa Y, Takagi Y, Tominaga T, Uno M, Yoshimura S, Ohara N, Imamura H, Sakai C: Impact of COVID-19 on the Volume of Acute Stroke Admissions: A Nationwide Survey in Japan. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 62(8). 369-376. 2022.
 15. Inoue M, Ota T, Hara T, Shigeta K, Kamiya Y, Arakawa H, Aoki R, Tsuruta W, Ichijo M, Kaneko J, Shiokawa Y, Hirano T: An Initial High National Institutes of Health Stroke Scale Score and Any Intracranial Hemorrhage Are Independent Factors for a Poor Outcome in Nonagenarians Treated with Thrombectomy for Acute Large Vessel Occlusion: The Tokyo/Tama-REgistry of Acute Endovascular Thrombectomy (TREAT) Study. *World Neurosurg.* 165. e325-e330. 2022.
 16. 位田隆一, 井林雪郎, 小笠原邦昭, 片岡大治, 古賀政利, 塩川芳昭, 竹川英宏, 中島弘, 橋本洋一郎, 藤井由記代, 藤本茂, 宮本享, 薬師寺祐介: 自宅復帰困難な後遺症を呈する脳卒中の維持期(生活期)における緩和と療養に関する提言. *脳卒中.* 44(6). 671-679. 2022.
 17. 位田隆一, 井林雪郎, 小笠原邦昭, 古賀政利, 塩川芳昭, 竹川英宏, 中島弘, 橋本洋一郎, 藤井由記代, 藤本茂, 宮本享, 薬師寺祐介, 片岡大治: 重症脳卒中急性期の説明のあり方に関する提言. *脳卒中.* 45(1). 72-77. 2023.
 18. Ohno M, Kitanaka C, Miyakita Y, Tanaka S, Sonoda Y, Mishima K, Ishikawa E, Takahashi M, Yanagisawa S, Ohashi K, Nagane M, Narita Y: Metformin with Temozolomide for Newly-diagnosed Glioblastoma: Results of phase I Study and Brief Review of Rslsvant Studies. *Cancers(Basel).* 14(17). 4222. 2022.
 19. Nagane M, Ichimura, Onuki R, Narushima D, Honda-Kitahara M, Satomi K, Tomiyama A, Arai Y, Shibata T, Narita Y, Uzuka T, Nakamura H, Nakada M, Arakawa Y, Ohnishi T, Mukasa A, Tanaka S, Wakabayashi T, Aoki T, Aoki S, Shibui S, Matsutani M, Ishizawa K, Yokoo H, Suzuki H, Morita S, Kato M, Nishikawa R: Bevacizumab Beyond Progression for Newly Diagnosed Glioblastoma (BIOMARK): Phase II Safety, Efficacy and Biomarker Study. *Cancers(Basel).* 14(22). 5522. 2022.
 20. 里見介史, 高見浩数, 福島慎太郎, 山下聡, 松下裕子, 中里洋一, 鈴木智成, 田中將太, 武笠晃文, 齊藤延人, 金森政之, 隈部俊宏, 富永悌二, 小林啓一, 永根基雄, 井内俊彦, 吉本幸司, 田村郁, 前原健寿, 酒井圭一, 杉山一彦, 横上聖貴, 竹島秀雄, 桒中正博, 浅井昭雄, 牛島俊和, 松谷雅生, 西川亮, 市村幸一: 12p gainは中枢神経系胚細胞腫瘍の予後不良群を同定する. *日本病理学会会誌.* 111(1). 220. 2022.
 21. 里見介史, 藤本健二, 有田英之, 山崎夏維, 松下裕子, 中村大志, 宮北康二, 梅原徹, 小林啓一, 田村郁, 田中將太, 樋口芙未, 沖田典子, 金村米博, 深井順也, 阪本大輔, 宇田武弘, 前原健寿, 永根基雄, 西川亮, 鈴木博義, 澁谷誠, 小森隆司, 成田善孝, 市村幸一: IDH野生型びまん性星細胞腫は存在するか?. *日本病理学会会誌.* 111(1). 236. 2022.
 22. 金村米博, 正札智子, 吉岡絵麻, 市村幸一, 中野嘉子, 平戸純子, 佐々木惇, 義岡孝子, 山崎夏維, 原純一, 隈部俊宏, 伊達勲, 永根基雄, 西川亮: 脳腫瘍の統合診断と中央診断~脳腫瘍病理診断体制の強化に向けて~脳腫瘍の中央分子診断体制の構築. *Brain Tumor Pathology.* 39巻. 066. 2022.
 23. 成田善孝, 渋井壮一郎, 若林俊彦, 村垣善浩, 永根基雄, 隈部俊宏, 荒川芳輝, 西川亮, 小森隆司: 脳腫瘍の統合診断と中央診断~脳腫瘍病理診断体制の強化に向けて~JCOG臨床試験における脳腫瘍中央病理診断の役割と課題. *Brain Tumor Pathology.* 39巻. 067. 2022.
 24. 照井康仁, 成田善孝, 永根基雄, 三島一彦, 荒川芳輝, 米澤大, 浅井克則, 福原規子, 杉山一彦, 篠島直樹, 葵新, 西川亮: 再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫を対象とした国内第1/2相試験におけるチラブルチニブ投与期間中のQuality of Life及びKarnofsky Performance Statusの経時的変化の報告. *日本リンパ網内系学会会誌.* 62巻. 95. 2022.
 25. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療開発: 最近の動向と展望. *臨床血液* 63(9). 1145-1156. 2022.
 26. Mishima M, Nishikawa R, Narita Y, Mizusawa J, Sumi M, Kinoshita M, Nagane M, Arakawa Y, Yoshimoto K, Shibahara I, Shinojima N, Asano K, Tsurubuchi T, Sasaki H, Asai A, Sasayama T, Momii Y, Sasaki A, Katayama H, Fukuda H: Randomized phase III study of high-dose methotrexate and whole brain radiotherapy with or without concomitant and adjuvant temozolomide in patients with newly diagnosed primary central nervous system lymphoma: JCOG1114C. *Neuro Oncol.* 2022. DOI: 10.1093/neuonc/noac246. Published online.
 27. 中富浩文, 金太一, 宮脇哲, 齊藤延人: 脳幹部海綿状血管腫手術における脳幹機能の可視化と術中操作への応用. *脳神経外科ジャーナル.* 31(6). 368-377. 2022.
 28. 中富浩文, 塩川芳昭: 治療概論 脳卒中慢性期の外科治療. *日本臨床.* 80巻増刊1最新臨床脳卒中学(上). 533-538. 2022.
 29. 森田明夫, 田原重志, 村井保夫, 石坂栄太郎, 中富浩文, 金太一, 齊藤延人, 原田香奈子, 光石衛: Medical Engineeringを用いた脳神経外科技術の高度化と科学的評価 ImPACTプロジェクト「バイオニックヒューマノイドが拓く新産業革命」シンポジウム総括. *CI研究.* 43巻. 3-4号. 117-122. 2022.
 30. 河島真理子, 長谷川洋敬, 辛正廣, 新谷祐貴, 高橋渉, 石川治, 中富浩文, 齊藤延人: 破裂脳動静脈奇形に対する定位放射線治療の長期成績. *脳卒中の外科.* 50巻1号. 20-24. 2022.
 31. 中富浩文: 3D手術シミュレーションおよび持続神経機能モニタリングの融合による科学的頭蓋底外科の

- 構築. Japanese Journal of Diagnostic Imaging. 40 巻増刊. 60. 2022.
32. 森田明夫, 村井保夫, 田原重志, 石坂栄太郎, 中富浩文, 齊藤延人, 原田香奈子, 光石衛: 脳神経外科領域におけるロボット手術の開発と今後の展望. 脳神経外科ジャーナル. 31巻8号. 500-508. 2022.
 33. 中富浩文: Clinical Topics 脳血管障害 Dolichoectatic and fusiform aneurysmの病態と治療に関する最新の知見. Annual Review神経. 2022 巻. 179-183. 2022.
 34. 吉崎彩織, 中島昌典, 上月直樹, 澁谷裕彦, 岡田啓, 中富浩文, 市川弥生子, 千葉厚郎: 齧歯を契機とし, 経過中に脳動脈瘤が顕在化した海綿静脈洞症候群の42歳男性. 臨床神経学. 62巻8号. 665. 2022.
 35. 里見介史, 高見浩数, 福島慎太郎, 山下聡, 松下裕子, 中里洋一, 鈴木智成, 田中將太, 武笠晃丈, 齊藤延人, 金森政之, 隈部俊宏, 富永悌二, 小林啓一, 永根基雄, 井内俊彦, 吉本幸司, 田村郁, 前原健寿, 酒井圭一, 杉山一彦, 横上聖貴, 竹島秀雄, 埜中正博, 浅井昭雄, 牛島俊和, 松谷雅生, 西川亮, 市村幸一: 12p gainは中枢神経系胚細胞腫瘍の予後不良群を同定する. 日本病理学会会誌. 111 (1) . 220. 2022.
 36. 里見介史, 藤本健二, 有田英之, 山崎夏維, 松下裕子, 中村大志, 宮北康二, 梅原徹, 小林啓一, 田村郁, 田中將太, 樋口美未, 沖田典子, 金村米博, 深井順也, 阪本大輔, 宇田武弘, 前原健寿, 永根基雄, 西川亮, 鈴木博義, 澁谷誠, 小森隆司, 成田善孝, 市村幸一: IDH野生型びまん性星細胞腫は存在するか?. 日本病理学会会誌. 111 (1) . 236. 2022.
 37. 原田洋一, 山下圭一, 今井大也, 江原拓郎, 鳥居正剛, 池上方基, 林基高, 佐藤栄志, 畑山徹, 河野拓司: 疼痛のみで発症した椎骨動脈解離の臨床像 特に瘤状変化した症例の経過について. 脳卒中の外科. 50巻4号. 266-273. 2022.
 38. 山岸夢希, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 中富浩文, 近藤聡英, 塩川芳昭, 成田善孝, 市村幸一, 永根基雄: 脳腫瘍のsurrogate marker中枢神経系リンパ腫のサロゲートマーカーとしての髄液中MYD88変異検出の意義. Brain Tumor Pathology. 39巻Suppl. 063. 2022.
 39. 永井淳, 岡田啓, 吉田裕毅, 中富浩文: 画像検査各論 頭蓋・顔面・頭頸部 脳神経外科領域における副鼻腔処置のピットフォール. 形成外科. 65巻増刊. S87-S91. 2022.
 40. Toyoda K, Yoshimura S, Fukuda-Doi M, Qureshi AI, Inoue M, Miwa K, Koga M, Qureshi AI, Palesch YY, Toyoda K, Nagatsuka K, Koga M, Ihara M, Wang Y, Sakai N, Hara T, Wang Z, Jeng J, Agarwal S, Lee K, Mayer SA, Suri MFK, Shah QA, Kirmani JF, Qureshi AI, Hussein H, Novitzke JM, Witzel C, Connelly B, Chaudhry SA, Abbott EI, Maland ET, France KA, Rahim B, Miller Z, Caceres AJ, Brau LJ, Qureshi MH, Thomas JK, Afzal MR, Rech N, Palesch YY, Martin R, Zhao W, Foster L, Speiser J, Dillon C, Kim J, Conner C, Henry A, Hill K, Clasen K, Cassarly C, Hanley DF, Kase CS, Carhuapoma JR, McBee N, Moy C, Janis S, Hemphill JC, Hoh BL, Zucharello M, Parides MK, Kario K, Namekawa M, Nakagawara J, Kamiyama K, Furui E, Itabshi R, Yazawa Y, Shiokawa Y, Nishiyama K, Hasegawa Y, Akiyama H, Okuda S, Noda T, Yamagami H, Todo K, Kimura K, Shibazaki K, Yagita Y, Okada Y, Matsushita T, Kitazono T, Hirano T, Arihiro S, Sato S, Naganuma M, Maeda K, Mori M, Nezu T, Miyagi T, Endo K, Osaki M, Kobayashi J, Okata T, Sakamoto Y, Tanaka E, Kanai H, Tokunaga A, Minematsu K: Intravenous nicardipine for japanese patients with acute intracerebral hemorrhage: An individual participant data analysis. Hypertens Res. 46(1). 75-83. 2023.
 41. Kawano H, Adachi T, Saito M, Amano T, Gomyo M, Yokoyama K, Shiokawa Y, Hirano T: Correlation between pretreatment and follow-up infarct volume using CT perfusion imaging: The bayesian versus singular value decomposition method. Neurol Sci. 2023. DOI: 10.1007/s10072-023-06627-w. Online ahead of print.
 42. 吉田裕毅, 中富浩文: 側頭骨グロムス腫瘍・頸静脈孔腫瘍特集 耳科手術のコツとpitfall. 耳鼻咽喉科. vol.2 (6) . 751. 2022.
- 著 書**
1. 中富浩文 (分担執筆): Dolichoectatic and fusiform aneurysmの病態と治療に関する最新知見. Annual Review 神経2022. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭 編集. 株式会社中外医学社. 2022年. 179-183.
 2. 野口明男 (分担執筆): 2022年度全国脳神経外科保険審査委員会. 一般社団法人日本脳神経外科学会. 2022. 30-51.
 3. 吉田裕毅, 塩川芳昭 (分担執筆): 脳卒中外科の最前線. 杏林医会誌. 2022年. 52巻4号233-238.
- その他**
1. 塩川芳昭: 竹内一夫先生を偲んで. 燈台 2021年 年報 同門会業績集2020-2021. 東京大学脳神経外科. 2022年5月. 168.
 2. 塩川芳昭: Stroke Oncologyで脳卒中合併がん患者に対する適切な治療・ケア体制の構築を. 日経メディカル. 2022年7月.
 3. 塩川芳昭: カルテの余白 外科医を育てることとは. One hour10月号. 大同生命保険株式会社. 2022年10月.
 4. 齊藤邦昭: 悪性神経膠腫 (malignant glioma). CareNet希少疾病ライブラリ. 2022年6月.
- 心臓血管外科学教室**
- 口 演**
1. 市川洋平, 古暮洗太, 藤巻圭介, 池添亨, 伊佐治寿彦, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 当院における感染性腹部大動脈瘤の治療戦略と20年間26例の治療成績に関する検討. 第50回日本血管外科学会学術総会. 北九州市. 2022年5月25日
 2. 細井温: 適切なVTE診断のための下肢エコー検査と抗凝固療法について. 第50回日本血管外科学会学術総会. 北九州市. 2022年5月26日
 3. 伊佐治寿彦: Digital新時代の Total Vascular Management. 第50回日本血管外科学会学術総会. 北九州市. 2022年5月27日
 4. 中島章夫, 戸川真寿, 窪田博, : 赤外線凝固装置 (KIRC) の基礎的研究—シミュレーション解析による至適照射条件構築—. 第31回日本コンピュータ外科学会大会. 東京. 2022年6月10日.
 5. 稲葉雄亮: ハイブリッド心臓血管外科医のTEVAR治療戦略. 第189回日本胸部外科学会関東甲信越地方会.

東京. 2022年6月25日.

6. 峯岸祥人, 古暮洸太, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博: 重複下大静脈を有する胸腹部大動脈瘤の患者に対して胸腹部置換術を行った一例. 第189回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年6月25日.
7. 窪田博: 大動脈瘤とステントグラフトの治療. 国民健康保険審査員エキスパート研修. 東京. 2022年8月29日.
8. 細井温: DVTの診断と治療ー下腿局限型を中心にー. VTE Area Web Seminar in Tokyo 2022~実践の為の下肢静脈エコーと薬物療法~. オンライン. 2022年8月30日.
9. 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博: 当科における急性A型大動脈解離に対するFET法を用いた弓部大動脈置換術の中長期成績の検討. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会. 横浜・オンライン. 2022年10月5日-10月8日.
10. 合田あゆみ, 峯岸祥人, 千木良寛子, 竹内真介, 飯野泰子, 濱野繁, 小沼健人, 中村英慎, 飛田和基, 副島京子, 河野隆志, 窪田博: 補助人工心臓管理施設VADチームで挑むShared-Care. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良・オンライン. 2022年10月21日-10月23日.
11. Watabe K, Goda A, Fukushi K, Takeuchi S, Minegishi S, Kubota H, Kohno T, Soejima K: A case of cardiogenic shock due to atrial tachycardia requiring extracorporeal left ventricular assist device support. 第26回日本心不全学会学術集会. 奈良・オンライン. 2022年10月23日.
12. 細井温: 末梢動脈疾患ガイドラインにおける外科手術. 第63回日本脈管学会総会. 横浜. 2022年10月27日
13. 細井温: 静脈瘤血管内焼灼術に必要な下肢静脈瘤に対する解剖, 病態生理. 第21回下肢静脈瘤血管内治療研修会. 横浜. 2022年10月29日.
14. 古暮洸太, 稲葉雄亮, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博: 全大動脈置換術後結合組織病患者的の腕頭動脈瘤・上腕動脈瘤に対する胸部-末梢動脈バイパス術を施行した一例. 第190回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年11月5日.
15. 稲葉雄亮: 外科的大動脈弁置換術の現状と地域連携を考える. 三鷹市医師会循環器研究会 最新弁膜症治療セミナー. 東京. 2022年11月8日.
16. 阿部正宗, 峯岸祥人, 高橋雄, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博: フローゾンエレファントトランク法を用いた全弓部置換術後にBrown-Sequard症候群を呈した1例. 第191回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 横浜. 2023年2月25日.
17. 市川洋平, 古暮洸太, 藤巻圭介, 池添亨, 伊佐治寿彦, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 末梢型深部静脈血栓症患者の周術期リスク因子に関する検討. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会. 旭川. 2023年3月23日.

論文

1. Ichikawa Y, Hosoi Y, Ikezoe T, Isaji T, Nunokawa M, Kubota H: Endovascular coil embolization for an anomalous splenic artery aneurysm with a splenomesenteric trunk. *Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques*. 8(4). 576-579. 2022.
2. Minegishi S, Inaba Y, Endo H, Kubota H. A Case Report of Endografting Using a Long Sheath under the Assistance of a Through-And-Thorough Wire Technique for an Extremely Tortuous Aortic

Anatomy. *Journal of Biotechnology and Biomedicine* 5 (2022): 148-150. September 01, 2022

3. Kubota H¹, Ohtsuka T², Ninomiya M³, Nonaka T³, Hisagi M³, Endo H¹, Minegishi S¹, Tsuchiya H¹ and Inaba Y H¹(¹Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University, ²Department of Cardiac Surgery, New Heart Watanabe Institute, ³Department of Cardiovascular Surgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center) : Thoracoscopic infrared ablation to create a box lesion as a treatment for atrial fibrillation. *Journal of Cardiothoracic Surgery*. 17(1). 1. 2022.
4. Inaba Y, Minegishi S, Endo H, Kubota H: Removal of a frozen elephant trunk using a polyvinyl tube. *General Thoracic and Cardiovascular Surgery*. 70(5). 506-508. 2022.
5. Kubota H, Minegishi S, Inaba Y, Kogure K, Endo H: Sutureless aortic valve replacement in patients with active infective endocarditis: is it contraindicated or recommended?. *J Thorac Dis*. 14(12). 4586-4589. 2022.
6. Isaji T, Hosoi Y, Kogure K, Ichikawa Y, Fujimaki K, Ikezoe T, Nunokawa M and Kubota H. Drug-Coated Balloon versus Plain Balloon Angioplasty in the Treatment of Infrainguinal Vein Bypass Stenosis: A Systematic Review and Meta-Analysis. *J Clin Med*. 12(1). 87. 2022.
7. Sakata K¹, Goda A¹, Furuya M¹, Ito J¹, Endo H², Kubota H², Nagahama K³, Shibahara J³, Soejima K¹(¹Department of Cardiology, ²Department of Cardiovascular Surgery, ³Department of Pathology): Right Atrial Appendage Thrombus in a Patient Undergoing Thoracoscopic Left Atrial Appendectomy for Atrial Fibrillation. *JACC Case Rep*. 5. 101635. 2022.

著書

1. 窪田博 (分担執筆): 大動脈瘤: 最新知見と治療の進歩. 心臓 SHINZO. 第54巻第6号. 2022年. P627.
2. 窪田博 (分担執筆): Heart's Up To Date「循環器医が知っておくべき最新のエビデンス」. 心臓 SHINZO. 第54巻第10号. 2022年. P1126-1127.
3. 稲葉雄亮 (分担執筆): 外科的大動脈弁置換術の現状と地域医療連携を考える. 三鷹医人往来. 第45. 1号 323. 2023年. P38-39.

賞など

1. 市川洋平: distal bypass competition 2022 gold medal(優勝). 2022年11月12日.
2. Kubota H: Reviewer of the Month; *Journal of Thoracic Disease*. 2022, July.

報告書

1. 窪田博: 埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金事業化等状況報告書

その他

1. Isaji T: Panelist. B2 Coil Live. Aortic Live Demonstration. Japan Endovascular Treatment Conference 2022 (JET2022). June 10. 2022.
2. 伊佐治寿彦: Panelists. D9 JET Aortic #4 Intraoperative nightmare. Japan Endovascular Treatment Conference 2022 (JET2022). June 11. 2022.

整形外科教室

講演

A講演

1. 細金直文：新規医療技術の導入と医療安全ー脊椎手術を中心にー。第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会。横浜市。2022年4月22日。
2. 高橋雅人：運動系モニタリング各論 感覚系モニタリング各論。一般社団法人日本脊椎脊髄病学会第20回脊椎脊髄病教育研修コース（第IVコース：モニタリング脊椎脊髄病研修コース）。横浜市。2022年4月23日。
3. 細金直文：骨粗鬆症に伴う椎体骨折の治療。第16回両毛地区症例検討会 特別講演会。館林市・オンライン。2022年6月4日。
4. 細金直文：腰椎変性疾患の診断と治療。Pain Live Symposium。オンライン。2022年6月16日。
5. 細金直文：特発性側弯症の手術治療 手術方針の決定（時期、固定範囲）。第18回日本側弯症学会研修セミナーアドバンスコース。三鷹市。2022年7月2日。
6. 森井健司：PJIの治療ー継承と革新ー。第45回日本骨・関節感染症学会。金沢市。2022年7月9日。
7. 竹内拓海：Double endplates penetrating screw(DEPS)法のKnaks and pitfalls。Nuvasive Digital Conference。三鷹市・オンライン。2022年7月14日。
8. 細金直文：高齢者成人脊柱変形の治療戦略。第1回国際整形セミナー。オンライン。2022年7月16日。
9. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。第9回北里整形労働災害研究会。オンライン。2022年7月21日。
10. 田島崇：脛骨骨腫瘍。第16回信濃町骨軟部腫瘍研究会。東京。2022年7月23日。
11. 森井健司：がん骨転移とがん患者の運動器障害ー整形外科医にできることー。東京と臨床整形外科医会第5回首都セミナー。東京。2022年7月24日。
12. 竹内拓海：Posterior subaxial cervical spine fixation with fluoroscopy。第12回大江戸スパインセミナー。三鷹市・オンライン。2022年8月27日。
13. 坂倉健吾：腱板損傷の治療方針。第一三共webセミナー。オンライン。2022年9月9日。
14. 稲田成作：PTHの基礎研究を通じて考える骨粗鬆症治療。Teribone10th Anniversary in Tama。立川市。2022年9月10日。
15. 佐野秀仁：当教室におけるコンドリアーゼの治療経過。杏スパインWebセミナー。三鷹市・オンライン。2022年9月13日。
16. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。第12回OSSGセミナー。大阪市・オンライン。2022年9月24日。
17. 竹内拓海：骨粗鬆性椎体骨折に対するDouble endplates penetrating screw (DEPS)法の応用ー有限要素法を用いた固定力の検証ー。第15回関東MIST研究会ミニレクチャー。東京。2022年10月1日。
18. 細金直文：成人脊柱変形の診断・症状・治療。第70回多摩整形外科医会。オンライン。2022年10月8日。
19. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。第11回ちば運動器疼痛フォーラム。千葉市。2022年10月26日。
20. 細金直文：脊椎における感染性疾患について。第68回北海道脊椎脊髄疾患研究会。札幌市。2022年10月29日。

21. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。第24回山梨大学整形外科セミナー。甲府市。2022年11月12日。
22. 細金直文：成人脊柱変形の診断、症状、治療 骨粗鬆症を伴った高齢者脊柱変形。小田原整形外科医会学術講演会。小田原市。2022年11月16日。
23. 小西一斉：腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療ー神経障害性疼痛の診断と治療ー。第一三共株式会社社内教育研修講演会。三鷹市。2022年11月17日。
24. 高橋雅人：経頭蓋刺激運動誘発電位の起源。第52回日本臨床神経生理学会学術大会。京都市。2022年11月24日。
25. 細金直文：加齢に伴う脊柱の変形が及ぼす影響ー成人脊柱変形ー。第12回運動器抗加齢医学研究会。東京。2022年11月27日。
26. 稲田成作：当院における大腿骨近位部骨折診療の現状。整形外科地域連携講演会。三鷹市。2022年12月7日。
27. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。令和4年度広島大学整形外科教室同門会教育研修会。広島市。2022年12月10日。
28. 細金直文：脊椎変性疾患の治療ー薬物療法から手術療法までー。鹿島整形外科医会Webセミナー。神栖市。2022年12月15日。
29. 細金直文：側弯症基礎 4. 側弯症の原因、遺伝。オンライン。2022年12月17日。
30. 高橋雅人：ハイリスク脊椎・脊髄手術に対する脊髄モニタリングと術後疼痛管理。整形外科Webセミナー。オンライン。2022年12月22日。
31. 細金直文：加齢に伴う腰椎疾患の薬物・手術治療。KYO会。甲府市。2023年1月26日。
32. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略。第36回港区整形外科病診連携の会。オンライン。2023年2月2日。
33. 細金直文：脊椎手術における出血マネジメントと成人脊柱変形の治療戦略。浜松整形外科セミナー。浜松市。2023年2月9日。
34. 稲田成作：当院における大腿骨近位部骨折診療および二次骨折予防の現状。二次性骨折予防連携WEBセミナーin多摩。オンライン。2023年2月22日。
35. 小西一斉：脊椎外科手術におけるSSI。旭化成ファーマ株式会社社内教育講演会。三鷹市。2023年3月22日。

B国際学会

1. Hosogane N, Yagi M, Ames C, Lafage V, Schwab F, Shaffrey C, Smith J. S, Bess S, International Spine Study Group. Difference in Impact of Spinal Fusion on Activity of Daily Living between US and Japanese Adult Spinal Deformity Patients. 57th Annual Meeting of SRS. Konungariket Sverige. Sep 14-17th, 2022.

C国内学会

1. 重松英樹, 町野正明, 小林和克, 吉田剛, 船場真裕, 森戸真治, 高橋雅人, 藤原靖, 谷口慎一郎, 岩崎博, 田所伸朗, 和田簡一郎, 山本直也, 後迫宏紀, 松山幸弘, 今釜史郎: どの脊椎脊髄手術に対し脊髄モニタリングが必要とされるか? - JSSR モニタリングWG 主導アンケート調査 -。第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会。横浜市。2022年4月21日。
2. 伊藤研悠, 金村徳相, 種市洋, 齋藤貴徳, 山田宏, 石井賢, 佐久間毅, 松山幸弘, 海渡貴司, 水谷潤, 渡辺航太, 細金直文, 渡辺雅彦: Anterior column realignment (ACR) 手術の安全性と有効性に関する日本脊椎脊髄病学会新技術評価検証委員会レジスト

- リーを用いた解析研究. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
3. 金村徳相, 有馬秀幸, 上田明希, 山田浩司, 今釜史郎, 吉井俊貴, 海渡貴司, 大鳥精司, 細金直文, 筑田博隆, 渡辺雅彦, 松山幸弘, 種市洋: 日本脊椎脊髄病学会症例レジストリー (JSSR-DB) の現状と今後の展望. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 4. 吉田剛, 今釜史郎, 川端茂徳, 安藤宗治, 山田圭, 和田簡一郎, 山本直也, 高橋雅人, 岩崎博, 重松英樹, 船場真裕, 田所伸朗, 藤原靖, 小林和克, 寒竹司, 松山幸弘: 胸椎後縦靱帯骨化症手術における脊髄モニタリングを用いた術中神経障害の予防 - 体位変換前後の脊髄電位変化に注目して -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 5. 小林和克, 佐藤公治, 安藤智洋, 吉田剛, 川端茂徳, 寒竹司, 田所伸朗, 山田圭, 高橋雅人, 安藤宗治, 谷口慎一郎, 山本直也, 和田簡一郎, 今釜史郎, 重松英樹, 松山幸弘: 脊髄腫瘍の高位別にわけた術中モニタリング波形特性 - 日本脊椎脊髄病学会 多施設前向き研究 -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 6. 高橋雅人, 小林和克, 吉田剛, 重松英樹, 船場真裕, 町野正明, 山本直也, 安藤宗治, 森戸伸治, 岩崎博, 川端茂徳, 藤原靖, 田所伸朗, 和田簡一郎, 松山幸弘, 今釜史郎: 脊髄モニタリング false negativeの検討多機関共同研究 - 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ5,272例の解析 -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 7. 船場真裕, 寒竹司, 小林和克, 町野正明, 吉田剛, 川端茂徳, 山田圭, 藤原靖, 岩崎博, 高橋雅人, 重松英樹, 和田簡一郎, 山本直也, 安藤宗治, 松山幸弘, 今釜史郎: 術前麻痺症例では MEP によるモニタリングの有用性がより向上する - 頸椎疾患2476例からの日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会多施設前向き研究 -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 8. 重松英樹, 安藤宗治, 小林和克, 吉田剛, 船場真裕, 森戸伸治, 高橋雅人, 川端茂徳, 山田圭, 寒竹司, 藤原靖, 谷口慎一郎, 岩崎博, 田所伸朗, 松山幸弘, 今釜史郎: ハイリスク脊椎手術における経頭蓋刺激運動誘発電位に組み合わせるD-waveモニタリングの有効性 - 日本脊椎脊髄病学会モニタリングWG多施設共同研究 -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 9. 片岡嗣和, 河野仁, 渡邊泰伸, 中道清広, 橘安津子, 諸井威彦, 伊賀隆史, 竹内拓海, 細金直文: 三次元MRIを用いた頸椎病変の診断 - 脊柱管内, 椎間孔病変の特徴 -. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 10. 川野洋介, 小西一斉, 竹内拓海, 佐野秀仁, 高橋雅人, 渡邊泰伸, 河野仁, 長谷川雅一, 谷戸祥之, 市村正一, 細金直文: 腰椎除圧術追加による後方椎体間固定術 (PLIF) 後の上位隣接椎間障害への影響. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月21日.
 11. 八木満, 細金直文, クリストファーエイムス, バージニーラファージ, 鈴木悟士, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形に対する矯正固定術のインプラント関連合併症のリスク階層化モデルの国際検証: 腰椎除圧術追加による後方椎体間固定術 (PLIF) 後の上位隣接椎間障害への影響. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 12. 小西一斉, 佐野秀仁, 竹内拓海, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 脊椎手術における手術部位感染に関する因子の検討. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 13. 橘安津子, 伊賀隆史, 諸井威彦, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 河野仁, 宮本梓, 竹内拓海, 細金直文: 開窓術後同一椎間にPLIFによる再手術を要した症例の検討. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 14. 橘安津子, 伊賀隆史, 諸井威彦, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 河野仁, 宮本梓, 竹内拓海, 細金直文: 胸椎椎間板ヘルニアに対するPTIFおよびPLF. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 15. 諸井威彦, 伊賀隆史, 橘安津子, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 河野仁, 細金直文: 腰部脊柱管狭窄症に伴う腰痛に対する除圧術の効果. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 16. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 河野仁, 長谷川雅一: 骨粗鬆性椎体骨折に対する低侵襲側方アプローチを用いた前後方合併椎体置換術の放射線学的術後成績の検証. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 17. 佐野秀仁, 市村正一, 小西一斉, 竹内拓海, 高橋雅人, 長谷川雅一, 細金直文: 中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの有用性. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 18. 佐野秀仁, 竹内拓海, 小西一斉, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一, 細金直文: 当院における骨粗鬆症性椎体骨折に対する前後方固定術の手術成績. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月22日.
 19. 諸井威彦, 佐野秀仁, 小西一斉, 五十嵐一峰, 大木紫, 市村正一, 細金直文: タブレットPCを用いた新たな上肢巧緻運動機能評価法の開発 - 頸髄症の術前後評価 -. 頸髄症の術前後評価. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2022年4月23日.
 20. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一, 河野仁, 細金直文: 骨粗鬆性椎体骨折に対する低侵襲側方アプローチを用いた前後方合併椎体置換術の放射線学的術後成績の検証. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月19日.
 21. 吉田剛, 小林和克, 安藤宗治, 川端茂徳, 山田圭, 重松英樹, 和田簡一郎, 岩崎博, 高橋雅人, 今釜史郎, 松山幸弘: 胸椎後縦靱帯骨化症手術における脊髄モニタリングを用いた術中神経障害の予防 - 体位変換前後の脊髄電位変化に注目して -. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月19日.
 22. 重松英樹, 安藤宗治, 小林和克, 吉田剛, 船場真裕, 森戸伸治, 高橋雅人, 川端茂徳, 藤原靖, 松山幸弘, 今釜史郎: ハイリスク脊椎手術における経頭蓋刺激運動誘発電位に組み合わせるD-waveモニタリングの有効性: モニタリングWG多施設共同研究. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月19日.
 23. 種市洋, 伊藤研悠, 金村徳相, 石井賢, 海渡貴司, 齋藤貴徳, 佐久間毅, 松山幸弘, 水谷潤, 山田宏, 渡邊航太, 細金直文, 渡辺雅彦: Anterior column realignment (ACR) の臨床効果と安全性について. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月20日.
 24. 森井健司, 穴澤卯圭, 佐藤ちあ紀, 遠藤誠, 中村知樹, 生田国大, 中山ロバート, 河野博隆, 上田孝文, 森岡秀夫: 四肢体幹壁発生脱分化脂肪肉腫の治療成績. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月21日.
 25. 森智章, 小林英介, 中紀文, 遠藤誠, 中村知樹, 森井健司, 吉田行弘, 上田孝文, 川井章, 中村雅也, 松本守雄: 大腿悪性腫瘍に対する大腿骨全置換術の治療

- 成績と予後因子解析 - 日本骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG)多施設共同研究 - .第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月21日.
26. 浅野尚文, 齊藤誠人, 関田哲也, 小林英介, 森井健司, 鈴木禎寿, 川井章, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 骨巨細胞腫に対するデノスマブ単剤療法の長期成績. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月21日.
 27. 生田国大, 西田佳弘, 横尾賢, 萩智仁, 鬼頭宗久, 王谷英達, 森井健司, 江森誠人, 永野昭仁, 土岐俊一, 河野博隆: 本邦における悪性末梢神経鞘腫瘍の治療成績 - JMOG多施設共同研究による中間報告 - . 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月21日.
 28. 高橋雅人, 小林和克, 吉田剛, 重松英樹, 船場真裕, 森戸伸治, 町野正明, 山本直也, 安藤宗治, 松山幸弘, 今釜史郎: 脊髄モニタリングFalse negativeの検討 - 多機関共同研究 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ5,272例の解析 - . 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月21日.
 29. 小西一斉, 佐野秀仁, 竹内拓海, 高橋雅人, 市村正一, 細金直文: 脊椎手術における手術部位感染に関する因子の検討. 第95回日本整形外科学会. 神戸市. 2022年5月22日.
 30. 鈴木啓司, 稲永紗季, 高柳正俊, 小谷明弘, 佐藤行紀, 道廣岳, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 細金直文: 外反変形膝に対するDFOの治療成績と膝蓋骨アライメントの検討. JOSKAS-JOSSM2022(第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会). 札幌市. 2022年6月17日.
 31. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: ロッキングを呈した半月板単独損傷に対する半月板縫合術の治療成績. JOSKAS-JOSSM2022(第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会). 札幌市. 2022年6月17日.
 32. 竹内拓海: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する昨今のMIST手術: 有限要素法を用いたDouble endplates penetrating screw(DEPS)法の検証. 第12回最小侵襲脊椎治療学会 (MIST学会). 富山市. 2022年6月24日.
 33. 稲田成作, 大畑徹也, 阿部幹, 西野雅人, 道廣岳, 根田知明, 濱田尚一郎, 加藤聡一郎, 細金直文, 山口芳裕: 大量輸血を要した不安定型骨盤輪骨折を有する患者の臨床的特徴. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 横浜市. 2022年6月24日.
 34. 道廣岳, 稲田成作, 西野雅人, 佐藤俊輔, 鈴木啓司, 大畑徹也, 丸野秀人, 長谷川雅一, 細金直文: 大腿骨頭CT値はラグスクリューの固定性を予測する重要な因子である. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 横浜市. 2022年6月24日.
 35. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨近位部骨折術期における血清亜鉛値の変動. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 横浜市. 2022年6月24日.
 36. 阿部幹, 稲田成作, 渡邊知宏, 西野雅人, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 当院における手術を要した小児骨折の手術時期の評価. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 横浜市. 2022年6月25日.
 37. 大畑徹也, 丸野秀人, 稲田成作, 小谷明弘, 市村正一, 細金直文: 非転移型大腿骨頸部骨折に対するSC ScrewとTresLock固定による治療成績の比較検討. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 横浜市. 2022年6月25日.
 38. 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 竹内拓海, 市村正一, 細金直文: 脊椎手術における手術部位感染に関する因子の検討. 第45回日本骨・関節感染症学会. 金沢市. 2022年7月8日.
 39. 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 細金直文, 川井章: (シンポジウム) Mega-prosthesisを用いた再建術における人工関節周囲感染 - 全国骨・軟部腫瘍登録を用いた解析 - . 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京・オンライン. 2022年7月14日.
 40. 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 細金直文: パズパニブで治療した胞巣状軟部肉腫の3例. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京・オンライン. 2022年7月14-15日.
 41. 穴澤卯圭, 渡部逸央, 水野早希子, 堀田拓, 青山龍馬, 高橋勇一朗, 中村一喜, 松本将吾, 森井健司, 中山ロバート: がんロコモにおける緩解後骨転移病巣障害の検討. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京・オンライン. 2022年7月14-15日.
 42. 川野洋介, 小西一斉, 竹内拓海, 佐野秀仁, 高橋雅人, 渡邊泰伸, 河野仁, 長谷川雅一, 谷戸祥之, 市村正一, 細金直文: 腰椎除圧術追加による後方椎体間固定術 (PLIF) 後の上位隣接椎間障害への影響. 第10回JASA. 横浜市. 2022年8月7日.
 43. 諸井威彦, 橘安津子, 渡邊泰伸, 伊賀隆史, 杉本一樹, 中道清広, 片岡嗣和, 河野仁, 竹内拓海, 細金直文: 第5腰椎分離すべり症に対するL5/S1 transdiscal screwを用いたPLF. 第29回JPSTSS学会, 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会. 別府市. 2022年9月2-3日.
 44. 稲田成作, 阿部幹, 山岸賢一郎, 工藤文孝, 星亨, 市村正一, 細金直文: 大動脈弓石灰化と重症度の高い骨粗鬆症との関連. 第24回日本骨粗鬆症学会. 大阪市・オンライン. 2022年9月2-4日.
 45. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 篠知広, 小谷明弘, 細金直文: 半月板横断裂に対するfibrin clotを用いた縫合術の治療成績. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月16日.
 46. 阿部幹, 稲田成作, 西野雅人, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 肥満小児の上腕骨顆上骨折手術における鋼線刺入部感染についての検討. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月16日.
 47. 竹内拓海, 高見澤悠平, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 中道清広, 河野仁, 細金直文: 成人脊柱変形手術におけるComputer-Assisted Rod Bending Systemを用いた術中冠状面alignmentの評価. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月17日.
 48. 佐野秀仁, 小西一斉, 相原大和, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 青柳貴之, 山岸賢一郎, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: コンドリアーゼ注入療法の治療成績. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月17日.
 49. 佐藤行紀, 新井謙太郎, 渡邊隼人, 篠知広, 小谷明弘, 細金直文: 大腿骨骨幹部骨折変形治療後外傷性膝関節症に対するdouble level osteotomyの2症例. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月17日.
 50. 大野公宏, 工藤文孝, 丸野秀人, 藤井亜美, 細金直文: 大菱形骨CM関節内陥没骨折に対してロッキングプレートを用いた1例. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンライン. 2022年9月17日.
 51. 大畑徹也, 稲田成作, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一, 細金直文: 適切なダメージコントロールを行った重症骨盤輪骨折を伴う多発外傷に対する死亡原因の検討. 第71回東日本整形災害外科学会. 東京・オンラ

- イン. 2022年9月17日.
52. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 森井健司, 市村正一, 細金直文: 家兔仮骨延長法で再生された延長仮骨に対するparathyroid hormone(1-34)の効果~投与時期による検討~. 第41回日本運動器移植・再生医学研究会. 横浜市. 2022年10月1日.
 53. 藤井肇, 佐々木茂, 坂倉健吾, 細金直文: 凍結肩に対するサイレントマニピュレーションの治療成績. 第49回日本肩関節学会. 横浜市. 2022年10月7日.
 54. 坂倉健吾, 藤井肇, 佐々木茂: Triple row法を用いた腱板修復術の術後成績と修復状態の評価. 第49回日本肩関節学会. 横浜市. 2022年10月8日.
 55. 道廣岳, 稲田成作, 西野雅人, 佐藤俊輔, 鈴木啓司, 大畑徹也, 丸野秀人, 長谷川雅一, 細金直文: 大腿骨頭CT値は大腿骨転子部骨折手術におけるラグスクリーアの固定値を予測する重要な因子である. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 宮崎市, 2022年10月13日.
 56. 高橋雅人, 滝徳宗, 小川潤, 里見和彦, 市村正一, 細金直文: 経頭蓋刺激筋誘発電位に関する基礎的研究 - 電位の起源と賦活化される経路 -. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会. 宮崎市. 2022年10月14日.
 57. 稲永紗季, 小菅みず穂, 長谷川雅一, 市村正一, 森井健司, 細金直文: ロコモ25のサブカテゴリーの意義 - 身体機能との関係の解析 -. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会. 宮崎市. 2022年10月14日.
 58. 大畑徹也, 稲田成作, 小谷明弘, 市村正一, 山口芳裕, 細金直文: 適切なダメージコントロールを行った重症骨盤輪骨折を伴う多発外傷に対する6時間後乳酸値が改善しない原因の検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19-21日.
 59. 諸井威彦, 伊賀隆史, 杉本一樹, 橘安津子, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 河野仁, 細金直文: 腰部脊柱管狭窄症に伴う腰痛に対する除圧術による腰痛改善効果. 第30回日本腰痛学会. 盛岡市. 2022年10月21日.
 60. 佐野秀仁, 小西一斉, 相原大和, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 青柳貴之, 山岸賢一郎, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: コンドリアーゼ注入療法の治療成績. 第30回日本腰痛学会. 盛岡市. 2022年10月21日.
 61. 高見澤悠平, 竹内拓海, 佐野秀仁, 小西一斉, 高橋雅人, 細金直文: 椎体再建を要した腰椎巨大ダンベル腫瘍の1例. 第30回日本腰痛学会. 盛岡市. 2022年10月21-22日.
 62. 安部一平, 小寺正純: 関節リウマチが未治療であったため白蓋底突出症を来し, 人工股関節全置換術を施行した1例. 第49回日本股関節学会学術集会, 山形市, 2022年10月29日.
 63. 竹内拓海, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 河野仁, 細金直文: 成人脊柱変形手術におけるComputer-Assisted Rod Bending Systemを用いた術中冠状面alignmentの評価. 第56回日本側彎症学会学術集会. 千葉市. 2022年11月4日.
 64. 伊藤研悠, 長谷川和宏, 大谷和之, 初鹿野駿, 金村徳相, 大和雄, 水谷潤, 稲見聡, 清水敬親, 武政龍一, 中尾祐介, 福田健太郎, 細金直文, 松林嘉孝, 宮腰尚久, 渡辺慶, 岩崎幹季: 大腿骨近位部の角度を用いた膝屈曲角度予測法の検討. 第56回日本側彎症学会学術集会. 千葉市. 2022年11月5日.
 65. 根田知明, 稲田成作, 阿部幹, 細金直文: 大腿骨頭骨骨折を契機に原発性副甲状腺機能亢進症による続発性骨粗鬆症と診断した1例. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
 66. 多田研吾, 竹内拓海, 高見澤悠平, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: 横突起切除に術中CTナビゲーションが有用であったBertolotti症候群の1例. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
 67. 平田俊瑛, 安部一平, 坂倉健吾, 細金直文: Larsen症候群に伴う変形性股関節症患者に対しDual mobility cupを用いた人工股関節全置換術を施行した一例. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
 68. 諸井威彦, 橘安津子, 渡邊泰伸, 伊賀隆史, 杉本一樹, 中道清広, 片岡嗣和, 河野仁, 竹内拓海, 細金直文: 第5腰椎分離すべり症に対するL5/S1 transdiscal screwを用いたPLF. 第31回日本インストゥルメンテーション学会. 大阪. 2022年11月25日.
 69. 竹内拓海, 高見澤悠平, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: 有限要素法を用いたDouble endplates penetrating screw(DEPS)法の固定力の検証. 第31回日本インストゥルメンテーション学会. 大阪. 2022年11月25日.
 70. 小西一斉, 佐野秀仁, 高見澤悠平, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: 脊椎インストゥルメンテーション手術における手術部位感染に関与する因子の検討. 第31回日本インストゥルメンテーション学会. 大阪. 2022年11月26日.
 71. 川野洋介, 渡邊泰伸, 小西一斉, 竹内拓海, 佐野秀仁, 高橋雅人, 河野仁, 長谷川雅一, 谷戸祥之, 細金直文: 腰椎除圧術追加による後方椎体間固定術(PLIF)後の上位隣接椎体障害への影響. 第31回日本インストゥルメンテーション学会. 大阪. 2022年11月26日.
 72. 高橋雅人: 腰仙椎手術における脊髄モニタリングの有効性 - 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング委員会6,196例の解析 -. 第44回日本脊髄機能診断学会. 奈良市. 2023年2月4日.
 73. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 細金直文: Gemcitabine + Docetaxel併用療法により長期にわたり良好なQOLが維持できた再発粘液線維肉腫の1例. 第6回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. 神戸市. 2023年2月24日.
 74. 森井健司, 佐藤健二, 小倉浩一, 細金直文, 川井章: 悪性骨軟部腫瘍切除術後生物学的再建例の術後感染 - 全国骨軟部腫瘍登録を用いた実態調査 -. 第6回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. 神戸市. 2023年2月25日.
 75. 多田研吾, 竹内拓海, 高見澤悠平, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: 横突起切除に術中CTナビゲーションが有用であったBertolotti症候群の1例. 関東整形災害外科学会月例会第708回整形外科集談会東京地方会. 東京. 2023年2月25日.
 76. 細金直文: 骨粗鬆症性椎体骨折を伴う脊柱変形に対する手術戦略. 第13回日本成人脊柱変形学会. 豊中市. 2023年3月18日.
 77. 小西一斉, 高橋雅人, 高見澤悠平, 竹内拓海, 佐野秀仁, 細金直文: 高齢者脊柱変形に対する運動療法がアライメントに与える影響. 第63回関東整形災害外科学会. 宇都宮市. 2023年3月24日.
 78. 渡邊知宏, 稲田成作, 小林裕明, 辻将明, 額賀唯至, 阿部幹, 細金直文: 大腿骨転子部骨折に対する超音波ガイド下大腿神経ブロックを用いた周術期疼痛管理の経験. 第63回関東整形災害外科学会. 宇都宮市. 2023年3月24日.
 79. 藤井肇, 坂倉健吾, 佐々木茂, 細金直文: 凍結肩に対する非観血的関節授動術の治療成績. 第63回関東整形災害外科学会. 宇都宮市. 2023年3月24日.

80. 安部一平, 小寺正純, 細金直文: 人工股関節全置換術後の深部動脈血栓形成にD-dimer以外の手術・血液データは指標になり得るか. 第63回関東整形災害外科学会. 宇都宮市. 2023年3月25日.

論文

A英語原著論文

- Morii T, Asano N, Nakayama R, Kikuta K, Susa M, Horiuchi K, Watanabe I, Anazawa U, Suzuki Y, Nishimoto K, Takeuchi K, Morioka H: Complications of surgery for giant cell tumor of bone in the extremities: Incidence, risk factors, management modality, and impact on functional and oncological outcomes. *J Orthop Sci.* 27(3). 681-688. 2022.
- Yagi M, Hosogane N, Ames CP, Smith JS, Shaffrey CI, Schwab FJ, Lafage V, Bess S, Suzuki S, Satoshi N, Takahashi Y, Tsuji O, Nagoshi N, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K; International Spine Study Group (ISSG): Improvement and International Validation of the Predictive Probability of the Patient Demographics, Radiographic Index, and Surgical Invasiveness for Mechanical Failure (PRISM) Model for Preventive Procedures in Adult Spinal Deformity Surgery. *Spine (Phila Pa 1976).* 47(9). 680-690. 2022.
- Asano N, Saito M, Kobayashi E, Morii T, Kikuta K, Watanabe I, Anazawa U, Takeuchi K, Suzuki Y, Susa M, Nishimoto K, Ishii R, Miyazaki N, Morioka H, Kawai A, Horiuchi K, Nakayama R: Preoperative Denosumab Therapy Against Giant Cell Tumor of Bone is Associated with an Increased Risk of Local Recurrence After Curettage Surgery. *Ann Surg Oncol.* 29(6). 3992-4000. 2022.
- Kozawa E, Nishida Y, Kawai A, Hayakawa K, Setsu N, Kawashima H, Iwata S, Tsuchiya H, Tsukushi S, Takenaka S, Imanishi J, Baba I, Nagano A, Morii T, Shirai T, Shimizu K, Kawano H: Clinical features and treatment outcomes of dedifferentiated and grade 3 chondrosarcoma: A multi-institutional study. *Cancer Sci.* 113(7). 2397-2408. 2022.
- Tanaka K, Machida R, Kawai A, Nakayama R, Tsukushi S, Asanuma K, Matsumoto Y, Hiraga H, Hiraoka K, Watanuki M, Yonemoto T, Abe S, Katagiri H, Nishida Y, Nagano A, Suehara Y, Kawashima H, Kawano M, Morii T, Hatano H, Toguchida J, Okuma T, Takeyama M, Takenaka S, Akisue T, Furuta T, Emori M, Hiruma T, Outani H, Yamamoto T, Kataoka T, Fukuda H, Ozaki T, Iwamoto Y: Perioperative Adriamycin plus ifosfamide vs. gemcitabine plus docetaxel for high-risk soft tissue sarcomas: randomised, phase II/III study JCOG1306. *Br J Cancer.* 127(8). 1487-1496. 2022.
- Shigematsu H, Yoshida G, Morito S, Funaba M, Tadokoro N, Machino M, Kobayashi K, Ando M, Kawabata S, Yamada K, Kanchiku T, Fujiwara Y, Taniguchi S, Iwasaki H, Takahashi M, Wada K, Yamamoto N, Yasuda A, Ushirozako H, Hashimoto J, Ando K, Matsuyama Y, Imagama S: Current Trends in Intraoperative Spinal Cord Monitoring: A Survey

Analysis among Japanese Expert Spine Surgeons. *Spine Surg Relat Res.* 7(1). 26-35. 2022.

- Yoshida G, Ushirozako H, Machino M, Shigematsu H, Kawabata S, Yamada K, Kanchiku T, Fujiwara Y, Iwasaki H, Ando M, Taniguchi S, Takatani T, Tadokoro N, Takahashi M, Wada K, Yamamoto N, Funaba M, Yasuda A, Hashimoto J, Morito S, Kurosu K, Kobayashi K, Ando K, Takeshita K, Matsuyama Y, Imagama S: Transcranial Motor-evoked Potentials for Intraoperative Nerve Root Monitoring During Adult Spinal Deformity Surgery: A Prospective Multicenter Study. *Spine (Phila Pa 1976).* 47(22). 1590-1598. 2022.
- Funaba M, Kanchiku T, Kobayashi K, Yoshida G, Machino M, Yamada K, Shigematsu H, Tadokoro N, Ushirozako H, Takahashi M, Yamamoto N, Morito S, Kawabata S, Fujiwara Y, Ando M, Taniguchi S, Iwasaki H, Wada K, Yasuda A, Hashimoto J, Takatani T, Ando K, Matsuyama Y, Imagama S: The Utility of Transcranial Stimulated Motor-Evoked Potential Alerts in Cervical Spine Surgery Varies Based on Preoperative Motor Status. *Spine (Phila Pa 1976).* 47(23). 1659-1668. 2022.
- Wada K, Imagama S, Matsuyama Y, Yoshida G, Ando K, Kobayashi K, Machino M, Kawabata S, Iwasaki H, Funaba M, Kanchiku T, Yamada K, Fujiwara Y, Shigematsu H, Taniguchi S, Ando M, Takahashi M, Ushirozako H, Tadokoro N, Morito S, Yamamoto N, Yasuda A, Hashimoto J, Takatani T, Tani T, Kumagai G, Asari T, Nitobe Y, Ishibashi Y: Comparison of intraoperative neuromonitoring accuracies and procedures associated with alarms in anterior versus posterior fusion for cervical spinal disorders: A prospective multi-institutional cohort study. *Medicine (Baltimore).* 2022 doi: 10.1097/MD.00000000000031846.
- Hikata T, Takahashi Y, Ishihara S, Shinozaki Y, Nimoniya K, Konomi T, Fujii T, Funao H, Yagi M, Hosogane N, Ishii K, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: Risk factors for early reoperation in patients after posterior lumbar interbody fusion surgery. A propensity-matched cohort analysis. *J Orthop Sci.* 2022. doi: 10.1016/j.jos.2022.12.002.
- Inoue G, Miyagi M, Saito W, Shirasawa E, Uchida K, Hosogane N, Watanabe K, Katsumi K, Kaito T, Yamashita T, Fujiwara H, Nagamoto Y, Nojiri K, Suzuki S, Okada E, Ueda S, Hikata T, Shiono Y, Watanabe K, Terai H, Tamai K, Matsuoka Y, Suzuki H, Nishimura H, Tagami A, Yamada S, Adachi S, Ohtori S, Furuya T, Orita S, Inage K, Yoshii T, Ushio S, Funao H, Isogai N, Harimaya K, Okada S, Kawaguchi K, Yokoyama N, Oishi H, Doi T, Kiyasu K, Imagama S, Ando K, Kobayashi K, Sakai D, Tanaka M, Kimura A, Inoue H, Nakano A, Ikegami S, Shimizu M, Futatsugi T, Kakutani K, Yurube T, Nakanishi K, Oshima M, Uei H, Aoki Y, Takahata M, Iwata A, Endo H, Seki S, Murakami H, Kato S, Yoshioka K, Hongo M, Abe T, Tsukanishi T, Takaso M, Ishii K: Effect of low body mass index on clinical recovery after fusion surgery for osteoporotic vertebral fracture: A retrospective, multicenter study of 237 cases. *Medicine (Baltimore).* 2022. doi: 10.1097/MD.00000000000032330.

12. Yonezawa Y, Guo L, Kakinuma H, Otomo N, Yoshino S, Takeda K, Nakajima M, Shiraki T, Ogura Y, Takahashi Y, Koike Y, Minami S, Uno K, Kawakami N, Ito M, Yonezawa I, Watanabe K, Kaito T, Yanagida H, Taneichi H, Harimaya K, Taniguchi Y, Shigematsu H, Iida T, Demura S, Sugawara R, Fujita N, Yagi M, Okada E, Hosogane N, Kono K, Chiba K, Kotani T, Sakuma T, Akazawa T, Suzuki T, Nishida K, Kakutani K, Tsuji T, Sudo H, Iwata A, Sato T, Inami S, Nakamura M, Matsumoto M, Terao C, Watanabe K, Okamoto H, Ikegawa S: Identification of a Functional Susceptibility Variant for Adolescent Idiopathic Scoliosis that Upregulates Early Growth Response 1 (EGR1)-Mediated UNCX Expression. *J Bone Miner Res.* 38(1). 144-153. 2023.
13. Morii T, Anazawa U, Sato C, Iwata S, Nakagawa M, Endo M, Nakamura T, Ikuta K, Nishida Y, Nakayama R, Uda T, Kawamoto T, Kito M, Sato K, Imanishi J, Akiyama T, Kobayashi H, Nagano A, Outani H, Toki S, Nishisho T, Sasa K, Suehara Y, Kawano H, Ueda T, Morioka H: Dedifferentiated liposarcoma in the extremity and trunk wall: A multi-institutional study of 132 cases by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). *Eur J Surg Oncol.* 49(2). 353-361. 2023.

B日本語論文

1. 伊藤研悠, 金村徳相, 齋藤貴徳, 山田宏, 石井賢, 佐久間毅, 松山幸弘, 海渡貴司, 水谷潤, 渡辺航太, 細金直文, 渡辺雅彦, 種市洋: 【レジストリー(ビッグデータ)から見える整形外科の現在】日本脊椎脊髄病学会(JSSR)新技術レジストリー XLIF-ACR登録. *Orthopaedics.* 35 (6) . 67-76. 2022.
2. 根田知明, 落合剛二, 樽井武彦, 稲田成作, 土岐真朗, 久松理一, 山田賢治, 山口芳裕: 不安定型骨盤骨折を併発したIIIb型肝損傷に急性期非手術療法を行い良好な経過をたどった1例. *日救急医学会誌* 43 (3) . 76-80. 2022.
3. 高橋雅人, 小林和克, 吉田剛, 重松英樹, 船場真裕, 森戸伸治, 町野正明, 山本直也, 安藤宗治, 川端徳茂, 山田圭, 岩崎博, 谷口慎一郎, 寒竹司, 藤原靖, 和田簡一郎, 安藤圭, 田所伸朗, 後迫宏紀, 安田明正, 橋本淳, 高谷恒徳, 谷俊一, 松山幸弘, 今釜史郎: 脊髄モニタリングFalse negativeの検討. *日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ5,272例の解析. 脊髄機能診断学.* 43. 72-78. 2022.
4. 橋安津子, 河野仁, 伊賀隆史, 諸井威彦, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 細金直文: 胸椎椎間板ヘルニアに対する後方経路胸椎椎体間固定術(PTIF)およびPLF. *J Spine Res* 13 (7) . 915-921. 2022.
5. 安部一平, 小寺正純: 人工股関節全置換術後の深部静脈血栓形成にD-dimer以外の手術・血液検査は指標になり得るか. *Hip Joint.* 48. 424-428. 2022.
6. 上川修, 佐藤行紀, 高柳正俊, 新井謙太郎, 細金直文: 骨折による骨破壊像から発症早期に診断された神経障害性膝関節症の1例. *関東整災外会誌.* 53(5). 151-156. 2022.
7. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨近位部骨折周術期における血清亜鉛値の変動. *骨折.* 45 (2) . 714-717. 2023.
8. 小西一斉, 佐野秀仁, 山岸賢一郎, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 辻将明, 川野洋介, 諸井威彦, 谷戸祥之, 市村正一,

森井健司, 細金直文: 化膿性脊椎炎手術症例の予後因子の検討. *日骨関節感染会誌.* 36. 20-25. 2023.

C総説

1. 森井健司, 山本謙吾, 稲葉裕, 松下和彦, 正岡利紀, 立岩俊之, 山田浩司, 岡敬之, 篠崎智大, 市村正一: 【骨・関節感染症の治療戦略】疫学・病態 人工関節周囲感染(PJI)に関する疫学調査 人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国調査(J-DOS). *別冊整形外.* 81. 7-11. 2022.
2. 森井健司, 細金直文, 市村正一: 【骨・関節感染症の治療戦略】予防 局所抗菌薬投与のエビデンス 抗菌薬含有セメントの人工関節周囲感染予防における役割 意義と限界. *別冊整形外.* 81. 32-37. 2022.
3. Asano N, Saito M, Kobayashi E, Morii T, Kikuta K, Watanabe I, Anazawa U, Takeuchi K, Suzuki Y, Susa M, Nishimoto K, Ishii R, Miyazaki N, Mrioka H, Kawai A, Horiuchi K, Nakayama R. ASO Visual Abstract: Preoperative Denosumab Therapy against Giant Cell Tumor of Bone Is Associated with an Increased Risk of Local Recurrence after Curettage Surgery. *Ann Surg Oncol.* 29(6). 3992-4000. 2022.
4. 高橋雅人: 【最新原著レビュー】日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループが策定した術中脊髄モニタリングアラームポイントの妥当性. *整形外科.* 73 (9) . 1007-1011. 2022.
5. 細金直文: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 化膿性脊椎炎. *日本医事新報.* 5127号. 47-48. 2022.

著書

1. 細金直文: 第2章 胸腰椎 3. 成人脊柱変形に対する手術: LIF+openでの後方矯正固定術. *整形外科医のための脊椎のアドバンス手術.* 日本医事新報社. 2022. 114-125.
2. 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍委員会 悪性軟部腫瘍取扱い規約作成委員会(青木隆敏, 秋末敏宏, 秋山達, 植野映子, 内野慶太, 小田義直, 川井章, 河野博隆, 櫻井英幸, 高橋雅信, 西田佳弘, 長谷川匡, 久岡正典, 朴木寛弥, 松峯昭彦, 松本嘉寛, 宮地充, 元井亨, 森井健司, 森岡秀夫, 山本憲男, 横山幸浩, 吉田朗彦, 吉本世一): 悪性軟部腫瘍取扱い規約第4版. 金原出版株式会社. 2023.
3. 森井健司(分担執筆): 従来型 アルキル化薬(そのほか)トラベクテジン. 【これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬 はや調べノート2023・2024年版】YORI-SOUがんナッシング別冊. 古瀬純司 編著. メディカ出版. 2023. 232-233.

皮膚科学教室

講演

1. 大山学, 福山雅大, 木下美咲: Chronic cutaneous lupus erythematosusの脱毛に対しヒドロキシクロロキンで治療し長期経過観察し得た症例における治療薬減量・中止の影響についての検討. 第78回日本皮膚科学会高知地方会. 高知・オンライン. 2022年4月2日.
2. 倉田麻衣子: 紹介の多い疾患を中心に紹介のタイム

- ングや病院での治療の現状。多摩地区病診連携WEBセミナー。オンライン。2022年4月20日。
3. Mizukawa Y, Shiohara T: DIHS/DRESS in virus infections. DHM Digital 2022. Swiss·Online. 2022年4月21日。
 4. 大医学：知っておきたい脱毛症診療のポイント。第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会。鹿児島・オンライン。2022年4月24日。
 5. 小笠原渚, 倉田麻衣子, 福山雅大, 佐藤洋平, 大医学：紅皮症と著明な下肢浮腫を呈し治療に難渋した毛孔性紅色秕糠疹の1例。日本皮膚科学会第901回東京地方会。オンライン。2022年5月21日。
 6. 木下美咲：トリコスコピーを使いこなすために 基本からアップデートの知識まで。第2回三重ダーモスコピーと臨床を考えるタペ。オンライン。2022年5月26日。
 7. 下田由莉江：当科における発汗障害の診療の実際。第2回West Tokyo Sweat and Disease Web Seminar。オンライン。2022年5月27日。
 8. 水川良子：アトピー性皮膚炎診療における皮膚バリア研究の最新知見と将来展望。Meet the Expert in Tokyo。東京・オンライン。2022年5月31日。
 9. 大医学, King B, Kwon O, Zlotogorski A, Ko J, Mesinkovska NA, Hordinsky M, Dutronc Y, 板倉仁枝, Sinclair R: 成人円形脱毛症患者に対するパリンチニブの有効性と安全性: BRAVE-AA2試験結果。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月2日。
 10. 小林英資, 下田由莉江, 青木孝司, 成田陽子, 鹿島真人, 水川良子, 大医学：抗PD-1抗体が誘因と考えられたlichen planus pemphigoidesの2例。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月2日。
 11. 青木孝司, 下田由莉江, 佐藤洋平, 木下美咲, 倉田麻衣子, 大医学, 水川良子：当科におけるアトピー性皮膚炎24例に対するデュピルマブの有効性の検討。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月2日。
 12. 水川良子, 塩原哲夫：薬剤性過敏症候群—早期合併症, 後期合併症の予測と治療—。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月4日。
 13. 福山雅大：脱毛症の病態理解と診断のアプローチ。第121回日本皮膚科学会総会。京都。2022年6月4日。
 14. 大医学：皮膚付属器：毛, 脂腺, 汗腺。2022年度日本皮膚科学会研修講習会必須(総会)。オンライン。2022年6月5日。
 15. 倉田麻衣子：特に得意としている分野のご紹介 バイオ製剤外来などへの紹介方も含めて。TAMA DERM LEAGUE CONFERENCE。オンライン。2022年6月10日。
 16. 佐藤洋平, 大医学：モガリズマブ投与により経過良好な菌状息肉症の1例。第38回日本皮膚悪性腫瘍学会。弘前・オンライン。2022年6月24日。
 17. 水川良子：薬疹の診かた, 考え方。東京皮膚科フォーラム。オンライン。2022年6月25日。
 18. 林航, 下田由莉江, 山崎好美, 下山田宏明, 大医学：背部に生じたlinear syringocystadenoma papilliferumの1例。第48回皮膚かたち研究学会学術大会。オンライン。2022年7月9日。
 19. 高木雅哉, 木下美咲, 福山雅大, 尾郷正志, 西川紗織, 三好真未, 杉本崇紀, 大医学：毛髪カット不要の新規毛髪測定方法の開発。第48回皮膚かたち研究学会学術大会。オンライン。2022年7月9日。
 20. 下田由莉江：当教室におけるアトピー性皮膚炎の治療の選択。第2回領域を超えたアレルギー疾患へのアプローチ。オンライン。2022年7月13日。
 21. 大医学：脱毛症に関する話題～円形脱毛症も含めて～。第6回神戸皮膚炎症疾患研究会。神戸・オンライン。2022年7月14日。
 22. 大医学：病態を考えた脱毛症診療の進め方。これからの皮膚疾患治療を考えるin 南大阪～大暑の陣～。大阪・オンライン。2022年7月15日。
 23. 下田由莉江, 水川良子, 倉田麻衣子, 山崎好美, 大医学：季節性に皮疹の消長を繰り返し皮疹部の発汗低下を認めた融合性細網状乳頭腫症の1例。日本皮膚科学会第902回東京地方会。オンライン。2022年7月16日。
 24. 大医学：円形脱毛症治療は、新しい時代へ。Lilly円形脱毛症全国Web講演会。オンライン。2022年7月28日。
 25. 水川良子：発汗, バリア機能からみたアトピー性皮膚炎と治療。第3回阪神甲子園カンファレンス。オンライン。2022年7月28日。
 26. 下田由莉江, 大医学, 山崎好美, 水川良子：特発性後天性全身性無汗症の治癒過程に融合性細網状乳頭腫症を生じた1例。第9回汗と皮膚疾患の研究会。大阪・オンライン。2022年8月13日。
 27. 福山雅大：脱毛症診療のポイント—専門外来における患者さんとの会話の中から—。第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会。新潟・オンライン。2022年8月27日。
 28. 小笠原渚, 福山雅大, 山崎好美, 佐藤洋平, 大医学：局所的に脱毛が遷延した尋常性天疱瘡の1例。第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会。新潟・オンライン。2022年8月27日。
 29. 小林英資, 倉田麻衣子, 小笠原渚, 佐藤洋平, 水川良子, 大医学：全頭脱毛を呈した乾癬性紅皮症の1例：病態への文献的考察を加えて。第37回日本乾癬学会学術大会。鹿児島・オンライン。2022年9月9日。
 30. Sinclair R, Lesiak A, Mehli S, Kinoshita-Ise M, Arenberger P, Tsianakas A, Tziotziou C, Zhang F, Law EH, Lejeune A, Wolk R, Woodworth D: Long-term safety and efficacy of ritlecitinib in adults and adolescents with alopecia areata: interim results from the ALLEGRO-LT phase 3, open-label study. The 31st European Academy of Dermatology and Venereology. Italia·online. Sep 7-10th, 2022.
 31. Blume-Peytavi U, Walter J, Harcha G, Yang Q, Schmieder GJ, Hordinsky MK, Micali G, Ohyama M, Takiya L, Zhang F, Schaefer G, Wolk R, Kerkmann U: Evaluation of response to ritlecitinib (PF-06651600) treatment based on SALT improvement scores in patients with alopecia areata: post hoc analysis of the ALLEGRO phase 2b/3 study. The 31st European Academy of Dermatology and Venereology Congress. Italia·online. Sep 9th, 2022.
 32. Piraccini BM, Ohyama M, Craiglow B, Bewley A, Ding Y, Chen YF, Dutronc Y, Pierce E, Durand F, Mostaghimi A: Scalp hair regrowth is associated with improvements in health-related quality of life and psychological symptoms in patients with severe alopecia areata: results from two randomized controlled trials. The 31st European Academy of Dermatology and Venereology Congress. Italia·online. Sep 10th, 2022.
 33. 大医学：あたらしい脱毛症診療の考え方—円形脱毛症を中心に—。銀杏ACCESS 2022。大阪。2022年9

- 月17日.
34. 下田由莉江, 大山路, 山崎好美, 水川良子: 特発性後天性全身性無汗症教室例の検討ー免疫組織学的検討を加えて. 第30回日本発汗学会総会. オンライン. 2022年9月17日.
 35. 大山路. 円形脱毛症の治療戦略を考える. Lilly Dermatology Web Conference. 甲府・オンライン. 2022年9月22日.
 36. 青木孝司: 重症アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブの治療効果の予測: 当科で経験した24例の検討. 第23回皮膚合同カンファレンス. オンライン. 2022年9月24日.
 37. 福山雅大: アトピー性皮膚炎合併円形脱毛症におけるデュピルマブ投与中の臨床経過の検討. 第23回皮膚合同カンファレンス. オンライン. 2022年9月24日.
 38. 倉田麻衣子: B型肝炎ワクチン接種後に全身性膿疱性乾癬を発症した1例. 第3回 Next generation Dermatology meeting. オンライン. 2022年9月28日.
 39. 大山路: 円形脱毛症の治療戦略を考える. 鳥取県臨床皮膚科医会学術講演会. 鳥取・オンライン. 2022年10月6日.
 40. 中村亮介, 大関健志, 平山令明, 関根章博, 水川良子, 塩原哲夫, 渡辺秀晃, 末木博彦, 小川浩平, 浅田秀夫, 塚越絵里, 松永佳世子, 新原寛之, 山口由衣, 相原道子, 薙田泰誠, 斎藤嘉朗, 森田栄伸: 薬物アレルギーの統計 日本人におけるサルファ剤による重症薬疹の発症とHLA-A*11:01の関連. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年10月7日.
 41. 水川良子: 薬疹ー薬物アレルギーガイドラインから最新の知見を含めてー. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年10月8日.
 42. 青木孝司: 免疫抑制剤長期投与中の多発性骨髄腫患者に多発した会陰部ボーエン病の1例. 多摩皮膚科専門医会10月例会. オンライン. 2022年10月8日.
 43. 石井愛巳, 青木孝司, 佐藤洋平, 大山路: 後頭部に生じた有茎性神経鞘腫の1例. 日本皮膚科学会第903回東京地方会. オンライン. 2022年10月15日.
 44. 大山路: あたらしい脱毛症診療の考え方. 第5回ジャスミン会. 東京・オンライン. 2022年10月15日.
 45. 水川良子: 発汗異常からみる皮膚疾患. 日本皮膚科学会新潟地方会第407回例会. 新潟・オンライン. 2022年10月16日.
 46. 水川良子: DIHSの診断を考える. 日本皮膚科学会新潟地方会第407回例会. 新潟・オンライン. 2022年10月16日.
 47. 大山路: 円形脱毛症の治療戦略を考える. 第8回皮膚科病診連携講演会. 仙台. 2022年10月22日.
 48. 野邊美月, 下田由莉江, 佐藤洋平, 中島裕美, 麻生純平, 藤原正親, 下山田博明, 大山路: 治療開始当初 angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia と考えた原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫の1例. 第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 久留米. 2022年10月23日.
 49. 木下美咲: 進化するAA診療 パリシチニブの可能性と注意点. Lilly International Webinar. オンライン. 2022年10月26日.
 50. 木下美咲: 円形脱毛症UPDATE: 診断・治療の実際を学ぶ. 第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 富山. 2022年10月29日.
 51. 倉田麻衣子: 乾癬患者におけるプレコンセプションケアについて. 免疫疾患連携WEBセミナーー免疫疾患を持つ女性の今と将来を考えるー. オンライン. 2022年10月31日.
 52. 佐藤洋平: 皮膚癌を中心に紹介のタイミングや病院での治療の現状などー化膿性汗腺炎含むー. 第2回多摩地区病診連携WEBセミナー. オンライン. 2022年11月2日.
 53. 水川良子: 皮膚科医からみるアトピー性皮膚炎治療. 皮膚科医と小児科医のためのアトピー性皮膚炎WEBセミナー. 三鷹・オンライン. 2022年11月4日.
 54. 大山路: 新時代の円形脱毛症治療; ロジックとテクニク. 第13回日本心身医学会. 旭川・オンライン. 2022年11月6日.
 55. Mizukawa Y, Shiohara T: Risk factors for developing severe DIHS/DRESS -Associated complications and sequela-. DRESS MEETING. Online. Nov 5-6th, 2022.
 56. 大山路: 脱毛症の新知見. 第27回日本臨床毛髪学会学術集会. 東京. 2022年11月12日.
 57. 福山雅大, 木下美咲, 水川良子, 大山路: 重症アトピー性皮膚炎合併円形脱毛症患者におけるデュピルマブの円形脱毛症に対する有効性の検討. 第27回日本臨床毛髪学会学術集会. 東京. 2022年11月12日.
 58. 倉田麻衣子: 乾癬患者のニーズを考慮した治療選択について. Updating psoriasis treatment Expert Meeting. 甲府・オンライン. 2022年11月15日.
 59. Piraccini BM, Ohyama M, Craiglow B, Bewley A, Ding Y, Chen YF, Dutronc Y, Pierce E, Durand F, Mostaghimi A: Scalp hair regrowth is associated with improvements in health-related quality of life and psychological symptoms in patients with severe alopecia areata: results from two randomized controlled trials (Encore). The 12th World Congress for Hair Research 2022. Australia. Nov 18-21st, 2022.
 60. King B, Shapiro J, Ohyama M, Egeberg A, Dutronc Y, Chen YF, Wu WS, Ding Y, Somani N, Sinclair R: Trajectories for scalp hair regrowth in patients with severe AA treated with baricitinib. The 12th World Congress for Hair Research 2022. Australia. Nov 18-21st, 2022.
 61. King B, Ohyama M, Senna M, Shapiro J, Dutronc Y, Wu WS, Yu G, Ding Y, Chiasserini C, Piraccini BM: Outcomes of down-titration in patients with severe scalp alopecia areata treated with baricitinib 4-mg: Week 104 data from BRAVE-AA2. The 12th World Congress for Hair Research 2022. Australia. Nov 18-21st, 2022.
 62. 木下美咲: 炎症性毛髪疾患の基礎から応用まで: アップデートの知識を学ぶ. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2022年11月19日.
 63. 木下美咲: 円形脱毛症: トリコスコピーを活用した診断と治療プランニング. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2022年11月19日.
 64. 早川怜那, 倉田麻衣子, 笹沢芽衣, 青木孝司, 佐藤洋平, 大山路, 水川良子: Elephantiasis nostras verrucosa様の特異な臨床像を呈した成人重症アトピー性皮膚炎の1例. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン. 2022年11月20日.
 65. 林航, 福山雅大, 成田陽子, 佐藤洋平, 大山路: 悪性黒色腫の精査目的に施行したPET-CTで高集積を示した陰囊verruciform xanthomaの1例. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン. 2022年11月20日.
 66. 下田由莉江: 発汗障害をきたす疾患の診断と治療:

- 最近の知見をふくめて. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京・オンライン. 2022年11月20日.
67. 倉田麻衣子: コロナ禍における生物学的製剤を用いた乾癬の治療. 乾癬治療update web seminar〜スクリージ3周年記念〜. オンライン. 2022年11月25日.
68. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Changes in peripheral blood mononuclear cell subsets putatively predict response to i.v. steroid pulse therapy to severe alopecia areata. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki・Online. Dec 2nd, 2022.
69. Shimoda Y, Mizukawa Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Significance of thermal stimulation for assessment of inflammation and immune dysregulation I acquired idiopathic generalized anhidrosis. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki・Online. Dec 2nd, 2022.
70. Sakaki-Yumoto M, Kamei K, Nakamura K, Jenny Austin, Marwaha S, Anderson P, Ohyama M: Current physicians' recognition and treatment pattern of alopecia areata in Japan: a cross-sectional database study using Adelphi Japan DSP. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki・Online. Dec 2nd, 2022.
71. Ishimaru H, Doi T, Mizukawa Y, Shiohara T: Protective effects of a moisturizer on eccrine sweating impairment in the murine footpad by restoring skin blood flow by NO production. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki・Online. Dec 2nd, 2022.
72. Kinoshita-Ise M: Diagnostic and therapeutic strategies for alopecia areata. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki・Online. Dec 3rd, 2022.
73. 倉田麻衣子: 帯状疱疹の治療と予防. シリーズ健康セミナー. 三鷹. 2022年12月6日.
74. 小笠原渚, 佐藤洋平, 小西里沙, 市村裕輝, 水川良子, 沖山奈緒子, 大山学: 抗SAE抗体陽性皮膚筋炎の1例. 第52回日本皮膚アレルギー学会学術大会. 名古屋・オンライン. 2022年12月16日.
75. 早川怜那, 下田由莉江, 大山学, 水川良子: 複数の被疑薬があり原因薬の絞り込みに苦慮した多発性固定薬疹の1例. 第52回日本皮膚アレルギー学会学術大会. 名古屋・オンライン. 2022年12月16日.
76. 岩崎達朗, 下田由莉江, 八木橋健人, 井田陽子, 下山田博明, 福田知雄, 大山学: Cladosporium halotoleransによる黒色分芽菌症の1例. 日本皮膚科学会第904回東京地方会. オンライン. 2022年12月17日.
77. 林航, 福山雅大, 佐藤洋平, 下山田博明, 大山学: 全身に多発した annular elastolytic giant cell granulomaの1例. 日本皮膚科学会第904回東京地方会. オンライン. 2022年12月17日.
78. 水川良子: 改めて考える薬剤性過敏症候群の診断. 第52回日本皮膚アレルギー学会学術大会. 名古屋・オンライン. 2022年12月17日.
79. 角田孝彦, 水川良子: 接触皮膚炎の antigenic competition現象の免疫組織学的検討. 第52回日本皮膚アレルギー学会学術大会. 名古屋・オンライン. 2022年12月18日.
80. 大山学: 円形脱毛症の治療戦略を考える. Lilly Alopecia Areata Web Conference. 金沢・オンライン. 2022年12月22日.
81. 倉田麻衣子: 患者ニーズに合わせた乾癬治療について. 皮膚疾患Webセミナー〜乾癬について〜. オンライン. 2022年12月22日.
82. 大山学: 瘢痕性脱毛症及びその他の脱毛症について. 2022年度日本皮膚科学会研修講習会 必須(冬). オンライン. 2023年1月8日.
83. Blume-Peytavi U, Walter J, Harcha G, Yang Q, Schmieder GJ, Hordinsky MK, Micali G, Ohyama M, Takiya L, Zhang F, Schaefer G, Wolk R, Kerkmann U: Evaluation of response to ritlicitinib treatment based on SALT improvement scores in patients with alopecia areata: post hoc analysis of the ALLEGRO phase 2b/3 study. 2023 Winter Clinical Dermatology Conference-Hawaii. USA. Jan 13-18th, 2023.
84. 倉田麻衣子: 難治部位や患者背景を考慮した乾癬の治療戦略. 第16回多摩東地区スキンケアセミナー. オンライン. 2023年1月22日.
85. 水川良子: アトピー性皮膚炎の現状について. 武蔵野医師会学術講演会. 武蔵野市・オンライン. 2023年1月25日.
86. 倉田麻衣子: 患者ニーズを意識した乾癬の治療〜紹介症例から最適な治療を考える〜. 乾癬治療戦略オンラインセミナー. オンライン. 2023年1月25日.
87. 大山学: 円形脱毛症の新しい治療戦略を考える. JAK AD/AA Dual Conference. 長崎・オンライン. 2023年1月28日.
88. 水川良子: アトピー性皮膚炎の治療 これまでとこれから. RIAL Review itching in the treatment of atopic dermatitis All areas of Tama. 東京・オンライン. 2023年2月4日.
89. 下田由莉江: 汗腺の免疫学的特権の破綻がみられる疾患の病態についての考察. 第11回ケラチノサイト・免疫と皮膚を勉強する会. 東京・オンライン. 2023年2月11日.
90. 下田由莉江: ADCTの臨床応用について. アトピー性皮膚炎〜全身療法を考える会 in TAMA〜. 東京・オンライン. 2023年2月16日.
91. 八木橋健人, 下田由莉江, 小林英資, 佐藤洋平, 下山田博明, 大山学: 胸部に生じた異所性乳房外Paget病の1例. 第905回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2023年2月18日.
92. 野邊美月, 福山雅大, 水川良子, 大山学: 右心房粘液腫治療後に軽快した白血球破砕性血管炎の1例. 第905回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2023年2月18日.
93. 水川良子: 常識は変わる一薬疹, アトピー, 汗の常識今昔. 江東区医師会. 東京. 2022年2月22日.
94. 大山学: 円形脱毛症の新しい治療戦略のロジック. 日本皮膚科学会第404回福岡地方会. 博多. 2023年3月5日.
95. 大山学: 円形脱毛症の新しい治療戦略のロジック. Lilly Alopecia Areata Web Conference. 金沢・オンライン. 2023年3月11日.
96. 倉田麻衣子: 当科における乾癬の治療状況について〜IL-17阻害薬の役割〜. Updating Psoriasis Seminar. オンライン. 2023年3月16日.
97. 大山学: JAK阻害薬による重症円形脱毛症の治療. 第22回日本再生医療学会総会. 京都・オンライン. 2023

年3月23日.

98. King B, Ko J, Senna M, Tosti A, Ohyama M, Dutronc Y, Chen YF, Yu G, Smith SG, Wu W: Concurrent improvement in scalp hair and eyebrow or eyelash regrowth in patients with severe alopecia areata treated with baricitinib. The 81st Annual Meeting American Academy of Dermatology. USA. Mar 17-21st, 2023.
99. King B, Ohyama M, Senna M, Shapiro J, Dutoronc Y, Wu WS, Yu G, Ding Y, Chiasserini C, Piraccini BM: Outcomes of Down-Titration in Patients with Severe Scalp Alopecia Areata Treated with Baricitinib 4 Mg: Week 104 Data from BRAVE-AA2. The 81st Annual Meeting American Academy of Dermatology. USA. Mar 17-21st, 2023.
100. Senna M, Mostaghimi A, Ohyama M, Sinclair R, Dutronc Y, Wu WS, Chiasserini C, Somani N, King B: Long-term efficacy of baricitinib in alopecia areata: 104-week results from BRAVE-AA1 and BRAVE-AA2. The 81st Annual Meeting American Academy of Dermatology. USA. Mar 17-21st, 2023.

論文

1. King BA¹, Senna MM², Ohyama M, Tosti A³, Sinclair RD⁴, Ball S⁵, Ko JM⁶, Glashofer M⁷, Pimez R⁸, Shapiro J⁹(¹Yale School of Medicine, ²Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, ³University of Miami, ⁴Sinclair Dermatology, ⁵Eli Lilly and Company, ⁶Stanford University, ⁷Schweiger Dermatology Group, ⁸Centro de Estudos dos Cabelos, ⁹New York University): Defining Severity in Alopecia Areata: Current Perspectives and a Multidimensional Framework. *Dermatol Ther.* 12(4). 825-834. 2022.
2. Takei S¹, Hama N¹, Mizukawa Y, Takahashi H², Miyagawa F³, Asada H³, Abe R¹ (¹Niigata University, ²Keio University, ³Nara Medical University): Purpura as an indicator of severity in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: evidence from a 49-case series. *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 36(4). e310-e313. 2022.
3. 木下美咲: 毛髪疾患に対するトリコスコーピーの活用. *皮膚科.* 1 (4) . 511-516. 2022.
4. 青木孝司, 福山雅大, 佐藤洋平, 下田由莉江, 大山学: *Streptococcus dysgalactiae* subspecies *equisimilis*による多発軟部組織感染症の1例. *臨皮.* 76 (4) . 345-349. 2022.
5. Sueki H¹, Watanabe Y², Sugiyama S³, Mizukawa Y (¹Showa University, ²Yokohama City University, ³Kawasaki General Medical Center): Drug allergy and non-HIV immune reconstitution inflammatory syndrome. *Allergol Int.* 71(2). 185-192. 2022.
6. Ozaki R¹, Saito D¹, Mizukawa Y, Hisamatsu T¹ (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University School of Medicine): Ulcerative colitis complicated with linear immunoglobulin A bullous dermatosis. *BMJ Case Rep.* 15(5). e248814. 2022.
7. King B¹, Ohyama M, Kwon O², Zlotogorski A³, Ko J⁴, Mesinkovska NA⁵, Hordinsky M⁶, Dutronc Y⁷, Wu WS⁸, McCollam J⁷, Chiasserini C⁹, Yu G⁷, Stanley S⁵, Holzwarth K⁷, DeLozier AM⁷, Sinclair R¹⁰; BRAVE-AA Investigators (¹Yale School of Medicine, ²Dongguk University, ³Hebrew University of Jerusalem, ⁴Stanford University, ⁵University of California, ⁶University of Minnesota Medical School, ⁷Eli Lilly and Company, ⁸Yang-Min National University, ⁹University of Florence, ¹⁰Sinclair Dermatology): Two Phase 3 Trials of Baricitinib for Alopecia Areata. *N Engl J Med.* 386(18). 1687-1699. 2022.
8. 木下美咲: 新たな疾患概念: fibrosing alopecia in a pattern distribution (FAPD) とは?. *医事新報.* 5156. 57-58. 2023.
9. Yoshida Y¹, Takahashi M¹, Yamanishi H¹, Nakazawa Y¹, Kishimoto J¹, Ohyama M (¹Shiseido FS Innovation Center): Changes in the Expression of Smooth Muscle Cell-Related Genes in Human Dermal Sheath Cup Cells Associated with the Treatment Outcome of Autologous Cell-Based Therapy for Male and Female Pattern Hair Loss. *Int J Mol Sci.* 23(13). 7125. 2022.
10. 水川良子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症症候群 合併症と予測スコア DDSスコアとAIPスコア. *皮膚科.* 1(6) . 828-833. 2022.
11. 水川良子: 小児の薬疹 大人の薬疹, 子どもの薬疹(総説). *日小児皮会誌.* 41 (2) . 109-115. 2022.
12. 大山学, 天羽康之¹, 伊藤泰介², 植木理恵³, 下村裕⁴, 原田和俊⁵, 池田氏志孝⁶ (¹北里大学, ²浜松医科大学, ³順天堂東京江東高齢者医療センター, ⁴山口大学, ⁵東京医科大学, ⁶順天堂大学): 安全使用マニュアルバリシチニブ 円形脱毛症(販売名: オルミエント錠 2mg, オルミエント錠4mg). *日皮会誌.* 132 (8) . 1813-1822. 2022.
13. 木下美咲: しなやかな脱毛症診療をめざして 患者さんの質問にこう答える! 画像診断法の活用とともに. *日臨皮医誌.* 39 (4) . 558-561. 2022.
14. Doi T¹, Ishimaru H¹, Mizukawa Y, Shiohara T (¹Maruho Co., Ltd): Protective effects of moisturizers on topical corticosteroid-induced and age-related eccrine sweating impairment in the murine footpad. *J Dermatol Sci.* 107(2). 105-108. 2022.
15. Sunaga Y¹, Hama N², Ochiai H¹, Kokaze A¹, Lee ES¹, Watanabe H¹, Kurosawa M³, Azukizawa H⁴, Asada H⁴, Watanabe Y⁵, Yamaguchi Y⁵, Aihara M⁵, Mizukawa Y, Ohyama M, Abe R², Hashizume H⁶, Nakajima S⁷, Nomura T⁷, Kabashima K⁷, Tohyama M⁸, Takahashi H⁹, Mieno H¹⁰, Ueta M¹⁰, Sotozono C¹⁰, Niihara H¹¹, Morita E¹¹, Sueki H¹ (¹Showa University, ²Niigata University, ³Juntendo University, ⁴Nara Medical University, ⁵Yokohama City University, ⁶Iwata City Hospital, ⁷Kyoto University, ⁸National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁹Keio University, ¹⁰Kyoto Prefectural University of Medicine, ¹¹Shimane University): Risk factors for sepsis and effects of pretreatment with systemic steroid therapy for underlying condition in SJS/TEN patients: Results of a nationwide cross-sectional survey in 489 Japanese patients. *J Dermatol Sci.* 107(2). 75-81. 2022.
16. 水川良子: 【好酸球の役割を知り, 診断・治療に活かす】(Part2.) 皮疹から考える 症例をみよう 紅斑・浮腫紅斑をみる (case1) 薬疹(多形紅斑). *Visual Dermatol.* 21 (9) . 875-876. 2022.
17. 根本千紬, 福山雅大, 大山学: 女兒に生じた硬化性萎縮性苔癬の1例. *臨皮.* 76 (9) . 684-688. 2022.

18. 波田野冨佳, 木下美咲, 軽部美穂¹, 大山学^(¹杏林大・医・腎臓・リウマチ膠原病内科学): 関節リウマチ治療中の患者に生じた interstitial granulomatous dermatitis の1例. 臨皮. 76 (9) . 689-694. 2022.
19. Ohyama M, Fujita T¹, Matsudo K¹ (¹Taisho Pharmaceutical Co.Ltd): Management of hair loss after severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 infection: Insight into the pathophysiology with implication for better management. J Dermatol. 49(10). 939-947. 2022.
20. Shimoda-Komatsu Y, Yamazaki Y, Kimishima M, Mizukawa Y, Ohayma M: Clinicopathological digital image analyses before and after thermal stimulation subdivide acquired idiopathic generalized anhidrosis into inflammatory and non-inflammatory type. J Dermatol Sci. 108(1). 12-21. 2022.
21. 伊藤泰介¹, 下村裕², 井坂圭孝³, 西川厚嗣³, 荒西利彦³, 板倉仁枝³, 大山学^(¹浜松医科大学, ²山口大学, ³日本イーライリリー株式会社): 円形脱毛症の疾病負担. 日皮会誌. 132 (11) . 2523-2530. 2022.
22. Hu L¹, Kimura S¹, Haga M¹, Kashiwagi S¹, Kashiwagi S¹, Takagi K¹, Shimizu T¹, Ishii T¹, Ohyama M (¹ROHTO Pharmaceutical Co., LTD.): Vitamins and their derivatives synergistically promote hair shaft elongation ex vivo via PlGF/VEGFR-1 signalling activation. J Dermatol Sci. 108(1). 2-11. 2022.
23. Fukuyama M, Kinoshita-Ise M, Mizukawa Y, Ohyama M: Two-sided influence of dupilumab on alopecia areata co-existing with severe atopic dermatitis: A case series and literature review. J Cutan Immunol Allerg. 6(1). 13-17. 2023.
24. 林航, 下田由莉江, 早川怜那, 佐藤洋平, 大山学: 外科的治療が奏効した多発性pseudocyst of the scalp の1例. 臨皮. 76 (12) . 987-992. 2022.
25. 小林英資, 下田由莉江, 牛込悠紀子, 山崎好美, 佐藤洋平, 下山田博明¹, 大山学^(¹杏林大・医・病理学): 臨床像が皮膚線維腫を想起させた proliferating trichilemmal cyst の1例. 臨皮. 76(13) . 1053-1057. 2022.
26. 早川怜那, 木下美咲, 波田野冨佳, 下山田博明¹, 大山学^(¹杏林大・医・病理学): Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysis に多発稗粒腫を伴った1例. 臨皮. 76 (13) . 1071-1075. 2022.
27. 下村裕¹, 伊藤泰介², 井坂圭孝³, 西川厚嗣³, 西川裕美子³, 荒西俊彦³, 板倉仁枝³, 大山学^(¹山口大学, ²浜松医科大学, ³日本イーライリリー株式会社): 経口JAK阻害薬による円形脱毛症治療: バリシチニブの治療成績を中心に. 西日皮膚. 84 (6) . 491-498. 2022.
28. 下田由莉江, 大山学, 山崎好美, 水川良子: 特発性後天性全身性無汗症教室例の検討 免疫組織学的検討を加えて. 発汗学. 29 (2) . 45-46. 2022.
29. Kishimoto M¹, Deshpande GA^{2,3}, Fukui S⁴, Komagata Y¹, Ohyama M, Kaname S¹ (¹Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ²St. Luke's International University, ³University of Hawaii, ⁴Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Upadacitinib for moderate-to-severe atopic dermatitis, in adults and adolescents 12 years and older: review of international and Japanese populations. Expert Rev Clin Immunol. 19(1). 19-35. 2023.
30. Aranishi T¹, Ito T², Fukuyama M, Isaka Y¹, Mackie DS³, King-Concialdi K³, Senglaub SS³, Jaff DH³, Shimomura Y⁴, Ohyama M (¹Eli Lilly Japan K.K., ²Hamamatsu University, ³Cerner Enviza, ⁴Yamaguchi University): Prevalence of alopecia areata in Japan: Estimates from a nationally representative sample. J Dermatol. 50(1). 26-36. 2023.
31. Campos-Alberto E¹, Hirose T¹, Napatalung L^{1,2}, Ohyama M (¹Pfizer, ²Icahn School of Medicine): Prevalence, comorbidities, and treatment patterns of Japanese patients with alopecia areata: A descriptive study using Japan medical data center claims database. J Dermatol. 50(1). 37-45. 2023.
32. Shimoda-Komatsu Y, Mizukawa Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Focal hypohidrosis in lesional skin in a probable case of confluent and reticulated papillomatosis: A case report with insight into the pathomechanism of recurrence. J Dermatol. 50(2). 266-270. 2023.
33. 早川怜那, 佐藤洋平, 下田由莉江, 宮本彩子¹, 川上貴久¹, 要伸也¹, 大山学^(¹杏林大・医・腎臓・リウマチ膠原病内科学): 感染性腎炎によるネフローゼ症候群を合併した蜂窩織炎の1例. 臨皮. 77 (2) . 155-160. 2023.
34. 大山学: 【JAK阻害薬を上手に使おう】(Part3)JAK阻害薬による治療の展望(総説8) 円形脱毛症に対するJAK阻害内服薬による治療. Visual Dermatol. 22 (3) . 267-271. 2023.
35. Hosoya K¹, Komachi T², Masaki K³, Suzaki I⁴, Saeki H⁵, Kanda N², Nozaki M⁶, Kamide Y⁷, Matsuwaki Y⁸, Kobayashi Y⁹, Ogino E¹⁰, Osada S¹¹, Usukura N⁵, Kurumakawa T¹², Ninomiya J¹³, Asako M⁹, Nakamoto K¹⁴, Yokoi H¹⁵, Ohyama M, Tanese K³, Kanzaki S³, Fukunaga K³, Ebisawa M⁷, Okubo K⁵ (¹Musashi Kosugi Hospital, ²Chiba Hokusoh Hospital, ³Keio University Hospital, ⁴Showa University, ⁵Nippon Medical School Hospital, ⁶Wakaba-Hifuka Clinic, ⁷National Hospital Organization Sagami Hospital, ⁸Matsuwaki Clinic Shinagawa, ⁹Kansai Medical University, ¹⁰Kyoto Nose and Allergy Clinic, ¹¹Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ¹²Minamiosawa Medical Plaza, ¹³Nagase Clinic of Dermatology, ¹⁴Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ¹⁵Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine): Barrier factors of adherence to dupilumab self-injection for severe allergic disease: A non-interventional open-label study. Patient preference and adherence. 27(17). 861-872. 2023.

著書

- 大山学(分担執筆): 脱毛・多毛をきたす疾患. 皮膚疾患診療実践ガイド 第3版. 宮地良樹監修, 常深祐一郎, 渡辺大輔 編. 文光堂. 2022. 39-42.
- 佐藤洋平(分担執筆): 鶏眼, 胼胝の局所治療. 皮膚疾患診療実践ガイド 第3版. 宮地良樹監修, 常深祐一郎, 渡辺大輔 編. 文光堂. 2022. 248.
- 倉田麻衣子, 水川良子(分担執筆): 移植片対宿主病

(GVHD) . 皮膚疾患診療実践ガイド第3版. 宮地良樹 監修, 常深祐一郎, 渡辺大輔 編. 文光堂. 2022. 361.

4. 大医学 (分担執筆) : 円形脱毛症. 皮膚科診療秘伝の書. 神人正寿, 常深祐一郎 編. 南江堂. 2022. 150-155.
5. 水川良子 (分担執筆) : 薬物アレルギー. 一般社団法人日本アレルギー学会作成. 足立雄一 監修. 協和企画. 2022. 324-364.
6. 大医学 (分担執筆) : 壮年性脱毛症 (男性型・女性型脱毛症). 皮膚疾患 最新の治療 2023-2024. 高橋健造, 佐伯秀久 編. 南江堂. 2023. 288.
7. 大医学 (分担執筆) : 脱毛で発見される甲状腺疾患. 実地医家のためのみつける・見逃さない甲状腺疾患の診断. 伊藤公一 監修, 渡邊奈津子 編. 日本医事新報社. 2023. 270-277.

その他

1. 大医学 : 第48回皮膚かたち研究会学術大会会頭. オンライン. 2022年7月9日.
2. 木下美咲 : 第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会 ② 教育講演3-1 脱毛症診療Update : 教科書にはない実際のはなし. ラジオNIKKEI マルホ皮膚科セミナー. 2022年8月1日放送.
3. 木下美咲 : 若手日本研究皮膚科学会賞. 長崎. 2022年12月1日.
4. Kinoshita-Ise M : The Journal of Dermatology Best Paper Prize. Distinctive age distribution and hair loss pattern putatively highlighting uniqueness of Japanese cases of fibrosing alopecia in a pattern distribution. The Journal of Dermatology. 49(1). 106-117. 2022.
5. 大医学 : 重症の円形脱毛症に新しい飲み薬. 読売新聞夕刊. 2023年3月4日.
6. 下田由莉江 : 特発性後天性全身性無汗症における発症精査の背景にあるメカニズムの解明. 第一回杏林医学会研究助成金 個人研究助成金.

形成外科学教室

講演

1. 大島直也, 木村武一郎, 成田圭吾, 多久嶋亮彦 : 手指関節可動域評価アプリケーションの開発・改良. 第65回日本手外科学会学術集会. 北九州. 2022年4月14日.
2. 尾崎峰 : 形成外科における難治性リンパ管疾患の集学的治療～ラパリムス錠への期待～. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪. 2022年4月20日.
3. 村上莉沙, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 赤木健一郎, 多久嶋亮彦 : 口唇部血管奇形に対する切除術の検討. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪. 2022年4月20日.
4. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦 : 巨大血管奇形切除術における切除と止血. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪. 2022年4月20日.
5. 今村三希子, 白石知大, 多久嶋亮彦 : SMI (Superb Microvascular Imaging) を併用した皮膚腫瘍診察～血流可視化技術の恩恵と限界, 今後の課題. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪. 2022年4月20日.
6. 成田圭吾, 北幸紘, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮

彦 : 顔面神経麻痺に伴う下口唇の変形に対する治療～口腔内アプローチによる健側の下制筋切除. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪・オンライン. 2022年4月21日.

7. 成田圭吾, 北幸紘, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮彦 : 顔面神経による表情筋の機能回復が見込めない麻痺に対する咬筋神経移行と一期的遊離広背筋移植の同時施行. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪・オンライン. 2022年4月21日.
8. 北幸紘, 成田圭吾, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮彦 : 広頸筋の病的共同運動に対する選択的神経切除. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪・オンライン. 2022年4月21日.
9. 北幸紘, 成田圭吾, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮彦 : 広頸筋の病的共同運動に対する選択的神経切除. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪・オンライン. 2022年4月21日.
10. 大島直也, 木村武一郎, 成田圭吾, 多久嶋亮彦 : 手指関節可動域評価アプリケーションの開発・改良. 第65回日本形成外科学会学術集会. 大阪. 2022年4月22日.
11. 木村武一郎, 成田圭吾, 小倉正彦, 小山田幸平, 岡田崇, 荒木健太, 伊藤寛祥, 多久嶋亮彦 : AIを用いたFacial Keypoint Detectionによる顔面神経麻痺の評価. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会. 大阪・オンライン. 2022年4月22日.
12. 大浦紀彦, 加賀谷優, 竹江雄貴, 木下幹雄 : 広範囲軟部組織欠損CLTIに対する血管柄付き遊離皮弁移植術. 第42回日本血管外科学会学術総会. 北九州. 2022年5月27日.
13. 成田圭吾, 浅野悠, 北幸紘, 多久嶋亮彦 : 放射線性下顎骨壊死に対する下歯槽神経を温存した区域切除と血管柄付き骨移植による根治術の成績. 第46回日本頭頸部癌学会. 奈良. 2022年6月17日.
14. 浅野悠, 成田圭吾, 北幸紘, 多久嶋亮彦 : DIEP皮弁を用いた上顎全摘後の一次再建 : 骨弁なしでどこまで整容性を保てるか?. 第46回日本頭頸部癌学会. 奈良. 2022年6月18日.
15. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 村上梨沙, 竹江雄貴, 河野由布子 : 包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) の治療戦略 CLTIの創傷の診断と治療. 第29回東京都臨床工学会および第13回一般社団法人東京都臨床工学会技士会総会. 東京. 2022年6月19日.
16. 大浦紀彦 : 免荷療法指針の概要と免荷療法の必要性. 第1回日本フットケア足病医学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年6月19日.
17. 大浦紀彦 : 下肢創傷処置料 下肢創傷処置管理料. 第1回日本フットケア足病医学会関東甲信越地方会. 東京. 2022年6月19日.
18. 大浦紀彦, 屋宜佑利香, 竹江雄貴, 菊池晴香, 杉洋平, 清水翼, 山中淳未, 多久嶋亮彦 : 創傷治療におけるブタ小腸粘膜下組織凍結乾燥カラーゲンシート OASIS®細胞外マトリックスの効果と使用法. 第14回日本創傷外科学会総会. 神戸. 2022年7月14日.
19. 白石知大 : 片側・両側インプラント再建 BIA-ALCL/BIIを想定した長期経過観察. 第30回日本乳癌学会総会. 横浜. 2022年6月30日.
20. 河野由布子, 尾崎峰 : 小児咽頭部静脈奇形に対する硬化療法と抜管時期についての検討. 第42回日本静脈学会総会. 東京. 2022年7月7日.
21. 尾崎峰 : 手指動静脈奇形の術後に指尖部壊死を認めた5例の検討. 第14回日本創傷外科学会総会・学術集会. 神戸. 2022年7月14日.

22. 成田圭吾, 北幸紘, 白石知大, 多久嶋亮彦: 遊離広背筋移植による笑顔の再現. 第45回日本顔面神経学会. 東京. 2022年7月29日.
23. 成田圭吾, 北幸紘, 白石知大, 多久嶋亮彦: 側頭骨外における顔面神経再建. 第45回日本顔面神経学会. 東京. 2022年7月29日.
24. 北幸紘, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦: 広頸筋の病的共同運動に対する選択的神経切除. 第45回日本顔面神経学会. 東京. 2022年7月29日.
25. 木村武一郎, 成田圭吾, 小倉正彦, 小山田幸平, 岡田崇, 荒木健太, 伊藤寛祥, 雨宮俊一, 多久嶋亮彦: AIによる顔面神経麻痺の「笑い」の評価. 第45回日本顔面神経学会. 東京. 2022年7月30日.
26. 北幸紘, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦: 広頸筋の病的共同運動に対する選択的神経切除. 第45回日本顔面神経学会. 東京. 2022年7月30日.
27. 白石知大: 乳房再建の基本. Japan Cancer Forum 2022. オンライン. 2022年8月6日.
28. 大浦紀彦: 今こそめざそう. 褥瘡に対するオーダーメイドの統合的治療と予防. 魂をチーム医療に吹き込む!. 第24回日本褥瘡学会学術集会. 横浜. 2022年8月27日.
29. 大浦紀彦, 匂坂正信, 寺部雄太, 木下幹雄, 三野稜太, 山田憲嗣: AI (畳み込みニューラルネットワーク)による創傷の組織学的診断の自動化. 第24回日本褥瘡学会学術集会. 横浜. 2022年8月28日.
30. 尾崎峰: 小児の筋肉内静脈奇形に対するモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた硬化療法の治療成績に関する検討. 第31回日本外来小児科学会年次集会. 福岡. 2022年8月27日.
31. 海野早織, 辻直子, 成田圭吾, 波利井清紀: 当院で行っている顔面変形に対する幹細胞付加脂肪移植術について. 第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 新潟. 2022年8月27日.
32. 尾崎峰: 静脈奇形. 第13回血管腫・血管奇形講習会. 浦安. 2022年9月16日.
33. 高田太一, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 赤木健一郎, 多久嶋亮彦: 口唇部動静脈奇形に対して塞栓硬化療法と切除を併用して治療を行った2例. 第18回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 浦安. 2022年9月16日.
34. 切石梨菜, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 赤木健一郎, 多久嶋亮彦: 液状モノエタノールアミンオレイン酸塩液を用いた硬化療法におけるヘモグロビン尿発生についての検討. 第18回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 浦安. 2022年9月17日.
35. 赤木健一郎, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 海綿状リンパ管奇形に対する新たな外科的治療戦略~bleomycin sheetを併用した部分切除術~. 第18回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 浦安. 2022年9月17日.
36. 尾崎峰: 硬化療法の保険収載に向けての取り組み. 第18回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 浦安. 2022年9月17日.
37. 清水翼, 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: 神経浸潤を伴う静脈奇形に対してopen sclerotherapyを行った3症例. 第18回日本血管腫血管奇形学会. 浦安. 2022年9月17日.
38. Kimura T, Narita K, Oyamada K, Ogura M, Okada T, Araki K, Ito H, Amemiya S, Takushima A: Elaborating computer-assisted keypoint detection through machine learning; toward an automated evaluation of facial palsy patients. 第31回日本形成外科学会基礎学術集会. 岡山・オンライン. 2022年10月13日.
39. 今村三希子, 白石知大, 多久嶋亮彦: Is this tumor benign or malignant? Ultrasound examination of skin tumors using Superb Microvascular Imaging. 第31回日本形成外科学会基礎学術集会. 岡山・オンライン. 2022年10月13日.
40. 白石知大: TE/SBIの被膜に関する研究. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会学術集会. 那覇・オンライン. 2022年10月27日.
41. 北幸紘, 白石知大, 屋宜佑利香, 今村三希子, 多久嶋亮彦: Proximal Medial Branchを含めたDIEP flapによる乳房再建の検討. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会. 那覇・オンライン. 2022年10月27日.
42. 海野早織, 成田圭吾, 中山玲玲, 辻直子, 波利井清紀: Step-CALによる全乳房再建の治療成績の分析. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会. 那覇・オンライン. 2022年10月27日.
43. 屋宜佑利香, 白石知大, 今村三希子, 多久嶋亮彦: TEを用いた乳房再建術における予防的抗菌薬の検討. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会. 那覇・オンライン. 2022年10月27日.
44. 尾崎峰: 血管腫血管奇形に対する手術療法と硬化剤. 第63回日本脈管学会総会. 横浜. 2022年10月28日.
45. 白石知大, 今村三希子, 屋宜佑利香, 多久嶋亮彦: Smooth Round type SBIでも整容性を高める方法-envelopeに着目したTE挿入-. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会学術集会. 那覇・オンライン. 2022年10月28日.
46. 大浦紀彦: 下肢創傷処置料・管理料が新規導入された意義. 第47回日本足の外科学会学術集会. 愛媛. 2022年11月3日.
47. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変のoff loading. 令和4年度第1回糖尿病理学療法学会サテライトカンファレンス. オンライン. 2022年11月6日.
48. 大島直也, 尾崎峰: 顔面骨骨折における Optimal Plate Selection Method (OPS法) について. 第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 名古屋. 2022年11月17日.
49. 清水翼, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 赤木健一郎, 多久嶋亮彦: 唇顎口蓋裂に伴う鼻変形に対して腸骨隆鼻術を行った4例の検討. 第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 名古屋. 2022年11月17日.
50. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 遊離筋肉移植による笑いの再建の適応拡大. 第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 名古屋. 2022年11月18日.
51. 屋宜佑利香, 尾崎峰, 岩科裕己, 清水翼, 多久嶋亮彦: 難治性涙道閉塞に対し人工真皮とジョーンズチューブを用いて涙道再建を施行した2例. 第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 名古屋. 2022年11月18日.
52. 大浦紀彦, 屋宜佑利香, 高田太一, 藤本アベリーノ, 石川あおは, 菊池晴香, 山中淳未, 多久嶋亮彦: CLTIに対する血管柄付き遊離組織移植術. 第49回日本マイクロサージャリー学会. 浜松. 2022年12月1日.
53. 北幸紘, 白石知大, 多久嶋亮彦: Proximal Medial Branchを含めたDIEP flapによる乳房再建の検討. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会. 浜松. 2022年12月1日.
54. 成田圭吾, 北幸紘, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮彦: 小児の顔面神経麻痺に対する一次的遊離広背筋移植. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会. 浜松. 2022年12月2日.

55. 大浦紀彦, 山田憲嗣, 倉橋絢也: 畳み込みニューラルネットワークによる創傷の組織学的診断の自動化とNFT化. 第32回日本シミュレーション外科学会. 兵庫. 2022年12月10日.
56. 木村武一郎, 成田圭吾, 多久嶋亮彦: AIによる顔面神経麻痺の「笑い」の評価. 第33回同門学術集会(東大形成外科同門会). オンライン. 2023年1月21日.
57. 大浦紀彦: EpiFixヒト羊膜使用組織 治癒促進材料の使用経験. 第3回日本フットケア足病医学会学術集会. 奈良. 2023年2月12日.
58. 大浦紀彦: EpiFixの使用法 症例提示 適応. EpiFix講習会. 第3回日本フットケア足病医学会. 奈良. 2023年2月12日.
59. 大浦紀彦: NPWT i-d with ROCF-CCがもたらす新しい創傷治療. 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎. 2023年3月4日.
60. 成田圭吾: 培養脂肪由来幹細胞を付加した脂肪注入による組織増大術. 第28回日本形成外科手術手技学会. 川崎. 2023年3月4日.
61. 石川あおは, 大島直也, 清水咲樹, 石本智也, 長坂優香, 大河内裕美, 塩川一郎, 百澤明: トランスジェンダー男性に対する乳房切除術の満足度調査(第2報). GID学会第24回研究大会. 富士吉田. 2023年3月25日.
62. 大島直也, 百澤明: 顔面女性化手術. GID学会第24回研究大会. 富士吉田. 2023年3月26日.

論 文

1. Kagaya Y, Ohura N, Mori S, Ozaki M: Evidence of nutritional vascular formation from the "nutrient flap" in a patient with no-option chronic limb-threatening ischemia: An indocyanine green fluorescence imaging study. *J Vasc Surg Cases Innov Tech.* 8(3) 408-412. 2022.
2. Takahara M¹, Iida O², Ohura N, Soga Y³, Yamaoka T⁴, Azuma N⁵ (¹Osaka University Graduate School of Medicine, ²Kansai Rosai Hospital Cardiovascular Center, ³Kokura Memorial Hospital, ⁴Matsuyama Red Cross Hospital, ⁵Asahikawa Medical University): Social isolation in patients with chronic limb-threatening ischemia: a cross-sectional study. *Sci Rep.* 13(1). 1933. 2023.
3. Takahara M¹, Iida O², Ohura N, Soga Y³, Yamaoka T⁴, Azuma N⁵ (¹Osaka University Graduate School of Medicine, ²Kansai Rosai Hospital Cardiovascular Center, ³Kokura Memorial Hospital, ⁴Matsuyama Red Cross Hospital, ⁵Asahikawa Medical University.): Injury Precipitating Tissue Loss and Time to Referral to a Vascular Center in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia. *J Atheroscler Thromb.* 30(3). 287-298. 2023.
4. Kagaya Y, Ohura N, Miyamoto A¹, Ozaki M (¹Takatsu General Hospital): Two stages of salvaging an extensively necrotic foot with chronic limb-threatening ischemia by arterialization of great saphenous vein and free latissimus dorsi musculocutaneous flap transfer for wound coverage with the arterialized vein as the recipient vessel: A case report. *Microsurgery.* 43(2). 166-170. 2023.
5. 吉村美音¹, ニツ橋未来², 大浦紀彦(¹東京医科大学病院, ²杏林大学病院・看護部): 【褥瘡の手術療法と周術期ケア】周術期褥瘡対策 褥瘡手術の周術期管理(解説). *WOC Nursing.* 10巻1号. Page55-62. 2022.
6. 大浦紀彦, 屋宜佑利香, 竹江雄貴, 清水翼, 吉村美音¹, 帯刀朋代², 木下幹雄(¹東京医科大学病院, ²東京医科大学病院): 【褥瘡の手術療法と周術期ケア】褥瘡治療における手術療法の役割(解説). *WOC Nursing.* 10巻1号. Page7-13. 2022.
7. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 竹江雄貴, 村上莉沙, 河野由布子, 木下幹雄, 嶋崎鉄兵¹ (¹杏林大学医学部総合医療学教室): 【糖尿病性足病変:治療の実践を見直す-歩いて外来に通い続けるために-】足の創傷をいかに治療するか 糖尿病性足病変への形成外科的アプローチ(解説). *糖尿病プラクティス.* 39巻4号. Page388-393. 2022.
8. 大浦紀彦, 加賀谷優, 森重侑樹, 屋宜佑利香, 竹江雄貴, 木下幹雄, 塚本博和¹, 多久嶋亮彦 (¹一橋病院): 【CLTIの足病診療の実際】治す 高度感染と虚血を伴ったCLTIに対する治療戦略(解説). *Heart View.* 26巻8号. Page830-837. 2022.
9. 大浦紀彦, 屋宜佑利香, 藤本アベリーノ, 山中淳未, 加賀谷優, 嶋崎鉄兵¹ (¹杏林大学医学部総合医療学教室): 【形成外科医に学ぶ手術手技・消化器・一般外科医が知りたいコトと工夫】形成外科の基本知識 急性創傷(新鮮外傷, 感染創)に対する治療戦略(解説). *手術.* 76巻12号. Page1791-1798. 2022.
10. 大浦紀彦: 知識が深まる! 指導&資料に生かせる! 今月のPick Up 1テーマ(vol.12) 最新情報をキャッチ! いつきても困らない! 臍臓ダビンチ手術の準備と手順書【前編】(解説). *オペナーシング.* 38巻1号. Page76-85. 2023.
11. 尾崎峰: 【局所皮弁デザイン-達人の思慮の技-】正中前額皮弁とその応用. *PEPARS.* 184. 38-47. 2022.
12. 岩科裕己, 尾崎峰: 【今日からの診療に役立つ ビジュアルでダイレクトに解説する体表・軟部疾患の検査&臨床画像】画像検査各論 血管腫・血管奇形 静脈奇形・動静脈奇形治療のための画像評価. *形成外科.* 65増刊. S258-S267. 2022.
13. 尾崎峰: 乳児血管腫に対する形成外科治療の最前線. *日本小児皮膚科学会雑誌.* 41(2). 117-125. 2022.
14. Kagaya Y, Ohura N, Mori S, Ozaki M: Evidence of nutritional vascular formation from the "nutrient flap" in a patient with no-option chronic limb-threatening ischemia: An indocyanine green fluorescence imaging study. *J Vasc Surg Cases Innov Tech.* 8(3). 408-412. 2022.
15. Kagaya Y, Ohura N, Miyamoto A¹, Ozaki M (¹Takatsu General Hospital): Two stages of salvaging an extensively necrotic foot with chronic limb-threatening ischemia by arterialization of great saphenous vein and free latissimus dorsi musculocutaneous flap transfer for wound coverage with the arterialized vein as the recipient vessel: A case report. *Microsurgery.* 43(2). 166-170. 2023.
16. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 【今日からの診療に役立つ ビジュアルでダイレクトに解説する体表・軟部疾患の検査&臨床画像】画像検査各論 頭蓋・顔面・頸頭部 顔面神経麻痺の形成外科治療における検査と画像解析. *形成外科.* 65巻増刊. S110-S125. 2022.
17. 成田圭吾, 北幸紘, 白石知大, 多久嶋亮彦: 遊離広背筋移植による笑顔の再現. *Facial Nerv Res.* 42. 3-6. 2022.
18. 成田圭吾, 北幸紘, 白石知大, 多久嶋亮彦: 側頭骨外における顔面神経再建: 咬筋神経移行. *Facial Nerv Res.* 42. 69-71. 2022.
19. 白石知大: 乳房再建に有用な画像所見(解説). *形成*

外科. 65. S180-187. 2022.

20. Yagi Y, Suga H¹, Takushima A (Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital) : Osteomyelitis in the left first toe due to Mycobacterium abscessus after an injury. Journal of Plastic and Reconstructive Surgery. 2022. DOI: <https://doi.org/10.53045/jprs.2022-0040>

著書

1. 尾崎峰 (著, 編集) : ナースのための形成外科 治療・ケアマスターガイド. メディカ出版. 2022.
2. 今村三希子 (分担執筆) : 第5章3-1乳房再建章タイトル. ナースのための形成外科 治療・ケアマスターガイド. 尾崎峰 編集. メディカ出版. 2022年. 177-181頁.
3. 今村三希子 (分担執筆) : 第7章3-1レーザー治療. ナースのための形成外科 治療・ケアマスターガイド. 尾崎峰 編集. メディカ出版. 2022年. 254-259頁.
4. 今村三希子 (分担執筆) : 第7章4ケロイド・瘢痕拘縮の治療. ナースのための形成外科 治療・ケアマスターガイド. 尾崎峰 編集. メディカ出版. 2022年. 263-266頁.

その他

1. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 23. オンライン. 2022年4月7日.
2. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 24. オンライン. 2022年5月12日.
3. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 25. オンライン. 2022年6月2日.
4. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 26. オンライン. 2022年7月7日.
5. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 27. オンライン. 2022年8月4日.
6. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 28. オンライン. 2022年9月8日.
7. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 29. オンライン. 2022年10月6日.
8. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 30. オンライン. 2022年11月10日.
9. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 31. オンライン. 2022年12月1日.
10. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 32. オンライン. 2023年1月5日.
11. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 33. オンライン. 2023年2月2日.
12. 大浦紀彦 : 学会主催. AAA case study club 34. オンライン. 2023年3月9日.

泌尿器科学教室

講演

1. 金城真実, 丹波光子, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩 : 骨盤臓器脱手術が骨格筋量と運動機能に与える影響～修復術は身体機能を改善させるか～. 第15回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会. 横浜. 2022年4月9日.
2. 中村雄 : 実臨床におけるCABO+NIVO併用療法の有用性～異なる背景を有する症例への投与経験から～. カボメティクス全国Web講演会. オンライン. 2022年5月9日.

3. 福原浩 : 前立腺癌 手術とホルモン療法 そしてウイルス療法～癌からOABまで～. 第14回渋谷泌尿器医療研究会. オンライン. 2022年5月19日.
4. 金城真実 : 女性下部尿路症状とメタボリックシンドローム. 第10回多摩女性骨盤底勉強会. 立川・オンライン. 2022年6月3日.
5. 金城真実, 丹波光子, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩 : 骨盤臓器脱手術が骨格筋量・筋力および運動機能に与える影響～修復術は身体機能を改善させるか～. 第35回日本老年泌尿器科学会. 甲府・オンライン. 2022年6月11日.
6. 佐藤千紗, 中村雄, 金子順, 西島郁乃, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 中元康雄, 磯村杏那, 藤原正親 : 肺腺癌精索転移の一例. 第638回日本泌尿器科学会東京地方会. 東京. 2022年6月18日.
7. 金城真実 : 女性における下部尿路診療. 第28回Young Urologists Conference. 東京. 2022年6月24日.
8. 金城真実 : 女性下部尿路機能障害の最新の知見. 第24回日本女性骨盤底医学会. さいたま. 2022年7月2日.
9. 金城真実, 丹波光子, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩 : 骨盤臓器脱手術が骨格筋量・筋力および運動機能に与える影響. 第24回日本女性骨盤底医学会. さいたま. 2022年7月2日.
10. 福原浩 : 前立腺癌にはやはり手術とホルモン療法! そしてウイルス療法. 第25回関西腎泌尿器外科研究会. 守口. 2022年7月2日.
11. 野村由紀子, 金城真実 : 骨盤臓器脱手術の未来: これからのLSC, これからのTVM. 第24回日本女性骨盤底医学会. さいたま. 2022年7月3日.
12. 中村雄 : 実臨床におけるCABO+NIVO併用療法の有用性～異なる背景を有する症例への投与経験から～. 腎癌の実臨床を考える会. オンライン. 2022年7月7日.
13. 金城真実 : 女性骨盤底障害と骨盤底筋訓練. オンライン講演会北海道ウロロジーフォーラム. オンライン. 2022年7月12日.
14. 多武保光宏 : 当院における前立腺癌治療～患者への説明から治療まで～. 第21回多摩前立腺がん医療連携研究会. オンライン. 2022年7月27日.
15. 福原浩 : 前立腺癌にはやはり手術とホルモン療法! そしてウイルス療法について. 第21回多摩前立腺がん医療連携研究会. オンライン. 2022年7月27日.
16. 北村盾二, 西島郁乃, 金子順, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩 : 陰圧吸引アクセスシース (ClearPetra) を併用したMini-PNLの検討. 日本尿路結石症学会第32回学術集会. 福岡. 2022年7月29日.
17. 福原浩 : 前立腺癌にはやはり手術とホルモン療法! そしてウイルス療法について. サマーキャンプ2022. 新潟. 2022年7月29日.
18. 中村雄 : 自験例から考察する腎細胞癌一次治療の治療選択. 多摩腎癌ウェブセミナー. オンライン. 2022年8月5日.
19. 金城真実, 舛田一樹, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩 : 女性過活動膀胱患者に対するB3受容体刺激薬の比較研究. 第29回日本排尿機能学会. 札幌・オンライン. 2022年9月1日.
20. 中村雄 : 複雑なRCC1st lineを臨床経験から整理する

- ～ CABO + NIVO併用療法の役割～. Cabozantinib Clinical Meeting. 東京. 2022年9月9日.
21. 中村雄: 複雑なRCC1st lineを臨床経験から整理する～ CABO + NIVO併用療法の役割～. RCC Expert Web Seminar. 京都. 2022年9月15日.
 22. 多武保光宏: 前立腺癌治療. ヤンセンファーマ株式会社社内勉強会. オンライン. 2022年9月27日.
 23. 金城真実: 女性泌尿器科領域における薬物療法. TAMA WEB SEMINAR. オンライン. 2022年9月28日.
 24. 福原浩, 藤堂具紀: がんのウイルス療法 前立腺癌での経験 Oncolytic virus therapy for prostate cancer. 第81回日本癌学会学術総会. 横浜. 2022年9月30日.
 25. 中村雄: 複雑なRCC1st lineを臨床経験から整理する～ CABO + NIVO併用療法の役割～. カボザンチニブ + ニボルマブ併用療法適応追加1周年記念講演会 in 多摩. 東京. 2022年10月14日.
 26. 北村盾二, 宮川昌悟, 鮫島未央, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩: 精巣癌の抗がん剤治療後に奇形腫から変異発生した横紋筋肉腫に対して外科的切除を行い長期生存を得られた一例. 日本泌尿器腫瘍学会第8回学術集会. 神戸・オンライン. 2022年10月22日.
 27. Fukuhara H, Takeshima Y, Todo T: Phase 1 clinical trial of G47Δ in patients with castration-resistant prostate cancer. 14th International Oncolytic Virotherapy Conference. 軽井沢・オンライン. 2022年10月25日.
 28. 金城真実: 女性骨盤底障害における骨盤底筋訓練の有用性. 多摩OABフォーラム. オンライン. 2022年10月26日.
 29. 中村雄, 西島郁乃, 金子順, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩: 進行性腎癌におけるカボザンチニブ単剤治療後の次治療に関する検討. 第87回日本泌尿器科学会東部総会. 軽井沢・オンライン. 2022年10月28日.
 30. 多武保光宏, 西島郁乃, 金子順, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 福原浩: Think different in retroperitoneal tumor treatment—後腹膜腫瘍の鑑別診断と課題—. 第87回日本泌尿器科学会東部総会. 軽井沢・オンライン. 2022年10月29日.
 31. 福原浩: 前立腺癌にはやはりホルモン療法!そしてウイルス療法などの最新の遺伝子治療について. 第150回多摩泌尿器科医会. 東京. 2022年11月5日.
 32. 金城真実, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下仙骨腫固定術の初期経験. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会. 神戸・オンライン. 2022年11月10日.
 33. 多武保光宏, 西島郁乃, 金子順, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 福原浩: 慢性腎臓病患者におけるPNL術後腎機能の変化. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会. 神戸・オンライン. 2022年11月11日.
 34. 福原浩: ウイルス療法など最新の遺伝子治療について. NPO法人ドクターズネットワーク研究会. 東京. 2022年11月12日.
 35. 金城真実: 我慢してませんか? 女性の排尿トラブルと骨盤臓器脱. 杏林大学公開講演会・八王子学園都市大学共催. 八王子. 2022年11月15日.
 36. 福原浩: 多発性のう胞腎 進行抑制の試み. 東京都難病医療ネットワーク. 東京. 2022年11月18日.
 37. 佐藤千紗, 中村雄, 金子順, 西島郁乃, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 中元康雄, 磯村杏耶, 藤原正親: 肺腺癌精索転移の一例. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
 38. 中村雄: 複雑なRCC1st lineを臨床経験から整理する～ CABO + NIVO併用療法の役割～. Urological Cancer Web Seminar. オンライン. 2022年11月29日.
 39. 中村雄: 私たちの実臨床経験～多様な因子を有する症例への投与経験から～. RCC Round Table-現代の薬物治療のClinical Questionに挑む-. 東京. 2022年12月13日.
 40. 福原浩: 前立腺癌にはやはりホルモン療法を軸に!最新のウイルス療法の状況. Osaka Metropolitan Urology Meeting. 大阪. 2022年12月15日.
 41. 金子順, 宮川仁平, 西島郁乃, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩: 腎細胞癌に対する腎摘除術後, 遺残尿管に発生した尿路上皮癌の1例. 第639回日本泌尿器科学会東京地方会. 東京. 2022年12月22日.
 42. 金城真実: 女性における下部尿路診療～OAB診療ガイドライン「第3版」改定をふまえて～. 多摩北部 Urology Seminar. オンライン. 2023年1月20日.
 43. 宮川仁平: 東大病院におけるPDD TURBTの経験. 第131回 Tokyo Expert Urology Seminar. オンライン. 2023年1月23日.
 44. 福原浩: 前立腺癌治療 ロボット手術から がんウイルス療法まで. 世田谷区医師会 泌尿器科医会共催学術講演会. 東京. 2023年2月2日.
 45. 西島郁乃, 北村盾二, 金子順, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 藤原正親, 岸田健, 伊藤宏之: 集学的治療により長期生存中の横紋筋肉腫への分化を伴った混合性胚細胞腫の一例. 第640回日本泌尿器科学会東京地方会. 東京. 2023年2月9日.
 46. 宮川仁平: アラグリオの実臨床経験～安全性と有効性について～. 泌尿器腫瘍治療セミナー in 多摩. オンライン. 2023年2月10日.
 47. 金城真実, 鳥本一匡: 過活動膀胱診療ガイドライン [第3版]改訂を踏まえた実臨床での薬物治療について. 過活動膀胱診療 Up To Date in 北多摩. 武蔵野. 2023年2月28日.
 48. 中村雄: 実臨床から考える腎癌一次療法の治療戦略. 多摩腎癌webセミナー. 東京. 2023年3月3日.
 49. 金城真実: 女性OABにおける治療～薬物療法を中心に～. トビエース インターネットシンポジウム～女性の健康週間に女性OABを再考する～. オンライン. 2023年3月6日.
 50. 宮川仁平: 5アミノレブリン酸を用いた光力学診断補助TURBTの実際: 安全性と有効性について. TAMA WEB SEMINAR. オンライン. 2023年3月9日.
 51. 中村雄: リスク因子が少ない症例に対するCABO+NIVOの有用性と可能性～実臨床経験から振り返る～. RCC Total Care Web seminar. オンライン. 2023年3月14日.
 52. 中村雄: 現代のRCC薬物治療を取り巻くClinical Question. How to select RCC 1st line. 東京. 2023年3月15日.
 53. 福原浩: 前立腺癌 ホルモン療法と手術, そしてウイルス療法. 若草泌尿器疾患WEBセミナー. オンライン

ン. 2023年3月15日.

54. 金城真実, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下仙骨腫固定術の初期経験. 第16回日本骨盤臓器脱手術学会. 大阪. 2023年3月25日.

論文

1. Kinjo M, Masuda K, Nakamura Y, Taguchi S, Tambo M, Fukuhara H: Does metabolic syndrome influence the efficacy of mirabegron treatment in female patients with overactive bladder?. *Int Urogynecol J*. 2022. DOI:10.1007/s00192-022-05261-y. Online ahead of print.
2. Taguchi S^{1,2}, Kawai T^{1,3,4}, Nakagawa T³, Miyakawa J¹, Kishitani K¹, Sugimoto K, Nakamura Y, Kamei J⁵, Obinata D⁶, Yamaguchi K⁶, Kaneko T³, Yoshida K⁷, Yamamoto S⁷, Kakutani S⁷, Kanazawa K⁸, Sugihara Y⁸, Tokunaga M⁸, Matsumoto A⁹, Uemura Y¹⁰, Akiyama Y¹, Yamada Y¹, Sato Y¹, Yamada D¹, Enomoto Y⁷, Nishimatsu H⁸, Ishikawa A², Tanaka Y⁴, Nagase Y⁹, Fujimura T⁵, Fukuhara H, Takahashi S⁶, Kume H¹ (The University of Tokyo, ²Tokyo Teishin Hospital, ³Teikyo University School of Medicine, ⁴Musashino Red Cross Hospital, ⁵Jichi Medical University, ⁶Nihon University School of Medicine, ⁷Mitsui Memorial Hospital, ⁸The Fraternity Memorial Hospital, ⁹Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ¹⁰National Center for Global Health and Medicine): Improved survival in real-world patients with advanced urothelial carcinoma: A multicenter propensity score-matched cohort study comparing a period before the introduction of pembrolizumab (2003-2011) and a more recent period (2016-2020). *Int J Urol*. 29(12). 1462-1469. 2022.
3. Sugimoto K, Taguchi S¹, Kishitani K¹, Kawai T^{1,2}, Masuda K, Nakamura Y, Kinjo M, Tambo M, Miyakawa J¹, Akiyama Y¹, Yamada Y¹, Sato Y¹, Yamada D¹, Nakagawa T², Fukuhara H, Kume H¹. (The University of Tokyo, ²Teikyo University School of Medicine): Comparison of full-dose gemcitabine/cisplatin, dose-reduced gemcitabine/cisplatin, and gemcitabine/carboplatin in real-world patients with advanced urothelial carcinoma. *BMC Urol*. 22(1). 177. 2022.
4. Fukuhara H, Sato Y¹, Hou J¹, Iwai M¹, Todo T¹ (The University of Tokyo): Fusion peptide is superior to co-expressing subunits for arming oncolytic herpes virus with interleukin 12. *Commun Med (Lond)*. 3(1). 40. 2023.
5. Kinjo M, Masuda K, Nakamura Y, Miyakawa J, Tambo M, Fukuhara H: Comparison of mirabegron and vibegron in women with treatment-naive overactive bladder: a randomized controlled study. *Urology*. 2023. DOI: 10.1016/j.urology.2023.02.003.
6. 多武保光宏: 【尿路結石の内視鏡治療を極める】腎盂腎炎合併の尿路結石に対する内視鏡手術. 泌尿器科. 16(4). 403-408. 2022.
7. 金城真実, 舛田一樹, 中村雄, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩: 女性骨盤底障害患者における便秘・便失禁の実態調査. 日本女性骨盤底医学会誌. 18(1). 17-21. 2022.
8. 金城真実: 【ブレずに安心!尿もれのミカタ】女性 女性の切迫性尿失禁. 臨泌. 76(12). 886-893. 2022.
9. 田口慧, 渡邊正中¹, 多武保光宏, 町田治彦², 菊安俊哉², 横山健一¹, 福原浩 (杏林大学医学部放射線科, ²東京女子医科大学附属足立医療センター): 【基礎から学ぶ 最新, 泌尿器疾患の画像診断】AI搭載・次世代MRIを用いた膀胱癌深達度診断法(VI-RADS)の向き検証研究. 泌外. 35(5). 396-402. 2022.
10. Kitahama K¹, Yoshiike S¹, Nagahama K¹, Ninomiya N, Okegawa T, Fukuhara H, Nabeshima K², Oka T³, Shibahara J¹ (Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ²Fukuoka University School of Medicine, ³Fukujuji Hospital): Well-differentiated papillary mesothelial tumor presenting as an encysted hydrocele of the spermatic cord. *Pathol Int*. 72(6). 352-354. 2022.
11. Kato T¹, Yokomizo A², Matsumoto R³, Tohi Y¹, Miyakawa J⁴, Mitsuzuka K⁵, Sasaki H⁶, Inokuchi J⁷, Matsumura M⁸, Sakamoto S⁹, Kinoshita H¹⁰, Fukuhara H, Kamiya N¹¹, Kimura R¹², Nitta M¹³, Okuno H¹⁴, Akakura K¹⁵, Kakehi Y¹, Sugimoto M¹ (Kagawa University, ²Harasanshin Hospital, ³Hokkaido University, ⁴The University of Tokyo, ⁵Tohoku University School of Medicine, ⁶The Jikei University School of Medicine, ⁷Kyushu University, ⁸National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁹Chiba University, ¹⁰Kansai Medical University, ¹¹Toho University Sakura Medical Center, ¹²University of the Ryukyus, ¹³Tokai University School of Medicine, ¹⁴National Hospital Organization Kyoto Medical Center, ¹⁵Tokyo Shinjuku Medical Center): Comparison of the medical costs between active surveillance and other treatments for early prostate cancer in Japan using data from the PRIAS-JAPAN study. *Int J Urol*. 29(11). 1271-1278. 2022.
12. Tohi Y¹, Kato T¹, Miyakawa J², Matsumoto R³, Sasaki H⁴, Mitsuzuka K⁵, Inokuchi J⁶, Matsumura M⁷, Yokomizo A⁸, Kinoshita H⁹, Hara I¹⁰, Kawamura N¹¹, Hashimoto K¹², Inoue M¹³, Teishima J¹⁴, Kanno H¹⁵, Fukuhara H, Maruyama S¹⁶, Sakamoto S¹⁷, Saito T¹⁸, Kakehi Y¹, Sugimoto M¹ (Kagawa University, ²The University of Tokyo, ³Hokkaido University, ⁴Jikei University School of Medicine, ⁵Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁶Kyushu University, ⁷National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁸Harasanshin Hospital, ⁹Kansai Medical University, ¹⁰Wakayama Medical University, ¹¹Osaka International Cancer Institute, ¹²Sapporo Medical University School of Medicine, ¹³Saitama Cancer Center, ¹⁴Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences, ¹⁵Yamagata University, ¹⁶Hokkaido Cancer Center, ¹⁷Chiba University Graduate School of Medicine, ¹⁸Niigata Cancer Center Hospital): Impact of adherence to criteria on oncological outcomes of radical prostatectomy in patients opting for active surveillance: data from the PRIAS-JAPAN study. *Jpn J Clin Oncol*. 52(9). 1056-1061. 2022.
13. Watanabe M¹, Taguchi S, Machida H^{1,2}, Tambo M, Takeshita Y¹, Kariyasu T^{1,2}, Fukushima K¹, Shimizu Y¹, Okegawa T, Fukuhara H, Yokoyama K¹ (Department of Radiology, Kyorin University

School of Medicine, ²Tokyo Women's Medical University Medical Center East): Clinical validity of non-contrast-enhanced VI-RADS: prospective study using 3-T MRI with high-gradient magnetic field. *Eur Radiol.* 32(11). 7513-7521. 2022.

14. Shishido T¹, Okegawa T, Hayashi K¹, Masuda K, Taguchi S, Nakamura Y, Tambo M, Fukuhara H(¹Hachioji Medical Center, Tokyo Medical University): Laparoscopic retroperitoneal lymph node dissection versus open retroperitoneal lymph node dissection for testicular cancer: A comparison of clinical and perioperative outcomes. *Asian J Urol.* 9(2). 119-124. 2022.
15. Iwaki T^{1,2,3}, Akiyama Y¹, Nosato H³, Kinjo M, Niimi A^{1,4}, Taguchi S¹, Yamada Y¹, Sato Y¹, Kawai T⁵, Yamada D¹, Sakanashi H³, Kume H¹, Homma Y⁶, Fukuhara H (¹The University of Tokyo, ²Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, ³National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ⁴New Tokyo Hospital, ⁵Teikyo University School of Medicine, ⁶Japanese Red Cross Medical Center): Deep Learning Models for Cystoscopic Recognition of Hunner Lesion in Interstitial Cystitis. *Eur Urol Open Sci.* 49. 44-50. 2023.
16. 山口慧¹, 渡邊正中², 多武保光宏, 町田治彦³, 菊安俊哉³, 久米春喜¹, 横山健一², 福原浩(¹東京大学, ²杏林大学医学部放射線科, ³東京女子医科大学附属足立医療センター): 【尿路上皮がんの診断と治療-update 2022】 浸潤性膀胱がん診断におけるVI-RADSの意義. *泌尿器科.* 16(6). 649-659. 2022.

著書

令和2年度追加分

1. 福原浩(分担執筆): 19. 泌尿器科疾患 頻尿. 今日の治療指針 2021年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 医学書院. 2021. 1225-1226.

その他

1. 福原浩: ウイルスの力を病気を治す力へ〜がん・難病治療の新戦略〜. *NHKクローズアップ現代.* 2022年7月25日.
2. 福原浩: ウイルスでがんをやっつけろ! 最新治療の新戦略. *NHK Eテレ. サイエンスZERO.* 2022年10月9日.
3. 福原浩: 高齢男性の尿失禁. *ラジオ日経.* 2022年11月16日.

眼科学教室

講演

1. 厚東隆志: 手術のartとscience. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月14日.
2. 石田友香, 井上真, 北善幸, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: 緑内障に伴う網膜分離症の非手術例の経過についての検討. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月14日.
3. 近藤峰生, 齋藤航, 石田晋, 國吉一樹, 上野真治, 林孝彰, 中野匡, 早川卓浩, 角田和繁, 慶野博, 岡田アナベルあやめ, 中村考介, 秋山英雄: MEWDSの日本人患者の特徴 全身ステロイドの投与が最終視力に及ぼす影響. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月14日.

4. 望月司, 北善幸, 内田裕規, 齋藤恒浩, 村井顕子, 平形明人: iStent inject W®併用白内障手術の術後成績. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月14日.
5. 森川葉月, 仁科幸子, 細野克博, 小菅基通, 横井匡, 重安千花, 山田昌和, 深見真紀, 東範行, 堀田喜裕: DCN変異による先天遺伝性角膜実質ジストロフィーの1例. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月14日.
6. 山田昌和: 角膜実質のジストロフィー. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月15日.
7. 水野雅春, 石田友香, 高橋綾, 安藤良将, 加藤悠, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 杏林アイセンターにおける裂孔原性網膜剥離に対する年間手術成績. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月15日.
8. 慶野博: 評議員会指名講演: 眼炎症性疾患における炎症活動性の定量的評価法の確立と新たな治療戦略を目指して. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月16日.
9. 竹内大, 白井嘉彦, 南場研一, 慶野博, 竹内正樹, 高瀬博, 鴨居功樹, 長谷敬太郎, 伊東崇子, 中井慶, 丸山和一, 小林恵里, 堀純子, 真下永, 佐藤智人, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 園田康平, 後藤浩, 水木信久: ベーチェット病ぶどう膜炎に対するインフリキシマブ治療の5年以上の検討: 多施設研究. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月16日.
10. 岡田アナベルあやめ, 望月學, 大野重昭, 慶野博, 高瀬博, 南場研一, 渡邊交世, 鴨居功樹: SUNワーキンググループによる25のぶどう膜炎疾患の分類基準. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月16日.
11. 井上真: 3DモニターHeads-up Surgeryにおける画像鮮明化アルゴリズム機能搭載器の臨床的有用性について. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月17日.
12. 中山真紀子, 慶野博, 林勇海, 安藤良将, 岡田アナベルあやめ: COVID-19パンデミックにおける急性期Vogt-小柳-原田病の治療選択. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月17日.
13. 江本宜暢, 北善幸, 齋藤恒浩, 望月司, 村井顕子, 平形明人: 原発開放隅角緑内障における視神経乳頭周囲毛細血管密度と視野障害の関係. 第126回日本眼科学会総会. 大阪・オンライン. 2022年4月17日.
14. Inoue M: Practical application of intraoperative OCT as a guidance for vitreoretinal surgeries. *FujiRetina 2022. Tokyo. April 23. 2022.*
15. Koto T: Measuring the color gamut of a monitor for HUS surgery. *FujiRetina 2022. Tokyo. April 23. 2022.*
16. Koto T: Retinaws. *FujiRetina 2022. Tokyo. April 23. 2022.*
17. Kataoka K, Horiguchi E, Takeuchi J, Tomita R, Asai K, Nakano Y, Ota H, Taki Y, Ito Y, Terasaki H, Nichiguchi K, Okada AA: The effects of photodynamic therapy and smoking on hemodynamics in central serous chorioretinopathy. *FujiRetina 2022. Tokyo. April 23. 2022.*
18. Kondo M, Saito W, Ishida S, Kuniyoshi K, Ueno S, Hayashi T, Nakano T, Hayakawa T, Tsunoda K, Keino H, Okada AA, Nakamura K, Akiyama H: Effect of systemic steroid administration on final

- visual acuity in eyes with multiple evanescent white dot syndrome (MEWDS). *FujiRetina* 2022. Tokyo. April 24. 2022.
19. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Bridging suture technique to repair iris capture after intrascleral fixation of intraocular lens. *FujiRetina* 2022. Tokyo. April 23-24. 2022.
 20. Ishida T, Inoue M, Hirakata A: A case of macular edema with racemose hemangioma and multiple evanescent white dot syndrome. *FujiRetina* 2022. Tokyo. April 23-24. 2022.
 21. Takahashi A, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Suprachoroidal hemorrhage associating with 27-gauge pars plana vitrectomy: Report of two cases. *FujiRetina* 2022. Tokyo. April 23-24. 2022.
 22. Mizuno M, Ishida T, Inoue M, Hirakata A: Maculopathy associated with cavitory optic disc anomalies treated with anti-glaucoma medications. *FujiRetina* 2022. Tokyo. April 23-24. 2022.
 23. Inoue M: 27-gauge dual-blade probe technology as the new standard in complex cases. *FLOREtina* webinar. オンライン. April 24. 2022.
 24. 北善幸: 最新の緑内障手術治療について. 興和株式会社社内研修会. 調布. 2022年5月9日.
 25. 厚東隆志: DME治療戦略2022. *Novartis Retina Forum*. 東京・オンライン. 2022年5月14日.
 26. 平形明人: 強度近視眼の網膜硝子体手術の課題. 第4回日本近視学会総会. 大阪. 2022年5月15日.
 27. 厚東隆志: 近視に合併する網膜疾患の診断と治療. 第4回日本近視学会総会. 大阪. 2022年5月15日.
 28. 平形明人: 近視眼の網膜硝子体手術. *Fujita Retina Meeting*. オンライン. 2022年5月19日.
 29. 厚東隆志: どうする? 困った糖尿病網膜症. *Hill Top Retina Seminar*. オンライン. 2022年5月23日.
 30. 慶野博: 症例から学ぶぶどう膜炎診療～感染性ぶどう膜炎と非感染性ぶどう膜炎の見極めのポイント～. 第92回九州眼科学会. 那覇市. 2022年5月27日.
 31. 慶野博: 症例から学ぶぶどう膜炎診療～感染性ぶどう膜炎と非感染性ぶどう膜炎の見極めのポイント～. 第5回北海道ぶどう膜炎 連携フォーラム. 札幌. 2022年5月28日.
 32. 片岡恵子, 渡邊裕斗, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: 当院におけるナビゲーションレーザーシステム Navilas®577sの使用経験第. 12回東京多摩眼科連携セミナー. オンライン. 2022年5月28日.
 33. 田邊知佳, 片岡恵子, 中山真紀子, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ: 中心性漿液性脈絡膜網膜症の慢性化に関連する因子の検討. 12回東京多摩眼科連携セミナー. オンライン. 2022年5月28日.
 34. 井上真: 基本セッティング. 第21回硝子体手術ビデオセミナー. 東京. 2022年5月29日.
 35. 井上真: Stiff-sleeve. New instruments. 第21回硝子体手術ビデオセミナー. 東京. 2022年5月29日.
 36. 厚東隆志: 糖尿病黄斑浮腫 最新の治療. 鎌倉市・横須賀市眼科医会学術講演会. 横須賀. 2022年5月31日.
 37. 井上真: やっぱええやん! Digitally Assisted Surgery (NGENUITY, 27G HyperVit, Reflex). 第4回眼科Surgery update seminar in Osaka. 大阪. 2022年6月4日.
 38. 北善幸: 高齢化社会での緑内障現場診療 どのように調べる? F/Uする? 治療する? Vol. 3. 多摩地区緑内障勉強会AYR 2022. オンライン. 2022年6月4日.
 39. 厚東隆志: 硝子体手術のいろはにほへと-眼科手術支援ロボットの可能性を考える-. *リバーフィールド株式会社社内講演会*. 東京. 2022年6月9日.
 40. Kondo M, Saito W, Ishida S, Kuniyoshi K, Ueno S, Hayashi T, Nakano T, Hayakawa T, Tsunoda K, Keino H, Okada AA, Nakamura K, Akiyama H: Effect of systemic steroid administration on final visual acuity in eyes with multiple evanescent white dot syndrome (MEWDS). 45th Annual Meeting of the Macula Society. Germany. June 8-11. 2022.
 41. 井上真: 糖尿病網膜症手術の理想と現実. *札幌眼科カンファレンス2022*. 札幌. 2022年6月11日.
 42. 厚東隆志: 糖尿病網膜症の治療戦略. *中外製薬社内講演会*. 東京. 2022年6月13日.
 43. 平形明人: 強度近視眼の網膜硝子体手術の課題. 第2回西多摩Ophthalmic conference. 福生. 2022年6月17日.
 44. 鈴木由美, 青木貴都, 満川忠宏, 富田茜, 浜由起子, 山田昌和: 小児輻輳不全型外斜視に対するSlanted Lateral Rectus Recession術の効果. 第78回日本弱視斜視学会. 宇都宮・オンライン. 2022年6月17日.
 45. 井上真: 症例から学ぶ網膜硝子体手術. 第4回網膜硝子体手術 Update in FUKUOKA. 福岡. 2022年6月17日.
 46. 井上真: 糖尿病網膜症への硝子体手術 update. *Clinical Update meeting*. 川崎. 2022年6月18日.
 47. Okada AA: Greetings from Tokyo!. Annual Alumni Meeting of the Harvard Department of Ophthalmology. USA・オンライン. June 25. 2022.
 48. Inoue M: Practical application of Intraoperative OCT as a guidance for vitreoretinal surgeries. *Asia-Pacific Ocular Imaging Society (APOIS) 2022*. オンライン. June 25. 2022.
 49. Kataoka K: Long-term morphological changes in macular neovascularization under aflibercept treatments with a treat-and-extend regimen. 9th International Symposium Asia Pacific Retinal Imaging Society (APRIS) 2022. オンライン. July 1. 2022.
 50. Inoue M: Image Sharpening Technology for 3D Heads up Surgery. 9th International Symposium Asia Pacific Retinal Imaging Society (APRIS) 2022. オンライン. July 1-2. 2022.
 51. 中山真紀子, 慶野博, 林勇海, 安藤良将, 岡田アナベルあやめ: COVID-19ワクチン接種後に発症した眼炎症疾患8例における臨床経過. 第55回日本眼炎症学会. 広島・オンライン. 2022年7月8日.
 52. 前田紗知衣, 久須見有美, 安藤良将, 重安千花, 山田昌和: 両眼にPurpureocillium lilacinum角膜炎を発症した1例. 第58回日本眼感染症学会. 広島・オンライン. 2022年7月9日.
 53. 山田昌和: ポストコロナとコンタクトレンズ診療の将来. シンポジウム, ウイズ・ポストコロナのCL診療. 第64回日本コンタクトレンズ学会. 広島・オンライン. 2022年7月10日.
 54. 田中公二, 丸子一朗, 玉城環, 板垣可奈子, 中山真紀子, 若月優, 小野江元, 和泉雄彦, 河合萌子, 丸子留佳, 長谷川泰司, 湧川空子, 寺尾信宏, 小笠原雅, 菅野幸紀, 笠井暁仁, 新竹広晃, 山本亜希子, 片岡恵子, 森隆三郎, 古泉英貴, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘: 治療歴のない滲出型加齢黄斑変性に

- に対する brolocizumab 硝子体内注射の6ヵ月成績. 第38回日本眼循環学会. 富山・オンライン. 2022年7月16日.
55. 太田光, 片岡恵子, 武内潤, 中野友哉子, 堀口悦代, 滝陽輔, 伊藤逸毅, 寺崎浩子, 岡田アナベルあやめ, 西口康二: 加齢黄斑変性に対する brolocizumab へ薬剤変更時の脈絡膜新生血管の変化. 第38回日本眼循環学会. 富山・オンライン. 2022年7月16日.
56. 井上真: Image sharpening technology for 3D heads-up surgery. Kanagawa Retina Forum 2022. 横浜. 2022年7月22日.
57. 井上真: 網膜剥離アップデート - 当院での取り組み -. 第6回多摩眼科3Mネットワーク. 立川. 2022年7月27日.
58. 平形明人, 門之園一明: 難治例呈示 (ビデオセッション). 第26回網膜ラウンジ. 東京. 2022年8月20日.
59. 井上真: ウクライナからの非閉鎖黄斑円孔の1例. Japan Macula Club. 蒲郡. 2022年8月27日.
60. 井上真: 適切な紹介を考える. Ophthalmic Imaging Channel 2. 東京. 2022年9月1日.
61. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Flow dynamics of vitrectomized eyes evaluated by iris fluttering with anterior segment optical coherence tomography. 33rd Meeting of the Club Jules Gonin. Croatia. September 9. 2022.
62. Inoue M: Refractory Macular Hole Management: Tissue Replacement vs. Just ILM Peel: PRO Just ILM Peel. Surgical Controversies in Vitreo-retinal Surgery: The Debate. WOC virtual. オンライン. September 10. 2022.
63. Inoue M: Clinical use of intraoperative OCT. New Advances in Vitreoretinal Surgery. WOC virtual. オンライン. September 10. 2022.
64. 岡田アナベルあやめ: Border Diseases: メジカルレチナとぶどう膜炎の境界に存在している疾患. 第17回 Eye Care Strategy Seminar. 東京. 2022年9月10日.
65. Suzuki Y, Tomita A, Inoue M: Eyelash line resection for ciliary entropion in patients with Down's syndrome. The 8th Annual Global Video Contest - American Academy of Ophthalmology. オンライン. September 11. 2022.
66. 矢田長洋, 北善幸, 山本雅, 江本宜暢, 望月司, 齋藤恒浩, 内田裕規, 平形明人: ピロカルピン点眼が閉塞隅角緑内障の虹彩厚に与える影響. 第33回日本緑内障学会. 横浜. 2022年9月16日.
67. 吉川祐司, 加藤諒, 菅野順二, 北善幸, 篠田啓: 濾過手術後の中心視野感度変化と術前黄斑部血管密度の関連. 第33回日本緑内障学会. 横浜. 2022年9月16日.
68. Inoue M: Image sharpening algorithm in Heads-up surgery. AAO 2022 gather Video session. USA・オンライン. October 1-3. 2022.
69. 岡田アナベルあやめ: Border Diseases: メジカルレチナとぶどう膜炎の境界に存在している疾患. 第16回北陸オフサルミックフォーラム. オンライン. 2022年10月2日.
70. 山田昌和: オキュラーサーフェス: 最近の話題. 第11回愛宕眼科フォーラム. 東京. 2022年10月3日.
71. 山田昌和: ジクアスLX点眼液3%の涙液層安定化持続メカニズム. 参天製薬WEB講演会. オンライン. 2022年10月7日.
72. 慶野博, 齋藤翔子, 佐藤康彦, 杉田直, 宮東昭彦, 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ: 転写因子 Nrf2 を介した実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎における炎症制御機構の検討. 第50回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2022年10月13日.
73. 平形明人, Abreu F, Jain N, Tang Y, Camino A, Haskova Z, 村田敏規: Treat - and - Extend - based dosing dynamics with faricimab in diabetic macular edema. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
74. 富田茜, 鈴木由美, 満川忠宏, 浜由起子, 山田昌和: 手術加療を要した急性後天性共同性内斜視の検討. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
75. 重安千花, 山田昌和, 宮田世羽, 久須見有美, 白石敦, 内山由里, 松本直通: Peters plus-like 症候群を呈した 8q21.11 微細欠失症候群. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
76. 長堀克哉, 林勇海, 慶野博, 中山真紀子, 安藤良将, 齋藤翔子, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 眼サルコイドーシス国際診断基準の眼所見を用いた特発性ぶどう膜炎の分類. 第75回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
77. 山本雅, 久須見有美, 重安千花, 山田昌和: PD-L1 阻害薬 (Atezolizumab) による両眼性の周辺性輪状角膜浸潤の1例. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
78. 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 平形明人: インストラクションコース: 硝子体手術クエスチョンバンク薬剤活用編. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
79. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: 眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾5, 臨床疫学研究論文の組み立て方. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月13日.
80. 厚東隆志: 網膜硝子体手術, 画像のデジタル化とその進化. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月14日.
81. 厚東隆志: 超広角眼底画像ケースカンファレンス. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月14日.
82. 竹内大, 白井嘉彦, 南場研一, 慶野博, 竹内正樹, 高瀬博, 鴨居功樹, 長谷敬太郎, 伊東崇子, 中井慶, 丸山和一, 小林恵里, 堀純子, 真下永, 佐藤智人, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 園田康平, 後藤浩, 水木信久: ベーチェット病ぶどう膜炎に対するインフリキシマブ治療の10年の検討: 多施設研究第2報. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月14日.
83. 小野江元, 板垣可奈子, 丸子一朗, 宮良安宣, 中山真紀子, 田中公二, 若月優, 小笠原雅, 向井亮, 和泉雄彦, 河合萌子, 丸子留佳, 長谷川泰司, 湧川空子, 寺尾信宏, 山本亜希子, 片岡恵子, 岡田アナベルあやめ, 古泉英貴, 飯田知弘, 石龍鉄樹, 森隆三郎: 滲出型加齢黄斑変性に対するラニビズマブのバイオシミラー薬硝子体内注射の短期成績. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月14日.
84. 山田昌和: ドライアイ: 抗炎症療法の出番. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月15日.
85. 厚東隆志: 保険からはみ出さないIOL選択と硝子体手術. 第56回RETINの会. 東京. 2022年10月15日.
86. 小澤仁美, 原章人, 熊井しんたろう, 眞田笑吉, 村野祐司, 梶村陽一, 荻野芳彦, 前田晃宏, 平形明人, 井

- 上真, 厚東隆志: Heads-up surgeryシステムにおける画像表示特性の評価. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月15日.
87. 上野勇太, 小田昌宏, 山口剛史, 前田直之, 福岡秀記, 子島良平, 原祐子, 横川英明, 神谷和孝, 山田昌和, 江口洋, 三田村浩人, 白井智彦, 猪俣武範, 篠崎和美, 堀裕一, 宮崎大, 近間泰一郎, 原田一宏, 岡田由香, 森健策, 大鹿哲郎: 前眼部カラー写真を用いた前眼部疾患9分類のAI自動判定の試み. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月15日.
88. 太田光, 片岡恵子, 武内潤, 中野友哉子, 堀口悦代, 滝陽輔, 西口康二: afliberceptからbrolucizumabに切替えた滲出型加齢黄斑変性の1年経過. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月15日.
89. 山田昌和: ご存じですか? アイフレイル. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月16日.
90. 厚東隆志: 多量な網膜下血腫を来たした症例へのアプローチ. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月16日.
91. 田邊知佳, 片岡恵子, 吉川祐司, 中山真紀子, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ: 中心性漿液性脈絡網膜症の慢性化に関連する因子の検討. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月16日.
92. 中村光一, 武内潤, 片岡恵子, 浅井景子, 中野友哉子, 堀口悦代, 滝陽輔, 太田光, 伊藤逸毅, 寺崎浩子, 西口康二: 慢性中心性漿液性脈絡網膜症に対する半量光線力学療法の成績と黄斑部新生血管の合併率. 第76回日本臨床眼科学会. 東京・オンライン. 2022年10月16日.
93. 川崎良, 阿久根陽子, 平塚義宗, 山田昌和: AI自動診断システムを糖尿病網膜症のスクリーニングに導入する際の費用対効果. 第28回日本糖尿病眼科学会. 京都・オンライン. 2022年10月21日.
94. 福田泰雄, 石田友香, 井上真: 術後眼内炎との鑑別を要した未治療糖尿病患者の白内障術後早期の糖尿病性虹彩炎の一例. 第28回日本糖尿病眼科学会総会. 京都・オンライン. 2022年10月22日.
95. 厚東隆志: Optosでここが見たい! 撮りたい! コツを教えます!. 第63回日本視能矯正学会. 大阪・オンライン. 2022年10月22-23日.
96. 石田友香: 日常臨床における広角眼底写真Optosの活用方法. 第63回日本視能矯正学会. 大阪・オンライン. 2022年10月22-23日.
97. 厚東隆志: レアケースから思う網膜硝子体の病態生理. THE VITRECTOMY 2022. オンライン. 2022年10月26日.
98. 北善幸: 緑内障手術治療一観血的治療法の選択とタイミング. Tokyo Ailamide Week アイラミド配合懸濁性点眼液発売2周年記念. オンライン. 2022年10月27日.
99. 厚東隆志: 糖尿病黄斑浮腫の診断と治療. 第11回多摩眼科学術セミナー. 東京. 2022年10月29日.
100. 水野雅春: 杏林アイセンターにおけるコロナ禍の裂孔原性網膜剥離に対する手術成績. 第24回西東京眼科フォーラム. 東京. 2022年11月2日.
101. 安藤良将, 山本雅, 松本杏奈, 久須見有美, 藤井かな, 重安千花, 山田昌和: アトピー性皮膚炎患者の結膜嚢常在細菌叢と内眼手術. 第24回西東京眼科フォーラム. 東京. 2022年11月2日.
102. 井上真: 糖尿病網膜症治療アップデート. 第11回帝京川崎眼科病診連携の会. 川崎. 2022年11月5日.
103. 平形明人: 強度近視眼の網膜硝子体手術の課題. 第139回佐賀大学眼科臨床懇話会. オンライン. 2022年11月5日.
104. 山田昌和: ドライアイ診療アップデート. 瀬戸内眼科コロシウム2022. 広島・オンライン. 2022年11月5日.
105. 平形明人: 強度近視眼の網膜硝子体手術の課題. 瀬戸内眼科コロシウム2022. 広島・オンライン. 2022年11月6日.
106. 井上真: 糖尿病網膜症への治療戦略. Diabetes Mellitus Joint Meeting. さいたま・オンライン. 2022年11月11日.
107. 井上真: 糖尿病と眼病変〜目からうろこの話. 杏林医学会総会・市民公開講演会. オンライン. 2022年11月19日.
108. 慶野博, 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ: 杏林アイセンターにおける特発性ぶどう膜炎患者の臨床像と視力予後の検討. 第51回杏林医学会総会. 三鷹. 2022年11月19日.
109. Ishida T: Proliferative vitreoretinopathy in pediatric cases. the 15th Asia-Pacific Vitreoretina Society (APVRS). Taiwan. November 19. 2022.
110. 渡辺龍之介, 矢田長洋, 山本雅, 北善幸, 山田昌和: 低侵襲緑内障手術中に上脈絡膜出血を起こした1例. 第65回東京多摩地区眼科集談会. 三鷹. 2022年11月19日.
111. 山田昌和: アイフレイルと成人眼科検診. ビジョンケアセミナー2022. オンライン. 2022年11月23日.
112. 岡田アナベルあやめ: Border diseases: disorders that exist between uveitis and medical retina. 107th Retinal Lesion Discussion Meeting. 第107回網膜病変談話会. 東京・オンライン. 2022年11月24日.
113. 北善幸: 新しい緑内障手術治療とレーザー治療. 第3回西多摩Ophthalmic conference. 立川. 2022年11月25日.
114. 安藤理恵, 吉野浩, 宮澤永尚, 弦間友紀, 永根基雄, 鈴木由美, 成田雅美: 片眼失明後, 対側に発症した視神経膠腫に対し化学療法で視機能を温存している神経線維腫I型の一例. 第64回小児血液・がん学会学術集会. 東京. 2022年11月25日.
115. 山田昌和: ご存じですか? アイフレイル. 東京都眼科医会 目の健康講座. オンライン. 2022年11月26日.
116. 井上真: 3D Heads-up硝子体手術. -リアルタイム画像鮮明化装置 MIEr-術中動画像リアルタイム鮮明化の有用性を検証する. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
117. 厚東隆志, 廣田和成, 水野雅春, 石田友香, 吉川祐司, 中島康介, 高橋綾, 井上真: 杏林アイセンターにおける開放性眼外傷に対する一次的硝子体手術成績の検討. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
118. 片岡恵子, 向井亮, 湧川空子, 田中公二, 丸子一朗, 中山真紀子, 山本亜希子, 板垣可奈子, 小笠原雅, 本庄純一郎, 寺尾信宏, 宮良安宣, 小野江元, 若月優, 和泉雄彦, 河合萌子, 丸子留佳, 長谷川泰司, 森隆三郎, 古泉英貴, 石龍鉄樹, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ: afliberceptからfaricimabへの切り替えによる短期的効果. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
119. 片岡恵子: 抗VEGF薬の使い分け. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.

120. 吉川祐司, 中島康介, 高橋綾, 水野雅春, 石田友香, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真: 硝子体術後低眼圧と眼底自発蛍光検査で検出される線状低蛍光との関連の検討. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
121. 榮木悠, 吉川祐司, 片岡恵子, 熊谷知幸, 勝本武志, 渋谷雅之, 蒔田潤, 篠田啓: ポリブ状脈絡膜血管症に対するSTTA併用プロルシズマブ硝子体注射導入機の検討. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
122. Ohji M, Okada AA, Takahashi K, Machewitz T, Sasaki K, on behalf of the ALTAIR study investigators: Association of early fluid status with last treatment interval in AMD: ALTAIR. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
123. Inoda S, Takahashi H, Honda S, Kohno T, Nagai Y, Ohnaka M, Okada AA, Nakayama M, Matsumoto H, Mukai R, Kusahara S, Inoue Y, Iida T, Maruko I, Hayashi A, Nishiguchi K, Nishiguchi J, Mori R, Tanaka K, Sekyuru T, Itagaki K, Inoue M, Ikeda S, Koziyumi H, Miyahara Y, Yanagi Y: Intraocular inflammation following intravitreal brolocizumab for neovascular age-related macular degeneration in Japanese patients: meta-analysis using individual patient data. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月2日.
124. 石田友香, 平形明人, 厚東隆志, 廣田和成, 水野雅春, 井上真: 裂孔原性網膜剥離の傍眼における網膜周辺部色素性変化を伴う変性のOCT所見. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月3日.
125. 村田敏規, Haskova Z, Lin H, Mohan S, Silverman D, Tang Y, 平形明人: Faricimab in diabetic macular edema: 2-year results from YOSEMITE and RHINE. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月3日.
126. 近藤峰生, 齋藤航, 石田晋, 國吉一樹, 上野真治, 林孝彰, 中野匡, 早川卓浩, 角田和繁, 慶野博, 岡田アナベルあやめ, 中村考介, 秋山英雄: 多発消失性白点症候群 (MEWDS) の初診時視力に影響を与える因子. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月3日.
127. 厚東隆志: 術中OCT 基本と応用. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月4日.
128. 福田泰雅, 石田友香, 中島康介, 吉川祐司, 高橋綾, 水野雅春, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真: 黄斑円孔手術における腹臥位による術後網膜内出血の頻度. 第61回日本網膜硝子体学会総会. 大阪・オンライン. 2022年12月4日.
129. 厚東隆志: 手術の Art と Science. Fukuoka Vitrectomy Update Seminar. 福岡. 2022年12月9日.
130. 井上真: デジタル支援硝子体手術. 第53回東京都眼科医会研修会. オンライン. 2022年12月10日.
131. 北善幸: 新しい緑内障手術治療とレーザー治療. ロートニッテン株式会社社内講師招聘勉強会. オンライン. 2022年12月12日.
132. Inoue M: Image sharpening algorithm for 3D Heads-up surgery. PCV Summit 2023. オンライン. December 23, 2022.
133. Okada AA: Management of VKH disease. International Uveitis Study Group webinar 23. オンライン. January 6, 2023.
134. 井上真: 症例から学ぶ網膜硝子体手術戦略. 第55回神奈川県眼科臨床談話会. 川崎. 2023年1月9日.
135. 北善幸: おさえておこう! 新しい緑内障手術. グラナテック点眼液0.4% webカンファレンス. オンライン. 2023年1月12日.
136. 井上真: 症例報告. 第6回MIOSの会. 東京. 2023年1月28日.
137. 井上真: 黄斑円孔におけるvisco-dissection. 硝子体手術フォーラム2023. 留寿都. 2023年2月4日.
138. 厚東隆志: 網膜芽細胞腫治療中に増殖硝子体網膜症を合併した一例. 硝子体手術フォーラム2023. 留寿都. 2023年2月4日.
139. 石田友香: 小児PVRの一例. 硝子体手術フォーラム2023. 留寿都. 2023年2月4日.
140. 水野雅春: 慢性外傷による深部裂孔の網膜剥離. 硝子体手術フォーラム2023. 留寿都. 2023年2月4日.
141. 山田昌和, 松本杏奈, 山本雅: 新知りオネア! あなたを”角”付けチェック. 角膜カンファレンス2023. 横浜・オンライン. 2023年2月9日.
142. 篠崎昌俊, 重安千花, 久須見有美, 厚東隆志, 北善幸, 山田昌和: Posterior corneal vesicle様の内皮病変を伴ったRieger異常の1例. 角膜カンファレンス2023. 横浜・オンライン. 2023年2月10日.
143. 久須見有美, 重安千花, 山本雅, 安藤良将, 松本杏奈, 藤井かんな, 山田昌和: 角膜内皮異常眼の角膜形状解析. 角膜カンファレンス2023. 横浜・オンライン. 2023年2月10日.
144. 中村翔, 青木貴郁, 秋山陽一, 重安千花, 久須見有美, 山田昌和: ソフトコンタクトレンズ装用に伴う涙液層の評価. 角膜カンファレンス2023. 横浜・オンライン. 2023年2月10日.
145. Inoue M: Application of Intraoperative OCT. Surgical Retina Webinar. オンライン. February 11, 2023.
146. 石田友香: 若年者のRRD. 令和レチナの会. 東京. 2023年2月19日.
147. Inoue M: Autologous Retinal Transplantation for Macular Atrophy. The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO). Malaysia. February 23, 2023.
148. Inoue M: Intraoperative OCT. The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO). Malaysia. February 26, 2023.
149. Inoue M: Heads-up Surgery for Complicated Cases. The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO). Malaysia. February 26, 2023.
150. Kataoka K: Challenges in Management of Macular Neovascularization in Pathologic Myopia. The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO). Malaysia. February 26, 2023.
151. Suzuki Y, Mitsukawa T, Hama Y, Tomita A, Yamada M: Slanted lateral rectus recession for exotropia with convergence insufficiency in children. The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress (APAO). Malaysia. February 23-26, 2023.
152. 石田友香: 杏林アイセンターの小児手術の現状と課題. ホープの会. 東京. 2023年3月1日.
153. 岡田アナベルあやめ: Border diseases, COVID vaccines and thoughts about uveitis. 第47回ぶどう膜炎カンファレンス. 東京. 2023年3月3日.

154. 井上真：糖尿病黄斑浮腫治療アップデート．第4回岩手眼科フォーラム．オンライン．2023年3月4日．
155. 井上真：ガイドラインから学ぶ糖尿病網膜症への治療アップデート．第19回神奈川県眼科DMカンファレンス．川崎．2023年3月11日．
156. 井上真：DMEの現状と問題点．中外製薬社内講演会．いわき．2023年3月14日．
157. Inoue M: Complicated macular hole, hydrodissection or ART. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 25. 2023.
158. Kataoka K, Takeuchi J, Ota H, Nakano Y, Horiguchi E, Taki Y, Nakayama M, Yamamoto A, Ito Y, Terasaki H, Nishiguchi KM, Okada AA: Treatment outcomes of half-dose photodynamic therapy combined with aflibercept for pachychoroid neovascularopathy. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 25. 2023.
159. Ishida T: Treatment for the pediatric PVR cases. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 25. 2023.
160. Mizuno M, Nakajima K, Takahashi A, Ishida T, Hirota K, Koto T, Hirakata A, Inoue M: Effect of the COVID-19 Pandemic on Surgical Outcomes for Rhegmatogenous Retinal Detachments. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 25. 2023.
161. Tanabe C, Kataoka K, Yoshikawa Y, Nakayama M, Yamamoto A, Okada AA: Exploring factors associated with chronicity of central serous chorioretinopathy. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 25. 2023.
162. Inoue M: Retinaws. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 26. 2023.
163. Kataoka K: Panel session 2 What is the diagnosis?. *FujiRetina* 2023. Tokyo・オンライン. March 26. 2023.
- 論文**
- Abe S, Nakamura T, Okumura E, Oiwake T, Okada AA, Hayashi A: Long-term changes of choroidal blood flow velocity in Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 260.1933-1939. 2022.
 - Doi S, Kimura S, Saito S, Inoue M, Sakurai T, Kobori A, Hisatomi T, Imai H, Kuriyama S, Takasu I, Hosokawa MM, Shiode Y, Matoba R, Suzuki E, Morizane Y: Impact of macular intraretinal hemorrhage and macular hole on the visual prognosis of submacular hemorrhage due to retinal arterial microaneurysm rupture. *Retina*. 43. 585-593. 2023.
 - Habot-Wilner Z, Neri P, Okada AA, Agrawal R, Le NX, Cohen S, Fischer N, Kilmartin F, Coman A, Kilmartin D: COVID vaccine-associated uveitis. *Ocul Immunol Inflamm*. 2023. DOI:10.1080/09273948.2023.2200858. Epub.
 - Hayashi I, Keino H, Inoue M, Okada AA: Compromised blood flow of the optic nerve head in acute retinal necrosis. *Clin Exp Ophthalmol*. 50. 685-687. 2022.
 - Horiguchi E, Takeuchi J, Tomita R, Asai K, Nakano Y, Ota H, Taki Y, Ito Y, Terasaki H, Nishiguchi KM, Kataoka K: Choroidal hemodynamics in central serous chorioretinopathy after half-dose photodynamic therapy and the effects of smoking. *Sci Rep*. 12(1). 17032. 2022.
 - Inoue M, Koto T, Hirakata A: Large amplitude iris fluttering detected by consecutive anterior segment optical coherence tomography images in eyes with intrascleral fixation of an intraocular lens. *J Clin Med*. 11(15). 4596. 2022.
 - Inoue M, Koto T, Ota Y, Bissen-Miyajima H, Hirakata A: Evaluations of bridging sutures in preventing iris capture in eyes with intrascleral fixation of implanted intraocular lens. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 261(2). 427-434. 2023.
 - Jabs DA, Okada AA, McCluskey P: Response to Letter Reply to Comment on: "SUN Classification criteria for Vogt-Koyanagi-Harada disease". *Am J Ophthalmol*. 244. 230-231. 2022.
 - Jabs DA, McCluskey P, Palestine AG, Thorne JE, Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) Working Group (Okada AA): The Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) project. *Clin Exp Ophthalmol*. 2022. DOI:10.1111/ceo.14175. Online ahead of print.
 - Kawano S, Imai T, Sakamoto T; Japan-Retinal Detachment Registry Group (Hirakata A): Differences in primary retinal detachment surgery conducted on holidays and workdays analyzed using the Japan Retinal Detachment Registry. *Jpn J Ophthalmol*. 66(3). 271-277. 2022.
 - Keino H, Aman T, Furuya R, Nakayama M, Okada AA, Sunayama W, Hatanaka Y: Automated quantitative analysis of anterior segment inflammation using swept-source anterior segment optical coherence tomography: A Pilot Study. *Diagnostics (Basel)*. 12(11). 2703. 2022.
 - Keino H, Wakitani T, Sunayama W, Hatanaka Y: Quantitative Analysis of Retinal Vascular Leakage in Retinal Vasculitis Using Machine Learning. *Appl Sci*. 12(24). 12751. 2022.
 - Kita Y, Holló G, Mochizuki T, Emoto Y, Kita R, Hirakata A: Effect of topical pilocarpine instilled before laser peripheral iridotomy on regional iris thickness in primary angle closure disease: A Swept-Source Anterior Segment Optical Coherence Tomography Pilot Study. *Semin Ophthalmol*. 2023. DOI:10.1080/08820538.2023.2169580. Epub.
 - Kusuhara S, Shimura M, Kitano S, Sugimoto M, Muramatsu D, Fukushima H, Takamura Y, Matsumoto M, Kokado M, Kogo J, Sasaki M, Morizane Y, Utsumi T, Kotake O, Koto T, Terasaki H, Hirano T, Ishikawa H, Mitamura Y, Okamoto F, Kinoshita T, Kimura K, Yamashiro K, Suzuki Y, Hikichi T, Washio N, Sato T, Ohkoshi K, Tsujinaka H, Kondo M, Takagi H, Murata T, Sakamoto T: Japan Clinical Retina Study (J-CREST) group: Treatment of diabetic macular edema in real-world clinical practice: The effect of aging. *J Diabetes Investig*. 13(8). 1339-1346. 2022.
 - Mizuno M, Nakajima K, Takahashi A, Ishida T, Hirota K, Koto T, Hirakata A, Inoue M: Effect of the COVID-19 Pandemic on surgical outcomes for rhegmatogenous retinal detachments. *J Clin Med*. 12(4). 1522. 2023.
 - Mori R, Honda S, Gomi F, Tsujikawa A, Koizumi H, Ochi H, Ohsawa S, Okada AA: Efficacy,

- durability, and safety of faricimab up to every 16 weeks in patients with neovascular age-related macular degeneration: 1-year results from the Japan subgroup of the phase 3 TENAYA trial. *Jpn J Ophthalmol.* 2023. DOI:10.1007/s10384-023-00985-w. Epub.
17. Morikawa H, Nishina S, Torii K, Hosono K, Yokoi T, Shigeyasu C, Yamada M, Kosuga M, Fukami M, Saito H, Azuma N, Hori Y, Hotta Y: A pediatric case of congenital stromal corneal dystrophy caused by the novel variant c.953del of the DCN gene. *Hum Genome Var.* 10(1). 9. 2023.
 18. Nagahori K, Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Ando Y, Hayashi I, Abe S, Okada AA: Clinical features and visual outcomes of ocular sarcoidosis at a tertiary referral center in Tokyo. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 260(10). 3357-3363. 2022.
 19. Nakajima K, Inoue M, Mizuno M, Koto T, Ishida T, Ozawa H, Oshika T: Effects of image-sharpening algorithm on surgical field visibility during 3D heads-up surgery for vitreoretinal diseases. *Sci Rep.* 13(1). 2758. 2023.
 20. Nakajima K, Inoue M, Takahashi A, Yoshikawa Y, Mizuno M, Koto T, Ishida T, Oshika T: Image sharpening algorithms improve clarity of surgical field during 3D heads-up surgery. *Int J Retina Vitreous.* 9(1). 21. 2023.
 21. Nakamura K, Takeuchi J, Kataoka K, Ota H, Asai K, Nakano Y, Horiguchi E, Taki Y, Ito Y, Terasaki H, Nishiguchi KM: Effects of half-dose photodynamic therapy on chronic central serous chorioretinopathy with or without macular neovascularization assessed using optical coherence tomography angiography. *Retina.* 42(12).2346-2353. 2022.
 22. Nakano Y, Takeuchi J, Horiguchi E, Ota H, Taki Y, Ito Y, Terasaki H, Nishiguchi KM, Kataoka K: Long-term morphologic changes in macular neovascularization under aflibercept treatment with a treat-and-extend regimen. *Retina.* 43(3). 412-419. 2023.
 23. Nakayama M, Okada AA, Hayashi I, Keino H: COVID-19 vaccination-related intraocular inflammation in Japanese patients. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 261(3). 897-899. 2023.
 24. Nakayama M, Keino H, Watanabe T, Okada AA: Prognostic value of subfoveal choroidal thickness in new-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Clin Exp Ophthalmol.* 50(6). 678-680. 2022.
 25. Noji S, Mizuno M, Inoue M, Koto T, Hirakata A: Characteristics of subretinal particles detected after pars plana vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment. *BMC Ophthalmol.* 23(1). 115. 2023.
 26. Okada AA, Takahashi K, Ohji M, Moon SC, Machewitz T, Sasaki K, ALTAIR Study Investigators: Efficacy and safety of intravitreal aflibercept treat-and-extend regimens in exudative age-related macular degeneration: 96-week outcomes in the polypoidal choroidal vasculopathy subgroup. *Adv Ther.* 39(6). 2984-2998. 2022.
 27. Saito S, Keino H, Takasaki I, Abe S, Kohno H, Ichihara K, Hayashi I, Nakayama M, Tsuboshita Y, Miyoshi S, Okamoto S, Okada AA: Comparative analysis of serum microRNA in diagnosed ocular sarcoidosis versus idiopathic uveitis with ocular manifestations of sarcoidosis. *Int J Mol Sci.* 23(18). 10749. 2022.
 28. Sakamoto T, Terasaki H, Yamashita T, Shiihara H, Funatsu R, Uemura A: Japanese Retina and Vitreous Society (Hirakata A, Mizuno M): Increased incidence of endophthalmitis after vitrectomy relative to face mask wearing during COVID-19 pandemic. *Br J Ophthalmol.* 2022. DOI:10.1136/bjophthalmol-2022-321357. Epub.
 29. Sato Y, Saito S, Nakayama M, Sugita S, Kudo A, Keino H: Genetic ablation of Nrf2 exacerbates neuroinflammation in ocular autoimmunity. *Int J Mol Sci.* 23(19). 11715. 2022.
 30. Shimura M, Kitano S, Ogata N, Mitamura Y, Oh H, Ochi H, Ohsawa S, Hirakata A: YOSEMITE and RHINE Investigators: Efficacy, durability, and safety of faricimab with extended dosing up to every 16 weeks in Japanese patients with diabetic macular edema: 1-year results from the Japan subgroup of the phase 3 YOSEMITE trial. *Jpn J Ophthalmol.* 67(3). 264-279. 2023.
 31. Shigeyasu C, Yamada M, Miyata Y, Uchiyama Y, Matsumoto N, Kusumi Y, Shiraishi A: Ocular Manifestations of Peters Plus-like Syndrome in 8q21.11 Microdeletion Syndrome. *Cornea.* 2023. DOI:10.1097/ICO.0000000000003281. Epub.
 32. Takeuchi M, Usui Y, Namba K, Keino H, Takeuchi M, Takase H, Kamoi K, Hase K, Ito T, Nakai K, Maruyama K, Kobayashi E, Mashimo H, Sato T, Ohguro N, Hori J, Okada AA, Sonoda KH, Mizuki N, Goto H: Ten-year follow-up of infliximab treatment for uveitis in Behcet disease patients: a multicenter study. *Frontiers Med (Lausanne).* 2023. eCollection. DOI:10.3389/fmed.2023.1095423.
 33. Takeuchi J, Ota H, Nakano Y, Horiguchi E, Taki Y, Ito Y, Terasaki H, Nishiguchi KM, Kataoka K: Predictive factors for outcomes of half-dose photodynamic therapy combined with aflibercept for pachychoroid neovascularopathy. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 2023. DOI:10.1007/s00417-023-06030-3. Epub.
 34. Taki Y, Ito Y, Takeuchi J, Ito H, Nakano Y, Sajiki AF, Horiguchi E, Ota H, Kataoka K, Terasaki H: Displacement of the retina and changes in the foveal avascular zone area after internal limiting membrane peeling for epiretinal membrane. *Jpn J Ophthalmol.* 67(1). 74-83. 2023.
 35. Tanaka K, Koizumi H, Tamashiro T, Itagaki K, Nakayama M, Maruko I, Wakugawa S, Terao N, Onoe H, Wakatsuki Y, Kasai A, Ogasawara M, Shintake H, Sugano Y, Yamamoto A, Kataoka K, Hasegawa T, Izumi T, Kawai M, Maruko R, Sekiryu T, Okada AA, Iida T, Mori R: Short-term results for brolocizumab in treatment-naïve neovascular age-related macular degeneration: a Japanese multicenter study. *Jpn J Ophthalmol.* 66(4). 379-385. 2022.
 36. Umazume A, Ohguro N, Okada AA, Namba K, Sonoda K, Tsuruga H, Morita K, Goto H: Use of systemic corticosteroids in patients newly

- diagnosed with non-infectious uveitis: results from a real-world database analysis. *Jpn J Ophthalmol.* 66(4). 394-404. 2022.
37. Ung C, Yonekawa Y, Chung MM, Berrocal AM, Kusaka S, Oshima Y, Chan RVP, Inoue M, Read SP, Kuriyan AE, Todorich B, Thanos A, Thomas BJ, Wolfe JD, Hassan TS, Capone A Jr: 27-Gauge pars plana/plicata vitrectomy for pediatric vitreoretinal surgery. *Retina.* 43(2). 238-242. 2023.
 38. Watanabe T, Hiratsuka Y, Kita Y, Tamura H, Kawasaki R, Yokoyama T, Kawashima M, Nakano T, Yamada M: Combining Optical Coherence Tomography and Fundus Photography to Improve Glaucoma Screening. *Diagnostics (Basel).* 12(5). 1100. 2022.
 39. Yamakiri K, Sakamoto T, Koriyama C, Kawasaki R, Baba T, Nishitsuka K, Koto T, Terasaki H; Japan Retinal Detachment Registry (Hirakata A): Effect of surgeon-related factors on outcome of retinal detachment surgery: analyses of data in Japan-retinal detachment registry. *Sci Rep.* 12(1). 4213. 2022.
 40. Yasaka Y, Hasegawa E, Keino H, Usui Y, Maruyama K, Yamamoto Y, Kaburaki T, Iwata D, Takeuchi M, Kusuhara S, Takase H, Nagata K, Yanai R, Kaneko Y, Iwahashi C, Fukushima A, Ohguro N, Sonoda KH; JOIS Uveitis Survey Working Group: A multicenter study of ocular inflammation after COVID-19 vaccination. *Jpn J Ophthalmol.* 67(1). 14-21. 2023.
 41. Yogeswaran K, Furtado JM, Bodaghi B, Matthews JM, International Ocular Toxoplasmosis Study Group (including Okada AA), Smith JR: Current practice in the management of ocular toxoplasmosis. *Br J Ophthalmol.* 2022. DOI:10.1136/bjophthalmol-2022-321091. Online ahead of print.
 42. Yoshida Y, Ono K, Tano T, Hiratsuka Y, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Yamada M, Fukuhara S, Murakami A: Corneal Eccentricity in a Rural Japanese Population: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study (LOHAS). *Ophthalmic Epidemiol.* 29(5). 531-536. 2022.
 43. Yoshikawa Y, Koto T, Ishida T, Uehara T, Yamada M, Kosaki K, Inoue M: Rhegmatogenous retinal detachment in musculocontractural Ehlers-Danlos syndrome caused by biallelic loss-of-function variants of gene for dermatan sulfate epimerase. *J Clin Med.* 12(5). 1728. 2023.
 44. 井上真: 機器・薬剤紹介 医療用リアルタイム画像鮮明化装置MIer (ロジック・アンド・デザイン). *眼科.* 65巻3号. 2023. 271-276.
 45. 井上真: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 感染性眼内炎. *日本医事新報.* 5127号. 49-50. 2022.
 46. 井上真: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 黄斑円孔. *日本医事新報.* 5128号. 51-52. 2022.
 47. 岡田アナベルあやめ: Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) ワーキンググループの機械学習によるぶどう膜炎分類基準. *日眼会誌.* 126巻(10). 907-916. 2022.
 48. 山田昌和, 平塚義宗: 特定健診における眼底検査のリポジショニング. *日の眼科.* 93巻(4). 484-485. 2022.
 49. 山田昌和: 角結膜疾患の病診連携 角結膜疾患の他科連携. *あたらしい眼科.* 39巻(臨増). 199-203. 2022.
 50. 山田昌和: 角膜の生理とコンタクトレンズ. *日コレ誌.* 64巻(2). 72-76. 2022.
 51. 山田昌和: 涙液の生理とコンタクトレンズ. *日コレ誌.* 64巻(4). 162-167. 2022.
 52. マイボーム腺機能不全診療ガイドライン作成委員会 (山田昌和, 重安千花): マイボーム腺機能不全診療ガイドライン. *日眼会誌.* 127巻(2). 109-228. 2023.
 53. 慶野博, 齋藤翔子, 中山真紀子, 林勇海, 長堀克哉, 安藤良将, 佐藤康彦, 岡田アナベルあやめ, 阿部慎也, 神野英生, 市原巧介, 砂山渡, 畑中裕司, 坪下幸寛, 高崎一郎, 宮東昭彦, 杉田直: 眼科診断・治療のイノベーション 眼炎症性疾患における炎症活動性の定量的評価法の確立と新たな治療戦略を目指して. *日眼会誌.* 127巻(3). 367-398. 2023.
 54. 慶野博: 眼科医の手引き 学術委員会編 小児ぶどう膜炎初期診療の手引き. *日の眼科.* 93巻(5). 640-641. 2022.
 55. 慶野博: 【知っておきたいOCT, OCTAの活用法 わかりやすい臨床講座】OCT, OCTAを活用したぶどう膜炎診療. *日の眼科.* 93巻(6). 756-762. 2022.
 56. 慶野博: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 強膜炎, 上強膜炎. *日本医事新報.* 5145号. 46-47. 2022.
 57. 厚東隆志: 【眼科再手術】黄斑疾患の再手術. *眼科手術.* 35巻(4). 542-550. 2022.
 58. 鈴木由美: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 睫毛内反. *日本医事新報.* 5112巻. 50-51. 2022.
 59. 片岡恵子, 渡邊裕斗, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: 当院におけるナビゲーションレーザーシステム Navilas®577sの使用経験第. *眼臨紀.* 16巻(1). 56. 2023.
 60. 片岡恵子: 【最新臨床研究から探る眼科臨床のギモンQ&A】網膜硝子体 全身副作用の発現頻度は抗VEGF薬の種類によって異なりますか?. *臨眼.* 76巻(11). 218-220. 2022.
 61. 片岡恵子: 【眼科外来診療クオリティアップ】メディカルレティナ 抗VEGF薬硝子体内注射の流れ. *あたらしい眼科.* 39巻臨増. 271-275. 2022.
 62. 片岡恵子: 【眼科医が知っておきたい薬剤の副作用】抗VEGF薬の副作用. *あたらしい眼科.* 40巻(1). 57-60. 2023.
 63. 水野雅春, 石田友香, 高橋綾, 安藤良将, 加藤悠, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 裂孔原性網膜剥離に対する非復位因子の検討. *日眼会誌.* 127巻(2). 85-91. 2023.
 64. 水野雅春: 手術手技のコツ 難治性黄斑円孔に対する意図的網膜剥離を併用した硝子体手術. *眼科手術.* 35巻(4). 630-632. 2022.
 65. 矢田長洋, 鈴木由美, 満川忠宏, 浜由起子, 富田茜, 山田昌和: 小児期発症の内斜視術後に外斜視に移行した症例の検討. *眼科.* 64巻(4). 365-371. 2022.
 66. 伊藤大, 山田健司, 重安千花, 柳沼重晴, 久須見有美, 山田昌和: 慢性涙嚢炎を背景とした大腸菌感染により角膜穿孔を呈した1例. *臨眼.* 76巻(6). 747-752. 2022.
 67. 熊谷真里子, 中山真紀子, 江本宣暢, 山本亜希子, 岡

- 田アナベルあやめ：網膜色素線条に合併した脈絡膜新生血管に対する抗血管内皮増殖因子の治療成績．あたらしい眼科．39巻(9)．1277-1280．2022．
68. 大岩未来，鈴木由美，富田茜，満川忠宏，北善幸，山田昌和：小児における斜視手術後副腎皮質ステロイド点眼による眼圧への影響．日眼会誌．126巻(12)．1039-1045．2022．
69. 田邊知佳，片岡恵子，中山真紀子，山本亜希子，岡田アナベルあやめ：中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)の慢性化に関連する因子の検討．眼臨紀．16巻(1)．56．2023．
70. 重安千花，山田昌和：コンタクトレンズによる重篤な眼障害の全国調査より得たこと．臨眼．76巻(9)．1193-1199．2022．
71. 重安千花，山田昌和：【指定難病と医療助成】前眼部形成異常・無虹彩症．あたらしい眼科．39巻(12)．1571-1577．2022．
72. 重安千花，山田昌和：コンタクトレンズによる重篤な眼障害の全国調査のご紹介．日の眼科．93巻(7)．902-903．2022．
73. 新井千賀子，尾形真樹，小田浩一，平形明人：読書用ロービジョンエイドの選定に関するアウトカム研究．臨眼．76巻(10)．1408-1415．2022．
74. 米谷昇子，篠崎優子，鈴木由美：小児眼科手術におけるプレパレーションの取り組み．日視機能看会誌．7巻．6-9．2022．
- 乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．726-727．
10. Okada AA: Behçet's disease. Ophthalmology 6th Edition. Yanoff M, Duker J Eds. Elsevier. 2023. 760-763.
11. 岡田アナベルあやめ(分担執筆)：眼トキソプラズマ症．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．565-568．
12. 岡田アナベルあやめ(分担執筆)：眼トキソカラ症．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．568-569．
13. 岡田アナベルあやめ(分担執筆)：眼ヒストプラズマ症．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．569-570．
14. 飯田知弘，近藤峰生，中村誠，山田昌和(共編)：眼科検査ガイド 第3版．文光堂．2022．
15. 山田昌和(分担執筆)：前眼部写真の撮影法．眼科検査ガイド 第3版．飯田知弘，近藤峰生，中村誠，山田昌和 編集．文光堂，2022．368-369．
16. 大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一(共編)：今日の眼疾患治療指針第4版．医学書院．2022．
17. 山田昌和(分担執筆)：点眼と洗眼．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．245-246．
18. 山田昌和(分担執筆)：角膜上皮の沈着物．今日の眼疾患治療指針 第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．462-464．
19. 山田昌和(分担執筆)：角膜実質の沈着物．今日の眼疾患治療指針 第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．464-465．
20. 山田昌和(分担執筆)：細隙灯顕微鏡の観察法．新篇眼科プラクティス2 細隙灯顕微鏡の徹底活用．園田康平 編集．文光堂．2022．16-21．
21. 山田昌和(分担執筆)：フリクテン性角結膜炎．新篇眼科プラクティス4 眼科薬物療法リファレンス．大鹿哲郎，園田康平，近藤峰生，稲谷大 編集．文光堂．2022．50-51．
22. 山田昌和(分担執筆)：院内感染対策．新篇眼科プラクティス6 視能訓練士スキルアップ．大鹿哲郎，南雲幹 編集．文光堂．2022．38-39．
23. 山田昌和(分担執筆)：角膜疾患．視能検査学第2版．和田直子，小林昭子，中川真紀，若山暁美 編集．医学書院．2023．321-323．
24. 慶野博(分担執筆)：急性前部ぶどう膜炎．所見から考えるぶどう膜炎 第2版．園田康平，後藤浩 編集．医学書院．2022．143-241．
25. 慶野博(分担執筆)：感染性ぶどう膜炎，悪性腫瘍の鑑別ー抗炎症療法を開始する前にー．眼科プラクティス8ぶどう膜炎の心得．園田康平 編集．文光堂．2022．35-38．
26. 慶野博(分担執筆)：ぶどう膜炎に対する免疫抑制薬，代謝拮抗薬．基本から学ぶ！ぶどう膜炎診療のポイント．OCULISTA．111号．2022．43-50．
27. 慶野博(分担執筆)：レーザーフレアメーター．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．2022．65-67．
28. 慶野博(分担執筆)：真菌性眼内炎．今日の眼疾患治

令和3年度追加分

1. 多田明日美，岩橋千春，中井慶，南場研一，岡田アナベルあやめ，慶野博，高瀬博，福田祥子，後藤浩，臼井嘉彦，蕪城俊克，水木信久，安積淳，園田康平，武田篤信，大黒伸行：結核性ぶどう膜炎の臨床像と治療の検討．日眼会誌．125巻(4)．415-424．2021．

著書

1. 井上真(分担執筆)：外傷性黄斑円孔．新篇眼科プラクティス5 眼科救急治療-まったなし！急がば学べ．恩田秀寿，大鹿哲郎 編集．文光堂．2022．56-60．
2. 井上真(分担執筆)：黄斑パッカー．眼科臨床エキスパート 黄斑疾患診療A to Z 第2版．岸章治，吉村長久 編集．医学書院．2022．156-162．
3. 井上真(分担執筆)：黄斑上膜．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．669-671．
4. 井上真(分担執筆)：硝子体黄斑牽引症候群．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．671．
5. 平形明人(分担執筆)：乳頭ピット(小窩)黄斑症．新篇眼科プラクティス3 OCTとOCTAが，わかる！役立つ！．近藤峰生 編集．文光堂．2022．72-74．
6. 平形明人(分担執筆)：乳頭ピット(小窩)黄斑症．眼科臨床エキスパート 黄斑疾患診療A to Z 第2版．岸章治，吉村長久 編集．医学書院．2022．163-168．
7. 平形明人(分担執筆)：近視性牽引黄斑症(近視性中心窩分離症)．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．632-634．
8. 平形明人(分担執筆)：乳頭小窩(ピット)黄斑症候群．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一乃，石川均，相原一 編集．医学書院．2022．724-726．
9. 平形明人(分担執筆)：朝顔症候群．今日の眼疾患治療指針第4版．大路正人，後藤浩，山田昌和，根岸一

- 療指針第4版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川均, 相原一 編集. 2022. 573-575.
29. 慶野博(分担執筆): 全眼球炎. 今日の眼疾患治療指針第4版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川均, 相原一 編集. 2022. 575-576.
 30. 厚東隆志(分担執筆): 増殖硝子体網膜症(PVR). 新篇眼科プラクティス3 OCTとOCTAが, わかる! 役立つ!. 近藤峰生 編集. 文光社. 2022. 170-171.
 31. 鈴木由美(分担執筆): 斜視・弱視 弱視治療のインフォームド・コンセント. あたらしい眼科. 39巻臨増. 2022. 155-160.
 32. 鈴木由美(分担執筆): ファーストステップ! 子どもの視機能をみる. -スクリーニングと外来診療-. 仁科幸子, 林思音 編集. 全日本病院出版会. 2022. 233-235.
 33. 片岡恵子(分担執筆): 脈絡膜の正常OCT所見. 新篇眼科プラクティス3 OCTとOCTAが, わかる! 役立つ!. 近藤峰生 編集. 文光堂. 2022. 26-29.
 34. 片岡恵子(分担執筆): 日光網膜症. 今日の眼疾患治療指針第4版. 大路正人, 後藤浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川均, 相原一 編集. 2022. 1014-1015.
 35. 中山真紀子(分担執筆): Vogt-小柳-原田病. 新篇眼科プラクティス3 OCTとOCTAが, わかる! 役立つ!. 近藤峰生 編集. 文光堂. 2022. 182-183.
 36. 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ(分担執筆): SUN眼内炎症所見のグレーディングとその使用方法. 新篇眼科プラクティス8 ぶどう膜炎の心得. 園田康平 編集. 文光堂. 2023. 33-34.

報告書

1. 山田昌和, 重安千花, 久須見有美: 分担研究報告書「前眼部形成異常の診療ガイドラインの普及・啓発活動」. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)). 「前眼部難病の標準的診断基準およびガイドライン作成に関する研究」. 2022.

その他

1. 山田昌和: 角膜カンファレンス2023(第47回日本角膜学会・第39回日本角膜移植学会). パシフィコ横浜. 2023年2月9日-11日. 学会主催.
2. 岡田アナベルあやめ: 国際コミュニケーション. 日本網膜硝子体学会 Leadership Development Program. 2022年4月30日.
3. Okada AA: Interview on "Vogt-Koyanagi-Harada Disease". the India Society of Uveitis Newsletter Edition #5 Volume #1. 2023年2月.
4. 山田昌和: 「目の日焼け」症状は? 子どもの時から目の紫外線対策が必要?. NHKニュースウェブ. 2022年6月29日.
5. 山田昌和: 目の健康, アイフレイルを知ろう. J:COM テレビ市民講座. 2022年6月1日.
6. 山田昌和: 目の疲れはドライアイによる角膜の傷でも起きる. 夕刊フジ. 2022年10月9日.
7. 山田昌和: 子どものドライアイ増加. 中日新聞. 2023年1月13日.

耳鼻咽喉科学教室

講演

1. 内藤翔司, 横井秀格, 猪股浩平, 田中栞, 齋藤康一郎,

嶋崎鉄平, 尾崎峰: 術後長期経過の後に硬膜外膿瘍を発症した浸潤型副鼻腔真菌症の一例. 第2回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会. 弘前. 2022年4月14日.

2. 池田哲也, 里見貴史, 湯本愛実, 手塚里奈, 福本春奈, 秋葉真由, 佐藤瞳, 小沼緋奈子, 宇都宮紀子, 齋藤康一郎: 下顎骨骨髓炎が大腿骨頭慢性骨髓炎の誘発因子の一部であると考えられた1例~当院周術期管理センターでの取り組みについて~. 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会. 第2回国際口腔ケア学会総会・学術大会. 大阪・オンライン. 2022年4月23日.
3. 佐藤瞳, 池田哲也, 湯本愛実, 手塚里奈, 福本春奈, 秋葉真由, 小沼緋奈子, 里見貴史, 宇都宮紀子, 齋藤康一郎: 周術期管理センターにて口腔評価を行うことで口腔癌が検出された2例. 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会. 第2回国際口腔ケア学会総会・学術大会. 大阪・オンライン. 2022年4月23日.
4. 池田哲也, 里見貴史, 湯本愛実, 手塚里奈, 齋藤康一郎: 難治性特発性血小板減少性紫斑病患者にたいしてトロンボポエチン受容体作動薬を術前投与し抜歯を行った一例. 第31回日本有病者歯科医療学会. オンライン. 2022年4月30日.
5. 横井秀格, 川田往嗣, 松本祐磨, 齋藤康一郎: アレルギー性鼻炎(AR)モデルマウスにおけるGalaninとGalanin受容体2型の関与について-第2報-. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会. 神戸・オンライン. 2022年5月25日.
6. 村上諄, 増田正次, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 木村泰彰, 奥羽護, 直井友樹, 齋藤康一郎: 急性低音障害型感音難聴における高周波数領域の聴力低下に関する検討. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会. 神戸・オンライン. 2022年5月27日.
7. 南修司郎, 大石直樹, 高橋優宏, 樫尾明憲, 吉田晴郎, 白井杏湖, 山口知子, 館田勝, 赤木祐介, 増田佐和子, 加藤健, 西村洋, 小島敬史, 山田浩之, 新田清一, 増田正次, 和佐野浩一郎, 松永達雄, 加我君孝: ToMMo健聴データバンクと比較した両側高度重度難聴者の全能Surface-based Morphometry. 第123回日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会総会・学術講演会. 神戸・オンライン. 2022年5月28日.
8. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CTを用いた気管の大きさと形態についての検討. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会. 神戸・オンライン. 2022年5月27日.
9. 横井秀格: 鼻副鼻腔・顔面疾患における歯性感染症の関与について&アレルギー性鼻炎の病態における神経ペプチドの関与. 第113回山形県耳鼻咽喉科疾患研究会. 山形. 2022年6月11日.
10. 横井秀格: 通年性アレルギー性鼻炎-病態及び特性からの治療戦略-. Upper airway disease. オンライン. 2022年6月22日.
11. 横井秀格: Type2炎症が病態である好酸球性副鼻腔炎におけるデュピルマブの効果と課題. 第2回領域を越えたアレルギー疾患へのアプローチ. 三鷹. 2022年7月13日.
12. 齋藤康一郎: 学会のこれから: with & afterコロナ時代の未来像. 第17回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. 富山. 2022年7月21日.
13. 直井友樹, 宮本真, 奥羽護, 齋藤康一郎: 熱湯による顔面・上半身熱傷と喉頭熱傷をきたした1歳男児例. 第17回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. 富山. 2022年7月22日.
14. 宮本真, 齋藤康一郎: 小児と成人の声帯長・膜様部長から変声開始を推定する. 第17回日本小児耳鼻咽喉

- 科学会総会・学術講演会. 富山. 2022年. 7月22日.
15. 横井秀格: Type2炎症が病態である好酸球性鼻副鼻腔炎におけるデュピルマブの効果と課題. Inflammation Area Meeting in Tama. 武蔵野市. 2022年9月1日.
 16. 横井秀格: 鼻副鼻腔領域の感染症 - 鼻性視神経炎及び歯性感染症の関与にfocusを置いて -. 渋谷区耳鼻咽喉科医会学術講演会. 東京. 2022年9月22日.
 17. 齋藤康一郎: Phonomicrosurgery-Surgical management of RRP. 第16回世界音声言語医学会総会・学術講演会. 京都. 2022年10月13日.
 18. 猪股浩平, 横井秀格, 内藤翔司, 松本祐磨, 田中栞, 藤原正親, 柴原純二, 高山信之, 齋藤康一郎: 当院で診断・加療を行った鼻副鼻腔悪性リンパ腫64症例の臨床的検討. 第61回日本鼻科学会総会・学術講演会. 金沢・オンライン. 2022年10月13日.
 19. 横井秀格, 猪股浩平, 内藤翔司, 田中栞, 栗原正親, 齋藤康一郎: IgG4関連疾患 (IgG4) とオーバーラップを示唆した好酸球性鼻副鼻腔炎のデュピルマブ奏効の1例. 第61回日本鼻科学会総会・学術講演会. 金沢・オンライン. 2022年10月13日.
 20. 村上諄, 増田正次, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 奥羽讓, 坂本龍太郎, 深山善子, 守田雅弘, 齋藤康一郎: 耳管の能動的開大能と通過性の評価におけるトインビー法の有用性. 第32回日本耳科学会総会・学術講演会. 横浜・オンライン. 2022年10月20日.
 21. 東野正明, 齋藤康一郎, 塚原清彰, 兵頭政光, 平林秀樹, 河田了: 気管切開術とその術後管理に関する全国実態調査. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月3日.
 22. 齋藤康一郎: 経皮的気道確保. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月3日.
 23. 唐帆健浩: 高齢者の気管食道疾患「高齢者における嚥下障害の問題点と対応. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月3日.
 24. 渡邊格: 当院における喉頭乳頭腫の治療～外来日帰りレーザー手術を中心に～. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月4日.
 25. 奥羽讓, 宮本真, 直井友樹, 齋藤康一郎: あくびを契機に症状が出現した茎状突起過長症の1例. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月4日.
 26. 直井友樹, 宮本真, 猪股浩平, 齋藤康一郎: 舌骨の機械的刺激が原因と考えられた脳梗塞患者に舌骨を行った2症例. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月4日.
 27. 宮本真, 齋藤康一郎, 奥羽讓, 中川秀樹: 小児喉頭の形態学的特徴の検討. 第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会. 宜野湾. 2022年11月4日.
 28. 宮本真, 齋藤康一郎: 出生時より二重声を認めた男児の1例. 第67回日本音声言語医学会総会・学術講演会. 京都・オンライン. 2022年11月24日.
 29. 齋藤康一郎: 小児の音声障害の取り扱い. 第67回日本音声言語医学会総会・学術講演会. 京都・オンライン. 2022年11月24日.
 30. 間藤翔悟, 渡邊格, 宮本真, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 難治性慢性咳嗽に対するSpeech and Language Therapy(SLT)の効果. 第67回日本音声言語医学会総会・学術講演会. 京都・オンライン. 2022年11月24日.
 31. 齋藤伸夫: 造影MRIによる難聴・めまい症例のうちリンパ水腫診断. 第35回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携会議・講習会. 三鷹・オンライン. 2023年1月11日.
 32. Saito K : 3D Visualization of Laryngeal Framework and Airway using Ultra-high Resolution Computed Tomography(UHRCT). IFOS UBAI ENT WORLD CONGRESS 2023. アラブ首長国連邦. 2023年1月18日.
 33. Saito K : Awake Laryngeal Surgery: Moving from Old School to the Future- Paradigm shift in phonosurgery “OR to Office”. IFOS DUBAI ENT WORLD CONGRESS 2023. アラブ首長国連邦. 2023年1月18日.
 34. Saito K : RRP - Surgical Management of RRP -. IFOS DUBAI ENT WORLD CONGRESS 2023. アラブ首長国連邦. 2023年1月19日.
 35. 齋藤康一郎: 当院における嚥下障害診療の現状と周辺の話. 中野区・中野区医師会・中野区歯科医師会共催 令和4年度摂食えん下機能支援事業 第3回多職種向け研修会. 東京・オンライン. 2023年1月31日.
 36. 齋藤康一郎: 感染症に敏感な社会における耳鼻咽喉科診療での内視鏡管理について考える. 第33回日本気管食道科学会認定 気管食道科専門医大会. 倉敷・オンライン. 2023年2月19日.
 37. 齋藤康一郎: マイクロフラップ手術. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 京都. 2023年3月9日.
 38. 伊豆原久枝, 宮本真, 齋藤康一郎: 声門後部橋状癒着に対して外来レーザー治療が奏功した1例. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 京都. 2023年3月10日.
 39. 宮本真, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 嘔声と話にくさの原因が甲状腺機能低下症であった1例. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会. 京都. 2023年3月10日.
 40. 原野桃太郎, 猪股浩平, 増田正次, 佐藤大, 小野修平, 加藤泰奈, 雪野広樹, 村上諄, 遠藤英仁, 長濱清隆, 藤原正親, 齋藤康一郎: 中咽頭腫瘍から心臓原発未分化多形肉腫 (Undifferentiated pleomorphic sarcoma)の診断に至った1例. 第238回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会学術講演会. 東京. 2023年3月18日.
 41. 池田哲也, 里見貴史, 手塚里奈, 三木貴仁, 齋藤康一郎: 顎骨壊死を伴った帯状疱疹(三叉神経第2枝領域)の1例. 第32回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会. 軽井沢・オンライン. 2023年3月18日.

論文

1. 間藤翔悟, 齋藤康一郎: 【いまさら聞けない音声障害と嚥下障害の疑問】音声治療の効果が期待できる加齢性音声障害とは. 耳鼻咽喉科. 1巻6号. 740-746. 2022.
2. 坂本龍太郎, 増田正次, 濱之上泰裕, 長濱清隆, 大原有紗, 尾川昌孝, 齋藤伸夫, 木村泰彰, 奥羽讓, 村上諄, 齋藤康一郎: 血清・中耳組織中IgG4高値を認めた中耳炎の1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 94巻4号. 383-390. 2022年.
3. 池田哲也, 齋藤康一郎: 周術期における新しい口腔管理について. 耳鼻咽喉科. 1巻6号. 842-849. 2022.
4. Kaga A¹, Ikeda T¹, Tachibana K², Tanaka R², Kondo H², Kawabata T³, Yorozu T⁴, Saito K⁵ (¹Department of Oral Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine, ³Clinical Research Center, ⁴Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of Otorhinolaryngology,

- Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): An innovative oral management procedure to reduce postoperative complications. *JTCVS Open*. 10. 442-453. 2022.
5. 南修司郎, 大石直樹, 高橋優宏, 樫尾明憲, 吉田晴郎, 白井杏湖, 増田佐和子, 加藤健, 西村洋, 小島敬史, 山田浩之, 新田清一, 増田正次, 松永達雄, 加我君孝: ToMMoの選別聴力検査に基づいた健聴群と難聴群, 及びNHOネットワーク高度重度難聴群の能皮質厚解析. *Audiology Japan*. 65巻5号. 338. 2022.
 6. 増田正次: 【真珠腫まるわかり!あなたの疑問にお答えします】手術術式 なぜこんなにたくさんある?. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 94巻10号. 811-817. 2022.
 7. 増田正次: 【外来診療のテクニック-匠に学ぶプロのコツ】耳疾患 耳管疾患に対する治療法選択のポイント. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 94巻6号. 420-425. 2022.
 8. 増田正次: 【結果の読み方がよくわかる!耳鼻咽喉科検査ガイド】聴覚検査 耳管機能検査. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 94巻5号. 26-37. 2022.
 9. 齋藤康一郎: 【薬にまつわる疑問に答える】耳鼻咽喉科頭頸部外科の症状別の薬 嗄声. *JOHNS*. 38巻9号. 1215-1218. 2022.
 10. 宮本真, 齋藤康一郎: 甲状披裂筋麻痺患者における高速度デジタル撮像検査所見についての検討. 耳鼻臨床. 115巻10号. 895-901. 2022.
 11. Yokoi H¹, Matsumoto Y¹, Kawada M¹, Sakurai H², Saito K¹(¹ Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pharmacology, Kyorin University School of Medicine): Pollen Allergy Screening with Allergen-Specific and Total Immunoglobulin E Titers. *Allergy Rhinol*. 2022. doi: 10.1177/21526575221079260.
 12. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 喉頭微細手術時に測定した成人声帯長, 声帯膜様部長の解析. *日耳鼻*. 125巻6号. 993-1000. 2022.
 13. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CTの再構築画像から計測した喉頭サイズの検討. *日気食会報*. 73巻6号. 356-362. 2022.
 14. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CTを用いた喉頭軟骨の骨化についての検討. *喉頭*. 34巻2号. 157-164. 2022.
 15. 宮本真: 嚥下障害の外科的治療. *杏林医会誌*. 53巻2号. 61-65. 2022.
 16. 宮本真: EILO (exercise-induced laryngeal obstruction) とは. *耳鼻咽喉科*. 1巻6号. 855-861. 2022.
 17. 宮本真, 齋藤康一郎, 中川秀樹: 超高精細CTを用いた日本人の気管の大きさと形状についての検討. *日耳鼻*. 126巻3号. 200-207. 2023.
 18. 齋藤康一郎, 雪野広樹: 【見逃すな!緊急手術症例-いつ・どのように手術適応を見極めるか】咽喉頭・頸部領域 気道閉塞. *耳喉頭頸*. 94巻13号. 1126-1136. 2022.
 19. 齋藤康一郎: 音声障害・構音障害と全身疾患. *日耳鼻*. 125巻12号. 1729-1733. 2022.
 20. 齋藤康一郎, 木村泰彰: かぜ症状に紛れた他疾患(呼吸器疾患以外) かぜに紛れる急性喉頭蓋炎, 扁桃周囲膿瘍を見逃さないポイント. *呼吸器ジャーナル*. 70巻1号. 119-124. 2022.
 21. 齋藤康一郎: 【意外と知らないステロイドの知識】主な耳鼻咽喉科疾患におけるステロイドの使い方 音声障害に対するステロイド療法. *JOHNS*. 39巻4号. 407-411. 2023.
 22. Miura K¹, Kawakita D², Oze I³, Suzuki M⁴, Sugasawa M⁵, Endo K⁶, Sakashita T⁷, Ohba S⁸, Suzuki M⁹, Shiotani A¹⁰, Kohno N¹¹, Maruo T¹², Suzuki C¹³, Iki T¹⁴, Hiwatashi N¹⁵, Matsumoto F⁸, Kobayashi K¹⁵, Toyoda M¹⁶, Hanyu K¹, Koide Y¹⁷, Murakami Y¹⁸, Hasegawa Y¹⁹ (¹International University of Health and Welfare, ²Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ³Aichi Cancer Center Research Institute, ⁴Osaka University Graduate School of Medicine, ⁵Saitama Medical University International Medical Center, ⁶Kanazawa University, ⁷Kushiro City General Hospital, ⁸Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁹University of the Ryukyus Faculty of Medicine, ¹⁰National Defense Medical College, ¹¹Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, ¹²Nagoya University Graduate School of Medicine, ¹³Kyoto University, ¹⁴Kurashiki Center Hospital, ¹⁵National Cancer Hospital, ¹⁶Toyoda ENT Clinic, ¹⁷Chkyo Hospital, ¹⁸Nagoya Medical Center, ¹⁹Asahi University Hospital) : Predictive factors for false negatives following sentinel lymph node biopsy in early oral cavity cancer. *Sci Rep*. 28. 12(1). 6917. 2022.
 23. 池田哲也: 口腔粘膜刺激による術後合併症の予防効果～経口摂取の重要性について～. *杏林医会誌*. 53巻2号. 67-73. 2023.
 24. 横井秀格: 内視鏡下副鼻腔手術の合併症とその対応 合併症への対応 副鼻腔合併症への対応. *日鼻科会誌*. 64巻1号. 236. 2022.
 25. 横井秀格: 【Step up! 鼻の内視鏡手術・コツとpitfall-】鼻科領域における内視鏡手術の副損傷とその対応. *ENTONI*. 273号. 77-85. 2022.
 26. 横井秀格, 池田哲也: 【副鼻腔炎診療は変わったか?】最新の疾患別マネジメント 菌性上顎洞炎. *JOHNS*. 39巻2号. 173-177. 2023.
 27. Hosoya K¹, Komachi T², Masaki K³, Suzaki I⁴, Saeki H⁵, Kanda N⁶, Nozaki M⁷, Kamide Y⁸, Matsuwaki Y⁹, Kobayashi Y¹⁰, Ogino E¹¹, Osada S¹², Usukura N¹³, Kurumagawa T¹⁴, Ninomia J¹⁵, Asako M¹⁶, Nakamoto K¹⁷, Yokoi H¹⁸, Ohyama M¹⁹, Tanese K³, Kanzaki S³, Fukunaga K³, Ebisawa M⁸, Okubo K¹³ (¹Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital, ²Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ³Keio Allergy Center, Keio University hospital, ⁴Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Showa University, ⁵Department of Dermatology, Nihon Medical School, ⁶Department of Dermatology, Nippon Medical School Chiba, ⁷Wakaba-Hifuka Clinic, ⁸National Hospital Organization Sagami National Hospital, ⁹Masuwaki Clinic, ¹⁰Allergy Center, Kansai Medical University, ¹¹Kyoto Nose and Allergy Clinic, ¹²Department of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ¹³Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Nippon Medical School Hospital, ¹⁴Minamiosawa Medical Plaza, ¹⁵Nagase Clinic of Dermatology, ¹⁶Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kansai Medical University, ¹⁷Department of Respiratory Medicine,

Kyorin University Faculty of Medicine, ¹⁸Department of Otolaryngology, Head and Neck surgery, Kyorin University, ¹⁹Department of Dermatology, Kyorin University of Medicine) : Barrier Factors of Adherence to Dupilumab Self-Injection for Severe Allergic Disease: A Non-Interventional Open-Label Study. Patient Preference Adherence. 17. 861-872. 2023.

28. 唐帆健浩, 雪野広樹: 当院における摂食嚥下センターの設立とその役割. 杏林医会誌. 53巻2号. 47-50. 2022.
29. 唐帆健浩, 雪野広樹, 佐藤大: 1枚の写真 下咽頭後壁癌. 嚥下医学. 11巻2号. 193-194. 2022.

著書

1. 齋藤康一郎(分担執筆): 音声障害の診断. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト. 久保俊一, 村上信五 総編集. 日本リハビリテーション医学教育推進機構. 148-150. 2022.
2. 齋藤康一郎(分担執筆): 急性呼吸困難の対応. 耳鼻咽喉科外来処置・外来手術最新マニュアル. 大森孝一 総編集, 春名眞一 専門編集. 中山書店. 225-235. 2022.

その他

1. 齋藤康一郎: 対談 - 多職種連携チームで機能する摂食嚥下センターの現状と課題 -. 杏林医会誌. 53巻3号. 109-113. 2023.

産科婦人科学教室

講演

- 1 谷垣伸治: 産科無二の機能温存手術～帝王切開における縫合と癒着の新見地～. 第38回日本産婦人科感染症学会学術集会. 東京. 2022年5月8日.
- 2 片山紗弥, 池田沙耶佳, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: Kallmann症候群に対する排卵誘発の検討. 第156回関東生殖医学会. 東京. 2022年5月14日.
- 3 田嶋敦, 松島実穂, 中野紗弓, 戸田友美, 佐藤泰紀, 竹森聖, 北村亜也, 谷垣伸治, 小林陽一: 前置血管における出生前診断の正診性評価の工夫. 日本超音波医学会第95回学術集会. 名古屋. 2022年5月21日.
- 4 竹森聖, 田嶋敦, 北村亜也, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: NT肥厚を認めた後に双胎間輸血症候群関連疾患となった絨毛膜二羊膜双胎妊娠の2例. 日本超音波医学会第95回学術集会. 名古屋. 2022年5月21日.
- 5 前田愛美, 片山紗弥, 中野紗弓, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 長濱清隆, 谷垣伸治, 小林陽一: 子宮体癌の精査中に心臓悪性リンパ腫の併発が判明した1例. 第401回東京産科婦人科学会例会. 東京・オンライン. 2022年5月21日.
- 6 谷垣伸治: ハイリスク妊娠への備え. 帝王切開からプレコンセプションへ. 第330回長野県周産期カンファランス. オンライン. 2022年6月1日.
- 7 春名佑美, 百村麻衣, 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 森定徹, 市川美雄, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮内膜細胞診から発見された原発性卵管癌の1例. 第63回日本臨床細胞学会春期大会. 東京. 2022年6月11日.
- 8 渋谷英里子, 森定徹, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 坂本憲彦, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮頸部細胞診異常を契機に発見された腹膜癌の子宮内

再発の1例. 第63回日本臨床細胞学会春期大会. 東京. 2022年6月11日.

- 9 森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第63回日本臨床細胞学会春期大会. 東京. 2022年6月12日.
- 10 浅野史男, 百村麻衣, 春名佑美, 富岡紀子, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 神経線維腫症1型に合併した卵巣高異型漿液性癌の1例. 第28回日本遺伝性腫瘍学会. 岡山・オンライン. 2022年6月17-18日.
- 11 谷垣伸治: 新型コロナウイルス感染を経験して - レジリエントな周産期医療提供体制の構築を考える. 第143回関東連合産科婦人科学会学術集会. 東京. 2022年6月19日.
- 12 縣博也, 北村亜也, 浅野史男, 石川美佳, 佐藤泰紀, 小林千絵, 百村麻衣, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 人工肛門を増設した直腸子宮窩腹膜妊娠の1例. 第143回関東連合産科婦人科学会. 東京. 2022年6月19日.
- 13 藤麻真理子, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一, 磯谷一暢, 長濱清隆, 柴原純二: 術前に多発骨転移を認めた子宮体部原発大細胞神経内分泌癌の1例. 第143回関東連合産科婦人科学会. 東京. 2022年6月19日.
- 14 三ツ矢紫音, 小林千絵, 縣博也, 金子梨蘭, 埜亜嵯子, 須田綾子, 島田智子, 中野紗弓, 西尾南紗, 藤麻真理子, 谷川珠美子, 佐藤泰紀, 戸田友美, 竹森聖, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 癒着胎盤ハイリスク例に対する大動脈バルーン閉塞の有用性の検討. 第386回四水会. オンライン. 2022年6月22日.
- 15 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 模擬遺伝カウンセリングの有用性について. 第46回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 東京. 2022年7月1日.
- 16 谷垣伸治: 妊娠と糖尿病. 東京都看護協会助産師職能委員会研修. オンライン. 2022年7月2日.
- 17 谷垣伸治: 妊産婦の貧血. どう考える?. 東京産婦人科ライブ2. オンライン. 2022年7月7日.
- 18 谷垣伸治: ハイリスク例, 若手とともに - 帝王切開からプレコンセプションへ. 栃木県産婦人科手術手技研究会 第22回総会. オンライン. 2022年7月8日.
- 19 谷垣伸治, 浅野史男, 古庄知己, 石川美佳, 佐藤泰紀, 北村亜也, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 嶋田雅俊, 細井健一郎, 渡邊佳子, 浮山越史, 小林陽一: セリブロンを漸増し周産期管理した血管型エーラスダロンロス症候群の1例. 第58回日本周産期新生児学会. 横浜. 2022年7月10日.
- 20 田嶋敦, 松島実穂, 岡愛子, 竹森聖, 戸田友美, 谷垣伸治, 小林陽一: 超緊急帝王切開術のdecision to delivery intervalのリスク因子を母児への影響についての検討. 第58回日本周産期新生児学会. 横浜. 2022年7月10日.
- 21 谷垣伸治, 河井昌彦: 症例要約作成講座. 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2022年7月12日.
- 22 副島あおい, 谷垣伸治, 近藤由理香: 災害に強い周産期センター - 防災訓練と意識向上への取り組み -. 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2022年7月12日.
- 23 浅野史男, 谷垣伸治, 佐藤泰紀, 北村亜也, 小林千絵, 田嶋敦, 小林陽一: 妊娠28週にCOVID-19肺炎の重症化を認め, ECMO導入により救命し得た1例. 第58回

- 日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2022年7月12日.
- 24 松島実穂, 田嶋敦, 岡愛子, 竹森聖, 戸田友美, 谷垣伸治, 小林陽一: 経産婦の治療的子宮頸管縫縮術施行リスクについての検討. 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2022年7月12日.
 - 25 小林千絵, 谷垣伸治, 田嶋敦, 小林陽一: プレコンセプションケア外来で次回妊娠に対する夫婦の理解が深まった1例. 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2022年7月12日.
 - 26 森定徹: 子宮体がん治療ガイドライン2023年版コンセンサスミーティング. 子宮体がん治療ガイドライン改訂の概要. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 久留米・オンライン. 2022年7月15日.
 - 27 森定徹, 雑賀公美子, 斎藤英子, 河野加奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV検査を用いた検診の有用性を検証する研究における検診陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 久留米・オンライン. 2022年7月14-16日.
 - 28 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 子宮頸癌Ⅲ期 (FIGO2018) 症例におけるリンパ節転移の有無による予後の検討. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 久留米・オンライン. 2022年7月14-16日.
 - 29 片山紗弥, 中野紗弓, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 子宮体癌G3における予後因子の検討. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 久留米・オンライン. 2022年7月14-16日.
 - 30 富岡紀子, 百村麻衣, 西尾南紗, 春名佑美, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 大前皓一, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 高齢者に発生した子宮原発胎児型横紋筋肉腫の1例. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 久留米・オンライン. 2022年7月14-16日.
 - 31 谷垣伸治: 内科医が知っておきたい産科. 第7回内科プロバイダーコースbasic, 東京・オンライン. 2022年7月16日.
 - 32 Takemori S, Morisada T, Osaka M, Watanabe M, Tajima Ai, Tanigaki S, Kobayashi Y: Analysis of anti-cancer effects of metformin on ovarian clear cell carcinoma cells. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月6日.
 - 33 斎藤英子, 雑賀公美子, 木ロ一成, 久布白兼行, 森定徹, 青木大輔: わが国のデータによる細胞診による子宮頸がん検診でのASC-US症例へのHPVトリアージの妥当性の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月6日.
 - 34 森定徹, 雑賀公美子, 斎藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月6日.
 - 35 中野紗弓, 西ヶ谷順子, 川竹博史, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 谷垣伸治, 小林陽一: 当院でのベパシズマブ使用後に穿孔をきたした症例の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月6日.
 - 36 田嶋敦, 松島実穂, 尾坂真, 岡愛子, 佐藤泰紀, 谷垣伸治, 小林陽一: 平均血小板容積 (MPV) は妊娠合併症の予測マーカーになり得るか. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月6日.
 - 37 小林陽一: 若手国際交流プログラム～メンターからの視点. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 38 谷垣伸治, 中林一彦, 大西英理子, 漆山大知, 小林千絵, 佐藤泰紀, 北村亜也, 田嶋敦, 宮本新吾, 秦健一郎, 小林陽一: 絨毛膜羊膜炎起因菌同定にむけた16S rRNA解析におけるシーケンス領域の差異による影響. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 39 澁谷裕美, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 子宮体癌において術前PET/CT検査における病巣のSUVmax値は再発予後因子になり得るか. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 40 浅野史男, 森定徹, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一: 子宮肉腫の腫瘍径は予後予測因子となり得るか. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 41 春名佑美, 百村麻衣, 西尾南紗, 對馬可菜, 富岡紀子, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 当院におけるオラパリブの使用経験. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 42 野口健朗, 戸田友美, 松島実穂, 遠藤ゆり香, 高屋敷瑞穂, 岡愛子, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 経産婦の早産リスクについての検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 43 平野稚子, 小林千絵, 浅野史男, 石川美佳, 佐藤泰紀, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 当院における事後スーパー母体症例の後方視的検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 44 石川美佳, 北村亜也, 尾坂真, 浅野史男, 佐藤泰紀, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 前回分娩からの期間は分娩所要時間に影響するの. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会. 福岡. 2022年8月7日.
 - 45 森定徹: がん検診の精度管理の考え方. 第63回日本人間ドック学会学術大会. 千葉. 2022年9月2日.
 - 46 春名佑美, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 松本浩範, 百村麻衣, 森定徹, 小林陽一: 全腹腔鏡下子宮全摘術の術中に偶発的に膀胱がんが発見された子宮体癌の一例. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会. 横浜. 2022年9月8-10日.
 - 47 對馬可菜, 浅井和貴, 長内喜代乃, 三沢昭彦, 木村英三, 小林陽一, 鈴木淳: 軟性子宮鏡検査におけるNBIの臨床的有用性に関する検討. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会. 横浜・オンライン. 2022年9月8-10日.
 - 48 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 腹腔鏡手術時に判明した腹膜播種性平滑筋腫症の1例. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会. 横浜・オンライン. 2022年9月8-10日.
 - 49 尾坂真, 田嶋敦, 小島康嗣, 佐藤泰紀, 戸田友美, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: インスリン投与を行ったGDM妊婦におけるSGAの検討. 第44回日本母体胎児医学会学術集会. 仙台. 2022年9月4日.
 - 50 崎亜嗟子, 佐藤泰紀, 三ツ矢紫音, 西尾南紗, 藤麻真理子, 竹森聖, 北村亜也, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠を契機に発生した治療抵抗性心房細動合併妊娠の1例. 第402回東京産科婦人科学会例会. 東京. 2022年9月17日.
 - 51 田嶋敦: 胎児超音波スクリーニング (超音波による胎児形態の標準的評価法を読む). 第21回関東甲信越地方会講習会. 東京. 2022年9月24日.
 - 52 谷垣伸治: 産婦人科医の立場から考えるプレコンセ

- ブシオンケアの重要性と課題について～他科連携の実際～. Medical Webinar in 東北. オンライン. 2022年9月29日.
- 53 森定徹: HPV検査を導入した子宮頸がん検診を考える. 第30回日本がん検診・診断学会. 東京. 2022年9月29日.
- 54 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 市区町村における子宮頸がん検診の実施状況の年次推移. 第30回日本がん検診・診断学会. 東京. 2022年9月29日.
- 55 高橋堇, 澁谷裕美, 石川美佳, 渡邊百恵, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 長濱清隆, 小林陽一: 筋腫分娩用の所見を呈したLEGHの1例. JSAWI2022. 淡路・オンライン. 2022年9月30日・10月1日.
- 56 阪口響子, 百村麻衣, 山下詠子, 縣博也, 浅野史男, 平野稚子, 春名佑美, 富岡紀子, 澁谷裕美, 長濱清隆, 松本浩範, 森定徹, 柴原純二, 小林陽一: 卵巣漿液性境界性腫瘍 (seromucinous borderline tumor; SMBT) における画像所見の後方視的検討. JSAWI2022. 淡路・オンライン. 2022年9月30日・10月1日.
- 57 金子梨蘭, 小林千絵, 北村亜也, 岡愛子, 谷川珠美子, 竹森聖, 野口健郎, 戸田友美, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠中に発症した縦隔原発性大細胞型B細胞リンパ腫に対し緊急薬物療法を施行し, 良好な予後を得た1例. 第144回関東連合産科婦人科学会. 甲府. 2022年10月15日.
- 58 古間菜穂美, 百村麻衣, 阪口響子, 平野稚子, 春名佑美, 富岡紀子, 松本浩範, 森定徹, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: リンチ症候群が疑われた卵巣明細胞癌の1例. 第144回関東連合産科婦人科学会. 甲府. 2022年10月15日.
- 59 浅野史男, 森定徹, 百村麻衣, 澁谷裕美, 松本浩範, 小林陽一: 子宮頸部上皮内腫瘍のフォローアップは細胞診だけで十分か?. 第144回関東連合産科婦人科学会. 甲府. 2022年10月15日.
- 60 片山紗弥, 松本浩範, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 森定徹, 小林陽一: 早期子宮体癌における再発例の検討. 第60回日本癌治療学会. 神戸. 2022年10月22日.
- 61 谷垣伸治: 超音波で見出した帝切ハイリスク例～若手とどうする?～. 第31回山形産科婦人科ME研究会. 山形. 2022年10月27日.
- 62 浅野史男, 百村麻衣, 古間菜穂美, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 子宮内膜症を背景に明細胞癌を発症しリンチ症候群が疑われた1例. 第8回日本産科婦人科遺伝診療学会. 新潟. 2022年10月29日.
- 63 中野紗弓, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 当院における双胎妊娠に対するNIPT実施の状況. 第8回日本産科婦人科遺伝診療学会. 新潟. 2022年10月30日.
- 64 谷垣伸治: 縫合糸の新しい選択～帝王切開術と治療的頸管縫縮術～. 第67回日本生殖医学会学術講演会. 横浜. 2022年11月3日.
- 65 片山紗弥, 池田沙耶佳, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: Kallmann症候群に対する排卵誘発の検討. 第67回日本生殖医学会学術講演会. 横浜. 2022年11月3日.
- 66 谷垣伸治: プレコンセプションケアって何?. ドクターサーチみやぎ健康セミナー. オンライン. 2022年11月5日.
- 67 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV検査を用いた検診の有用性を検証するRCTと細胞診陰性/HPV陽性者の管理. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台. 2022年11月5日.
- 68 浅野史男, 百村麻衣, 坂口碧, 田邊一成, 坂本憲彦, 岸本浩次, 長濱清隆, 下山田博明, 松本浩範, 森定徹, 柴原純二, 小林陽一: 子宮内膜原発巨細胞癌の2例. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台. 2022年11月6日.
- 69 Tanigaki S: The need of adhesion prevention after Cesarean delivery. Elevating women's health-overcoming obstetrics challenges. オンライン. November 12, 2022.
- 70 三ツ矢紫音, 小林千絵, 谷垣伸治, 須田綾子, 島田智子, 西尾南沙, 藤麻真理子, 谷川珠美子, 佐藤泰紀, 戸田友美, 竹森聖, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: 癒着胎盤ハイリスク例に対する大動脈バルーン閉塞の検討. 第45回日本産婦人科手術学会. 金沢. 2022年11月12日.
- 71 谷垣伸治, 花輪智子, 大西英理子, 中林一彦, 漆山大知, 小林千絵, 佐藤泰紀, 竹森聖, 松島実穂, 田嶋敦, 秦健一郎, 小林陽一: 絨毛膜羊膜炎における分子生物学的診断下での培養検査の意義. 日本人類遺伝学会第67回大会. 横浜. 2022年12月16日.
- 72 小林陽一: Significance of cardio-oncology in the management of gynecological cancer patients. 福建省幼保健院主催「海上シルクロード各新築産婦人科学術活動月間」&杏林大学医学部付属病院婦人科オンライン交流会. オンライン. 2022年11月20日.
- 73 森定徹: Cervical Cancer Screening with HPV Testing. 福建省幼保健院主催「海上シルクロード各新築産婦人科学術活動月間」&杏林大学医学部付属病院婦人科オンライン交流会. オンライン. 2022年11月20日.
- 74 村島温子, 谷垣伸治: わたしの関節リウマチとの付き合い方～プレコンセプションケアってなんだろう～. 2022年市民公開講座. オンライン. 2022年12月3日.
- 75 高橋堇, 渡邊百恵, 石川美佳, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 腸管合併切除を要した成熟嚢胞性奇形腫悪性転化に対しBevacizumab療法が長期間奏功した2例. 第403回東京産科婦人科学会例会. 東京. 2022年12月10日.
- 76 田嶋敦, 松島実穂, 竹森聖, 佐藤泰紀, 友澤周子, 中野紗弓, 谷垣伸治, 小林陽一: 双胎妊娠の出生前検査希望の動向について. 日本人類遺伝学会第67回大会. 横浜. 2022年12月15日.
- 77 谷垣伸治, 河井昌彦: 専門医試験における症例要約. 第41回周産期学シンポジウム. 名古屋. 2023年1月13日.
- 78 渡邊百恵, 森定徹, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: Azurocidineは卵巣内膜症性嚢胞の薬剤抵抗性と関連する. 第44回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会. 高知. 2023年1月21日.
- 79 竹森聖, 森定徹, 尾坂真, 渡邊百恵, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: ヒト卵巣明細胞癌細胞株を用いたメトホルミンの抗腫瘍効果の検討. 第44回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会. 高知. 2023年1月21日.
- 80 松本浩範, 佐藤泰紀, 片山紗弥, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 森定徹, 小林陽一: 子宮筋腫に対するロボット支援下子宮全摘術後に腔断端膿瘍をきたし水腎症を生じた1例. 第11回日本婦人科ロボット手術学会. 弘前. 2023年1月28日.
- 81 谷垣伸治: 多胎児の出産・新生児期における支援に

ついて、多胎児家庭支援事業、職員研修会、オンライン。2023年2月20日。

- 82 小林陽一：男性にこそ知ってほしい女性特有の疾患と悩み。健康サポートセミナー。青梅。2023年2月22日。
- 83 谷垣伸治：「がん・生殖医療と里親養子縁組」里親・養子縁組制度の時代の要請周産期医療の立場から。第13回日本がん・生殖医療学会学術集会。さいたま。2023年2月25日。
- 84 谷垣伸治, 小林千絵, 谷川珠美子, 片山紗弥, 森洋文, 杉本公平, 白石絵莉子, 白井千晶, 小林陽一, 鈴木直：プレコンセプションカウンセリングにより新しい家族の作り方として里親制度を検討した1例。第13回日本がん・生殖医療学会学術集会。さいたま。2023年2月25日。
- 85 御影杏菜, 竹森聖, 谷垣伸治, 崎亜嗟子, 三ツ矢紫音, 西尾南紗, 藤麻真理子, 佐藤泰紀, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一：死胎児症候群に対し抗DIC療法を含む集学的治療により生児を得た二絨毛膜二羊膜総体の1例。第404回東京産科婦人科学会例会。東京。2023年2月25日。
- 86 谷垣伸治：無痛分娩一周術期管理を含め。多摩周産期医療連携セミナー。オンライン。2023年3月3日。
- 87 田嶋敦：産科救急時の超音波、現場での対応と事前の対策。第2回日本産婦人科超音波研究会学術集会。横浜。2023年3月4日。
- 88 小林陽一：婦人科がんにおけるCardio-Oncologyの必要性。岡山県医師会産婦人科部会研修会。岡山。2023年3月19日。

論 文

- 1 田嶋敦：【Late preterm・Early termを展望する】産科編 産科合併症・合併症妊娠の最適な分娩時期 早産症状のない前置胎盤。周産期医学。52(4)。496-499。2022。
- 2 原田巽矢¹, 荻野聡之¹, 笹沢俊吉², 浅野史男, 谷垣伸治, 海田賢彦¹, 山口芳昭¹ (1救急医学, 2昭和東大が丘病院・放射線科)：妊娠中期に重症化した新型コロナウイルス感染症に対して集学的加療を行い母子ともに救命した1例。日本救急医学会誌。33(4)。166-172。2022。
- 3 徳丸友美, 佐藤泰紀, 浅井和貴, 三ツ矢紫音, 尾坂真, 岡愛子, 戸田友美, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一：妊娠後期に発症し軽快と再燃を繰り返した急性膝炎合併妊娠の1例。東京産婦人科誌。71(2)。280-284。2022。
- 4 樋口大樹¹, 松浦拓人¹, 高嶺恵理子², 細川満由¹, 小堀華菜¹, 池田貞勝², 原田俊介¹, 本間浩一¹, 田嶋敦, 吉田雅幸², 大塚伊佐夫¹ (1亀田総合病院, 2東京医科歯科大学附属病院)：肉腫を生じたCowden症候群の1例。癌と化学。49(7)。783-787。2022。
- 5 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一：切迫早産管理の動向。産と婦。89(7)。718-722。2022。
- 6 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治：切迫早産の病態別の対応を目指して。産婦の実際。71(7)。743-747。2022。
- 7 川竹博史, 岡愛子, 澁谷裕美, 遠藤ゆり香, 平野稚子, 野口健朗, 竹森聖, 戸田友美, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一：卵管摘出術後に同側卵管間質部妊娠をきたし、MRIが診断に有用だった1例。東京産婦人科誌。71(3)。610-614。2022。
- 8 Chiyoda T¹, Yoshihara K², Kagabu M³, Nagase S⁴, Katabuchi H⁵, Mikami M⁶, Tabata T⁷, Hirashima Y⁸, Kobayashi Y, Kaneuchi M⁹, Tokunaga H¹⁰, Baba T¹¹ (1Keio University School of Medicine,

²Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ³Iwate Medical University School of Medicine, ⁴Yamagata University, ⁵Kumamoto University, ⁶Tokai University School of Medicine, ⁷Tokyo Women's Medical University, ⁸Shizuoka Cancer Center, ⁹Otaru General Hospital, ¹⁰Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹¹Iwate Medical University School of Medicine): Sentinel node navigation surgery in cervical cancer: a systematic review and meta-analysis. Int J Clin Oncol. 27(8). 1247-1255. 2022.

- 9 森定徹：【知っておきたい！合併症を伴う婦人科がん診療up to date】腎臓疾患を有する婦人科がん患者の留意点。産婦の実際。71(8)。843-847。2022。
- 10 森定徹：子宮頸がん予防としてのHPV検査を用いた検診について。東京産婦人科医会誌。55。47-51。2022
- 11 田嶋敦：治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 分娩後異常出血。医事新報。5129号。48-49。2022
- 12 Seino M¹, Nagase S¹, Ohta T¹, Yamagami W², Ebina Y³, Kobayashi Y, Tabata T⁴, Kaneuchi M⁵, Enomoto T⁶, Mikami M⁷ (1Yamagata University Faculty of Medicine, 2Keio University School of Medicine, 3Hokkaido University, 4Tokyo Women's Medical University, 5Otaru General Hospital, 6Niigata University Graduate School of Medical, 7Tokai University School of Medicine): Impact of adjuvant chemotherapy on the overall survival of patients with resectable bulky small cell neuroendocrine cervical cancer: a JSGO-JSOG joint study. J Gynecol Oncol. 34(1). e4. 2023.
- 13 谷垣伸治, 佐藤泰紀, 竹森聖, 松島実穂, 田嶋敦：18トリソミーの子供と家族の「生きる」をチームで支える 多職種における支援 妊娠期から産褥期における産科医の役割。小児看護。45(9)。1041-1045。2022。
- 14 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一：【191の疑問に答える。周産期の栄養】産科編Q&A。妊娠全期間(Question 29) 妊娠中はどんなサプリメントを飲むとよいですか?(Q&A)。周産期医。52。増刊。65-66。2022。
- 15 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一：【191の疑問に答える。周産期の栄養】産科編Q&A。妊娠全期間(Question 30)。出産までEPAの入ったサプリメントを飲んでいて大丈夫でしょうか?(Q&A)。周産期医52。増刊。67-68。2022。
- 16 須田綾子, 小林千絵, 谷垣伸治, 大坪翔, 對馬可菜, 竹森聖, 北村亜也, 松島実穂, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一：前置癒着胎盤に対する帝王切開同時子宮摘出術時に大動脈バルーン閉塞を併用した2例。関東産婦誌。59(4)。413-418。2022。
- 17 浅野史男, 西ヶ谷順子, 片山紗弥, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一：膀胱原発転移性卵巣腫瘍の2例。関東産婦誌。59(4)。461-468。2022。
- 18 藤井多久磨, 石谷健, 有本貴英, 五十嵐敏雄, 石川哲也, 岩瀬明, 小川真里子, 小沢伸晃, 梶山広明, 川崎薫, 工藤梨沙, 熊切順, 甲村弘子, 駒井幹, 佐藤誠也, 篠原康一, 田中京子, 高橋俊文, 種部恭子, 出口雅士, 戸澤晃子, 中島彰俊, 中塚幹也, 西尾永司, 早川智, 平田哲也, 福原理恵, 宮国泰香, 宮崎博章, 森定徹, 湯川隆, 生水真紀夫, 杉浦真弓, 前田津紀夫, 桑原慶充, 竹中雅貴, 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編作成委員会, 診療ガイドライン運営委員会：産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2023(案)ご意見募集。日本産科婦人科学会雑誌。74(12)。2419-

2618. 2022.
- 19 Yanagisawa Y¹, Goda A¹, Takeuchi S¹, Takeuchi K¹, Kikuchi H¹, Inami T¹, Tanigaki S, Kohno T¹, Soejima K¹, Satoh T¹ (¹Department of Cardiovascular Medicine): Successful Management and Risk Stratification by Exercise Right Heart Catheterization Before Pregnancy in a Patient With Pulmonary Arterial Hypertension. *CJC Open*. 5(4). 312-314. 2023.
 - 20 谷垣伸治, 三ツ矢紫音, 小島康嗣, 島田智子, 佐藤泰紀, 田嶋敦, 小林陽一: 産婦人科における保険診療と自費診療, 妊娠にかかわる診療. 産婦の実際. 72(1). 47-51. 2023.
 - 21 谷垣伸治: 新型コロナウイルス感染を経験してレジリエントな周産期医療提供体制の構築を考える「東京都」. 関東ブロック産婦人科医会会報. 41. 4-7. 2023.
 - 22 谷垣伸治: 12/4開催NHSシンポジウム開催報告. TAOGニュース. 164 (1) . 5. 2023.
 - 23 Ogawa T¹, Takahashi H², Saito H³, Sagawa M⁴, Aoki D⁵, Matsuda K, ⁶ Nakayama T², Kasahara Y⁷, Kato K⁸, Saitoh E⁹, Morisada T, Saika K², Sawada N², Matsumura Y¹⁰, Sobue T¹¹(¹Setsuman University, ²National Cancer Center, ³Aomori Prefectural Central Hospital, ⁴Tohoku Medical and Pharmaceutical University, ⁵Keio University School of Medicine, ⁶Fukui Health Promotion Center, ⁷Fukui Prefecture-Saiseikai Hospital, ⁸Cancer Detection Center, Miyagi Cancer Society, ⁹International University of Health and Welfare, Mita Hospital, ¹⁰Osaka National Hospital, ¹¹Osaka University School of Medicine): Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. *JCO Glob Oncol*. 9. e2200222. 2023.
 - 24 前田愛美, 片山紗弥, 中野紗弓, 渋谷英里子, 渋谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 谷垣伸治, 小林陽一, 長濱清隆¹ (¹杏林大・医・病理): 子宮体癌の精査中に心臓悪性リンパ腫の併発が判明した1例. 東京産婦会誌. 72(1). 48-54. 2023.
 - 25 崎亜嗟子, 佐藤泰紀, 三ツ矢紫音, 西尾南紗, 藤麻真理子, 竹森聖, 北村亜也, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠を契機に発症した治療抵抗性心房細動合併妊娠の1例. 東京産婦会誌. 72 (1) . 82-88. 2023.
 - 26 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治: 【超音波診療がもたらす産婦人科診療の新機軸】POCUSの実際. 産科における急性期POCUS (解説) . 産と婦. 90 (2) . 195-199. 2023.
 - 27 Asano F, Tanigaki S, Sato Y, Kobayashi C, Kobayashi Y: Successful outcome of mother and baby in a woman with severe COVID-19 pneumonia in the third trimester of pregnancy who required extracorporeal membrane oxygenation therapy. *Cureus*. 15(2). e34627. 2023.
 - 28 百村麻衣, 小林陽一: 薬物療法 がん免疫療法 ミスマッチ修復 (MMR) 遺伝子機能欠損の評価法. 臨婦産. 77 (2) . 284-291. 2023.
 - 29 小林陽一, 中野紗弓, 松本浩範: 乳がんの治療と管理維持療法と産婦人科 (体がん) 検診. 臨婦産. 77(3) . 353-357. 2023.
 - 30 Aoki ES¹, Saika K², Kiguchi K³, Morisada T, Aoki D⁴(¹International University of Health and Welfare, Mita Hospital, ²Nagano Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives for Health and Welfare, ³National Cancer Center, Tokyo Health Service Association, ⁴Keio University School of Medicine): Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol*. 34. e14. 2023.
 - 31 Murakami I¹, Machida H², Morisada T, Terao Y³, Tabata T⁴, Mikami M², Hirashima Y⁵, Kobayashi Y, Baba T⁶, Nagase S⁷ (¹Toho University Ohashi Medical Center, ²Tokai University School of Medicine, ³Faculty of Medicine, Juntendo University, ⁴Tokyo Women's Medical University, ⁵Shizuoka Cancer Center, ⁶Iwate Medical University, Iwate, ⁷Yamagata University Faculty of Medicine): Effects of a fertility-sparing retreatment for recurrent atypical endometrial hyperplasia And endometrial cancer: a systematic literature review. *J Gynecol Oncol*. 2023. doi: 10.3802/jgo.2023.34.e49. Online ahead of print.
 - 32 森定徹: 【子宮頸がんをめぐる】子宮頸がんHPV検査の現状と, その問題点. 臨床検査. 67 (3) . 211-215. 2023.
- 令和3年度追加分
- 1 小島康嗣, 渋谷英里子, 片山紗弥, 西ヶ谷順子, 渋谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 谷垣伸治, 小林陽一, 萬昂士, 柴原純二: 卵巣腫瘍との術前鑑別診断が困難であった後腹膜神経鞘腫の1例. 東京産婦会誌. 70(2). 226-230. 2021.
 - 2 谷垣伸治, 近藤琢磨, 對馬可菜, 竹森聖, 北村亜也, 小林千絵, 田嶋敦, 下田ゆかり, 中村未生, 小林庸子, 関田真由美, 近藤由理香, 安田和基, 小林陽一: 他科との連携におけるチーム医療の果たす役割 産科の立場から糖尿病チームに対して望むこと. 月刊糖尿病. 13 (4) . 73-78. 2021.
 - 3 Ikeda M¹, Mikami M¹, Yasaka M¹, Enomoto T², Kobayashi Y, Nagase S³, Yokoyama M⁴, Katabuchi H⁵ (¹Tokai University School of Medicine, ²Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ³Yamagata University Faculty of Medicine, ⁴Saga University Faculty of Medicine, ⁵Kumamoto University Faculty of Life Sciences): Association of Menopause, Aging and Treatment Procedures with Positive Margins after Therapeutic Cervical Conization for CIN 3: A Retrospective Study of 8856 Patients by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology. *J Gynecol Oncol*. 32(5). e68. 2021.
 - 4 小林陽一: オンコファーティリティとオンコヘルスケア 婦人科癌におけるcardio-oncologyの必要性. 日本女性医会誌. 28 (4) . 626-629. 2021.
 - 5 小林陽一: 「手当て」を再考する～COVID-19感染下に想うこと. 東京産婦医会誌. 54. 15. 2021.
 - 6 Hirayama T^{1, 2}, Inayama Y^{1, 3}, Odajima S^{1, 4}, Yamanaka A^{1, 5}, Sekine M^{1, 6}, Terao Y^{1, 2}, Koide K^{1, 7}, Kuwabara Y^{1, 8}, Yahata H^{1, 9}, Yanaihara N^{1, 4}, Nagase S^{1, 10}, Kobayashi Y, Sekizawa A^{1, 7} (¹Board of education, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, ²Juntendo University, ³Kyoto University Graduate School of Medicine, ⁴The Jikei University School of Medicine, ⁵Tokyo Medical University, ⁶Niigata University Graduate School of Medicine, ⁷Showa University School of Medicine, ⁸Nippon Medical School, ⁹Kyushu University, ¹⁰Yamagata University Faculty of Medicine): A report on the 73th Annual Congress of the Japan

- Society of Obstetrics and Gynecology International Workshop for Junior Fellows: Risk-reducing surgery for hereditary breast and ovarian cancer. *J Obstet Gynecol Res.* 47(11). 3761-3766. 2021.
- 7 Takemori S, Tanigaki S, Nozu K¹, Yoshihashi H², Uchiyama Y, Sakaguchi K, Tsushima K, Kitamura A, Kobayashi C, Matsushima M, Tajima A, Nagano C, Kobayashi Y (¹Kobe University Graduate School of Medicine, ²Tokyo Metropolitan Children's Medical Center): Prenatal diagnosis of MAGED2 gene mutation causing transient antenatal Bartter syndrome. *Eur J Med Genet.* 64(10). 104308. 2021.
- 8 Ebina Y¹, Yamagami W², Kobayashi Y, Tabata T³, Kaneuchi M⁴, Nagase S⁵, Enomoto T, ⁶ Mikami M⁷ (¹Hokkaido University, ²Keio University School of Medicine, ³Tokyo Women's Medical University, ⁴Otaru General Hospital, ⁵Yamagata University Faculty of Medicine, ⁶Niigata University School of Medicine, ⁷Tokai University School of Medicine): Clinicopathological characteristics and prognostic factors of ovarian granulosa cell tumors: A JSGO-JSOG joint study. *Gynecol Oncol.* 163(2). 269-273. 2021.
- 9 谷垣伸治, 高屋敷瑞穂, 古田紗季, 岡愛子, 北村亜也, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: 【超音波検査と小児外科: ここまでみえる, ここまでわかる】胎児診断と評価. *小児外科.* 53 (8) . 781-787. 2021.
- 10 渋谷英里子, 百村麻衣, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本憲彦¹, 岸本浩次¹, 下山田博明¹, 柴原純二¹, 小林陽一 (¹病院病理部): 外陰部基底細胞癌の1例. *日臨床細胞学会誌.* 60 (5) . 260-265. 2021.
- 11 浅野史男, 谷垣伸治, 北村亜也, 松島実穂, 小林陽一: 子宮筋腫合併妊娠における子宮筋腫変性痛のリスク因子の検討. *日本周産期・新生児医学会雑誌.* 57 (2) . 339-342. 2021.
- 12 谷垣伸治, 石川美佳, 平野稚子: 子宮頸管縫縮術の手術手技. *臨産.* 75 (9) . 866-871. 2021.
- 13 谷垣伸治, 竹森聖, 小林陽一: 【帝王切開 - 明日からできる工夫と留意点 - 】総論 - 工夫と留意点3.創傷治癒, 癒着防止の観点から. *産と婦.* 88 (10) . 1171-1176. 2021.
- 14 遠藤ゆり香, 渋谷英里子, 片山紗弥, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 30歳代時に不正性器出血を契機に発見された腔横中隔の1例. *東京産婦会誌.* 70 (4) . 706-711. 2021.
- 15 浅野史男, 松島実穂, 片山紗弥, 佐藤泰紀, 植山清香, 鳥海玲奈, 田中啓, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠28週に非癒痕性子宮破裂を発症した多発性子宮筋腫合併妊娠の1例. *関東連産婦会誌.* 58(4) . 618-623. 2021.
- 16 山口恵吾, 渡邊百恵, 大沢草宣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一: 術後に悪性リンパ腫と診断された2例. *関東連産婦会誌.* 58(4) . 570-576. 2021.
- 17 Nagase S¹, Ohta T¹, Takahashi F², Yamagami W³, Yaegashi N⁴, and Board members of the 2020 Committee on Gynecologic Oncology of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology (¹Yamagata University, ²Iwate Medical University, ³Keio University, ⁴Tohoku University Graduate School of Medicine): Annual report of the Committee on Gynecologic Oncology, the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Annual Patients Report for 2018 and Annual Treatment Report for 2013. *J Obstet Gynaecol Res.* 48(3). 541-552. 2022.
- 18 Tanaka K, Harata G¹, Miyazawa K¹, Fang HE¹, Tanigaki S, Kobayashi Y (¹Technical Research Laboratory, Takanashi Milk Products Co., Ltd.): The gut microbiota of non-obese Japanese pregnant women with gestational diabetes mellitus. *Biosci Microb Food H.* 41(1). 4-11. 2022.
- 19 Saitoh E¹, Saika K², Morisada T, Aoki D³ (¹International University of Health and Welfare, Mita Hospital, ²Nagano Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives for Health and Welfare, ³Keio University School of Medicine): Status of cervical cancer screening among adolescents and young adults (AYA) in Japan. *Int J Clin Oncol.* 27(3) 473-480. 2022.
- 20 柳下玲子, 植山清香, 谷垣伸治, 西尾南紗, 高屋敷瑞穂, 小林陽一: 術前に卵管間質部妊娠と診断し, 腹腔鏡下手術にて治療しえた1例. *東京産婦会誌.* 71(1) . 95-99. 2022.
- 21 津田浩史¹, 百村麻衣, 神部友香理², 松本眞希子¹, 下地香乃子³, 井出瞳¹, 井口蓉子¹, 小林陽一, 山上亘⁴ (¹みずほ女性クリニック, ²公立昭和病院, ³東京女子医大病院, ⁴慶應大学病院): 閉経前子宮体がん7例の子宮内膜厚の検討. *東京産婦会誌.* 71 (1) . 140-143. 2022.
- 22 Machida H¹, Matsuo K^{2,3}, Kobayashi Y, Momomura M, Takahashi F⁴, Tabata T⁵, Kondo E⁶, Yamagami W⁷, Ebina Y⁸, Kaneuchi M⁹, Nagase S¹⁰, Mikami M¹⁰. (¹Tokai University School of Medicine, ²University of Southern California, ³Iwate Medical University, ⁴Tokyo Women's Medical University, ⁵Mie University, ⁶Keio University, ⁷Hokkaido University, ⁸Otaru General Hospital, ⁹Yamagata University, ¹⁰Tokai University School of Medicine): Significance of histology and nodal status on the survival of women with early-stage cervical cancer: Validation of the 2018 FIGO cervical cancer staging system. *J Gynecol Oncol.* 33(3). e26. 2022.
- 23 谷垣伸治, 柳下玲子, 金村彰香, 木内健士朗, 浅野史男, 石川美佳, 佐藤泰紀, 北村亜也, 小林千絵, 小林陽一: 【今妊娠初期の経過異常とその対処-流産・異所性妊娠・絨毛性疾患の診断と治療】異所性妊娠 異所性妊娠の超音波診断. *臨床産婦.* 76(2) . 227-232. 2022.
- 24 大坪翔, 谷垣伸治, 松島実穂, 安部美由紀, 竹森聖, 北村亜也, 田中啓, 松澤由記子, 大沢草宣, 鈴木珠美子, 小林陽一: 当院における妊娠中の胎児胸水に対する処置についての検討. *関東産婦会誌.* 59 (1) . 5-9. 2022.
- 25 阪口響子, 百村麻衣, 谷川珠美子, 富岡紀子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 長濱清隆¹, 松本浩範, 田嶋敦, 柴原純二¹, 谷垣伸治, 小林陽一 (¹病院病理部): 10代女性に発生した子宮頸部明細胞癌の1例. *関東産婦誌.* 59 (1) . 87-94. 2022.

著書

- 1 谷垣伸治 (分担執筆): 超音波診断. 新版 助産師業務要覧 第3版II 実践編 2022年版. 福井トシ子 編. 日本看護出版協会. 2022. 296-306.
- 2 谷垣伸治, 中野紗弓, 佐藤泰紀 (分担執筆): 頭部・顔面・頸部. 改訂第4版MFICUマニュアル. 全国周産期医療(MFICU)連絡協議会編. メディカ出版. 2022. 331-335.

- 3 谷垣伸治, 浅野史男, 佐藤泰紀 (分担執筆) : 34週以降の早産であるlate preterm birthの既往がある妊婦の取り扱いを教えてください. 現場の疑問に答える周産期医療Q & A. 伊東宏晃 編. 中外医学社. 2022. 100-106.
- 4 亀井良政, 谷垣伸治 (分担執筆) : 胎児診断のこれからは超音波?ゲノムか?. 産科診療Pros&Cons - 母体・胎児をめぐる6つの論争. 室月淳 編著. メディカ出版. 2023. 134-135.
- 5 谷垣伸治 (編著) : 胎児超音波診断「いつもと違う!」にどうアプローチする. 谷垣伸治編. メジカルビュー社. 2023.
- 6 田嶋敦 (分担執筆) : NIPT. FMCテキストブック. 出生前検査・診断と遺伝カウンセリングの実際. 中村靖, 田村智英子 編. 金原出版株式会社. 2023. 52-58.
- 7 田嶋敦 (分担執筆) : 染色体検査と遺伝子解析. FMCテキストブック. 出生前検査・診断と遺伝カウンセリングの実際. 中村靖, 田村智英子 編. 金原出版株式会社. 2023. 70-78.
- 8 田嶋敦 (分担執筆) : 胎児MRI. FMCテキストブック. 出生前検査・診断と遺伝カウンセリングの実際. 中村靖, 田村智英子 編. 金原出版株式会社. 2023. 121-127.

令和2年度追加分

- 1 谷垣伸治 (分担執筆) : 胎盤・臍帯の異常. 標準産科婦人科学 第5版. 綾部琢哉, 板倉敦夫 編. 東京. 医学書院. 2021. 425-436.

放射線医学教室

講演

1. 山崎崇史, 小柳正道, 山口隼平, 中西章仁, 五明美穂, 土屋一洋, 丸山啓介, 中富浩文, 永根基雄, 塩川芳昭 : GRIDを用いた脳腫瘍術前3次元コンピュータグラフィックスCTデータの最適化. 第45回日本脳神経CI学会総会. オンライン. 2022年4月8日.
2. 五明美穂, 土屋一洋, 片瀬七朗, 高橋沙奈江, 福島啓太, 吉岡達也, 横山健一 : Deep learningを用いた高分解能T2WIによる下垂体微小腺腫の検出能. 第45回日本脳神経CI学会総会. オンライン. 2022年4月8日.
3. Takahashi M, Suyama J, Yokoyama K : Utility of Deep Learning Reconstruction (DLR) for improved image quality in 18F-FDG PET/CT. The 81st Annual Meeting of the Japan Radiological Society. Yokohama. April 14th-17th, 2022.
4. Suyama J, Takahashi M, Nagai M, Miyauchi R, Takeshita Y, Yokoyama K : Impact of Deep Learning Reconstruction on Image Quality in novel digital PET /CT in Assessment of Pulmonary Cancers. The 81st Annual Meeting of the Japan Radiological Society. Yokohama. April 14th-17th, 2022.
5. 白川佑也, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 中西章仁, 須山淳平 : デジタルPETCTにおけるピクセルサイズが部分容積効果に与える影響の基礎的検討. 第78回日本放射線技術学会総会学術大会. 横浜. 2022年4月14-17日.
6. 白川佑也, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 中西章仁, 須山淳平 : デジタルPETCTにおけるディープラーニングを用いて設計された再構成技術の有用性の基礎的検討. 第78回日本放射線技術学会総会学術大会. 横浜. 2022年4月14-17日.
7. Takeshita Y, Onozawa S, Katase S, Shirakawa Y, Yamashita K, Shudo J, Nakanishi A, Akahori S, Yokoyama K : 深層学習を用いた胸部CTの肺結節トラッキングに関するアルゴリズム開発と性能評価. 第81回日本医学放射線学会学術集会. 横浜. 2022年4月16日.
8. Gomyo M: The Impact of High Resolution CT: Pre- and Postoperative Images and Imaging Anatomy. The 81st Annual Meeting of the Japan Radiological Society. 横浜. 2022年4月16日.
9. 須山淳平 : がん診療におけるPET/CTの有用性 : digital PET/CTの威力とは. 導入記念講演会. 熊本. 2022年4月27日.
10. 須山淳平 : がん診療におけるデジタルPET-CTの威力 Cartesion Primeの使い方. 第22回日本核医学会春季大会. オンライン. 2022年5月7日-6月1日.
11. 五明美穂 : 見逃しがちな脳梗塞の原因に迫る画像所見. FCA-Webinar in関東. オンライン. 2022年5月26日.
12. 渡邊正中, 福島啓太, 竹下祐平, 吉岡達也, 清水裕太, 斎藤俊, 町田治彦, 田口慧, 多武保光宏, 福原浩, 横山健一 : 泌尿器領域の画像診断と新たな撮像法の臨床応用. 富士製薬FCAセミナー. オンライン. 2022年5月26日.
13. Miyauchi R, Onozawa S, Kuroki K : 通過性試験 どのマイクロコイルがどのマイクロカテーテルに適さないか?. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月4日.
14. Murata S, Onozawa S, Anai H, Tajima H, Matsuyama K : NIPP臨床試験に向けて HF法による骨盤内閉鎖循環下抗がん剤灌流療法. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月4日.
15. Onozawa S, Anai H, Matsuyama K, Murata S : NIPP臨床試験に向けて 骨盤内閉鎖循環下抗がん剤灌流療法. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月4日.
16. 笹沢俊吉, 守永広征, 原田巽矢, 小野澤志郎, 西沢良平, 荻野聡之, 海田賢彦, 山口芳裕 : ECMO管理中の帝王切開術後の合併症に対し, IVRによって治療成功した一例. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月5日.
17. Onozawa S, Arai Y, Inaba Y, Kakeda S : 女性におけるIVR日本インターベンショナルラジオロジー学会による子宮動脈塞栓術の定型化に関する活動. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月5日.
18. Miyauchi R, Onozawa S, Seki R, Kawamura N, Mori H, Furuse J, Kogure M, Kuroki K : 肝細胞癌における腫瘍内の仮性動脈瘤 稀な症状の症例シリーズ. 第51回日本IVR学会総会. 神戸. 2022年6月6日.
19. Shirakawa Y, Fukaya K, Kawada M, Nakanishi A, Suyama J, Yokoyama K : Digital PET/CT Images Can be Reconstructed More Efficiently Using a Network Designed with Deep Learning. Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting (SNMMI) 2022.Canada. June 11th-14th. 2022.
20. Suyama J, Takahashi M, Shirakawa Y, Fukaya K, Takeshita Y, Yokoyama K: Quality of clinical images improved using Deep Learning

- Reconstruction in new digital PET-CT scanner. Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging(SNMMI) 2022, Canada. June 11th-14th, 2022.
21. 須山淳平, 高橋正輝, 河田宗之, 市川浩三, 横山健一: 心アミロイドーシス検査目的のピロリン酸シンチで左心と重なる部位に肋骨骨折の異常集積が存在した場合のH/CL比についての考察. 第32回日本心臓核医学会総会・学術大会. 東京. 2022年6月24-25日.
 22. 横山健一: 心臓MRI 明日からの診療に役立つ必須知識. Joto Radiology Conference 2020 特別講演. オンライン. 2022年6月27日.
 23. 白川佑也, 須山淳平, 林真弘, 高橋正輝, 藤田沙由里, 河田宗之, 茂手木弘美, 深谷香瑠, 市川浩三, 横山健一: 半導体PET/CT装置における肝SNRを用いたDeep Learning Reconstructionの有用性の評価. 第97回日本核医学会関東甲信越地方会. オンライン. 2022年7月2日.
 24. 大原有紗, 高橋正輝, 五明美穂, 土屋一洋: Glioblastoma, IDH-wildtype, WHO grade IV [WHO 2016]. 第42回神経放射線ワークショップ. 小樽市・オンライン. 2022年7月8日.
 25. 五明美穂: 脳神経領域におけるTips. 第42回神経放射線ワークショップ. 小樽. 2022年7月9日.
 26. 横山健一: 冠動脈MRA. 第14回SCMR Japan WG Seminar 2022. 東京・オンライン. 2022年7月23日.
 27. 高橋正輝, 須山淳平, 白川祐也, 深谷香瑠, 宮内亮輔, 竹下祐平, 長井美由紀, 横山健一: 新しいDigital PET CTにおける, Non Local Mean法とDLRを用いた画像再構成法の比較検討. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 東京. 2022年9月2-4日.
 28. 加藤敦士, 關里和, 馬上千尋, 友近瞬, 宮内亮輔, 森久保拓, 箕輪慎太郎, 竹内かおり, 菊池華子, 小野澤志郎, 川村直弘, 森秀明, 久松理一: 肺動脈性肺高血圧症と肝限局性結節性過形成を合併した先天性肝内門脈肝静脈短絡の1例. 日本門脈圧亢進症学会総会. 大阪. 2022年9月8日.
 29. 小暮正晴, 川口翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典, 阪本良弘: 門脈圧亢進症と癌 術後の門脈狭窄に対するステント留置が奏功した4症例の経験. 第29回日本門脈圧亢進症学会総会. 大阪. 2022年9月8日.
 30. 片瀬七朗, 土屋一洋, 志賀久恵, 立石秀勝, 平岡祥幸, 五明美穂, 福島啓太, 吉岡達也, 横山健一: MR bone imagingによる椎体転移病変の描出能の検討. 第50回日本核磁気共鳴医学会大会. 名古屋. 2022年9月9日.
 31. 白川佑也, 松友紀和, 深谷香瑠, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 須山淳平, 中西章仁: Time of flight技術がデジタルPET/CTのコントラスト分解能に与える影響. 第42回日本核医学技術学会総会学術大会. 京都. 2022年9月9-11日.
 32. 須山淳平, 高橋正輝, 白川佑也, 深谷香瑠, 宮内良輔, 竹下祐平, 長井美由紀, 横山健一: 臨床データによるDigital PET/CTでのCaLMとAiCEの有用性の比較検討. 第63回日本核医学会総会. 京都. 2022年9月9-12日.
 33. Suyama J, Takahashi M, Harada T, Shirakawa Y, Kawada M, Yokoyama K: Assessment of image quality improvement by Deep Learning Based Image Restoration using dynamic acquisition data of liver in new Digital PET/CT. The 13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology. Kyoto. September 9th-12th, 2022.
 34. 福島啓太, 五明美穂, 土屋一洋, 吉岡達也, 斎藤駿, 熊谷優真, 西村祥循, 本田真俊, 中西章仁, 横山健一: Assessment of the optimal imaging parameters for intracranial vessel wall bone-like imaging using FRACTURE. 第50回日本核磁気共鳴医学会大会. 名古屋. 2022年9月10日.
 35. 斎藤駿, 福島啓太, 五明美穂, 土屋一洋, 吉岡達也, 新井隆弘, 与那覇貴之, 坂口幸翼, 中西章仁, 横山健一: Examination of the optimal imaging parameters for vessel wall bone-like imaging of carotid artery using ultrashort TE with multi echo. 第50回日本核磁気共鳴医学会大会. 名古屋. 2022年9月10日.
 36. 五明美穂, 高橋沙奈江: 明日から使える!?実践頭部MRIプラスα. 第50回日本核磁気共鳴医学会大会. 名古屋. 2022年9月11日.
 37. 横山健一: 心臓MRIにおける最近のトピックス. バイエル講演会 特別講演. 東京・オンライン. 2022年9月30日.
 38. Shirakawa Y, Fukaya K, Fujita S, Kawada T, Ichikawa H, Suyama J, Nakanishi A: Digital PET/CT Images Reconstructed Using Deep Learning Techniques Have Improved Noise and Contrast Characteristics. 35th Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine(EANM 22). Spain. October 15th-19th, 2022.
 39. Suyama J, Takahashi S, Fukushima K, Yoshioka T, Kunimitsu K, Yokoyama K: Usefulness of deep learning reconstruction in MRI of knee joint using compressed sensing. 49th ISS Musculoskeletal Diagnostic Meeting. Spain. October 23 - 28, 2022.
 40. 横山健一: COVID-19の心血管病変の画像診断. 第63回日本脈管学会総会. 横浜. 2022年10月27日.
 41. 白川佑也, 深谷香瑠, 矢嶋竜征, 河田宗之, 茂手木弘美, 市川浩三, 須山淳平, 中西章仁: SiPM-PET/CT装置における低投与量条件下でのDeep Learning Reconstruction 技術の有用性. 第19回TOPIC. オンライン. 2022年10月29日.
 42. 鶴田貴大, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 新井信晃, 平田佳史, 橋啓盛, 田中良太, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 藤原正親, 近藤晴彦, 安樂真樹: 左血胸で発症した縦隔原発混合型胚細胞腫瘍の一切除例. 第190回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 静岡. 2022年11月5日.
 43. 高桑千絵子, 須山淳平, 河田宗之, 白川佑也, 矢嶋竜征, 深谷香瑠, 茂手木弘美, 市川浩三, 高橋正輝, 長井美由紀, 横山健一: ピロリン酸シンチで心臓と重なる肋骨骨折が存在した場合のH/CL比についての考察 当院で作成したソフトウェアの検討. 第51回杏林医学会総会. オンデマンド. 2022年11月19-30日.
 44. 高橋正輝, 須山淳平, 白川祐也, 深谷香瑠, 宮内亮輔, 竹下祐平, 長井美由紀, 横山健一: 新しいDigital PET CTにおける, Non Local Mean法とDLRを用いた画像再構成法の比較検討. 第51回杏林医学会総会. オンデマンド. 2022年11月19-30日.
 45. Gomyo M, Tsuchiya K, Katase S, Shiga H, Fukushima K, Yoshioka T, Yokoyama K: Clinical Impact of MR Bone Imaging on Head and Neck Diseases. the 108th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (RSNA). USA・Online. November 27th -December 1th . 2022.

46. Gomyo M, Tsuchiya K, Shimizu Y, Yamazaki T, Koyanagi M, Katase S, Yokoyama K: Ultrahigh-resolution CTA of the Brain as a Tool for Pre- and Postoperative Imaging. the 108th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (RSNA). USA · Online. November 27th-December 1th. 2022.
47. 石川まりな, 松野裕樹, 松原秀史, 池谷紀子, 小野澤志郎, 川嶋聡子, 川上貴久, 福岡利人, 岸本暢將, 駒形嘉紀, 要伸也: 成人発症ステイル病の経過中に出現したM蛋白血症を契機にSchnitzler症候群との異同が問題となった一例. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2022年12月10日.
48. 横山健一:「心血管領域MRI」安全性・ペースメーカー. 日本磁気共鳴医学会 第26回MR実践・先端講座. オンライン. 2022年12月17日.
49. 高桑千絵子, 須山淳平, 高橋正輝, 宮内亮輔, 雪野広樹, 佐藤大, 斎藤康一郎, 下山田博明, 藤原正親, 横山健一: FDG-PETで集積を認め術後再発との鑑別が困難であった頭部皮下放線菌症の一例. 第98回日本核医学会関東甲信越大会. オンライン. 2023年1月28日.
50. 須山淳平, 高桑千絵子, 高橋正輝, 高橋沙奈江, 福島啓太, 吉岡達也, 國光健二, 横山健一: 圧縮センシングを用いた短時間撮影MRIでの深層学習を用いた画像再構成法の有用性についての検討. 第33回骨軟部放射線研究会. 北九州. 2023年1月28日.
51. 矢嶋竜征, 須山淳平, 橋本直也, 白川佑也, 市川浩三, 横山健一: 肺高血圧症における動態撮影を用いた肺血流評価に関する検討. 第98回日本核医学会関東甲信越大会. オンライン. 2023年1月28日.
52. 五明美穂: FRACTUREの頭部領域における臨床応用. 第52回日本神経放射線学会. 東京. 2023年2月16日.
53. 渡邊正中: 新たなDeep Learning Reconstructionの概念と初期経験. 第52回日本神経放射線学会. 東京. 2023年2月17日.
54. 五明美穂, 土屋一洋, 福島啓太, 吉岡達也, 片瀬七朗, 横山健一: MR bone imagingの頭部疾患への臨床応用. 第52回日本神経放射線学会. 東京. 2023年2月18日.
55. Shirakawa Y, Suyama J, Nakanishi A, Yokoyama K: Evaluation of Noise Reduction Reconstruction Method Based on Non-Local-Mean Method in SiPM-Based PET/CT. European Congress of Radiology2023. Austria. March 1st-5th, 2023.
56. Suyama J, Shirakawa Y, Onozawa S, Yokoyama K: Usefulness of deep learning reconstruction technique for FDG-PET diagnosis of lung cancer. European Congress of Radiology 2023. Austria. March 1st-5th, 2023.
57. 矢嶋竜征, 橋本直也, 須山淳平, 白川佑也, 海老根昂平, 市川浩三, 横山健一: 肺高血圧症における動態撮影を用いた肺血流評価に関する検討. 第87回日本循環器学会学術集会. 福岡. 2023年3月10-12日.
58. 小野澤志郎, 野谷啓之, 宮内亮輔, 黒木一典: IVR医常勤医がない中規模病院での緊急IVR連携の推進について. 第59回日本腹部救急医学会総会. 宜野湾. 2023年3月10日.
59. 五明美穂: 頭部領域におけるarterial spin labeling (ASL) MRAの臨床応用. 第21回TNR倶楽部. 東京. 2023年3月18日.
1. Katase S¹, Ichinose A², Hayashi M¹, Watanabe M¹, Chin K¹, Takeshita Y¹, Shiga H¹, Tateishi H¹, Onozawa S¹, Shirakawa Y³, Yamashita K³, Shudo J³, Nakamura K², Nakanishi A³, Kuroki K¹, Yokoyama K¹ (¹Faculty of Medicine, Kyorin University, ²Imaging Technology Center, ICT Strategy Division, Fujifilm Corporation,³Kyorin University Hospital): Development and performance evaluation of a deep learning lung nodule detection system. BMC Medical Imaging. 22(1). 203. 2022.
2. Gomyo M, Tsuchiya K¹, Yokoyama K (¹JR Tokyo General Hospital): Vessel Wall Imaging of Intracranial Arteries: Fundamentals and Clinical Application. Magn Reson Med Sci. 2022. DOI: 10.2463/mrms.rev.2021-0140. Online ahead of print.
3. 五明美穂, 真鍋徳子: 高精細CTがもたらす術前・術後画像と画像解剖学へのインパクト. INNERVISION. 37 (8). 80-81. 2022.
4. Kawano H¹, Adachi T², Saito M¹, Amano T¹, Gomyo M, Yokoyama K, Shiokawa Y³, Hirano T¹ (1 Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University, ² Section of Radiology, Kyorin University Hospital, ³ Department of Neurosurgery, Kyorin University): Correlation between pretreatment and follow-up infarct volume using CT perfusion imaging: the Bayesian versus singular value decomposition method. Neurol Sci. 44 (6). 2041-2047. 2023. Epub.
5. 五明美穂, 土屋一洋¹ (¹JR東京総合病院): 脳腫瘍術後早期のMRIにおける注意点を教えてください. 画像診断. 43 (1). 90-91. 2023.
6. 大原有紗, 土屋一洋¹ (¹JR東京総合病院): 炎症性疾患. 臨床画像. 38 (9). 1030-1040. 2022.
7. 大原有紗, 土屋一洋¹ (¹JR東京総合病院): 所見別 松果体部腫瘍はどのように考えればよいですか?. 画像診断. 43(1). 70-71. 2023.
8. Watanabe M #, Taguchi S¹ #, Machida H², Tambo M¹, Takeshita Y, Kariyasu T², Fukushima K, Shimizu Y, Okegawa T¹, Fukuhara H¹, Yokoyama K (¹ Department of Urology, ²Tokyo Women's Medical University Medical Center East, Kyorin University School of Medicine) (# contributed equally): Clinical validity of non-contrast-enhanced VI-RADS: Prospective study using 3-T MRI with high gradient magnetic field. Eur Radiol. 32(11). 7513-7521. 2022.
9. 田口慧¹, 渡邊正中, 多武保光宏¹, 町田治彦², 菊安俊哉², 横山健一, 福原浩¹ (¹杏林大・医・泌尿器科学, ²東京女子医科大学附属足立医療センター・放射線科): AI搭載・次世代MRIを用いた膀胱癌深達度診断法 (VI-RADS) の前向き検証研究. 泌尿器外科. 35 (5). 396-402. 2022.
10. Miyauchi R, Komita M, Matsushita Y, Matsumoto J: Proactive Use of Whole-Body Computed Tomography and Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta in Hemodynamically Unstable Trauma Patient. Journal of Endovascular Resuscitation and Trauma Management. Vol.6. No.1.72-76. 2022.

その他
受賞

論文

1. Gomyo M: Cum Laude award. Clinical Impact of MR Bone Imaging on Head and Neck Diseases. the 108th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (RSNA). USA On line. 2022.

放射線腫瘍学教室

講演

1. 小林なお：肝内胆管癌に対する重粒子線治療の治療成績。第60回日本癌治療学会学術集会。神戸市。2022年10月21日。
2. 石田直哉，安藤謙，樋口雅則，村田真澄，新垣理宣，江原威，北本佳住，茂木利雄：頭頸部IMRTにおいてマウスピース使用が固定精度に与える影響とその関連因子の検討。日本放射線腫瘍学会第35回学術大会。広島市。2022年11月10日。
3. 小林なお，長井美由紀，奥田俊，戸成綾子，江原威：高齢食道癌患者に対する放射線治療。日本放射線腫瘍学会第35回学術大会。広島市。2022年11月10日。
4. 長井美由紀，小林なお，奥田俊，戸成綾子，若松喬，吉敷智和，須並英二，江原威：局所進行直腸癌への術前化学放射線療法～後方視の検討～。日本放射線腫瘍学会第35回学術大会。広島市。2022年11月10日。
5. 安藤謙，村田真澄，入江大介，永島潤，神沼拓也，村田和俊，野田真永，江原威，北本佳住，大野達也：子宮体癌に対する根治的放射線治療の多施設後ろ向き解析。日本放射線腫瘍学会第35回学術大会。広島市。2022年11月10日。

論文

1. 江原威，鹿間直人，木場律子，高橋健夫，茂松直之：一般市民における緩和ケアおよび放射線治療の認知度とニーズ-がん経験の有無による検討-。癌の臨床。66(4)。261-267。2022。

著書

1. 江原威（翻訳）：22章分子イメージ誘導放射線治療。臨床放射線生物学の基礎原著5版 日本語翻訳版。安藤興一，高橋昭久，中野隆史，古澤佳也 監訳。特定非営利活動法人放射線医療国際協力機構。2022。279-299。

麻酔科学教室

講演

1. 中澤春政：近赤外線脳酸素モニターを使用した心臓血管外科手術における脳保護戦略。第35回JB-POT講習会。オンライン。2022年3月22日-4月26日。
2. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下CVCハンズオン・セミナー。千葉西総合病院。オンライン。2022年4月9日。
3. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺セミナー”Train for the Advanced Practice”。日本区域麻酔学会第9回学術集会。宜野湾・オンライン。2022年4月15-16日。
4. 澤田龍治，上島賢治，安部洋一郎：右下腹部痛の原因に前皮神経絞扼症候群が疑われ腹直筋鞘ブロックが診断と治療に有用であった1例。日本区域麻酔学会第9回学術集会。宜野湾・オンライン。2022年4月15-16日。

5. 島津恵介，小野元彰，古谷明子，徳嶺譲芳，中澤春政，萬知子：舌咽神経ブロック顎下アプローチの意識下挿管への応用。日本区域麻酔学会第9回学術集会。宜野湾・オンライン。2022年4月15-16日。
6. 関博志：薬剤安全管理。日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修e-ラーニング。オンライン。2022年5月～配信開始。
7. 中澤春政：術前呼吸器合併症・循環系合併症。日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修e-ラーニング。オンライン。2022年5月～配信開始。
8. 中澤春政：術前神経系合併症・肝腎合併症。日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修e-ラーニング。オンライン。2022年5月～配信開始。
9. 中澤春政：APSのすゝめ。術後疼痛管理セミナー。東京・オンライン。2022年5月7日。
10. Ito S, Seki H, Fujita R, Kasamatsu H, Innami Y, Ouchi T: Whole blood transfusion due to disruption of the platelet concentrate supply caused by the COVID-19 pandemic: a case report. Euroanaesthesia 2022. Italia. June 5th 2022.
11. 本保晃，中澤春政：気道確保ハンズオントレーニングセミナー。第68回日本不整脈心電学会学術集会。横浜。2022年6月8-10日。
12. 関博志：電子問診システムを用いた術前診察の効率化。日本麻酔科学会第69回学術総会。神戸。2022年6月16日。
13. 徳嶺譲芳：第155回CVC指導者養成コース。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2022年6月25日。
14. 徳嶺譲芳：第229回CVC実践セミナー。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2022年6月25日。
15. 徳嶺譲芳：第154回CVC指導者養成コース。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2022年6月25日。
16. 徳嶺譲芳：第227回日本医学シミュレーション学会CVC実践セミナー。日本医学シミュレーション学会。オンライン。2022年6月25日。
17. 渡辺英伸，中澤春政，徳嶺譲芳，萬知子：輪状甲状軟骨帯における超音波ガイド下穿刺の有用性の検討-穿刺困難シミュレーターを用いて-。第5回気道管理学会。東京。2022年7月2日。
18. 中澤春政：心臓手術後の酸素療法 NPPV vs HFNC。第5回気道管理学会。東京。2022年7月2日。
19. 腰原未沙，吉川貴紘，中澤春政，森山潔，萬知子：新型コロナウイルス肺炎合併妊婦の帝王切開術後に呼吸状態が増悪し挿管管理となった1例。第5回気道管理学会。東京。2022年7月2日。
20. 関博志：PONVハイリスク症例～それでも吸入麻酔薬を使いたい時～。バクスターWEBセミナー。オンライン。2022年7月5日。
21. 澤田龍治，上島賢治，高岡早紀，松原香名，桑原沙夜子，濱口孝幸，林摩耶，中川雅之，安部洋一郎：メックケル腔萎縮が原因と考えられた三叉神経痛に対しガッセル神経節ブロックが有効だった1例。日本ペインクリニック学会第56回学術集会。東京・オンライン。2022年7月7日-8月31日。
22. 中澤春政：麻酔薬戦国時代ー私がデスフルランを使う理由ー。宮城県デスフルラン講演会。オンライン。2022年8月1日。
23. 中澤春政：Multimodalな鎮痛による合併症。テルモアドバイザリーミーティング。東京。2022年8月19日。
24. 廣茉莉，川船麦，本保晃，関博志，萬知子：手術申し込み時間と実時間との乖離を短期間で大幅に減少させた当院の取り組み。日本麻酔科学会2022年関東甲

- 信越・東京支部第62回合同学術集会．オンライン．2022年9月2日-10月3日．
25. 齊藤由希子, 本保晃, 関博志, 徳嶺譲芳, 萬知子: 遺伝性圧脆弱性ニューロパチー患者の全身麻酔経験. 日本麻酔科学会2022年度関東甲信越・東京支部第62回合同学術集会. オンライン. 2022年9月2日-10月3日.
 26. 中澤春政: Pros & Cons 2心臓血管手術麻酔にアルブミンを使わない. 第27回日本心臓血管麻酔学会学術集会. 京都. 2022年9月17日.
 27. 江間章悟, 足立智, 中澤春政, 萬知子: 2debranching TEVARとCABG術後の患者に対して, on-pump beating部分弓部置換術を施行した1例. 第27回日本心臓血管麻酔学会学術集会. 京都. 2022年9月17-18日.
 28. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の死亡事故回避戦略. 島根大学医療安全教育講演. オンライン. 2022年9月22日.
 29. 徳嶺譲芳: 第237回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2022年9月23日.
 30. 鎮西美栄子: 緩和ケアでの痛み治療のあらましー基本のお菓の紹介 患者さんへのご説明ー. 地域で診る緩和ケアWEBセミナー. 東京・オンライン. 2022年9月28日.
 31. 中澤春政: 周術期循環モニタリング再考 組織酸素需給バランスの観点から. 第25回医療ガス学会. 千葉. 2022年10月15日.
 32. 中澤春政: Withコロナの時代において, 医師・歯科医師のキャリア形成に留学は必要か?. 第50回日本歯科麻酔学会総会. 東京. 2022年10月27日.
 33. 本保晃: 内視鏡下における気管吸引のコツ. 第50回日本歯科麻酔学会総会. 東京. 2022年10月29日.
 34. 中澤春政: 鎮痛のその先へー安全面に配慮した新時代のAPSー. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月11日.
 35. 関博志, 星島宏, 日向俊輔, 吉川貴紘, 渡辺英伸, 本保晃, 近藤一哉, 永井亜依: SGLT2阻害薬に関連した周術期ケトアシドーシスに関するシステムティックレビュー. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月11日.
 36. 川船麦, 中澤春政, 関博志, 徳嶺譲芳, 萬知子: 術後に多彩な神経障害を呈した高度肥満の一例. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月11日.
 37. 関博志: 周術期管理センター運用の実際. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月12日.
 38. 関博志: PONV予防～5HT3受容体拮抗薬の次はあるか～. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月12日.
 39. 小野元彰, 関博志, 本保晃, 萬知子: 術前の口腔機能が術後合併症の発生に及ぼす影響に関する観察研究のためのパイロット研究. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月12日.
 40. 小野元彰, 関博志, 本保晃, 萬知子: 術前の口腔機能が術後合併症の発生に及ぼす影響に関する観察研究のためのパイロット研究. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19日.
 41. 徳嶺譲芳: 第159回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2022年11月23日.
 42. 徳嶺譲芳: 第238回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2022年11月23日.
 43. 徳嶺譲芳: 特別講演「院内プリビレッジ 中心静脈カテーテル挿入・管理のライセンス制 杏林プロジェクト」. 東京三弁護士会医療関係事件検討協議会. 東京. 2022年12月1日.
 44. 萬知子, 中澤春政: 疼痛管理のこれから～運用, 記録, 請求の様々な視点から～. 第44回日本疼痛学会. 岐阜. 2022年12月2日.
 45. 中澤春政: multimodal analgesiaな術後鎮痛プロトコールによる合併症の検討. 第2回日本術後痛学会. 岐阜. 2022年12月3日.
 46. 本保晃: 重症肺高血圧症患者におけるレミマゾラムの使用経験. アネレムWEBセミナー. オンライン. 2022年12月7日.
 47. 関博志: 周術期管理と術前リスク評価. 第59回奈良麻酔集中治療セミナー. 奈良. 2022年12月21日.
 48. 中澤春政: 麻酔科医が行う周術期経胸壁心エコーー聴診器のその先へー. コミュニノルタ教育セミナー. オンライン. 2023年1月26日.
 49. 中澤春政: 心臓血管麻酔管理のポイント. 看護師・コメディカルのための麻酔セミナー. 東京. 2023年1月28日.
 50. 中澤春政: 小児の麻酔管理の基本/先天性疾患を理解する. 看護師・コメディカルのための麻酔セミナー. 東京. 2023年1月28日.
 51. 徳嶺譲芳: 第160回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2023年1月28日.
 52. 徳嶺譲芳: 第240回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2023年1月28日.
 53. 徳嶺譲芳: 静脈解離と誤認しやすい静脈弁. 多摩麻酔懇話会第33回大会. 東京・オンライン. 2023年2月4日.
 54. 森山潔, 小谷真理子, 萬知子, 白地絢, 村野祐司, 林晶子, 渡邊好江, 原田雅子, 濱野繁, 中村香織: 集中治療部門から, 安全な酸素療法デバイスの使用を広める. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 京都. 2023年3月3日.
 55. 渡辺英伸, 渡邊健太, 安藤直朗, 小谷真理子, 森山潔, 萬知子: 静脈ライン留置期間と中心静脈カテーテル関連血流感染症発生率. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 京都. 2023年3月2日.
 56. 安藤直朗, 渡辺英伸, 中澤春政, 小谷真理子, 森山潔, 萬知子: 冠動脈バイパス術後の声帯運動障害から早期に診断し得た声門後部癒着症の一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 京都. 2023年3月2日.
 57. 齊藤由希子, 神山智幾, 小谷真理子, 森山潔, 萬知子: SOFAスコア自動入力システムの精度評価. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 京都. 2023年3月2日.
 58. 徳嶺譲芳: 第161回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2023年3月5日.
 59. 徳嶺譲芳: 第241回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2023年3月5日.
 60. 関博志: 先生, 私全身麻酔を受けるんです～患者がつなぐ歯科と医科～. 令和4年度東京都周術期口腔ケア推進事業 第2回導入コース研修. オンライン. 2023年3月16日.
 61. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー in 友愛医療センター. 沖縄. 2023年3月11日.
 62. 徳嶺譲芳: ハンズオンセミナー. 第1回日本医学シミュレーション学会PICCプラクティショナーコース. 東京. 2023年3月18日.

63. 元山宏展：整理しよう！心臓手術のイママデとコレカラ。コビディエンジャパン周術期管理セミナー 麻酔科サブスペ領域up to date. 東京. 2023年3月18日.
64. 腰原未沙：ここが知りたかった！産科周術期管理。コビディエンジャパン周術期管理セミナー 麻酔科サブスペ領域up to date. 東京. 2023年3月18日.
65. 吉川貴紘：脳神経麻酔の最前線。コビディエンジャパン周術期管理セミナー 麻酔科サブスペ領域up to date. 東京. 2023年3月18日.
66. 江間章悟：「小児は苦手」からの脱却。コビディエンジャパン周術期管理セミナー 麻酔科サブスペ領域up to date. 東京. 2023年3月18日.
67. 関博志：PONVハイリスク症例～それでも吸入麻酔薬を使いたい時～. バクスターWEBセミナー. オンライン. 2023年3月23日.
68. 腰原未沙, 本保晃, 萬知子：妊娠経過に伴い増大した全身性静脈奇形合併妊婦の帝王切開を全身麻酔で管理した1例. 第2回周産期麻酔科学会. 福岡. 2023年3月25日.

論 文

1. Kotani M, Kohyama T, Moriyama K, Yorozu T: Successful management of coronavirus disease 2019-related respiratory failure using high-flow nasal cannula therapy in a patient with underlying pulmonary artery hypertension. *Case Rep Pulmonol*. 2022. DOI:10.1155/2022/1774796.
2. Nagase M¹, Nagase T², Tokumine J, Saito K³, Sunami E⁴, Shiokawa Y⁵, Matsumura G¹ (1Department of anatomy, Kyorin university school of medicine, 2Medical corporation kunitachi aoyagakai, 3Otorhinolaryngology, kyorin university school of medicine, 4Digestive surgery, kyorin university school of medicine, 5Neurosurgery, kyorin university school of medicine): Formalin-free soft embalming of human cadavers using N-vinyl-2-pyrrolidone: perspectives for cadaver surgical training and medical device development. *Anat Sci Int*. 97(3). 273-282. 2022.
3. 森山潔：経鼻加湿急速送気換気交換(THRIVE). *人工呼吸*. 39 (1) . 36-40. 2022.
4. Noguchi H, Seki H, Tokumine J, Nakazawa H, Yorozu T: Bleeding after central venous catheter placement in a patient with undiagnosed acquired hemophilia A: A Case Report. *Cureus*. 14(7). e27444. 2022.
5. Kuriyama N^{1, 2}, Nakamura T^{1, 2}, Nakazawa H^{1, 2}, Wen T^{1, 3}, Berra L¹, Bittner E¹, Goverman J¹, Kaneki M^{1, 2} (1Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, 2Shriners Hospitals for Children, 3Vassar College): Bioavailability of reduced coenzyme Q10 (Ubiquinol-10) in burn patients. *Metabolites*. 12(7). 613. 2022.
6. 関博志：シリーズで学ぶ最新知識 産婦人科領域の周術期管理 PONV対策. 産婦人科の実際. 71(8). 873-880. 2022.
7. Nakazawa H^{1,2}, Wong LP¹, Shelton L³, Kaneki M^{1,2}, et al. (1Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, 2Shriners Hospitals for Children, 3Human Metabolome Technologies): Farnesyltransferase inhibitor prevents burn injury-induced metabolome changes in muscle. *Metabolites*. 12(9). 800. 2022.
8. 関博志, 野口ひかり, 近藤一哉, 島津恵介, 渡辺英伸, 小松えり, 秋澤千尋, 神山智幾, 森山潔, 齊藤由紀子, 和田望, 澤田龍治, 徳嶺譲芳, 竹内徳子, 込山路子, 廣茉莉, 吉川貴紘, 田淵沙織, 川船麦: 周術期におけるフレイルとサルコペニア. *臨床麻酔*. 46(9). 1193-1200. 2022.
9. 関博志: 「PONVのない術後」を実現することは可能か. *Anet*. 26(3). 26-31. 2022.
10. Sugiki D¹, Matsushima H¹, Asao T², Tokumine J, Lefor AK³, Kamisasanuki T¹, Suzuki M¹, Gomei S¹ (1 Dokkyo University, 2 Gunma University, 3 Jichi University): A web-based self-learning system for ultrasound-guided vascular access. *Medicine*. 101(43). e31292. 2022.
11. Moriyama K, Ando T, Kotani M, Tokumine J; Nakazawa H, Motoyasu A, Yorozu T : Risk factors associated with increased incidences of catheter-related bloodstream infection. *Medicine*. 101(42). e31160. 2022.
12. 中澤春政: 「TEE基本描出のコツ」. *LiSA*. 29(10). 942-48. 2022.
13. Ando T, Uzawa K, Yoshikawa T, Mitsuda S, Akimoto Y, Yorozu T, Ushiyama A: The effect of tetrastarch on the endothelial glycocalyx layer in early hemorrhagic shock using fluorescence intravital microscopy: a mousse model. *J Anesth*. 37(1). 104-118. 2022.
14. Nakazawa H, Tokumine J, Lefor AK¹, Yamamoto K², Karasawa H², Shimazu K, Yorozu T (1Jichi University, 2Fujifilm Co.): Use of a photoacoustic needle improves needle tip recognition in a video recording of simulated ultrasound-guided vascular access: a pilot study. *J Vasc Access*. 2022. doi: 10.1177/11297298221122137. Online ahead of print.
15. Tokumine J, Nakazawa H, Morimoto Y¹, Yorozu T (1Ube Industries Centra Hospital): Do not misidentify a venous valve as a venous dissection. *Radiol Case Rep*. 18(4). 1403-1405. 2023.
16. Nakazawa H, Uzawa K, Tokumine J, Lefor AK¹, Motoyasu A, Yorozu T, (1Jichi University): Airway ultrasound for patients anticipated to have a difficult airway: Perspective for personalized medicine. *World J Clin Cases*. 11(9). 1951-1962. 2023.
17. Seki H, Ideno S¹, Shiga T², Watanabe H, Ono M, Motoyasu A, Noguchi H, Kondo K, Yoshikawa T, Hoshijima H³, Hyuga S⁴, Shishii M⁴, Nagai A⁴, Higashi M⁵, Ouchi T⁶, Yasuda K, Kuratani N⁷ (1Kawasaki Municipal Hospital, 2International University of Health and Welfare, 3Tohoku University, 4Kitasato University, 5Kyushu University, 6Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, 7Saitama Children's Medical Center): Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor-associated perioperative ketoacidosis: a systematic review of case reports. *J Anesth*. 2023. DOI: 10.1007/s00540-023-03174-8. Online ahead of print.
18. Sekiguchi S¹, Moriyama K, Tokumine J, Lefor AK², Nakazawa H, Tomita Y¹, Yorozu T. (1Department of Medical Education, Kyorin university school of medicine, 2Jichi University): Near-infrared venous imaging may be more useful than

ultrasound guidance for novices to obtain difficult peripheral venous access: A crossover simulation study. *Medicine (Baltimore)*. 102(12). e33320. 2023.

19. 関博志：杏林大学式手術部運営効率改善法. *日臨麻会誌*. 43(2). 93-98. 2023.

著書

1. 関博志 (分担執筆) : IV. 消化器系30 制吐薬. 手術患者の術前使用薬コントロール. 小竹良文 編集. 克誠堂出版株式会社. 2022. 143-146.
2. 関博志 (分担執筆) : 第2章術前評価と管理 5周術期の口腔管理. 麻酔における気道管理の手技と知識を知る. 中山禎人 編集. 日本医事新報社. 2022. 54-58.
3. 徳嶺讓芳, 中澤春政 (共編) : 5.5 中心静脈路確保. 臨床麻酔科学書. 森田潔 監修. 川真田樹人, 齋藤繁, 佐和貞治, 廣田和美, 溝渕知司 編集. 中山書店. 2022. 375-382.
4. 徳嶺讓芳, 他 (共編) : 行動目標3b 危険手技の安全な実施 (中心静脈カテーテル留置・管理に関する安全指針の遵守). 患者安全・医療安全実践ハンドブック. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2022年. 98-115.
5. 徳嶺讓芳 (監修) : CVC Practical tips! 手技のコツ×患者安全で中心静脈カテーテル挿入をマスター. 中外医学社. 2022.
6. 鎮西美栄子 (分担執筆) : 「ヒト免疫不全ウイルス(HIV)のキャリアである」. 麻酔科トラブルシューティングAtoZ. 高崎真弓, 河本昌志, 白神豪太郎, 松本美志也, 廣田和美 編集. 文光堂. 2022. 228-231.
7. 森山潔, 他 (共編) : 第III章 理学療法士は正確かつ独立して (評価し) 解釈することができる. B. 以下の採血結果や生理検査結果を正確かつ独立して (評価し) 解釈することができる. E. 以下の血液ガス分析の結果を正確かつ独立して (評価し) 解釈することができる. 理学療法士 集中治療 テキスト. 一般社団法人日本集中治療医学会集中治療PT・OT・ST委員会 編集. 真興交易(株)医書出版部. 東京. 2023. 147-167.

その他

1. 澤田龍治：上肢 インストラクター. 日本区域麻酔学会第9回学術集会. 宜野湾・オンライン. 2022年4月15-16日.
2. 本保晃：シミュレーショントレーニングセミナー インストラクター. 第5回気道管理学会. 東京. 2022年7月2日.
3. 小野元彰, 関博志, 本保晃, 萬知子：術前の口腔機能が術後合併症の発生に及ぼす影響に関する観察研究のためのパイロット研究. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19日 (優秀演題賞).
4. 関博志, 星島宏, 日向俊輔, 吉川貴紘, 渡辺英伸, 本保晃, 近藤一哉, 永井亜依：SGLT2阻害薬に関連した周術期ケトアシドーシスに関するシステムティックレビュー. 日本臨床麻酔学会第42回大会. 京都. 2022年11月11日 (優秀演題).
5. 宮崎智之, 中澤春政：「Dr.宮崎のぶらり研究室探訪記」. *LiSA*. 29(11). 1042-44. 2022.
6. 中澤春政：「Dr.中澤のぶらり研究室探訪記」. *LiSA*. 29(12). 1160-63. 2022.
7. 徳嶺讓芳：安全な中心静脈穿刺手技. ケアネットライブ (共催：株式会社ケアネット, 富士フィルムメディカル株式会社). オンライン. 2023年1月18日.

8. 徳嶺讓芳：中心静脈穿刺の致命的合併症回避のためにPICCの普及が急務である！医療安全レポート. 医療安全全国共同行動. 2023年2月号 (No.17). p5-7. 2023.
9. 徳嶺讓芳：安全な中心静脈カテーテル留置のための基礎知識 (超音波解剖学解説編). 超音波画像診断装置SonoSite SII 症例解説. FUJIFILM主催. オンライン. 2023年2月11日.
10. 徳嶺讓芳：安全な中心静脈カテーテル留置のための基礎知識 (シミュレーション・トレーニング編) 超音波画像診断装置SonoSite SII 症例解説. FUJIFILM主催. オンライン. 2023年2月11日.
11. 徳嶺讓芳：日本医学シミュレーション学会PICCプラクティショナーズ・ガイド. 日本シミュレーション学会. オンライン. 2023年3月18日.
12. 徳嶺讓芳：第17号中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事故の分析-第2報 (改訂版). 医療事故調査・支援センター (一般社団法人日本医療安全調査機構). 2023.

臨床検査医学教室

講演

1. 太田直樹, 福田謙, 藤本洋輔, 松隈知恵, 木村献, 高橋一雅, 安戸裕貴, 長谷川俊史：
ミトコンドリアレスキュー中にBasedow病様の検査値を呈した2症例. 第125回日本小児科学会学術集会. 福島・オンライン. 2022年4月15日-17日.
2. 木村献, 松重武志, 安戸裕貴, 長谷川俊史：インフルエンザA(H1N1)pdm09感染喘息モデルマウスにおけるMMP-9とTIMP-1の病理的特徴. 第125回日本小児科学会学術集会. 福島・オンライン. 2022年4月15日-17日.
3. 石井隆浩, 松浦幸子, 小山田崇, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明：抗p53抗体測定試薬「エクルーシス試薬Anti-p53」の性能評価. 第71回日本医学検査学会. 大阪・オンライン. 2022年5月21日.
4. 坂井範子, 米山里香, 浅野紀子, 鈴木光一, 関口久美子, 大西宏明：当院外来採血室での患者急変時対応の取り組み-第2報. 第71回日本医学検査学会. 大阪・オンライン. 2022年5月22日.
5. 石関彩乃, 牧野博, 細江みずぎ, 鈴木早紀, 小高知美, 岩崎恵, 石井隆浩, 小島直美, 関口久美子, 山崎聡子, 渡邊卓, 大西宏明：大規模地震時における輸血検査・供給体制に関する問題点とその対応. 第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 名古屋・オンライン. 2022年5月27日-29日.
6. 岡田清吾, 松隈知恵, 安戸裕貴, 大西佑治, 深野玲司, 鰐石貴子, 長谷川俊史：自然免疫IL-33/ST2系を介した川崎病冠動脈病変発症機序の解明. 第58回日本小児循環器学会総会・学術集会. 札幌・オンライン. 2022年7月23日.
7. 安東泰希, 安戸裕貴, 安藤智暁, 山路健, 奥村康, 田村直人, 北浦次郎：自己炎症症候群：ヒトNLRP1の点変異が肝臓の繊維化を伴う自己炎症性疾患を誘導した. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会. 横浜・オンライン. 2022年4月25日-27日.
8. 山本里彩, 前原明絵, 安戸裕貴, 清水俊明, 北浦次郎：肝臓繊維化を主徴とする希少疾患患者から同定されたNLRP1点変異の機能解明. 第49回日本小児栄養消化器肝臓学会. 東京・オンライン. 2022年10月

- 1日.
9. 安戸裕貴：アレルギーコンポーネント～最新の知見から～ 種類のアレルギーコンポーネント. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年10月8日.
 10. 岡崎史子, 脇口宏之, 是永優乃, 安戸裕貴, 長谷川俊史: 消化管アレルギー ダウン症児におけるFPIESの臨床的特徴. 第71回日本アレルギー学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年10月9日.
 11. 山本里彩, 安東泰希, 安戸裕貴, 安藤智暁, 山路健, 奥村康, 田村直人, 北浦次郎: ヒトNLRP1の点変異により誘導される自己炎症性疾患の病態解析. 第32回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2022年12月10日-11日.
 12. 木村献, 松重武志, 安戸裕貴, 長谷川俊史: A(H1N1)pdm09感染喘息モデルマウスにおける重症呼吸器合併症の病態の検討. 第54回日本小児呼吸器学会. 千葉. 2022年10月14日.
 13. Ohtsuka K, Kojima Y, Aso N, Matsushima S, Watanabe T, Abe N, Ohnishi H: Germline RAD50 I505fs loss-of-function variant detected in a gastrointestinal double primary cancer case with a family history of cancer. The 17th Congress of Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM KOBE 2022). Kobe. October 9th, 2022.
 14. Shibasaki S, Kishino T, Harashima K, Nakajima S, Sei Y, Sakata K, Ohnishi H, Watanabe T: Sex differences in changes in hemodynamics on Doppler sonography after lunch produced by taking a short nap. The 17th Congress of Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM KOBE 2022). Kobe. October 9th, 2022.
 15. 大西宏明: 採血のリスクマネジメントについて. 第55回中四国支部医学検査学会. 広島. 2022年10月23日.
 16. 大西宏明: 採血に伴う神経損傷の予防. 第29回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム. 東京・オンライン. 2022年10月28日.
 17. Yamamoto R, Maehara Ak, Ando T, Yasudo H, Izawa K, Ando T, Kaitani A, Kitaura J: 希少疾患患者から同定されたNLRP1の点変異(NLRP1-P1214L)はインフラマソームの過活性化を介して自己炎症性疾患を引き起こす 病態生理の分子解析(A point mutation of NLRP1 (NLRP1-P1214L), identified in a patient with a rare disease, causes an auto-inflammatory disease through hyper-activation of inflammasome: molecular analysis of the pathophysiology). 第54回日本小児感染症学会総会・学術集会. 福岡・オンライン. 2022年11月5日.
 18. 高里良宏, 北村勝誠, 松井照明, 杉浦至郎, 安戸裕貴, 伊藤浩明: マカダミアナッツアレルギーの特徴と皮膚プリックテストの有用性. 第59回日本小児アレルギー学会学術大会. 宜野湾・オンライン. 2022年11月12日.
 19. Yasudo H: Tree nut allergies. 2022 JSPACI-APAPARI joint congress. Ginowan・Online. November 13th, 2022.
 20. Yasudo H, Yamamoto-Hanada K, Yang L, Saito-Abe M, Sato M, Miyaji Y, Shimada M, Hirai S, Toyokuni K, Ishikawa F, Inuzuka Y, Kabashima S, Fukuie T, Ohya Y: Pollen-food allergy syndrome is one of the manifestations of allergic march. 2022 JSPACI-APAPARI joint congress. Ginowan・Online. November 13th, 2022.
 21. 山崎聡子, 大塚弘毅, 菅田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 安戸裕貴, 岸野智則, 吉田正雄, 苅田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: Rad50 変異を有する毛細血管拡張性運動失調症(A-T)モデルメダカの作製(1): 運動失調と毛細血管拡張の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月18日.
 22. 安戸裕貴, 安藤智暁, 北浦次郎, 成田雅美, 岸野智則, 渡邊卓, 大西宏明: マカダミアナッツアレルギーに対するマカダミアビスリリン特異的IgE値測定の診断的価値の検討. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月18日.
 23. 大西宏明: 臨床検査のガイドライン2021の概要とトピックス「標準採血法ガイドラインに基づいた正しいサンプリング」. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月18日.
 24. 大塚弘毅, 山崎聡子, 菅田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 安戸裕貴, 岸野智則, 吉田正雄, 苅田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: Rad50変異を有する毛細血管拡張性運動失調症(A-T)モデルメダカの作製(2): 腫瘍原性の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月18日.
 25. 平尾千尋, 井田陽子, 堀彩花, 鈴木美音, 伊藤彩花, 本間慎太郎, 奥山貴洋, 荒木光二, 宮城博幸, 関口久美子, 安戸裕貴, 山崎聡子, 大塚弘毅, 渡邊卓, 大西宏明: 多発性骨髄腫患者の血液培養から*Prototheca wickerhamii*が検出された1例. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月18日.
 26. 本山拓也, 宮城博幸, 関口久美子, 山口芳裕, 渡邊卓, 大西宏明: 全自動薬物分析装置を用いたLC/MS/MSによる薬物スクリーニング法の検討 第2報～定量精度の検討～. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月19日.
 27. 大坂真以子, 嵩森直子, 岸野智則, 関口久美子, 松島早月, 山崎聡子, 大塚弘毅, 安戸裕貴, 森井健司, 柴原純二, 渡邊卓, 大西宏明: 悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)の超音波画像所見. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月19日.
 28. 木崎直人, 吉澤美枝, 加藤里絵, 中富浩文, 大西宏明: 片側顔面痙攣に対する微小血管減圧術における神経筋モニタリング法の検討. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月19日.
 29. 菊地茉莉, 市川弥生子, 小倉航, 滝智彦, 大塚弘毅, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明: 当院の遺伝子診療センター開設に伴う遺伝学的検査の体制構築. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月19日.
 30. 坂本大典, 山崎聡子, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明: フローサイトメトリーを用いた正常前駆Bリンパ球(hematogones)と急性Bリンパ芽球性白血病細胞との判別. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮・オンライン. 2022年11月20日.
 31. 坂本大典, 要伸也, 駒形嘉紀, 山崎聡子, 宮城博幸: ANCA関連血管炎におけるプレセプシン測定の有用性について. 第38回日本臨床化学会関東支部例会. 三鷹. 2022年12月10日.
 32. 井田陽子, 奥山貴洋, 荒木光二, 平尾千尋, 本間慎太郎, 小倉航, 鈴木美音, 伊藤彩花, 堀口彩花, 米谷正太, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明: 血液培養から

*Lachnoanaerobaculum orale*を分離した一症例. 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 横浜. 2023年2月4日.

33. 大西宏明: ガイドラインに基づく採血法による検査の精度と安全の確保. 令和4年度長崎県医師会臨床検査精度管理研修会. 長崎. 2023年3月11日.

論文

1. Urata T¹, Kishino T^{1,2}, Watanabe K¹, Shibasaki S³, Yotsukura M^{2,4}, Mori H⁵, Kawamura N⁵, Tanaka T⁶, Osaka M¹, Matsushima S, Yamasaki S^{1,4}, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T⁷ (¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, ²Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ³Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ⁴Department of Cardiology, ⁵Department of Gastroenterology and Hepatology, ⁶Department of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, ⁷Dean, Kyorin University School of Medicine) : Sonographically measured adipose tissue thickness correlates with laboratory test abnormalities reflecting metabolic state in elderly women. *Metab Syndr Relat Disord*. 20 (3). 148-155. 2022.
2. Yonetani S^{1,2}, Ohnishi H (¹Department of Medical Technology, ² Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital) : A case of multiple abscesses caused by *Nocardia farcinica* rapidly diagnosed by MALDI-TOF MS. *IDCases*. 28. e01497. 2022.
3. Ogura W¹, Ohtsuka K, Matsuura S¹, Okuyama T¹, Matsushima S, Yamasaki S, Miyagi H¹, Sekiguchi K¹, Ohnishi H², Watanabe T (¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital) : Can Individuals with Suboptimal Antibody Responses to Conventional Antiviral Vaccines Acquire Adequate Antibodies from SARS-CoV-2 mRNA Vaccination?. *Viruses*. 14(5). 956. 2022.
4. 大西宏明: 知っておくべき周産期・新生児領域の遺伝学的検査を展望する 保険収載された遺伝学的検査. *周産期医学*. 52(5). 687-692. 2022.
5. 石井隆浩¹, 松浦幸子¹, 小山田崇¹, 宮城博幸¹, 関口久美子¹, 大西宏明 (¹杏林大学医学部付属病院 臨床検査部) : ECLIA法による抗p53抗体測定試薬「エクルーシス試薬Anti-p53」の性能評価. *医学と薬学*. 79(6). 817-823. 2022.
6. Yasudo H, Yamamoto-Hanada K¹, Yang L¹, Saito-Abe M¹, Sato M¹, Miyaji Y¹, Shimada M¹, Hirai S¹, Toyokuni K¹, Ishikawa F¹, Inuzuka Y¹, Kabashima S¹, Fukuie T¹, Ohya Y¹ (¹Allergy Center, National Center for Child Health and Development) : Pollen Food Allergy Syndrome in Allergic March. *Nutrients*. 14(13). 2658. 2022.
7. 大塚弘毅, 大西宏明: がんのリキッドバイオプシー. *医療検査と自動化*. 47(3). 205-211. 2022.
8. 米谷正太¹, 大西宏明 (¹杏林大・保・臨床検査技術学科) : 血液培養からの *Staphylococcus argenteus* の検出状況. *杏林医学会雑誌*. 53(2). 23-29. 2022.
9. Asano K¹, Tamari M², Zuberbier T³, Yasudo H, Morita H⁴, Fujieda S⁵, Nakamura Y⁶, Traidl S⁷, Hamelmann E⁸, Raap U⁹, Babina M³, Nagase H¹⁰, Okano M¹¹, Katoh N¹², Ebisawa M¹³, Renz H¹⁴, Izuhara K¹⁵, Worm M¹⁶ (¹Division of Pulmonary Medicine, Department of Medicine, Tokai University School of Medicine, ²Division of Molecular Genetics, Research Center for Medical Science, The Jikei University School of Medicine, ³Fraunhofer Institute for Translational Medicine and Pharmacology ITMP, Allergology and Immunology, ⁴Department of Allergy and Clinical Immunology, National Research Institute for Child Health and Development, ⁵Department of Otorhinolaryngology-Head & Neck Surgery, University of Fukui, ⁶Cutaneous Immunology, Immunology Frontier Research Center, Osaka University, ⁷Department of Dermatology and Allergy, Division of Immunodermatology and Allergy Research, Hannover Medical School, ⁸Department of Pediatrics, Children's Center Bethel, University Bielefeld, ⁹University Clinics of Dermatology and Allergy, Division of Experimental Allergy and Immunodermatology, University of Oldenburg, ¹⁰Division of Respiratory Medicine and Allergology, Department of Medicine, Teikyo University School of Medicine, ¹¹University Clinics of Dermatology and Allergy, Division of Experimental Allergy and Immunodermatology, University of Oldenburg, ¹²Division of Respiratory Medicine and Allergology, Department of Medicine, Teikyo University School of Medicine, ¹³Department of Otorhinolaryngology, International University of Health and Welfare, ¹⁴Institute of Laboratory Medicine, Philipps University Marburg, ¹⁵Division of Medical Biochemistry, Department of Biomolecular Sciences, Saga Medical School, ¹⁶Division of Allergy and Immunology, Department of Dermatology, Venereology and Allergology) : Diversities of allergic pathologies and their modifiers: Report from the second DGAKI-JSA meeting. *Allergol Int*. 71(3). 310-317. 2022.
10. Tanaka R¹, Fujiwara M², Sakamoto N², Suzuki H², Tachibana K¹, Ohtsuka K, Kishimoto K², Kamma H², Shibahara J², Kondo H¹ (¹Department of Surgery, ²Department of Pathology) : Cytomorphometric and flow cytometric analyses using liquid-based cytology materials in subtypes of lung adenocarcinoma. *Diagn Cytopathol*. 50(8). 394-43. 2022.
11. Ohnishi Y¹, Okada S¹, Kawakami-Miyake A¹, Furuta T¹, Fukano R¹, Yasudo H, Shimokawa M², Hasegawa S¹ (¹Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ²Department of Biostatistics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine) : Safety and Feasibility of Infliximab Therapy in Children With Kawasaki Disease Who Received Live Vaccinations. *Pediatr Infect Dis J*. 41(9). e388-e392. 2022.
12. Kimura S¹, Yasudo H, Oga A², Fukano R¹, Matsushige T¹, Hamano H¹, Hasegawa H³, Nakajima N³, Aina A³, Itoh H², Shirabe K⁴, Toda S⁴, Atsuta R⁵, Hasegawa S¹ (¹Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ²Department of Pathology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ³Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases, ⁴Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment, ⁵Akihabara Atsuta Clinic) :

Histological characteristics of matrix metalloproteinase-9 and tissue inhibitor of metalloproteinases-1 in asthmatic murine model during A(H1N1)pdm09 infection. *Pathol Int.* 72(10). 506-518. 2022.

13. Furuta T¹, Yasudo H, Okada S², Ohnishi Y¹, Kawakami-Miyake A¹, Suzuki Y¹, Ohga S³, Hasegawa S¹(¹Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ²Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ³Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University): Third-line therapies in patients with Kawasaki disease refractory to first- and second-line intravenous immunoglobulin therapy. *World J Pediatr.* 18(11). 781-785. 2022.
14. Aso N¹, Ohtsuka K, Shibahara J², Koda H³, Morikawa T³, Abe N¹, Watanabe T, Ohnishi H (¹Department of Gastroenterological and General Surgery, ²Department of Pathology, ³Department of Pathology, NTT Medical Center Tokyo): Microsatellite instability in the high-grade dysplasia component of duodenal adenoma is associated with progression to adenocarcinoma. *Surgery Today.* 53(2). 252-260. 2023.
15. 大西宏明: 『臨床検査のガイドライン JSLM2021』の改訂点. *Medical Technology.* 51(1). 4-5. 2023.
16. 坂本大典¹, 大西宏明 (¹杏林大学医学部付属病院 臨床検査部): 臨床医からの質問に答える ヘマトゴンって何ですか?. *検査と技術.* 51(1). 78-80. 2023.
17. Okada S¹, Yasudo H, Ohnishi Y², Matsuguma C², Fukano R², Motonaga T², Waniishi T², Hasegawa S² (¹Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ²Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine): Interleukin-33/ST2 Axis as Potential Biomarker and Therapeutic Target in Kawasaki Disease. *Inflammation.* 46(1). 480-490. 2023.
18. Tokunaga K¹, Nakamura H², Toue S², Kato Y², Ida Y¹, Miyoshi S¹, Yoneyama R, Ohnishi H, Hisamatsu T³, Okamoto S¹ (¹Department of General Medicine, ²Research Institute for Bioscience Products & Fine Chemicals, Ajinomoto Co., Inc, ³Department of Gastroenterology and Hepatology): Plasma free amino acid profiles are associated with serum high molecular weight adiponectin levels in Japanese medical check-up population without type 2 diabetes mellitus. *Amino Acid.* (Online ahead of print)

著書

1. 大西宏明: 臨床検査の基礎 検査結果の解釈. 標準臨床検査医学(第5版). 山田俊幸, 大西宏明(共編). 医学書院. 2023. 12.
2. 大西宏明: 検体の採取と保存 個体間変動. 標準臨床検査医学(第5版). 山田俊幸, 大西宏明(共編). 医学書院. 2023. 19.
3. 大西宏明: 免疫血清学検査 細胞性免疫・サイトカイン. 標準臨床検査医学(第5版). 山田俊幸, 大西宏明(共編). 医学書院. 2023. 218-220.
4. 大西宏明: 輸血・移植関連検査. 標準臨床検査医学(第5版). 山田俊幸, 大西宏明(共編). 医学書院. 2023. 291-302.

5. 大西宏明: 保険適用される遺伝学的検査. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 大西宏明, 他(共編). 医学書院. 2023. 740-741.
6. 大西宏明: 小児疾患 小児呼吸器感染症. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 大西宏明, 他(共編). 医学書院. 2023. 989-990.
7. 大西宏明: 小児疾患 小児の嘔吐症・下痢症. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 大西宏明, 他(共編). 医学書院. 2023. 990.
8. 大西宏明: 小児疾患 小児の発疹性疾患(感染症). 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 大西宏明, 他(共編). 医学書院. 2023. 990-991.
9. 大西宏明: 小児疾患 小児の意識障害・痙攣. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 大西宏明, 他(共編). 医学書院. 2023. 991.
10. 山崎聡子, 大西宏明(分担執筆): タスク・シフト/シェア 採血に伴う静脈路確保(電解質輸液の注入を含む). 医療安全管理学 第2版. 諏訪部章, 他編集. 医歯薬出版. 2023. 92-94.
11. 山崎聡子, 大西宏明(分担執筆): タスク・シフト/シェア 静脈路への成分採血装置の接続並びに操作. 最新臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版. 諏訪部章, 他編集. 医歯薬出版. 2023. 95-98.
12. 山崎聡子, 大西宏明(分担執筆): タスク・シフト/シェア 新たに業務範囲に追加された行為 採血に伴う静脈路確保(電解質輸液の注入を含む). 最新臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版 [別冊PDF]. 諏訪部章, 他編集. 医歯薬出版. 2023. 31-35.
13. 山崎聡子, 大西宏明(分担執筆): タスク・シフト/シェア 新たに業務範囲に追加された行為 静脈路への成分採血装置の接続並びに操作. 最新臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版 [別冊PDF]. 諏訪部章, 他編集. 医歯薬出版. 2023. 36-38.

その他

1. Ohnishi H: Celebrating LMI Inaugural Issue. *Lab Med Int.* 1. 3. 2022.
2. 大西宏明: 新春放談 タスク・シフト/シェアの今後: 臨床検査に携わる者のあるべき姿. *Modern Media.* 69(1). 1-24. 2023
3. 大西宏明: 2022-2023年版発刊にあたって. 検査・画像診断事典 2022-2023年版. 医学通信社. p.iii. 2023.

総合医療学教室

口演

1. Frazier K, Kambal A, Zale EA, Pierre JP, Hubert N, Miyoshi S, Miyoshi J, Ringus D, Harris D, Yang K, Carroll K, Hermanson JB, Chlystek J, Overmyer K, Cham C, Musch MW, Coon JJ, Chang EB, Leone VA: High fat diet disrupts diurnal interactions between small intestinal host innate immune factor REG3γ and gut microbiota resulting in metabolic dysfunction. *Experimental Biology 2022. USA. April 3rd. 2022.*
2. Hermanson JB, Fei N, Miyoshi S, Miyoshi J, Hawkins M, Xie B, Sulakhe D, Hart J, Chang EB, Leone VA, Charlton M: Dietary Cholesterol-Induced Gut Microbes Drive Nonalcoholic Fatty Liver Disease Pathogenesis in a Murine Model. *Experimental Biology 2022. USA. April 5th. 2022.*

3. 井坂葵, 古谷充文, 南島俊徳, 西智子, 福嶋真由美, 伊藤準之助, 坂田好美, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二: 当院における11例の心臓粘液腫の臨床的特徴. 日本心エコー図学会第33回学術集会. 米子・オンライン. 2022年4月8日-10日.
4. 倉井大輔: 呼吸器感染症の画像検査の目的と限界について. 第184回城西胸部画像研究会. 三鷹市・オンライン. 2022年4月19日.
5. 倉井大輔, 高橋陽子, 大津晃康, 西圭史, 本間慎太郎, 嶋崎鉄兵: 無症状の新規入院患者へのスクリーニング目的での抗原定量検査の有用性と問題点について. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会. オンライン. 2022年4月22日.
6. 嶋崎鉄兵: Four endemic cases transmitted by ticks. 2022 International Healthcare Symposium. 福生市. 2022年4月22日.
7. 花輪智子, 米谷正太, 大西宏明, 松田剛明: 血流感染由来ESBL産生大腸菌の性質. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会. オンライン. 2022年4月22-23日.
8. 長谷川浩: 妊産婦における内科的救急疾患. 第40回東京母性衛生学会・学術講演会. 東京. 2022年5月15日.
9. 倉井大輔: 新型コロナウイルス感染症の現状と課題. 第8回杏林医学会市民公開フォーラム. オンライン. 2022年5月21日.
10. Hermanson JB, Fei N, Miyoshi S, Hawkins M, Miyoshi J, Xie B, Sulakhe D, Hart J, Chang EB, Charlton M, Leone VA: Dietary Cholesterol-Induced Gut Microbes Drive Nonalcoholic Fatty Liver Disease Pathogenesis in a Murine Model. Digestive Disease Week 2022. USA. May 24th. 2022.
11. 長谷川浩: フレイルについて. 第35回日本老年泌尿器科学会. 甲府・オンライン. 2022年6月10日-11日.
12. Rimbara E, Suzuki M, Matsui H, Aoki S, Tokunaga K, Suzuki H, Shibayama K, Kenri T: Genomic and virulence characteristics of non-*Helicobacter pylori* Helicobacter infecting the human stomach. The 18th Japan-Korea *H. pylori* Joint Symposium. Hyogo・Online. June 25th. 2022.
13. 嶋崎鉄兵: 当院における感染症治療について. 第101回Tokyo Infection Conference. オンライン. 2022年7月8日.
14. 嶋崎鉄兵: GNRの治療戦略. 2022年度EBICPセミナー. オンライン. 2022年7月24日.
15. 福井翔: 臨床研究はじめての一步〜臨床と研究に生きる効果的な文献検索〜. 第64回九州リウマチ学会・日本リウマチ学会臨床研究推進委員会. 大分・オンライン. 2022年9月3日-4日.
16. 畑典孝, 鈴木里奈, 平吹一訓, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 長時間運動中の循環動態に関する研究. 第77回日本体力医学会大会. オンライン. 2022年9月21日-23日.
17. 平吹一訓, 鈴木里奈, 畑典孝, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 起立耐性と体力レベルの関係についての統計学的解析. 第77回日本体力医学会大会. オンライン. 2022年9月21日-23日.
18. 倉井大輔: 有事に役立つ平時の感染対策. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19日-10月21日.
19. 畑典孝, 須釜一博, 平吹一訓, 須田智也, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 1・2次救急外来で急性虫垂炎と診断された患者の比較検討. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19日-21日.
20. 須釜一博, 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 再発性失神患者における左心室形態および機能に関する研究. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19日-21日.
21. 須田智也, 花輪智子, 八代龍, 田中真由子, 平吹一訓, 畑典孝, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: ESBL (Extended-spectrum β -lactamase) 産生大腸菌感染症に対するファージ療法の可能性. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京・オンライン. 2022年10月19日-21日.
22. 大津晃康, 岸田季之, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: *Mycobacterium abscessus*による腹膜透析カテーテル感染症の1例. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 札幌市. 2022年10月27日.
23. 岸田季之, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: SARS-CoV-2肺炎治療中に生じた *Listeria monocytogenes* 菌血症の1例. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 札幌市. 2022年10月27日.
24. 嶋崎鉄兵, 岸田季之, 大津晃康, 倉井大輔: *Staphylococcus lugdunensis* のメチシリン感受性結果の時系列検討. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 札幌市. 2022年10月28日.
25. 中本啓太郎, 皿谷健, 本多紘次郎, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔, 植木玲, 渡邊好江, 内田真由美, 石井晴之: 当院におけるN95マスク, N99マスクの使用実態調査・検討. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 札幌市. 2022年10月28日.
26. Fukui S, Okada M, Rahman M, Nakai T, Tamaki H, Matsui H, Shiraishi A, Kishimoto M, Hasegawa H, Matsuda T, Yoshida K. Association Between Different Alcoholic Beverages and Serum Urate Level: A Cross-Sectional Study Using Large Medical Checkup Data. ACR Convergence 2022. USA. November 10-14. 2022.
27. Fukui S, Nakai T, Kawaai S, Ikeda Y, Suda M, Nomura A, Tamaki H, Kishimoto M, Ohde S, Okada M. Advantages of Alternate-Day Glucocorticoid Treatment Strategy for IgG4-Related Disease: A Preliminary Retrospective Study. Selected as ignite talk (Short oral presentation) in ACR 2022 convergence 2022. USA. November 10-14. 2022.
28. 須田智也, 花輪智子, 八代龍, 田中真由子, Le Nhat Minh, 丹治保典, 松田剛明: 尿路感染症起因ESBL産生大腸菌の遺伝学的解析とファージ感受性試験. 日本ファージセラピー研究会第2回研究集会. オンライン. 2022年11月12日.
29. 嶋崎鉄兵: 周産期医療におけるCOVID-19診療のエビデンス. 令和4年度第1回東京都委託事業 多摩地域周産期医療ネットワークグループ事業. オンライン. 2022年11月14日.
30. 川口翔平, 船越早織, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 脾動脈瘤を伴う巨脾に対する脾門操作を避けた膈体尾部脾臓摘出の有用性. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡・オンライン. 2022年11月24日-26日.

31. 嶋崎鉄兵：微生物検査室がリードするAST活動。第4回ニッスイ感染症研究会。東京・オンライン。2022年12月10日。
32. 嶋崎鉄兵：足趾部骨髄炎に対する抗生剤の選択。AAA Case Study Club 32th。オンライン。2023年1月5日。
33. 倉井大輔：COVID-19流行下での感冒患者対応。横浜Covid-19 & Influenzaシンポジウム。横浜市・オンライン。2023年1月13日。
34. 倉井大輔：クリニックに求められる院内感染対策 外来感染対策向上加算算定に必要な感染対策とは。TAMA感染症Web研修会。オンライン。2023年1月24日。
35. 倉井大輔：クリニックの診療で問題となる感染症と感染対策：外来感染対策向上加算を踏まえて。武蔵野市医師会学術講演会。武蔵野市・オンライン。2023年2月22日。
36. 徳永健吾，大野亜希子，楠原光謹，林原絵美子，松井英則，鈴木 仁人，柴山恵吾，大崎敬子，三好佐和子，井田陽介，岡本晋，久松理一：非*H.pylori*非NSAIDs特発性胃・十二指腸潰瘍におけるNHPH含む成因の検討。第19回日本消化管学会総会学術集会。東京・ハイブリッド。2023年2月3日。
37. 川口翔平，百瀬博一，松木亮太，小暮正晴，鈴木裕，阪本良弘：Partial TIPE ALPPSを用いた右肝切除中肝静脈合併切除後のoutflow block。第104回城西外科研究会。オンライン。2023年3月11日。

論 文

1. 須釜一博，平吹一訓，畑典孝，須田智也，柴田茂貴，長谷川浩，松田剛明：再発性失神患者における左心室形態および機能に関する研究。日本救急医学会雑誌。33巻10号。822。2022。
2. 畑典孝，須釜一博，須田智也，柴田茂貴，長谷川浩，松田剛明：1・2次救急外来で急性虫垂炎と診断された患者の比較検討。日本救急医学会雑誌。33巻10号。801。2022。
3. 須田智也，花輪智子，八代龍，田中真由子，平吹一訓，畑典孝，柴田茂貴，長谷川浩，松田剛明：ESBL(Extended-spectrum β -lactamase)産生大腸菌感染症に対するフェージ療法の可能性。日本救急医学会雑誌。33巻10号。752。2022。
4. 長谷川浩：フレイルについて。日本老年泌尿器科学会誌。35巻1号。24。2022。
5. 長谷川浩：CLoCMiPレベルIII認証申請に活用可能な研修 妊産婦における内科的救急疾患。東京母性衛生学会誌。39巻Suppl.1. S(13)。2022。
6. Suda T, Hanawa T, Tanaka M, Tanji Y, Miyanaga K, Hasegawa-Ishii S, Shirato K, Kizaki T, Matsuda T: Modification of the immune response by bacteriophages alters methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* infection. *Sci. Reports*. 12(1). 15656. 2022.
7. Higuchi S, Kabeya Y, Matsushita K, Tachibana K, Kawachi R, Takei H, Tanaka R, Suzuki Y, Imanishi Y, Shibata S, Hasegawa H, Saito K, Moriyama K, Yorozu T, Abe N, Kondo H, Matsuda T, Yoshino H: Clinical impact of perioperative atrial fibrillation on long-term recurrence of malignancy. *Heart Vessels*. 37(4). 619-627. 2022.
8. Higuchi S, Kabeya Y, Nishina Y, Miura Y, Shibata S, Hata N, Suda T, Hirabuki K, Hasegawa H, Yoshino H, Matsuda T: Clinical impact of noncontrast percutaneous coronary intervention in patients with acute coronary syndrome. *J Med Invest*. 69(1.2) 57-64. 2022.
9. Ito T*, Fukui S*(共同筆頭著者), Kanie T, Tamaki H, Okada M: Immunoglobulin G4-related coronary periarteritis: a systematic literature review with a case series. *Clin Rheumatol*. 41(8). 2281-2295. 2022.
10. Fukui S, Nakai T, Kawaai S, Ikeda Y, Suda M, Nomura A, Tamaki H, Kishimoto M, Ohde S, Okada M: Advantages of an alternate-day glucocorticoid treatment strategy for the treatment of IgG4-related disease: A preliminary retrospective cohort study. *Medicine (Baltimore)*. 101(39). e30932. 2022.
11. Nagasaki K, Nishizaki Y, Hachisuka C, Shinozaki T, Shimizu T, Yamamoto Y, Shikino K, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kurihara M, Kobayashi H, Tokuda Y: Impact of duty hours on competency-related knowledge acquisition among community hospital residents. *J Gen Fam Med*. 24(2). 87-93. 2022.
12. Fukui S, Kidoguchi G, Okada M: Aortitis in a patient on chemotherapy. *CMAJ*. 194(46). E1574. 2022.
13. Nakai T, Fukui S, Kidoguchi G, Ikeda Y, Kitada A, Nomura A, Tamaki H, Kishimoto M, Okada M: Effect and safety profile of belimumab and tacrolimus combination therapy in thirty-three patients with systemic lupus erythematosus. *Clin Rheumatol*. 41(12). 3735-3745. 2022.
14. Kishimoto M, Deshpande GA, Fukui S, Komagata Y, Ohyama M, Kaname S: Upadacitinib for moderate-to-severe atopic dermatitis, in adults and adolescents 12 years and older: review of international and Japanese populations. *Expert Rev Clin Immunol*. 19(1). 19-35. 2023.
15. Suga K, Tsunoda H, Fukui S, Oba K, Yagishita K, Kurihara Y: Why is the depth/width ratio of a typical fibroadenoma small in breast ultrasonography?. *J Med Ultrason* (2001). 50(1). 97-101. 2023.
16. Nishizaki Y, Nagasaki K, Shikino K, Kurihara M, Shinozaki T, Kataoka K, Shimizu T, Yamamoto Y, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kobayashi H, Tokuda Y: Relationship between COVID-19 care and burnout among postgraduate clinical residents in Japan: a nationwide cross-sectional study. *BMJ Open*. 13(1). e066348. 2023.
17. Fukui S, Okada M, Rahman M, Matsui H, Shiraishi A, Nakai T, Tamaki H, Kishimoto M, Hasegawa H, Matsuda T, Yoshida K: Differences in the Association Between Alcoholic Beverage Type and Serum Urate Levels Using Standardized Ethanol Content. *JAMA Netw Open*. 6(3). e233398. 2023.
18. Fukui S, Kobayashi S, Kishimoto M: Clinical Images: Impending cardiac tamponade and coated aorta in Erdheim-Chester disease. *Arthritis Rheumatol*. 75(3). 488. 2023.
19. 福井翔：体液量の評価方法(体液欠乏，体液過剰)。月刊薬事。Vol. 64. No.13. 2652-2659. 2022。
20. Sada M, Kimura H, Nagasawa N, Akagawa M, Okayama K, Shirai T, Sunagawa S, Kimura R, Saraya T, Ishii H, Kurai D, Tsugawa T, Nishina A, Tomita H, Okodo M, Hirai S, Ryo A, Ishioka

- T, Murakami K : Molecular Evolution of the *Pseudomonas aeruginosa* DNA Gyrase *gyrA* Gene. *Microorganisms*. 10(8). 1660. 2022.
21. Watanabe M, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Chibana K, Miyaoka C, Yoshida Y, Aso J, Nunokawa H, Honda K, Nakamura M, Tamura M, Hirata A, Oda M, Takata S, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H : Soluble ST2 enhances IL-33-induced neutrophilic and pro-type 2 inflammation in the lungs. *Allergy*. 77(10). 3137-3141. 2022.
 22. 鈴木仁人, 林原絵美子, 松井英則, 徳永健吾, 柴山恵吾 : *Helicobacter suis*胃粘膜感染と病態発症. 日本ヘリコバクター学会誌. 24(1). 2-9. 2022.
 23. 徳永健吾, 林原絵美子, 柴山恵吾, 鈴木仁人, 松井英則, 井田陽介, 三好佐和子, 岡本晋, 楠原光謹, 大野亜希子, 久松理一, 大崎敬子 : Non *Helicobacter pylori* helicobacter(NHPH)感染症のトピックス. *Helicobacter research*. 26(1). 62-65. 2022.
 24. 松井英則, 林原絵美子, 鈴木仁人, 徳永健吾 : ヘリコバクター・スイス感染とその対策. *細胞*. 54(10). 578-582. 2022.
 25. 松井英則, 林原絵美子, 徳永健吾, 鈴木仁人 : 人獣共通感染症の原因となるピロリ菌以外のヘリコバクター属菌. *アグリバイオ*. 16(12). 1147-1152. 2022.
 26. Frazier K, Kambal A, Zale EA, Pierre JF, Hubert N, Miyoshi S, Miyoshi J, Ringus DL, Harris D, Yang K, Carroll K, Hermanson JB, Chlystek JS, Overmyer KA, Cham CM, Musch MW, Coon JJ, Chang EB, Leone VA : High-fat diet disrupts REG3γ and gut microbial rhythms promoting metabolic dysfunction. *Cell Host Microbe*. 30(6). 809-823. 2022.
 27. Saito S, Keino H, Takasaki I, Abe S, Kohno H, Ichihara K, Hayashi I, Nakayama M, Tsuboshita Y, Miyoshi S, Okamoto S, Okada AA : Comparative Analysis of Serum microRNA in Diagnosed Ocular Sarcoidosis versus Idiopathic Uveitis with Ocular Manifestations of Sarcoidosis. *Int. J. Mol. Sci*. 23(18). 10749. 2022.
 28. Kurai D, Song J, Huang YC, Jie Z, Atanasov P, Jiang X, Hernandez-Pastor L, Huang TH, Park S, Lim K, Richmond PC : Targeted Literature Review of the Burden of Respiratory Syncytial Infection among High-Risk and Elderly Patients in Asia Pacific Region. *Infect Dis Ther*. 12(3). 807-828. 2023.
 29. 徳永健吾, 大野亜希子, 井田陽介, 三好佐和子, 神保陽子, 林原絵美子, 松井英則, 柴山恵吾, 鈴木仁人, 大崎敬子, 太田浩良, 二階雪野, 長濱清隆, 柴原純二, 岡本晋, 久松理一 : 除菌にて寛解した *Helicobacter suis*感染胃MALTリンパ腫の1例. 胃と腸. 58(1). 87-94. 2023.
 30. 徳永健吾, 林原絵美子, 柴山恵吾, 鈴木仁人, 松井英則, 太田浩良, 井田陽介, 三好佐和子, 岡本晋, 楠原光謹, 大野亜希子, 久松理一, 大崎敬子 : 胃MALTリンパ腫とNon-*Helicobacter pylori* *Helicobacter*の関連. 日本ヘリコバクター学会誌. 24(2). 154-159. 2023.
 31. 徳永健吾 : *H. pylori*陰性胃潰瘍と *Helicobacter suis*感染. 日本潰瘍学会50周年記念誌. 82-83. 2023.
 32. Tokunaga K, Nakamura H, Toue S, Kato Y, Ida Y, Miyoshi S, Yoneyama R, Ohnishi H, Hisamatsu T, Okamoto S : Plasma free amino acid profiles are associated with serum high molecular weight adiponectin levels in Japanese medical check-up population without type 2 diabetes mellitus. *Amino Acids*. 2023. DOI: org/10.1007/s00726-023-03257-6. Online ahead of print.
 33. Matsui H, Rimbara E, Suzuki M, Tokunaga K, Suzuki H, Sano M, Ueda T, Tsugawa H, Nanjo S, Takeda A, Sasaki M, Terao S, Suda T, Aoki S, Shibayama K, Ota H, Mabe K : Development of serological assays to identify *Helicobacter suis* and *H. pylori* infections. *iScience*. 26(4). 106522. 2023.
- ### 著書
1. 長谷川浩(分担執筆) : 疾患と検査 15. 高齢者疾患. 臨床検査データブック2023-2024. 黒川清, 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2023. 993-994.
 2. 福井翔(分担執筆) : 4章 身体診察, 7章 エビデンスの評価. ベイツ診察法 第3版. 有岡宏子, 井部俊子, 山内豊明 日本語版監修. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2022.
 3. 福井翔(分担執筆) : アレルギーと膠原病①関節リウマチは専門外来に紹介すべきか?, アレルギーと膠原病②抗核抗体陽性患者は専門外来に紹介すべきか?. 外来で武器になる総合診療のエビデンスをぎゅうっとまとめました - 127のクリニカルケースションで知識の整理とアップデート! 薬の特徴・フォローのコツもまとめて理解. 西崎祐史, 鋪野紀好 編集. メジカルビュー社. 2023. 69-74.
 4. 倉井大輔(分担執筆) : 【1ページでわかる内科疾患の診療ノート-"あたりまえ"のなかにある大事な視点】(第5章) 感染症 肺炎. 内科. 129巻4号. 南江堂. 2022. 740-743.
 5. 嶋崎鉄兵(分担執筆) : 【糖尿病性足病変:治療の実践を見直す-歩いて外来に通い続けるために-】足の創傷をいかに治療するか 糖尿病性足病変への形成外科的アプローチ. 糖尿病プラクティス. 39巻4号. 医歯薬出版. 2022. 388-393.
 6. 嶋崎鉄兵(分担執筆) : 今月の特集 マイクロバイオーム Microbiomeと感染症. 臨床検査. Vol.66 No.11. 医学書院. 2022. 1290-1295.
 7. 嶋崎鉄兵(分担執筆) : かぜ症状 しっかり見極め, きちんと対応! 6. 熱だけの場合. レジデントノート Vol.24 No.13. 岡本耕 編集. 羊土社. 2022. 2228-2234.
 8. 嶋崎鉄兵(分担執筆) : 特集 形成外科医に学ぶ手術手技 消化器・一般外科医が知りたいコツと工夫 I. 形成外科の基本知識 5) 急性創傷(新鮮外傷, 感染創)に対する治療戦略. 手術. Vol.76 No.12. 貴志和生, 北川雄光 企画. 金原出版. 2022. 1791-1798.
- ### その他
1. 長谷川浩 : 動的・静的脳画像, 心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発. 研究代表者実施状況報告書. 2022年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
 2. 三好佐和子 : 人間ドックにおける随時尿推定食塩摂取量と自己記入式簡易食事調査票を用いた減塩指導の有用性. 日本人間ドック学会2023年度学術委託研究承認.
 3. 倉井大輔 : 新型コロナウイルス感染症の現状と課題. 杏林医学会雑誌53巻4号. 杏林医学会. 2022. 117-119. 報告書

リハビリテーション医学教室

講演

1. Hayamizu S, Yamada S, Higuchi M : New efforts to develop a rehabilitation system as medical operations for astronaut after a long duration spaceflight uniquely in Japan. ISPRM 2022. Portugal. 3-7 July. 2022.
2. 山田祐歌, 川上途行, 田代祥一, 大森まいこ, 松浦大輔, 阿部玲音, 長田麻衣子, 田島浩之, 下村忠賛, 森直樹, 和田彩子, 石川愛子, 辻哲也: 第1・2波における急性期COVID-19患者に対するリハビリテーション治療の状況. 第59回日本リハビリテーション医学学会学術集会. 横浜. 2022年6月25日.
3. 田代祥一: 局所的経頭蓋骨交流電気刺激のMEP応答に与える効果に関する条件検討. 第59回日本リハビリテーション医学学会学術集会. 横浜. 2022年6月25日.
4. 田代祥一: 脊髄損傷の再生医療とリハビリテーション. PT・OT・ST協議会第6回総会. 東京. 2022年7月5日.
5. 松田恭平, 平部顕子, 平野照之, 塩川芳昭, 山田深: 急性期リハビリテーション治療を行なったがん関連脳梗塞患者の転帰. 第40回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 東京. 2022年8月27日.
6. 田代祥一: 『疾病・障害特異的理学療法の実際(自立支援ロボットの実際)』. 認定理学療法士教育講座. オンライン. 2022年9月1日-12月31日.
7. 山田深: WHO-FICを知ろう ICFの現代化. 第48回日本診療情報管理学会学術大会. 高知・オンライン. 2022年9月8日.
8. 田代祥一, 後藤直生, 於久有希, 菅野太洋, 菊原啓太, 朝戸裕, 石井則久: ハンセン病患者における足底感覚と足底圧分布の関連性. 第33回日本末梢神経学会学術集会. 東京. 2022年9月9日.
9. 田代祥一: 合成波形を用いた局所的経頭蓋骨交流電気刺激のMEP応答に与える効果に関する条件検討. 第33回日本末梢神経学会学術集会. 東京. 2022年9月9日.
10. Tasiro S : habilitation for Spinal Cord Injury. 15th WORLD CONGRESS ON STEM CELL RESEARCH. Ireland · Online. 19 September. 2022.
11. Mukaino M, Oikawa E, Yamada S : Survey with ICD-11 Chapter V on Functioning Required for Daily Living. WHO-FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING 2022. Swiss · Online, 17-21 October. 2022.
12. 松田恭平, 田代祥一, 平野照之, 塩川芳昭, 山田深: 急性期前大脳動脈領域脳梗塞患者におけるADL変化とその特徴. 第6回日本リハビリテーション医学学会秋季学術集会. 岡山. 2022年11月5日.
13. 田代祥一: 局所的経頭蓋骨交流電気刺激の刺激強度がMEP応答に与える効果. 第52回日本臨床神経生理学会. 京都. 2022年11月24日.
14. Mitsuaki Takemi, Mads A.J. Madsen, Janine Kesselheim, Syoichi Tashiro, Guilherme B. Saturnino, Axel Thielscher, Hartwig R. Siebner : Is it the frequency, cumulative dose, or both? A prospective study of the excitability enhancing effects of tACS at individual alpha or beta frequency, 5th International Brain Stimulation Conference. Portugal · Online. 19-22 February. 2023.

15. 田代祥一: 脊髄損傷に対する再生リハビリテーション基礎研究の現状と課題. 第22回日本再生医療学会. 京都. 2023年3月25日.

論文

1. 山田深: 筋骨格系の課題と対策. 令和3年度日本宇宙航空環境医学会・宇宙基地医学研究会 開催報告. 宇宙航空環境医学. 59(2). 79-80. 2022年.
2. 山田深: ICFの改訂・改正にかかわる最新の動向. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 59(8). 769-774. 2022年.
3. 門馬博¹, 藤澤祐基¹, 櫻井俊光², 山田深³ (杏林大・保・理学療法学科, ²杏林大学医学部付属病院・リハビリテーション室, ³杏林大・医・リハビリテーション医学教室): 脳卒中片麻痺患者の理学療法における代償運動の捉え方. 理学療法. 39(8). 84-692. 2022年.
4. 田代祥一, 山田深: "(リハビリテーション医学研究のこれから) 経頭蓋骨交流刺激のリハビリテーションへの応用/宇宙医学を軸にした児童教育". The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 59. 936-938. 2022年.
5. Kondo T, Saito R, Sato Y, Sato K, Uchida A, Yoshino-Saito K, Shinozaki M, Tashiro S, Nagoshi N, Nakamura M, Ushiba J and Okano H: Treadmill Training for Common Marmoset to Strengthen Corticospinal Connections After Thoracic Contusion Spinal Cord Injury Front. Cell. Neurosci. 22 April 2022.
6. Hagio S, Ishihara A, Terada M, Tanabe H, Kibushi B, Higashibata A, Yamada S, Furukawa S, Mukai C, Ishioka N, Kouzaki M: Muscle synergies of multidirectional postural control in astronauts on Earth after a long-term stay in space. J Neurophysiol. 2022. 127(5). 1230-1239.
7. 柴田峻宏, 田代祥一, 名越慈人, 岡野栄之, 中村雅也: 脊髄損傷動物モデルに対するリハビリテーション治療の最適化の検討. 運動器リハビリテーション. (2187-8420)33巻1号. Page55-60. 2022年.
8. 田代祥一, 辻哲也: "(リハビリテーション医学研究のこれから) 脊髄損傷の再生リハビリテーション". The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 59. 1040-1042. 2022年.
9. 田代祥一: 脳由来神経栄養因子・Brain-derived neurotrophic factor. Journal of Clinical Rehabilitation(和). 31(12). 11: 1188-1192. 2022年.
10. Shibata T, Tashiro S, Shibata S, Shinozaki M, Shindo T, Hashimoto S, Kawai M, Kitagawa T, Ago K, Matsumoto M, Nakamura M, Okano H, Nagoshi N: Rehabilitative Training Enhances Therapeutic Effect of Human-iPSC-Derived Neural Stem/Progenitor Cells Transplantation in Chronic Spinal Cord Injury. Stem Cells Transl Med. 2023. DOI:10.1093/stcltm/szac089.

著書

1. 田代祥一(分担執筆): VI-1脳卒中. リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也 編集. 医学書院. 2022年. P164-178.
2. 田代祥一(分担執筆): IV-12末梢神経損傷. リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也 編集. 医学書院. 2022年. P214-215.
3. 田代祥一(分担執筆): IV-14多発性神経炎. リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也

編集. 医学書院. 2022年. P218-219.

4. 田代祥一 (分担執筆) : IV-15ポストポリオ症候群. リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也 編集. 医学書院. 2022年. P220-221.
5. 田代祥一 (分担執筆) : IV-33複合性局所疼痛症候群 (CRPS). リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也 編集. 医学書院. 2022年. P290-291.
6. 田代祥一 (分担執筆) : V-4災害時のリハビリテーション医療. リハビリテーションレジデントマニュアル第4版. 辻哲也 編集. 医学書院. 2022年. P334-335.
7. 田代祥一 (分担執筆) : 再生医療とリハビリテーション. 標準リハビリテーション医学第4版. 佐伯覚, 高岡徹, 藤谷順子 編集. 医学書院. 2023年. P380-381.

その他

1. 山田深 : 脳卒中急性期リハビリテーション. 日中医学交流センター 湖南省人民病院リハビリオンライン交流会. オンライン. 2022年7月26日.
2. 山田深 : 歴代「総合リハビリテーション賞」受賞者の今. 第15回総合リハビリテーション賞 FIMtm採点支援コンピュータプログラム「Ifim」の開発. 総合リハ. 50(6). p619. 2022.
3. 山田深 : 50代, 60代の生活期リハビリテーション. 医療・福祉でつながる障害支援相談会プレステップサポート事業. 東京. 2022年10月6日.
4. 山田深, 堀江貴文 : 「宇宙飛行士にも推奨される」効率的なフレイル予防. 第30回YOBOオンライン対談. オンライン. 2022年10月19日.
5. 山田深, 速水聡, 門馬博 : ミッションX 宇宙飛行士のように心身を鍛えよう!. ディスカバリーチャンネル. 2022年10月8日.

脳卒中医学教室

学会発表

1. 平野照之 : パンデミック時代における脳卒中の現状. 第35回日本老年脳神経外科学会. 徳島・オンライン. 2022年4月23日.
2. 平野照之 : 脳卒中医学に特化した包括的学学生教育と研修プログラム. STROKE 2022 Web Live Symposium. オンライン. 2022年4月23日.
3. 平野照之 : 脳梗塞診療における脳神経内科・脳神経外科の連携. 第42回日本脳神経外科コンGRESS. 大阪・オンライン. 2022年5月15日.
4. 河野浩之 : がん脳卒中～Stroke Oncology～. 第63回日本神経学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年5月18日.
5. 齋藤幹人, 河野浩之, 天野達雄, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之 : 急性期脳梗塞でのGhost infarct coreはCT灌流画像から有効再開通までの時間と関連する. 第63回日本神経学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年5月20日.
6. 中西郁, 岡崎太一, 川竹彩音, 齋藤幹人, 丸岡響, 天野達雄, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 佐藤俊明, 塩川芳昭, 平野照之 : 心房心筋症に注目した潜在性心房細動の検出. 第63回日本神経学会学術大会. 東京・オンライン. 2022年5月20日.
7. 平野照之 : Stroke Oncology 領域横断的コンセンサス形成の必要性. 第41回日本脳神経超音波学会/第25回日本栓子検出と治療学会. 東京・オンライン.

2022年6月3日.

8. 平野照之 : Stroke Oncologyの現状アンケート調査より. 第7回日本がんサポーターケア学会学術集会. 下関・オンライン. 2022年6月19日.
9. 平野照之 : 脳ドックにて頭蓋内に多発する脳主幹動脈狭窄と無症候性脳梗塞を認めた場合, 抗血小板薬を用いるか? YESの立場. 第31回日本脳ドック学会総会. 大磯・オンライン. 2022年6月23日.
10. 平野照之 : 臨床・基礎研究の強化～脳卒中～. 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会. 横浜. 2022年6月25日.
11. 中西郁, 河野浩之, 齋藤幹人, 城野喬史, 丸岡響, 松本淑恵, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之 : がん関連脳梗塞のHyperdense vessel signと血栓病理の関連. 第40回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 東京・オンライン. 2022年8月27日.
12. 齋藤幹人, 河野浩之, 城野喬史, 本田有子, 海野佳子, 平野照之 : 化学療法後にヘパリン抵抗性の再発性脳梗塞をきたした子宮体癌の1例. 第40回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 東京・オンライン. 2022年8月27日.
13. 城野喬史, 河野浩之, 廣川達也, 柴原純二, 平野照之 : 頭蓋内出血後に部検で進行前立腺癌と診断した一例. 第40回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 東京・オンライン. 2022年8月27日.
14. 河野浩之, 平野照之, 辻哲也, 高尾利実, 成田善孝, 藤本茂, 塩川芳昭 : 日本脳卒中学会Stroke Oncology PT 調査報告. 第40回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 東京・オンライン. 2022年8月27日.
15. 松田恭平, 平部顕子, 平野照之, 塩川芳昭, 山田深 : 急性期リハビリテーション治療を行ったがん関連脳梗塞患者の転帰. 第40回The Mt. Fuji Workshop on CVD. 東京・オンライン. 2022年8月27日.
16. Kawano H, Johno T, Nakanishi K, Maruoka H, Saito M, Yamamichi A, Ogata K, Oonuki H, Takemaru M, Honda Y, Unno Y, Hirano T: Antithrombotic therapy and recurrent stroke before PFO closure. The 10th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka・Online. September 17th, 2022.
17. Hirano T: Antagonists to Oral Anticoagulants Now Available: Differences and Tips for Use. The 10th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka・Online. September 18th, 2022.
18. Kawano H: Stroke patient with high-risk PFO and aortic atheromatous lesion, CSI Focus LAA&PFO. Tokyo・Online. October 1st, 2022.
19. Kawano H: Stroke patient with high-risk PFO and antiphospholipid syndrome. CSI Focus LAA&PFO. Tokyo・Online. October 1st, 2022.
20. Hirano T: Moyamoya Disease. 14th World Stroke Congress 2022. Singapore・Online. October 26th, 2022.
21. 河野浩之 : 虚血性脳卒中を多角的に診る～ASPECTから灌流画像まで～. 第65回日本脳循環代謝学会学術集会. 甲府・オンライン. 2022年10月28日.
22. 河野浩之 : 卵円孔開閉鎖術前の抗血栓療法と脳梗塞再発の関係. 第40回日本神経治療学会学術大会. 郡山・オンライン. 2022年11月2日.
23. 大貫颯, 中西郁, 本田有子, 竹丸誠, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之 : 著名な血管蛇行と血圧低下が原因と考えられた一過性の脳虚血発作に1例. 第40回日本神経治療学会学術大会. 郡山・オンライン. 2022

年11月2日。

24. 緒方健亮, 河野浩之, 齋藤幹人, 山道惇, 本田有子, 竹丸誠, 海野佳子, 平野照之: 内頸動脈狭窄と前大脳動脈狭窄による左下肢優位のlimb shakingを来した脳梗塞の1例. 第40回日本神経治療学会学術集会. 郡山・オンライン. 2022年11月3日.
25. 松田恭平, 田代祥一, 平野照之, 塩川芳昭, 山田深: 急性期前大脳動脈領域脳梗塞患者におけるADL変化とその特徴. 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山・オンライン. 2022年11月5日.
26. 丸岡響, 金丸晃大, 加藤大地, 井上文, 堤将輝, 渡辺大介: 急性期解離性椎骨動脈瘤に対してステント併用で母血管閉塞を行い良好な転帰が得られた1例. 第38回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 2022年11月10日-12日.
27. 竹丸誠, 大貫颯, 緒方健亮, 城野喬史, 齋藤幹人, 丸岡響, 中西郁, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 周産期に発症した可逆性脳血管攣縮症候群3症例についての検討. 第50回日本頭痛学会総会. 東京. 2022年11月26日.
28. 中西郁, 河野浩之, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: 同一穿通動脈に脳出血と脳梗塞を発症した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例. 第243回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京・オンライン. 2022年12月3日.
29. 川竹彩音, 河野浩之, 丸岡響, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: 脳出血を契機に大度己訳縮窄症が判明した1例. 第684回日本内科学会関東地方会. 東京・オンライン. 2023年2月12日.
30. 平野照之: 医師主導型臨床試験T-FLAVORの現状報告. 第17回日本血栓止血学会学術標準化委員会SSCシンポジウム. 東京・オンライン. 2023年2月18日.
31. 安達卓哉, 河野浩之, 五明美穂, 塩川芳昭, 平野照之: CT灌流画像により急性期脳梗塞とてんかんを鑑別できた6例. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日.
32. 齋藤幹人, 河野浩之, 大貫颯, 池田憲祐, 緒方健亮, 城野喬史, 丸岡響, 中西郁, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞におけるGhost infarct coreは血栓回収療法での早期有効再開通と関連する. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日.
33. 大貫颯, 河野浩之, 緒方健亮, 山道惇, 齋藤幹人, 城野喬史, 丸岡響, 中西郁, 本田有子, 竹丸誠, 海野佳子, 平野照之: CT灌流画像によるtissue-based TIAの病巣診断. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日.
34. 竹丸誠, 大貫颯, 緒方健亮, 山道惇, 城野喬史, 齋藤幹人, 丸岡響, 中西郁, 小松原弘一郎, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 周産期に発症した可逆性脳血管攣縮症候群の4症例についての検討. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日-18日.
35. 平野照之: Stroke Oncology: 日本脳卒中プロジェクトチームの進捗状況. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.
36. 小松原弘一郎, 河野浩之, 竹丸誠, 大貫颯, 緒方健亮, 山道惇, 城野喬史, 齋藤幹人, 丸岡響, 中西郁, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: がん関連脳梗塞に対する機械的血栓回収療法の有効性の検討 - 院内発症と転帰との関連について -. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.
37. 山道惇, 本田有子, 中西郁, 二階雪野, 柴原純二,

佐々木重嘉, 山岸夢希, 竹丸誠, 河野浩之, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 脳アミロイド血管症関連炎症とアミロイドβ関連炎症を合併し治療に難渋した一例. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.

38. 瀧澤佑騎, 佐藤聡美, 若林希恵, 蛭沢志織, 河野浩之, 平野照之: 脳卒中急性期における尿道カテーテル早期抜去に向けた取り組み. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.
39. 丸岡響, 河野浩之, 大貫颯, 川竹彩音, 岡崎太一, 池田憲祐, 緒方健亮, 齋藤幹人, 城野喬史, 中西郁, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 非心原性脳梗塞再発高リスク群はクロピドグレルのpoor responderが多い. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.
40. 河野浩之, 蛭沢志織, 大貫颯, 緒方健亮, 川竹彩音, 岡崎太一, 山道惇, 丸岡響, 城野喬史, 齋藤幹人, 中西郁, 小松原弘一郎, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 杏林大学における院内発症脳卒中への対応. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月18日.

講演会・研究会

1. 平野照之: 脳領域でのプラスグレルの有用性と今後の期待. エフィエントの新たな展望を考える会. オンライン. 2022年4月8日.
2. 平野照之: Decade of DOAC: 積み重ねたエビデンス. Xarelto発売10周年記念講演会～抗凝固療法の変遷を見る～. オンライン. 2022年4月15日.
3. 海野佳子: 頭痛で困らないために～新しい片頭痛治療と頭痛外来～. 片頭痛治療セミナー. 北見. 2022年4月15日.
4. 平野照之: 脳卒中の地域連携医療: TREAT. Seamless Stroke Care Network Meeting. オンライン. 2022年4月19日.
5. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン: 2021改訂のポイント. 第23回北勢神経フォーラム. オンライン. 2022年4月21日.
6. 海野佳子: 「女性」を意識した片頭痛診療. 片頭痛診療を考える会. オンライン. 2022年4月21日.
7. 平野照之: Decade of DOAC: 抗凝固療法の勘どころ. イグザレルトThanks Seminar in 城西. オンライン. 2022年4月22日.
8. 平野照之: Made in Japan, Optimized for Japanese: 抗血小板療法の新たな選択肢. 第9回日本心血管脳卒中学会学術集会. オンライン. 2022年4月23日.
9. 平野照之: PRASTROに繋がれたチエノピリジンのパトーン. Dual Topic Conference @Web. オンライン. 2022年4月26日.
10. 平野照之: 脳梗塞の病態をふまえた個別化治療へ. Stroke Hot Topics Web Seminar in 柏. オンライン. 2022年4月27日.
11. 平野照之: ポストコロナの連携医療: 抗凝固療法の勘どころ. ～Brain Attack Network～脳卒中病診連携講演会 in Yokosuka・Kanazawaku. オンライン. 2022年5月11日.
12. 平野照之: 急性再灌流療法: 最先端のその先へ. 白熱STROKE教室. オンライン. 2022年5月13日.
13. 海野佳子: 120分でしっかりわかる頭痛診療のオキテ片頭痛. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月18日.
14. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. BAYER Heart Stroke Seminar. オンライン. 2022

- 年5月19日.
15. 河野浩之, 平野照之: 新型コロナ時代のCR灌流画像を活用した脳卒中診療. 第63回多摩脳神経外科懇話会・世話人会. オンライン. 2022年5月19日.
 16. 海野佳子: 「女性」を意識した片頭痛診療. 片頭痛治療セミナー. 北見. 2022年5月20日.
 17. 河野浩之: 教育講演. 脳梗塞急性期画像診断の進歩とCOVID-19対策. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月20日.
 18. 平野照之: 脳卒中の再発抑制を目指して～プラスグレルへの期待～. Stroke Hot Topics @Web Seminar. オンライン. 2022年5月24日.
 19. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン2021を踏まえた血圧コントロール. 脳血管領域高血圧Symposium In 多摩. 八王子. 2022年5月25日.
 20. 平野照之: Stroke Oncology. 第2回地域で診る脳卒中の診療と予防. オンライン. 2022年5月26日.
 21. 平野照之: Stroke Oncology. 第7回十勝抗血栓療法講演会. オンライン. 2022年5月27日.
 22. 海野佳子: 頭痛の診かた～何を尋ねどう判断するか～. 片頭痛治療Webセミナー. オンライン. 2022年5月27日.
 23. 平野照之: 非心原性脳梗塞領域における歴史. Prasugrel Dual Expert Conference～日本人の心臓と脳を繋ぐ～. 東京. 2022年5月28日.
 24. 平野照之: 心原性脳塞栓症: 予防に勝る治療なし. 第3回Cross Discussion Seminar～診療科を超えて脳卒中予防を考える～. オンライン. 2022年5月30日.
 25. 河野浩之: 特別講演. CT灌流画像を活用した急性期脳梗塞診療と読影支援ソリューション. 国立病院機構関東甲信越放射線技師会. オンライン. 2022年5月30日.
 26. 平野照之: 脳梗塞の診断と治療 新ガイドラインより. Stroke Joint Web Seminar for Nurse. オンライン. 2022年5月31日.
 27. 平野照之: Decade of DOAC: 積み重ねたエビデンス. 田園都市線Stroke Forum WEB講演会2022. オンライン. 2022年6月7日.
 28. 平野照之: 脳卒中の脂質低下療法～何で下げる?どこまで下げる?～. Kowa Web Conference in Osaka. オンライン. 2022年6月8日.
 29. 平野照之: Made in Japanの抗血栓薬を活かす. 抗血栓療法Webセミナー～地域で脳・心臓を守る～. オンライン. 2022年6月10日.
 30. 平野照之: 脳卒中の立場から～臨床の観点を中心に～. Web講演会 改めて考える“直接トロンビン阻害薬×特異的中和剤”の総合力. オンライン. 2022年6月16日.
 31. 平野照之: 第二次5か年計画を踏まえた脳卒中医療体制. ストップ! NO卒中プロジェクト第15回エリアエキスパート会議. オンライン. 2022年6月18日.
 32. 海野佳子: 脳血管障害と頭痛. Headache Master School Japan 2022 Spring Semester. 東京. 2022年6月19日.
 33. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. イグザレトWEBカンファレンス. オンライン. 2022年6月21日.
 34. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. おかやま医療連携フォーラム. オンライン. 2022年6月23日.
 35. 海野佳子: 意外と知らない片頭痛のお話～自分でできること, 相談したほうがよいこと～. 第31回日本医学会総会博覧会オンライン市民公開講座. オンライン. 2022年6月23日.
 36. 平野照之: 地域におけるPSCコア施設の役割. 多摩地区脳卒中研究会特別講演会. オンライン. 2022年6月24日.
 37. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. Bayerプライマリケアセミナー～脳・心・腎を考える～. オンライン. 2022年6月27日.
 38. 平野照之: 第二次5か年計画と脳卒中治療連携. 第32回福岡脳卒中ケア研究会. オンライン. 2022年6月29日.
 39. 平野照之: ガイドライン2021とその先を識る. 第24回兵庫神経セミナー. オンライン. 2022年7月2日.
 40. 平野照之: 脳卒中トータルケア～脳卒中予防の重要性～. BRIDGE Live Symposium. オンライン. 2022年7月27日.
 41. 平野照之: 脳卒中の再発抑制を目指して～プラスグレルへの期待～. 抗血小板薬Web Seminar. オンライン. 2022年7月29日.
 42. 平野照之: 脳卒中の今を識る～新ガイドラインと第二次5か年計画. ストップ! NO卒中プロジェクト支部講演会in広島. オンライン. 2022年8月24日.
 43. 平野照之: 日本人に優しい脳卒中2次予防. 脳卒中患者に寄添うweb seminar. オンライン. 2022年8月30日.
 44. 平野照之: ガイドライン2021とその先を識る. Stroke Area Web Seminar in Itabashi. オンライン. 2022年9月5日.
 45. 平野照之: 脳卒中の今を識る: 新ガイドラインと第二次5か年計画. 脳卒中予防と治療の最前線. オンライン. 2022年9月7日.
 46. 平野照之: ガイドライン2021とその先を識る. 脳卒中診療Webセミナー. オンライン. 2022年9月21日.
 47. 平野照之: 脳卒中の今を識る～新ガイドラインと第二次5か年計画. ストップ! NO卒中プロジェクト支部講演会in埼玉. オンライン. 2022年10月6日.
 48. 平野照之: Life goes on. 第13回脳血管山峰会研究会. 大阪. 2022年10月9日.
 49. 河野浩之, 平野照之: みんなで脳卒中を語ろう. 第13回脳血管山峰会研究会. 大阪. 2022年10月9日.
 50. 平野照之: 脳卒中ってどんな病気?. 脳卒中デーに合わせて知ろう脳の病気と“FAST” Everyone Makes an Impact with World Stroke Day 2022. オンライン. 2022年10月18日.
 51. 平野照之: 脳卒中の今を識る～新ガイドラインと第二次5か年計画. ストップ! NO卒中プロジェクト支部講演会in愛知. オンライン. 2022年10月18日.
 52. 齋藤幹人, 河野浩之, 本田有子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳梗塞におけるGhost infarct coreは血栓回収療法での早期友好再開通と関連する. 第43回多摩脳卒中研究会. 立川. 2022年10月21日.
 53. 河野浩之: ESUSの原因をみつける. Patient flowの現在と将来. NIKKEIメディカルWeb. オンライン. 2022年11月4日.
 54. 平野照之: 脳卒中の今を識る～新ガイドラインと第二次5か年計画. 第17回日本海脳卒中連携セミナー～ストップ! NO卒中支部講演会～. オンライン. 2022年11月12日.
 55. 平野照之: 脳卒中の今を識る～新ガイドラインと第二次5か年計画. ストップ! NO卒中プロジェクト支部

- 講演会in静岡. オンライン. 2022年11月15日.
56. 平野照之: かかりつけ医の為の脳卒中トータルケア～脳卒中後てんかん・脳卒中後疼痛を含めて～. 羽根木の会Webセミナー. オンライン. 2022年11月16日.
 57. 平野照之: 脳卒中相談窓口ノウハウ: 疼痛ほか後遺症対策を含めて. New Normal for Stroke Web Conference Vol.3. オンライン. 2022年11月25日.
 58. 河野浩之: がん脳卒中. 2022年度脳卒中分野NHO研究ネットワークグループ会議. オンライン. 2022年11月25日.
 59. 平野照之: Stroke Oncology × Cancer Associated Thrombosis Opening Remarks. Collaboration Web Seminar. オンライン. 2022年12月14日.
 60. 河野浩之: Stroke Oncology, 全国アンケート調査にみる現状. Collaboration web seminar. オンライン. 2022年12月14日.
 61. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン2021を踏まえた血圧コントロール. 第17回姫路脳疾患フォーラム. オンライン. 2022年12月16日.
 62. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. アクティブシニアの心疾患マネジメントを考える. オンライン. 2023年1月16日.
 63. 平野照之: Stroke Oncologyって何?. Stroke Oncology Seminar in Fukui. オンライン. 2023年1月17日.
 64. 河野浩之: わたしの留学体験記. 第1回脳卒中医のための留学セミナー. オンライン. 2023年1月17日.
 65. 河野浩之: 脳梗塞における抗血小板療法を極める. Stroke Expert Conference. 東京. 2023年1月19日.
 66. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン2021を踏まえた血圧コントロール. Hypertension SYMPOSIUM in Setagaya. オンライン. 2023年1月25日.
 67. 河野浩之: Stroke Oncologyとは. Frontiers in Stroke Web seminar. 横浜. 2023年1月31日.
 68. 平野照之: Stroke Oncologyって何?. 深川市医師会学術講演会. オンライン. 2023年2月3日.
 69. 平野照之: 高齢化の進む心原性脳塞栓症: 二度目を起こさないために. NVAf Management on Active Senior. 大阪・オンライン. 2023年2月12日.
 70. 平野照之: 脳卒中とてんかんの深い関係. 脳卒中とてんかんを考える会. オンライン. 2023年2月17日.
 71. 平野照之: 脳卒中トータルケア～再発予防から疼痛対策まで～. 脳卒中Total Care Webセミナー. オンライン. 2023年2月21日.
 72. 平野照之: がん脳卒中のアンメットニーズ. Stroke Oncology Joint Seminar. オンライン. 2023年2月22日.
 73. 平野照之: 脳卒中治療の最新の話. 脳卒中予防を見据えたエンレスト高血圧Web講演会. オンライン. 2023年2月28日.
 74. 平野照之: 脳梗塞の診断と治療2023. STOP THE脳卒中～脈の日に脳卒中予防を考える～. オンライン. 2023年3月4日.
 75. 河野浩之: Stroke Oncology概念と今後の展望. Asahikawa Stroke Symposium. オンライン. 2023年3月7日.
 76. 平野照之: 脳卒中のトータルケア～脳卒中後てんかん・脳卒中後疼痛を含めて～. 地域で考える脳卒中診療. オンライン. 2023年3月10日.
 77. 平野照之: アクティブシニアのためのNVAf管理. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日.
 78. 河野浩之: がん脳卒中 Stroke Oncology. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月16日.
 79. 平野照之: Life goes on. 先を見据えた抗凝固療法. STROKE 2023. 横浜・オンライン. 2023年3月17日.
 80. 平野照之: アクティブシニアのためのDOAC活用術. イグザレルトWEBカンファレンス-かかりつけ医のためのSTROKE Seminar. オンライン. 2023年3月22日.
 81. 平野照之: がん脳卒中の合併の現状と問題点. 脳卒中診療の明日へのシナリオin京都. オンライン. 2023年3月23日.
 82. 平野照之: 高齢者てんかん脳卒中の深い関係. 高齢者の脳疾患とてんかんの治療. オンライン. 2023年3月24日.

論文

1. Shoamanesh A¹, Mundl H², Smith EE³, Masjuan J⁴, Milanov I⁵, Hirano T, Agafina A⁶, Campbell B⁷, Caso V⁸, Mas JL⁹, Dong Q¹⁰, Turcani P¹¹, Christensen H¹², Ferro JM¹³, Veltkamp R¹⁴, Mikulik R^{15,16}, De Marchis GM¹⁷, Robinson T¹⁸, Lemmens R^{19, 20}, Stepien A²¹, Greisenegger S²², Roine R²³, Csiba L²⁴, Khatri P²⁵, Coutinho J²⁶, Lindgren AG²⁷, Demchuk AM³, Colorado P²⁸, Kirsch B², Neumann C², Heenan L¹, Xu L¹, Connolly SJ¹, Hart RG¹ (1McMaster University, 2Bayer AG, 3University of Calgary, 4Hospital Universitario Ramón y Cajal, 5Universidad de Alcalá, 6City Hospital #40 Saint Petersburg, 7University of Melbourne, 8University of Perugia, 9Université Paris-Cité, 10Fudan University, 11Comenius University, 12University Hospital of Copenhagen, 13Universidade de Lisboa, 14Alfried-Krupp Hospital, 15St. Anne's University Hospital, 16Masaryk University, 17University Hospital of Basel and University of Basel, 18University of Leicester, 19KU Leuven-University of Leuven, 20University Hospitals Leuven, 21Military Institute of Medicine Warsaw, 22Medical University of Vienna, 23University of Turku, 24University of Debrecen, 25University of Cincinnati, 26University of Amsterdam, 27Lund University, 28Bayer US Pharmaceuticals): Factor XIa inhibition with asundexian after acute non-cardioembolic ischaemic stroke (PACIFIC-Stroke): an international, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 2b trial. *Lancet*. 400(10357):997-1007. 2022.
2. Nakajima S¹, Kawano H, Yamashiro K², Tanaka R³, Kameda T⁴, Kurita N¹, Hira K¹, Miyamoto N¹, Ueno Y¹, Watanabe M², Hirano T, Fujimoto S³, Urabe T², Hattori N¹ (1Juntendo University, 2Juntendo University Urayasu Hospital, 3Jichi Medical University, 4Shin-Oyama City Hospital): Post-Treatment Plasma D-Dimer Levels Are Associated With Short-Term Outcomes in Patients With Cancer-Associated Stroke. *Front Neurol*. 13: 868137. 2022.
3. Yoshimoto T¹, Yamagami H², Sakai N³, Toyoda K¹, Hashimoto Y⁴, Hirano T, Iwama T⁵, Goto R⁶, Kimura K⁷, Kuroda S⁸, Matsumaru Y⁹, Miyamoto S¹⁰, Ogasawara K¹¹, Okada Y¹², Shiokawa Y¹³, Takagi Y¹⁴, Tominaga T¹⁵, Uno M¹⁶, Yoshimura S¹⁷, Ohara N³, Imamura H³, Sakai C³ (1National

- Cerebral and Cardiovascular Center, ²National Hospital Organization Osaka National Hospital, ³Kobe City Medical Center General Hospital, ⁴Kumamoto City Hospital, ⁵Gifu University Graduate School of Medicine, ⁶Keio University, ⁷Nippon Medical School Hospital, ⁸University of Toyama, ⁹Tsukuba University, ¹⁰Kyoto University, ¹¹Iwate Medical University, ¹²National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ¹³Department of Neurosurgery, Kyorin University, ¹⁴Tokushima University Graduate School of Medicine, ¹⁵Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹⁶Kawasaki Medical School, ¹⁷Hyogo College of Medicine): Impact of COVID-19 on the Volume of Acute Stroke Admissions: A Nationwide Survey in Japan. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 62(8). 369-376. 2022.
4. 平野照之, ¹桶川隆嗣 (1杏林大・医・泌尿器科学) : 対談 - 神経内科医からみた脳卒中の現状と課題 - . 杏林医学会誌. 53(1). 17-21. 2022.
 5. 平野照之 : 新型コロナウイルス感染症と脳卒中. 血栓止血誌. 33(1). 57-59. 2022.
 6. 山道惇¹, 岡田啓², 天野達雄, 河野浩之, 海野佳子, 塩川芳昭², 平野照之 (1杏林大学付属病院脳卒中科, ²杏林大・医・脳神経外科学) : 左片麻痺を呈した両側前大脳動脈解離を呈した若年性脳梗塞の1例. 臨床神経学. 62(1). 78. 2022.
 7. 平野照之 : 5戦略事業のトピックス 災害・感染症蔓延における医療体制構築. *Progress in Medicine*. 42(2). 153-159. 2022.
 8. 塩川芳昭¹, 河野浩之, 高野利実², 辻哲也³, 成田善孝⁴, 藤本茂⁵, 平野照之 (1杏林大・医・脳神経外科学, ²がん研有明, ³慶應大, ⁴国立がん研究センター中央病院, ⁵自治医科大) : NEUROONCOLOGIC EMERGENCYにおけるがんと脳卒中の併発例への対応 : 領域横断的なコンセンサス形成の必要性. *Neurosurgical Emergency*. 26(3). 291. 2022.
 9. 海野佳子 : 片頭痛治療のパラダイムシフト 新たな片頭痛治療 CGRP関連片頭痛治療薬 抗CGRPモノクローナル抗体・抗CGRP受容体モノクローナル抗体の特性と臨床効果 フレマネズマブ (Ajovy) . *CLINICAL NEUROSCIENCE*. 40(5). 591-594. 2022.
 10. 平野照之 : テネクテプラザー. *カレントセラピー*. 40(3). 300. 2022.
 11. 内山真一郎¹, 平野照之, 豊田一則² (1国際医療福祉大学, ²国立循環器病研究センター) : Embolic stroke of undetermined source (ESUS) の抗血栓療法を再考する. 脳卒中. 44(2). 119-126. 2022.
 12. 河野浩之, 平野照之, 高野利実¹, 辻哲也², 成田善孝³, 藤本茂⁴, 塩川芳昭⁵ (1がん研有明病院, ²慶應義塾大学, ³国立がん研究センター, ⁴自治医科大学, ⁵杏林大・医・脳神経外科学) : がんと脳卒中を合併する症例の治療者側の意識と診療実態に関する全国調査. 脳卒中. 44(2). 133-141. 2022.
 13. 平野照之 : 脳卒中診療を取り巻く最近の話題 コロナ禍と脳卒中診療. *医学のあゆみ*. 280(10). 979-984. 2022.
 14. 平野照之 : 脳卒中の登録事業・研究. *脳神経内科*. 96(3). 369-375. 2022.
 15. 城野喬史¹, 河野浩之, 廣川達也², 柴原純二², 平野照之 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科, ²杏林大・医・病理学) : 頭蓋内出血後に剖検で進行性前立腺癌と診断した一例. *臨床神経学*. 62(4). 312. 2022.
 16. 岡崎太一¹, 中西郁¹, 天野達雄, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之, 萬昂士², 柴原純³二 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科, ²東京医科大学, ³杏林大・医・病理学) : 回収された脳腫瘍細胞が契機となり診断に至った腫瘍塞栓症の一例. *臨床神経学*. 62(4). 321. 2022.
 17. 平野照之 : 脳卒中対策における近年のアカデミアと行政の協働. *三鷹医人往来*. 44(5). 3-4. 2022.
 18. 河野浩之, 平野照之 : 実地医家に必要な最新の知識 悪性腫瘍と脳卒中. *Medical Practice*. 39(12). 1831-1835. 2022.
 19. 河野浩之 : ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)の病態・診断・治療 HITの臨床診断. 炎症と免疫. 30(3). 236-239. 2022.
 20. 平野照之, 岩間亨¹, 森岡基浩² (1岐阜大, ²久留米大) : バイパス術の将来 - 内科・外科の立場から -. *脳神経外科*. 50(4). 713-718. 2022.
 21. 中西郁¹, 河野浩之, 天野達雄, 五明美穂², 土屋一洋², 本田有子, 海野佳子, 平野照之 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科, ²杏林大・医・放射線医学) : 一過性外転神経麻痺を認めたretroclival hematomaの1例. *臨床神経学*. 62(8). 664. 2022.
 22. 平野照之 : 脳卒中と循環器病克服第一次5ヵ年計画の総括 臨床・基礎研究の強化. *JSA News*. 68(6). 2022.
 23. 河野浩之, 塩川芳昭¹, 平野照之 (1杏林大・医・脳神経外科学) : Stroke Oncology. 腫瘍内科. 30(2). 204-210. 2022.
 24. 河野浩之, 城野喬史¹, 中西郁¹, 丸岡響¹, 齋藤幹人¹, 山道惇¹, 緒方健亮¹, 大貫颯¹, 竹丸誠, 本田有子, 海野佳子, 平野照之 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科) : 経皮的卵円孔開閉鎖術前の抗血栓療法と脳梗塞再発の関係. *神経治療学*. 39(6). S237. 2022.
 25. 緒方健亮¹, 河野浩之, 齋藤幹人¹, 山道惇¹, 本田有子, 竹丸誠, 海野佳子, 平野照之 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科) : 内頸動脈狭による左下肢優位のlimb shakingを来した脳梗塞の1例. *神経治療学*. 39(6). 2022.
 26. 大貫颯¹, 中西郁¹, 本田有子, 竹丸誠, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之 (1杏林大学医学部付属病院脳卒中科) : 著明な血管蛇行と血圧低下が原因と考えられた一過性脳虚血発作の1例. *神経治療学*. 39(6). S238. 2022.
 27. 海野佳子 : 今さら聞けない!? 頭痛の問診と説明～短時間の外来で, どう聞き出しどう伝えるのか～. *日本頭痛学会誌*. 49(1). 179-182. 2022.
 28. 平野照之 : ブレインハートチームの現状と展望 : 脳卒中専門医の立場から. *Cardio-Coagulation*. 9(3). 147-153. 2022.
 29. 平野照之 : 脳血管障害の治療の進歩. *神経治療学*. 39(5). 749-755. 2022.
 30. Kawano H, Adachi T¹, Saito M², Amano T, Gomyo M³, Yokoyama K³, Shiokawa Y⁴, Hirano T (1Department of Radiology, Kyorin University Hospital, ²Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University Hospital, ³Department of Radiology, Kyorin University, ⁴Department of Neurosurgery, Kyorin University) : Correlation between pretreatment and follow-up infarct volume using CT perfusion imaging: the Bayesian versus singular value decomposition method. *Neurol Sci*. DOI: 10.1007/s10072-023-06627-w. 2023. Epub.
 31. 河野浩之 : ディベート・セクション 10番勝負 非心原性脳梗塞に対する静注抗血栓薬(オザグレル, アル

ガトロバン)の使用 Con DAPTを基本とし dual pathway inhibitionよりも内服を主体に計画する. *Medicina*. 60(3). 486-489. 2023.

著書

1. 平野照之(分担執筆):第4章 パンデミック禍の神経診察の注意点と課題 脳卒中診療, COVID-19神経ハンドブック 急性期, 後遺症からワクチンまで. 下畑享良 編著. 中外医学社. 2022. 234-241.
2. 平野照之(分担執筆):第2章 脳血管障害 脳卒中の予防(高血圧, 高脂血症他). 新井一, 齋藤延人, 若林俊彦 監修. 脳神経外科学レビュー 2023-'24. 総合医学社. 2022. 129-134.
3. 海野佳子(分担執筆):第2章 頭痛患者のQOLを改善するためのノウハウ 慢性片頭痛, 薬剤の使用過多による頭痛の診断と治療. *jmedmook82*「頭痛の診療ガイドライン2021」準拠 ジェネラリストのための頭痛診療マスター. 竹島多賀夫 編集. 日本医事新報社. 2022. 86-93.
4. 海野佳子(分担執筆):無症候性脳血管障害(未破裂脳動脈瘤を除く). 今日の治療指針2023年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 医学書院. 2023年. 920-922.
5. 平野照之(分担執筆):3章 画像評価(どの検査で何がわかるか) MRI (DWI, FLAIR, ASL). 急性期脳梗塞に対する血管内治療 エキスパートはこうしている!. 吉村紳一 監修・編集, 白川学 編集. 日本医事新報社. 2023. 224-229.
6. 平野照之(分担執筆):左心耳血栓が認められた際に, 抗凝固薬で様子を見るべきか, すぐに開胸術を行うべきか?. 脳卒中治療Controversy. 木村和美 編集. 中外医学社. 2023. 132-136.
7. 平野照之(企画):令和の脳卒中ディベート10番勝負 脳卒中治療ガイドライン2021とその先を識る. *medicina*. 60(3). 医学書院. 2023.
8. 河野浩之(分担執筆):無症候性の動脈瘤が画像上にある場合, rt-PA療法はどうするか?. 脳卒中治療Controversy. 木村和美 編集. 中外医学社. 2023. 56-62.

その他

1. 平野照之(監修):夏の脳梗塞「夏のけんこう」.(株)社会保険出版社. 2022年5月.
2. 平野照之(監修):がんと心疾患・脳血管疾患との繋がり. FPトレイン72号. 日本生命保険相互会社. 2022年5月.
3. 河野浩之:一般社団法人日本神経学会 Excellent Teacher賞. 2022年5月19日.
4. 平野照之:脳卒中トータルケア～脳卒中予防の重要性～. 羊土社デジタルコンテンツ. 2022年6月15日.
5. 平野照之(取材協力):脳梗塞の前触れ, 一過性脳虚血発作(TIA)とは. 日本経済新聞. 2022年6月18日.
6. 平野照之:「健康カプセル!ゲンキの時間」夏の脳梗塞. TBSテレビ. 2022年7月10日.
7. 平野照之(監修):循環器病予防のてびき. 東京法規出版. 2022年7月.
8. 平野照之:デジタルで変わる<1>脳卒中, 迅速に「見える化」. 読売新聞. 2022年8月31日.
9. 河野浩之:がんと脳卒中の合併例への対応 *Stroke Oncology*. 週間医学界新聞. 3486. 2022年9月19日.
10. 平野照之:「健康ノート」脳卒中. パンプキン12月号 No.381 第32巻12号. 潮出版社. 99-101. 2022年12月1日.

医学教育学教室

講演

1. 関口進一郎:医療者教育の基本. 日本小児科学会主催第29回小児科医のための臨床研修指導医講習会. オンライン. 2022年10月15日.
2. 関口進一郎:小児科専門医試験受験出願指導のポイント. 日本小児科学会主催第29回小児科医のための臨床研修指導医講習会. オンライン. 2022年10月15日.
3. 関口進一郎:小児科専門医試験受験出願指導のポイント. 日本小児科学会主催第30回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 船橋. 2023年3月25日.
4. 関口進一郎:指導医のありかた. 日本小児科学会主催第30回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 船橋. 2023年3月26日.
5. 江頭説子:「倉敷市公害患者と家族の会」の軌跡. 『「地域の価値」をつくる』出版記念シンポジウム. 倉敷市. 2023年2月11日.
6. 富田泰彦:認知症のひとり歩き(徘徊)について. 前田病院地域連携型認知症疾患医療センター主催多職種研修会. 東久留米市. 2022年10月27日.
7. 富田泰彦:医療監修 JIN・仁・から見る輸血. 第29回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム. 東京. 2022年10月28日.
8. 富田泰彦:①感染対策:日常生活上の予防と②災害時, 避難生活での留意点. 「武蔵野市大野田地域防災の会」フォーラム災害に強い地域づくり. 武蔵野市. 2023年2月19日.
9. 富田泰彦:正しく知ろう! 認知症. 東久留米市福祉保健部介護福祉課地域ケア係主催 令和4年度認知症講演会. 東久留米市. 2023年3月3日.

論文

1. 関口進一郎:臨床現場における研修評価. 小児科診療. 85(5). 541-7. 2022.
2. Sekiguchi S, Moriyama K¹, Tokumine J¹, Lefor AK², Nakazawa H¹, Tomita Y, Yorozu T¹ (¹Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Surgery, Jichi Medical University): Near-infrared venous imaging may be more useful than ultrasound guidance for novices to obtain difficult peripheral venous access: A crossover simulation study. *Medicine (Baltimore)*. 102(12). e33320. 2023.
3. 富田泰彦:脳神経内科領域における医学教育の展望 Post/withコロナ時代を見据えて(Vol.13)医療安全とシミュレーション教育. *Brain and nerve*. 74(9). 1135-1139. 2022.

著書

1. 江頭説子(分担執筆):「倉敷市公害患者と家族の会」の軌跡. 「地域の価値」をつくる-倉敷市・水島の公害から環境再生へ-. 石田正也 監修・除本理史, 林美帆 編. 東信堂. 2022. 43-56.

報告書

1. 富田泰彦:医師国家試験出題基準改定部会委員. 医師国家試験出題基準令和6年版. 厚生労働省医政局医事課.

その他

1. 関口進一郎:日本小児科学会主催第29回小児科医の

- ための臨床研修指導医講習会。企画責任者・代表世話人。オンライン。2022年10月15日-16日。
2. 関口進一郎：日本小児科学会主催第30回小児科医のための臨床研修指導医講習会。企画責任者・代表世話人。船橋。2023年3月25日-26日。
 3. 関口進一郎：杏林大学医学部附属病院第32回指導医養成ワークショップ。チーフタスクフォース。三鷹。2022年12月1日-2日。
 4. 江頭説子：日本労働社会学会主催「日本労働社会学会第34回大会」。大会実行委員。オンライン。2022年10月22日-23日。
 5. 富田泰彦：第9回自衛隊中央病院臨床研修指導医講習会。タスクフォース。東京。2022年10月22日-23日。
 6. 富田泰彦：杏林大学医学部附属病院第32回指導医養成ワークショップ。ディレクター。三鷹。2022年12月1日-2日。
 7. 富田泰彦：全自病協・国診協主催 第167回臨床研修指導医講習会。タスクフォース。オンライン。2023年2月11日-12日。

肉眼解剖学教室

講演

1. 持田勇希, 落合剛二, 長瀬美樹: Piezo2は糸球体メサンギウム細胞とレニン産生細胞に発現し, 糸球体内圧低下に伴い細胞特異的に増減する。第65回日本腎臓学会学術総会。横浜・オンライン。2022年6月12日。
2. 長瀬美樹, 徳嶺譲芳, 飯塚悠太, 木村理沙乃, 岸野日咲: 解剖学実習におけるアクティブラーニング～気道確保で実感する解剖学の重要性～。医学部FD/SD。三鷹。2022年9月28日。
3. Mochida Y, Ochiai K, Nagase M: Piezo2 expression and its alteration by mechanical forces in mouse mesangial cells and renin-producing cells. The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. Kyoto. October 14th. 2022.
4. 持田勇希, 長瀬美樹, 山口芳裕: メカノセンサー Piezo2の体液恒常性維持への関与。第50回日本救急医学会総会・学術集会。東京・オンライン。2022年10月19-21日。
5. 上野仁之, 長瀬美樹: 腎糸球体上皮細胞における Myo10の機能解析。第128回日本解剖学会総会・全国学術集会。仙台。2023年3月19日。
6. 岸野日咲, 飯塚悠太, 木村理沙乃, 三上香織, 大石篤郎, 上野仁之, 宮東明彦, 秋元義弘, 松村讓兒, 長瀬美樹: ピロリドン固定による柔軟性を組織学的に解明する・ホルマリン固定との比較観察。第128回日本解剖学会総会・全国学術集会。仙台。2023年3月19日。
7. 飯塚悠太, 木村理沙乃, 岸野日咲, 徳嶺譲芳, 上野仁之, 大石篤郎, 松村讓兒, 長瀬美樹: 解剖学教育における臨床手技のアクティブラーニング型実習の導入と実践。第128回日本解剖学会総会・全国学術集会。仙台。2023年3月19日。
8. Oishi A, Cecon E, Luka M, Ndiaye-Lobry D, François A, Panayi F, Dam J, Machado P, Nagase M, Jockers R: New luminescent tau biosensors to monitor pathological tau transformation and seeding activity in living cells. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会。仙台。2023年3月20日。
9. Nagase M: Physiological and pathological roles of Piezo2 in the kidney. International symposium on

mechanobiology for human health : 8 years progress in the AMED-CREST/PRIME project on mechanobiology. Tokyo・Online. March 23rd. 2023.

論文

1. Nagase M¹, Nagase T², Tokumine J³, Saito K⁴, Sunami E⁵, Shiokawa Y⁶, Matsumura G¹ (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ²Kunitachi Aoyagien Tachikawa Geriatric Health Services Faculty, ³Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of Colorectal Surgery, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine): Formalin-free soft embalming of human cadavers using N-vinyl-2-pyrrolidone: perspectives for cadaver surgical training and medical device development. . Anat Sci Int. 97(3). 273-282. 2022.
2. Oishi A^{1,2,3}, Jockers R¹ (¹Université de Paris, Institut Cochin INSERM, CNRS, ²Department of Anatomy, Kyorin University Faculty of Medicine, ³Cancer RNA Research Unit, National Cancer Center Research Institute): Measuring protein-protein interactions of melatonin receptors by bioluminescence resonance energy transfer (BRET). Methods Mol Biol. 2550. 207-218. 2022.
3. 山田賢治¹, 長瀬美樹², 松村讓兒² (¹杏林大学保健学部救急救命学科, ²杏林大学医学部肉眼解剖学): 解剖体を用いた長母指伸筋腱の走行変異についての発生頻度調査。日手外科会誌。39巻(3号)。370-373。2022。
4. 大庭梨菜^{1,2}, 長瀬美樹¹ (¹杏林大学医学部肉眼解剖学, ²東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科): 尿管管と間質の構造と機能。腎と透析。93巻(6号)。822-828。2022。
5. 長瀬美樹¹ (¹杏林大学医学部肉眼解剖学): 『医学部基礎医学教室の最前線—肉眼解剖学教室』Part I. 肉眼解剖学教室の研究紹介。杏林医会誌。53巻(4号)。131-138。2022。
6. 長瀬美樹¹ (¹杏林大学医学部肉眼解剖学): 『医学部基礎医学教室の最前線—肉眼解剖学教室』Part II. 解剖学教育と学生のリサーチマインド育成。杏林医会誌。53巻(4号)。139-145。2022。
7. 長瀬美樹¹ (¹杏林大学医学部肉眼解剖学): 『医学部基礎医学教室の最前線—肉眼解剖学教室』Part III. 解剖学実習における新たな取り組み。杏林医会誌。53巻(4号)。147-152。2022。
8. Ochiai K^{1,2}, Mochida Y^{1,2}, Nagase T³, Fukuhara H⁴, Yamaguchi Y², Nagase M¹ (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Kunitachi Aoyagien Tachikawa Geriatric Health Services Faculty, ⁴Department of Urology, Kyorin University School of Medicine): Upregulation of Piezo2 in the mesangial, renin, and perivascular mesenchymal cells of the kidney of Dahl salt-sensitive hypertensive rats and its reversal by esaxerenone. Hypertens Res. 46(5).1234-1246. 2023.Epub.

著書

1. 松村讓兒(監修): からだがみえる 人体の構造と機

能 第1版. 医療情報科学研究所. 2023

2. Oishi A (分担執筆), Jockers R: Recent advances in orphan GPCRs research and therapeutic potential. GPCRs as Therapeutic Targets vol 1. Gilchrist A (ed). John Wiley & Sons, Inc. 2022. 20-59.
3. 長瀬美樹 (分担執筆): 正常腎の組織所見～血管. 非腫瘍性疾患病理アトラス 腎. 大橋健一, 小池淳樹, 富田茂樹, 原重雄 (編集). 文光堂. 2022. 21-28.

報告書

1. 上野仁之: 肉眼解剖学実習とCT及びMRI画像の統合教育. 令和3年度医学部ユニーク助成金 研究成果まとめ 報告. 杏林医会誌. 54巻1号. 15-16. 2023年.

その他

1. 長瀬美樹: インタビュー「肉眼解剖学実習の意義と基礎研究を続けることの大切さ」. 杏林医会誌. 54巻1号. 11-16. 2023年.

顕微解剖学教室

講演

1. 前澤善朗, 寺本直弥, 塚越彩乃, 南塚拓也, 加藤尚也, 金子ひより, 越坂理也, 遠藤裕介, 秋元義弘, 横手幸太郎: 糖尿病性腎臓病のポドサイトにおける転写因子Tcf21の役割. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸. 2022年5月12日.
2. 寺本直弥, 前澤善朗, 塚越彩乃, 南塚拓也, 越坂理也, 遠藤裕介, 秋元義弘, 横手幸太郎: 糖尿病性腎臓病における転写因子Tcf21の機能解析. 第65回日本腎臓学会学術総会. 神戸. 2022年6月11日.
3. Wada H, Miyoshi J, Kuronuma S, Hibi N, Nishinarita Y, Oguri N, Matsuura M, Takeuchi O, Kobayashi T, Akimoto Y, Hibi T, Hisamatsu T: Impacts of 5-aminosalicylic acid on the intestinal microbiota and the anti-inflammatory effect. The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC 2022). Virtual Congress. June 16th-18th, 2022.
4. 西成田悠, 三好潤, 和田晴香, 小栗典明, 黒沼智, 日比則孝, 竹内修, 松浦稔, 小林拓, 秋元義弘, 日比紀文, 久松理一: 幼少期における腸管微生物叢と宿主免疫発達の特徴. 第59回日本消化器免疫学会総会. 吹田. 2022年7月29日.
5. 秋元義弘, 宮東昭彦: 電子顕微鏡の基礎と応用. 第47回組織細胞化学講習会. 京都. 2020年8月5日.
6. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: マウス大腸におけるムチン産生細胞はすべて同じ“杯細胞”か?. 第41回日本糖質学会年会. 吹田. 2022年9月29日.
7. 慶野博, 齋藤翔子, 佐藤康彦, 杉田直, 宮東昭彦, 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ: 転写因子Nrf2を介した実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎における炎症制御機構の検討. 第50回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2022年10月13日.
8. 西成田悠, 三好潤, 和田晴香, 小栗典明, 黒沼智, 日比則孝, 竹内修, 松浦稔, 小林拓, 秋元義弘, 日比紀文, 久松理一: 幼少期における腸管微生物叢成立と宿主免疫発達の特徴. 第50回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2022年10月14日.
9. 秋元義弘: 顕微鏡への誘い. 日本顕微鏡学会第65回シンポジウム. 倉敷. 2022年11月6日.

10. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: マウス大腸近位-遠位軸に沿ったムチン糖鎖の多様性と, その形成機構の検討. 第95回日本生化学会大会. 名古屋. 2022年11月11日.
11. 小川裕子, 三浦ゆり, 大西敦, 後藤芳邦, 青木一真, 池本守, 本車田悠希, 堤周平, 長島茉央, 廣谷莉花, 武井亮太郎, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 矢ノ下良平: ヒト唾液にはMUC1/APNとDPP IV/CD9を指標とする2種類の細胞外小胞が存在する. 第66回日本唾液腺学会. 東京. 2022年11月26日.
12. Uchida A, Imaimatsu K, Suzuki H, Han X, Ushioda H, Uemura M, Imura-Kishi K, Hiramatsu R, Takase HM, Hirate Y, Ogura A, Kanai-Azuma M, Kudo A, Kanai Y: The formation of Sertoli valve and spermatogenesis is modulated by SOX17-positive rete testis in mouse testis. The international symposium "Totipotency and Germ Cell Development". Fukuoka. November 25th, 2022.
13. Wada H, Miyoshi J, Kuronuma S, Hibi N, Nishinarita Y, Oguri N, Matsuura M, Takeuchi O, Kobayashi T, Akimoto Y, Hibi T, Hisamatsu T: Impacts of 5-aminosalicylic acid on the intestinal microbiota leading to the anti-inflammatory effect. 18th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation (ECCO2023). Denmark. March 2nd, 2023.
14. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: 大腸cKit陽性上皮細胞のムチン産生細胞としての特徴. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会. 仙台. 2023年3月18日.
15. 岸野日咲, 飯塚悠太, 木村理沙乃, 三上香織, 大石篤郎, 上野仁之, 宮東昭彦, 秋元義弘, 松村譲児, 長瀬美樹: ピロリドン固定による柔軟性を組織学的に解明するーホルマリン固定との比較観察ー. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会. 仙台. 2023年3月19日.
16. 秋元義弘, 三浦ゆり, 宮東昭彦, Hart GW, 遠藤玉夫: 糖修飾β-アクチンの核内における局在. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会. 仙台. 2023年3月20日.
17. 小川裕子, 三浦ゆり, 後藤芳邦, 池本守, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来細胞外小胞に存在するLPS結合タンパク質はマクロファージの活性化を制御する. 日本薬学会第134年会. 熊本. 2023年3月28日.

論文

1. Takahashi S¹, Fukuhara D¹, Kimura T², Fukutomi T², Tanaka E¹, Mikami N¹, Hada I¹, Takematsu H³, Nishibori Y¹, Akimoto Y, Kiyonari H⁴, Abe T⁴, Huber O⁵, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ³Fujita Health University, ⁴RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, ⁵Friedrich Schiller University Jena): USP40 deubiquitinates HINT1 and stabilizes p53 in podocyte damage. *Biochem Biophys Res Commun.* 614. 198-206. 2022.
2. Tokudome T¹, Otani K¹, Mao Y^{1,2}, Jensen LJ³, Arai Y¹, Miyazaki T¹, Sonobe T¹, Pearson JT^{1,4}, Osaki T⁵, Minamino N¹, Ishida J⁶, Fukamizu A⁶, Kawakami H, Onozuka D⁷, Nishimura K¹, Miyazato M¹, Nishimura H¹ (¹National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute,

- ²Ohio University, ³University of Copenhagen, ⁴Monash University, ⁵Yamagata University, ⁶University of Tsukuba, ⁷Kyoto Prefectural University of Medicine): Endothelial natriuretic peptide receptor 1 play crucial role for acute and chronic blood pressure regulation by atrial natriuretic peptide. *Hypertension*. 79 (7). 1409-1422. 2022.
3. Yoshimura T¹, Yamagishi S², Akimoto Y, Saitoh S³ (¹Osaka University, ²Hamamatsu University School of Medicine, ³Fujita Health University): Editorial: Brain imaging for glycobiology. *Front Neuroanat*. 16. 1026499. 2022.
 4. Nakanishi K¹, Takase T¹, Ohira Y¹, Ida R¹, Mogi N¹, Kikuchi Y¹, Matsuda M¹, Kurohane K¹, Akimoto Y, Hayakawa J², Kawakami H, Niwa Y¹, Kobayashi H¹, Umemoto E¹, Imai Y¹ (¹University of Shizuoka, ²Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine): Prevention of Shiga toxin 1-caused colon injury by plant-derived recombinant IgA. *Sci Rep*. 12(1). 17999. 2022.
 5. Sato Y^{1,2,†}, Saito S^{2,†}, Nakayama M², Sugita S^{3,4}, Kudo A, Keino H² (¹Division of Radioisotope Research, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Ophthalmology, Kyorin University School of Medicine, ³RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, ⁴Vision Care Inc., [†]equally contributed): Genetic Ablation of Nrf2 Exacerbates Neuroinflammation in Ocular Autoimmunity. *Int J Mol Sci*. 23(19). 11715. 2022.
 6. Hada I¹, Shimizu A², Takematsu H³, Nishibori Y¹, Kimura T⁴, Fukutomi T⁴, Kudo A, Ito-Nitta N¹, Kiuchi Z¹, Patrakka J⁵, Mikami N¹, Leclerc S⁶, Akimoto Y, Hirayama Y⁷, Mori S⁷, Takano T⁶, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Nippon Medical School, ³Fujita Health University, ⁴Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ⁵Karolinska Institutet, ⁶McGill University Health Centre, ⁷Denka Co., Ltd): A novel mouse model of idiopathic nephrotic syndrome induced by immunization with the podocyte protein Crb2. *J Am Soc Nephrol*. 33(11). 2008-2025. 2022.
 7. Uchida A^{1,2}, Imaimatsu K¹, Suzuki H¹, Han X¹, Ushioda H¹, Uemura M¹, Imura-Kishi K¹, Hiramatsu R¹, Takase HM³, Hirate Y³, Ogura A², Kanai-Azuma M³, Kudo A, Kanai Y¹ (¹The University of Tokyo, ²RIKEN BioResource Research Center, ³Tokyo Medical and Dental University): SOX17-positive rete testis epithelium is required for Sertoli valve formation and normal spermiogenesis in the male mouse. *Nat Commun*. 13(1). 7860. 2022.
 8. Takada M¹, Fukuhara D¹, Takiura T¹, Nishibori Y¹, Kotani M¹, Kiuchi Z¹, Kudo A, Beltcheva O², Ito-Nitta N¹, Nitta KR³, Kimura T⁴, Suehiro J⁴, Katada T⁴, Takematsu H⁵, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Medical University of Sofia, ³Juntendo University, ⁴Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ⁵Fujita Health University): Involvement of GLCC1 in mouse spermatogenesis. *FASEB J*. 37(1). e22680. 2023.
 9. Aoyagi K¹, Yamashita S², Akimoto Y, Nishiwaki C¹, Nakamichi Y¹, Udagawa H¹, Abe M², Sakimura K², Kanki T², Ohara-Imaizumi M¹ (¹Department of Cellular Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, ²Niigata University): A new beta cell-specific mitophagy reporter mouse shows that metabolic stress leads to accumulation of dysfunctional mitochondria despite increased mitophagy. *Diabetologia*. 66(1). 147-162. 2023.
 10. Yomogita H¹, Ito H^{1,2}, Hashimoto K¹, Kudo A, Fukushima T³, Endo T¹, Hirate Y¹, Akimoto Y, Komada M³, Kanai Y⁴, Miyasaka N¹, Kanai-Azuma M¹ (¹Tokyo Medical and Dental University, ²Kagawa University, ³Tokyo Institute of Technology, ⁴University of Tokyo): A possible function of *Nik-related kinase* in the labyrinth layer of delayed delivery mouse placentas. *J Reprod Dev*. 69(1). 32-40. 2023.
 11. Ando T¹, Uzawa K¹, Yoshikawa T¹, Mitsuda S¹, Akimoto Y, Yorozu T¹, Ushiyama A² (¹Department of Anaesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ²National Institute of Public Health): The effect of tetrastarch on the endothelial glycocalyx layer in early hemorrhagic shock using fluorescence intravital microscopy: a mouse model. *J Anesth*. 37 (1). 104-118. 2023.
 12. Nishida R¹, Suzuki D¹, Akimoto Y, Matsubara S², Hayakawa J², Ushiyama A³, Sasa K¹, Miyamoto Y¹, Iijima T¹, Kamijo R¹ (¹Showa University, ²Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine, ³National Institute of Public Health): Exploring the pathophysiological mechanism of interstitial edema focusing on the role of macrophages and their interaction with the glycocalyx. *J Oral Biosci*. 65(1). 111-118. 2023.
- 著 書**
1. Zachara NE, Akimoto Y, Boyce M, Hart GW: Chapter 19. The O-GlcNAc Modification. In: *Essentials of Glycobiology*. 4th edition. Varki A, Cummings RD, Esko JD, Stanley P, Hart GW, Aebi M, Mohnen D, Kinoshita T, Packer NH, Prestegard JH, Schnaar RL, Seeberger PH, editors. Cold Spring Harbor (NY). Cold Spring Harbor Laboratory Press. 2022.
 2. 秋元義弘 (共編) : 新 電顕入門ガイドブック (電顕入門ガイドブック改訂第3版) . 日本顕微鏡学会, 電子顕微鏡技術認定委員会 編集. 国際文献社. 2022.
 3. 秋元義弘 : 1章 総論. 新 電顕入門ガイドブック (電顕入門ガイドブック改訂第3版) . 日本顕微鏡学会, 電子顕微鏡技術認定委員会 編集. 国際文献社. 2022. 1-4.
 4. 秋元義弘, 山田博之, 川崎道夫 (分担執筆) : 2章 細胞の構造と機能. 新 電顕入門ガイドブック (電顕入門ガイドブック改訂第3版) . 日本顕微鏡学会, 電子顕微鏡技術認定委員会 編集. 国際文献社. 2022. 5-25.
 5. 澤口朗, 山下修二, 勝又修, 秋元義弘 (分担執筆) : 4章4節 免疫電顕法. 新 電顕入門ガイドブック (電顕入門ガイドブック改訂第3版) . 日本顕微鏡学会, 電子顕微鏡技術認定委員会 編集. 国際文献社. 2022. 88-99.
 6. 福嶋球琳男, 植松勝之, 宮東昭彦 (分担執筆) : 9章 画像の記録と解析. 新電顕入門ガイドブック. 日本

顕微鏡学会, 電子顕微鏡技術認定委員会編集. 国際文献社, 2022. 145-171.

7. 秋元義弘, 宮東昭彦 (分担執筆): 電子顕微鏡の基礎と応用. 組織細胞化学2022. 日本組織細胞化学会編. 学際企画. 2022. 133-148.
8. 秋元義弘, 池原譲 (分担執筆): 走査型電子顕微鏡. 論文図表を読む作法 実験医学別冊. 牛島俊和, 中山敬一 編集. 羊土社. 2022. 59-60.
9. 秋元義弘, 池原譲 (分担執筆): 透過型電子顕微鏡. 論文図表を読む作法 実験医学別冊. 牛島俊和, 中山敬一 編集. 羊土社. 2022. 61-63.
10. 川上速人 (監修協力): からだが見える. 人体の構造と機能 第1版. 医療情報科学研究所編集. メディックメディア. 2023.

統合生理学教室

講演

1. 渋谷賢, 大曾根裕樹, 大木紫: ラバーハンド錯覚中の触覚時間順序判断: 主観的同時点と時間分解能の異なる変調. 日本認知科学会第39回大会. オンライン. 2022年9月9日.
2. 渡邊裕宣, 渋谷賢, 杉泰佑, 片岡由布子, 加藤一聖, 永島計: ヒトの温冷感の形成に関連する脳領域の解明. 第61回日本生気象学会. 名古屋. 2022年11月12日.
3. 渋谷賢, 大曾根裕樹, 大木紫: 身体所有感の変容が触覚時間順序判断に及ぼす影響. 日本基礎心理学会第41回大会. 千葉. 2022年12月3日.
4. Watanabe H, Shibuya S, Sugi T, Kato I, Kataoka Y, Saito K, Nagashima K: Brain regions related with thermal sensation. 第100回日本生理学会大会. 京都. 2023年3月16日.

論文

1. Shibuya S, Oosone H¹, Ohki Y (1 Chiba Minato Rehabilitation Hospital): Tactile temporal order judgment during rubber hand illusion: distinct modulation of the point of subjective simultaneity and temporal resolution. *Conscious Cog.* 105. 103402. 2022.
2. Ohtsuka H[#], Nakajima T[#], Komiyama T¹, Suzuki S², Irie S, Ariyasu R (1Chiba University, 2Health Sciences University of Hokkaido, #共同筆頭著者): Execution of natural manipulation in the air enhances the beta-rhythm intermuscular coherences of the human arm depending on muscle pairs. *J Neurophysiol.* 127(4). 946-957. 2022.
3. 大木紫: Sir Charles Scott Sherrington, Edgar Douglas Adrian (1932) 神経細胞の機能に関する発見. *Clin Neurosci.* Vol.40 (8). 947-949. 2022年.

病態生理学教室

講演

1. 渥美剛史, 井手正和, 篠宮紗和子: 『感覚過敏』と『ユニークな感性』のはざままで. 発達障害シンポジウム2022. オンライン. 2022年4月2日.

2. Atsumi T, Ide M, Terao Y: Reduced Inhibition of Stimulus Temporal Segregation Associated with Sensory Hyperresponsiveness in ASD. Panel session "Investigating the Excitatory/Inhibitory Imbalance Hypothesis in Autism - a Multidisciplinary Approach." INSAR2022. USA. online. May 14th 2022.
3. 寺尾安生: 非侵襲的超音波脳刺激 (transcranial focused ultrasound, TUS) の機序. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月19日.
4. 徳重真一, 寺田さとみ, 濱田雅, 宇川義一, 千葉厚郎, 辻省次, 寺尾安生: パーキンソン病が時間的展望に及ぼす影響. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月19日.
5. 寺田さとみ, 富樫尚彦, 花島律子, 長谷川一子, 濱田雅, 宇川義一, 寺尾安生: Adaptation of eye movement in hereditary spinocerebellar atrophy. 第63回日本神経学会学術大会. 東京. 2022年5月20日.
6. 渥美剛史, 井手正和, Mrinmoy Chakrabarty, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症者における恐怖関連刺激による視覚時間順序判断低下の神経相関. *Neuro2022.* 那覇. 2022年6月30日.
7. 三嶋竜弥, 小藤剛史, 藤原智徳, 齋藤綾子, 寺尾安生: シンタキシン1Bのハプロ不全による熱性けいれんの発症機序の解明. *Neuro2022.* 那覇. 2022年6月30日.
8. 小藤剛史, 三嶋竜弥, 齋藤綾子, 藤原智徳: グリア細胞におけるシンタキシン1B欠損はGABA放出の異常を引き起こす. *Neuro2022.* 那覇. 2022年7月1日.
9. 中山高宏, 福富俊之, 寺尾安生, 赤川公朗: Syntaxin 1A遺伝子の神経発現を規定する抑制性制御機構の解明. *Neuro2022.* 那覇. 2022年7月2日.
10. 寺尾安生, 浅原有揮, 宮崎泰, 徳重真一, 寺田さとみ, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎, 宇川義一, 須田真千子, 向井泰司, 宮川晋治, 鈴木正彦: パーキンソンニズムにおける表情形成一疾患ごとの違い. 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS. 東京. 2022年7月21日.
11. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: saccadeの加速・減速時間に対する脳深部刺激療法の影響. 第16回パーキンソン病運動障害疾患コンGRESS. 東京. 2022年7月22日.
12. 渥美剛史, 井手正和, ムリンモイ・チャクラパティ, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症者における情動関連刺激に起因した視覚時間処理変調の神経相関. 明治安田こころの健康財団2021年度研究助成成果報告会. 東京. 2022年7月23日.
13. 渥美剛史: 感覚の多様性に関連した病態と神経生理基盤. 日本心理学会第86回大会. 東京・オンライン. 2022年9月8日-9月11日.
14. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症者と比した非診断群の自閉症傾向と感覚の多様性の関連. 日本心理学会第86回大会. 東京・オンライン. 2022年9月11日.
15. 寺田さとみ, 富樫尚彦, 花島律子, 長谷川一子, 濱田雅, 宇川義一, 寺尾安生: 遺伝性脊髄小脳変性症における衝動性眼球運動の順応. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 京都. 2022年11月24日.
16. 徳重真一, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: アルツハイマー病患者における視覚探索中の瞳孔径変化. 第52回日本臨床神経生理学会学術大会. 京都. 2022年11月25日.

17. 寺尾安生：時間認知の脳内機構と連続磁気刺激による時間認知の操作. 第25回ヒト脳機能マッピング学会. 名古屋. 2023年2月25日.
18. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生：自閉スペクトラム症者の時間処理へ背景ノイズが与える効果. 新学術領域「時間生成学 –時を生み出すところの仕組み」第2回領域会議. 広島. 2023年3月5日.
19. 寺尾安生：時間認知の脳内機構と非侵襲的脳刺激による時間認知の操作. 新学術領域「時間生成学 –時を生み出すところの仕組み」第2回領域会議. 広島. 2023年3月6日.

論 文

1. Terao Y, Tokushige S¹, Inomata-Terada S, Fukuda H², Yugeta A³, Ugawa Y⁴. (¹Department of Neurology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan; ²Department of Neurology, Kyorin University Hospital, Tokyo, Japan, ³Segawa Memorial Neurological Clinic for Children, Tokyo, Japan, ⁴Department of Neurology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁵Department of Human Neurophysiology, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan) : Deciphering the saccade velocity profile of progressive supranuclear palsy: A sign of latent cerebellar/brainstem dysfunction? *Clin. Neurophysiol.* 141. 147-159. 2022.
2. Numata A¹, Terao Y, Owari N², Kakizaki C³, Sugawara K⁴, Ugawa Y⁵, Furubayashi T⁶ (¹Physical Therapy Course, Department of Rehabilitation, Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University, Sendai, Japan, ²Department of Rehabilitation, Saito Hospital, Ishinomaki, Japan, ³Department of Rehabilitation, Sendai Pain Clinic Center, Sendai, Japan, ⁴Graduate Course of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services Graduate School, Yokosuka, Japan, ⁵Department of Human Neurophysiology, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁶Graduate School of Health and Environmental Science, Tohoku Bunka Gakuen University, Sendai, Japan) : Temporal synchronization for in-phase and antiphase movements during bilateral finger- and foot-tapping tasks. *Hum Mov Sci.* 84. 102967. 2022.
3. Suga K¹, Yamamoto-Hijikata S¹, Terao Y, Akagawa K, Ushimaru M¹ (¹Department of Chemistry, Kyorin University, Faculty of Medicine, Mitaka, Tokyo 181-8611, Japan) : Golgi stress induces upregulation of the ER-Golgi SNARE Syntaxin-5, altered βAPP processing, and Caspase-3-dependent apoptosis in NG108-15 cells. *Mol Cell Neurosci.* 121. 103754. 2022.
4. 寺尾安生：パーキンソン病・パーキンソン症候群における表情の異常と仮面様顔貌の病態生理. *脳神経内科.* 97(1). 38-42. 2022.
5. Nakayama T, Terao Y, Akagawa K: The role of Sp3 transcription factor in syntaxin 1A gene silencing. *Gene Reports.* 27. 101628. 2022.
6. 渥美剛史, 井手正和¹, ムリンモイ・チャクラバティ², 寺尾安生 (¹国立障害者リハビリテーションセンター研究所, ²Indraprastha Institute of Information Technology Delhi) : 自閉スペクトラム症者における情動関連刺激に起因した視覚時間処理変調の神経

相関. 明治安田こころの健康財団研究助成論文集. 57. 1-10. 2022.

7. Umesawa Y, Matsushima K¹, Fukatsu R², Terao Y, Ide M² (¹Faculty of Rehabilitation, Kansai Medical University, Osaka, Japan, ²Developmental Disorders Section, Department of Rehabilitation for Brain Functions, Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, Saitama, Japan) : Hand-foot coordination is significantly influenced by motion direction in individuals with autism spectrum disorder. *Autism Res.* 16(1). 40-51. 2023.
8. Fisicaro F¹, Liberto A¹, Lanza G², Bella R³, Pennisi G⁴, Ferri R⁴, Terao Y, Ugawa Y⁵, Pennisi M¹ (¹Department of Biomedical and Biotechnological Sciences, University of Catania, Catania, Italy, ²Clinical Neurophysiology Research Unit, Oasi Research Institute-IRCCS, Troina, Italy; ³Department of Surgery and Medical-Surgery Specialties, University of Catania, Catania, Italy, ⁴Department of Medical and Surgical Sciences and Advanced Technologies, University of Catania, Catania, Italy, ⁵Clinical Neurophysiology Research Unit, Oasi Research Institute-IRCCS, Troina, Italy, ⁶Department of Human Neurophysiology, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan) : The supporting (sometimes decisive!) role of transcranial magnetic stimulation in forensic medicine. *Brain Stimul.* 16(1). 111-113. 2023.
9. Honma M, Sasaki F¹, Kamo H¹, Nuermairaiti M¹, Kujirai H¹, Atsumi T, Umemura A², Iwamuro H², Shimo Y³, Oyama G¹, Hattori N¹, Terao Y (¹Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ²Department of Neurosurgery, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³Department of Neurology, Juntendo University Nerima Hospital, Tokyo, Japan) : Role of the subthalamic nucleus in perceiving and estimating the passage of time. *Front Aging Neurosci.* 15. 1090052. 2023.
10. Tokushige S-I^{1,2}, Matsumoto H³, Matsuda S⁴, Inomata-Terada S, Kotsuki N², Hamada M¹, Tsuji S⁵, Ugawa Y⁶, Terao Y (¹Department of Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ²Department of Neurology, Kyorin University, Tokyo, Japan, ³Department of Neurology, Mitsui Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁴Department of Neurology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, ⁵Institute of Medical Genomics, International University of Health and Welfare, Chiba, Japan, ⁶Department of Human Neurophysiology, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan) : Early detection of cognitive decline in Alzheimer's disease using eye tracking. *Front Aging Neurosci.* 15. 1123456. 2023.

著 書

1. 渥美剛史 (分担執筆) : 第5章 ASD者の感覚特性に関連する脳内基盤 ASDの脳機能結合に関連するMRI研究の現在. 科学から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界. 井手正和著. 金子書房. 2022. p117-119.
2. 渥美剛史 (分担執筆) : 第6章 過剰な刺激の時間分解能と感覚過敏 自閉症モデル動物による研究. 科学

から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界. 井手正和著. 金子書房. 2022. p143-149.

3. 寺尾安生(分担執筆): 膜電位とシナプス伝達. Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学. 角田亘, 後藤純信編集. メディカルビュー社. 2023. p7-18.

代謝生化学教室

報告書

1. 後藤田貴也, 岡崎啓明: 分担研究報告書「原発性高カイルミクロン血症」. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「原発性高脂血症に関する調査研究班」. 2022.

その他

1. 岡崎啓明, 後藤田貴也: 原発性高カイルミクロン血症(指定難病262) 難病情報センターHP. オンライン. 2022年7月.

細胞生化学教室

講演

1. 青柳共太, 今泉美佳: 膵B細胞特異的マイトファジーレポーターマウスによって明らかになった糖尿病におけるミトコンドリア品質管理の重要性. 第34回宮崎代謝内分泌研究会. オンライン. 2022年3月2日.
2. 青柳共太, 山下俊一, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵B細胞特異的マイトファジーレポーターマウスによって明らかになった糖尿病におけるミトコンドリア品質管理の重要性. 第65回日本糖尿病学会年次学術集会. 神戸. 2022年5月12-14日.
3. 青柳共太, 山下俊一, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵B細胞特異的マイトファジーレポーターマウスによって明らかになった糖尿病におけるミトコンドリア品質管理の重要性. 第15回 Diabetes Leading-edge conference. 東京. 2022年8月6日.
4. 青柳共太, 山下俊一, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵B細胞特異的マイトファジーレポーターマウスによって明らかになった糖尿病におけるミトコンドリア品質管理の重要性. 第2回オートファジーコンソーシアムシンポジウム. 京都. 2022年9月16日.
5. 青柳共太, 山下俊一, 神吉智丈, 今泉美佳: 膵B細胞特異的マイトファジーレポーターマウスによって明らかになった糖尿病におけるミトコンドリア品質管理の重要性. 第95回日本生化学会大会. 名古屋. 2022年11月9-11日.
6. 宇田川陽秀, 柳田圭介, 舟橋伸昭, 添田光太郎, 南茂隆生, 平本正樹, 西村渉, 進藤英雄, 今泉美佳, 植木浩二郎, 安田和基: 内臓脂肪組織由来培養細胞の中皮細胞関連マーカー発現におけるGata5の機能. 第43回日本肥満学会/第40回日本肥満症治療学会学術集会. 沖縄. 2022年12月2-3日.

論文

1. Aoyagi K¹, Yamashita SI², Akimoto Y³, Nishiwaki C¹, Nakamichi Y¹, Udagawa H¹, Abe M⁴, Sakimura K⁴, Kanki T², Ohara-Imaizumi M¹. (¹Department of Cellular Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan. ²Department of Cellular Physiology, Niigata University Graduate

School of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan. ³Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan. ⁴Department of Animal Model Development, Brain Research Institute, Niigata University, Niigata, Japan.) : A new beta cell-specific mitophagy reporter mouse shows that metabolic stress leads to accumulation of dysfunctional mitochondria despite increased mitophagy. *Diabetologia*. 66(1). 147-162. 2023.

薬理学教室

講演

1. 木村徹, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 齋藤康一郎, 櫻井裕之: アレルギー性鼻炎における神経ペプチド Gastrin-releasing peptide (GRP)と Galanin (GAL)の関与. 第96回薬理学会年会. 横浜. 2022年11月30日.
2. 櫻井裕之, 堅田智久, 末弘淳一: 漢方エキス製剤を使用した薬理学学生実習. 第147回日本薬理学会関東部会. 東京. 2023年3月21日.

論文

1. Sasaki Y¹, Higashijima Y¹, Suehiro JI, Sugasawa T², Oguri-Nakamura E³, Fukuhara S³, Nagai N⁴, Hirakawa Y¹, Wada Y¹, Nangaku M¹, Kanki Y² (¹The University of Tokyo, ²University of Tsukuba, ³Nippon Medical School, ⁴Keio University): Lysine demethylase 2B regulates angiogenesis via Jumonji C dependent suppression of angiogenic transcription factors. *Biochem Biophys Res Commun*. 605. 16-23. 2022.
2. Seki S¹, Tanaka G, Kimura T, Hayashida M¹, Miyoshi J¹, Matsuura M¹, Sakurai H, Hisamatsu T¹ (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University School of Medicine): Functional analysis of mutant SLCO2A1 transporters found in patients with chronic enteropathy associated with SLCO2A1. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*. 37(9). 1776-1784. 2022.
3. Takahashi S¹, Fukuhara D¹, Kimura T, Fukutomi T, Tanaka E¹, Mikami N¹, Hada I¹, Takematsu H², Nishibori Y¹, Akimoto Y³, Kiyonari H⁴, Abe T⁴, Huber O⁵, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Fujita Health University, ³Department of Microscopic Anatomy, ⁴RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, ⁵Friedrich Schiller University Jena): USP40 deubiquitinates HINT1 and stabilizes p53 in podocyte damage. *Biochem Biophys Res Commun*. 614. 198-206. 2022.
4. Hada I¹, Shimizu A², Takematsu H³, Nishibori Y¹, Kimura T, Fukutomi T, Kudo A⁴, Ito-Nitta N¹, Kiuchi Z¹, Patrakka J⁵, Mikami N¹, Leclerc S⁶, Akimoto Y⁴, Hirayama Y⁷, Mori S⁷, Takano T⁶, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Nippon Medical School, ³Fujita Health University, ⁴Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁵Karolinska Institute at Karolinska University Hospital, ⁶Research Institute of the McGill University Health Centre, ⁷Denka Co. Ltd):

A Novel Mouse Model of Idiopathic Nephrotic Syndrome Induced by Immunization with the Podocyte Protein Crb2. *J Am Soc Nephrol.* 33(11). 2008-2025. 2022.

5. Takada M¹, Fukuhara D¹, Takiura T¹, Nishibori Y¹, Kotani M¹, Kiuchi Z¹, Kudo A², Beltcheva O³, Ito-Nitta N¹, Nitta KR⁴, Kimura T, Suehiro JI, Katada T, Takematsu H⁵, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³Medical University of Sofia, ⁴Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁵Fujita Health University): Involvement of GLCCI1 in mouse spermatogenesis. *FASEB J.* 37(1). e22680. 2023.

病理学教室

講演

1. 里見介史, 高見浩数, 福島慎太郎, 山下聡, 松下裕子, 中里洋一, 鈴木智成, 田中將太, 武笠晃丈, 齊藤延人, 金森政之, 隈部俊宏, 富永悌二, 小林啓一, 永根基雄, 井内俊彦, 吉本幸司, 田村郁, 前原健寿, 酒井圭一, 杉山一彦, 横上聖貴, 竹島秀雄, 埜中正博, 浅井昭雄, 牛島俊和, 松谷雅生, 西川亮, 市村幸一: 12p gainは中枢神経系胚細胞腫瘍の予後不良群を同定する. 第111回日本病理学会総会. 神戸. 2022年4月15日.
2. 柴原純二: 新しい脳腫瘍WHO分類による統合診断の現状と課題-浸潤性膠腫の新規分類. 第111回日本病理学会総会. 神戸. 2022年4月15日.
3. 林玲匡, Christine A. Iacobuzio Donahue: 膵管癌におけるDNAメチル化の腫瘍内不均一性と遍在性. 第111回日本病理学会総会. 神戸. 2022年4月15日.
4. 原萌乃佳, 林玲匡, 長濱清隆, 佐藤千紗, 舛田一樹, 田口慧, 福原浩, 柴原純二: 膀胱の針状結晶沈着物についてSEM-EDX解析を行った一例. 第111回日本病理学会総会. 神戸. 2022年4月16日.
5. 里見介史, 藤本健二, 有田英之, 山崎夏維, 松下裕子, 中村大志, 宮北康二, 梅原徹, 小林啓一, 田村郁, 田中將太, 樋口芙未, 沖田典子, 金村米博, 深井順也, 阪本大輔, 宇田武弘, 前原健寿, 永根基雄, 西川亮, 鈴木博義, 澁谷誠, 小森隆司, 成田善孝, 市村幸一: IDH野生型びまん性星細胞腫瘍は存在するか?. 第111回日本病理学会総会. 神戸. 2022年4月16日.
6. 澁田秀則, 権藤興一, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 鶴久大介, 野坂岳志, 落合一成, 仁科善雄, 石本麻衣, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 北濱圭一郎, 下山田博明, 柴原純二, 阪本良弘, 久松理一: 診断基準を満たさないものの臨床経過からインスリノーマが考えられた膵NETの1例. 第369回日本消化器病学会関東支部例会一般演題(専修医セッション). オンライン. 2022年5月14日.
7. 里見介史: 胎児性腫瘍. 第40回脳腫瘍病理学会教育セミナー. 川越. 2022年5月27日.
8. 大谷理浩, 藤井謙太郎, 石田穰治, 坪井伸成, 鷺尾佳奈, 柳井広之, 里見介史, 市村幸一, 伊達勲: AYA世代の脳腫瘍病理. 小児, AYA世代の脳腫瘍に対する網羅的メチル化解析を用いた診断の有用性と限界. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.
9. 田村有希恵, 北原麻衣, 柳澤俊介, 高橋雅道, 大野誠, 宮北康二, 里見介史, 吉田朗彦, 市村幸一, 成田善孝: CDKN2A/B homozygous deletionのない

Astrocytoma, IDH-mutantの臨床経過. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.

10. 駿河和城, 里見介史, 大谷理浩, 石田穰治, 藤井謙太郎, 安原隆雄, 鷺尾佳奈, 柳井広之, 市村幸一, 伊達勲: 当院における毛様細胞性星細胞腫の予後因子に関する検討. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.
11. 山田勢至, 柴田広海, 北原麻衣, 中野嘉子, 里見介史, 坂田知宏, 谷川元紀, 廣瀬隆則, 市村幸一, 間瀬光人: DNAメチル化アレイが有用であった, 視床下部Diffuse Leptomeningeal Glioneuronal Tumorの1例. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.
12. 本間琢, 中村理花, 増井憲太, 里見介史, 松尾健, 市村幸一, 小森隆司: DGONC類似の臨床・病理組織学的特徴を示した若年成人側頭葉腫瘍の一例. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月27日.
13. 鬼塚裕美, 増井憲太, 里見介史, 松下裕子, 吉田朗彦, 市村幸一, 吉本幸司, 小森隆司: PXA様の形態を呈するIDH/H3野生型high-grade gliomaの一例. 第40回日本脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月28日.
14. 里見介史: 臨床病理検討会5・6. 第40回脳腫瘍病理学会. 川越. 2022年5月28日.
15. 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 田邊一成, 野口由香, 川上真理子, 坂口碧, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二: リンパ節細胞診の報告様式を考える, ver.2:-新しい国際報告様式: Sydney Systemを検討する-リンパ節穿刺吸引細胞診の現状と免疫染色併用の有用性について. 第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 東京. 2022年6月10日.
16. 坂本憲彦, 岸本浩次, 田邊一成, 鈴木瞳, 坂口碧, 橘啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 藤原正親, 柴原純二: ROSEの検体処理と感染対策 EBUSの検体処理および基本的感染対策 LBC, セルブロック, ゲノムへの応用. 第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 東京. 2022年6月10日.
17. 荻本直堯, 尾崎良, 藤麻武志, 森久保拓, 宮本尚彦, 徳永創太郎, 羽田裕, 楠原光謹, 磯谷一暢, 神保陽子, 大野亜希子, 齋藤大祐, 橋本佳和, 長濱清隆, 竹内弘久, 藤原正親, 阿部展次, 久松理一: 消化管出血を契機に診断された胃異所性腺の1例. 第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2022年6月11日.
18. 縣博也, 北村亜也, 浅野史男, 石川美佳, 佐藤泰紀, 小林千絵, 百村麻衣, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 下山田博明, 藤原正親: 人工肛門を造設した直腸子宮窩腹膜妊娠の1例. 第143回関東連合産科婦人科学会. 東京. 2022年6月19日.
19. 里見介史: IDH変異型グリオーマの統合診断の実際. 第63回日本神経病理学会総会学術研究会. 京都. 2022年6月25日.
20. 遠坂瞳, 満尾晶子, 長田侑, 船積雅登, 宮崎安洋, 磯村杏耶, 山田和昭, 平野和彦: COVID-19ワクチン接種後に内臓播種性水痘・帯状疱疹ウイルス感染症および血球貪食症候群を発症した1例. 日本内科学会第679回関東地方会. 東京. 2022年7月10日.
21. 鶴田貴大, 平田佳史, 橘啓盛, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦, 安樂真樹, 高田佐織, 皿谷健, 藤原正親: 肺切除後にPembrolizumabによる免疫関連有害事象(irAE)を経験した1例. 第193回日本肺癌学会関東支部学術集会. 東京. 2022年7月16日.
22. 新井孝明, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 林玲匡, 柴原純二, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 膵退形成癌の5例の切除成績 4例の生存者を含めて. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜. 2022年7月20日.

23. 有坂早香, 谷口浩一, 上向伸幸, 齋藤健人, 簾田康一郎, 日比谷孝志, 池秀之: S状結腸癌との鑑別が困難であった腸管子宮内膜症から発生した類内膜腺癌の一例. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜. 2022年7月21日.
24. 高橋達也, 中島裕美, 齊藤正興, 野田晃成, 麻生純平, 小林史, 石田学, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之: 肺胞洗浄液にて異型細胞が検出された炎症性肺炎の2例. 第182回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第251回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2022年9月10日.
25. 菅野直大, 春日啓介, 齊藤正興, 森田喜久子, 野田晃成, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 本多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 須田一晴, 皿谷健, 藤原正親, 高山信之, 石井晴之: 肺原発の節外性NK/T細胞リンパ腫・鼻型の一例. 第182回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第251回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2022年9月10日.
26. 馬上伊織, 齊藤正興, 須田一晴, 北濱圭一郎, 日比谷孝志, 藤原正親, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: 無症候性の多発する肺すりガラス状結節影を認め, 胸腔鏡下肺生検でCastleman病が疑われた一例. 第182回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第251回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2022年9月10日.
27. 渡邊美佳, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 新井信見, 平田佳史, 中里陽子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 平野浩一, 安樂真樹, 近藤晴彦, 藤原正親: 肺胞上皮置換型肺腺癌と鑑別を要したキャスルマン病の1例. 第865回外科集談会. オンライン. 2022年9月17日.
28. 坪川康仁, 若松喬, 大前皓一, 里見介史, 吉敷智和, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 腹腔鏡下に切除した直腸間膜原発神経内分泌腫瘍の1例. 第865回外科集談会. オンライン. 2022年9月17日.
29. 吉野優一, 竹内真介, 新名良広, 南島俊徳, 合田あゆみ, 岸本暢将, 藤原正親, 副島京子, 河野隆志: 眼筋, 呼吸筋の筋炎を合併した急性心筋炎の1例. 第70回日本心臓病学会学術集会. 京都. 2022年9月23日.
30. 江藤晃一郎, 三浦みき, 藤麻武志, 荻原良太, 森久保拓, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 磯村杏耶, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 林玲匡, 松浦稔, 柴原純二, 久松理一: 肝門部胆管癌に対するPembrolizumab投与中に腸炎症状の増悪をみとめた潰瘍性大腸炎の1例. 日本消化器病学会 関東支部第371回例会. オンライン. 2022年9月24日.
31. 近藤弘太郎, 鶴見賢直, 小島洋平, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次, 長濱清隆, 藤原正親: 胃癌卵巣転移に対して同時切除を施行した1例. 第371回日本消化器胃腸病学会関東支部例会. オンライン. 2022年9月24日.
32. 里見介史: 髄膜腫, 末梢神経系腫瘍, およびリンパ腫の病理診断における細胞診の実践. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台. 2022年10月3日.
33. 林雅人, 岡野尚弘, 鈴木裕, 廣田玲, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 水谷友紀, 松木亮太, 小暮正晴, 杉山政則, 柴原純二, 阪本良弘, 長島文夫: 遠位胆管癌術後肝転移に対して化学療法後に肝切除を行い長期生存が得られた1例. 第58回日本胆道学会学術集会. 横浜. 2022年10月13日.
34. 猪股浩平, 横井秀格, 内藤翔司, 松本祐磨, 田中栗, 藤原正親, 柴原純二, 高山信之, 齋藤康一郎: 当院で診断・加療を行った鼻副鼻腔悪性リンパ腫64症例の臨床的検討. 第61回日本鼻科学会総会・学術講演会. 金沢. 2022年10月13日.
35. 横井秀格, 猪股浩平, 内藤翔司, 田中栗, 藤原正親, 齋藤康一郎: IgG4関連疾患(IgG4RD)とオーバーラップを示唆した好酸球性鼻副鼻腔炎のデュピルマブ奏功の1例. 第61回日本鼻科学会総会・学術講演会. 金沢. 2022年10月13日.
36. 朽名貴史, 金翔哲, 吉敷智和, 磯部聡史, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 原発性腸間膜腺癌の1例. JDDW2022. 福岡. 2022年10月28日.
37. 浅野史男, 百村麻衣, 坂口碧, 岸本浩次, 長濱清隆, 下山田博明, 松本浩範, 森定徹, 柴原純二, 小林陽一: 子宮内膜原発巨細胞癌の2例. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 宮城. 2022年11月5日.
38. 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 鈴木瞳, 田邊一成, 野口由香, 川上真理子, 坂口碧, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二: リンパ節の細胞診:各領域における最近の進歩 リンパ節細胞診シドニースシステムの概要と運用. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台. 2022年11月5日.
39. 小野大輝, 七条裕孝, 炭谷由計, 舛田一樹, 日比谷孝志, 管間博, 安田和基: 高度な低カリウム血症を来した原発性アルドステロン症の一例. 第32回臨床内分泌代謝Update. 東京. 2022年11月11日.
40. 大塚弘毅, 山崎聡子, 菅田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 安戸裕貴, 岸野智則, 吉田正雄, 菊田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: Rad50変異を有する毛細血管拡張性運動失調症(A-T)モデルメダカの作製腫瘍原性の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮. 2022年11月17日.
41. 山崎聡子, 大塚弘毅, 菅田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 安戸裕貴, 岸野智則, 吉田正雄, 菊田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: Rad 50変異を有する毛細血管拡張性運動失調症(A-T)モデルメダカの作製(1):運動失調と毛細血管拡張の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮. 2022年11月17日.
42. 里見介史: 中枢神経系腫瘍のゲノム・エピゲノム研究と病理診断への応用. 第68回日本病理学会秋期特別総会. 盛岡. 2022年11月18日.
43. 井上陽平, 大谷理浩, 藤井謙太郎, 石田穰治, 家護谷泰仁, 水田亮, 井本良二, 駿河和城, 劔持直也, 平野秀一郎, 牧野圭悟, 坪井伸成, 鷲尾佳奈, 柳井広之, 里見介史, 市村幸一, 伊達勲: 小児脳腫瘍におけるゲノムワイドメチル化解析を用いた診断の有用性と限界. 第40回脳腫瘍学会. 鴨川. 2022年12月4日.
44. 駿河和城, 富田祐介, 里見介史, 大谷理浩, 田中仁啓, ElizabethAHibler, 家護谷泰仁, 水田亮, 井本良二, 劔持直也, 平野秀一郎, 牧野圭悟, 坪井伸成, 石田穰治, 藤井謙太郎, 安原隆雄, 鷲尾佳奈, 柳井広之, 市村幸一, 伊達勲: 大規模データ及びゲノムワイドメチル化解析による毛様細胞性星細胞腫予後因子の検討. 第40回脳腫瘍学会. 鴨川. 2022年12月4日.
45. 稲田絢子, 権藤興一, 澁田秀則, 荻本直亮, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 吉池信哉, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 土岐真朗, 鈴木裕, 下山田博明, 柴原純二, 阪本良弘, 久松理一: EUS-guided tissue acquisitionにて診断し得た胆嚢癌肝転移の1例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. オンライン. 2022年12月10日.
46. 友近瞬, 川村直弘, 加藤敦士, 朽名貴史, 関里和, 小暮正晴, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阪本良弘, 森秀明,

- 久松理一：PETCTが診断に有用であった肝内胆管内浸潤により再発した肝細胞癌の1例。第372回日本消化器病学会関東支部例会。東京。2022年12月10日。
47. 斎藤勇利, 楠原光謹, 藤川やすえ, 堀越友樹, 鍛冶諒介, 宮本尚彦, 羽田裕, 大野亜希子, 久松理一, 二階雪野, 磯村杏耶, 柴原純二: 胃ポリポースに合併した胃腫瘍に対しESDを施行した一例。第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会。東京。2022年12月11日。
48. 金子順, 宮川仁平, 西島郁乃, 佐藤千紗, 宮川昌悟, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 加藤憲一郎, 柴山隆宏, 里見介史, 北濱圭一郎, 藤原正親: 腎細胞癌に対する腎摘除後, 遺残尿管に発生した尿路上皮癌の1例。第639回日本泌尿器科学会東京地方会。東京。2022年12月22日。
49. 友近瞬, 落合一成, 澁田秀則, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 野坂岳志, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 久松理一, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 磯谷一暢, 林玲匡, 柴原純二: 腺粘性嚢胞腫瘍との鑑別が困難であった膵内副脾に発生したepidermoid cystの1例。日本消化器病学会関東支部第373回例会。東京。2023年2月25日。
50. 菅野直大, 春日啓介, 齊藤正興, 森田喜久子, 野田晃成, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 本多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之: Bordetella bronchisepticaによる肺炎をきたした一例。第183回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第253回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。東京。2023年2月25日。
51. 中元康雄, 皿谷健, 村上若香菜, 高木涼, 中島裕美, 家城恵梨子, 森田喜久子, 野田晃成, 小林史, 布川寛樹, 麻生純平, 平田彩, 石田学, 本多紘二郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 佐藤千紗, 中村雄, 藤原正親, 石井晴之: 左精巣転移に伴う陰嚢痛を契機に発覚した肺腺癌の1例。第183回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第253回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。東京。2023年2月25日。
52. 鶴田貴大, 須田一晴, 伊佐間樹生, 片平勇介, 新井信晃, 平田佳史, 橘啓盛, 田中良太, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 藤原正親, 近藤晴彦, 安樂真樹: 左血胸で発症した縦隔原発混合性胚細胞腫瘍の一切除例。第191回日本胸部外科学会関東甲信越地方会。横浜。2023年2月25日。
53. 柴原純二: 脳腫瘍の診断: WHO分類第5版の問題点と我が国での診断のあり方について。第97回日本病理学会関東支部学術集会。東京。2023年3月4日。
4. Todo T, Ino Y, Ohtsu H, Shibahara J, Tanaka M: A phase I/II study of triple-mutated oncolytic herpes virus G47Δ in patients with progressive glioblastoma. *Nat Commun.* 13(1). 4119. 2022.
5. Tanaka R, Fujiwara M, Nakazato Y, Arai N, Tachibana K, Sakamoto N, Kishimoto K, Kamma H, Shibahara J, Kondo H: Optimal Preservations of Cytological Materials Using Liquid-Based Cytology Fixatives for Next-Generation Sequencing Analysis. *Acta Cytol.* 66(5). 457-465. 2022.
6. Tanaka R, Fujiwara M, Sakamoto N, Suzuki H, Tachibana K, Ohtsuka K, Kishimoto K, Kamma H, Shibahara J, Kondo H: Cytomorphometric and flow cytometric analyses using liquid-based cytology materials in subtypes of lung adenocarcinoma. *Diagn Cytopathol.* 50(8). 394-403. 2022.
7. Nagane M, Ichimura K, Onuki R, Narushima D, Honda-Kitahara M, Satomi K, Tomiyama A, Arai Y, Shibata T, Narita Y, Uzuka T, Nakamura H, Nakada M, Arakawa Y, Ohnishi T, Mukasa A, Tanaka S, Wakabayashi T, Aoki T, Aoki S, Shibui S, Matsutani M, Ishizawa K, Yokoo H, Suzuki H, Morita S, Kato M, Nishikawa R: Bevacizumab beyond Progression for Newly Diagnosed Glioblastoma (BIOMARK): Phase II Safety, Efficacy and Biomarker Study. *Cancers (Basel).* 14(22). 5522. 2022.
8. Ohno M, Kitano S, Satomi K, Yoshida A, Miyakita Y, Takahashi M, Yanagisawa S, Tamura Y, Ichimura K, Narita Y: Assessment of radiographic and prognostic characteristics of programmed death-ligand 1 expression in high-grade gliomas. *J Neurooncol.* 160(2). 463-472. 2022.
9. Suruga Y, Satomi K, Otani Y, Fujii K, Ishida J, Umeda A, Tsuboi N, Makino K, Hirano S, Kemmotsu N, Imoto R, Mizuta R, Tomita Y, Yasuhara T, Washio K, Yanai H, Matsushita Y, Hibiya Y, Yoshida A, Capper D, Ichimura K, Date I: The utility of DNA methylation analysis in elderly patients with pilocytic astrocytoma morphology. *J Neurooncol.* 160(1). 179-189. 2022.
10. Yamada S, Tanikawa M, Shibata H, Honda-Kitahara M, Nakano Y, Satomi K, Sakata T, Hirose T, Ichimura K, Mase M: DNA methylation array analysis for diffuse leptomeningeal glioneuronal tumor with conspicuous hypothalamic mass. A case report. *Neuropathology.* 42(6). 512-518. 2022.
11. Tomita Y, Hibler EA, Suruga Y, Ishida J, Fujii K, Satomi K, Ichimura K, Hirotsune N, Date I, Tanaka Y, Otani Y: Age is a major determinant for poor prognosis in patients with pilocytic astrocytoma: a SEER population study. *Clin Exp Med.* 2022. 10.1007/s10238-022-00882-5. Online ahead of print.
12. Satomi K, Yoshida A, Matsushita Y, Sugino H, Fujimoto K, Honda-Kitahara M, Takahashi M, Ohno M, Miyakita Y, Narita Y, Yatabe Y, Shibahara J, Ichimura K: Clinical application of a highly sensitive digital PCR assay to detect a small fraction of IDH1 R132H-mutant alleles in diffuse gliomas. *Brain Tumor Pathol.* 39(4). 210-217. 2022.
13. Satomi K, Ohno M, Kubo T, Honda-Kitahara M,

論 文

1. Izumi K, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Hatano M, Kohno T, Sakata K, Shibahara J, Soejima K, Satoh T: Reversible cardiac hypertrophy in pulmonary arterial hypertension treated with high-dose epoprostenol. *CJC Open.* 4(9). 816-819. 2022.
2. Watanabe S, Toki M, Kambayashi K, Kitada S, Nosaka T, Ochiai K, Gondo K, Shibahara J, Hisamatsu T: Successful treatment of mediastinal pancreatic pseudocyst and pancreatic pleural effusion with endoscopic pancreatic duct drainage: A case report. *DEN Open.* 3(1). e133. 2022.
3. Todo T, Ito H, Ino Y, Ohtsu H, Ota Y, Shibahara J, Tanaka M: Intratumoral oncolytic herpes virus G47Δ for residual or recurrent glioblastoma: a phase 2 trial. *Nat Med.* 28(8). 1630-1639. 2022.

- Matsushita Y, Ichimura K, Narita Y, Ichikawa H, Yoshida A: Central nervous system sarcoma with ATXN1::DUX4 fusion expands the concept of CIC-rearranged sarcoma. *Genes Chromosomes Cancer*. 61(11). 683-688. 2022.
14. Omura T, Takahashi M, Ohno M, Miyakita Y, Yanagisawa S, Tamura Y, Kikuchi M, Kawauchi D, Nakano T, Hosoya T, Igaki H, Satomi K, Yoshida A, Sunami K, Hirata M, Shimoi T, Sudo K, Okuma HS, Yonemori K, Suzuki H, Ichimura K, Narita Y: Clinical Application of Comprehensive Genomic Profiling Tests for Diffuse Gliomas. *Cancers (Basel)*. 14(10). 2454. 2022.
 15. Ohno M, Miyakita Y, Takahashi M, Yanagisawa S, Tamura Y, Kawauchi D, Kikuchi M, Igaki H, Yoshida A, Satomi K, Matsushita Y, Ichimura K, Narita Y: Assessment of therapeutic outcome and role of reirradiation in patients with radiation-induced glioma. *Radiat Oncol*. 17(1). 85. 2022.
 16. Kojima N, Arai Y, Satomi K, Kubo T, Matsushita Y, Mori T, Matsushita H, Ushijima T, Yatabe Y, Shibata T, Yonemori K, Ichimura K, Ichikawa H, Kawai A, Yoshida A: Co-expression of ERG and CD31 in a subset of CIC-rearranged sarcoma: a potential diagnostic pitfall. *Mod Pathol*. 35(10). 1439-1448. 2022.
 17. Sasame J, Ikegaya N, Kawazu M, Natsumeda M, Hayashi T, Isoda M, Satomi K, Tomiyama A, Oshima A, Honma H, Miyake Y, Takabayashi K, Nakamura T, Ueno T, Matsushita Y, Iwashita H, Kanemaru Y, Murata H, Ryo A, Terashima K, Yamanaka S, Fujii Y, Mano H, Komori T, Ichimura K, Cahill DP, Wakimoto H, Yamamoto T, Tateishi K: HSP90 Inhibition Overcomes Resistance to Molecular Targeted Therapy in BRAFV600E-mutant High-grade Glioma. *Clin Cancer Res*. 28(11). 2425-2439. 2022.
 18. Takami H, Elzawahry A, Mamatjan Y, Fukushima S, Fukuoka K, Suzuki T, Yanagisawa T, Matsushita Y, Nakamura T, Satomi K, Tanaka S, Mukasa A, Saito N, Kanamori M, Kumabe T, Tominaga T, Kobayashi K, Nagane M, Iuchi T, Tamura K, Maehara T, Sugiyama K, Yoshimoto K, Sakai K, Nonaka M, Asai A, Yokogami K, Takeshima H, Narita Y, Shibui S, Nakazato Y, Hama N, Totoki Y, Kato M, Shibata T, Nishikawa R, Matsutani M, Ichimura K: Transcriptome and methylome analysis of CNS germ cell tumor finds its cell-of-origin in embryogenesis and reveals shared similarities with testicular counterparts. *Neuro Oncol*. 24(8). 1246-1258. 2022.
 19. Kitahama K, Yoshiike S, Nagahama K, Ninomiya N, Okegawa T, Fukuhara H, Nabeshima K, Oka T, Shibahara J: Well-differentiated papillary mesothelial tumor presenting as an encysted hydrocele of the spermatic cord. *Pathol Int*. 72(6). 352-354. 2022.
 20. 早川怜那, 木下美咲, 波田野冴佳, 下山田博明, 大山学: Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysisに多発稗粒腫を伴った1例. *臨床皮膚科*. 76(13). 1071-1075. 2022.
 21. 小林英資, 下田由莉江, 牛込悠紀子, 山崎好美, 佐藤洋平, 下山田博明, 大山学: 臨床像が皮膚線維腫を想起させたproliferating trichilemmal cystの1例. *臨床皮膚科*. 76(13). 1053-1057. 2022.
 22. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 大森嘉彦, 藤原正親, 菅間博: WDT-UMP相当の結節を伴った縦隔内甲状腺腫の一例. *日本内分泌外科学会雑誌*. 39(2). 138-144. 2022.
 23. 里見介史, 平戸純子: 【中枢神経系腫瘍の病理I】病理診断コア 胎児性脳腫瘍. *病理と臨床*. 41(1). 54-63. 2022.
 24. 里見介史, 市村幸一: 【がんゲノム医療時代の分子腫瘍学】(第3部)がんの分子病理学(各論) 臓器がん 脳腫瘍. *病理と臨床*. 40臨時増刊号. 168-177. 2022.
 25. Zhang H, Karnoub ER, Umeda S, Chaligné R, Masionis I, McIntyre CA, Sashittal P, Hayashi A, Zucker A, Mullen K, Hong J, Makohon-Moore A, Iacobuzio-Donahue CA: Application of high-throughput single-nucleus DNA sequencing in pancreatic cancer. *Nat Commun*. 14(1). 749. 2023.
 26. Takami H, Mukasa A, Takayanagi S, Koike T, Matsuura R, Ikemura M, Ushiku T, Yoshikawa G, Shibahara J, Tanaka S, Saito N: Morphologically, genetically and spatially mixed astrocytoma and oligodendroglioma; chronological acquisition of 1p/19q codeletion and CDKN2A deletion: a case report. *Brain Tumor Pathol*. 40(1). 26-34. 2023.
 27. Aso N, Ohtsuka K, Shibahara J, Koda H, Morikawa T, Abe N, Watanabe T, Ohnishi H: Microsatellite instability in the high-grade dysplasia component of duodenal adenoma is associated with progression to adenocarcinoma. *Surg Today*. 53(2). 252-260. 2023.
 28. Okano N, Matsuki R, Toki M, Gondo K, Ochiai K, Watanabe S, Tateishi H, Kogure M, Suzuki Y, Sugiyama M, Nagashima F, Shibahara J, Sakamoto Y, Furuse J: A prospective study of neoadjuvant Gemcitabine plus Nab-paclitaxel in patients with borderline-resectable pancreatic cancer. *Intern Med*. 62(3). 327-334. 2023.
 29. Okazawa Y, Sugimoto K, Ii Y, Irie T, Kawaguchi M, Kobari A, Momose H, Tsuchiya Y, Amemiya K, Motegi S, Tsukamoto R, Kure K, Honjo K, Ro H, Takahashi R, Kawano S, Kawai M, Ishiyama S, Takahashi M, Kojima Y, Tomiki Y, Arakawa A, Yao T, Satomi K, Matsushita Y, Ichimura K, Sakamoto K: Local recurrence of submucosal invasive colorectal cancer after endoscopic submucosal dissection revealed by copy number variation. *DEN Open*. 3(1). e208. 2023.
 30. Sumida S, Toki SI, Mori T, Satomi K, Takao S, Nobusawa S, Kakimoto T, Nakagawa S, Ryo E, Matsushita Y, Ichimura K, Nishisho T, Bando Y, Yoshida A: ZFTA::RELA fusion in a distinct liposarcoma morphologically overlapping with chondroid lipoma. *Genes Chromosomes Cancer*. 62(2). 101-106. 2023.
 31. 菅間博, 下山田博明, 藤原正親: 甲状腺癌と遺伝子異常. *医学と薬学*. 80(3). 269-274. 2023.
- 著書**
1. 柴原純二(分担執筆): 第22章 脳・神経. 標準病理学 第7版. 仁木利郎, 小田義直 編集. 医学書院. 2023. 663-690.

講演

1. 花輪智子, 米谷正太, 大西宏明, 松田剛明: 血流感染由来ESBL産生大腸菌の性質. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会. オンライン. 2022年4月22-23日.
2. 新倉保, 福富俊之, 三戸部治郎, 小林富美恵: 赤内期マラリア原虫におけるNAB2およびGBP2の細胞内局在とその役割. 第91回日本寄生虫学会. 帯広. 2022年5月28日.
3. 北条史, 米澤英雄, 三室仁美, 神谷茂, 大崎敬子: MPSマウスを用いた*Helicobacter pylori*感染モデルにおける胃内細菌叢の変化について. 第28回日本ヘリコバクター学会学術集会. 西宮市. 2022年6月24-26日.
4. 須藤直樹, 関根靖彦, 岡田信彦: 小分子RNA MicAによる外膜ポリンPhoEの発現抑制とその生物学的意義. 第18回21世紀大腸菌研究会. 富山. 2022年6月27-28日.
5. 新倉保: 寄生虫感染症の臨床ならびにその検査法. 第15回寄生虫検査法技術講習会. オンライン. 2022年7月24日.
6. 新倉保, 小林富美恵: マラリア原虫のNAB2を介したmRNA輸送機構の解明. 第81回日本寄生虫学会東日本支部大会・日本共生生物学学会第6回大会合同大会. 東京. 2022年10月1日.
7. 須田智也, 花輪智子, 八代龍, 田中真由子, 平吹一訓, 畑典孝, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: ESBL (Extended-spectrum β -lactamase)産生大腸菌感染症に対するファージ療法の可能性. 第50回日本救急医学会総会・学術集会. 東京. 2022年10月19-21日.
8. 三戸部治郎, 米澤英雄: 桿菌の形態形成に関わるRodZの多量体形成能と超解像度顕微鏡による局在の観察. 第54回ピブリオンシボジウム. 沖縄. 2022年10月21日-22日.
9. 金子拓矢, 須田智也, 花輪智子, 松田剛明: 薬剤耐性菌に対するファージ両方を目的として収集したファージの溶菌活性の調査. 第51回杏林医学会総会. オンライン. 2022年11月19-30日.
10. 須田智也, 花輪智子, 八代龍, 田中真由子, Le Nhat Minh, 丹治保典, 松田剛明: 尿路感染症起因ESBL産生大腸菌の遺伝学的解析とファージ感受性試験. 第2回日本ファージセラピー研究会 研究集会. オンライン. 2022年11月27日.
11. 浅野妃南, 三島由祐子, 大崎敬子, 石井さなえ: 新生仔の鼻腔炎症が腸内細菌叢に及ぼす影響. 第52回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会. 伊勢原. 2023年1月21-22日.
12. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 岡健太郎, 高橋志達, 花輪智子, 三戸部治郎, 神谷茂: 自己免疫性胃炎患者の胃内細菌叢の解析. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
13. 山口博之, 大崎敬子, 大久保寅彦: 主成分解析と一般化線形モデルによる札幌地下歩行空間に浮かぶ集落形成菌数に影響を及ぼす環境因子の可視化. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
14. 三戸部治郎, 須藤直樹, 米澤英雄, 大崎敬子: バクテリアの形態形成に必須なRodZによる転写後調節(4). 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
15. 須藤直樹, 栗田啓嗣, 三戸部治郎, 岡田信彦: 腸管出血性大腸菌の病原性調節遺伝子lerの発現制御に関与する小分子RNAの探索. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
16. 後藤雅貴, 桑江朝臣, 花輪智子, 鈴木仁人, 阿部章夫: ボルデテラが産生するBer4はIII型分泌装置のロ

ッドタンパク質のシャペロンである. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.

17. 田中真由子, 須田智也, 丹治保典, 松田剛明, 花輪智子: 黄色ブドウ球菌ファージphiMR003投与によるMRSA創部感染病態への影響. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
18. 北条史, 米澤英雄, 岡健太郎, 高橋志達, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂, 三戸部治郎, 大崎敬子: MPSマウスを用いた*Helicobacter pylori*感染モデルにおける消化管内細菌叢の変化について. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
19. 米澤英雄, 国分栄仁, 菊池有一郎, 三戸部治郎, 石原和幸: *Streptococcus mutans*ロイテリサイクリン産生の発現メカニズムの解析. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
20. 新倉保, 小林富美恵: マウスモデルを用いたマラリア流行地の授乳期マラリアの病態解明に向けて. 第92回日本寄生虫学会. 金沢. 2023年3月30-31日.
21. 陳雪, 新倉保, 坂本寛和, 佐倉孝哉, 稲岡ダニエル健, 彦坂健児: 細胞質局在型ジヒドロオロト酸脱水素酵素遺伝子を導入したげっ歯類マラリア原虫のアトパコン耐性変異獲得様式の解析. 第92回日本寄生虫学会. 金沢. 2023年3月30-31日.

論文

1. 石井さなえ¹, 三島祐子¹, 浅野妃南², 大崎敬子 (杏林大学保健学部, ²杏林大学大学院): 新生仔の鼻腔炎症に起因する腸内細菌叢の変動と脳組織損傷. 無菌生物. 52(2). 30-31. 2022.
2. 大崎敬子, 横田憲治¹, 林俊治², 横田伸一³, 竹内啓晃⁴, 柴山恵吾⁵, 村上和成⁶, 加藤元嗣⁷, 杉山敏郎⁸ (¹岡山大学大学院, ²北里大学, ³札幌医科大学, ⁴国際医療福祉大学大学院, ⁵名古屋大学大学院, ⁶大分大学医学部附属病院, ⁷函館病院, ⁸北海道大学病院): *Helicobacter pylori*薬剤感受性試験の国内標準化にむけて—耐性菌基準パネルの作成—. 日本ヘリコバクター学会誌. 24(1). 44-48. 2022.
3. 本庄唯意¹, 平崎能郎¹, 糸山頌理¹, 新倉保, 林曉霞¹, 坂本寛和¹, 野呂瀬一美¹, 生水真紀夫¹, 彦坂健児¹ (¹千葉大学大学院医学研究院): 既存薬剤に耐性を示す腫トリコモナスに対する7種の生薬の効果. 臨床寄生虫学会誌. 33(1). 55-58. 2022.
4. Howlader DR¹, Bhaumik U¹, Halder P¹, Satpathy A¹, Sarkar S¹, Ghoshal M¹, Maiti S¹, Withey JH², Mitobe J, Dutta S¹, Koley H¹ (¹ICMR-National Institute of Cholera and Enteric Diseases, ²Wayne State University School of Medicine): An Experimental Adult Zebrafish Model for *Shigella* Pathogenesis, Transmission, and Vaccine Efficacy Studies. Microbiol Spectr. 10(3). e0034722. 2022.
5. Cho N¹, Kikuzato K¹, Futamura Y¹, Shimizu T¹, Hayase H¹, Kamisaka K², Takaya D², Yuki H², Honma T², Niikura M, Kobayashi F³, Watanabe N¹, Osada H¹, Koyama H¹ (¹RIKEN Center for Sustainable Resource Science, ²RIKEN Center for Biosystems Dynamic Research, ³Azabu University): New antimalarials identified by a cell-based phenotypic approach: Structure-activity relationships of 2,3,4,9-tetrahydro-1H- β -carboline derivatives possessing a 2-((coumarin-5-yl)oxy)alkanoyl moiety. Bioorg Med Chem. 66. 116830. 2022.
6. Hoshino Y¹, Sakamoto T¹, Sudo N, Ito M¹, Haneda T¹, Okada N¹, Miki T¹ (¹Kitasato University): Fatty Acid Homeostasis Tunes Flagellar Motility

by Activating Phase 2 Flagellin Expression, Contributing to Salmonella Gut Colonization. *Infection and Immunity*. 90(7). e00184-22. 2022.

- Fujiki J¹, Nakamura T^{1,2,3}, Nakamura K¹, Nishida K¹, Amano Y¹, Watanabe Y¹, Gondaira S¹, Usui M¹, Shimizu M⁴, Miyanaga K⁵, Watanabe S⁵, Iwasaki T¹, Kiga K^{3,5}, Hanawa T, Higuchi H¹, Sawa T⁴, Tanji Y², Tamura Y¹, Cui L⁵, Iwano H¹(¹Rakuno Gakuen University, ²Waseda University, ³National Institute of Infectious Diseases, ⁴Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁵Jichi Medical University): Biological properties of *Staphylococcus* virus ΦSA012 for phage therapy. *Sci Rep*. 12(1). 21297. 2022.
- Suda T¹, Hanawa T, Tanaka M, Tanji Y², Miyanaga K^{2,3}, Hasegawa-Ishii S⁴, Shirato K⁵, Kizaki T⁵, Matsuda T^{1,6} (¹Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo Institute of Technology, ³Jichi Medical University, ⁴Pathology Research Team, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, ⁵Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine): Modification of the immune response by bacteriophages alters methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* infection. *Sci Rep*. 12(1). 15656. 2022.
- Goto M¹, Abe A¹, Hanawa T, Suzuki M², Kuwae A¹(¹Kitasato University, ²National Institute of Infectious Diseases): Bcr4 Is a Chaperone for the Inner Rod Protein in the *Bordetella* Type III Secretion System. *Microbiol Spectr*. 10(5). e0144322. 2022.

著書

- 大崎敬子: *Helicobacter pylori*感染における胃内共生細菌のクロストークと胃疾患. *Helicobacter Research*. 26(2). 198-201. 2022.

報告書

- 三戸部治郎(分担): アジア各国の感染症研究機関とのネットワーク構築による共同研究推進に関する研究. 令和3年度医療研究開発推進事業費補助金実績報告書(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業. 2022年5月31日.

衛生学公衆衛生学教室

講演

- 荻田香苗: 就労女性の課題. 2022年度目黒区医師会産業医研修会. 東京. 2022年4月16日.
- 荻田慎一: 食欲旺盛な糖尿病メダカと寿命が少し短いメダカ. 第76回日本栄養・食糧学会大会(シンポジウム8 哺乳類以外のモデル生物を用いた栄養学研究の展開). 西宮市. 2022年6月11日.
- 岡田浩幸, 吉田正雄, 大西純司, 近川黎, 岡田栄一, 水木信久: 紫外線暴露の有無と近視進行について日本人約46万眼を5年追跡した大規模疫学研究. フォーサム2022せとうち. 広島市. 2022年7月9日.
- Shirato K, Takanari J, Ogasawara J, Kizaki T: ETAS®50 suppresses SARS-CoV-2 spike protein-

induced pro-inflammatory responses in murine peritoneal exudate macrophages. The 30th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2022). Sapporo, Japan. July 9-10. 2022.

- 櫻井拓也, 山本-土方幸子, 野崎江里子, 木崎節子: マウス褐色脂肪組織におけるチトクロームの遺伝子発現に対する肥満の影響. 第77回日本体力医学会大会. オンライン. 2022年9月22日.
- 荻田香苗: ベンチマークドーズ(BMD)とは - BMD法の指針と注意点 -. 第49回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. 熊本市. 2022年10月22日.
- 吉田正雄, 目黒明, 竹内正樹, 荻田香苗, 荻田慎一, 山根敬浩, 岡田浩幸, 水木悠喜, 河越龍方, 山田教弘, 岡田栄一, 水木信久: 近視の進行に関する大規模コホート研究. 第87回日本健康学会総会. 東京. 2022年11月3日.
- 荻田香苗, 吉田正雄, 荻田慎一: 大気中微小粒子状物質の短期曝露濃度と24時間ホルター心電図検査における不整脈発生頻度との関係. 第87回日本健康学会総会. 東京. 2022年11月4日.
- 大塚弘毅, 荻田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 山崎聡子, 安戸裕貴, 滝智彦, 岸野智則, 吉田正雄, 荻田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: Rad50変異を有する毛細血管拡張性運動失調症(A-T)モデルメダカの作製(2)腫瘍原性の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮市. 2022年11月18日.
- 山崎聡子, 大塚弘毅, 荻田慎一, 藤原正親, 松島早月, 菊地茉莉, 小倉航, 安戸裕貴, 滝智彦, 岸野智則, 吉田正雄, 荻田香苗, 渡邊卓, 大西宏明: 毛細血管拡張性運動失調症(Ataxia-telangiectasia:A-T)モデルメダカにおける運動失調および毛細血管拡張以外のA-T症状の解析. 第69回日本臨床検査医学会学術集会. 宇都宮市. 2022年11月18日.
- 小野元彰, 関博志, 金城真美, 池田哲也, 湯本愛実, 手塚里奈, 吉敷智和, 荻田香苗, 長谷川浩: 術前の口腔機能低下と術後合併症発生リスクとの関連に関する観察研究. 第51回杏林医学会総会. 三鷹市. 2022年11月19日.
- 鈴木裕, 吉田正雄, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤澤聡郎, 田妻進, 伊佐山浩通, 田中篤: 二次性肝内結石における治療モダリティ別の短期・長期成績. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」令和4年度第二回総会. 東京. 2023年1月7日.
- 鈴木裕, 吉田正雄, 森俊幸, 露口利夫, 島谷昌明, 藤澤聡郎, 田妻進, 伊佐山浩通, 田中篤: 肝内結石症肝切除後の異時性肝内胆管癌発生に関する疫学研究. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」令和4年度第二回総会. 東京. 2023年1月7日.
- 櫻井拓也, 山本-土方幸子, 野崎江里子, 木崎節子: マウス褐色脂肪組織におけるチトクローム遺伝子発現に及ぼす肥満の影響. 第93回日本衛生学会学術総会. 東京. 2023年3月4日.
- 白土健, 春日啓介, 小笠原準悦, 高成準, 石井晴之, 木崎節子, 荻田香苗: アスパラガス茎抽出物はニゲリシンによるマクロファージのIL-1β分泌誘導を軽減する. 第93回日本衛生学会学術総会. 東京. 2023年3月3日.
- 荻田慎一, 吉田正雄, 荻田香苗: マイクロプラスチックの経口曝露による生態影響とプラスチック添加剤の関連. 第93回日本衛生学会学術総会. 東京. 2023年3月3日.

- 小笠原準悦, 白土健, 井澤鉄也: 継続的な走運動トレーニングは肩甲部褐色脂肪細胞量の低下を促す. 第93回日本衛生学会学術総会. 東京. 2023年3月3日.
- 宮澤麻友子, 高橋恭子, 大嶋翔, 尾東智花, 岳真一郎, 吉田正雄: 慢性期における非経口摂取患者の経口移行を予測する因子の検討 - 102名を3ヶ月間追跡した結果から -. 第10回日本慢性期リハビリテーション学会in長崎. 長崎市. 2023年3月9日.
- 荻田香苗: 騒音の健康影響を調べる疫学調査のエッセンス. 第4回空港管理者環境対策技術研究会. 東京. 2023年3月17日.

論文

- 荻田香苗: 諸外国にみられる少子化対策. 保健の科学. 64(7). 461-466. 2022.
- 吉田正雄, 高井由美子¹, 我妻徹¹, 金野友菜¹, 岳真一郎¹ (1埼玉回生病院): 全盲の通所リハビリテーション利用者が生活意欲向上を得るまで - 6ヶ月間の機能訓練を経て -. 全日本病院協会雑誌. 32(1). 45-48. 2022.
- Ito M¹, Chisada S, Matsunaga N^{1,2}, Okino N¹ (1Kyushu University, 2Bizen Chemical Co. Ltd.): Vibrio-binding gangliosides in fish intestinal tracts. Glycoconj J. 2023. DOI: 10.1007/s10719-023-10110-1.
- Suda T¹, Hanawa T², Tanaka M², Tanji Y³, Miyayama K^{3,6}, Hasegawa-Ishii S⁴, Shirato K, Kizaki K, Matsuda T^{1,5} (1Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 3Tokyo Institute of Technology, 4Pathology Research Team, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, 5Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine, 6Jichi Medical University): Modification of the immune response by bacteriophage alters methicillin-resistant Staphylococcus aureus infection. Scientific Reports. 12(1). 15656. 2022.

著書

- 荻田香苗 (分担執筆): 9章「環境の衛生」, 10章「環境汚染と公害」, 12章「食物と健康」, 13「職業生活と健康」, 14章「保健・医療の行政」. 学生のための現代公衆衛生・改訂8版. 野中浩一 編著. 南山堂. 2022. 147-223.
- 荻田香苗 (分担執筆): 5.環境汚染と公害, 20.国際保健. コンパクト公衆衛生学・第7版. 松浦賢長・小林康毅・荻田香苗 編著. 朝倉書店. 2022. 31-41. 142-146.
- 吉田正雄 (分担執筆): メディックメディア第117回医師国試模試2022 (電子メディア). メディックメディア. 2022.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第116回医師国家試験解説. メディックメディア. 2022.
- 吉田正雄 (分担執筆): 健康教育・行動変容. コンパクト公衆衛生学 第7版. 松浦賢長・小林康毅, 荻田香苗 編. 朝倉書店. 68-73. 2022.
- 吉田正雄 (分担執筆): 学生生活サポートガイド - 性感染症 (STD)・薬物・飲酒・喫煙 -. 中央大学学生手帳2022. 中央大学. 88-92. 2022.
- Shirato K, Sato S (分担執筆): Chapter 2. Circadian clock regulation of macrophage functions. In: Research Aspects in Biological Science Vol. 8. Belisario Dominguez-Mancera (Ed.). Book

Publisher International. 2022. 19-57. DOI: 10.9734/bpi/rabs/v8/3011C.

報告書

- 荻田香苗, 荻田慎一 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等による健康影響に関する総合的研究)». 令和4年度環境省委託業務報告書. 2023. 1-42.
- 白土健: COVID-19の全身炎症におけるスパイクタンパク質の役割および習慣的運動の効果の解析. 杏林医学雑誌. 54(1). S5-S6. 2023.
- 白土健, 木崎節子: 肥満による慢性炎症に対する運動の効果とメカニズム - マクロファージのインスリン感受性に着目して -. 第36回 (2019年度) 若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書 (公益財団法人明治安田厚生事業団). no.36. 95-100. 2022年.
- 荻田慎一: 経口摂取されたマイクロプラスチックから溶出する疎水性化合物の代謝経路と生体影響の解明. 杏林医学雑誌. 54(1). S13-S14. 2023.

その他

- 発明者: 荻田慎一, 杉山晶彦: 糖尿病網膜症, 白内障及び/又は腎症モデル実験動物. 特許取得 特許第7232453号. 登録日2023年2月22日.

法医学教室

講演

- 武市敏明, 桐生京佳, 山田真嗣, 吉田昌記, 高篠智, 高橋かすみ, 北村修: 早期の心筋虚血傷害を検出可能なマーカーとしての脱リン酸化 Connexin 43 比の有用性. 第106次日本法医学会学術全国集会. 名古屋. 2022年6月9日.
- 高木徹也, 山田千歩, 奈良明奈, 小酒井友, 陶山愛美, 吉田昌記, 岩原香織: 未診断の気管腺様嚢胞癌が原因で死亡した高齢女性の一剖検例. 第106次日本法医学会学術全国集会. 名古屋. 2022年6月9日.
- 奈良明奈, 山田千歩, 小酒井友, 陶山愛美, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也: 尿の保管環境によるドーピング検査に与える影響についての実験的検討. 第106次日本法医学会学術全国集会. 名古屋. 2022年6月9日.
- 吉田昌記, 高篠智, 武市敏明, 桐生京佳, 山田真嗣, 高橋かすみ, 奈良明奈, 岩原香織: 分光測色計を用いた皮膚色データの解析及び人工皮膚の基準色の設定について. 第106次日本法医学会学術全国集会. 名古屋. 2022年6月10日.
- 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 北村修: 先天性プロテインS欠損症による電撃性紫斑病の1例. 第5回日本法医学病理学会学術全国集会. 横須賀. 2022年9月10日.
- 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 北村修: 骨代謝異常症の存在が疑われた突然死の1剖検例. 第91回日本法医学会学術関東地方集会. 千葉. 2022年10月8日.
- 北村修, 山田真嗣: 多摩地域の登録検案医確保及び検案業務サポート事業. 令和4年度第2回検案業務サポート研修会. 三鷹. 2022年10月27日.

論文

- Nara A¹, Nakajima R², Yamada C¹, Suyama M¹, Kozakai Y¹, Yoshida M³, Iwahara K⁴, Takagi T¹

(¹Division of Legal Medicine, Tohoku Medical and Pharmaceutical University, ²School of Pharmacy, Nihon University, ³Department of Legal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Center of Legal Medicine of Dentistry, The Nippon Dental University): Temperature and time after urine collection affect the detection of phenethylamine, a substance prohibited in sports. *Drug Test Anal.* 2023. doi: 10.1002/dta.3466. Online ahead of print.

その他

1. 吉田昌記: 特集・連載: 阪神大震災。「足紋」に注目 災害時身元特定へ新たな一歩。(個人識別に関して 一部コメント) 産経新聞. 2022年12月30日.

共同研究施設RI部門

学会発表

1. 三嶋竜弥, 小藤剛史, 藤原智徳, 齋藤綾子, 寺尾安生: シンタキシン1Bのハプロ不全による熱性けいれんの発症機序の解明. *Neuro2022*. 那覇. 2022年6月30日.
2. 小藤剛史, 三嶋竜弥, 齋藤綾子, 藤原智徳: グリア細胞におけるシンタキシン1B欠損はGABA放出の異常を引き起こす. *Neuro2022*. 那覇. 2022年7月1日.

フローサイトメトリー部門

講演

1. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Changes in peripheral blood mononuclear cell subsets putatively predict response to i.v. steroid pulse therapy to severe alopecia areata. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagasaki. December 2nd-4th, 2022.

その他

1. 高橋良: フローサイトメトリー入門講座. 情報機構. オンライン. 2022年7月11日-12日.

実験動物施設部門

講演

1. 北条史, 米澤英雄, 三室仁美, 神谷茂, 大崎敬子: MPSマウスを用いた *Helicobacter pylori* 感染モデルにおける胃内細菌叢の変化について. 第28回日本ヘリコバクター学会学術集会. 西宮市・オンライン. 2022年6月24-26日.
2. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 岡健太郎, 高橋志達, 花輪智子, 三戸部治郎, 神谷茂: 自己免疫性胃炎患者の胃内細菌叢の解析. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.
3. 北条史, 米澤英雄, 岡健太郎, 高橋志達, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂, 三戸部治郎, 大崎敬子: MPSマウスを用いた *Helicobacter pylori* 感染モデルにおける消化管内細菌叢の変化について. 第96回日本細菌学会総会. 姫路. 2023年3月16-18日.

生物学教室

講演

1. Ito F, Awasaki T: Comparative analysis of temperature preference behavior and effects of temperature on daily behavior in eleven *Drosophila* species. 14th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRC15). Nagoya. September 13-14th. 2022.
2. Ohashi T, Ishikawa Y, Awasaki T, Su M, Kamikouchi A: Evolutionary diversification and conservation of auditory neural circuits in *Drosophila*. 14th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRC15). Nagoya. September 13-14th. 2022.
3. Orihara-Ono M, Kato K, Miyoshi K, Saito K, Awasaki T: Identification of genes essential for differentiation and functions of neuropil-glia in adult *Drosophila* brain. 第45回日本分子生物学会. 千葉市. 2022年11月30日.
4. Hirai K, Sawamura K: Diploidization of haploid chromosome complements is driven by the first mitotic spindle organized by centrosomes in *Drosophila*. The Cold Spring Harbor Asia meeting on Cilia and Centrosomes. Awaji. March 2nd. 2023.

論文

1. Ito F¹, Awasaki T¹ (¹ Kyorin University School of Medicine): Comparative analysis of temperature preference behavior and effects of temperature on daily behavior in 11 *Drosophila* species. *Sci Rep.* 12(1). 12692. 2022.
2. Hirai K¹, Inoue YH², Matsuda M¹ (¹ Kyorin University School of Medicine, ² Kyoto Institute of Technology): Mitotic progression and dual spindle formation caused by spindle association of de novo-formed microtubule-organizing centers in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. *Genetics.* 223(2). 2023. DOI:10.1093/genetics/iyac178.
3. Ohashi TS¹, Ishikawa¹ Y, Awasaki T² Su MP¹, Yoneyama Y¹, Morimoto N³, Kamikouchi A¹ (¹ Nagoya University, ² Kyorin University School of Medicine, ³ Hokkaido University): Evolutionary conservation and diversification of auditory neural circuits that process courtship songs in *Drosophila*. *Sci Rep.* 13(1).383. 2023.

物理学教室

論文

1. Tohyama M (Department of Physics, Faculty of Medicine, Kyorin University): Extended random-phase-approximation study of the fragmentation of the giant quadrupole resonance in ¹⁶O. *Phys Rev C.* 106: L011302-1-4. 2022.
4. Tohyama M (Department of Physics, Faculty of Medicine, Kyorin University): Number conservation in odd-particle number random phase approximation and extensions. *Prog Theor*

化学教室

講演

1. 山本・土方幸子, 須賀圭, 菅田晴夫, 丑丸真: ゴルジ体局在Ca²⁺/Mn²⁺ポンプSPCA1の新たなバリエーション. 第95回日本生化学会大会. 名古屋. 2022年11月10日.

論文

1. Suga K, Yamamoto-Hijikata S, Terao Y¹, Akagawa K¹, Ushimaru M. (¹Department of Medical Physiology, Kyorin University, Faculty of Medicine): Golgi stress induces upregulation of the ER-Golgi SNARE Syntaxin-5, altered β APP processing, and Caspase-3-dependent apoptosis in NG108-15 cells. *Mol Cell Neurosci.* 121. 2022. doi: 10.1016/j.mcn.2022.103754.
2. Yamamoto-Hijikata S, Suga K, Homareda H, Ushimaru M: Inhibition of the human secretory pathway Ca²⁺, Mn²⁺-ATPase1a by 1,3-thiazole derivatives. *Biochem Biophys Res Commun.* 614. 56-62. 2022.
3. Homareda H, Suga K, Yamamoto-Hijikata S, Eishi Y¹, Ushimaru M, Hara H¹ (¹Tokyo Medical and Dental University): β subunit affects Na⁺ and K⁺ affinities of Na⁺/K⁺-ATPase: Na⁺ and K⁺ affinities of a hybrid Na⁺/K⁺-ATPase composed of insect α and mammalian β subunits. *Biochemistry and Biophysics Reports.* 32. 2022. doi: 10.1016/j.bbrep.2022.101347.

英語学教室

講演

1. 黒田航, 相良かおる, 東条佳奈, 麻子軒, 西嶋佑太郎, 山崎誠: 要素の重複と不連続性を扱える抽出型の語構成要素解析: 並列分散型形態素解析の提案. 言語処理学会第29回年次大会. 那覇. 2023年3月14日.

その他

1. 黒田航, 相良かおる, 東条佳奈, 麻子軒, 西嶋佑太郎, 山崎誠: 委員会特別賞受賞. 言語処理学会第29回年次大会. 那覇. 2023年3月14日.